

# 長野県子どもと子育て家庭の生活実態調査 報告書

令和5年2月

長野県 県民文化部 こども若者局



# 目次

1. 調査概要及び結果の読み方	1
2. 調査結果概要	3
3. 回答者の属性	8
(1) 属性・居住地域	8
(2) 世帯の状況	9
4. 保護者調査結果	23
(1) 保護者の就労状況	23
(2) 教育に関すること	27
(3) 保護者と子どもの健康状態など	30
(4) 子育てにかかる費用	38
(5) 子どもとのかかわり	40
(6) 家庭での生活	43
(7) 保護者のこれまでの経験と現在の気持ち	51
(8) 公的支援の利用状況など	59
(9) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響	90
(10) 意見等	95
5. 子ども調査結果	98
(1) 属性・居住地域	98
(2) 将来のこと	102
(3) ふだんの生活	107
(4) 生活のことや食事・健康	125
(5) アルバイトなどの仕事（16・17歳）	133
(6) 学校や勉強・進学などに関すること（小学1年以外）	136
(7) 子どもの心身の状態（小学1年以外）	151
(8) 悩みや相談（小学1年以外）	162
(9) サービスや支援策の利用・関心（小学1年以外）	167
(10) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響（小学1年以外）	180
(11) 意見等（小学1年以外）	185
6. 支援機関等調査結果	187
(1) 回答者の状況	187
(2) 経済的困難を抱える子どもの把握及び支援	189
(3) 子どもの貧困対策の推進	194
(4) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響	196
付属資料（調査票）	201

# 設問目次

## 保護者調査

問 1	あなたの住んでいる市町村を教えてください。	8
問 2	お子さんとあなた（回答者）との関係は、以下のどれになりますか。お子さんからみた続き柄で、お答えください。	9
問 3	あなたの年齢を教えてください。	9
問 4	現在のあなたの婚姻状況を教えてください。	10
問 4-1	前問で「2 離婚」を選んだ場合、離婚相手と子どもの養育費の取り決めをしていますか。また養育費を現在受け取っていますか。	11
問 5	お子さんと同居しているご家族の人数を教えてください（あなたとお子さんも含む）。単身赴任しているご家族や学業のために世帯を離れているお子さんがいる場合には、ご家族の人数に含めてお考えください。	12
問 6	お子さんと同居しているご家族の方は、どなたですか。それぞれ、人数もお教えてください。（単身赴任中の家族や学業のために世帯を離れているお子さんを含む）	13
問 7	あなたのご家族のうち、現在単身赴任中の方はいらっしゃいますか。	14
問 8	お子さんと同居しているご家族の中に、高齢であったり障がいがあったりするなど、介護が必要な方はいますか。	14
問 9	あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。また、aが「1 頼れる人がいる」場合、それはだれですか。	15
問 10	お子さんのご両親の国籍を、それぞれ教えてください。	18
問 11	あなたの世帯で、次のような公的年金、社会保障給付金の1回あたりの支給額はいくらですか。	19
問 12	前年（2021年1～12月）のあなたの世帯全体の可処分所得（手取り）総額は、合計でおおよそいくらですか。就労による所得（会社員の方等は住民税を引く）に加え、児童手当・児童扶養手当等・雇用保険等の支給額や、特別定額給付金（新型コロナウイルスに係る給付金）、親族等からの仕送り等を足した金額でお答えください。	20
問 22	現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。	21
問 13	お子さんのご両親の就労状況について、あてはまるものを回答してください。	23
問 13-1	前問で「5 働いていない」と答えた場合、働いていない主な理由を教えてください。	25
問 14	お子さんに、どの段階までの教育を受けさせたいと考えていますか。あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。	27
問 14-1	前問の②現実的な教育段階で、そのように答えた理由を選んでください。（小学1年以外）	29
問 15	あなたの健康状態についてお伺いします。	30
問 16	過去1年間に、お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか。	30
問 16-1	「1 あった」と回答した方にお伺いします。その理由は、何ですか。	31
問 17	次の質問について、あなたの気持ちをお聞かせください。	32
問 18	子育てをする上で、あなたが大変だと感じていること、悩んでいることを選んでください。	35
問 19	お子さんの教育費のうち負担が重いものは何ですか。	38
問 20	新型コロナウイルス感染症が拡大する以前、あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。	40
問 21	全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。	43
問 23	あなたの家庭では、過去1年間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料を買えないことがありましたか。	43

問 24	あなたの家庭では、過去1年間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣類を買えないことがありましたか。	44
問 25	過去1年間に、経済的な理由で、以下のサービス・料金について、支払えないことがありましたか。	44
問 26	あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。	46
問 27	次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか。	49
問 28	お子さんの親の最終学歴（卒業・修了した学校）は次のどちらにあたりますか。	51
問 29	あなたが15歳の頃のご家庭の様子に最も近いものに○をつけてください。	53
問 30	あなたが15歳の頃の、あなたのご家庭の暮らし向きについて、最も近いものに○をつけてください。	54
問 36	次の質問について、この1か月間のあなたの気持ちはどのようでしたか。	55
問 31	あなたは、子どもに関する施策等の情報を、今後、どのような方法で受け取りたいですか。	59
問 32	封筒の宛名のお子さんについて、以下の支援制度等をこれまでに利用したことがありますか。利用したことがない場合は、その理由に最も近いものに○をつけてください。	61
問 33	今後、充実を希望する子育て支援サービスは何ですか。	73
問 34	あなたのご家庭では、以下の支援制度等を、これまでに利用したことがありますか。利用したことがない場合は、その理由に最も近いものに○をつけてください。	76
問 35	あなたは、これまでに困った時に以下の公的機関に相談したことがありますか。	83
問 37	あなたのご家庭の現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校する前（2020年2月以前）から比べて、どのように変わりましたか。	90
問 38	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、次のようなことを経験しましたか。	92
問 39	あなたが今、子育てで困っていることや悩みごと、子育てに関する意見がありましたら、ご自由にお書きください。	95

## 子ども調査

問 1	あなたが住んでいる市町村を教えてください。（小学1年以外）	98
問 2	あなたの性別を教えてください。	98
問 3	あなたの身長・体重を教えてください。	98
K問 4	あなたは、現在学校に在籍していますか。（16・17歳のみ）	101
K問 5	あなたは、現在働いていますか。（16・17歳のみ）	101
問 4	あなたは、将来の夢（小学5年・中学2年）や将来なりたい職業（16・17歳）がありますか。（小学1年以外）	102
問 4-1	将来の夢（小学5年・中学2年）や将来なりたい職業（16・17歳）が「2 ない」と答えた人にお聞きします。その理由は何ですか。（小学1年以外）	103
K問 7	あなたは、今後、進学を希望する学校がありますか。（16・17歳のみ）	105
K問 7-1	今後の進学を希望する人にお聞きします。希望する学校に進学する予定はありますか。（16・17歳のみ）	106
問 5	あなたは、週にどのくらい風呂に入りますか。（シャワーだけでも含みます）	107
問 6	あなたは、平日（学校や仕事に行く日）の放課後や自由時間は、だれと一緒に過ごすことが一番多いですか。	107
問 7	あなたは、平日（学校や仕事に行く日）の放課後や自由時間は、どこで過ごすことが一番多いですか。	108
問 8	前問で答えた、あなたが平日（学校や仕事に行く日）の放課後や自由時間を過ごす場所に、大人はいますか。	110
K問 12	あなたは、学校や職場・地域のクラブやスポーツ活動に参加していますか。	111
K問 12-1	前問で「2 していない」と答えた人にお聞きします。参加しない理由は何ですか。	111
問 9	あなたは、休日（学校や仕事がお休みの日）の午後は、だれと一緒に過ごすことが一番多いですか。	113

問 10	あなたは、休日（学校や仕事がお休みの日）の午後は、どこで過ごすことが一番多いですか。	114
問 11	前問で答えた、あなたが休日（学校や仕事がお休みの日）の午後過ごす場所に、大人はいますか。	115
問 12	あなたにとって、一番ほっとできる居場所はどこですか。（小学1年以外）	116
問 13	あなたは、以下の活動を、ふだんどれくらいしますか。	117
問 14	あなたは、30分以上からだを動かす遊びや習い事を、1週間でどれくらいしますか。	124
問 15	全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。（小学1年以外）	125
問 16	あなたは週にどのくらい、食事をしていますか。	126
問 17	あなたは、平日（学校や仕事に行く日）の夕食をだれと食べますか。	128
問 18	あなたは、自分の健康状態についてどう感じていますか。（小学1年以外）	129
問 19	あなたは、今、虫歯がおおよそ何本くらいありますか。治療中のものも含みます。	131
問 20	あなたは、平日（学校や仕事に行く日）、ほぼ同じ時間に寝ていますか。（小学1年以外）	132
K問 25	あなたの仕事の状況（学生アルバイトを含む）を教えてください。あなたは、収入を伴う仕事（学生のアルバイトを含む）をしていますか。（16・17歳のみ）	133
K問 25-1	収入を伴う仕事（学生のアルバイトを含む）をしている方にお聞きします。あなたの現在のお仕事の雇用形態を教えてください。複数のお仕事をお持ちの場合は、主な仕事についてお答えください。（16・17歳のみ）	133
K問 25-2	時給にするとどのくらいになりますか。（16・17歳のみ）	134
K問 25-3	現在は、1週間あたり、平均何時間働いていますか。残業時間を含めてお答えください。（16・17歳のみ）	134
K問 25-4	収入を伴う仕事（学生のアルバイトを含む）をしている方全員にお聞きします。給料（アルバイト代）を何に使っていますか。	135
K問 26	あなたの在籍する（在籍していた）学校の種類を教えてください。（16・17歳のみ）	136
K問 26-1	その学校に進学したのはなぜですか。（16・17歳のみ）	136
問 21	あなたは、学校生活が楽しい（楽しかった）ですか。（小学5年・中学2年のみ）	138
問 21-1	前問で「3 あまり楽しくない」、「4 楽しくない」と答えた人にお聞きします。学校が楽しくない理由は、何ですか。（小学5年・中学2年のみ）	139
問 22	あなたは、学校の授業がわかりますか。	141
問 22-1	前問で「3 教科によってはわからないことがある」「4 わからないことが多い」「5 ほとんどわからない」と答えた方にお聞きします。いつごろから、授業がわからなくなりましたか。	142
問 23	勉強がわからない時は、だれに教えてもらいますか（教えてもらいましたか）。	143
問 24	あなたは、将来どの学校まで行きたいと思いますか。（小学5年・中学2年のみ）	145
問 24-1	前問で1～4と答えた場合、その理由を教えてください。（小学5年・中学2年のみ）	146
問 25	あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。	147
問 26	あなたは、ふだん、学校の授業以外にどれくらいの時間、勉強をしますか。1日あたりの勉強時間を教えてください。	148
問 27	あなたの成績は、クラスの中でどれくらいだと思いますか。	150
問 28	あなたの思いや気持ちについて教えてください。	151
K問 34	あなたは、これまでに、以下のような理由で、学校をやめたくなるほど、悩んだことがありますか。その理由にあてはまるものがありましたら、すべて○をつけてください。（16・17歳のみ）	157
問 29	学校に行きたくないと思ったことがありますか。（小学5年・中学2年）	159
問 30	あなたは、自分や家族のことでなやみや心配ごとがありますか。	162
問 31	あなたは、悩みや心配事があるとき、だれに相談しますか。	165
問 32	あなたは、以下のような場所があれば使ってみたいと思いますか。	167
問 32-1	前問で、1つでも「1 利用したことがある」と答えた方にお聞きします。そこを利用したことで、以下のような変化がありましたか。	174

問 33	あなたは、大人から次のようなことをされて、いやな思いやつらい思いをしたことがありますか。 .....	175
問 33-1	前問で1～3を答えた人にお聞きします。いやな思いをしたときに、だれかに相談しましたか。 .....	176
問 33-2	前問で1を答えた人にお聞きします。相談した人や場所を教えてください。 .....	177
問 34	あなたの現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校になる前（2020年2月以前）と比べて、どのように変わったと思いますか。 .....	180
問 35	あなたが、県や市町村に何でも要望できるとすれば、どのようなことを要望しますか。また、日々の生活で感じていること、困っていることなどを自由に書いてください.....	185

## 支援機関等調査

問 1	あなたの所属先または、あなた自身について、あてはまるものを一つ選んでください。 .....	187
問 2	あなた（貴団体）の所在地はどちらですか。 .....	187
問 3	現在実施している支援内容を教えてください。 .....	188
問 4	関わる業務の中で経済的困難を抱える子どもを把握していますか。 .....	189
問 5	【問4で「はい」と答えた方】それはどのような経路で把握しましたか。 .....	189
問 6	そのような家庭の子どもはどのような状況におかれていましたか。 .....	190
問 7	支援を行う上でどのようなことに気をつけていますか。（自由記載） .....	190
問 8	支援を行う中で、どのような難しさを感じていますか。 .....	191
問 9	経済的困難を抱える子どもを支援する上で他機関と連携していますか。 .....	192
問 10	【問9で「常に連携している」、「必要に応じて連携している」と答えた方】支援を行う上での連携先を教えてください。 .....	192
問 11	問10で答えた連携先との連携方法を教えてください。 .....	193
問 12	【問9で「あまり連携していない」、「連携していない」と答えた方】連携しない、できない理由をおしえてください。 .....	193
問 13	経済的困難を抱える子どもや保護者のためにどのような支援・制度が必要だと考えますか。 .....	194
問 14	支援を充実していくために、関係機関がどのように連携していったらいいと考えますか。 .....	195
問 15	業務や活動に新型コロナウイルス感染症の影響はありましたか。 .....	196
問 16	具体的にどのような影響がありましたか。 .....	196
問 17	コロナ以後（2020年2月以降）で保護者からの相談で増加した相談内容はなんですか。 .....	197
問 18	コロナ以後（2020年2月以降）で子どもからの相談で増加した相談内容はなんですか。 .....	198
問 19	経済的な問題で困難を抱える子どもや家庭に対する支援について、ご意見（県へ具体的に希望される支援策等）がありましたら自由にご記入ください。 .....	199



# 1. 調査概要及び結果の読み方

長野県では、今後の子ども・子育て支援・次世代育成支援施策の参考とするため、子どもと子育て家庭の生活状況などに関する「子どもと子育て家庭の生活実態調査」を令和4年6～7月に実施した。

## [調査概要]

調査対象	長野県内の 37 自治体(13 市 11 町 13 村)に在住の小学1年、小学5年、中学2年、16・17歳の県民(高校2年及び高校に在籍していない同年齢の子どもを含む)本人とその保護者 12,000 世帯(※小学1年は保護者のみ)
抽出方法	住民基本台帳により無作為抽出(対象学年の人口比に基づき抽出数を按分)
調査方法	郵送による配布・回収
調査期間	令和4年6月 28 日から7月 11 日まで(7月 25 日到着分まで調査期間を延長)
回答状況	子ども本人 1,962 人(21.8%)、保護者 3,131 人(26.1%)
有効回答数	子ども本人 1,955 人(21.7%)、保護者 3,127 人(26.1%)

## [本調査における「生活困難」の取扱いについて]

本調査では、子どものいる世帯の「生活困難」について、以下の①②③の3つの要素の回答状況に基づいて分類した。

①低所得	世帯の可処分所得(収入による可処分所得+児童手当等の支給額等)、世帯人数と組み合わせた分類表で、分類Ⅰ又はⅡに該当する場合(次頁の表を参照) ただし、低所得世帯の割合は、可処分所得の把握方法の違いがあるため、厚生労働省発表の子どもの貧困率と比較できるものではない
②家計の逼迫	7項目(電話・電気・ガス・水道の公共料金、家賃、食料・衣類の購入)について、経済的な理由で払えなかった、または買えなかったことが1つ以上ある場合
③子どもの体験や所有物の欠如	子どもの体験や所有物など 15 項目のうち、経済的な理由でしていない、金銭的な理由でないなど欠如する項目が3つ以上ある場合(次頁の表を参照)

①②③の3つの要素の回答状況から区分し、以下のように分類している。

①②③で2つ以上の要素に該当 = **困窮家庭**      1つの要素に該当 = **周辺家庭**  
 該当なし = **一般家庭** と分類している。(無回答等により分類できない世帯は除く。)  
 また、困窮家庭と周辺家庭を併せて「生活困難家庭」としている。

生活困難家庭	困窮家庭+周辺家庭
困窮家庭	2つ以上の要素に該当
周辺家庭	いずれか1つの要素に該当
一般家庭	いずれの要素にも該当しない

## [「①低所得」の要素の補足説明]

国民生活基礎調査(厚生労働省)では、貧困線所得額(万円単位で把握)、課税等の額(千円単位で把握)ならびに世帯人員数の情報から、「等価可処分所得」を算出し、等価可処分所得の中央値の半分の額を貧困線として定めている。(貧困線は、2人世帯の可処分所得額としては 175 万円に相当)これを参考に、本調査では以下のように可処分所得の水準を設定し、選択肢で可処分所得の幅を把握している。そして、世帯員人数別に、分類Ⅰ・Ⅱまでを回答した世帯を低所得世帯とした。(前回調査と同水準で集計)

[参考：本調査での世帯員人数別可処分所得の水準]

世帯員 人数	可処分所得の水準						(参考) 国の貧困線 の基準 (平成 30 年)
	分類Ⅰ	分類Ⅱ	分類Ⅲ	分類Ⅳ	分類Ⅴ	分類Ⅵ	
1人	60万円未満	120万円未満	180万円未満	240万円未満	300万円未満	300万円以上	127万円
2人	85万円未満	175万円未満	260万円未満	345万円未満	430万円未満	430万円以上	175万円
3人	105万円未満	210万円未満	315万円未満	420万円未満	525万円未満	525万円以上	210万円
4人	120万円未満	245万円未満	365万円未満	485万円未満	605万円未満	605万円以上	245万円
5人	135万円未満	275万円未満	410万円未満	545万円未満	680万円未満	680万円以上	275万円
6人	150万円未満	300万円未満	450万円未満	600万円未満	750万円未満	750万円以上	300万円
7人	160万円未満	325万円未満	485万円未満	645万円未満	805万円未満	805万円以上	325万円

※所得による分類の区分は前回調査同様に、平成 28 年国民生活基礎調査を参考とした

〔**③**子どもの体験や所有物の欠如〕の要素の 15 項目〕

①海水浴に行く	⑨学習塾に通わせたり、通信教育を受ける(または家庭教師に来てもらう)
②博物館・科学館・美術館などに行く	⑩お誕生日のお祝いをする
③キャンプやバーベキューに行く	⑪1年に1回くらい家族旅行に行く
④スポーツ観戦や劇場に行く	⑫クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる
⑤遊園地やテーマパークに行く (16・17歳は「友人と遊びに出かけるお金」)	⑬子どもの年齢に合った本
⑥毎月お小遣いを渡す	⑭子ども用のスポーツ用品・おもちゃ
⑦毎年新しい洋服・靴を買う	⑮子どもが自宅で宿題をすることができる場所
⑧習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる	

[その他]

- ・調査結果の選択肢の文章について一部省略して表記している箇所がある。
- ・生活困窮度別のグラフでは、生活困窮度の判定ができなかった回答は、グラフの「全体」の数に含まれている。このため、一般家庭、周辺家庭、困窮家庭の合計と全体の数は一致しない。
- ・子ども本人による有効回答数は 1,955 人で、それを母数に子ども本人の回答結果を示している(小学1年保護者の回答分を含める場合は 3,021 人)が、生活困難状況の集計による子どもの回答については、保護者の回答と突合して生活困難状況を集計するため、子どものみ回答した調査票を除いている。
- ・各設問の棒グラフは少数点1位で表示しており、一部 100%とならないところがある。棒グラフは複数回答のため、合計が 100%を超えるものがある。
- ・文中の「前回」とは平成 29 年度に実施した長野県子どもと子育て家庭の生活実態調査のことである。調査対象・方法、生活困窮状況の把握等は前回と同様に今回も実施しており、回答状況と比べ、相対的に有意な差があった結果を中心に記述している。

[参考：前回調査概要]

調査対象	長野県内の 50 市町村在住の小学 1 年(保護者のみ)、小学5年、中学 2 年、16・17 歳県民本人とその保護者 12,000 世帯を無作為抽出
調査期間	平成 29 年8月 10 日から9月 25 日まで
有効回答数	子ども本人 2,366 人(26.3%)、保護者 3,589 人(29.9%)

## 2. 調査結果概要

子どもと子育て家庭の生活状況について、「世帯の可処分所得」、「家計の逼迫状況」、「子どもの体験や所有物の欠如の状況」から世帯の生活困難状況を区分し、子どもの学年、世帯構成等で分析を行った上で前回調査(平成29年実施)結果との比較を行った。

調査結果では、子育て家庭の生活困難状況や世帯の家計状況等による子どもの学習面・生活面・心理面などへの影響がみられるとともに、生活困難家庭では子ども・保護者ともに多様な困難を抱える場合が多いことや、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、生活状況が厳しくなっていることも見受けられる。

### ①分析結果

#### [保護者の生活状況]

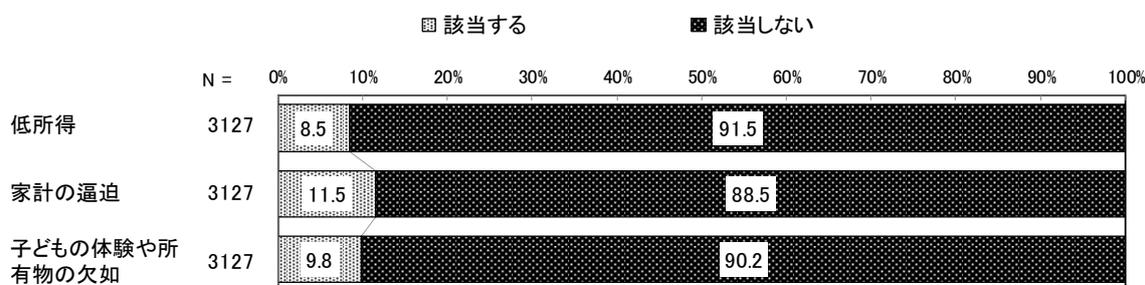
○子どもの親の婚姻状況は、「結婚している(事実婚を含む)」が91.4%、「離婚」が6.7%、「死別」が0.9%、「未婚・非婚」が0.6%である。『結婚していない』(「離婚」、「死別」、「未婚・非婚」の計)割合は全体で8.2%であり、生活困難家庭で多くみられる。(P10参照)

○生活困難家庭では、暮らしの状況や家計の逼迫などで多様な課題を抱えている回答が多くみられる。(P21~22、43~45参照)

現在の暮らしの状況について「やや苦しい」「大変苦しい」と回答した割合は、一般家庭は22.2%だが、周辺家庭では63.5%、困窮家庭では88.5%である。

「食料が買えなかった経験」や「衣類が買えなかった経験」は、困窮家庭で前回と大きな差はみられないものの、依然として多い割合となっている。「食料が買えなかった経験」「衣類が買えなかった経験」「電話料金」「電気料金」「ガス料金」「水道料金」「家賃」のいずれか1つ以上で未払いが発生している割合は、一般家庭では0.0%だが、周辺家庭では38.8%、困窮家庭では87.2%と多い。

生活困難状況の3要素[%]



○保護者の学歴、就労状況と子育て家庭の現在の所得水準、子どもとの関わりや家庭でしていることに関連がみられた。(P20、23~26、40~42、51~52参照)

母親の最終学歴は、「大学」が一般家庭では28.4%であったのに対し、周辺家庭では16.2%、困窮家庭では14.5%であった。父親の最終学歴も、「大学」が一般家庭で42.0%であったのに対し、周辺家庭では25.8%、困窮家庭では11.5%であった。

母親が働いていない理由として「自分の病気や障がいのため」と回答した割合は、一般家庭では5.8%であったのに対し、周辺家庭では18.3%、困窮家庭では36.4%であった。

所得水準が低いと、「子どもとの関わりや子どもに家庭でしていること」は少なくなる傾向があり、子どもの文化的な活動や体験の機会に差が生じている。

○保護者が考える子どもの「理想的な教育段階」と「現実的な進学段階」には差があり、その差が生じる理由として、生活困難家庭ほど経済的理由の回答割合が多い。(P27~29 参照)

子どもの理想的な教育段階を「大学またはそれ以上」と回答した割合は、一般家庭では 73.4%であったのに対し、周辺家庭では 55.0%、困窮家庭では 44.7%であった。また、現実的な教育段階を「大学またはそれ以上」と回答した割合は、一般家庭では 50.0%であったのに対し、周辺家庭では 26.7%、困窮家庭では 10.7%であり、そのように考える理由として、「家族の経済的な状況から考えて」と回答した割合は、一般家庭では 11.4%であったのに対し、周辺家庭では 25.9%、困窮家庭では 51.5%であった。

○困窮家庭では頼る人がいない、不安を抱えながら子育てをしていることがうかがえる。(P15~17 参照)

子育てに関する相談やお金の援助を頼れる人の有無について、子育てに関する相談相手が「いない」と回答した困窮家庭の割合は 10.2%、お金の援助についても頼れる人が「いない」と回答した困窮家庭の割合は 31.9%となり、他の区分と比べて多い。

○生活困難家庭では心身の健康状態の不安定さにより、生活への影響がうかがえる。(P30、55~58 参照)

保護者自身の健康状態は、一般家庭では「よい」が 49.8%と多く、「まあよい」と「普通」を合わせると 90%を超えるが、困窮家庭では「よい」が 33.2%と少なく、「まあよい」と「普通」を合わせると 78.8%である。保護者の心理状況に関する項目を点数化したうつ・不安障害の傾向の強い「要注意・要治療」に該当する割合は、一般家庭では 14.5%だが、周辺家庭では 29.0%、困窮家庭では 43.4%となっている。

#### [子ども生活実態、課題等]

○将来の夢・なりたい職業が「ある」子どもの割合は前回よりもやや少なく、学年が上がるにつれて少なくなる傾向は前回と同様である。また、自分の将来が楽しみだと「とても思う」と「思う」を合わせた子どもの割合も学年が上がるにつれて少なくなる傾向は前回と同様である。(P102~104、P155 参照)

将来の夢・なりたい職業の有無については、「ある」が 67.0%、「ない」が 32.2%となっているが、「ある」と回答した割合は、小学5年は 77.8%、中学2年は 60.0%、16・17 歳は 60.7%となっている。前回の全体と比べて、「ある」が 5.6%少なくなり、各学年で前回よりも少なくなっている。

また、自分の将来が楽しみだと「とても思う」と「思う」を合わせた割合は、小学5年は 80.4%となっているが、中学2年は 63.0%、16・17 歳は 63.6%である。

○子どもの進学に関する意識は、世帯の状況により大きく異なっている。(P106、145 参照)

進学したい教育段階は、小学5年と中学2年で「大学またはそれ以上」と回答した割合が一般家庭では 45.4%であったのに対し、周辺家庭では 28.9%、困窮家庭では 21.4%であった。16・17 歳では「四年制大学」と回答した割合は、一般家庭では 70.4%であったのに対し、周辺家庭では 50.7%、困窮家庭では 35.3%であった。

○授業以外の勉強、クラスでの成績について、生活困難家庭で「しない」「下の方」が多く、学ぶ意欲との関係がみられる。また、学校の授業について、生活困難家庭ほど理解度が低い傾向がある。(P148~150 参照)

「学校の授業以外で勉強はしない」と回答した割合は、一般家庭では 4.3%であったのに対し、周辺家庭では 8.4%、困窮家庭では 11.0%であった。

また、クラス内での成績について「やや下のほう」と「下のほう」を合わせた割合は、一般家庭では 17.9%であったのに対し、周辺家庭では 31.2%、困窮家庭では 39.9%であった。

学校の授業について『わからない』（「教科によってはわからないことがある」、「わからないことが多い」と「ほとんどわからない」の計）と回答した割合は、一般家庭では 25.3%であったのに対し、周辺家庭では 43.1%、困窮家庭では 52.7%であり、授業の理解度について生活困窮度別によって大きな差がある。

○生活困難家庭では、食事などの生活習慣の定着やクラブ活動への参加状況の低下傾向がみられ、生活の満足度も低調な傾向が見受けられる。（P126～128、111～112、125 参照）

「朝食」について「毎日食べる」と回答した割合は、一般家庭では 91.4%であったのに対し、周辺家庭では 84.6%、困窮家庭では 77.3%であった。「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」について「毎日食べる」と回答した割合は、一般家庭では 93.4%であったのに対し、周辺家庭では 86.6%、困窮家庭では 84.3%であった。「平日ほぼ同じ時間に寝ているか」について、「そうである」と「どちらかといえばそうである」を合わせた割合は、一般家庭では 85.1%であったのに対し、困窮家庭では 72.4%であった。

16・17 歳で部活動等に参加「していない」と回答した割合は、一般家庭では 33.2%であったのに対し、周辺家庭では 45.1%、困窮家庭では 47.1%であった。部活動等に参加していない理由として「費用がかかるから」と回答した割合は、一般家庭では 2.0%であったのに対し、困窮家庭では 8.3%であった。

生活の満足度について、「6～10」（満足度が高い方の回答）に該当する割合は、一般家庭では 88.9%であったのに対し、周辺家庭では 68.7%、困窮家庭では 63.8%であった。

#### [新型コロナウイルス感染症拡大による影響]

○生活困難家庭では、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている回答が多くみられ、生活状況がさらに厳しくなっている可能性がある。（P90～92、180～181 参照）

保護者調査では、新型コロナウイルス感染症の拡大による「世帯全体の収入の変化」について「減った」と回答した割合は、一般家庭では 19.3%であったのに対し、周辺家庭では 36.3%、困窮家庭では 54.9%であった。また、「あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」について「増えた」と回答した割合は、一般家庭では 28.0%であったのに対し、周辺家庭では 46.3%、困窮家庭では 56.2%であった。

子ども調査では、新型コロナウイルス感染症の拡大による変化として「学校の授業が分からないと感じること」について「増えた」と回答した割合は、一般家庭では 19.6%であったのに対し、周辺家庭では 27.4%、困窮家庭では 35.6%であった。

#### [支援サービスの利用状況等]

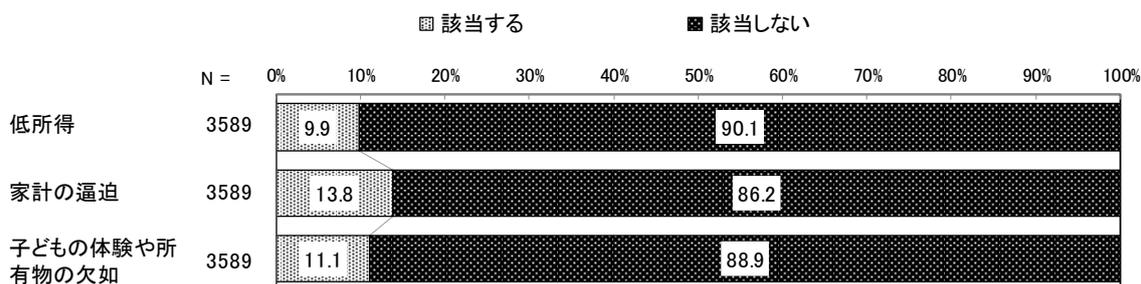
保護者の支援制度の利用状況について、困窮家庭のうち「現在利用している」と回答した割合は、「就学援助」31.5%、「児童扶養手当」27.7%である。各支援制度を利用していない理由について、「制度等についてまったく知らなかった」が各項目で最も多く回答されている。（P76～82 参照）

子どもの支援制度・居場所等の利用について、休日にいることができる場所、家で勉強ができないとき静かに勉強ができる場所、勉強を無料でみてくれる場所が関心の高いものとして回答されている。支援制度・居場所等の利用によって、「友だちが増えた」、「生活の中で楽しみなことが増えた」、「ほっとできる時間が増えた」、「勉強する時間が増えた」などの変化がみられる。（P167～175 参照）

[前回調査と比べてみられること]

- 世帯類型については、二人親二世代の核家族（二人親二世帯世帯）が前回と比べて多くなり、三世帯の世帯は前回と比べて少なく、核家族化の進行がうかがえる。（P13 参照）
- 世帯所得は400万円未満が少なくなり、700万円以上が多くなっている。母親の正職員の割合が前回よりも多くなったことが要因の一つと考えられる。一方で、生活困窮度別では、困窮家庭は210万円未満の割合が前回よりも多く、困窮家庭の母親のパート・アルバイト割合は同程度であり、困窮家庭と一般家庭の差の拡大が考えられる。（P20 参照）
- 生活困難状況の3要素の該当割合は3要素ともに前回よりやや少なくなっているものの、生活困難家庭では所得や家計の逼迫などで多様な課題を抱えている回答は前回と同様多くみられ、特に困窮家庭で多くなっている。（P21 参照）

[参考 前回調査] 生活困難状況の3要素[%]



- 保護者にとって教育費の負担感が大きいことは前回と同様の傾向であるが、困窮家庭では「学習塾、通信教育、習い事など学校以外の教育費」よりも「学級費、教材費などの学校徴収金」「制服、靴、かばんなど学校指定用品」が前回よりも多くなっており、困窮家庭における学校にかかる費用の負担感が増大傾向であることがうかがえる。（P38～39 参照）
- 保護者の情報の受け取り方について、「学校からのメール」や「SNS（LINE、ツイッターなど）」が前回より多くなり、保護者の情報の受け取り方は多様化している。（P59～60 参照）
- 保護者の相談機関や支援センターなどの利用は前回より広がっており、『相談したことがある』窓口についても多様化している。また、支援制度や子育て支援サービスの利用も前回より広がっているが、生活困難家庭で「制度について知らない」や「利用の仕方がわからなかった」などというサービスもみられる。（P82～89 参照）
- 保護者の希望する子育て支援サービスでは、「子どもの医療費の軽減の充実」は福祉医療費助成の充実などにより前回に比べて少なくなったが、「子どもの就学に係る費用の軽減」が前回よりも多くなっており、保護者が感じる子育て・教育にかかる費用の負担感の大きさがうかがえる。（P73～75 参照）
- 子どもの将来の夢・なりたい職業が「ある」子どもは前回同様に学年が上がるにつれて少なくなっており、各学年で前回よりも回答割合がやや少ない。（P102～104 参照）
- 学校をやめたくなるほど悩んだことがある子どもが前回と比べて多く、その理由として「精神的に不安定」や「友達とうまくいかない」という回答の割合が増えている。（P157～158 参照）
- 生活困難家庭の子どもでは、朝食や運動などの生活習慣の定着などが前回よりも低下傾向であり、特に困窮家庭でその傾向がみられる。また、学校が楽しくない理由で「学校に行くのが面倒」という理由が前回と比べて増えている。（P126、124、139～140 参照）

## ②貧困率について

○内閣府の「子供の貧困対策に関する大綱」において指標の1つに設定されている子どもの貧困率は、国民生活基礎調査における相対的貧困率が採用されており、その子が属している世帯の等価可処分所得を元に計算されている。

(平成30年国民生活基礎調査 子どもの貧困率全国値 13.5%、OECDの新基準 14.0%)

$$\text{子どもの貧困率(\%)} = \frac{\text{貧困線を下回る所得の17歳以下の世帯人員数}}{\text{17歳以下の全ての世帯人員}} \times 100$$

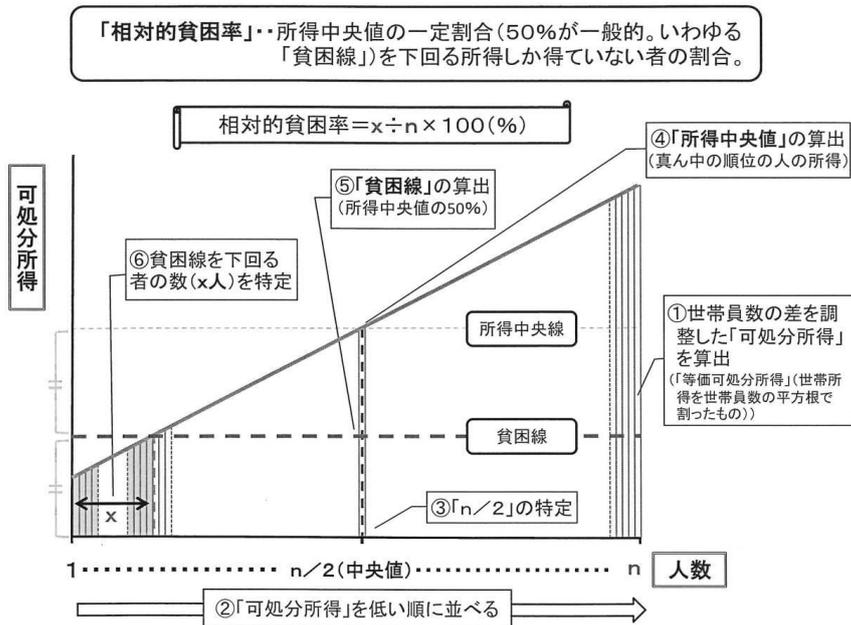
○当県では、世帯員別可処分所得の水準表における分類Ⅰ・Ⅱに該当する世帯が、国の貧困線基準と概ね同様となることから、全体(判定不能世帯を除く。)に占める割合として算出をすると、今回調査における長野県の子どもの貧困率(参考値)は9.7%となる。

ただし、本調査は調査対象者が異なるため、国民生活基礎調査の子どもの貧困率と単純に比較することはできない。

[可処分所得分類結果(本調査)]

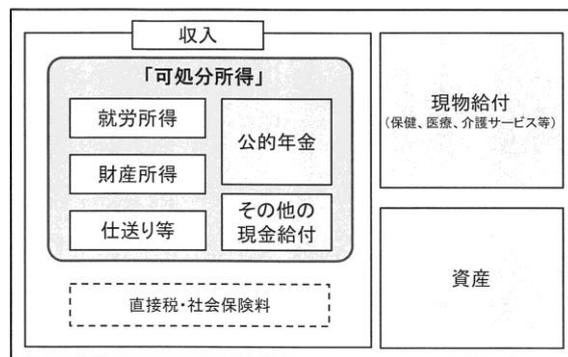
	全 体(判定不能等を除く)	該 当	非該当
分類Ⅰ・Ⅱ (低所得に該当)	2,747 世帯 (100.0%)	265 世帯 (9.7%)	2,482 世帯 (90.3%)

[参考:国民生活基礎調査貧困率(厚生労働省 HP)]



「可処分所得」:

相対的貧困率の算出に当たって用いる「可処分所得」には、以下のものが含まれる。 ※「資産」の多寡については考慮していない。



### 3. 回答者の属性

#### (1)属性・居住地域

保護者の回答では、小学1年が多く、学年が上がると回答数が減っている。子ども本人の回答では、小学5年と中学2年は35%前後で、16・17歳がやや少ない。

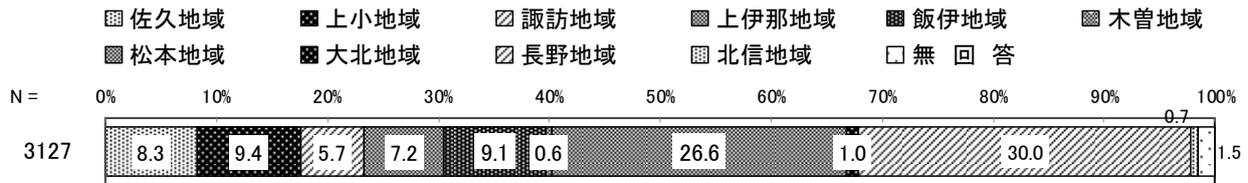
[学年別子ども、保護者の分布]

	保護者票	子ども本人票
全 体	3,127 件 (100.0%)	1,955 件 (100.0%)
小学1年	1,078 件 (34.5%)	—
小学5年	782 件 (25.0%)	749 件 (38.3%)
中学2年	690 件 (22.1%)	662 件 (33.9%)
16・17 歳	577 件 (18.4%)	544 件 (27.8%)

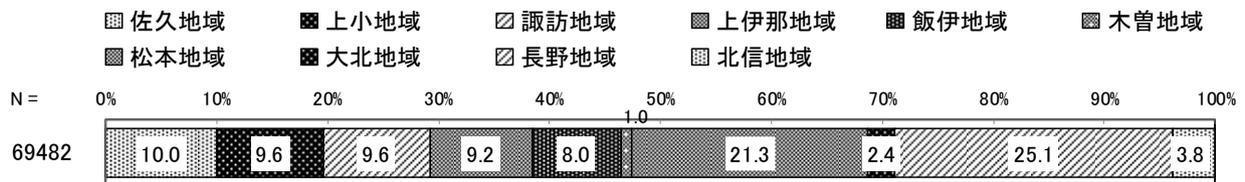
問1 あなたの住んでいる市町村を教えてください。

10 圏域では、「長野地域」が30.0%と最も多く、「松本地域」が26.6%、「上小地域」が9.4%が続いており、対象学年の人口比に概ね近い構成となっている。

H問1 居住地[%]



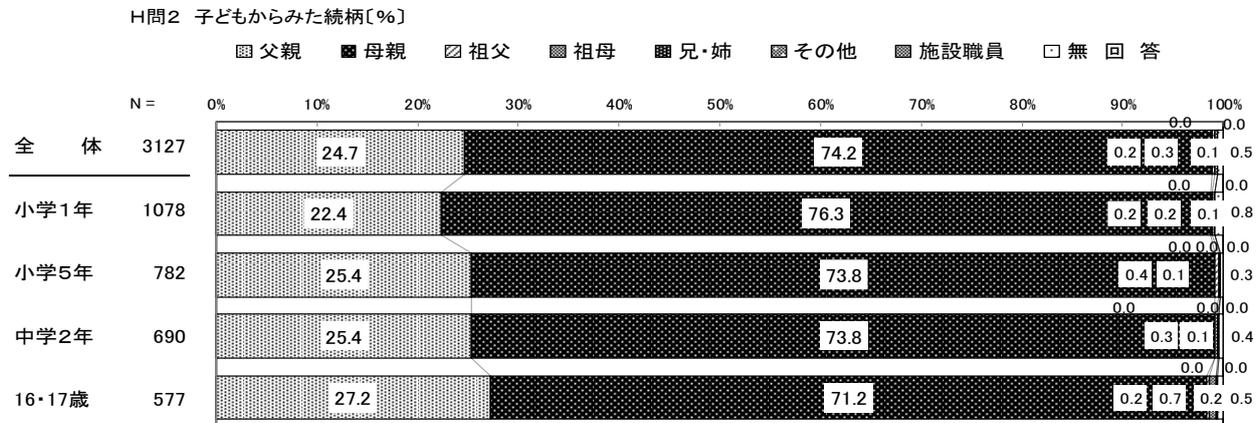
[参考:対象学年人口比(令和4年4月1日現在)]



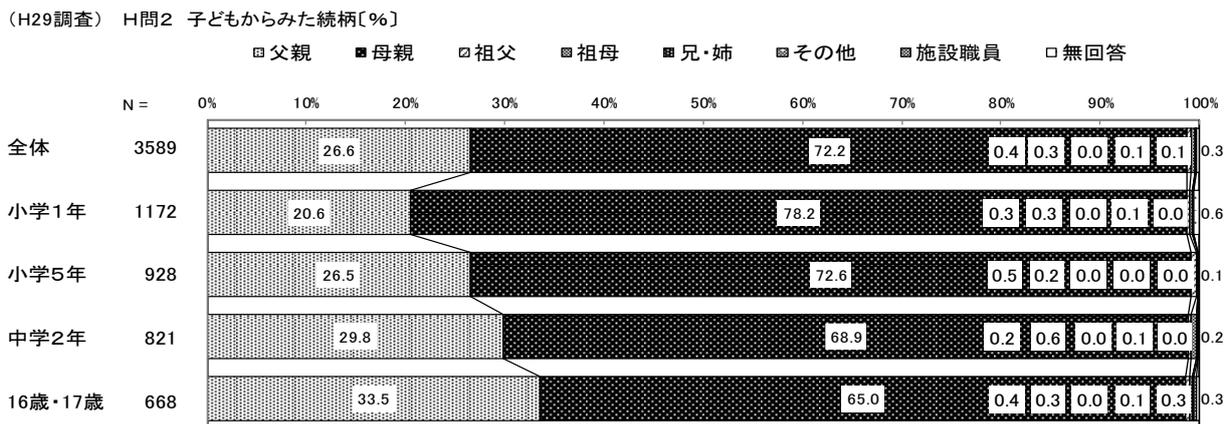
## (2)世帯の状況

問2 お子さんとあなた(回答者)との関係は、以下のどれになりますか。お子さんからみた続き柄で、お答えください。

子どもからみた続き柄は、全体では母親が74.2%、父親が24.7%などとなっている。



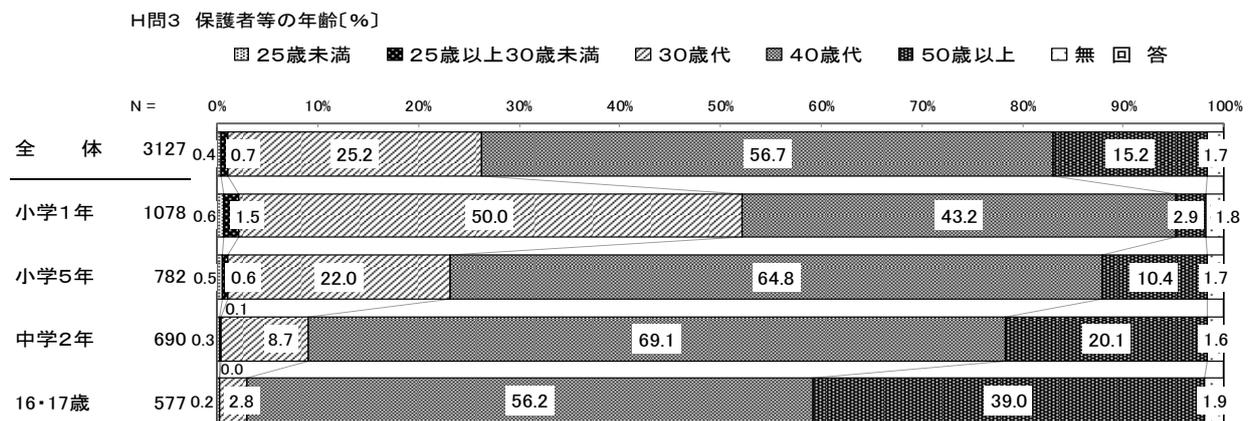
[参考: 前回調査結果]



問3 あなたの年齢を教えてください。

年齢は、「40歳代」が56.7%と最も多く、回答した保護者の平均年齢は44.0歳である。祖父母等が回答している場合などを含め、20歳代から80歳代まで回答されている。

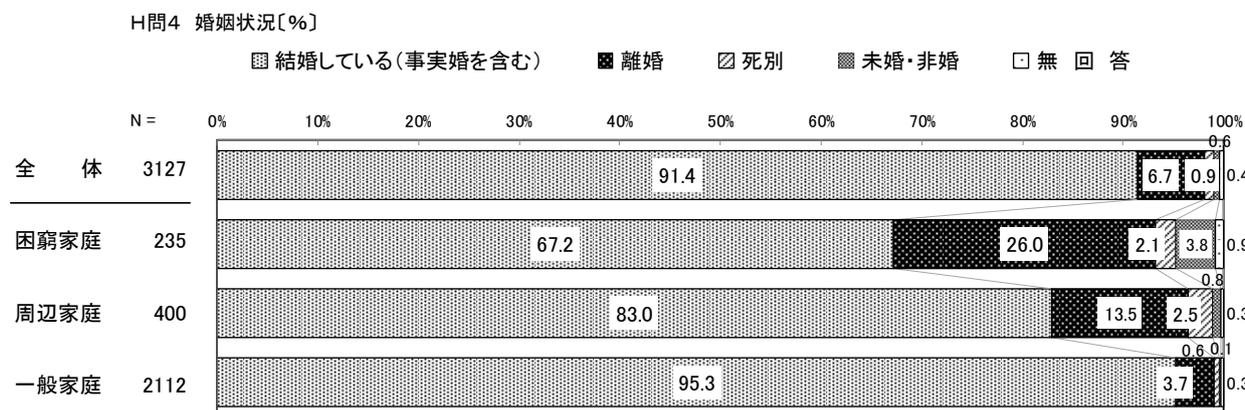
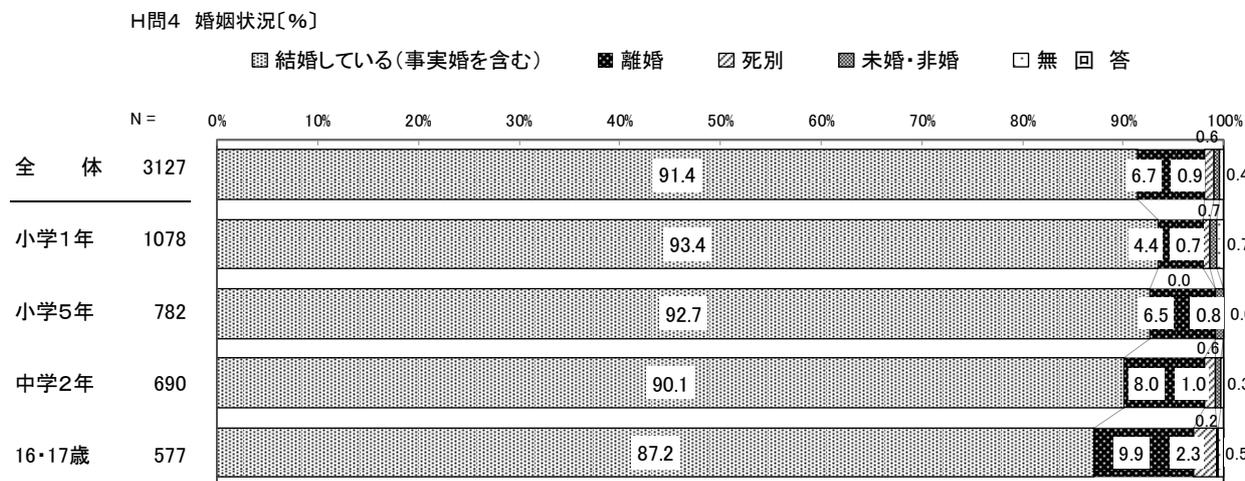
学年別では、小学1年の保護者は30歳代、小学5年以上の保護者は40歳代が多く、学年が上がると保護者の年齢も高くなっている。



問4 現在のあなたの婚姻状況を教えてください。

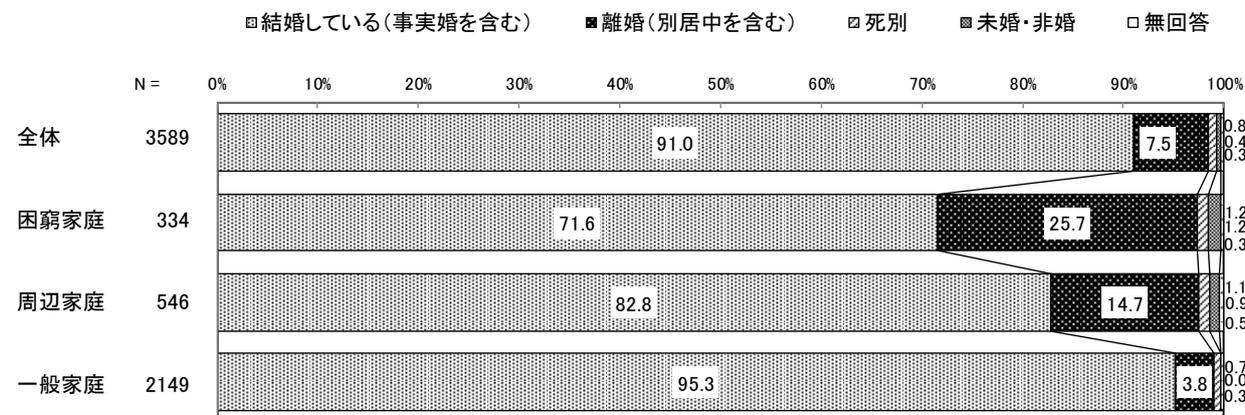
婚姻状況は、「結婚している(事実婚を含む)」は 91.4%、「離婚」は 6.7%、「死別」は 0.9%などとなっている。

学年別では、16・17歳の保護者で「結婚している(事実婚を含む)」が 87.2%、生活困窮度別では困窮家庭で 67.2%、周辺家庭で 83.0%となっている。



[参考: 前回調査結果]

(H29調査) H問4 婚姻状況[%]

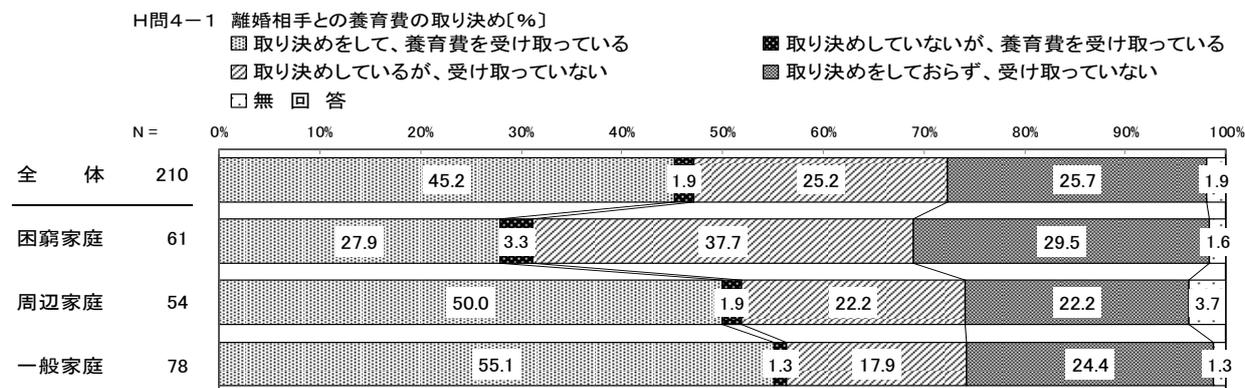
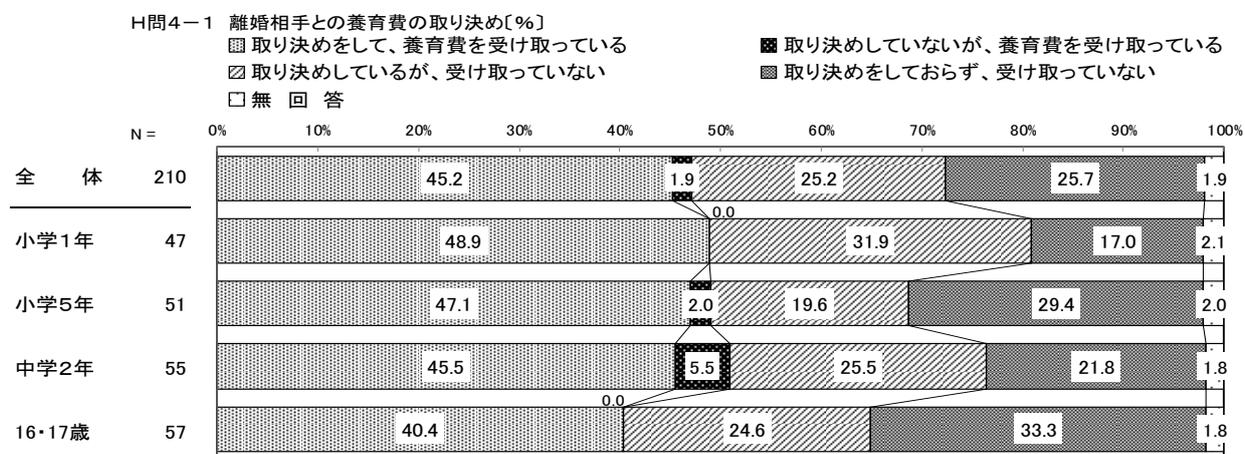


問 4-1 前問で「2 離婚」を選んだ場合、離婚相手と子どもの養育費の取り決めをしていますか。また養育費を現在受け取っていますか。

養育費の『取り決めをしている』（「取り決めをして、養育費を受け取っている」と「取り決めしているが、受け取っていない」の計）が全体では70.4%と多く、『取り決めをしていない』（「取り決めをしていないが、養育費を受け取っている」と「取り決めをしておらず、受け取っていない」の計）が27.6%である。また、養育費の受け取りについては、『受け取っている』（「取り決めをして、養育費を受け取っている」と「取り決めしていないが、養育費を受け取っている」の計）は47.1%、『受け取っていない』（「取り決めしているが、受け取っていない」と「取り決めをしておらず、受け取っていない」の計）は50.9%である。

学年別では、小学1年で『取り決めをしている』が80.8%と多く、その他の学年は60%後半から70%前半となっている。また、養育費の受け取りについては、『受け取っていない』は16・17歳で57.9%と多く、その他の学年は40%後半で、『受け取っている』は中学2年で51.0%となっている。

生活困窮度別では、困窮家庭は『取り決めをしている』が65.6%と少なく、『受け取っている』が31.2%と少ない。



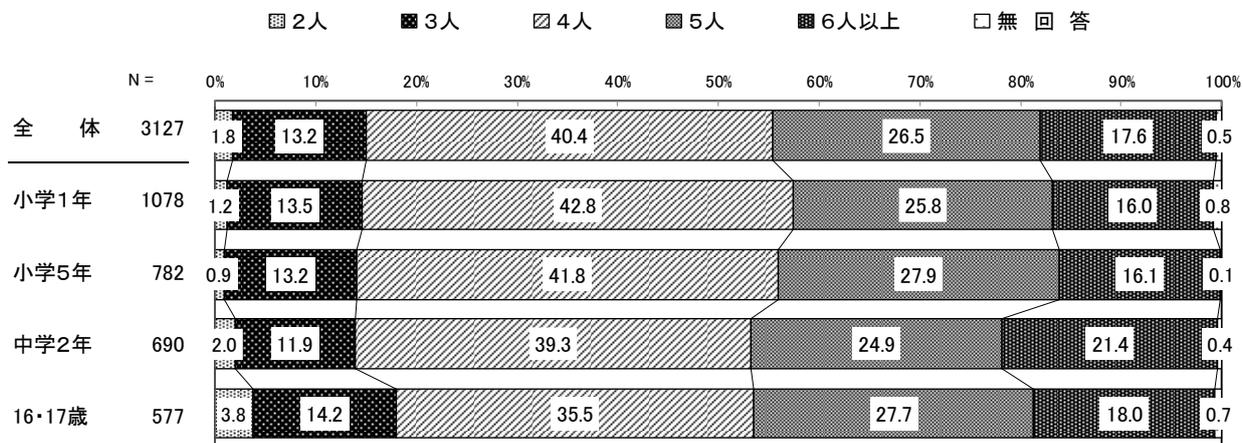
	養育費を受け取っている	養育費を受け取っていない	養育費の取り決めをしている	養育費の取り決めをしていない
小学1年	48.9%	48.9%	80.8%	17.0%
小学5年	49.1%	49.0%	66.7%	31.4%
中学2年	51.0%	47.3%	71.0%	27.3%
16・17歳	40.4%	57.9%	65.0%	33.3%
困窮家庭	31.2%	67.2%	65.6%	32.8%
周辺家庭	51.9%	44.4%	72.2%	24.1%
一般家庭	56.4%	42.3%	73.0%	25.7%

問 5 お子さんと同居しているご家族の人数を教えてください(あなたとお子さんも含む)。単身赴任しているご家族や学業のために世帯を離れているお子さんがいる場合には、ご家族の人数に含めてお考えください。

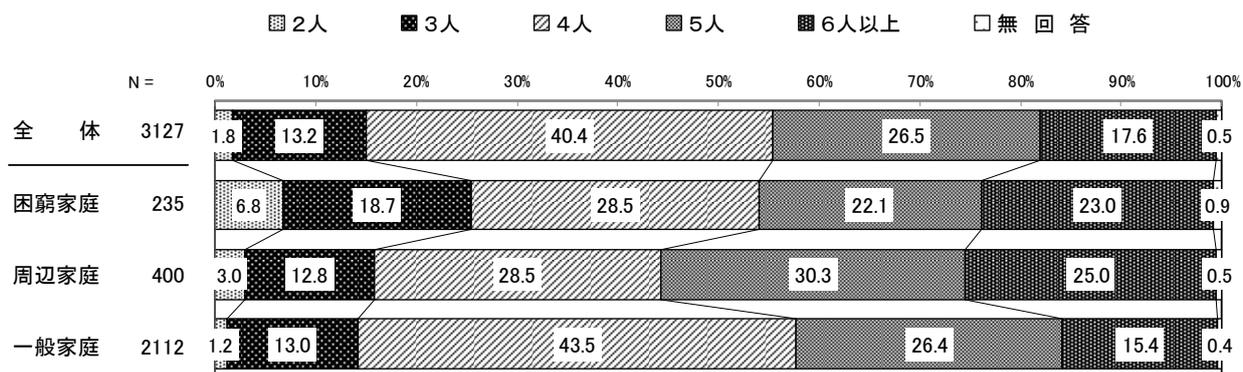
同居家族の人数は、「4人」家族が40.4%で、平均世帯人数は4.5人となっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「2人」「3人」の回答割合が他の区分と比べてやや多い。

H問5 世帯人数(回答者・子どもを含む)〔%〕



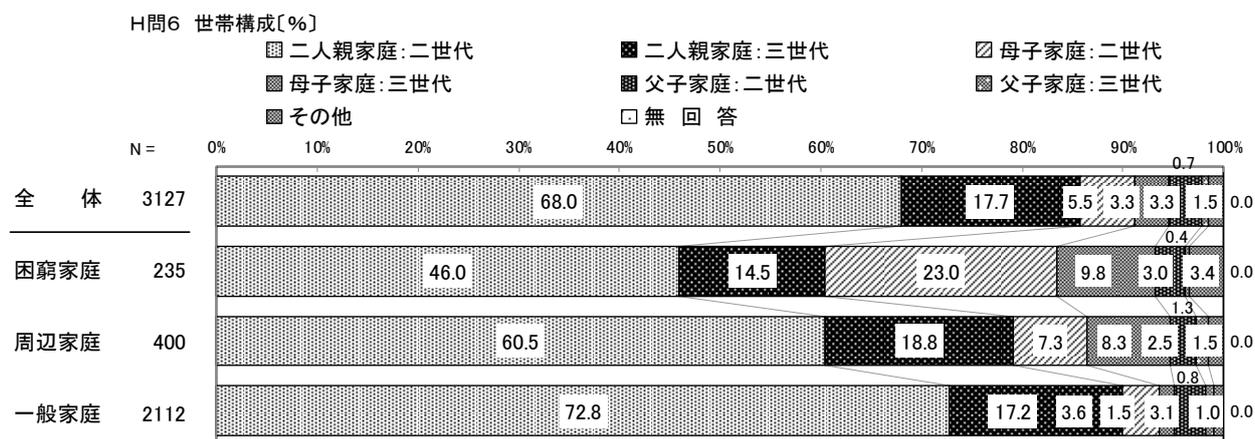
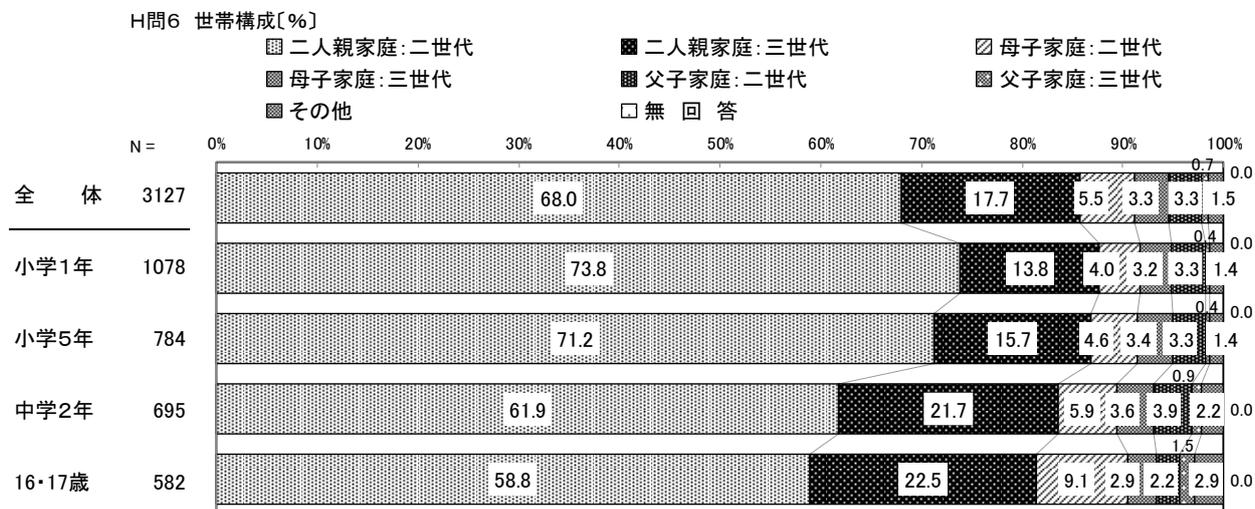
H問5 世帯人数(回答者・子どもを含む)〔%〕



問 6 お子さんと同居しているご家族の方は、どなたですか。それぞれ、人数もお教えてください。(単身赴任中の家族や学業のために世帯を離れているお子さんを含む)

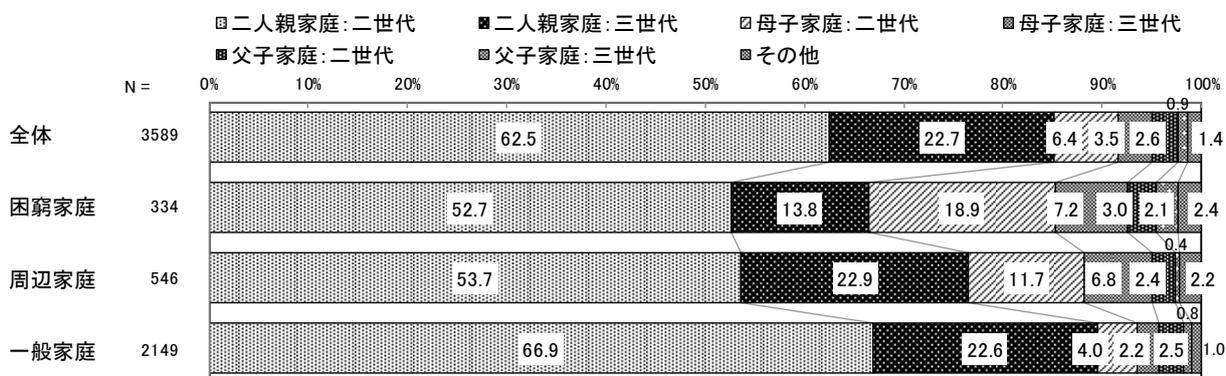
世帯構成は、「二人親二世代」が 68.0%と多く、「二人親三世代」が 17.7%である。母子または父子のひとり親世帯は二世代・三世代世帯を合わせて 12.8%である。

生活困窮度別では、困窮家庭で「母子家庭：二世代」が 23.0%と特に多い。



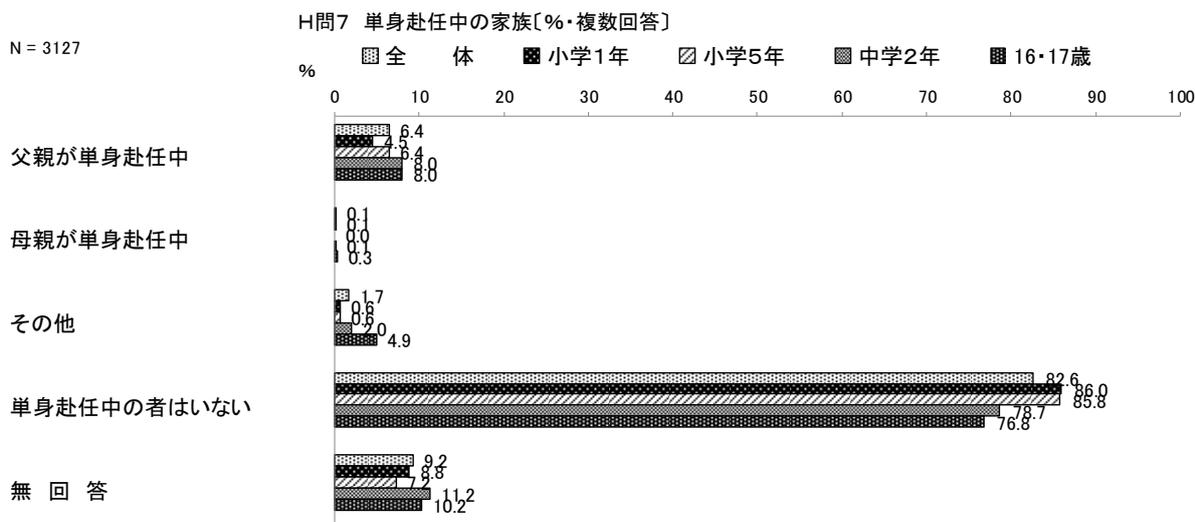
[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 世帯構成



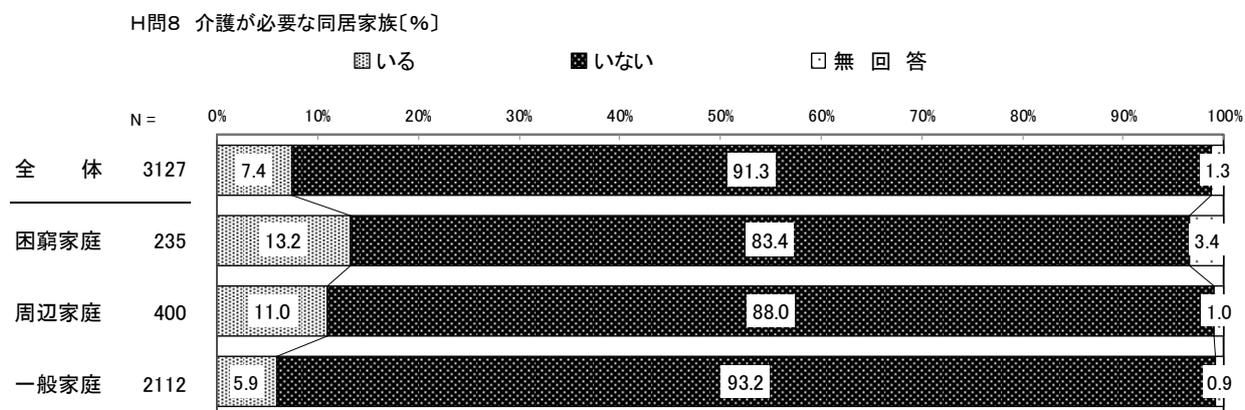
問7 あなたのご家族のうち、現在単身赴任中の方はいらっしゃいますか。

『単身赴任中の者がいる』（「父親が単身赴任中」と「母親が単身赴任中」の計）が6.5%、「単身赴任中の者はいない」が82.6%である。



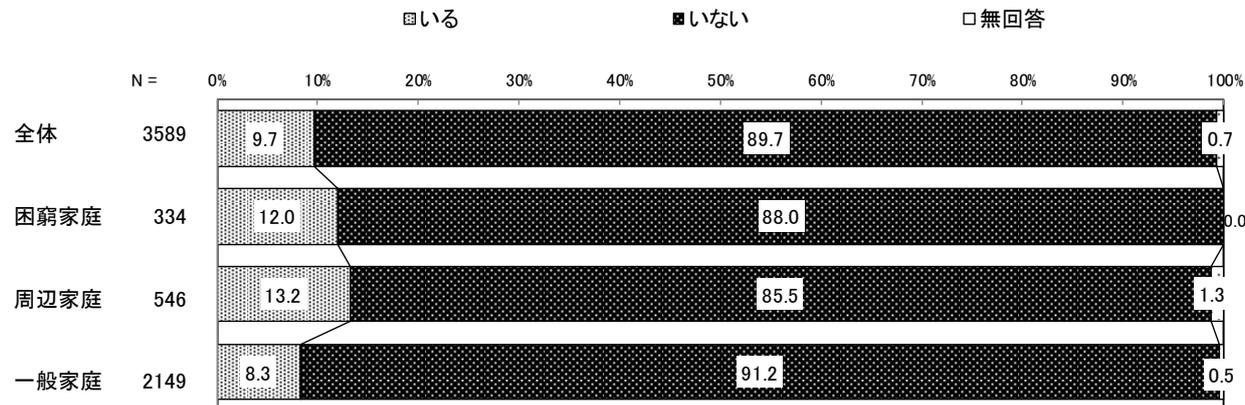
問8 お子さんと同居しているご家族の中に、高齢であったり障がいがあったりするなど、介護が必要な方はいますか。

家族の中に介護が必要な方がいるかについて、「いる」が7.4%、「いない」が91.3%となっている。生活困窮度別では、「いる」が困窮家庭で13.2%、周辺家庭で11.0%とやや多い。



[参考: 前回調査結果]

(H29調査) H問7 家族の中に介護が必要な人の有無[%]



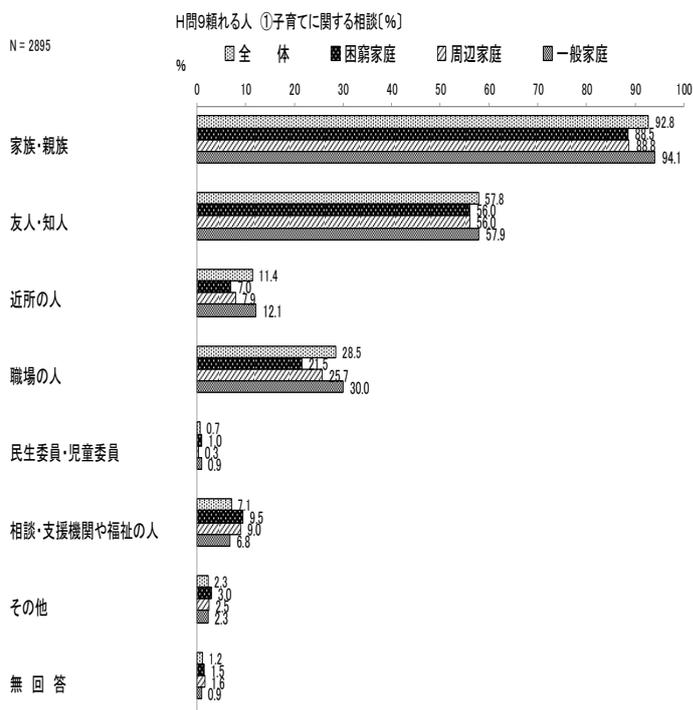
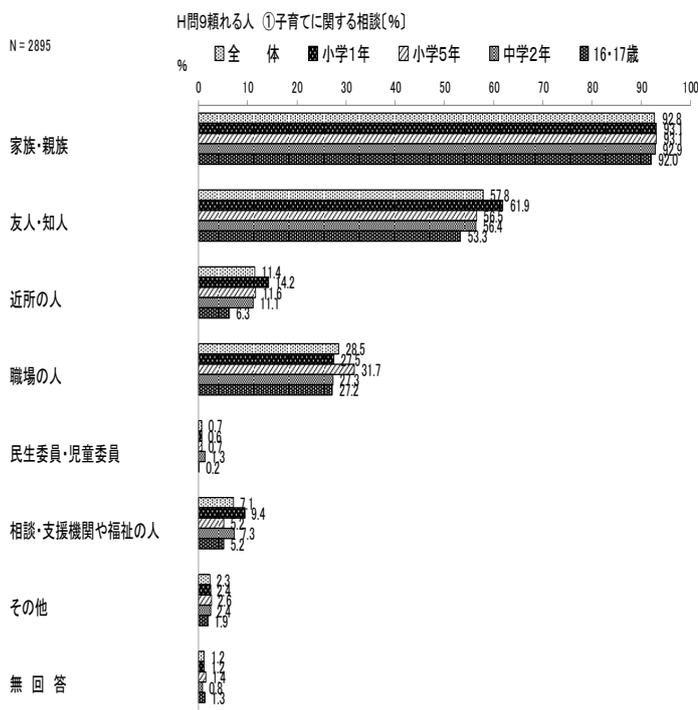
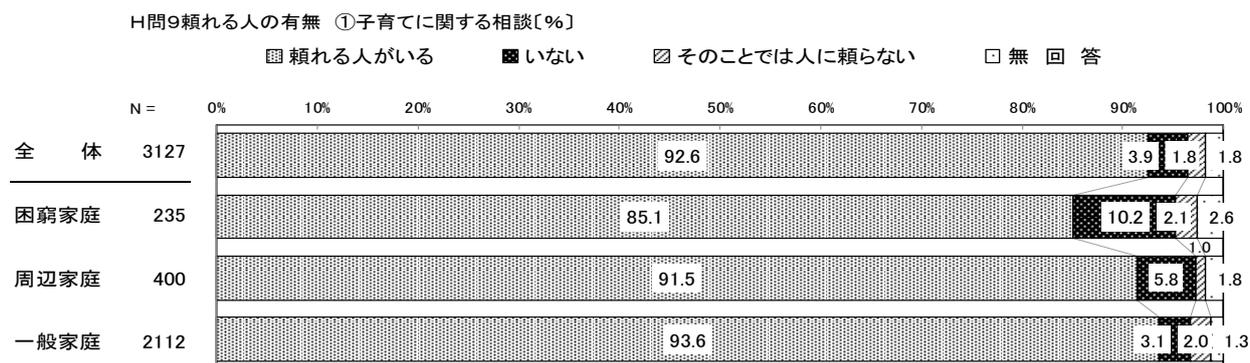
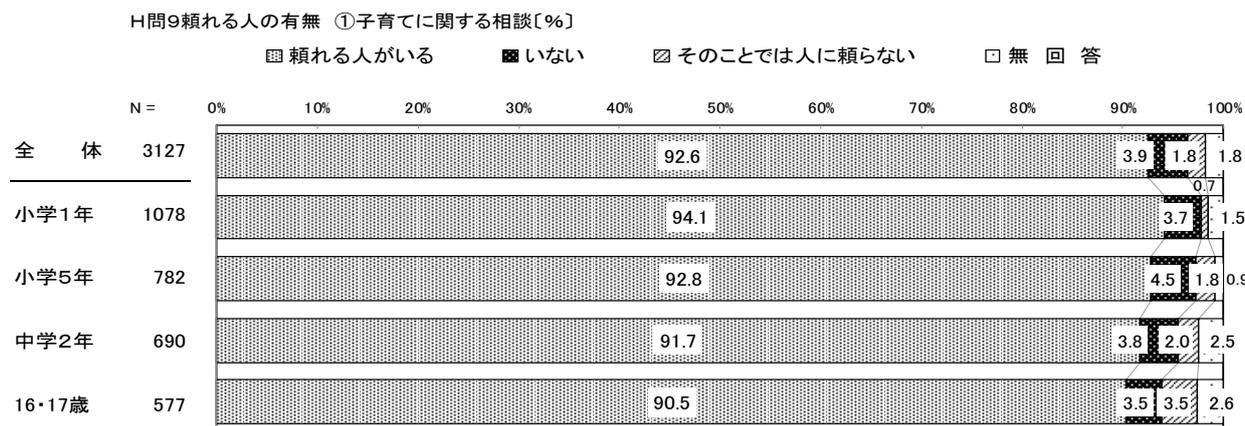
問 9 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。また、aが「1 頼れる人がいる」場合、それはだれですか。

[子育てに関する相談]

子育てに関する相談で「頼れる人がいる」は 92.6%、「いない」は 3.9%となっている。頼れる人は「家族・親族」が 92.8%と最も多い。

学年別では、いずれの学年の保護者も 90%以上が「頼れる人がいる」と回答している。頼れる人は「家族・親族」が 90%以上である。

生活困窮度別では、「いない」が困窮家庭で 10.2%と他の区分と比べて多い。

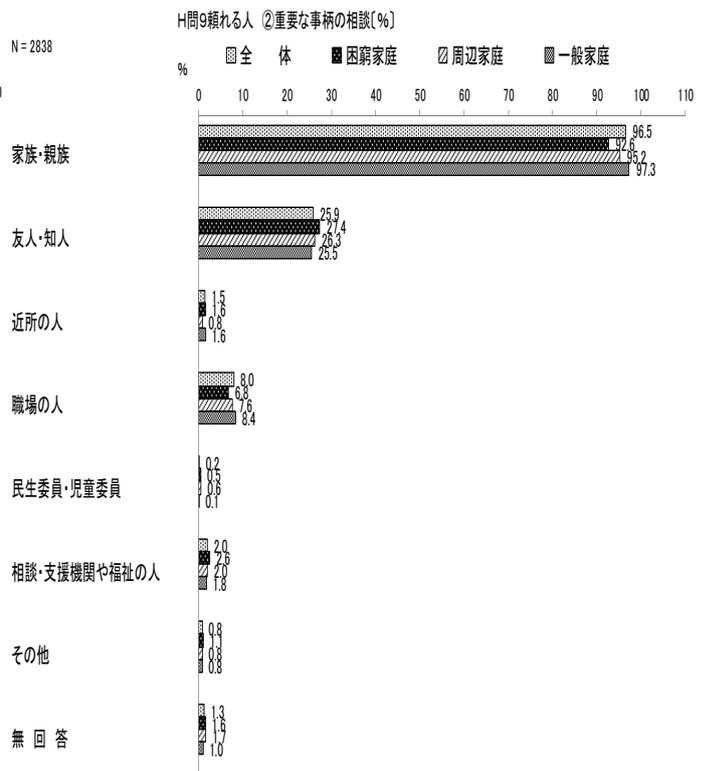
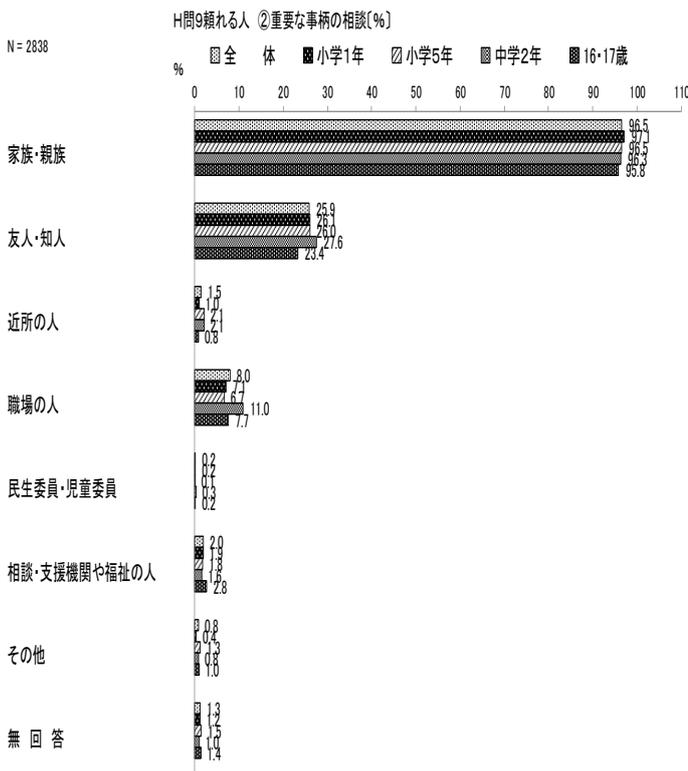
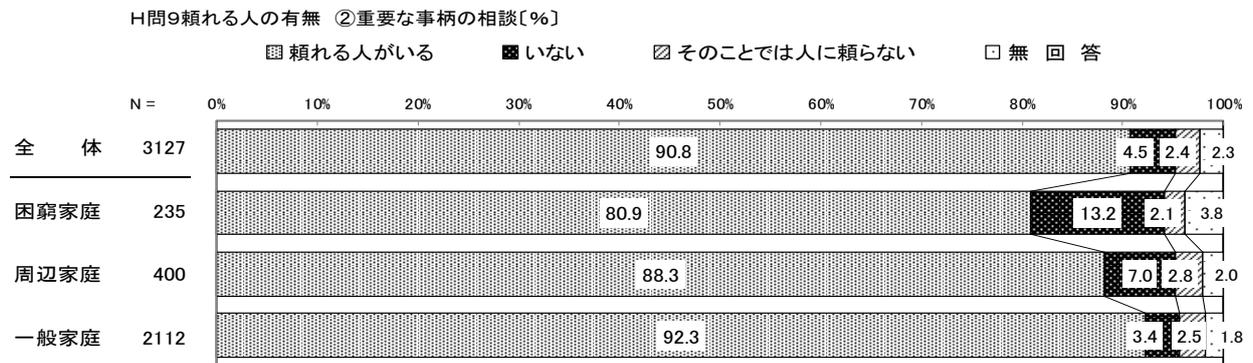
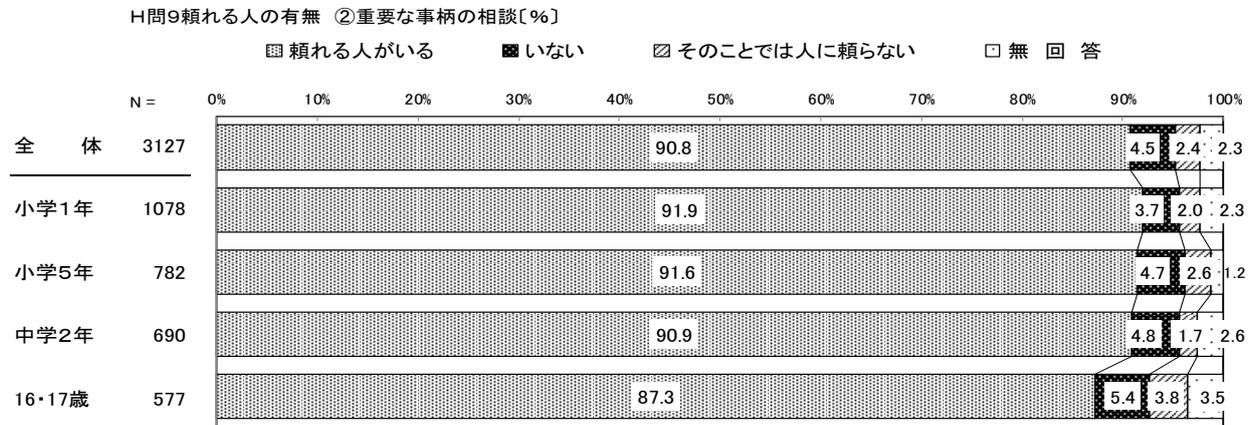


[重要な事柄の相談]

重要な事柄の相談で「頼れる人がいる」は 90.8%、「いない」は 4.5%となっており、頼れる人は「家族・親族」が 96.5%と多い。

学年別では、いずれの学年の保護者も 90%前後が「頼れる人がいる」と回答している。頼れる人は「家族・親族」が 95%を超えている。

生活困窮度別では、「いない」が困窮家庭で 13.2%と他の区分と比べて多い。

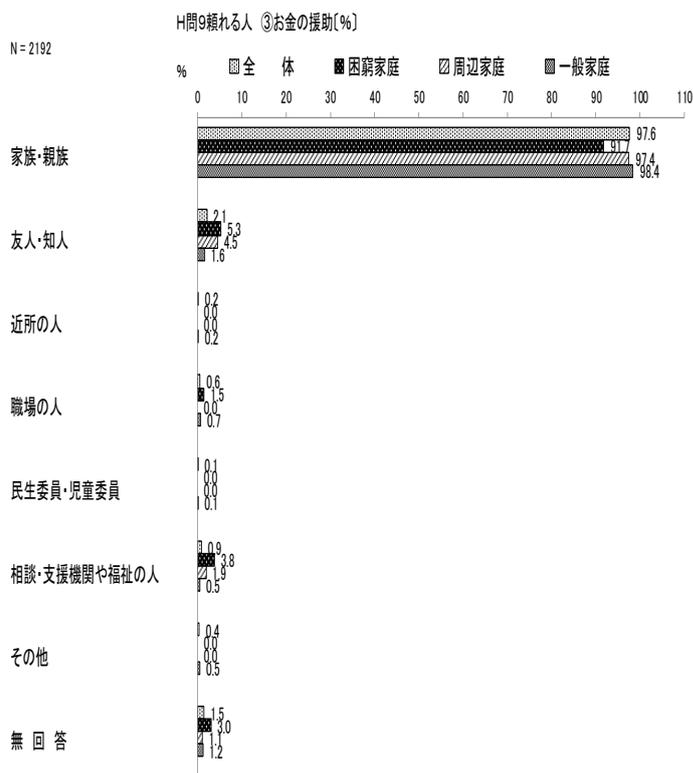
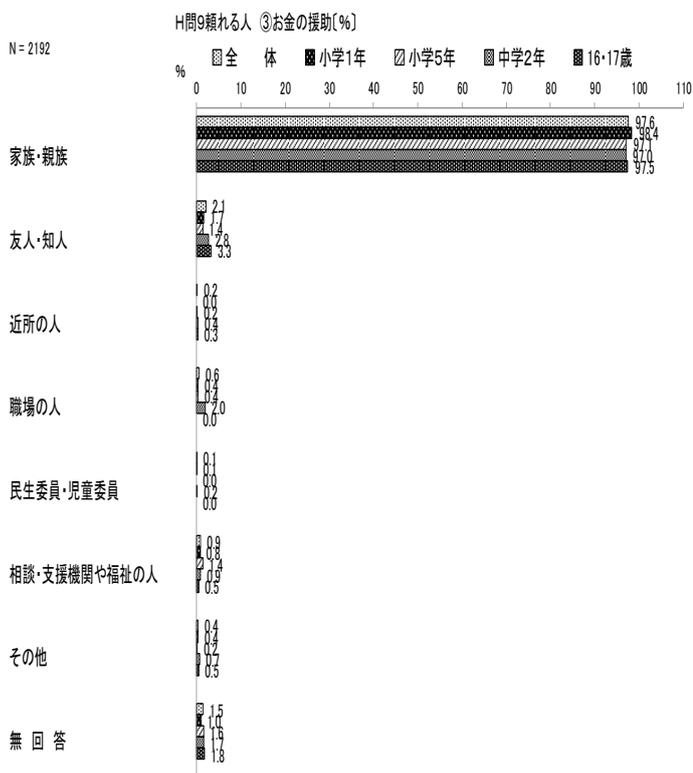
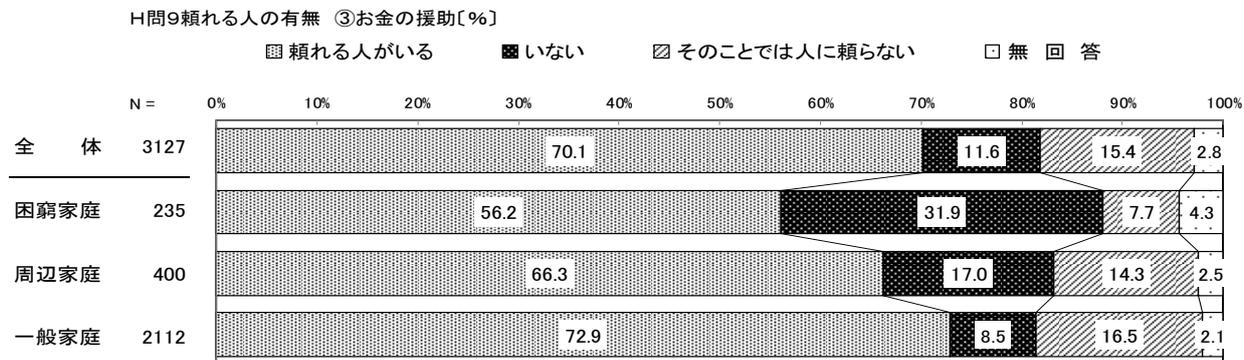
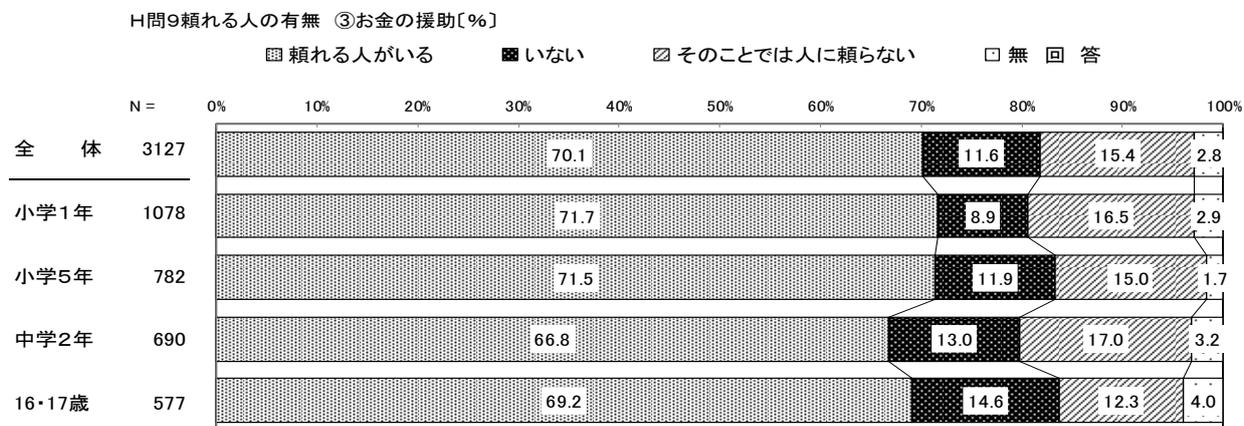


[お金の援助]

お金の援助で「頼れる人がいる」は 70.1%、「いない」は 11.6%となっており、頼れる人は「家族・親族」が 97.6%である。

学年別では、いずれの学年の保護者も 70%前後が「頼れる人がいる」と回答している。頼れる人は「家族・親族」が 97%以上と多い。

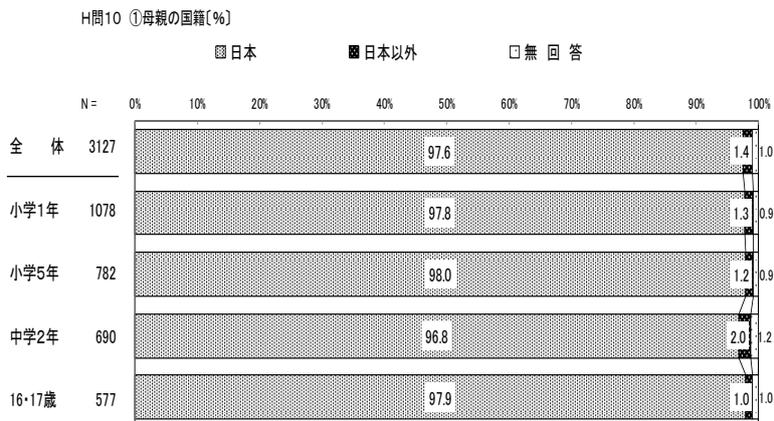
生活困窮度別では、「いない」が困窮家庭で 31.9%と他の区分と比べて多い。



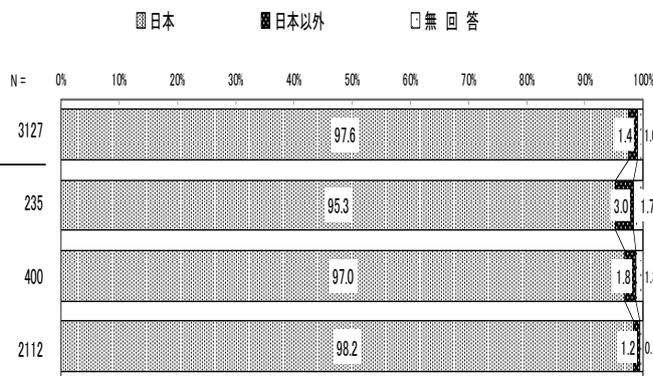
### 問 10 お子さんのご両親の国籍を、それぞれ教えてください。

学年別では、母親・父親の国籍はそれぞれ、いずれの学年もほとんどが「日本」と回答している。

#### [母親]

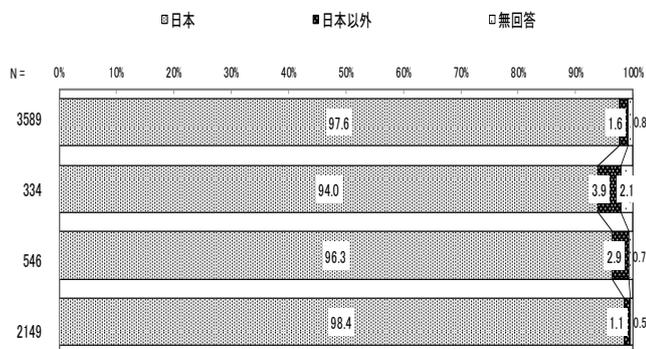


H問10 ①母親の国籍[%]

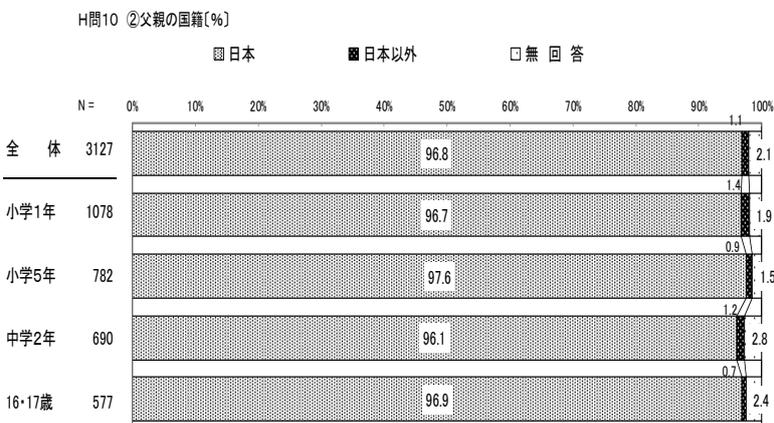


#### [参考: 前回調査結果]

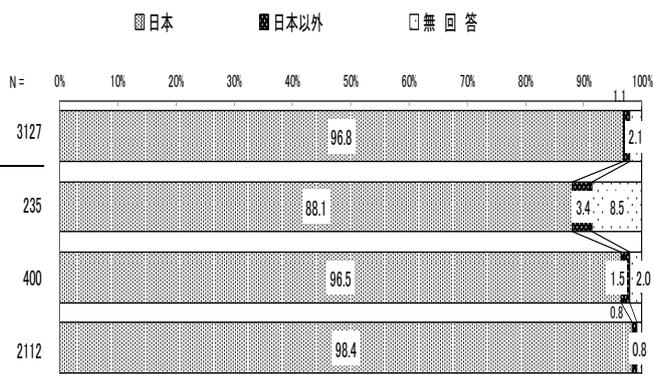
(H29調査) H問9 子どもの両親の国籍(母親)[%]



#### [父親]

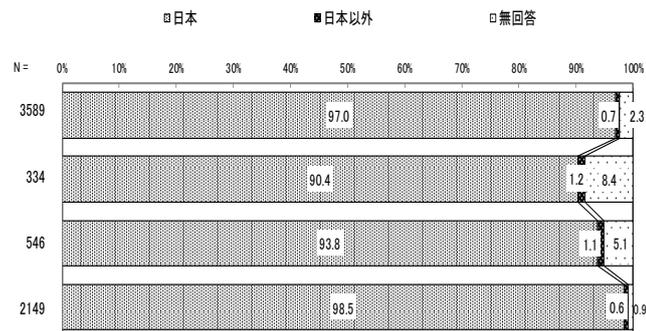


H問10 ②父親の国籍[%]



#### [参考: 前回調査結果]

(H29調査) H問9 子どもの両親の国籍(父親)[%]



問 11 あなたの世帯で、次のような公的年金、社会保障給付金の1回あたりの支給額はいくらですか。

1) 児童手当

「受給している」が71.4%で、「受給していない」が12.8%である。

2) 児童扶養手当

「受給している」が4.4%で、「受給していない」が59.5%である。

生活困窮度別では、困窮家庭で「受給している」が20.9%と他の区分に比べて多い。

3) 特別児童扶養手当

「受給している」が3.7%で、「受給していない」が61.1%である。

生活困窮度別では、困窮家庭で「受給している」が6.0%と他の区分に比べて多い。

4) 年金（遺族年金、老後年金など）

「受給している」が3.8%で、「受給していない」が58.8%である。

生活困窮度別では、生活困難家庭で「受給している」が7%台となっており、一般家庭に比べて多い。

5) 生活保護

「受給している」が0.1%で、「受給していない」が63.7%である。

生活困窮度別では、困窮家庭で「受給している」が1.2%となっている。

N=3,127

(%)		受給している	受給していない	無回答
児童手当	全体	71.4	12.8	15.8
	困窮家庭	74.0	11.5	14.5
	周辺家庭	71.7	10.8	17.5
	一般家庭	76.4	14.4	9.2
児童扶養手当	全体	4.4	59.5	36.1
	困窮家庭	20.9	49.8	29.4
	周辺家庭	8.0	54.8	37.2
	一般家庭	2.4	65.1	32.5
特別児童扶養手当	全体	3.7	61.1	35.2
	困窮家庭	6.0	62.1	31.9
	周辺家庭	3.7	60.3	36.0
	一般家庭	3.7	64.7	31.6
年金 (遺族年金、 老齢年金など)	全体	3.8	58.8	37.4
	困窮家庭	7.2	60.0	32.8
	周辺家庭	7.0	55.8	37.2
	一般家庭	3.3	62.8	33.9
生活保護	全体	0.1	63.7	36.2
	困窮家庭	1.2	66.0	32.8
	周辺家庭	0.0	62.8	37.2
	一般家庭	0.0	67.2	32.8

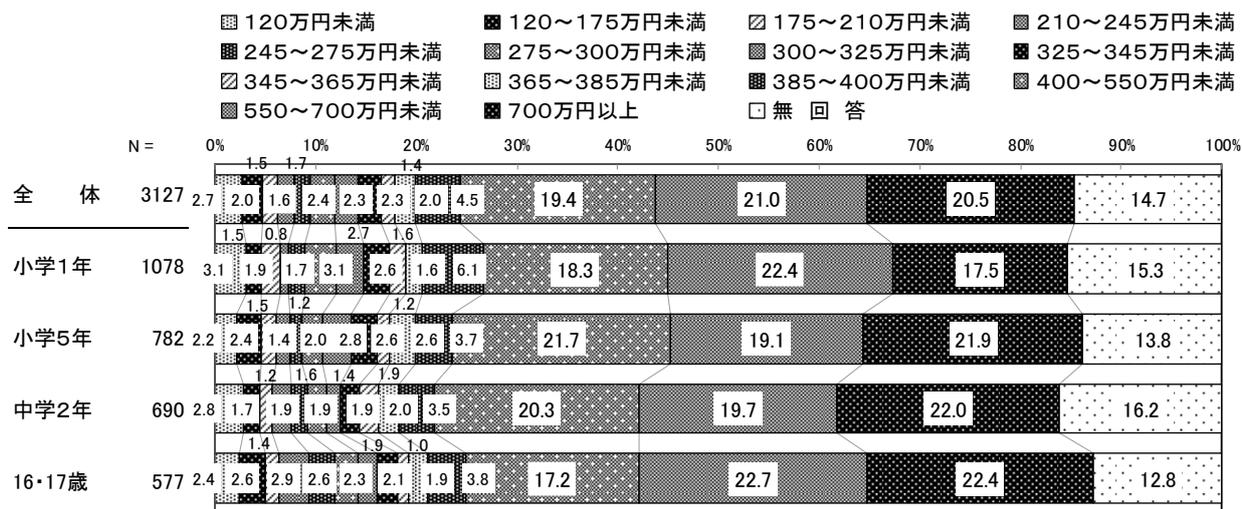
問 12 前年(2021年1～12月)のあなたの世帯全体の可処分所得(手取り)総額は、合計でおよそいくらですか。就労による所得(会社員の方等は住民税を引く)に加え、児童手当・児童扶養手当等・雇用保険等の支給額や、特別定額給付金(新型コロナウイルスに係る給付金)、親族等からの仕送り等を足した金額でお答えください。

世帯所得は、「400～550万円未満」が19.4%、「550～700万円未満」が21.0%、「700万円以上」が20.5%、400万未満は24.4%などとなっている。

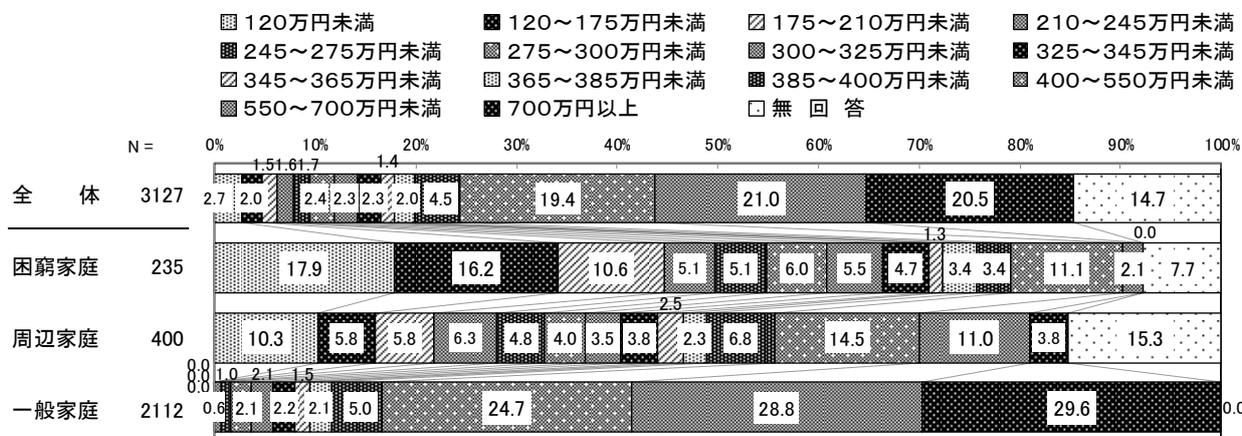
生活困窮度別では、一般家庭と生活困窮家庭を比べると400万円以上で割合の差が開いている。

[世帯所得]

H問12 前年の世帯全体の可処分所得総額[%]

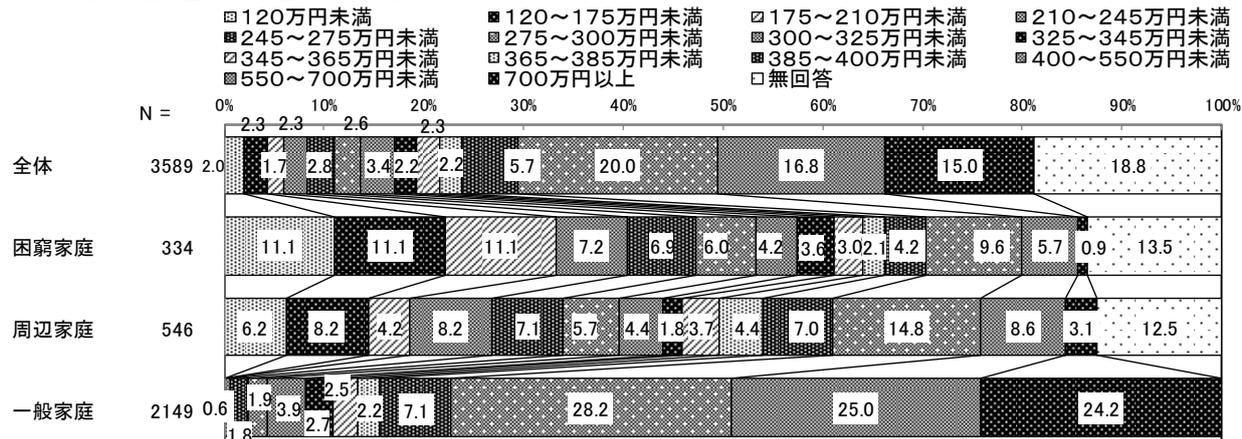


H問12 前年の世帯全体の可処分所得総額[%]



[参考: 前回調査結果]

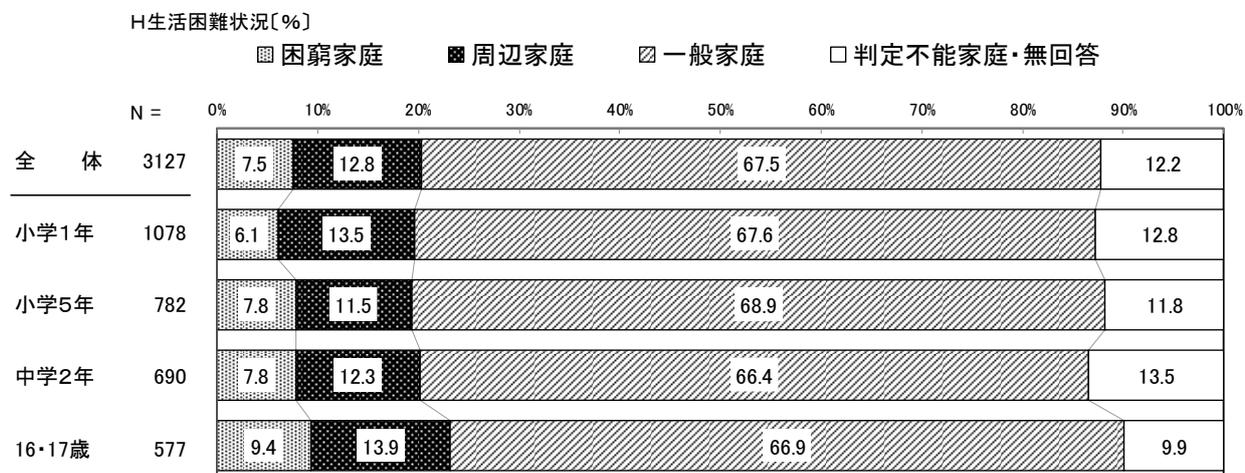
(H 29調査) 世帯全体の可処分所得[%]



[生活困難状況]

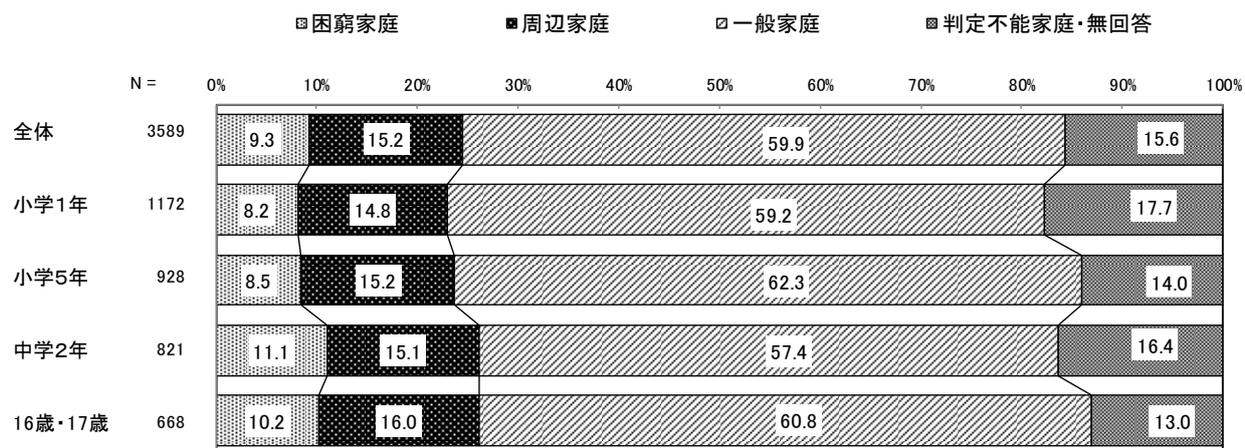
生活困難状況は、「一般家庭」が 67.5%、「周辺家庭」が 12.8%、「困窮家庭」が 7.5%となっている。前回と比べて、「一般家庭」の割合が多くなり、生活困難家庭（「困窮家庭」と「周辺家庭」の計）の割合が少なくなっている。

学年別では、16・17歳で「困窮家庭」が9.4%、「周辺家庭」が13.9%と他の学年よりやや多い。



[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 生活困難状況[%]



[世帯別の現在の暮らしの状況]

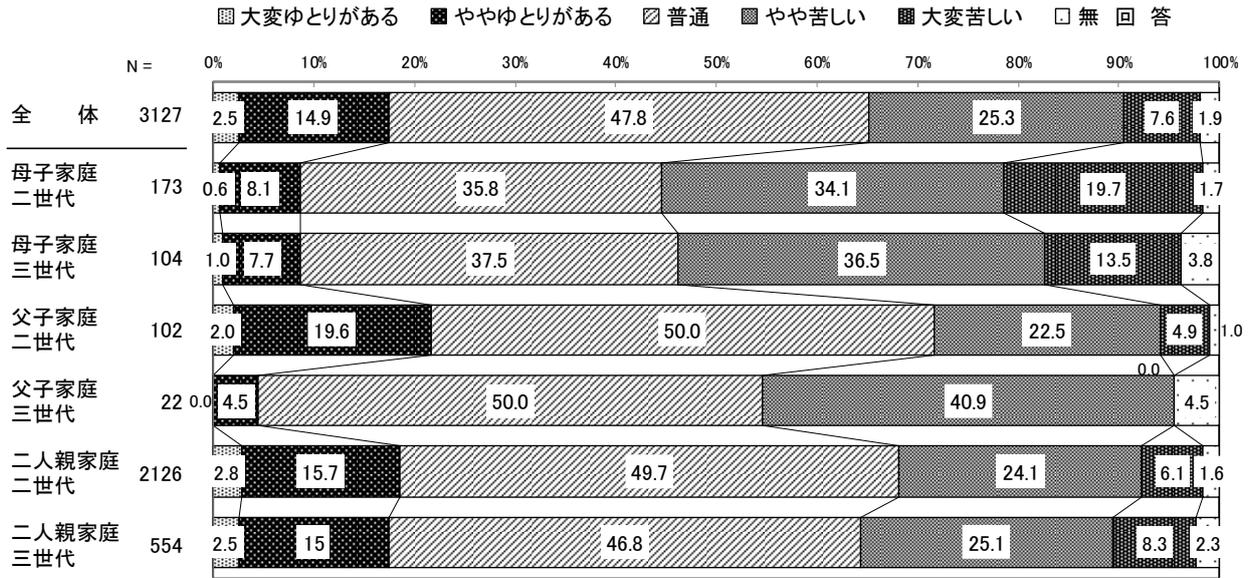
問 22 現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。

世帯別の現在の暮らしの状況をどのように感じるかについては、「大変ゆとりがある」が 2.5%、「ゆとりがある」が 14.9%、「普通」が 47.8%となっており、合わせて 65.2%となっている。他方で、「やや苦しい」が 25.3%、「大変苦しい」が 7.6%となっており、合わせて 32.9%となっている。

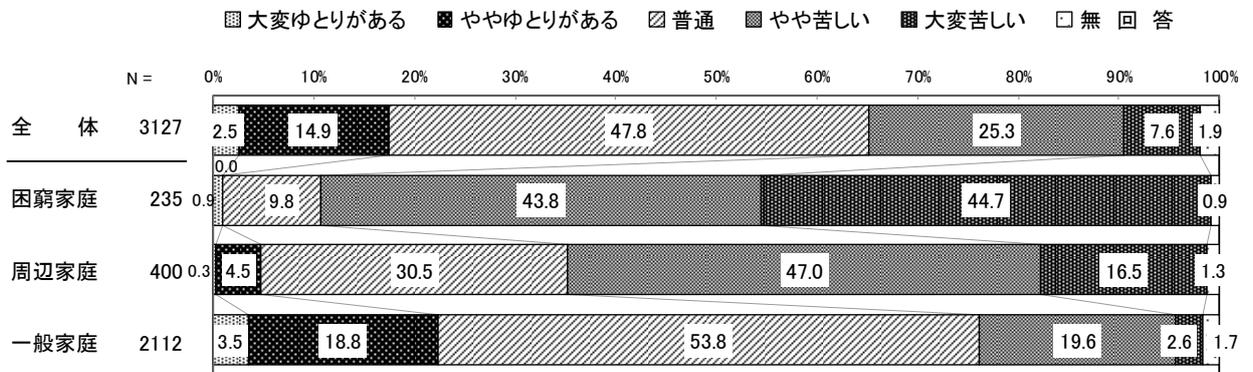
世帯別では、『苦しい』と感じるは、二人親家庭の二世帯世帯で30.2%、三世帯世帯で33.4%である。母子家庭三世帯世帯は『苦しい』と感じるが 50.0%、母子家庭二世帯世帯では 53.8%と他の区分より多い。

生活困窮度別では、『苦しい』（「やや苦しい」と「大変苦しい」の計）と回答したのは、一般家庭で 22.2%だった一方で、周辺家庭で 63.5%、困窮家庭では 88.5%と大きな差が見られ、前回と回答割合に変化は見られなかった。

H問22 現在の暮らしの状況[%]

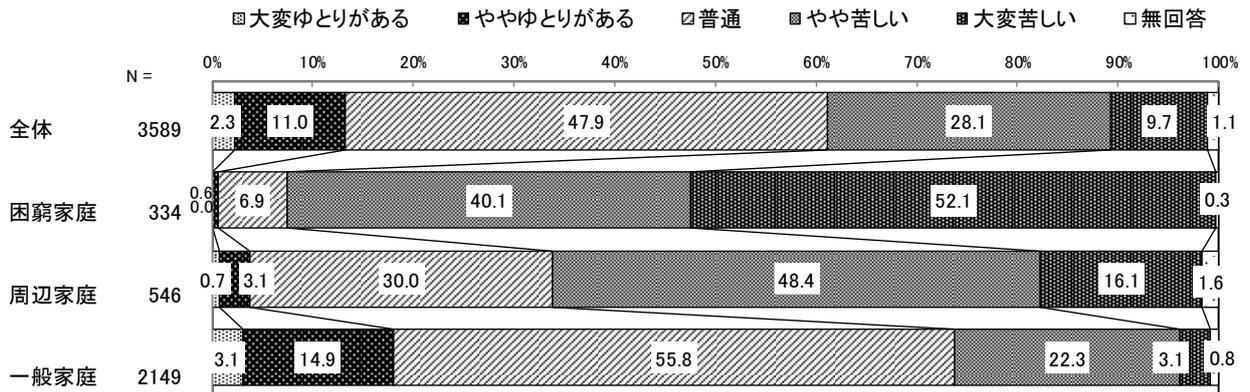


H問22 現在の暮らしの状況[%]



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 現在の暮らしの状況[%]



## 4. 保護者調査結果

### (1) 保護者の就労状況

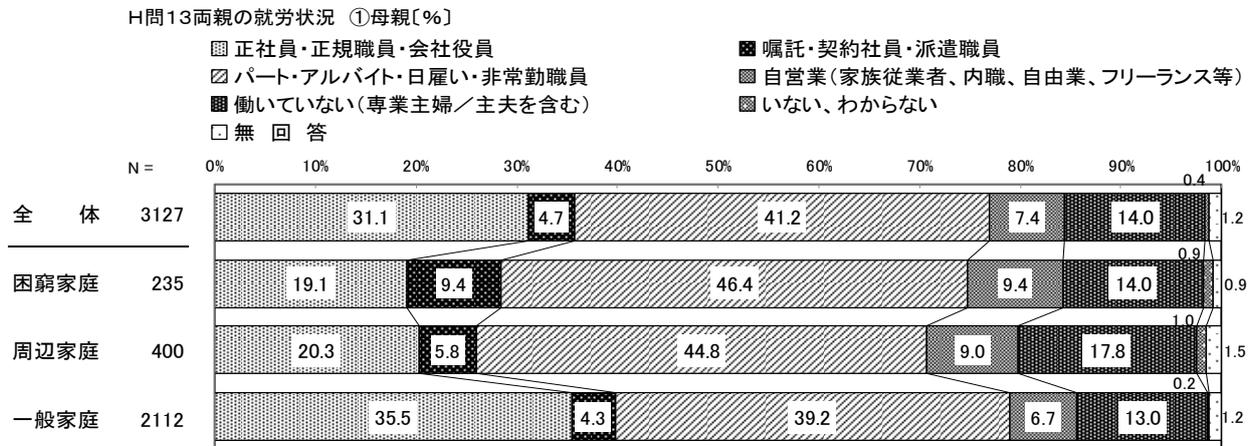
問 13 お子さんのご両親の就労状況について、あてはまるものを回答してください。

[母親の就労状況]

母親の就労状況については、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が 41.2%、次いで「正社員・正規職員・会社役員」が 31.1%、「働いていない(専業主婦/主夫を含む)」が 14.0%となっている。

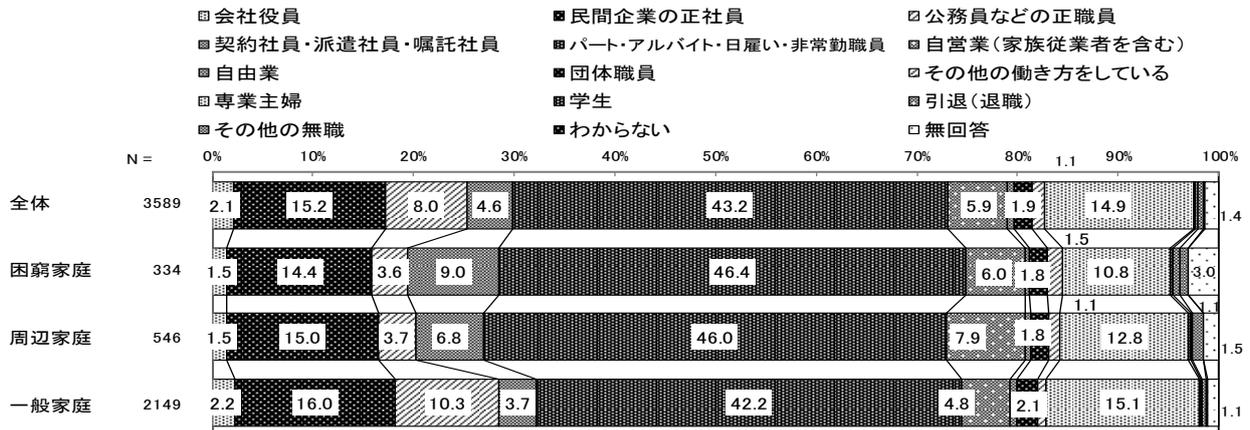
前回と一部選択肢が異なるものの、前回と比べて『正規』(今回「正社員・正規職員・会社役員」、前回「会社役員」、「民間企業の正社員」と「公務員などの正職員」の計)が増えている。

生活困窮度別では、生活困難家庭で「正社員・正規職員・会社役員」が 20%前後と一般家庭と比べて少ない。



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 母親の現在の職業[%]



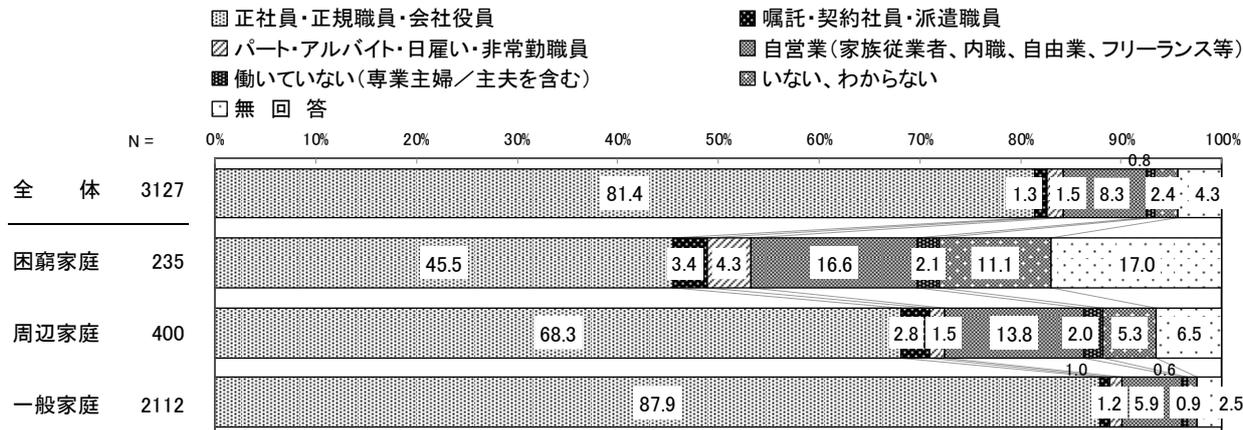
[父親の就労状況]

父親の就労状況については、「正社員・正規職員・会社役員」が 81.4%、次いで「自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランス等)」が 8.3%となっている。

前回と一部選択肢が異なるものの、前回と比べて『正規』(今回「正社員・正規職員・会社役員」、前回「会社役員」、「民間企業の正社員」と「公務員などの正職員」の計)が増えている。

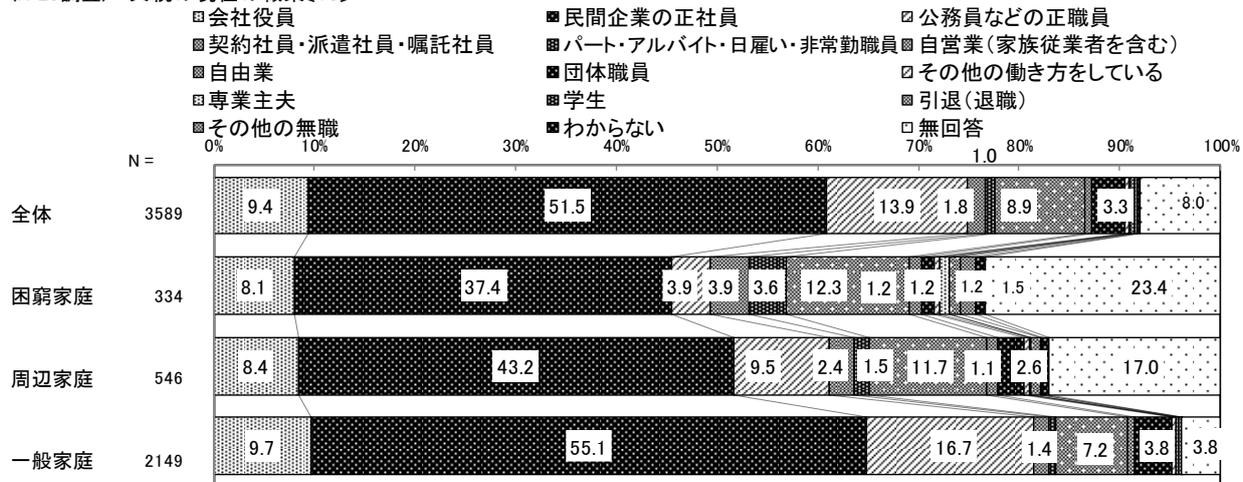
生活困窮度別では、困窮家庭で「正社員・正規職員・会社役員」が 45.5%と他の区分と比べて少なくなっている一方、「自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランス等)」が 16.6%と多くなっている。

H問13両親の就労状況 ②父親[%]



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 父親の現在の職業[%]



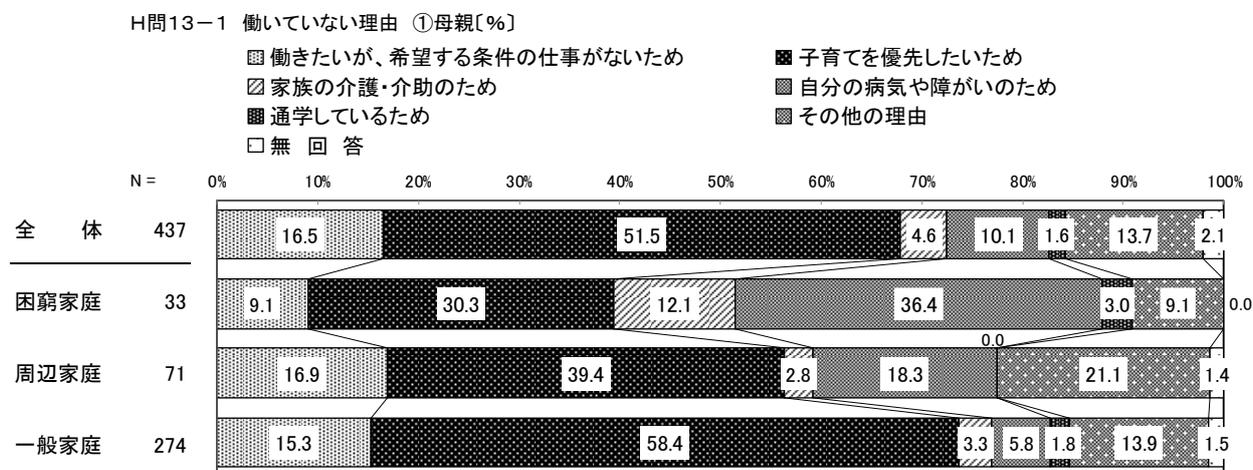
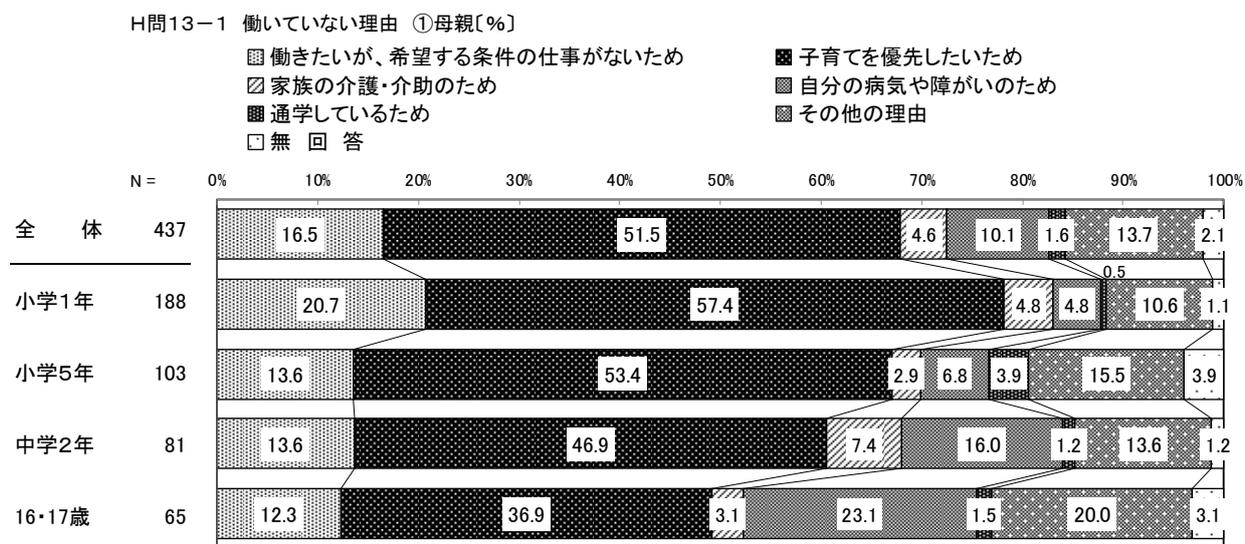
問 13-1 前問で「5 働いていない」と答えた場合、働いていない主な理由を教えてください。

[母親の働いていない理由]

母親の働いていない理由は、「子育てを優先したいため」が 51.5%と最も多く、次いで「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」が 16.5%である。

学年別では、16・17 歳で他の学年に比べて「子育てを優先したいため」が 36.9%と少なく、「自分の病気や障がいのため」が 23.1%と多い。

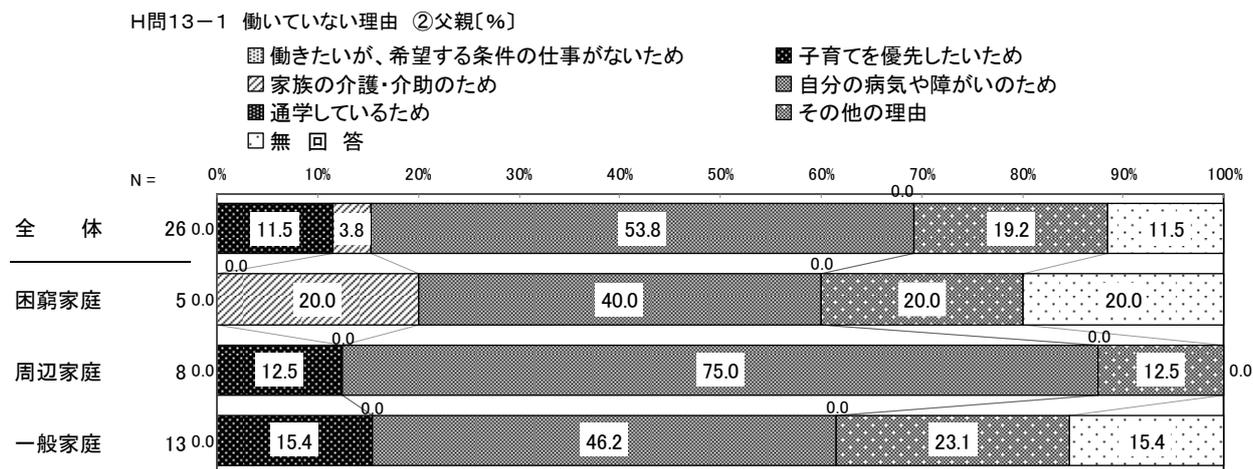
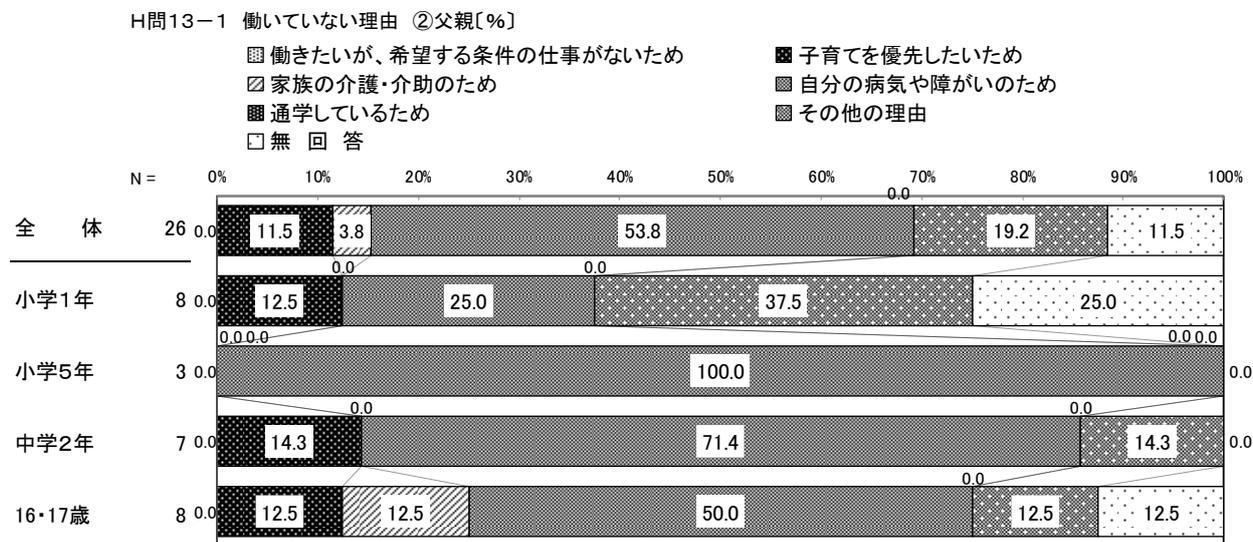
生活困窮度別では、困窮家庭で他の区分に比べて「子育てを優先したいため」が 30.3%と少なく、「自分の病気や障がいのため」が 36.4%と多い。



[父親の働いていない理由]

父親の働いていない理由は、回答数は少ない※が、「自分の病気や障がいのため」が53.8%と最も多い。

生活困窮度別では、回答数は少ない※が、困窮家庭で「家族の介護・介助のため」が20.0%、周辺家庭で「自分の病気や障がいのため」が75.0%となっている。



※父親が働いていない理由に関しては、集計対象件数が少ないため解釈等が難しいが、集計結果を示した

## (2)教育に関すること

問 14 お子さんに、どの段階までの教育を受けさせたいと考えていますか。あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。

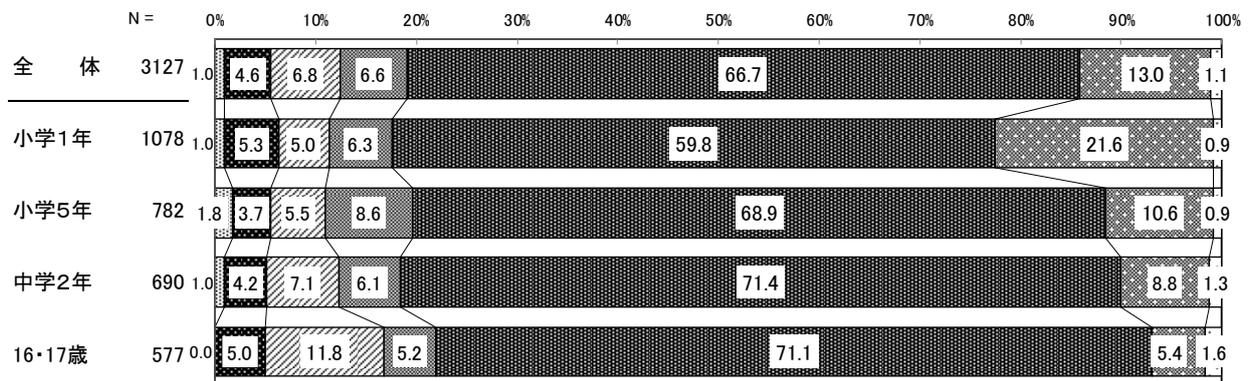
[理想的な教育段階]

理想的な教育段階は、「大学またはそれ以上」が 66.7%と多く、学年別でも、小学5年、中学2年、16・17歳で70%前後となっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で他の区分に比べて「大学またはそれ以上」が 44.7%と少なく、「専門学校」が14.5%、「高校」が11.1%と多く回答されている。

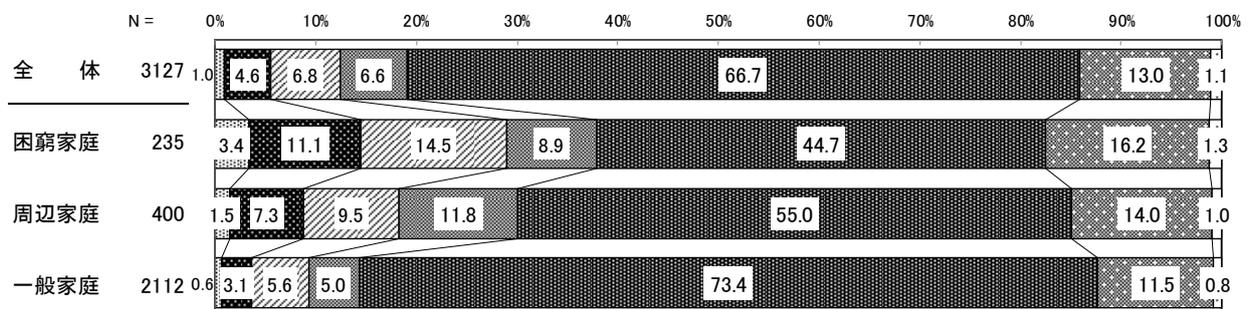
H問14 ①理想的な教育段階[%]

■ 中学 ■ 高校 ■ 専門学校 ■ 短大・高専 ■ 大学またはそれ以上 ■ まだわからない □ 無回答



H問14 ②理想的な教育段階[%]

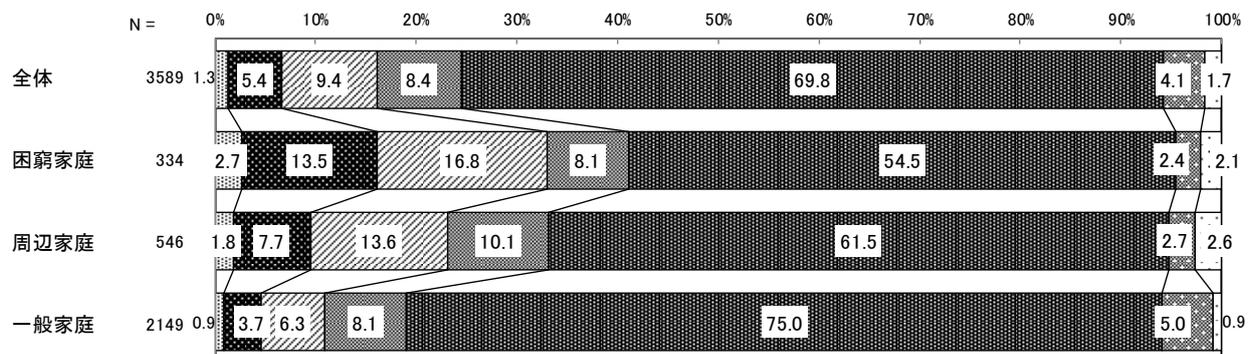
■ 中学 ■ 高校 ■ 専門学校 ■ 短大・高専 ■ 大学またはそれ以上 ■ まだわからない □ 無回答



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) H問15 理想的な教育段階[%]

■ 中学 ■ 高校 ■ 専門学校 ■ 短大・高専 ■ 大学 ■ 大学院 □ 無回答

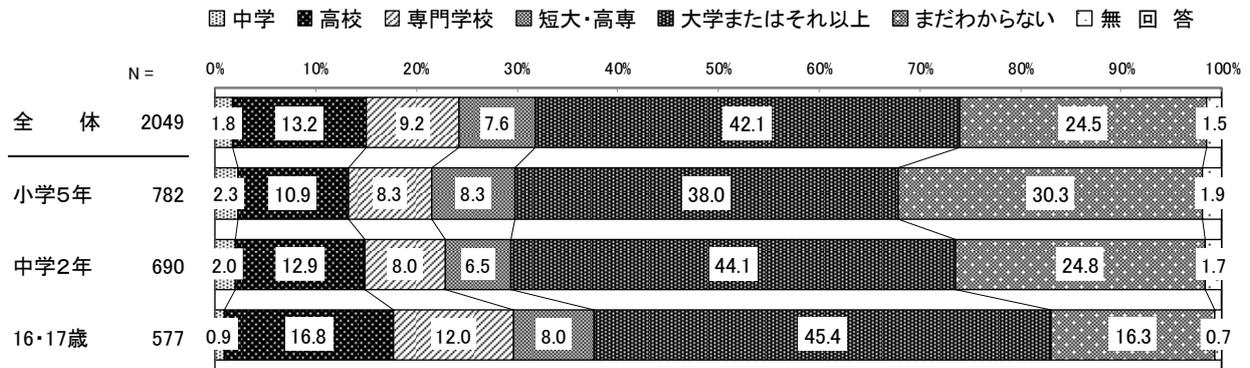


[現実的な教育段階]

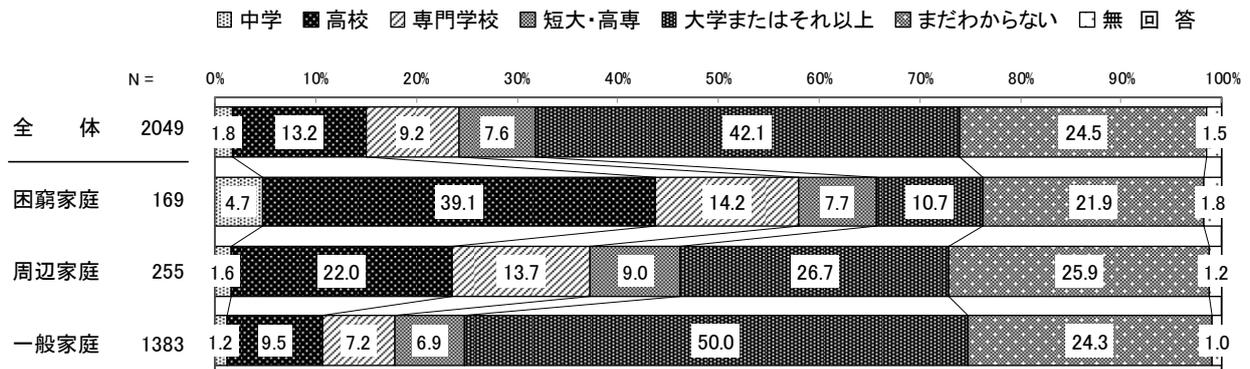
現実的な教育段階(小学1年以外)は、「大学またはそれ以上」が 42.1%と多く、学年別でも 30%台後半～40%台となっている。

生活困窮度別では、一般家庭で「大学またはそれ以上」が 50.0%となっている一方、困窮家庭で 10.7%と少なく、「高校」が 39.1%と多く回答されている。前回と一部選択肢が異なるものの、この傾向は、前回同様となっている。

H問14 ②現実的な教育段階[%]

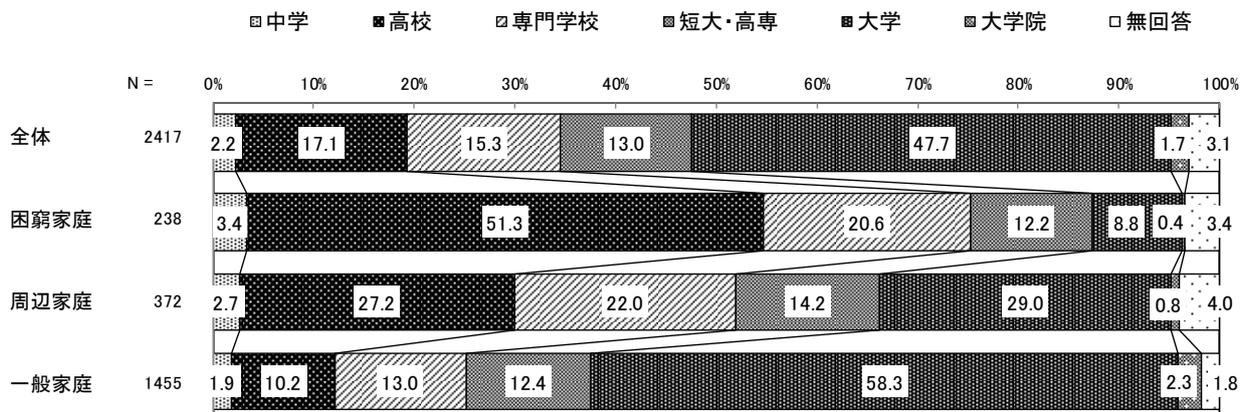


H問14 ②現実的な教育段階[%]



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) H問15 現実的な教育段階[%]

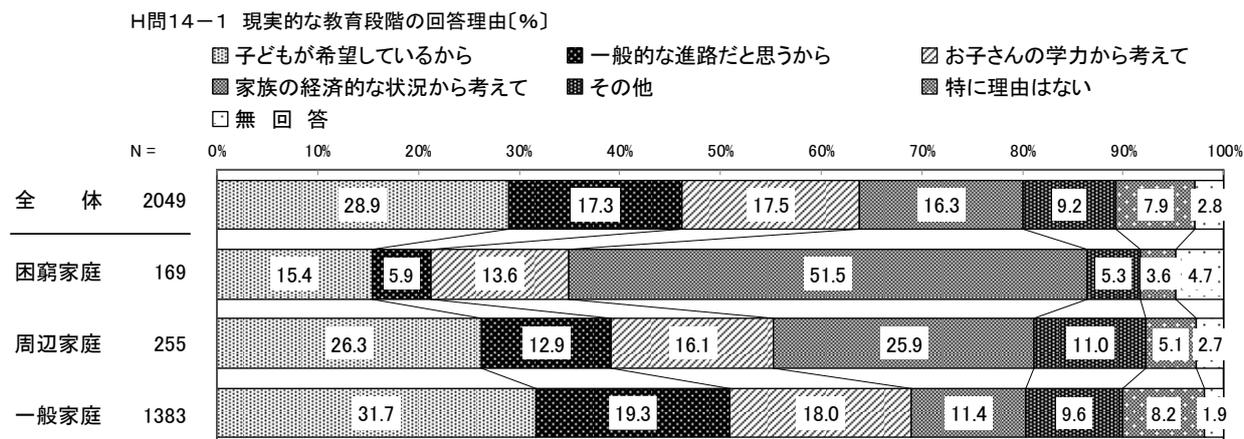
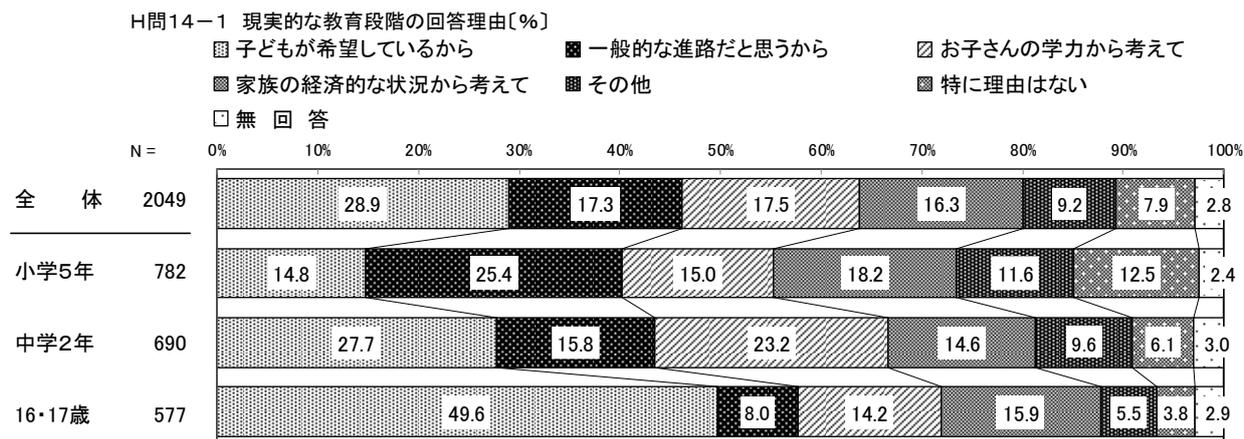


問 14-1 前問の②現実的な教育段階で、そのように答えた理由を選んでください。(小学1年以外)

現実的な教育段階について保護者がそう考える理由は、「子どもが希望しているから」が 28.9%と最も多く、学年別では、学年が上がるにつれ、その割合が高くなり、16・17 歳で 49.6%とほぼ半数が回答している。

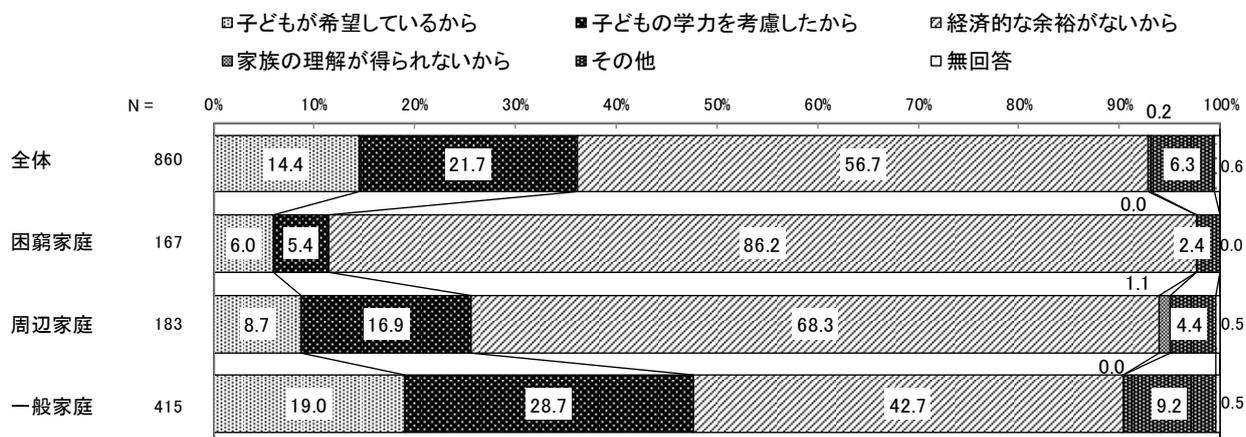
生活困窮度別では、困窮家庭では、「子どもが希望しているから」は 15.4%となっており、最も主な理由として回答されたのは「家族の経済的な状況から考えて」の 51.5%となっている。前回とは、一部選択肢が異なるものの、前回と比べて「子どもが希望しているから」と回答した割合が多くなり、「経済的な理由」を回答した割合は少なくなっている。

[現実的な段階の理由 (小学1年の保護者以外)]



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) H問15-1受けさせたい教育の理想と現実に違いがある理由[%]

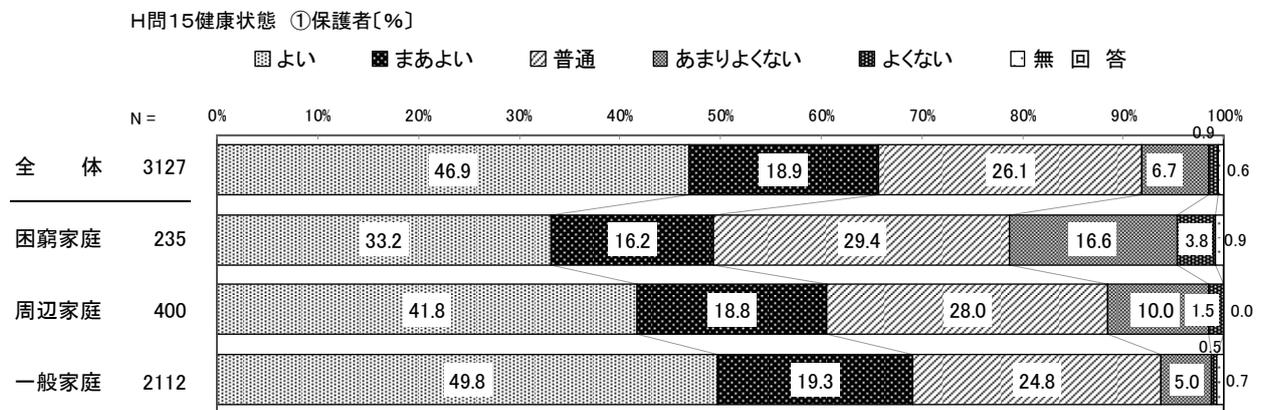


### (3)保護者と子どもの健康状態など

#### 問 15 あなたの健康状態についてお伺いします。

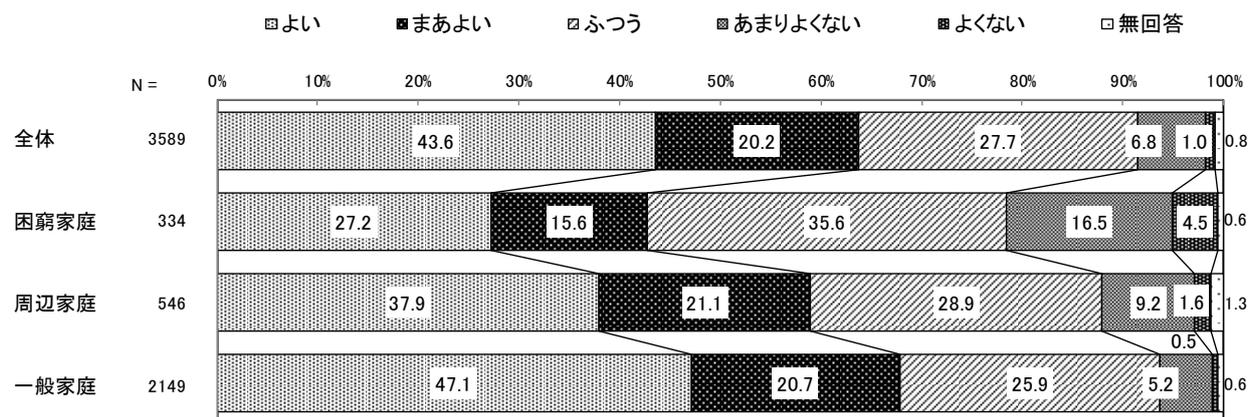
##### [保護者自身の健康状態]

保護者自身の健康状態は、「よい」が46.9%と多く、「まあよい」と「普通」を合わせると90%を超えるが、生活困窮度別では、困窮家庭は「よい」が33.2%と少なく、「まあよい」と「普通」を合わせると78.8%である。



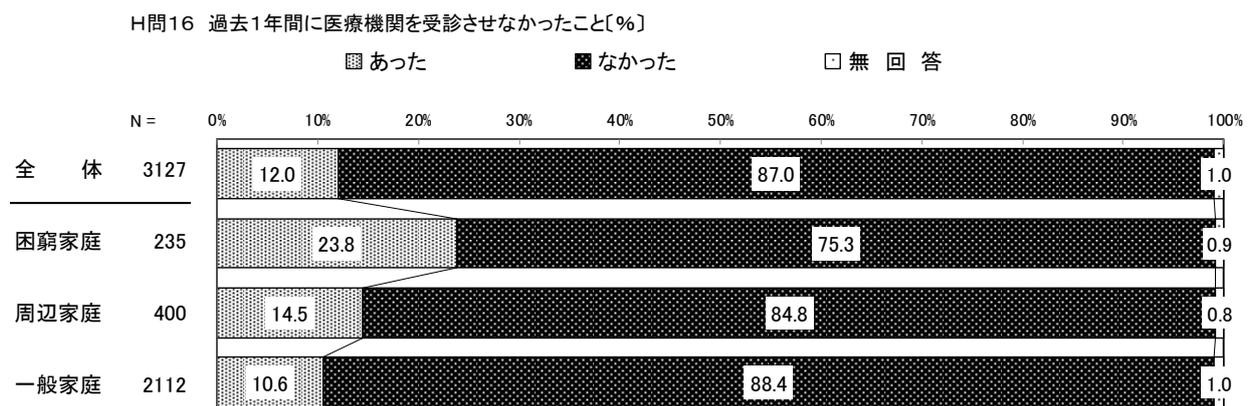
##### [参考: 前回調査結果]

##### (H 29調査) H問16 健康状態(保護者)[%]



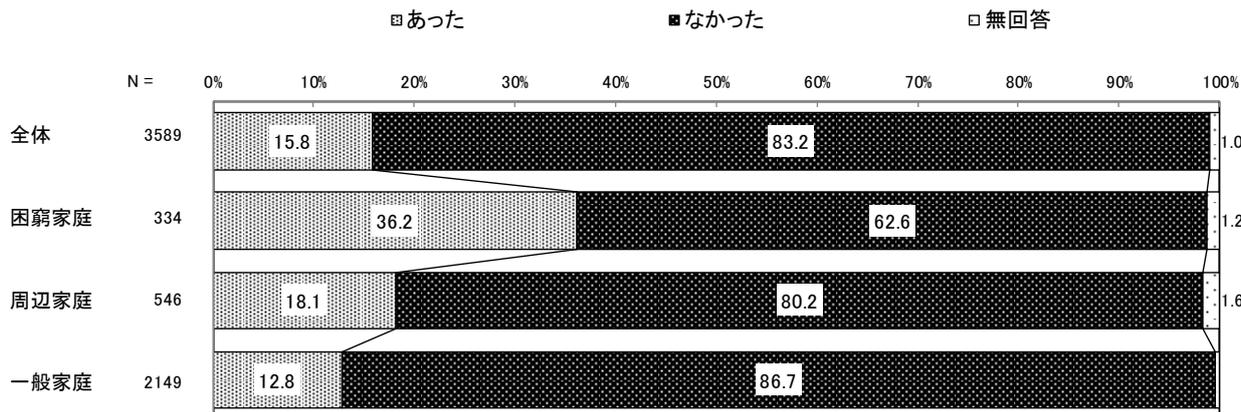
#### 問 16 過去1年間に、お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありますか。

全体で12.0%の保護者が、過去1年間に、子どもを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことが「あった」と回答しており、生活困窮度別では、困窮家庭で23.8%回答されている。前回と比べて、受診させなかったことが「あった」の回答割合は少なくなっている。



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 過去1年間に医療機関で受診させなかったこと[%]

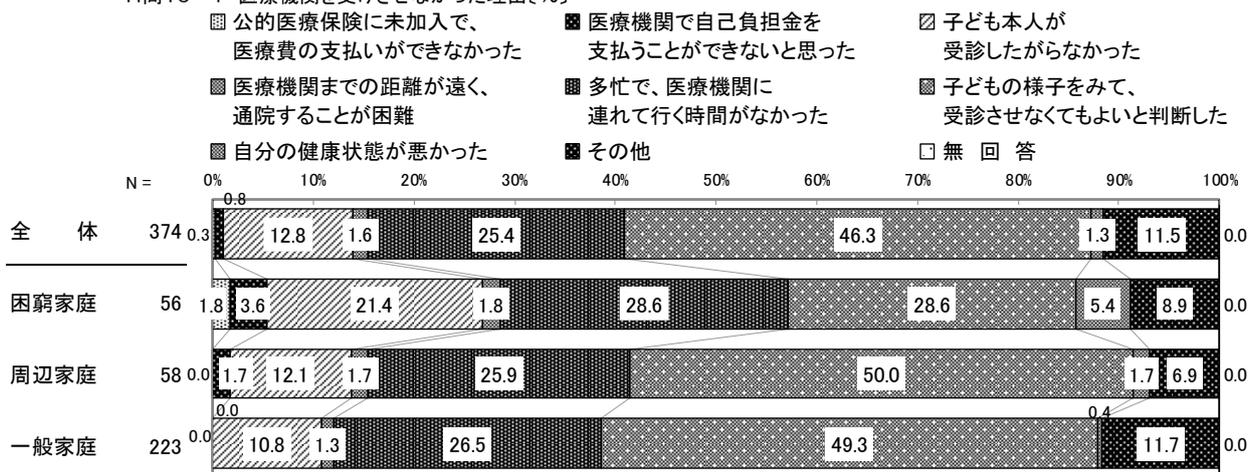


問 16-1 「1 あった」と回答した方にお伺いします。その理由は、何ですか。

受診させなかった理由は、「子どもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断した」が 46.3%と最も多く回答されている。

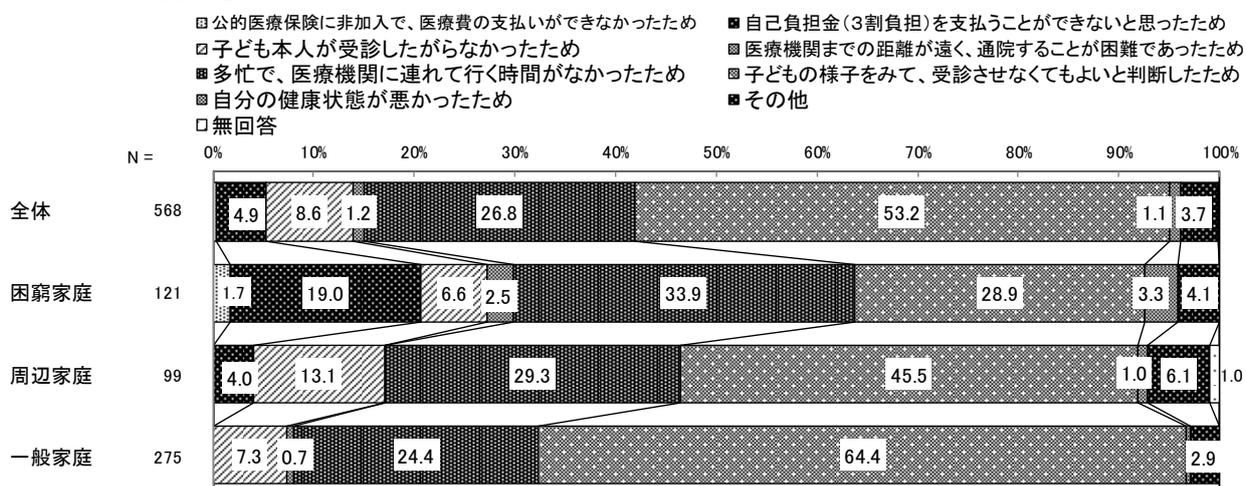
生活困窮度別では、困窮家庭について「自己負担金(3割負担)を支払うことができないと思ったため」が前回では 19.0%回答されていたが、今回調査では 3.6%と少なくなっている。

H問 16-1 医療機関を受けさせなかった理由[%]



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 医療機関を受けさせなかった理由[%]

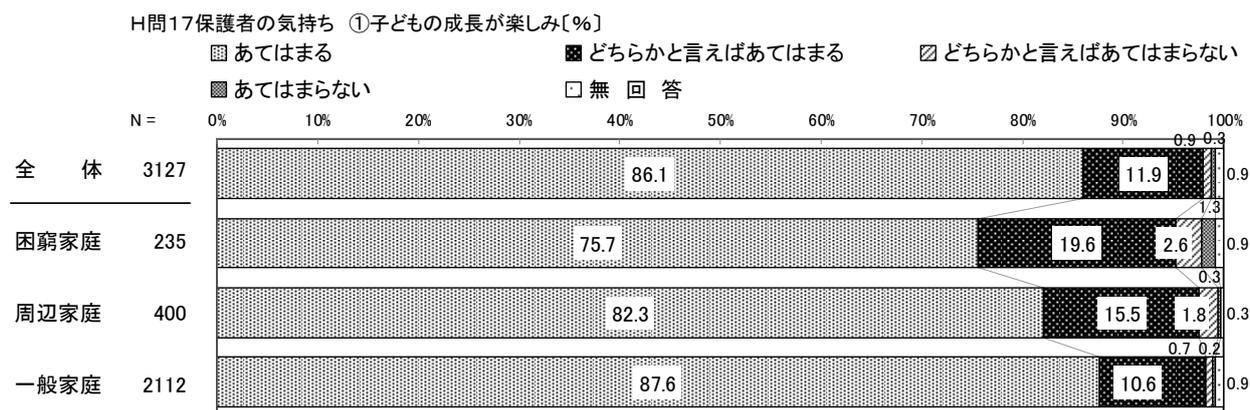
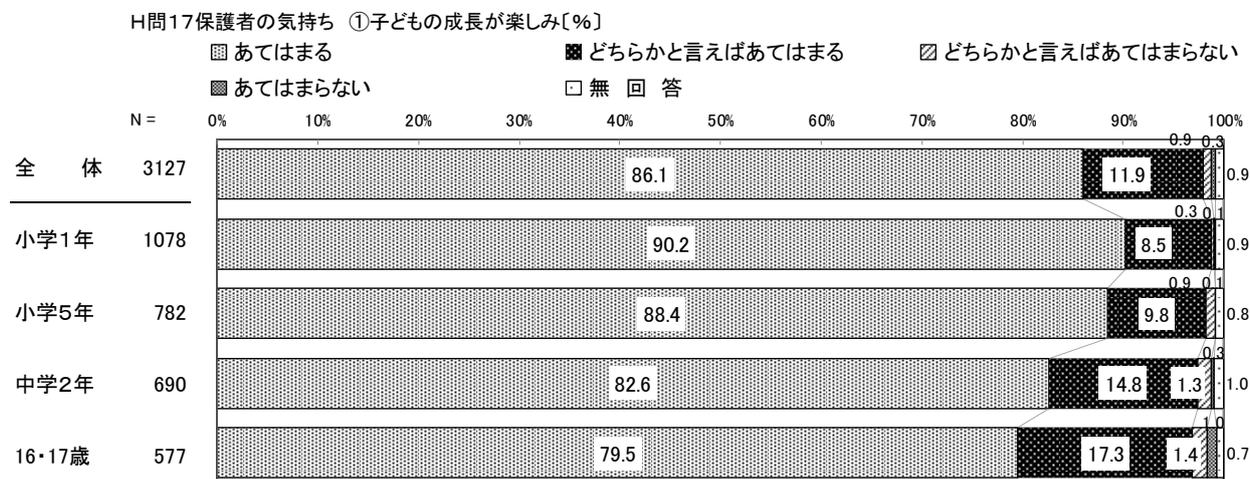


問 17 次の質問について、あなたの気持ちをお聞かせください。

[子どもの成長が楽しみだ]

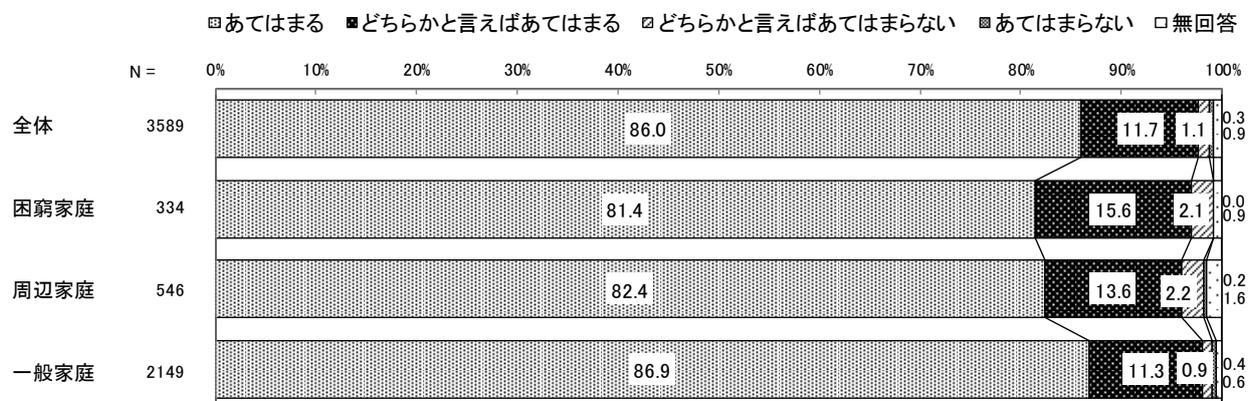
子どもの成長が楽しみという気持ちが『あてはまる』(「あてはまる」と「どちらかと言えばあてはまる」の計)という回答は98.0%と大半を占めており、前回の97.7%とほぼ同程度である。

「あてはまる」だけでみると、生活困窮度別では、一般家庭は87.6%であったが、困窮家庭は75.7%と少なく、前回の81.4%と比べても少なくなっている。



[参考: 前回調査結果]

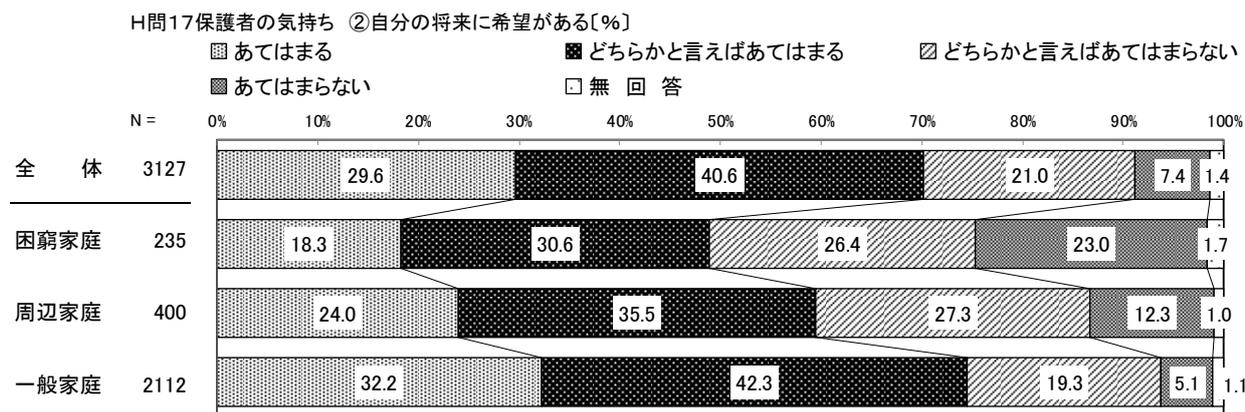
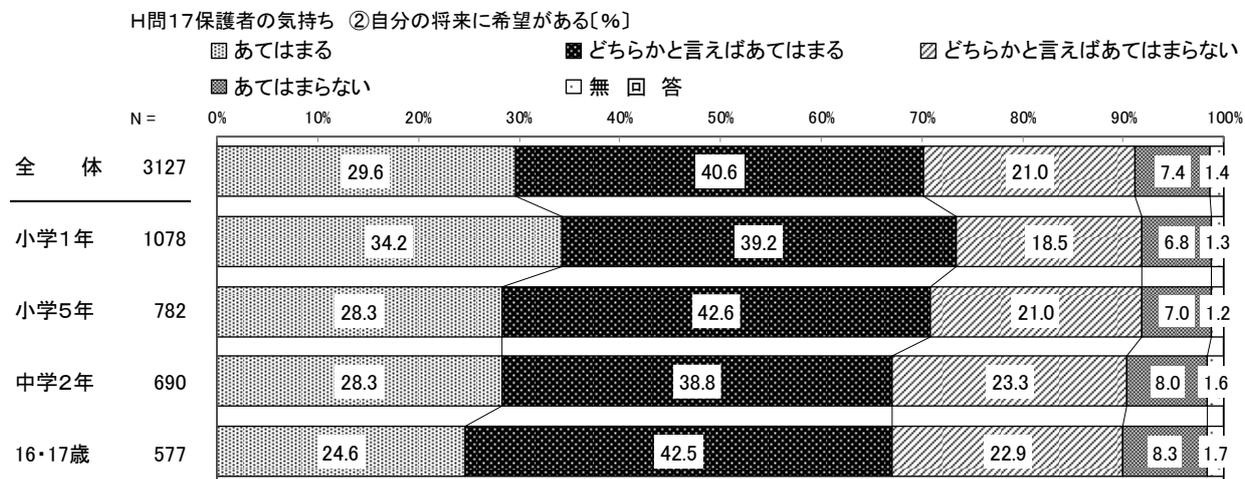
(H 29調査) H問19 子どもの成長が楽しみ[%]



[自分の将来に希望を持っている]

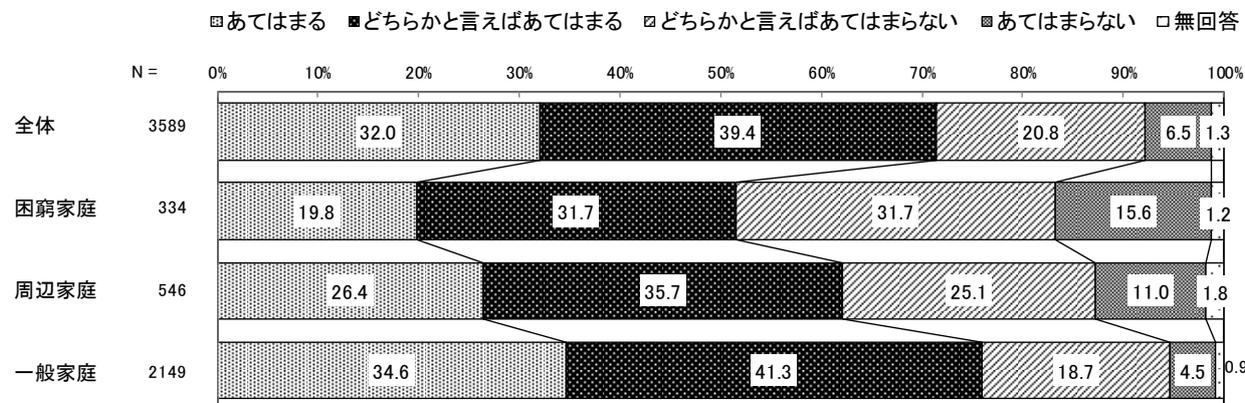
自分の将来に希望を持っているという気持ちが『あてはまる』(「あてはまる」と「どちらかと言えばあてはまる」の計)という回答は 70.2%、『あてはまらない』(「どちらかと言えばあてはまらない」と「あてはまらない」の計)は 28.4%となっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で『あてはまる』が 48.9%と、『あてはまらない』の 49.4%と同程度になっており、前回の『あてはまる』51.5%、『あてはまらない』47.3%と同じ傾向となっている。



[参考: 前回調査結果]

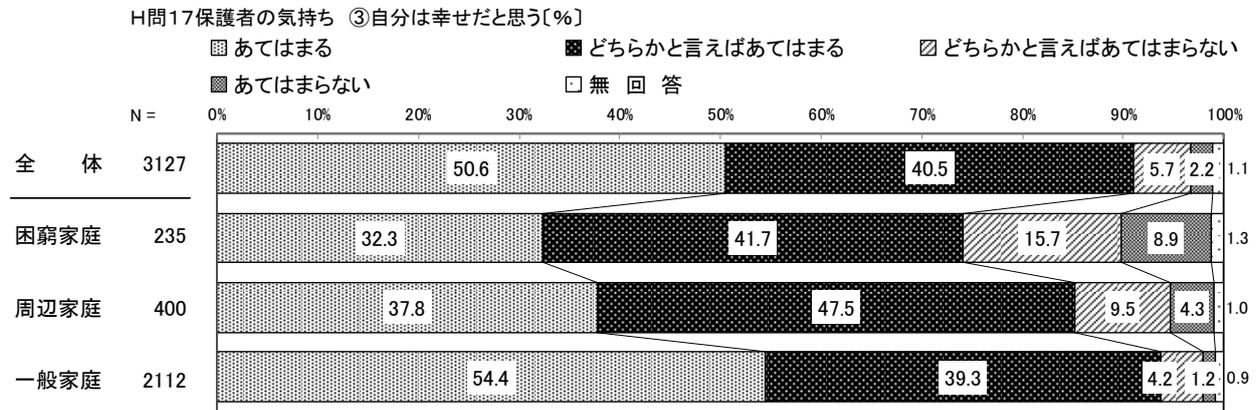
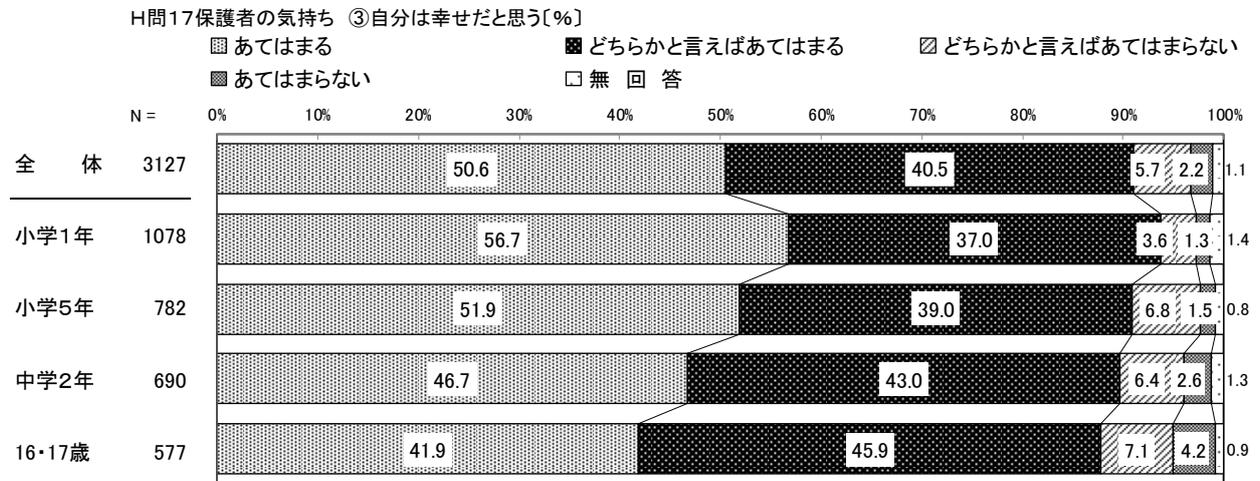
(H 29調査) H問19 自分の将来に希望を持っている[%]



[自分は幸せだと思う]

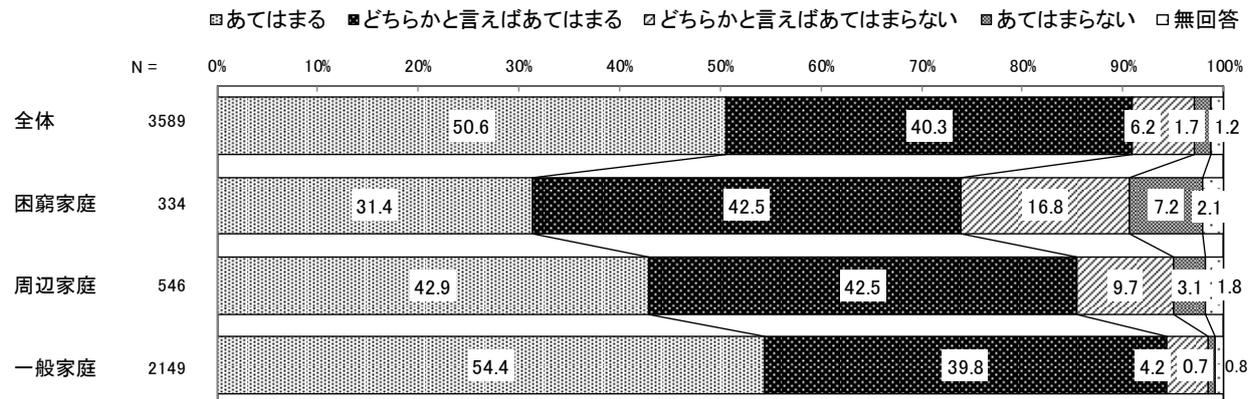
自分は幸せだと思う気持ちが『あてはまる』(「あてはまる」と「どちらかと言えばあてはまる」の計)という回答は91.1%となっており、前回の90.9%と同程度となっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で『あてはまる』は74.0%と少なく、前回の73.9%と同程度となっている。



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) H問19 自分は幸せだと思う[%]



問 18 子育てをする上で、あなたが大変だと感じていること、悩んでいることを選んでください。

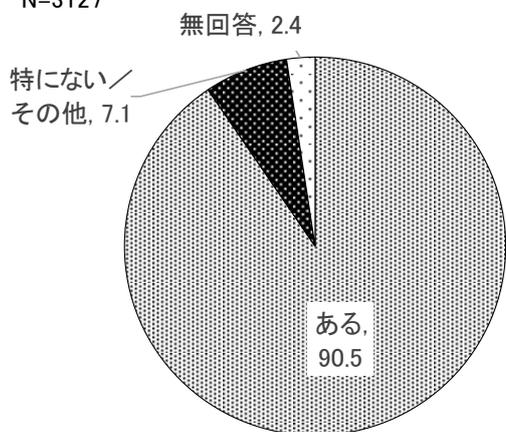
子育てで大変だと感じること・悩みについては、「将来の進学のための学費の貯金等」が 48.0%と最も多く、「子どもの健康管理・食生活」、「学習習慣の定着・学力の向上」、「教育費の確保」、「子どもの受験・進学」がそれぞれ 40%前後と多い。

学年別では、子どもの学年によって異なり、小学1年の保護者は「子どもの健康管理・食生活」、「仕事と子育ての両立」や「子どものしつけが難しいこと」、小学5年の保護者は「学習習慣の定着・学力の向上」「子どもの健康管理・食生活」が 40%台と多い。中学2年と 16・17 歳で「子どもの受験・進学」が 50%前後と多く、16・17 歳は「子どもの将来の就職」も 42.8%と多い。前回と比べて、小学1年の保護者では「仕事と子育ての両立」が多くなっている。小学5年、中学2年、16・17 歳は「子どもの健康管理・食生活」が前回よりも多く回答されている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「将来の進学のための学費の貯金等」が 79.6%と多く、次いで「生活費の確保」、「教育費の確保」が 70%を超えて特に多く、前回と同じ傾向となっている。

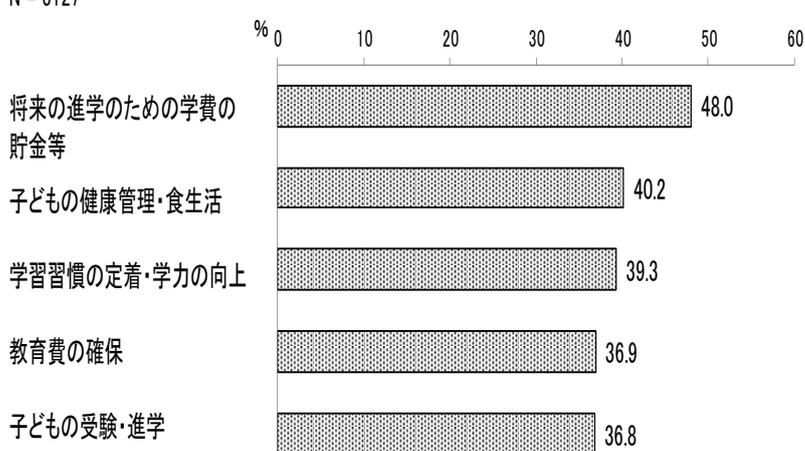
H問18子育てで大変だと思うこと[%]

N=3127



N = 3127

H問18 子育てで大変と感じること・悩み(上位5項目)[%・複数回答]



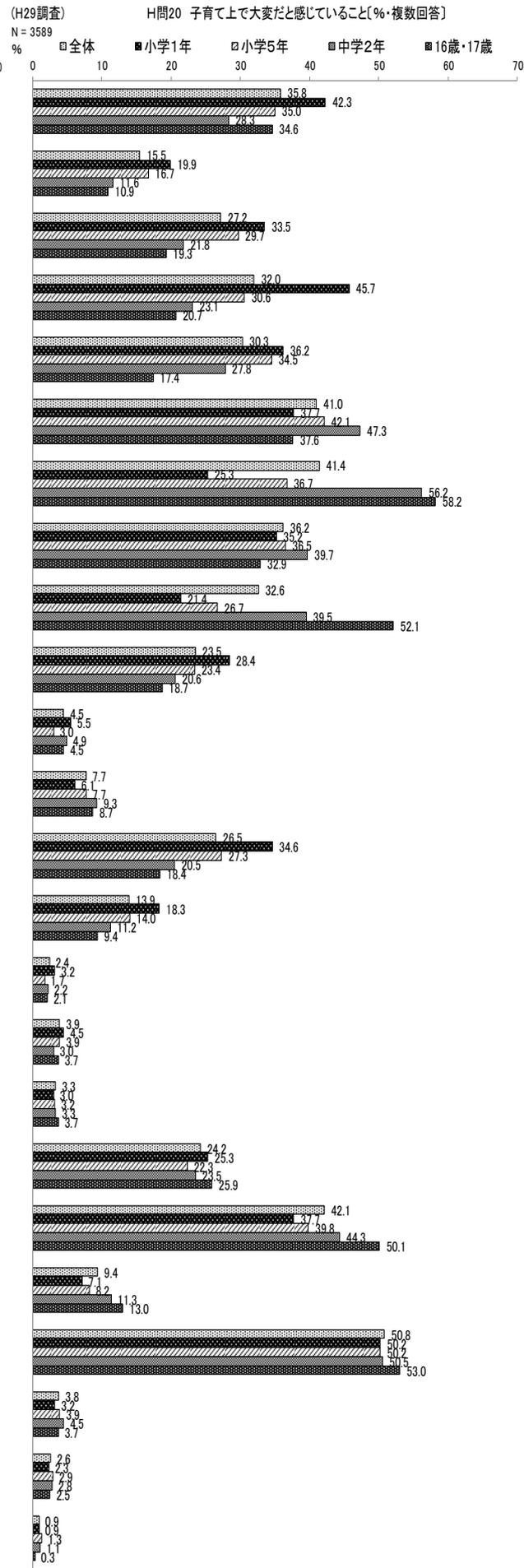
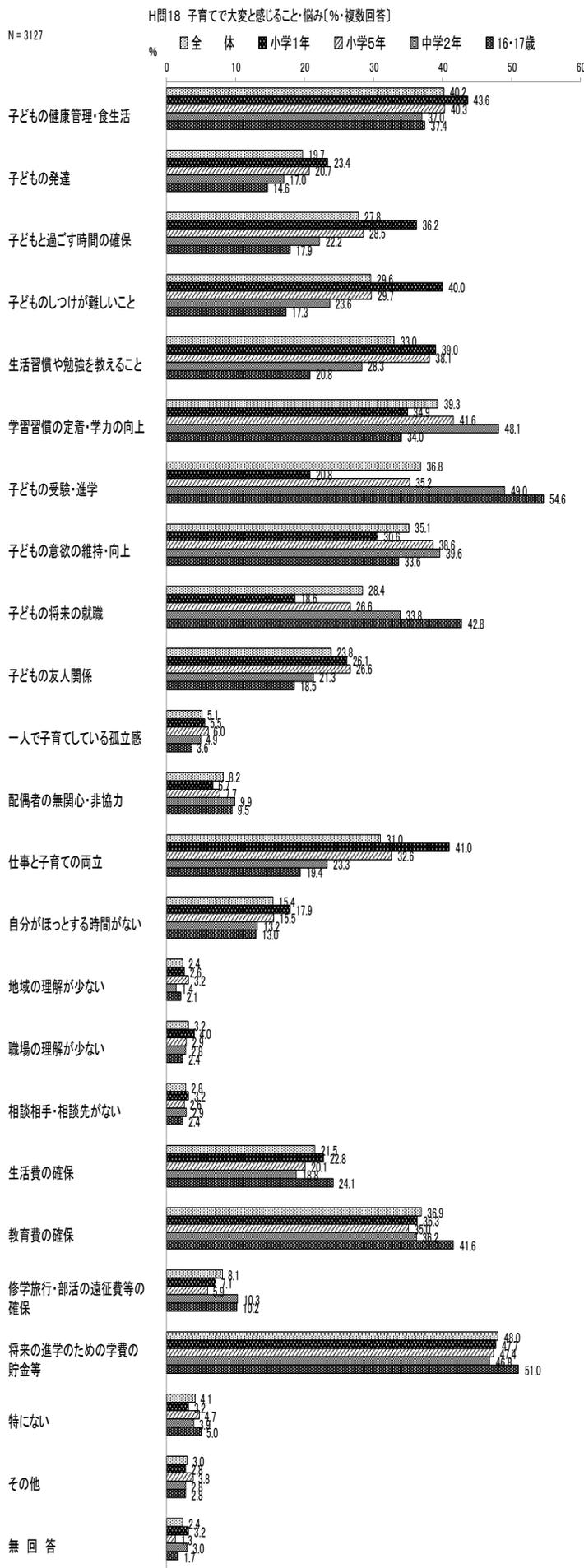
子育てで大変と感じること(上位5位)

	1位	2位	3位	4位	5位
全体	将来の進学のための学費の貯金等 (48.0%)	子どもの健康管理・食生活 (40.2%)	学習習慣の定着・学力の向上 (39.3%)	教育費の確保 (36.9%)	子どもの受験・進学 (36.8%)
小学1年	将来の進学のための学費の貯金等 (47.7%)	子どもの健康管理・食生活 (43.6%)	仕事と子育ての両立 (41.0%)	子どものしつけが難しいこと (40.0%)	生活習慣や勉強を教えること (39.0%)
小学5年	将来の進学のための学費の貯金等 (47.4%)	学習習慣の定着・学力の向上 (41.6%)	子どもの健康管理・食生活 (40.3%)	子どもの意欲の維持・向上 (38.6%)	生活習慣や勉強を教えること (38.1%)
中学2年	子どもの受験・進学 (49.0%)	学習習慣の定着・学力の向上 (48.1%)	将来の進学のための学費の貯金等 (46.8%)	子どもの意欲の維持・向上 (39.6%)	子どもの健康管理・食生活 (37.0%)
16・17歳	子どもの受験・進学 (54.6%)	将来の進学のための学費の貯金等 (51.0%)	子どもの将来の就職 (42.8%)	教育費の確保 (41.6%)	子どもの健康管理・食生活 (37.4%)

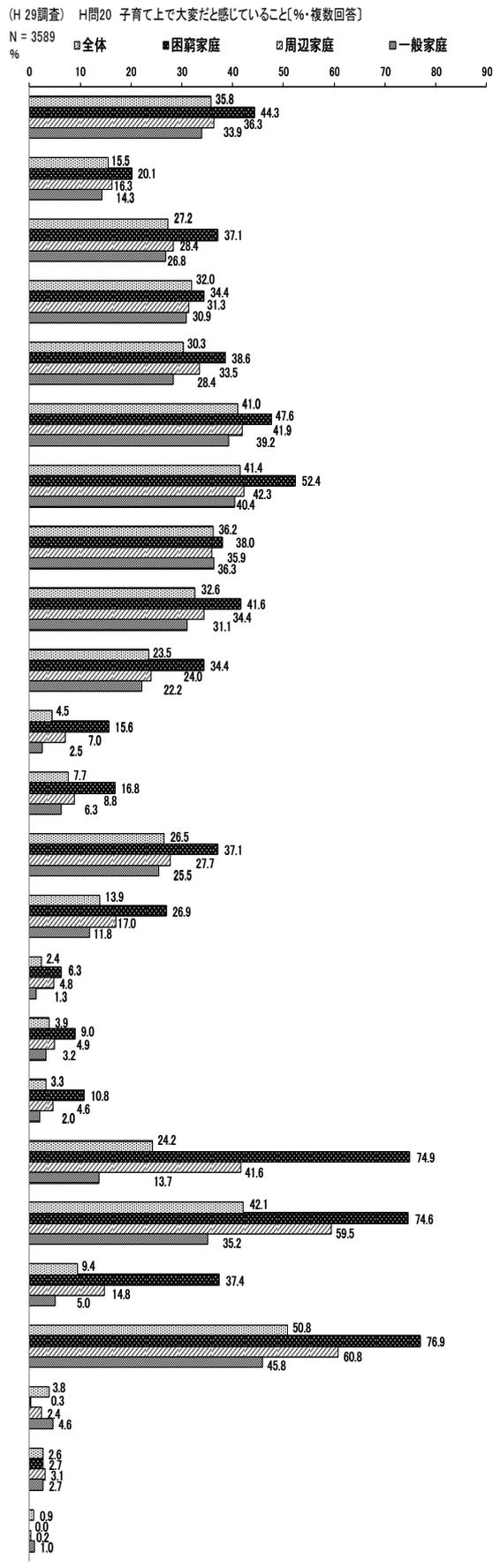
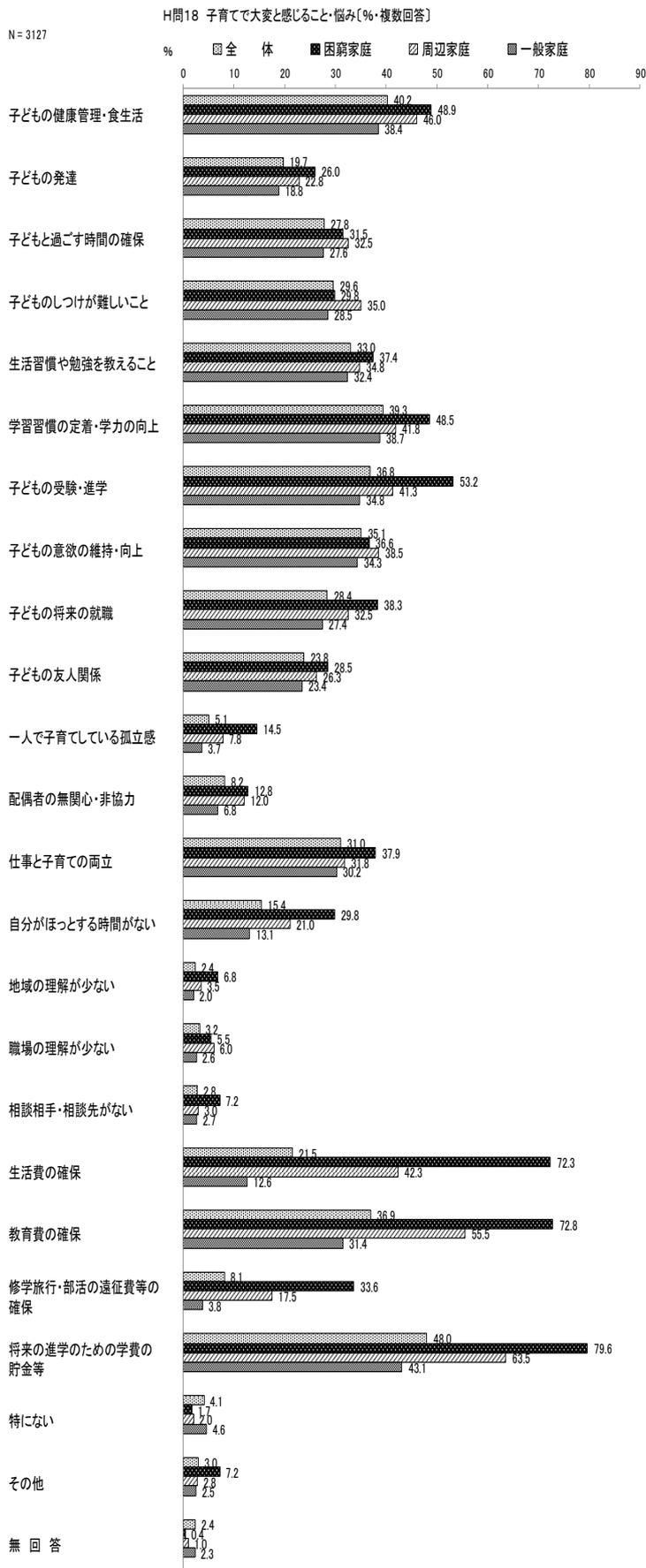
[参考: 前回調査結果]

	1位	2位	3位	4位	5位
全体	将来の進学のための学費の貯金等 (50.8%)	教育費の確保 (42.1%)	子どもの受験・進学 (41.4%)	学習習慣の定着・学力の向上 (41.0%)	子どもの意欲の維持・向上 (36.2%)
小学1年	将来の進学のための学費の貯金等 (50.2%)	子どものしつけが難しいこと (45.7%)	子どもの健康管理・食生活 (42.3%)	教育費の確保 (37.7%)	学習習慣の定着・学力の向上 (37.7%)
小学5年	将来の進学のための学費の貯金等 (50.2%)	学習習慣の定着・学力の向上 (42.1%)	教育費の確保 (39.8%)	子どもの受験・進学 (36.7%)	子どもの意欲の維持・向上 (36.5%)
中学2年	子どもの受験・進学 (56.2%)	将来の進学のための学費の貯金等 (50.5%)	学習習慣の定着・学力の向上 (47.3%)	教育費の確保 (44.3%)	子どもの意欲の維持・向上 (39.7%)
16・17歳	子どもの受験・進学 (58.2%)	将来の進学のための学費の貯金等 (53.0%)	子どもの将来の就職 (52.1%)	教育費の確保 (50.1%)	学習習慣の定着・学力の向上 (37.6%)

[参考: 前回調査結果]



[参考: 前回調査結果]



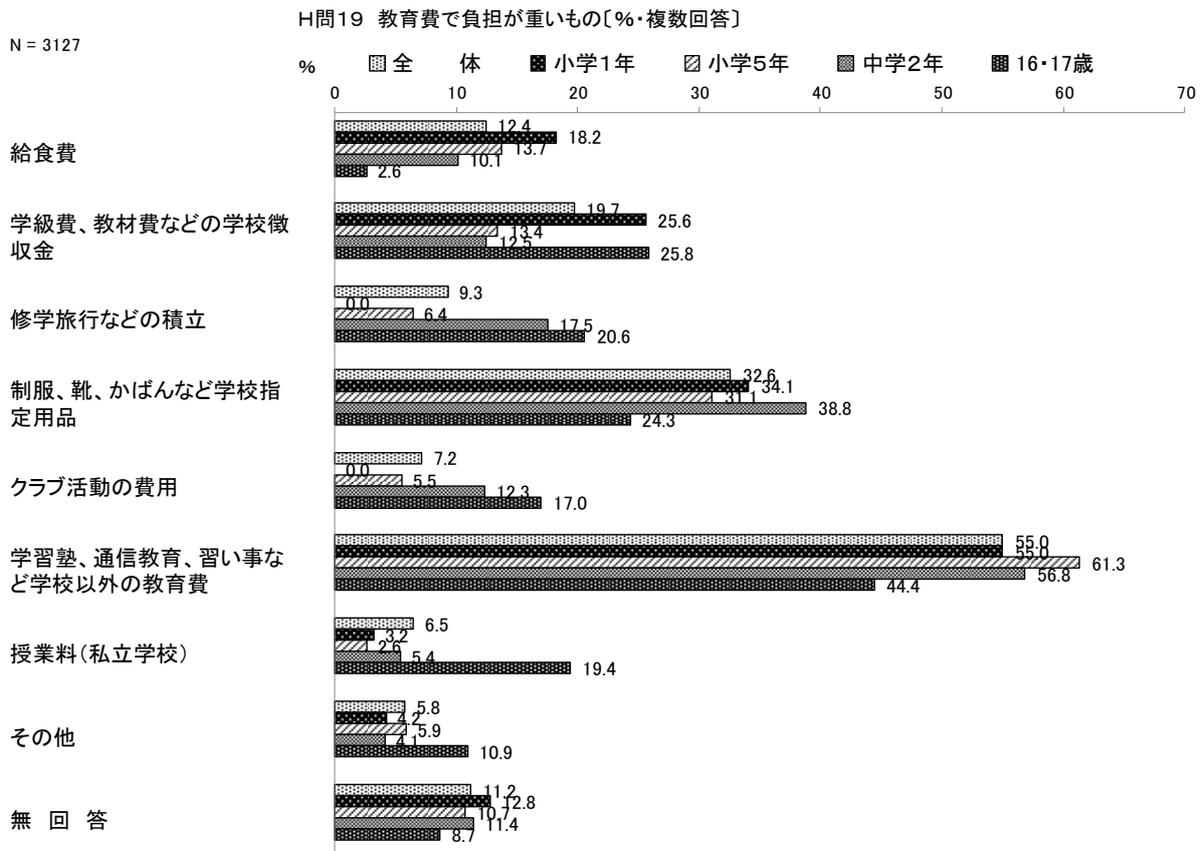
## (4)子育てにかかる費用

### 問 19 お子さんの教育費のうち負担が重いものは何ですか。

教育費で負担が重いものについては、「学習塾、通信教育、習い事など学校以外の教育費」が 55.0%と最も多く回答されている。

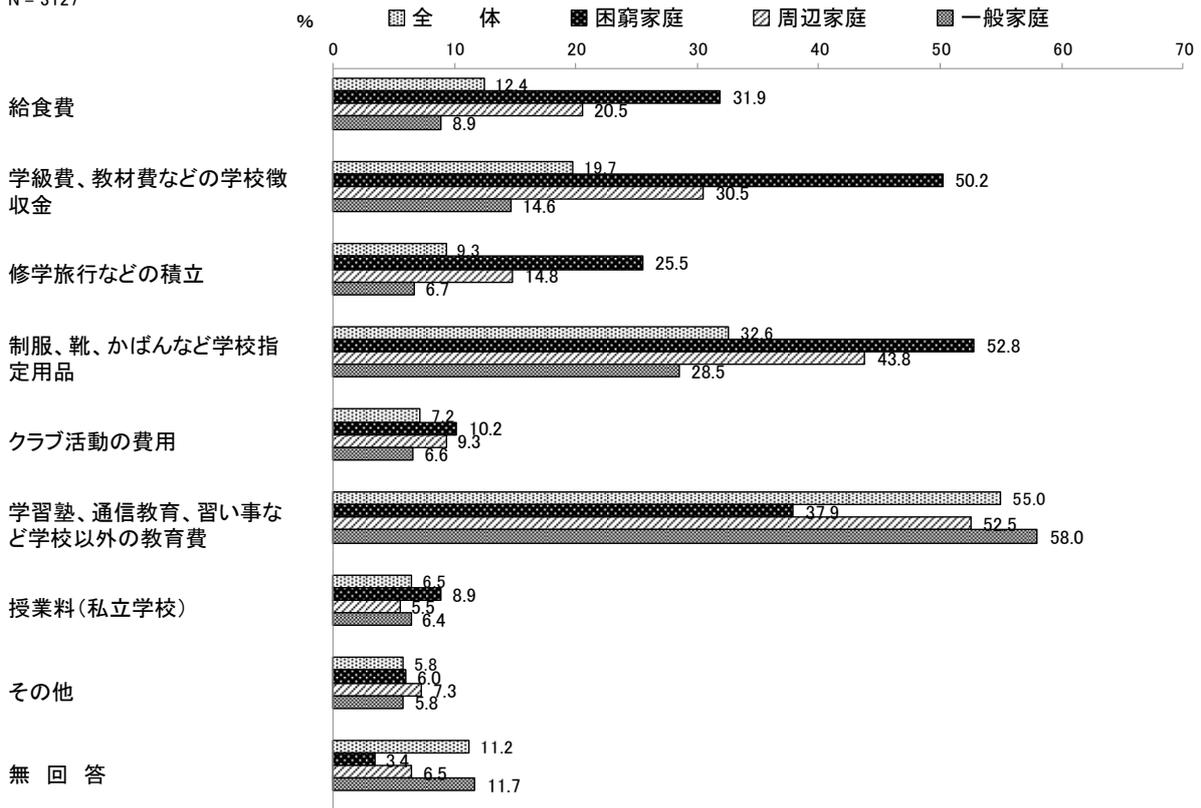
学年別では、16・17 歳で「学習塾、通信教育、習い事など学校以外の教育費」が 44.4%と他の学年と比べて少なく、「クラブ活動の費用」、「授業料(私立学校)」、「学級費、教材費などの学校徴収金」が多くなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「学習塾、通信教育、習い事など学校以外の教育費」が 37.9%と他の区分に比べて少なく、「制服、靴、かばんなど学校指定用品」と「学級費、教材費などの学校徴収金」が 50%台と多くなっており、前回と同じ傾向となっている。



N = 3127

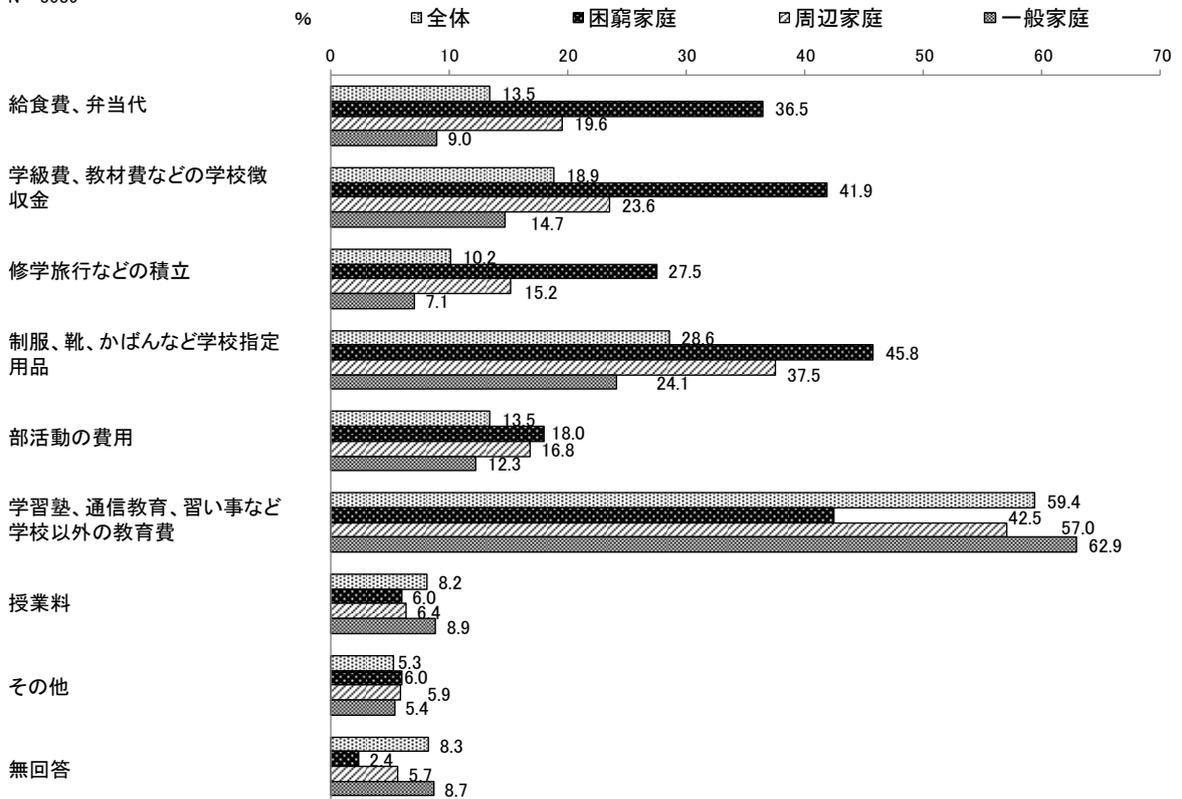
H問19 教育費で負担が重いもの[%・複数回答]



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査)  
N = 3589

H問22 子どもの教育費のうち負担が重いもの[%・複数回答]



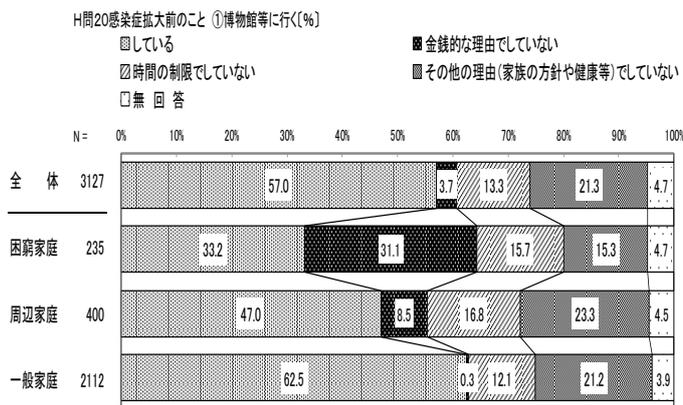
## (5)子どもとのかかわり

問 20 新型コロナウイルス感染症が拡大する以前、あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。

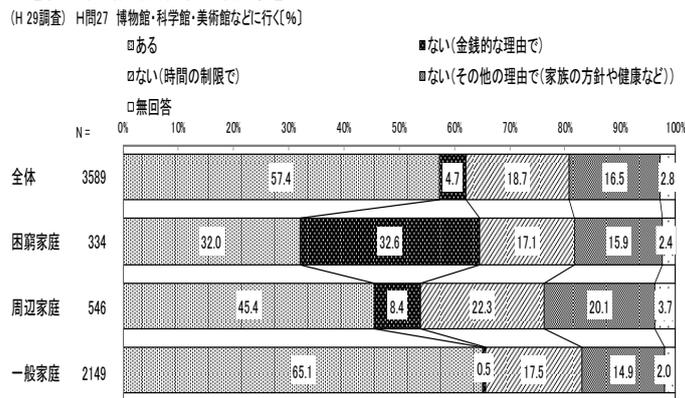
家庭での子どもの体験活動の状況については、「デパートやショッピングモールに行く」が92.5%と最も多く、次いで「遊園地やテーマパークに行く」、「映画に行く」が70%台、「スキーやスケートに行く」、「博物館・科学館・美術館などに行く」、「キャンプやバーベキューに行く」、「海水浴に行く」は50%台となっている。

生活困窮度別では、一般家庭と困窮家庭では「金銭的な理由」で体験がない割合は大きな差があり、前回と同じ傾向となっている。

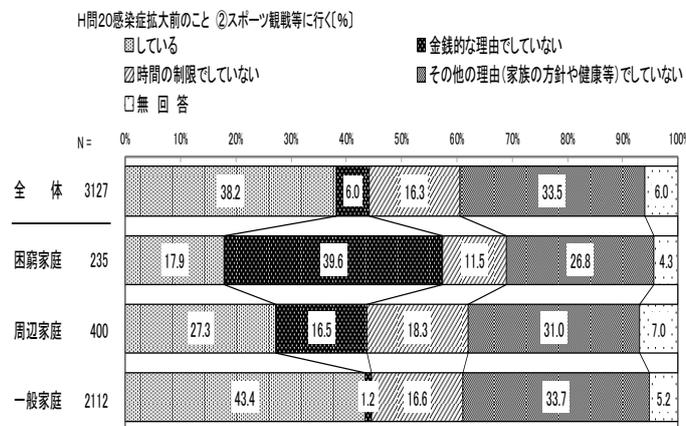
### 1) 博物館・科学館・美術館などに行く



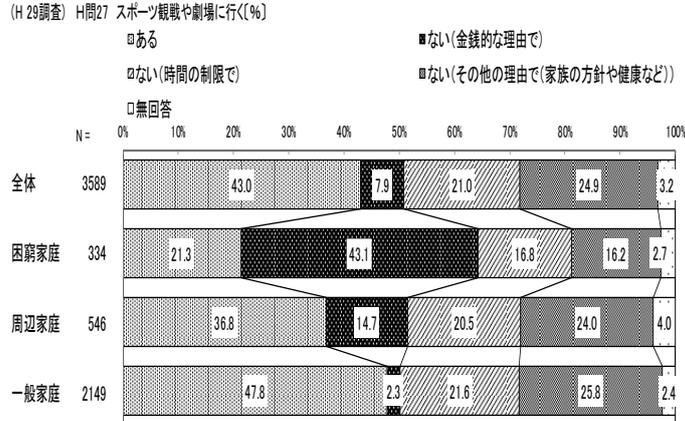
### [参考: 前回調査結果]



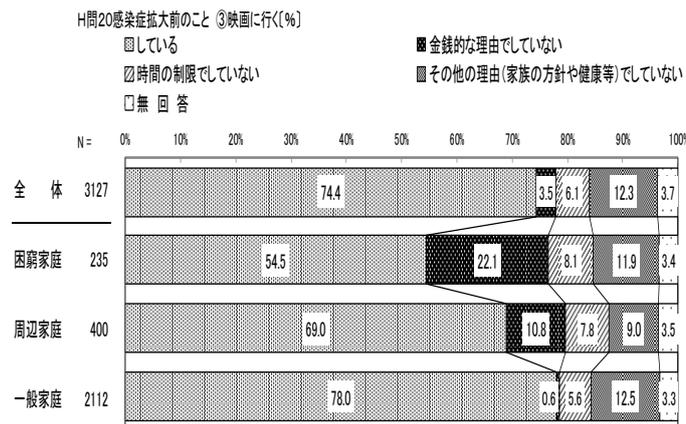
### 2) スポーツ観戦や劇場に行く



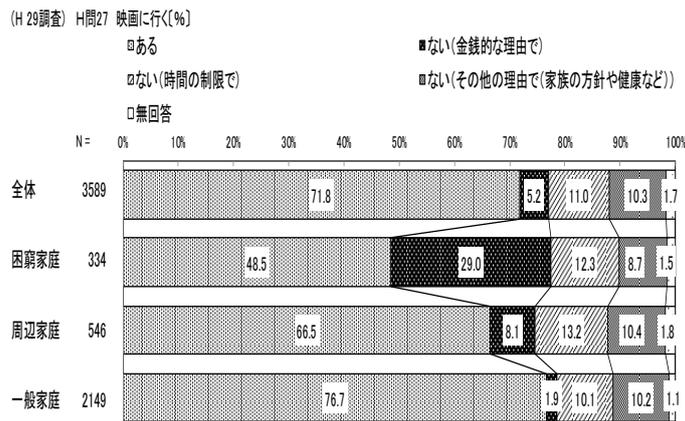
### [参考: 前回調査結果]



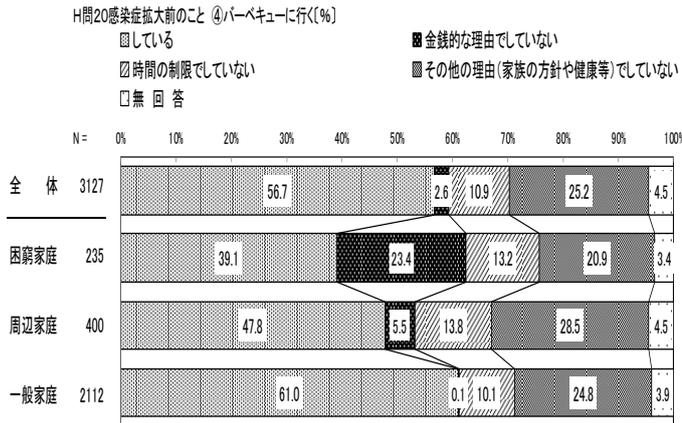
### 3) 映画に行く



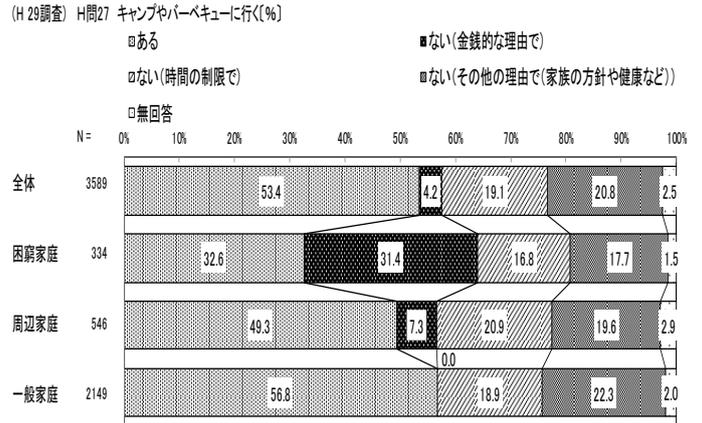
### [参考: 前回調査結果]



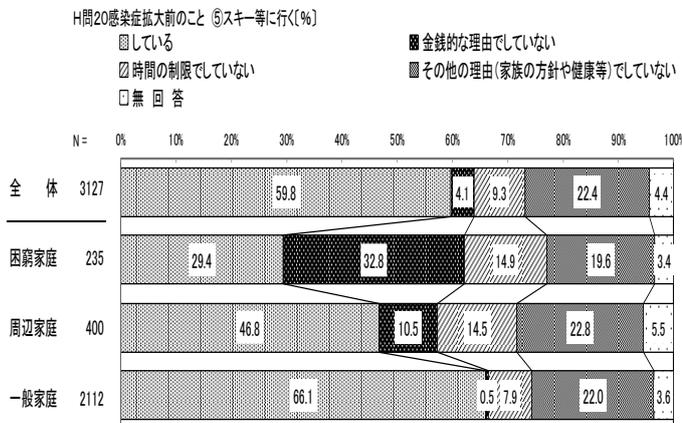
#### 4) キャンプやバーベキューに行く



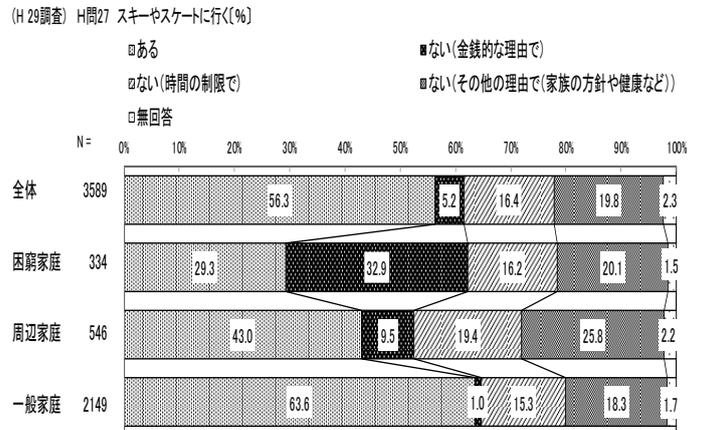
#### [参考: 前回調査結果]



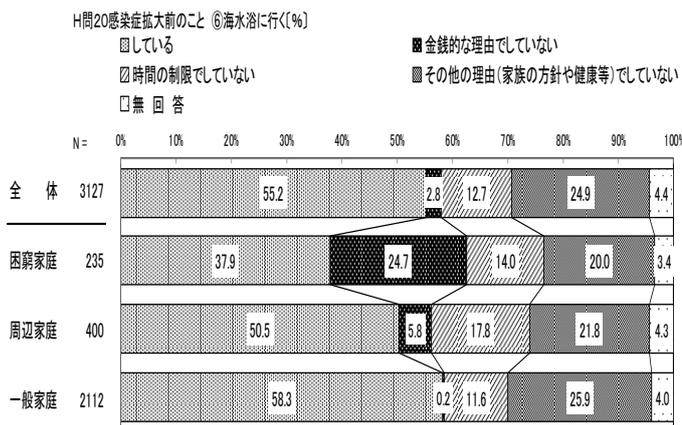
#### 5) スキーやスケートに行く



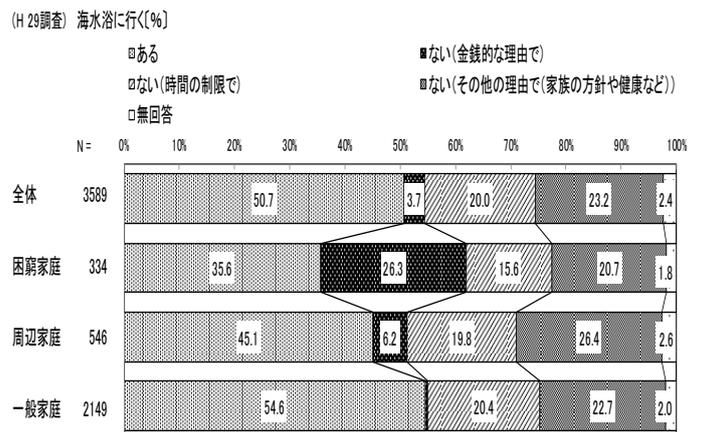
#### [参考: 前回調査結果]



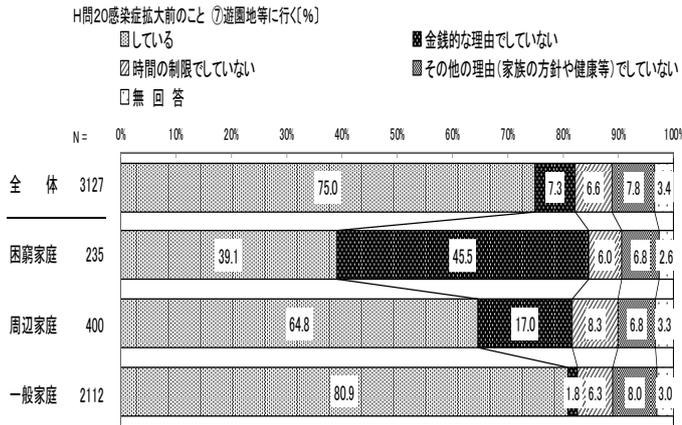
#### 6) 海水浴に行く



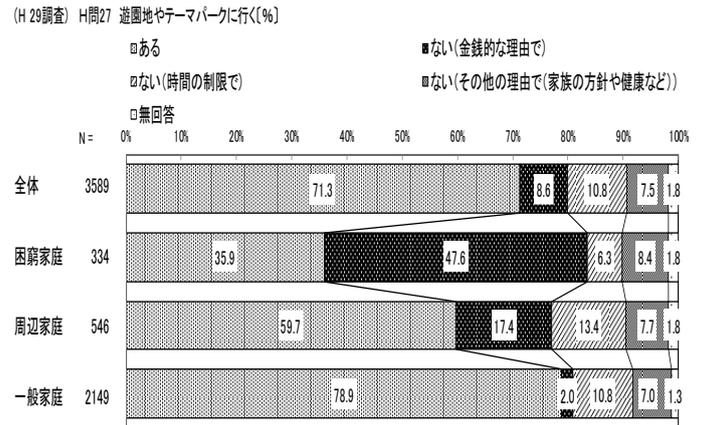
#### [参考: 前回調査結果]



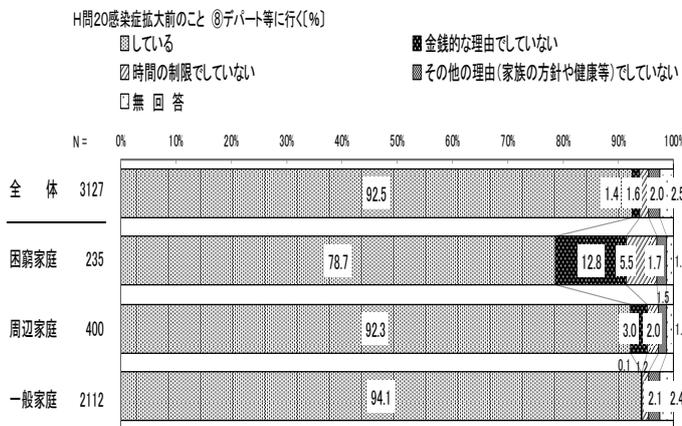
## 7) 遊園地やテーマパークに行く



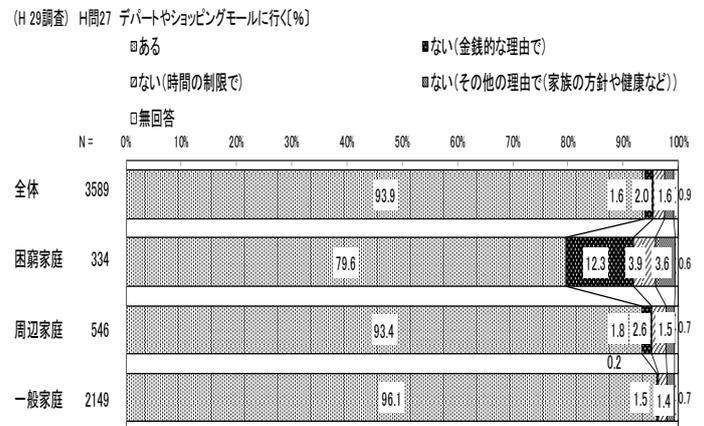
## [参考: 前回調査結果]



## 8) デパートやショッピングモールに行く



## [参考: 前回調査結果]



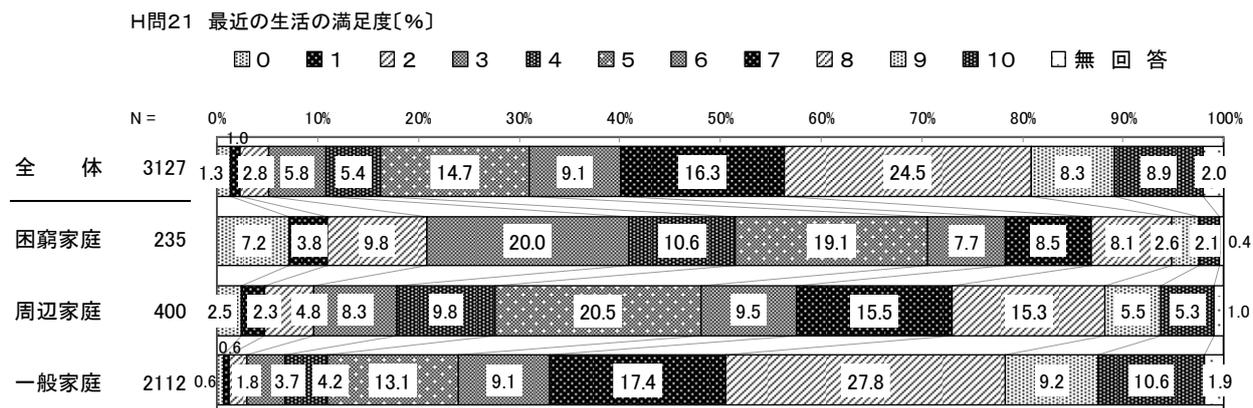
## (6)家庭での生活

### ①現在の生活

問 21 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。

最近の生活の満足度(10段階)については、「0~2」に該当する割合が5.1%、「3~4」に該当する割合が11.2%、「5」に該当する割合が14.7%、「6~7」に該当する割合が25.4%、「8~10」に該当する割合が41.7%となっている。満足度の高い方の回答(「6」以上)は67.1%となっている。

生活困窮度別では、満足度の高い方の回答(「6」以上)は困窮家庭で29.0%となっており、一般家庭の74.1%と比べて生活満足度は低くなっている。



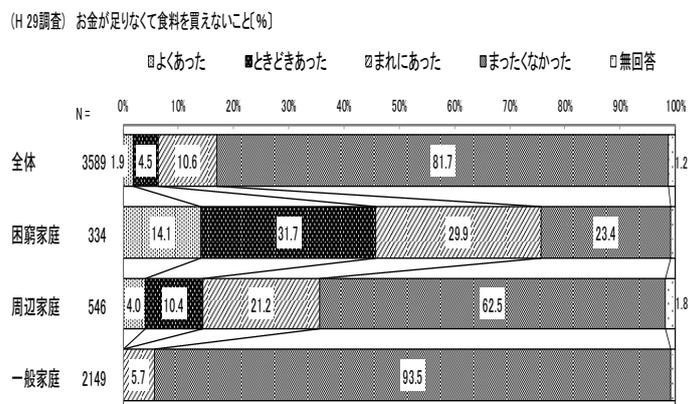
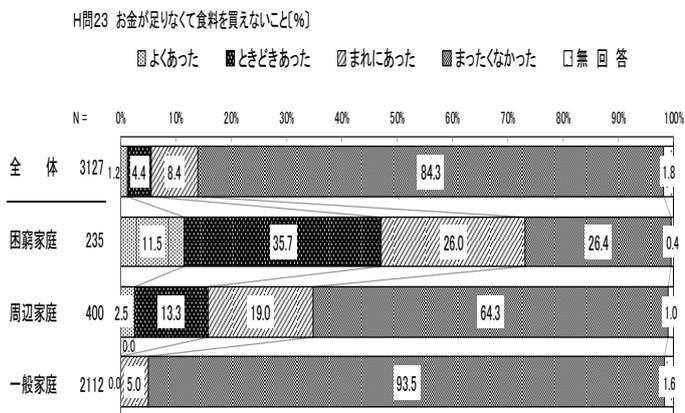
### ②食料や衣類の購入、公共料金や家賃等の支払いの状況(過去1年間)

問 23 あなたの家庭では、過去1年間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料を買えないことがありましたか。

お金がなくて食料を買えないことは、「まったくなかった」が84.3%、「あった」「よくあった」「ときどきあった」と「まれにあった」の計が14.0%である。

生活困窮度別では、困窮家庭では73.2%が「あった」と回答しており、前回の75.7%と同程度となっている。

#### [参考: 前回調査結果]



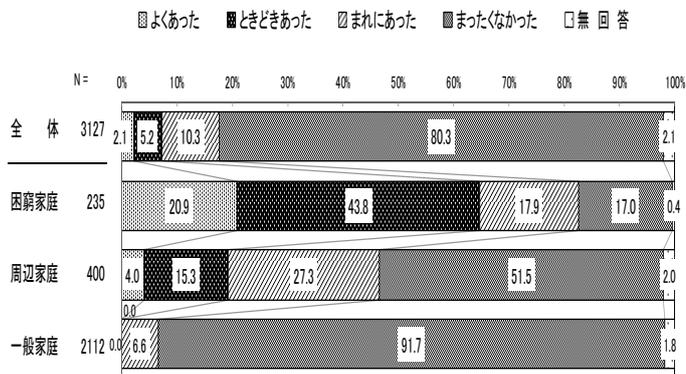
問 24 あなたの家庭では、過去1年間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣類を買えないことがありましたか。

お金がなくて衣類を買えないことは、「まったくなかった」が80.3%、『あった』(「よくあった」、「ときどきあった」と「まれにあった」の計)が17.6%である。

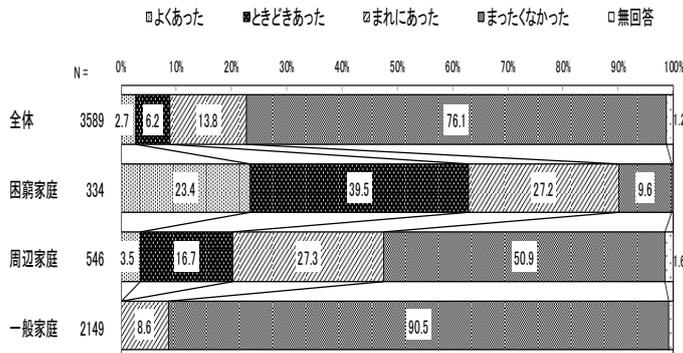
生活困窮度別では、困窮家庭では82.6%が『あった』と回答しており、前回の90.1%と比べて少なくなったが、依然多い割合となっている。

[参考: 前回調査結果]

H問24 お金が足りなくて衣類を買えないこと(%)



(H 29調査) お金が足りなくて衣類を買えないこと(%)



問 25 過去1年間に、経済的な理由で、以下のサービス・料金について、支払えないことがありましたか。

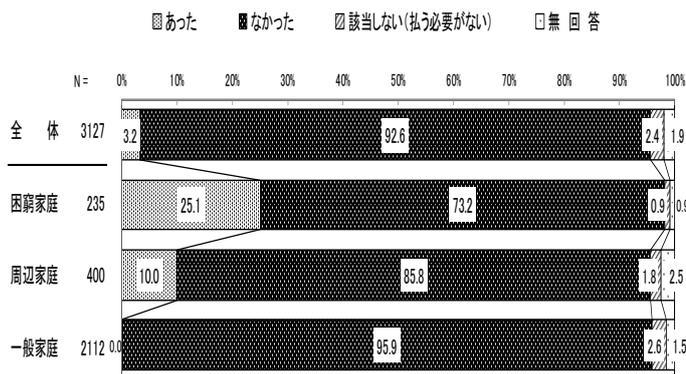
電話料金・電気料金・水道料金・ガス料金・家賃(または住宅ローン)が未払いになったことがあったかについて、「あった」(該当)の割合は、それぞれ2%~3%台となっている。

生活困窮度別では、未払いの経験について、困窮家庭で電話料金は25.1%、電気料金は25.5%、水道料金は22.6%、ガス料金は26.4%、家賃(または住宅ローン)は23.4%が「あった」(該当)となっている。

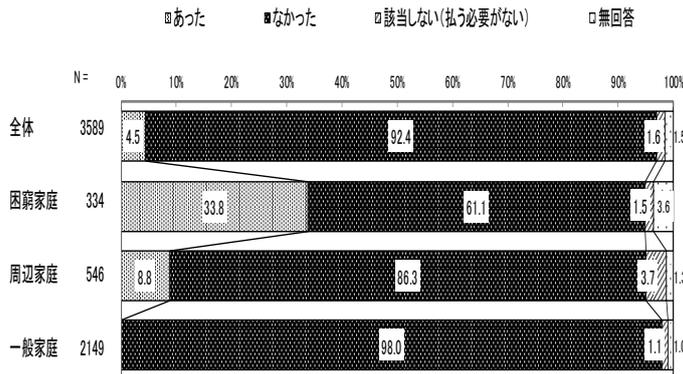
[電話料金]

[参考: 前回調査結果]

H問25支払えなかったこと ①電話料金(%)

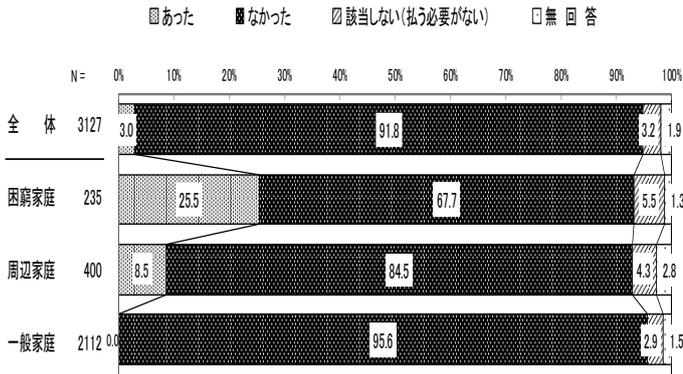


(H 29調査) 電話料金(%)



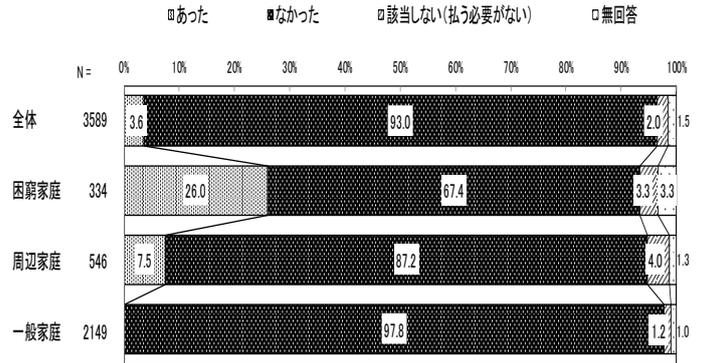
## [電気料金]

H25年25支払えなかったこと ②電気料金[%]



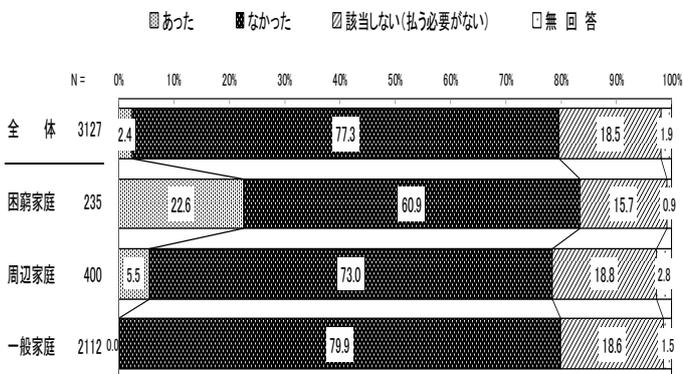
## [参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 電気料金[%]



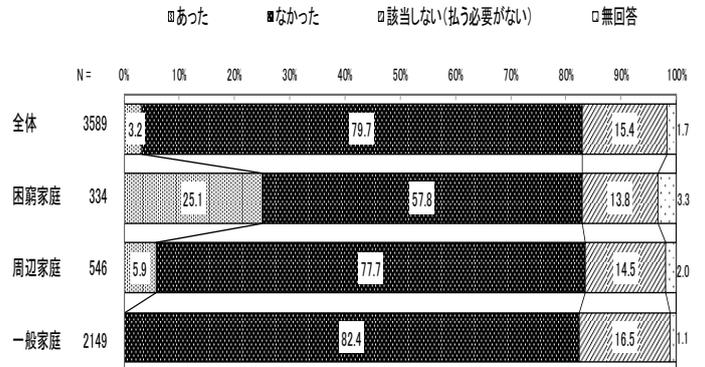
## [ガス料金]

H25年25支払えなかったこと ③ガス料金[%]



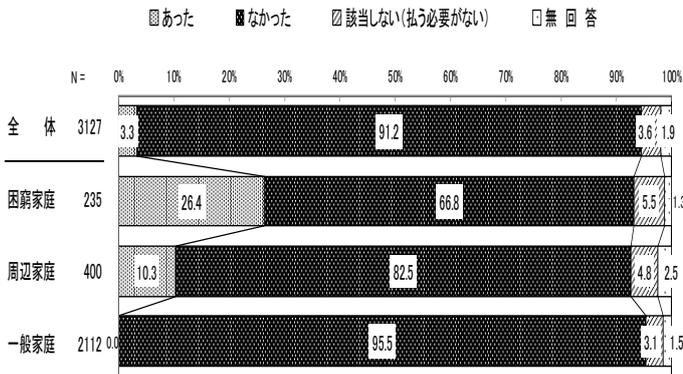
## [参考: 前回調査結果]

(H 29調査) ガス料金[%]



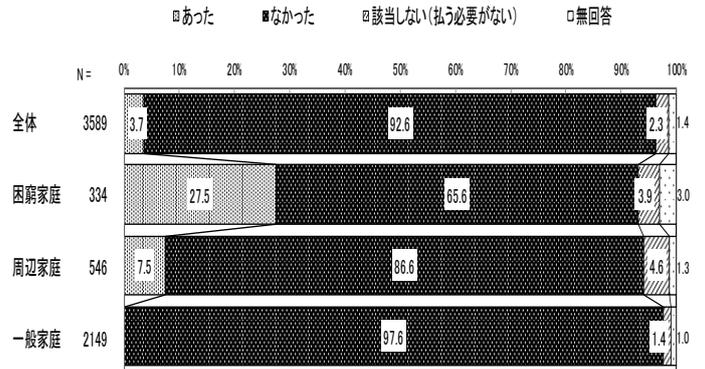
## [水道料金]

H25年25支払えなかったこと ④水道料金[%]



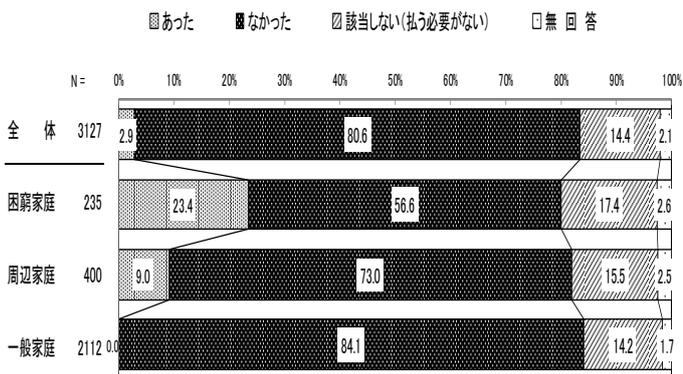
## [参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 水道料金[%]



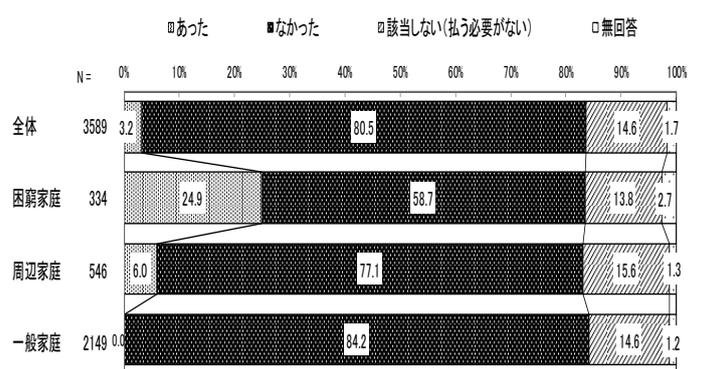
## [家賃 (または住宅ローン)]

H25年25支払えなかったこと ⑤家賃[%]



## [参考: 前回調査結果]

(H 29調査) H25年 家賃(または住宅ローン) [%]



### ③家庭で子どものために行っている支出

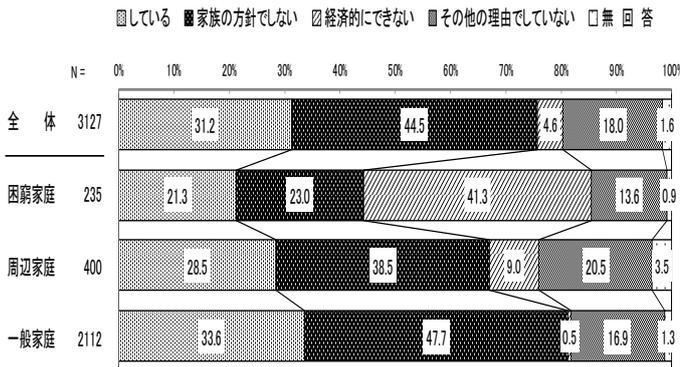
#### 問 26 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。

子どものための支出のうち、保護者が「経済的にできない」と回答した割合は、「学習塾に通わせたり、通信教育を受ける」が10.2%、「1年に1回くらい家族旅行に行く」が8.6%となっており、生活困窮度別では、困窮家庭で「学習塾に通わせたり、通信教育を受ける」が60.0%と最も多く、次いで「1年に1回くらい家族旅行に行く」が58.7%、「習い事(音楽、スポーツ、習字等)」が45.1%となっている。

前回と同様、各項目とも一般家庭と困窮家庭で差がみられる。

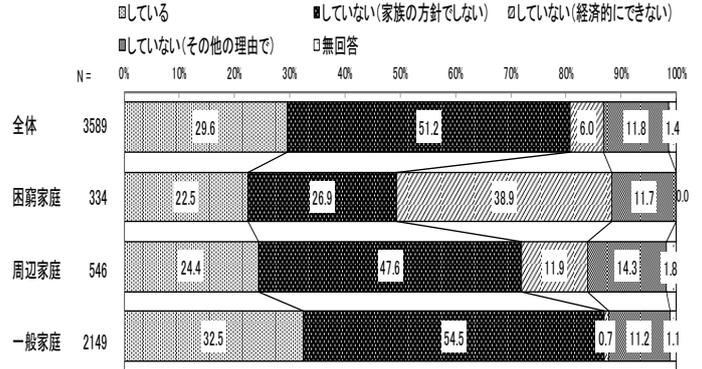
#### 1) 毎月お小遣いを渡す

H問26していること ①毎月お小遣いを渡す[%]



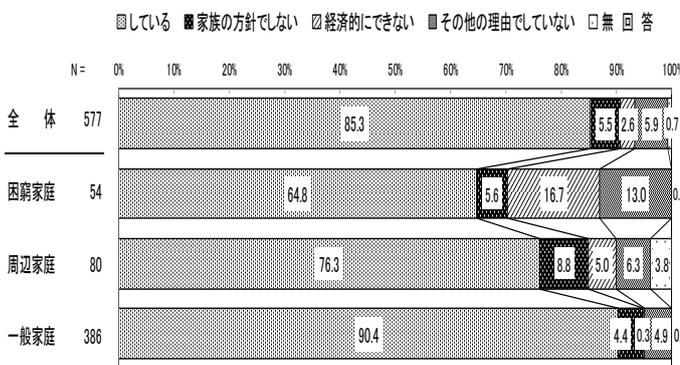
[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) H問32 毎月お小遣いを渡す[%]



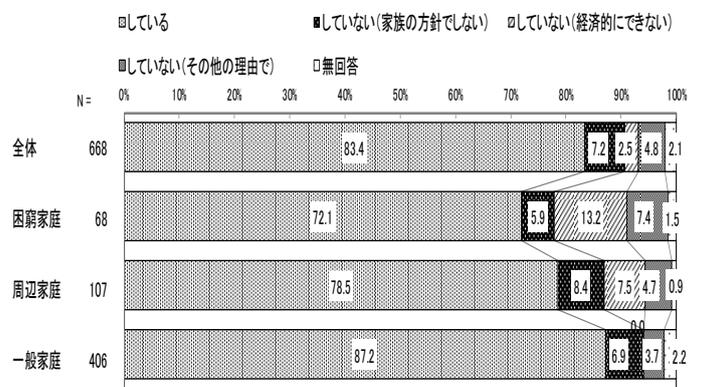
#### 2) 友達と遊びに出かけるためのお金を渡す (夏休みに遠出する時など、毎月のお小遣いとは別に渡す) (16・17歳のみ)

H問26していること ②友達と遊ぶお金を渡す(16・17歳)[%]



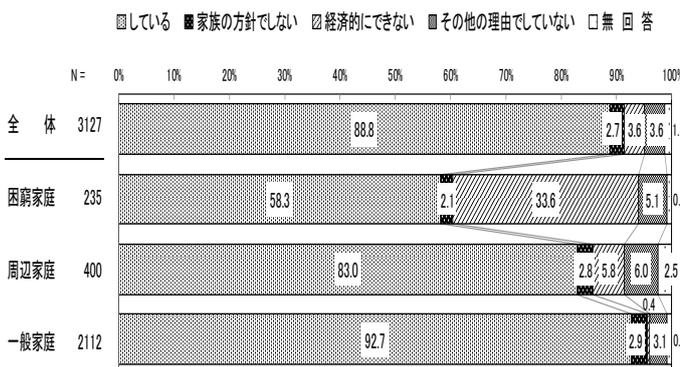
[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) H問32 友達と遊びに出かけるためのお金を渡す[%]



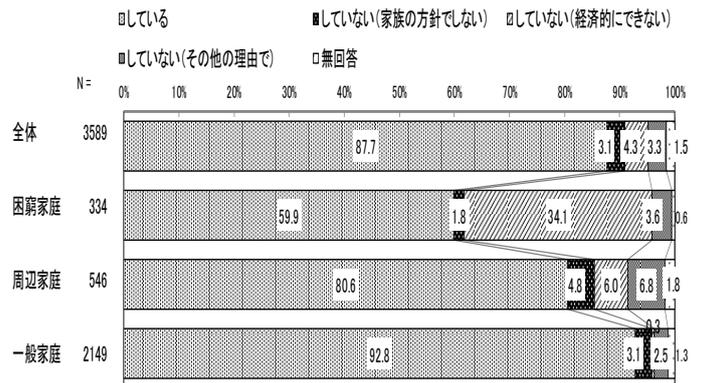
#### 3) 毎年新しい洋服・靴を買う

H問26していること ③新しい洋服・靴を買う[%]



[参考: 前回調査結果]

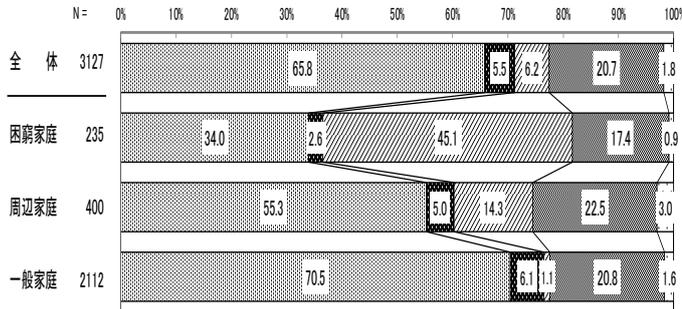
(H 29調査) H問32 毎年新しい洋服・靴を買う[%]



#### 4) 習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる

H問26していること ④習い事に通わせる(%)

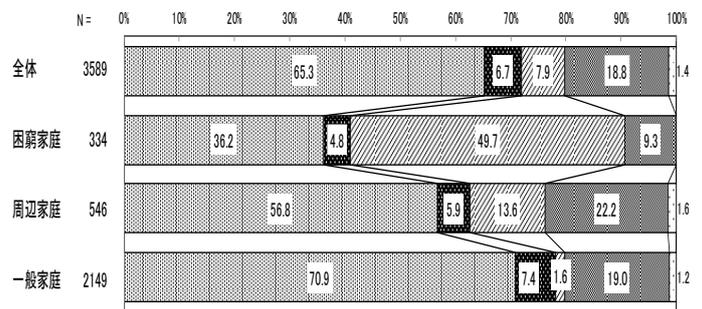
■している ■家族の方針でしない □経済的にできない ■その他の理由でしない □無回答



#### [参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる(%)

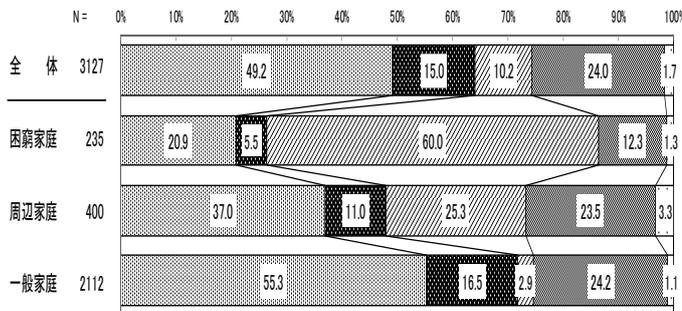
■している ■していない(家族の方針でしない) □していない(経済的にできない)  
■していない(その他の理由で) □無回答



#### 5) 学習塾に通わせたり、通信教育を受ける（または家庭教師に来てもらう）

H問26していること ⑤学習塾等に通わせる(%)

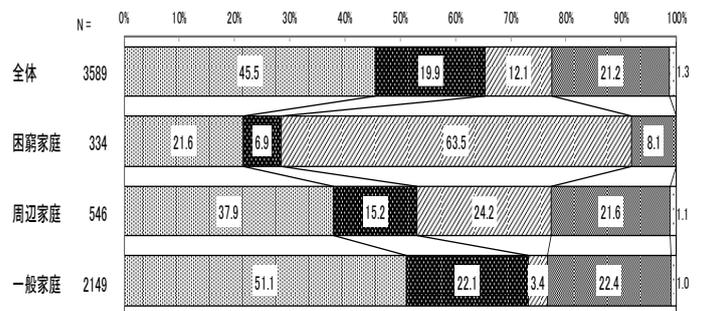
■している ■家族の方針でしない □経済的にできない ■その他の理由でしない □無回答



#### [参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 学習塾に通わせたり、通信教育を受ける(%)

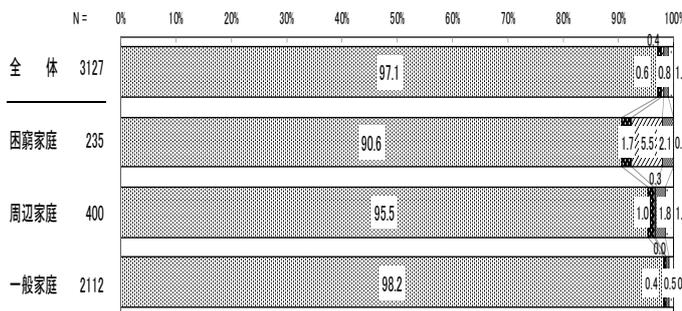
■している ■していない(家族の方針でしない) □していない(経済的にできない)  
■していない(その他の理由で) □無回答



#### 6) お誕生日のお祝いをする

H問26していること ⑥誕生日のお祝いをする(%)

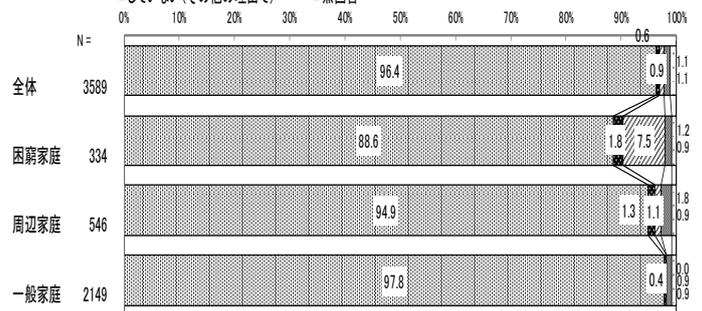
■している ■家族の方針でしない □経済的にできない ■その他の理由でしない □無回答



#### [参考: 前回調査結果]

(H 29調査) H問32 誕生日のお祝いをする(%)

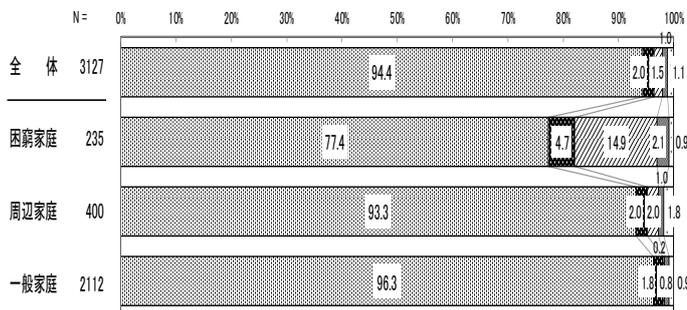
■している ■していない(家族の方針でしない) □していない(経済的にできない)  
■していない(その他の理由で) □無回答



## 7) クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる

H問26していること ⑦お年玉などをあげる[%]

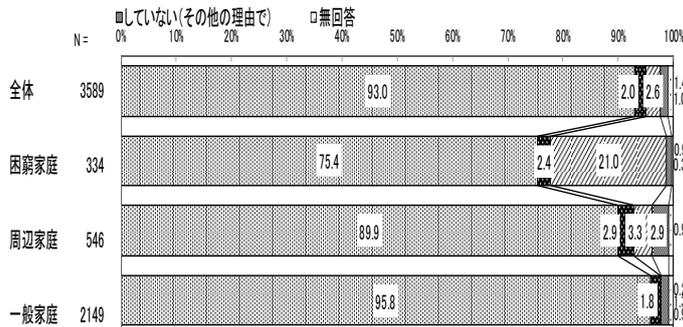
■している ■家族の方針でない ■経済的にできない ■その他の理由でしていない □無回答



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) H問32 クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる[%]

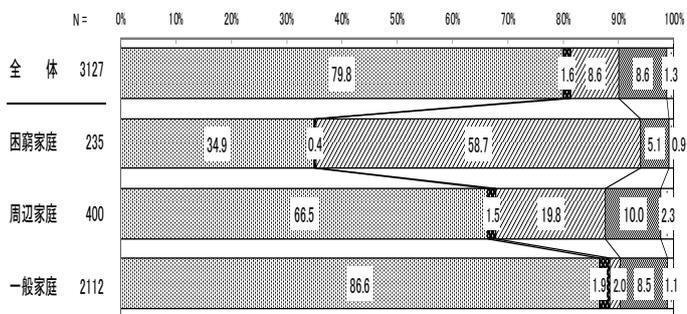
■している ■していない(家族の方針でない) ■していない(経済的にできない)



## 8) 1年に1回くらい家族旅行に行く

H問26していること ⑧年に1回位の家族旅行[%]

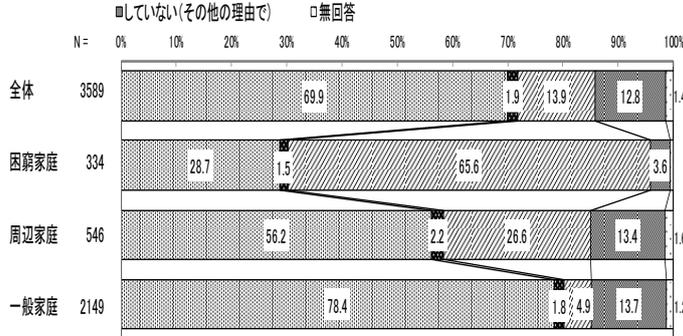
■している ■家族の方針でない ■経済的にできない ■その他の理由でしていない □無回答



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 1年に1回くらい家族旅行に行く[%]

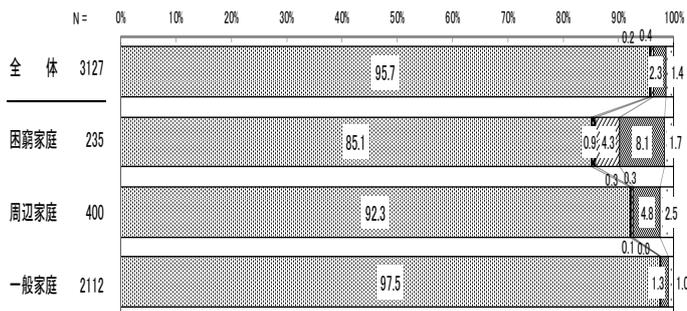
■している ■していない(家族の方針でない) ■していない(経済的にできない)



## 9) 子どもの学校行事などへ親が参加する

H問26していること ⑨学校行事等への親の参加[%]

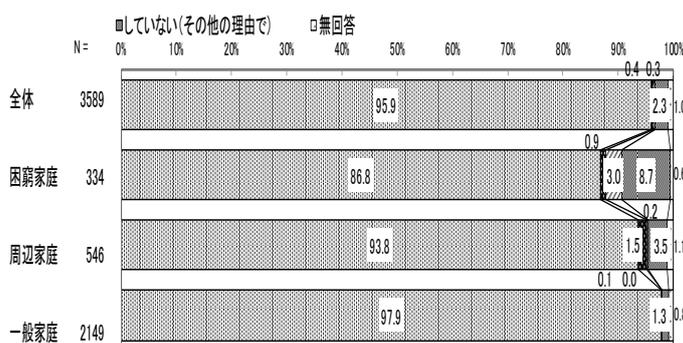
■している ■家族の方針でない ■経済的にできない ■その他の理由でしていない □無回答



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) H問32 子どもの学校行事などへ親が参加する[%]

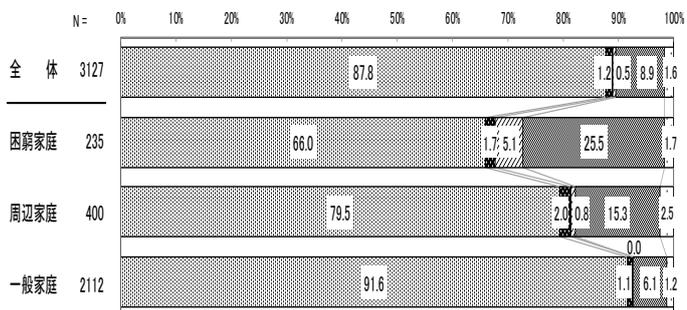
■している ■していない(家族の方針でない) ■していない(経済的にできない)



## 10) PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加

H問26していること ⑩ボランティア等へ参加[%]

■している ■家族の方針でない ■経済的にできない ■その他の理由でしていない □無回答

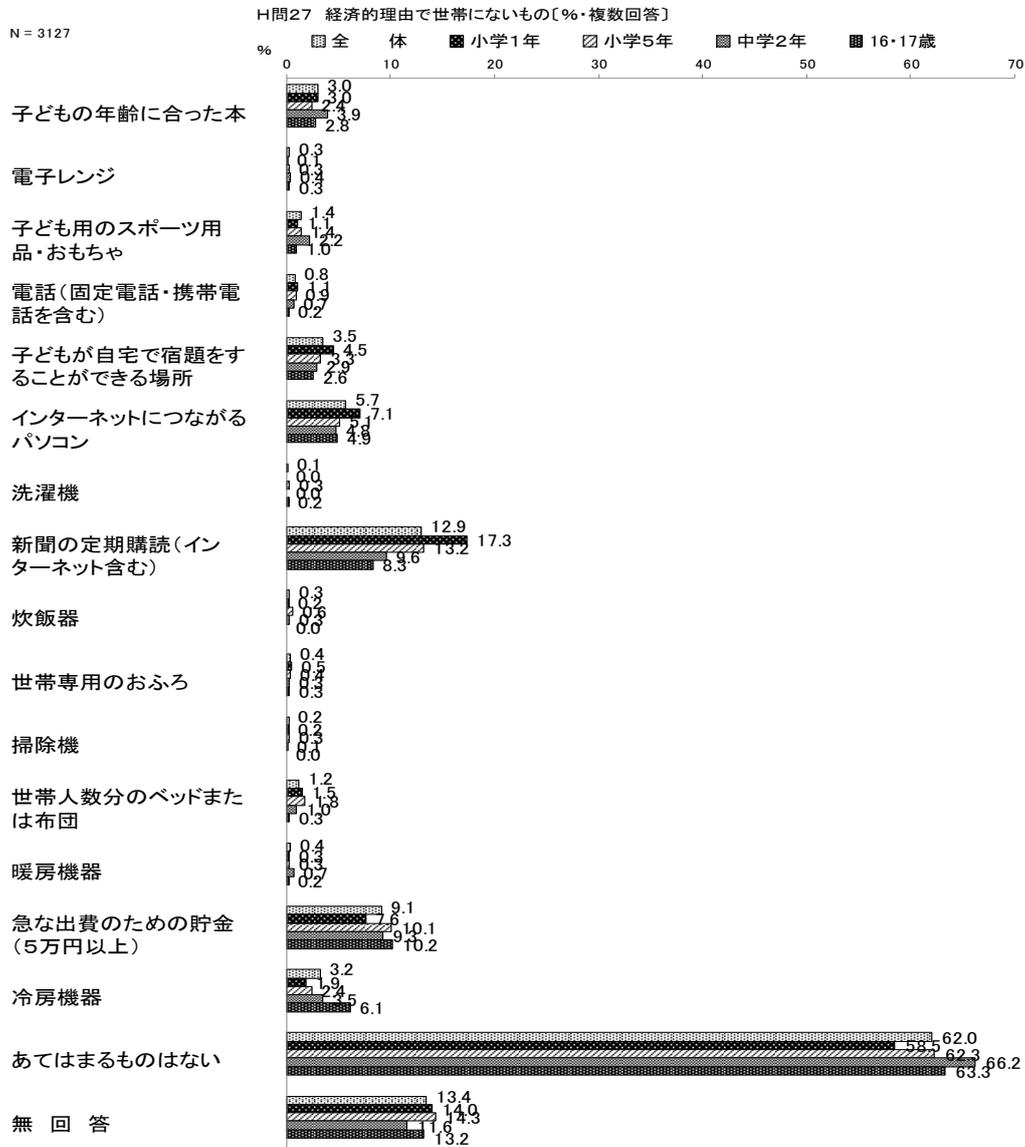


#### ④経済的理由で世帯にないもの

問 27 次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか。

「経済的理由のために世帯にないもの」は、「あてはまるものはない」と回答したのは62.0%である。

生活困窮度別では、困窮家庭において、各項目が多く回答されており、「急な出費のための貯金(5万円以上)」が51.1%と最も多く、次いで「新聞の定期購読(インターネット含む)」、「インターネットにつながるパソコン」、「子どもが自宅で宿題をすることができる場所」、「子どもの年齢に合った本」となっている。

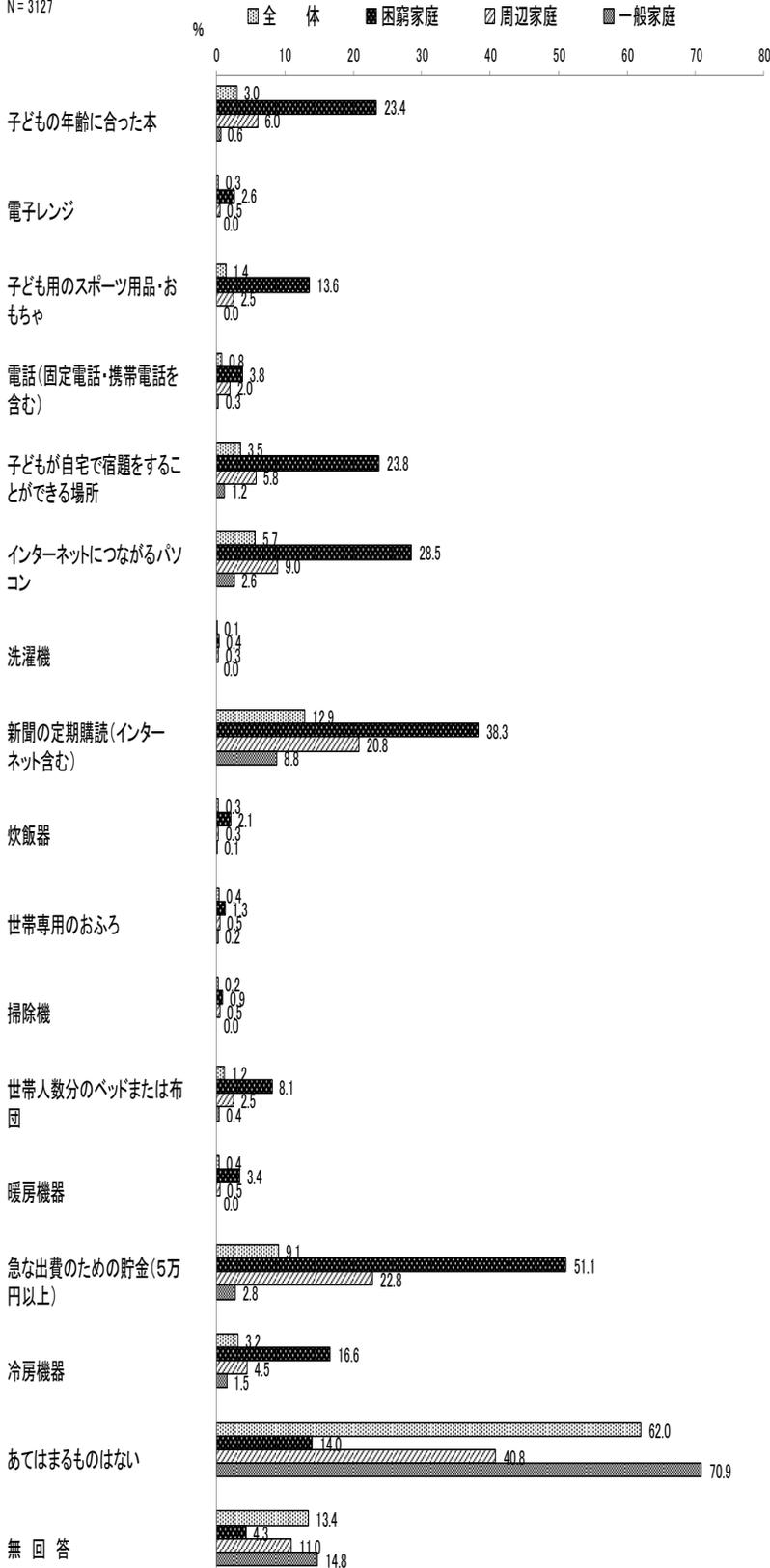


経済的理由で世帯にないもの(上位5位)

	1位	2位	3位	4位	5位
全体	あてはまるものはない(62.0%)	無回答(13.4%)	新聞の定期購読(インターネット含む)(12.9%)	急な出費のための貯金(5万円以上)9.1%	インターネットにつながるパソコン(5.7%)
困窮家庭	急な出費のための貯金(5万円以上)(51.1%)	新聞の定期購読(インターネット含む)(38.3%)	インターネットにつながるパソコン(28.5%)	子どもが自宅で宿題をすることができる場所(23.8%)	子どもの年齢に合った本(23.4%)
周辺家庭	あてはまるものはない(40.8%)	急な出費のための貯金(5万円以上)(22.8%)	新聞の定期購読(インターネット含む)(20.8%)	無回答(11.0%)	インターネットにつながるパソコン(9.0%)
一般家庭	あてはまるものはない(70.9%)	無回答(14.8%)	新聞の定期購読(インターネット含む)(8.8%)	急な出費のための貯金(5万円以上)(2.8%)	インターネットにつながるパソコン(2.6%)

N = 3127

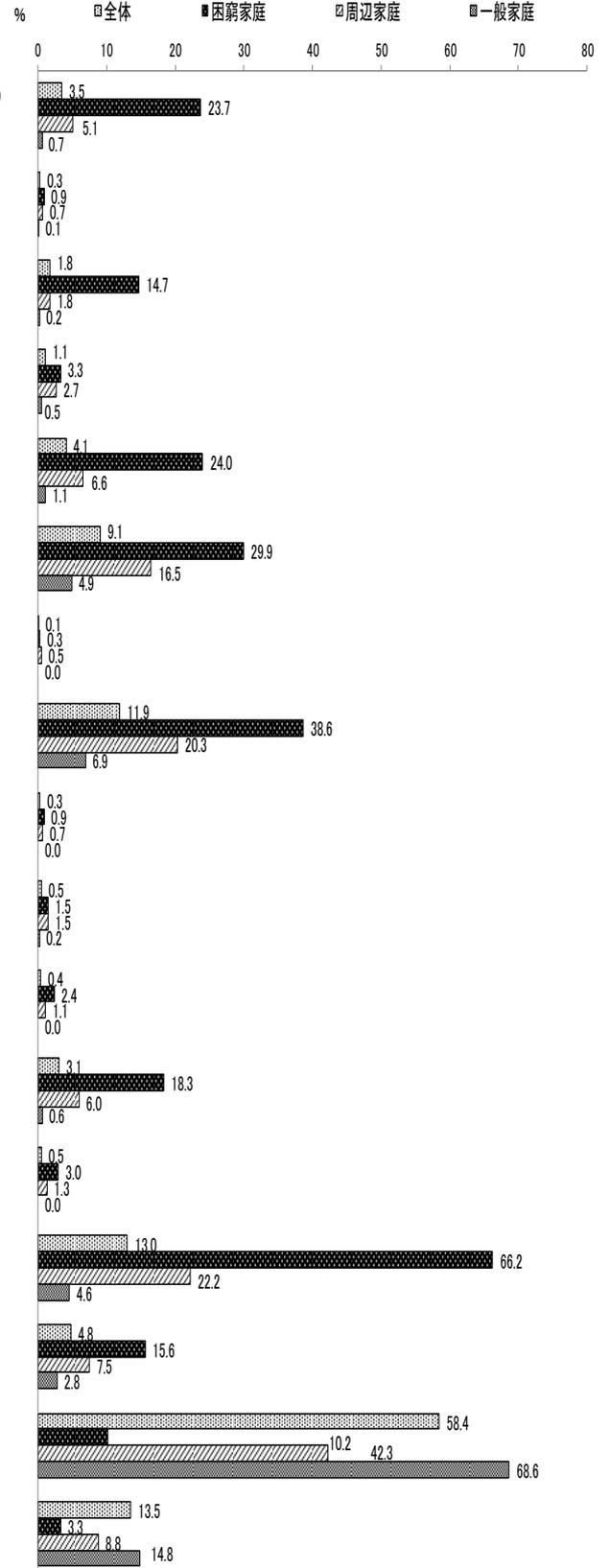
H問27 経済的理由で世帯にないもの(%・複数回答)



[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 経済的理由のために世帯にないもの(%・複数回答)

N = 3589



## (7)保護者のこれまでの経験と現在の気持ち

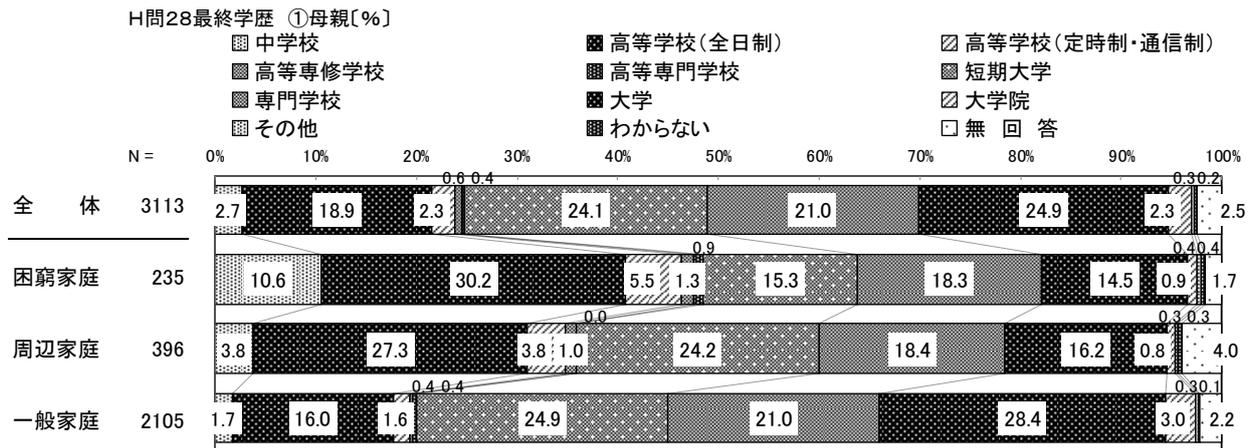
### ①これまでの経験等

問 28 お子さんの親の最終学歴(卒業・修了した学校)は次のどちらにあたりますか。

[母親の最終学歴]

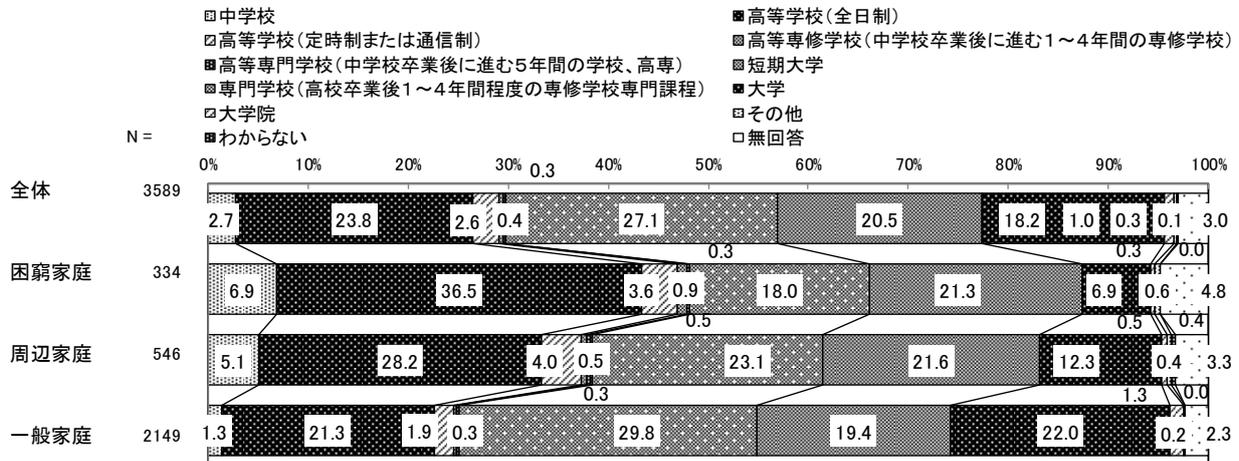
母親の最終学歴は、「大学」が 24.9%、「短期大学」が 24.1%、「専門学校」が 21.0%、「高等学校(全日制)」が 18.9%などとなっている。

生活困窮度別では、「高等学校(全日制)」は困窮家庭で 30.2%、周辺家庭で 27.3%と多く、「大学」はそれぞれ 14.5%、16.2%となり、一般家庭の 28.4%に比べて少ない。



[参考: 前回調査結果]

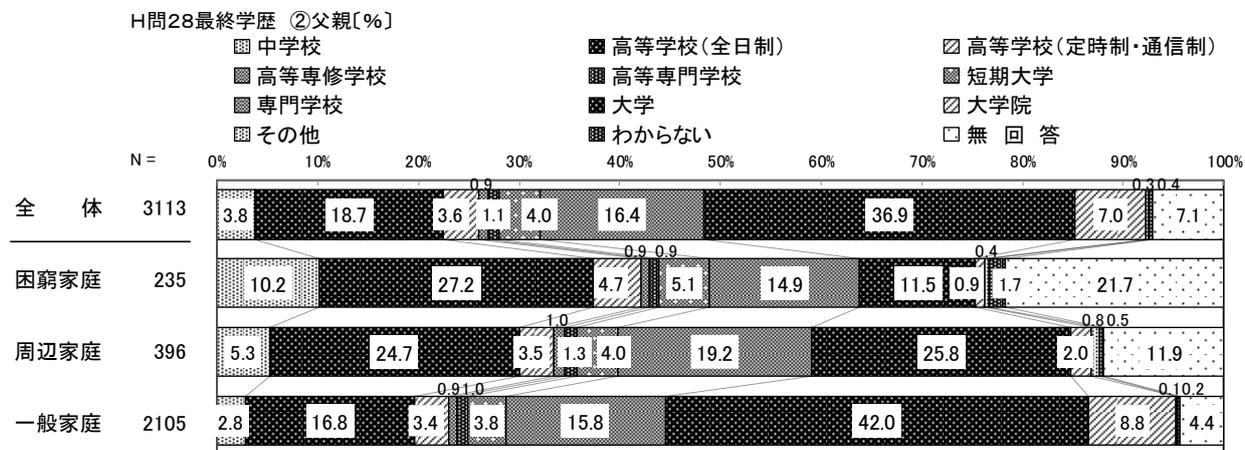
(H 29調査) H問34 母親の最終学歴[%]



[父親の最終学歴]

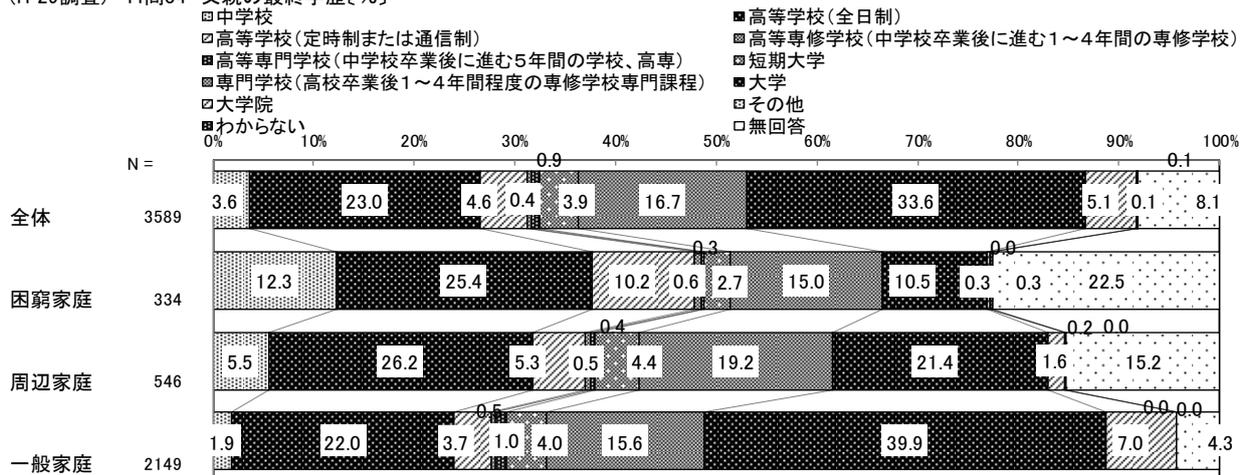
父親の最終学歴は、「大学」が 36.9%、「高等学校(全日制)」が 18.7%、「専門学校」が 16.4%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で無回答(21.7%)を除くと、「高等学校(全日制)」が 27.2%と最も多く、「大学」は 11.5%となり、一般家庭の 42.0%と比べて少ない。



[参考:前回調査結果]

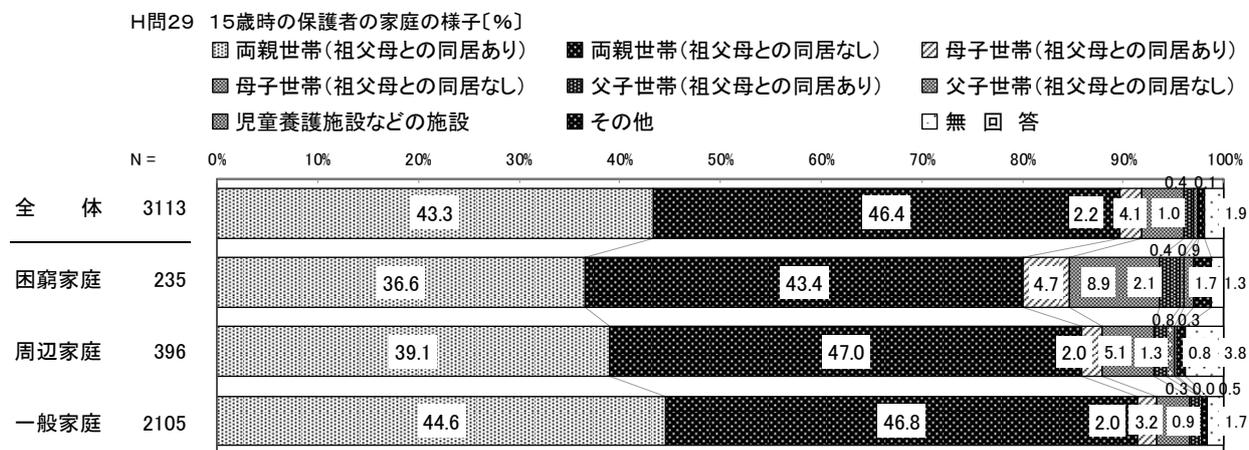
(H 29調査) H問34 父親の最終学歴[%]



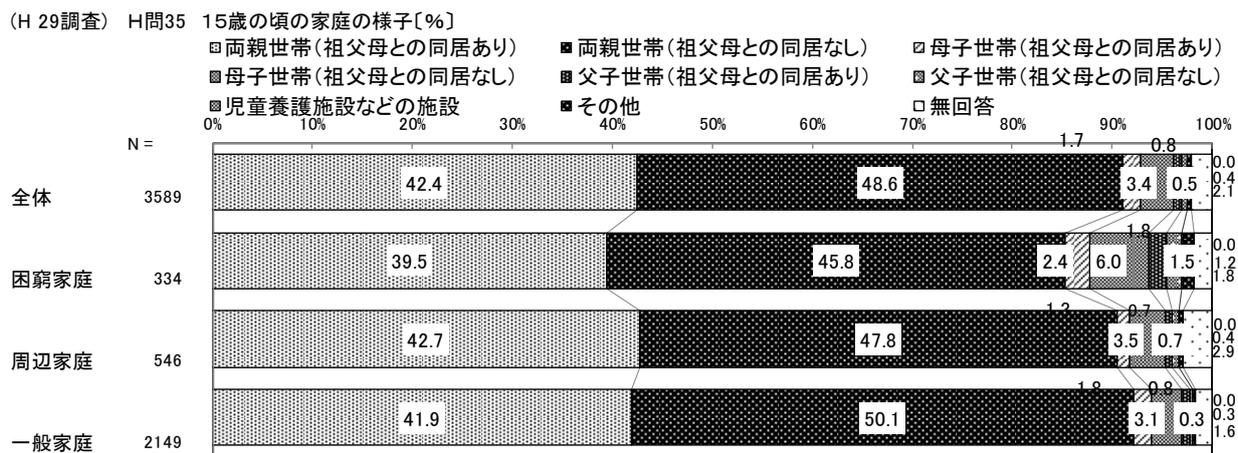
問 29 あなたが 15 歳の頃のご家庭の様子に最も近いものについて○をつけてください。

保護者の 15 歳の頃の家庭の様子は、「両親世帯(祖父母との同居なし)」が 46.4%、「両親世帯(祖父母との同居あり)」が 43.3%、「母子世帯」(「母子世帯(祖父母との同居あり)」と「母子世帯(祖父母との同居なし)」の計)は 6.3%などとなっている。

生活困窮度別では、『母子世帯』は一般家庭で 5.2%、困窮家庭で 13.6%とやや多く、前回と比べてもやや多くなっている。



[参考: 前回調査結果]

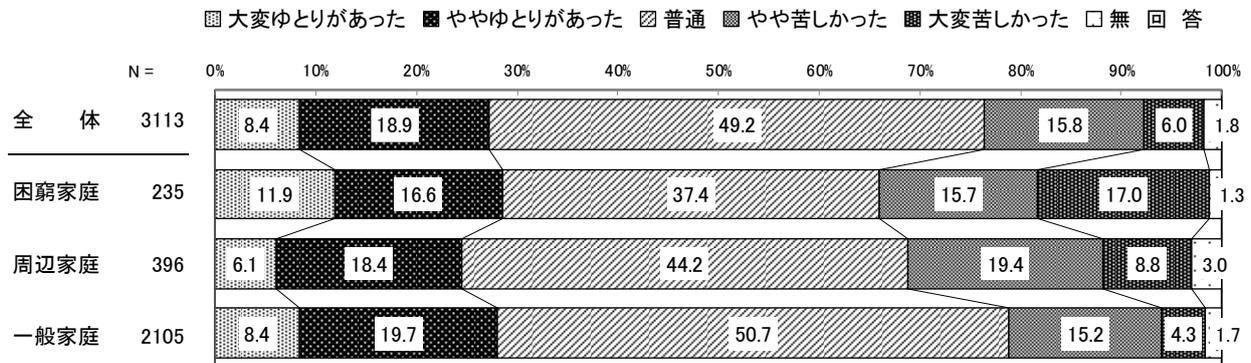


問 30 あなたが 15 歳の頃の、あなたのご家庭の暮らし向きについて、最も近いものに○をつけてください。

保護者の 15 歳の頃の家庭の暮らし向きは、『ゆとりがあった』（「大変ゆとりがあった」と「ややゆとりがあった」の計）が 27.3%、「普通」が 49.2%、『苦しかった』（「やや苦しかった」と「大変苦しかった」の計）は 21.8%である。

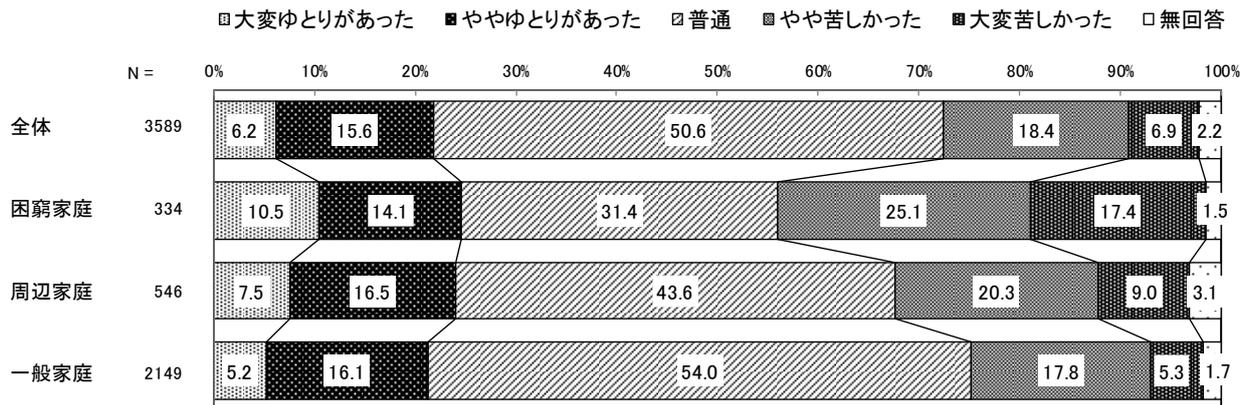
生活困窮度別では、困窮家庭で『苦しかった』が 32.7%と多いものの、前回より少なくなっている。

H問30 15歳時の保護者の家庭の暮らし向き〔%〕



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) H問36 15歳の頃の家庭の暮らし向き〔%〕

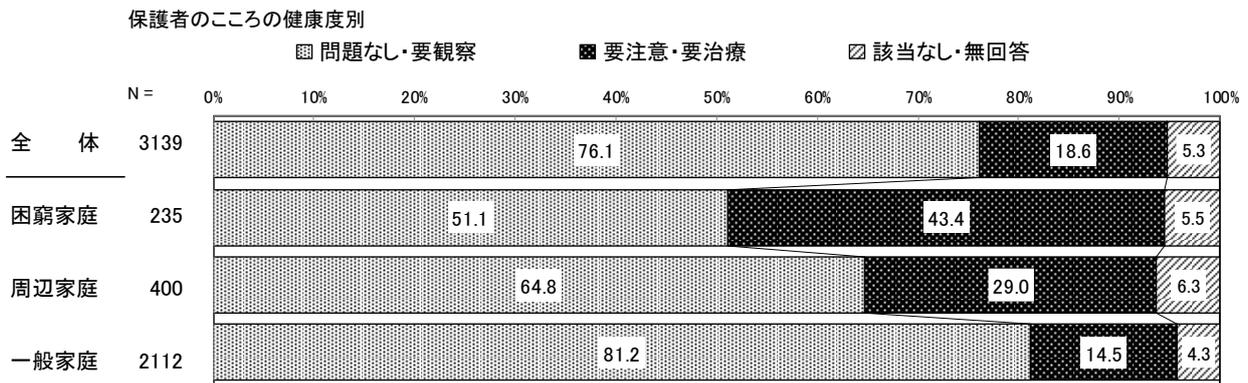


## ②この1か月の気持ち

問 36 次の質問について、この1か月のあなたの気持ちはどのようでしたか。

保護者のこころの健康状態に関して、何らかのこころの問題の程度を把握する6項目を設定し、「K6」といわれる6項目の回答を点数化して足し合わせてスコアを算出(0~24点)した。0~9点の「問題なし・要観察」と10点以上「要注意・要医療」、「該当なし・無回答」に区分したところ、「要注意・要医療」とされる10点以上の割合は18.6%である。

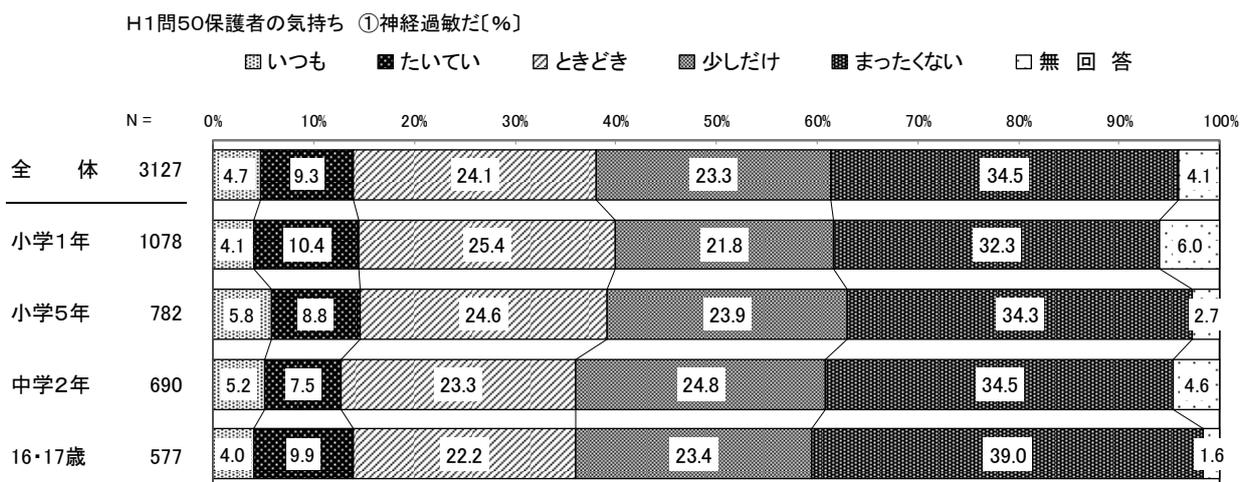
生活困窮度別では、「要注意・要治療」は、困窮家庭で43.4%、周辺家庭で29.0%と、一般家庭と比べて多い。



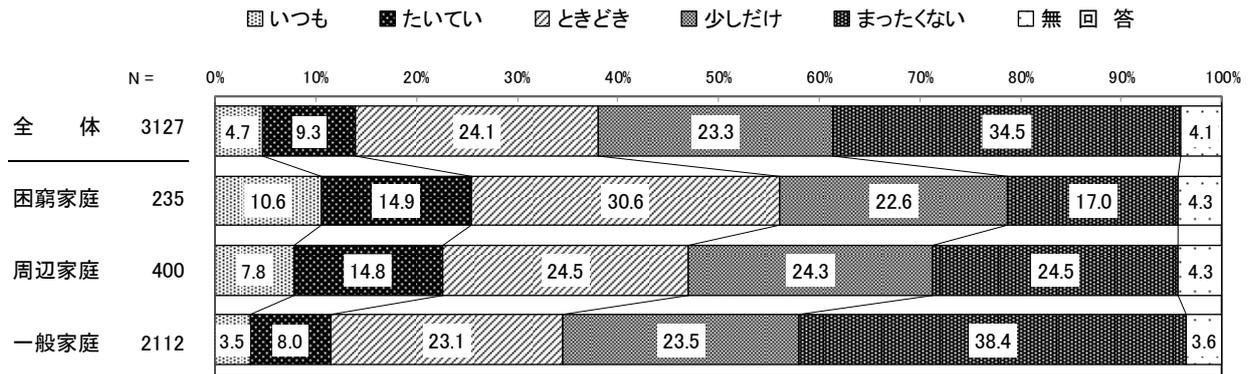
[参考:K6(心の健康チェック表)の算出方法]

1) 神経過敏だ 2) 絶望的だと感じる 3) そわそわ、落ち着きがなく感じる 4) 気分が沈み込んで、何が起ころても気が晴れないように感じた 5) 何をするのも面倒だと感じた 6) 自分は価値がない人間だと感じた	いつも 4点 たいてい 3点 とときどき 2点 少しだけ 1点 まったくない 0点	合計点が高いほど精神的な問題が重い可能性があるとしてされている。 9点以下: 問題なし、要観察 10点以上: 要注意・要医療
--	---	--

### 1) 神経過敏だ

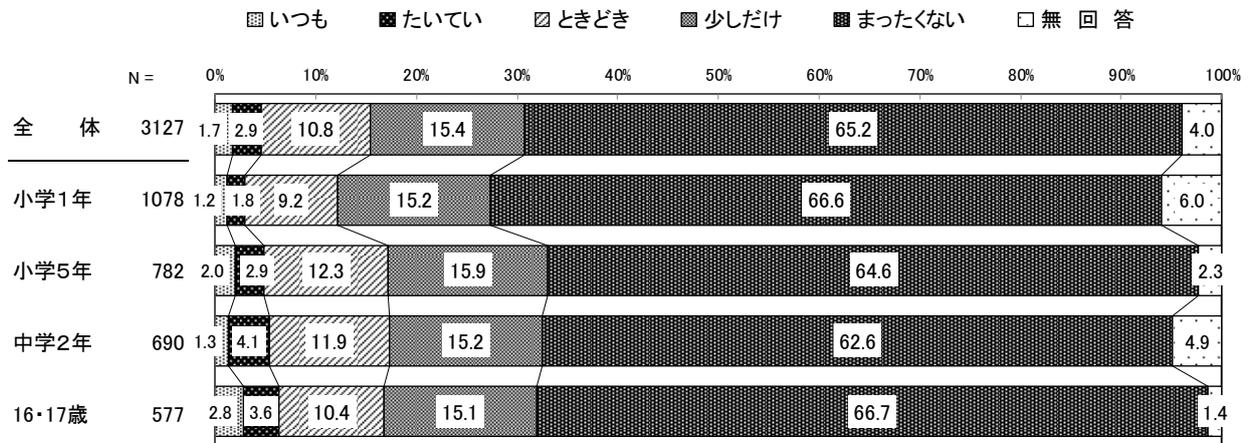


H1問50保護者の気持ち ①神経過敏だ[%]

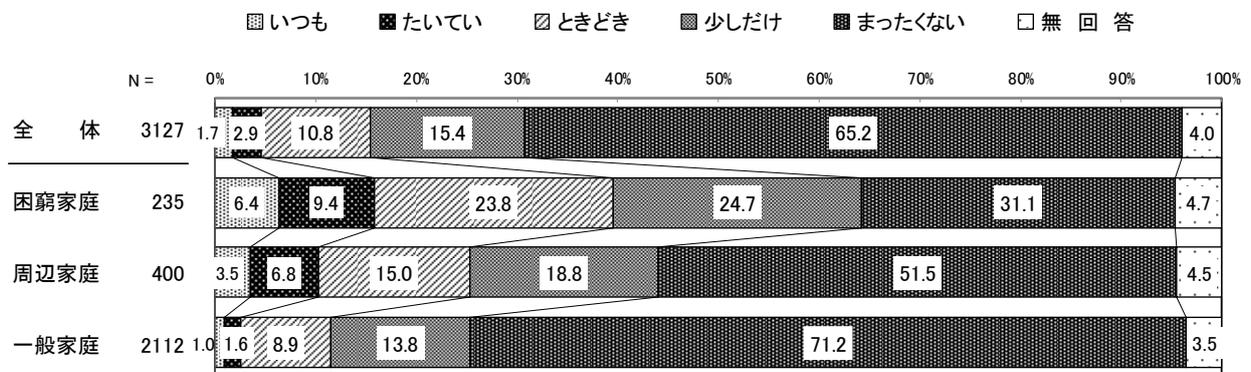


## 2) 絶望的だと感じた

H1問50保護者の気持ち ②絶望的だと感じた[%]

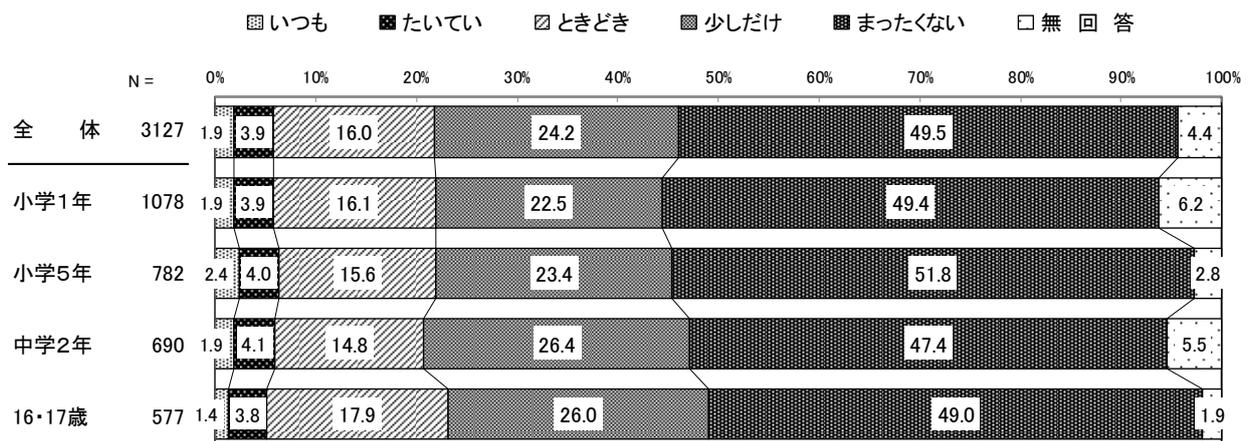


H1問50保護者の気持ち ②絶望的だと感じた[%]

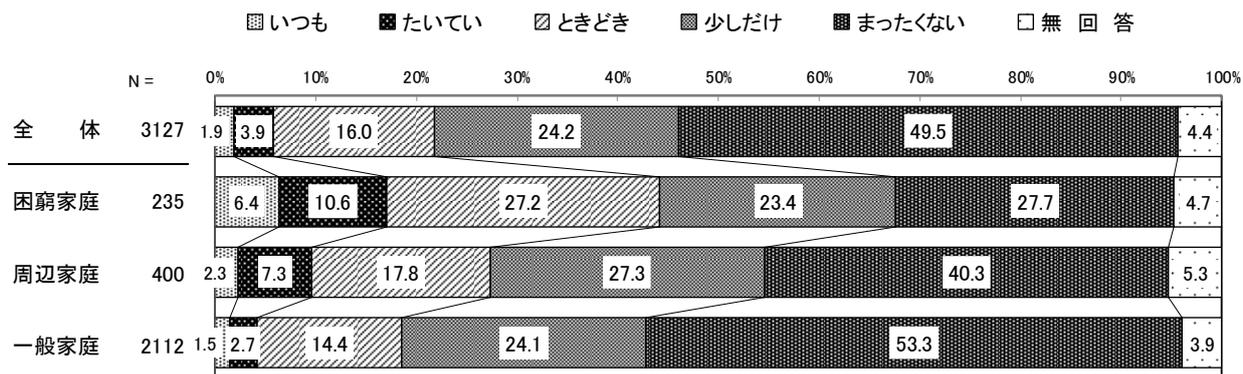


## 3) そわそわ、落ち着かなく感じた

H1問50保護者の気持ち ③落ち着かなく感じた[%]

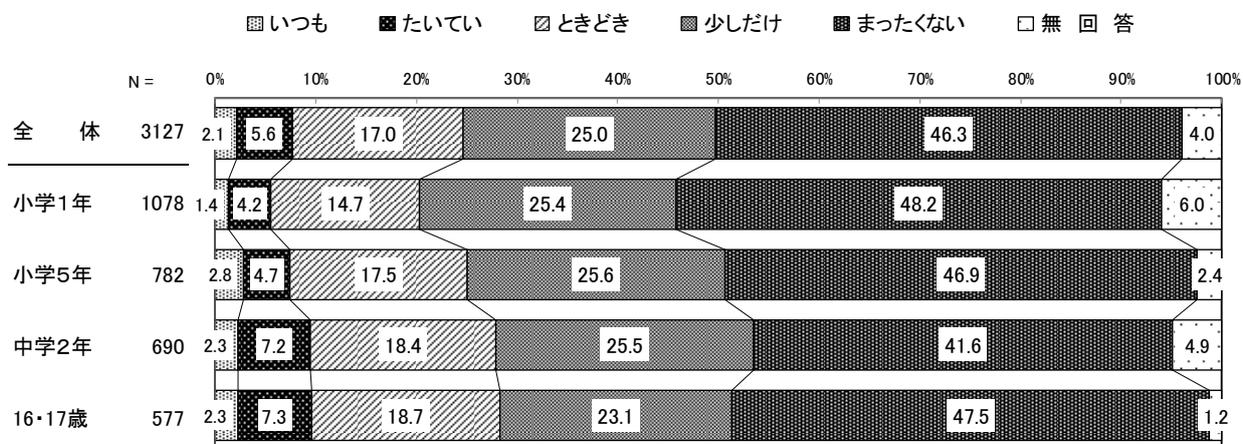


H1問50保護者の気持ち ③落ち着かなく感じた[%]

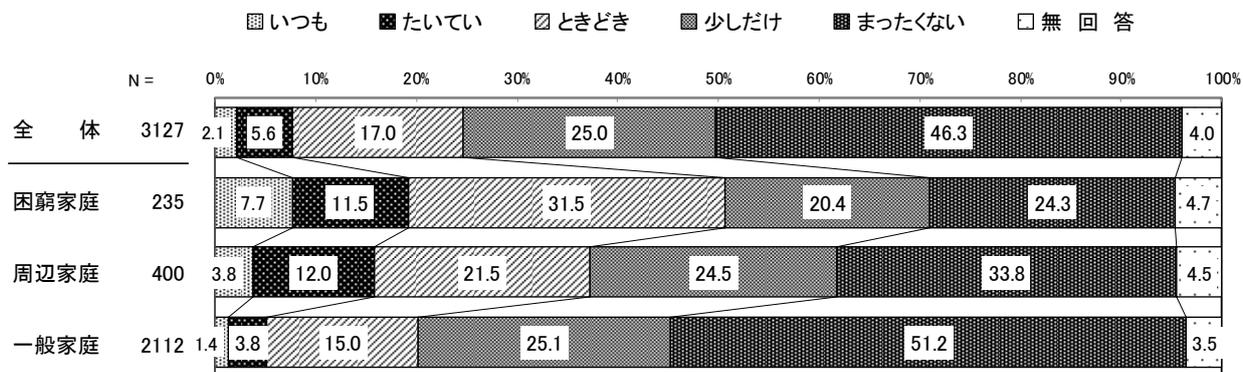


4) 気分が沈み込んで、何が起ころっても気が晴れないように感じた

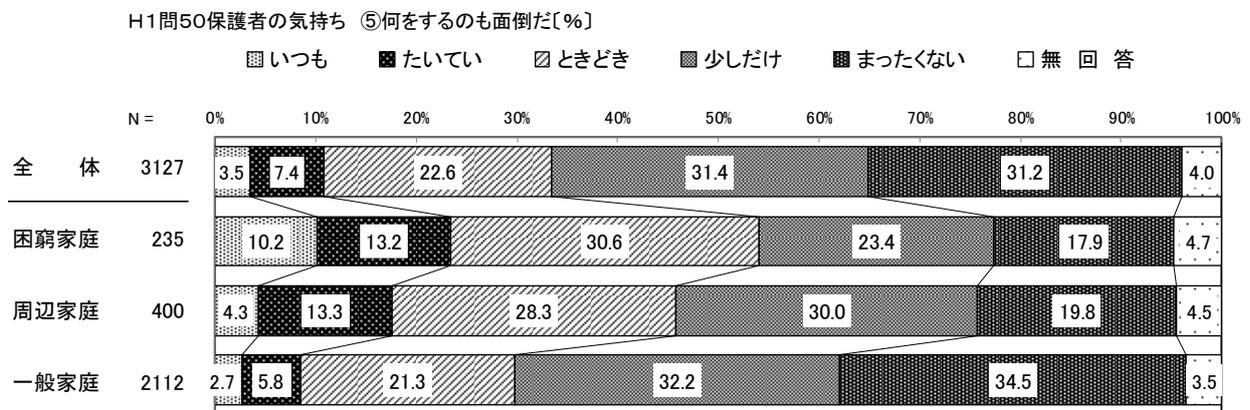
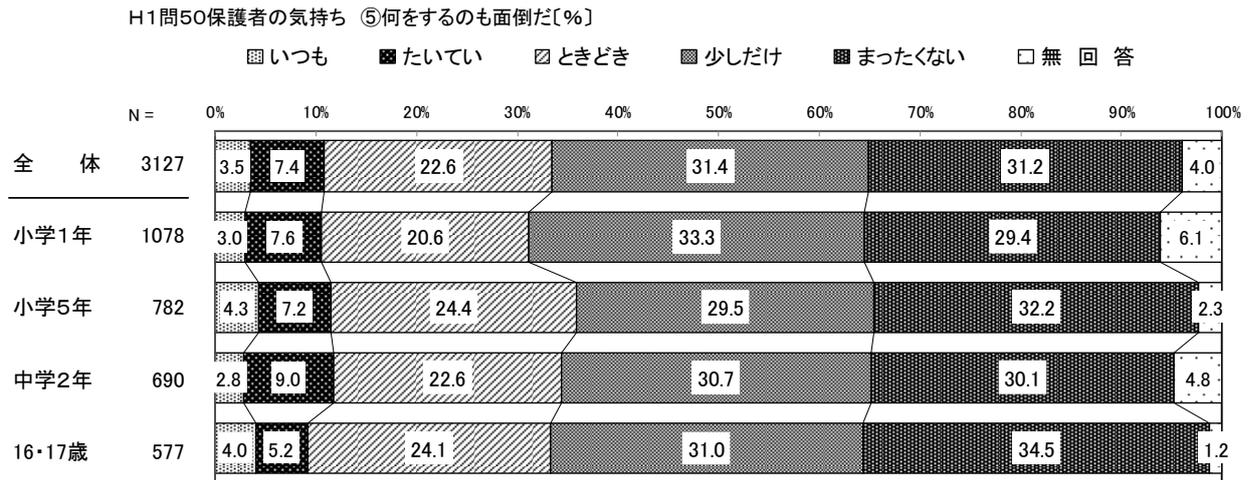
H1問50保護者の気持ち ④気が晴れないように感じた[%]



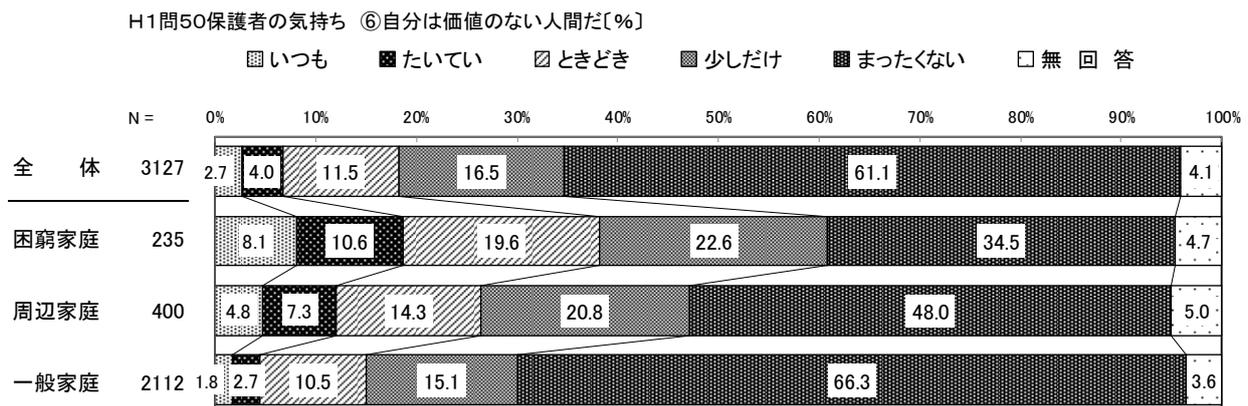
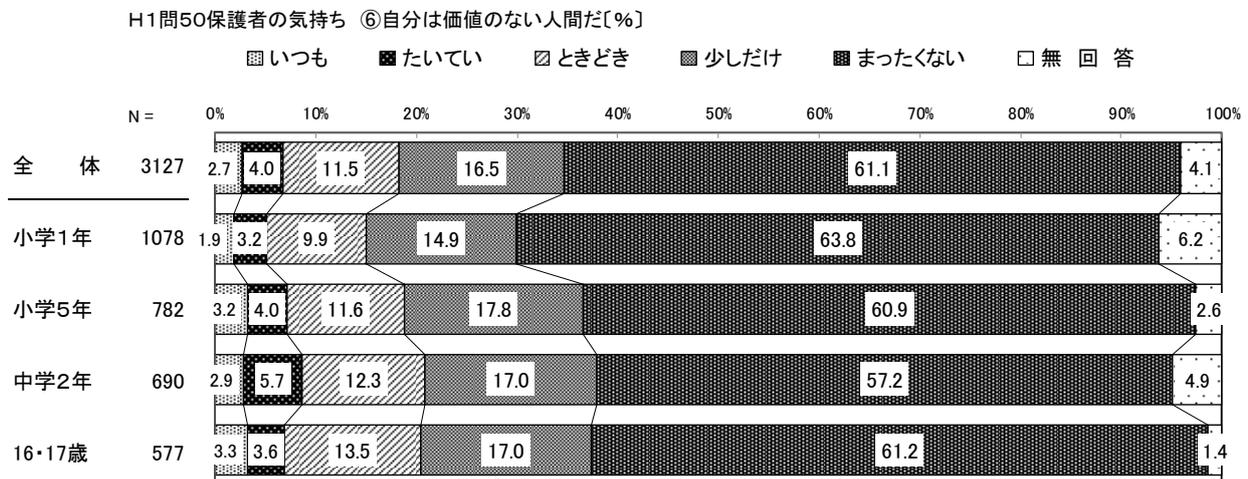
H1問50保護者の気持ち ④気が晴れないように感じた[%]



### 5) 何をするのも面倒だと感じた



### 6) 自分は価値のない人間だと感じた



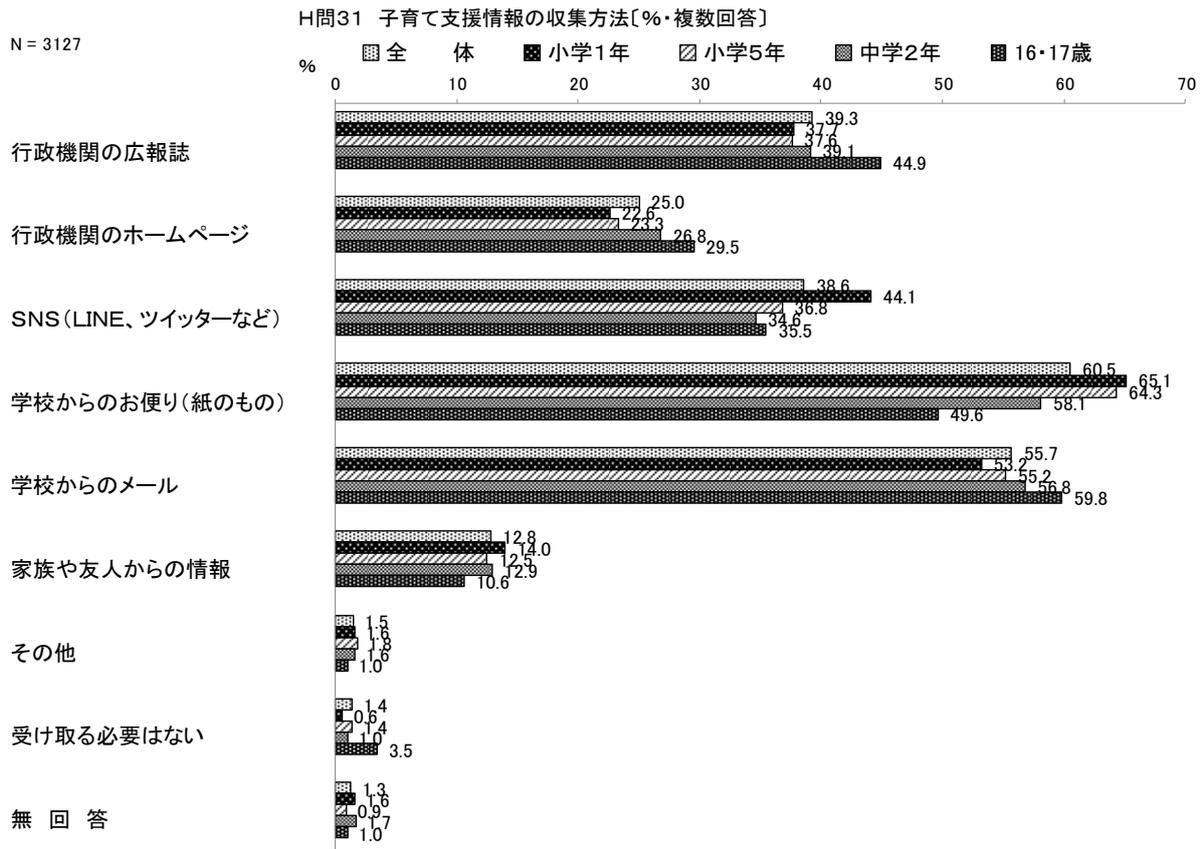
## (8) 公的支援の利用状況など

### ① 子どもに関する施策等の情報の希望の受け取り方法

問 31 あなたは、子どもに関する施策等の情報を、今後、どのような方法で受け取りたいですか。

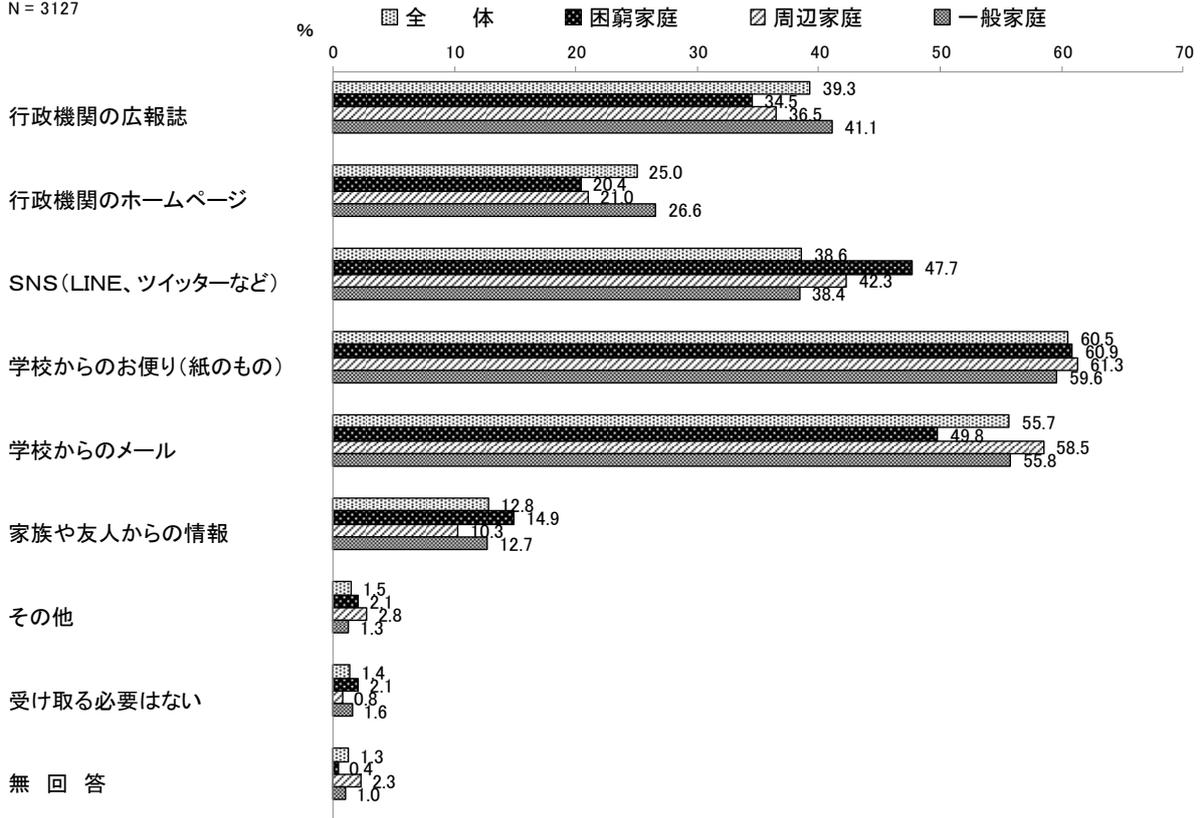
子育て支援情報の収集方法は、「学校からのお便り(紙のもの)」が 60.5%と最も多く、次いで「学校からのメール」が 55.7%となっている。なお、前回と比べて、「学校からのメール」は 37.6%から 55.7%に、「SNS(LINE、ツイッターなど)」は 14.0%から 38.6%と多くなっている。

生活困窮度別では、どの世帯も「学校からのお便り(紙のもの)」が最も多く回答されているが、困窮家庭は「SNS(LINE、ツイッターなど)」が 47.7%となっており、前回と同じ傾向となっている。



N = 3127

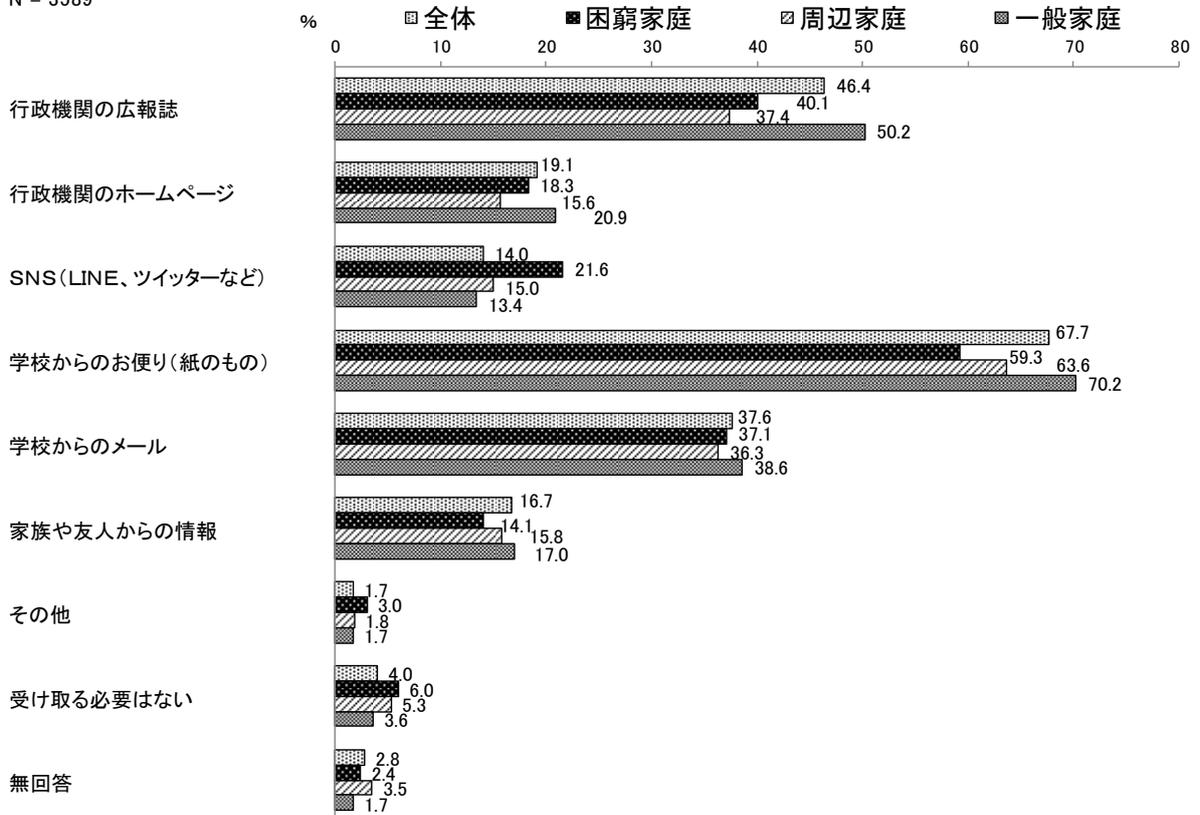
H問31 子育て支援情報の収集方法[%・複数回答]



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査)  
N = 3589

子どもに関する施策等の情報の希望の受け取りの方法[%・複数回答]

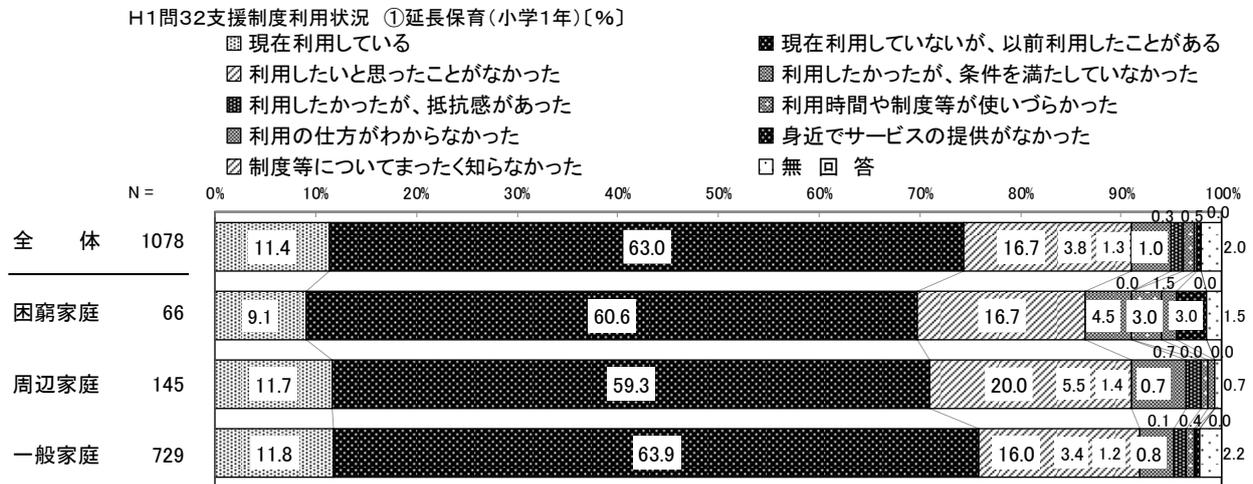


## ②支援制度の利用状況

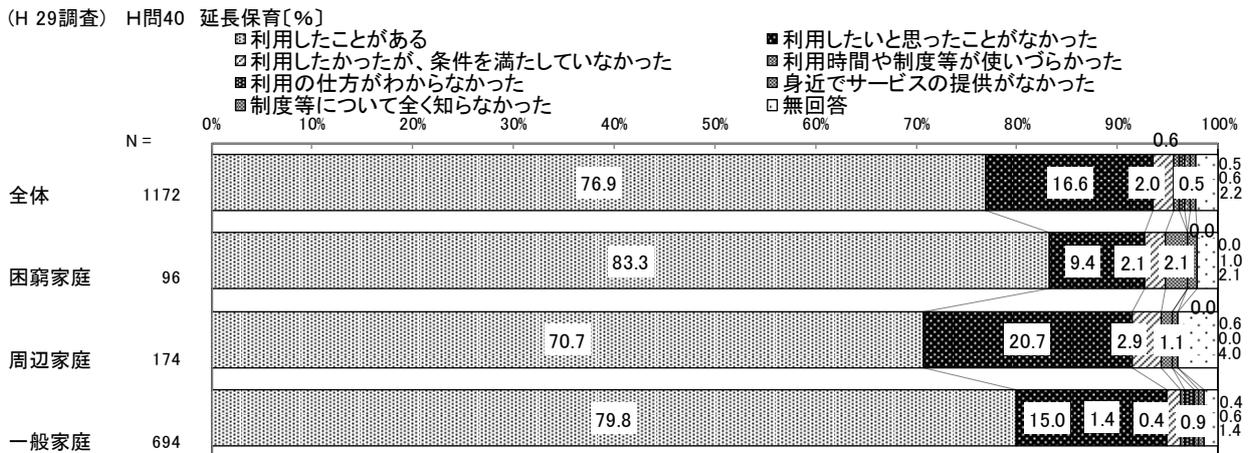
問 32 封筒の宛名のお子さんについて、以下の支援制度等をこれまでに利用したことがありますか。利用したことがない場合は、その理由に最も近いものに○をつけてください。

### 1) 延長保育（小学1年のみ）

延長保育の利用状況は、『利用したことがある』（「現在利用している」と「現在利用していないが、以前利用したことがある」の計）が74.4%と多い。



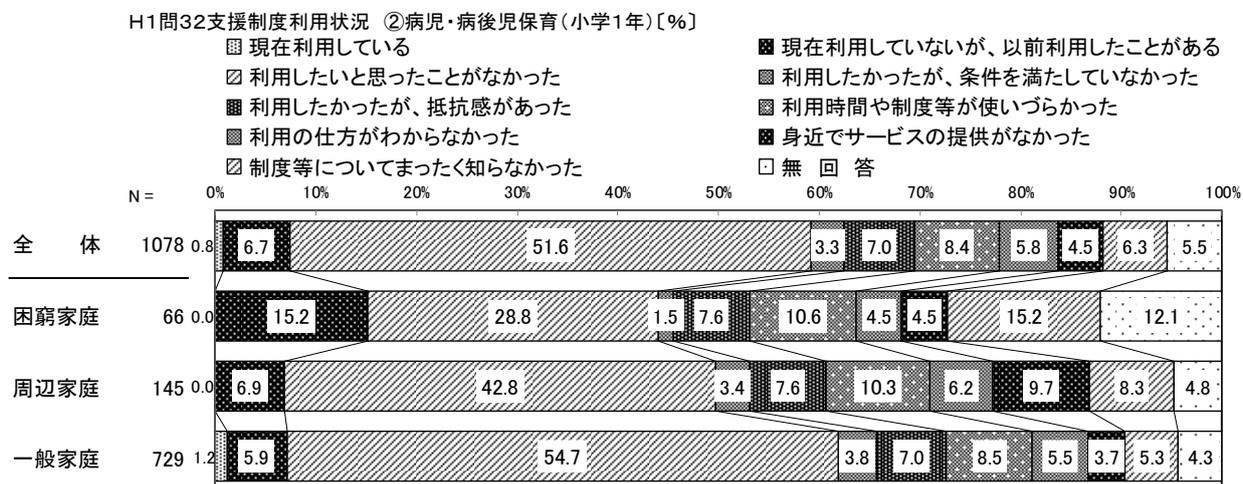
### [参考: 前回調査結果]



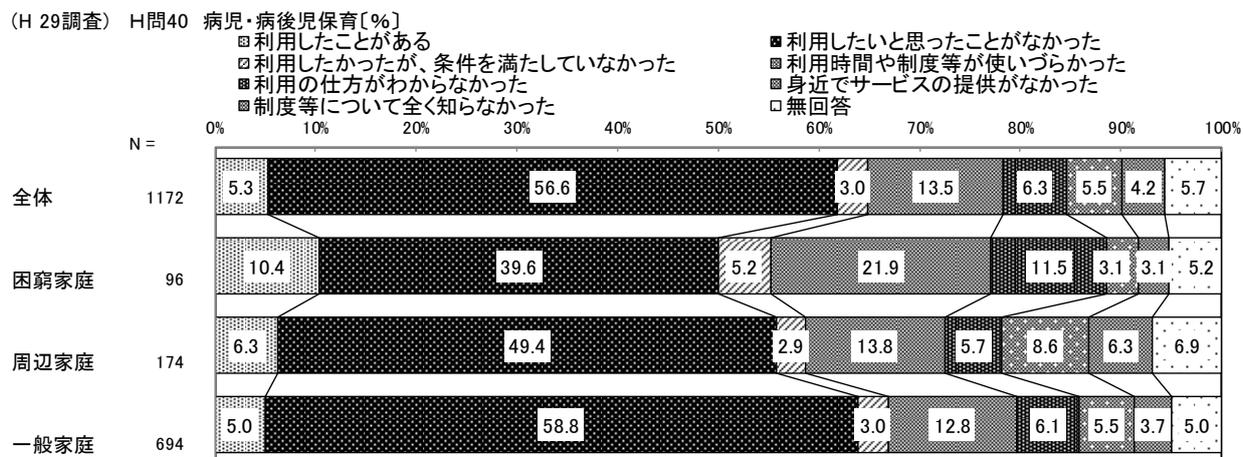
## 2) 病児・病後児保育（小学1年のみ）

病児・病後児保育の利用状況は、『利用したことがある』は 7.5%、「利用したいと思ったことがなかった」が 51.6%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「利用したいと思ったことがなかった」が 28.8%と他の区分に比べて少なく、「現在利用していないが、以前利用したことがある」と「制度等についてまったく知らなかった」がともに 15.2%と多く回答されている。



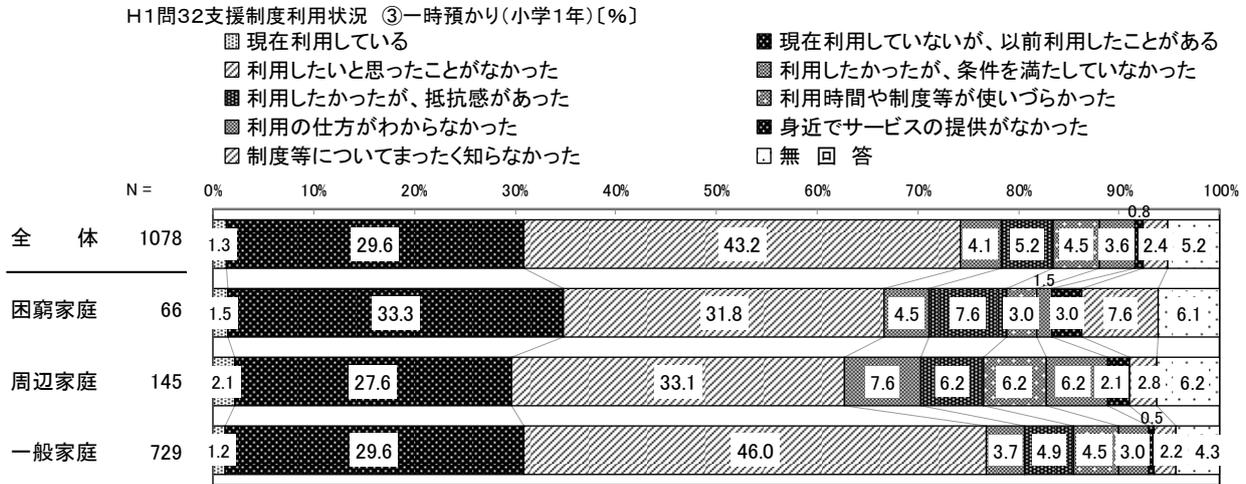
### [参考: 前回調査結果]



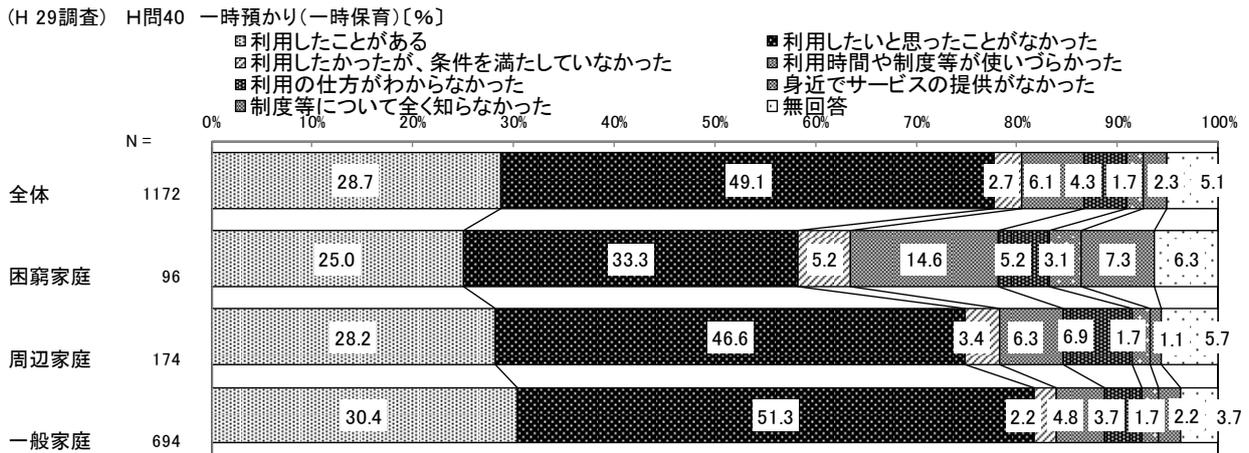
### 3) 一時預かり(一時保育)(小学1年のみ)

一時預かり(一時保育)の利用状況は、『利用したことがある』は 30.9%、「利用したいと思ったことがなかった」が43.2%などとなっている。

生活困窮度別では、生活困難家庭で「利用したいと思ったことがなかった」が30%台と一般家庭に比べて少ない。

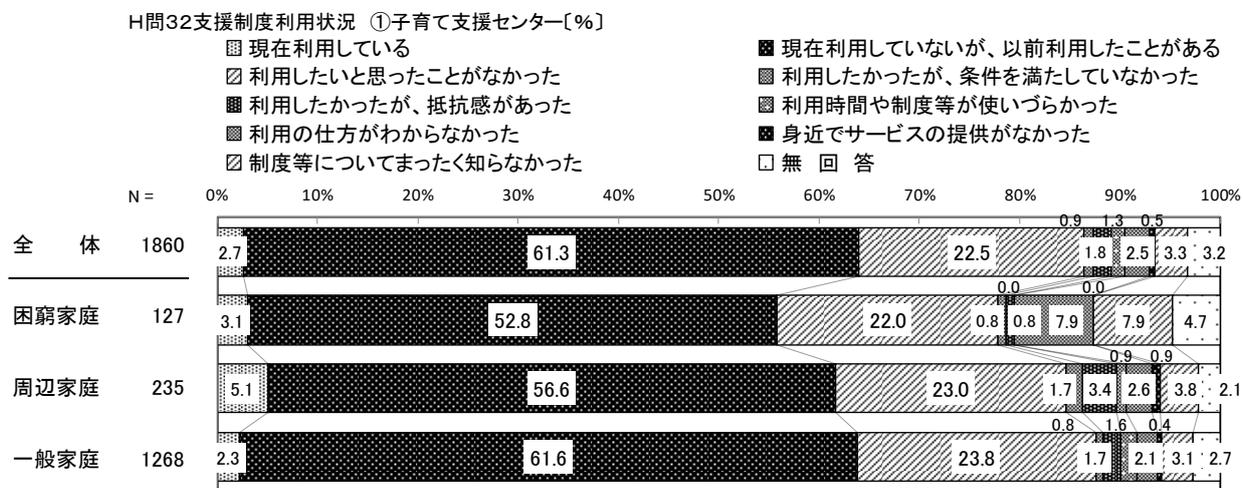
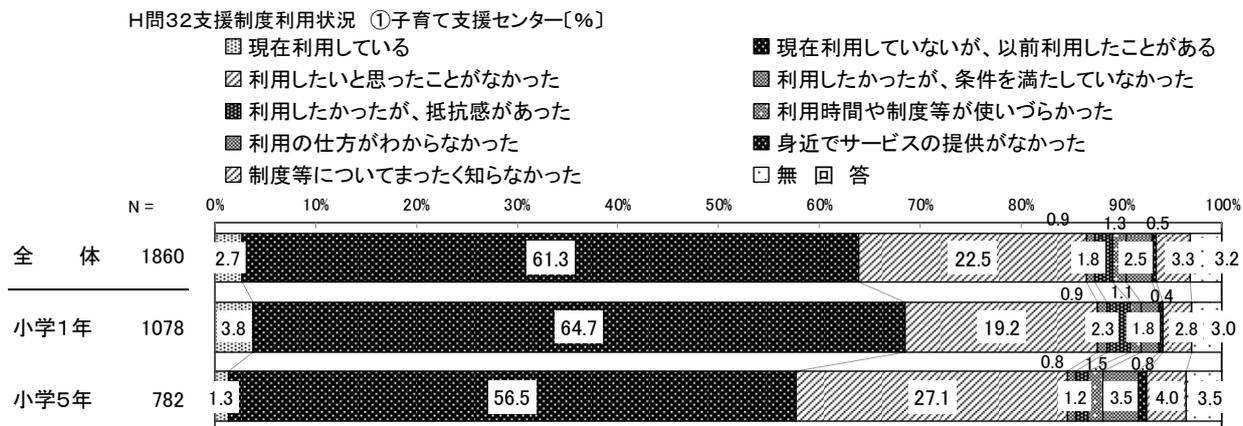


#### [参考: 前回調査結果]

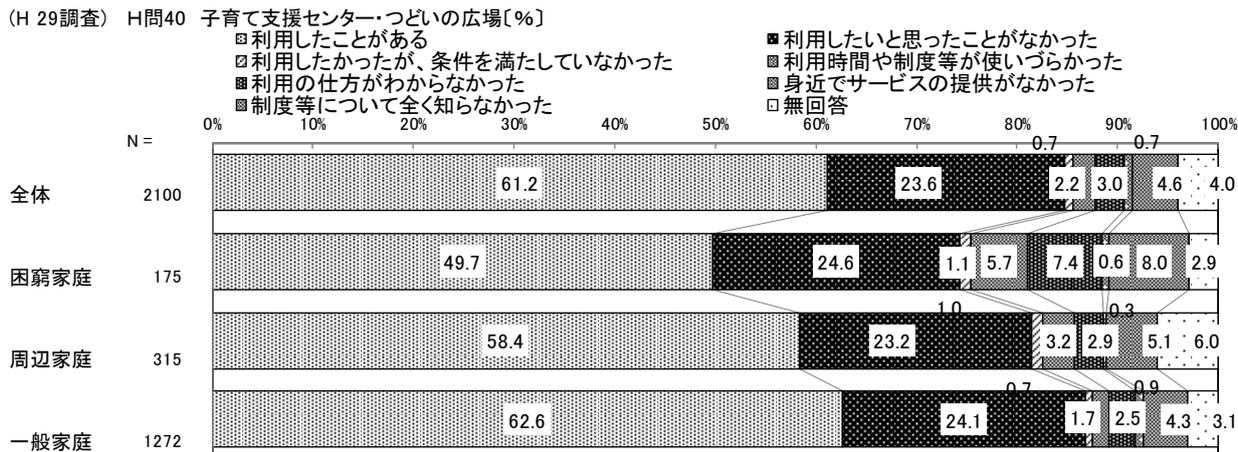


#### 4) 子育て支援センター・つどいの広場（小学1年・5年のみ）

子育て支援センター・つどいの広場の利用状況は、『利用したことがある』は 64.0%で、学年別では、小学1年で68.5%と多い。

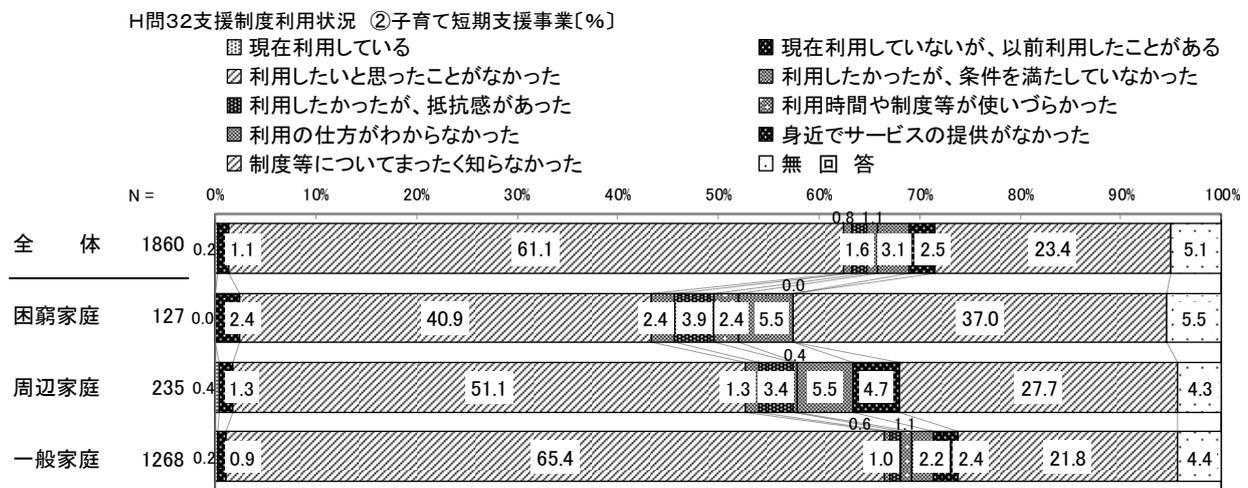
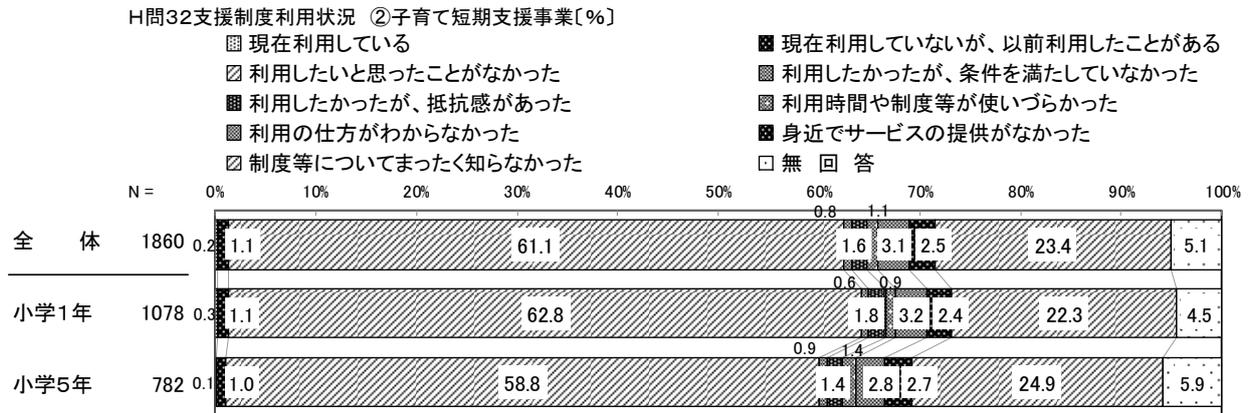


#### [参考: 前回調査結果]

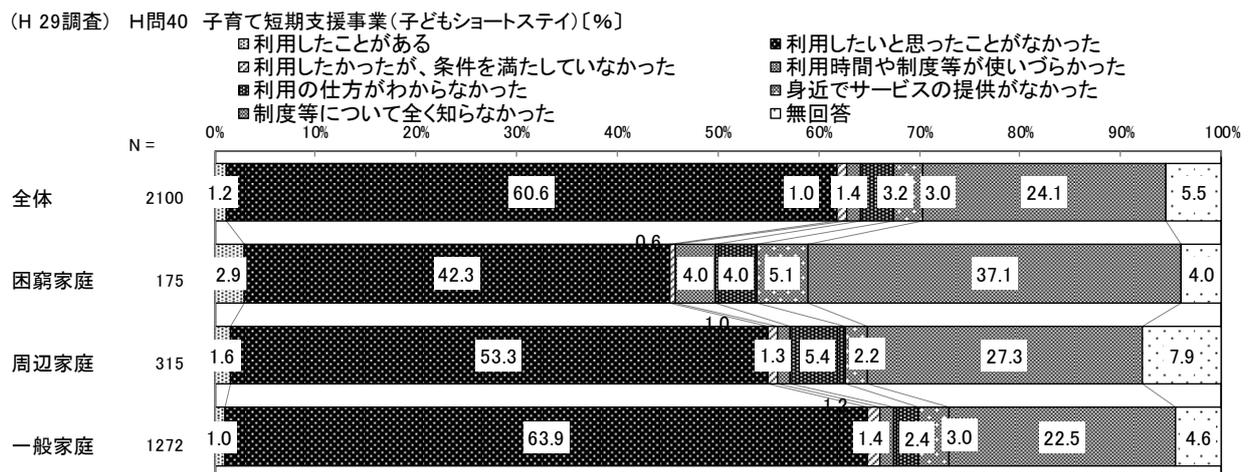


### 5) 子育て短期支援事業（子どもショートステイ）（小学1年・5年のみ）

子育て短期支援事業（子どもショートステイ）の利用状況は、『利用したことがある』が 1.3%、「利用したいと思ったことがなかった」が 61.1%、「制度等についてまったく知らなかった」が 23.4%などとなっている。

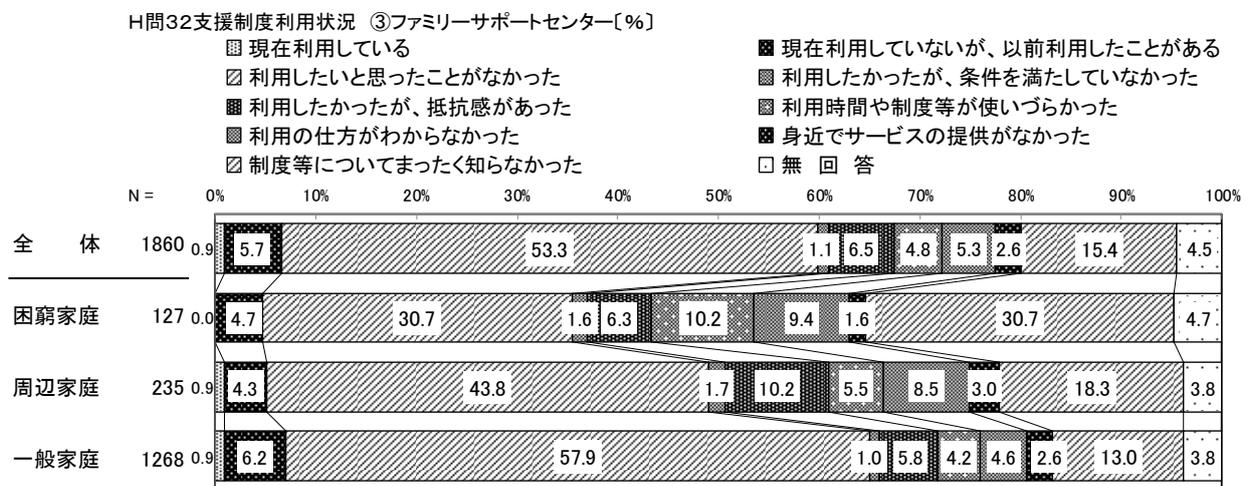
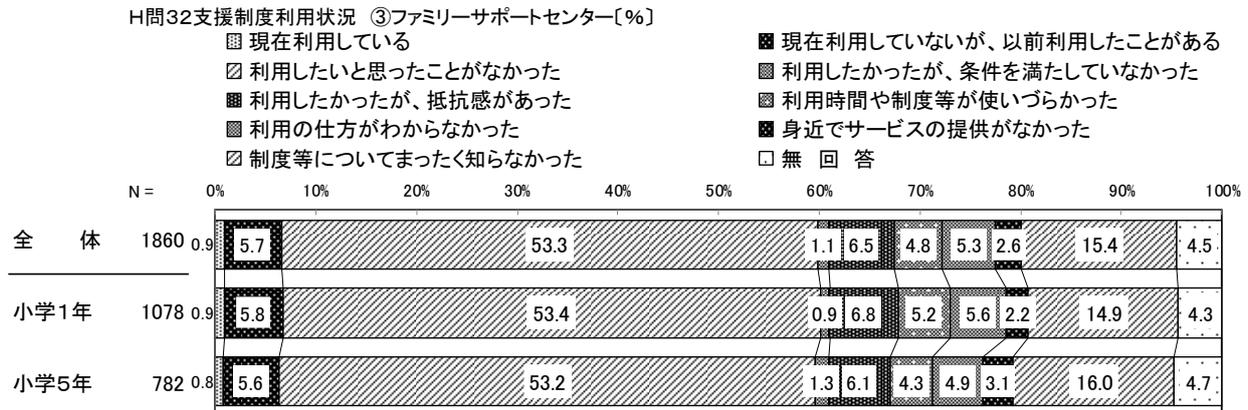


#### [参考: 前回調査結果]

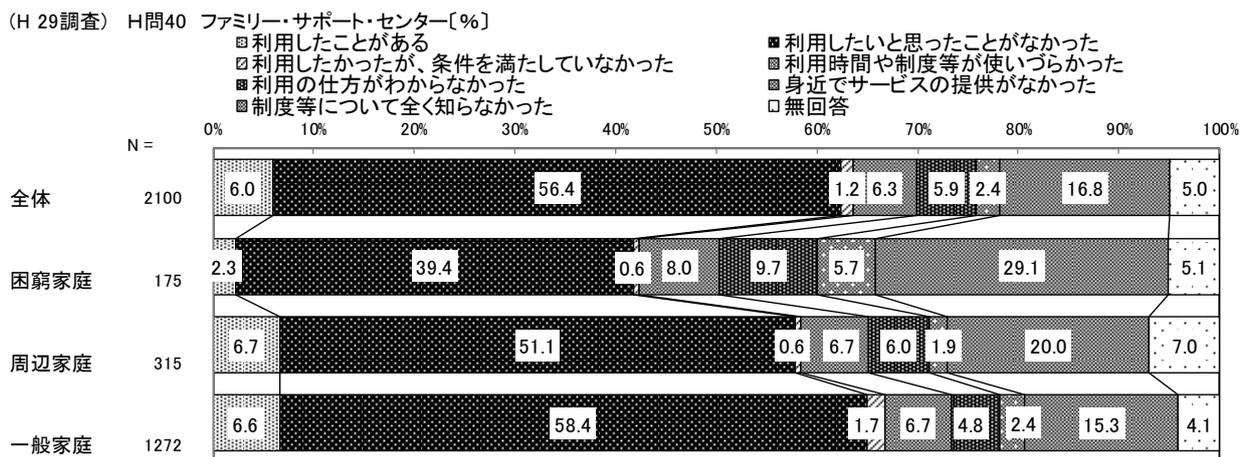


## 6) ファミリー・サポート・センター（小学1年・5年のみ）

ファミリー・サポート・センターの利用状況は、『利用したことがある』が6.6%、「利用したいと思ったことがなかった」が53.3%、「制度等についてまったく知らなかった」が15.4%などとなっている。



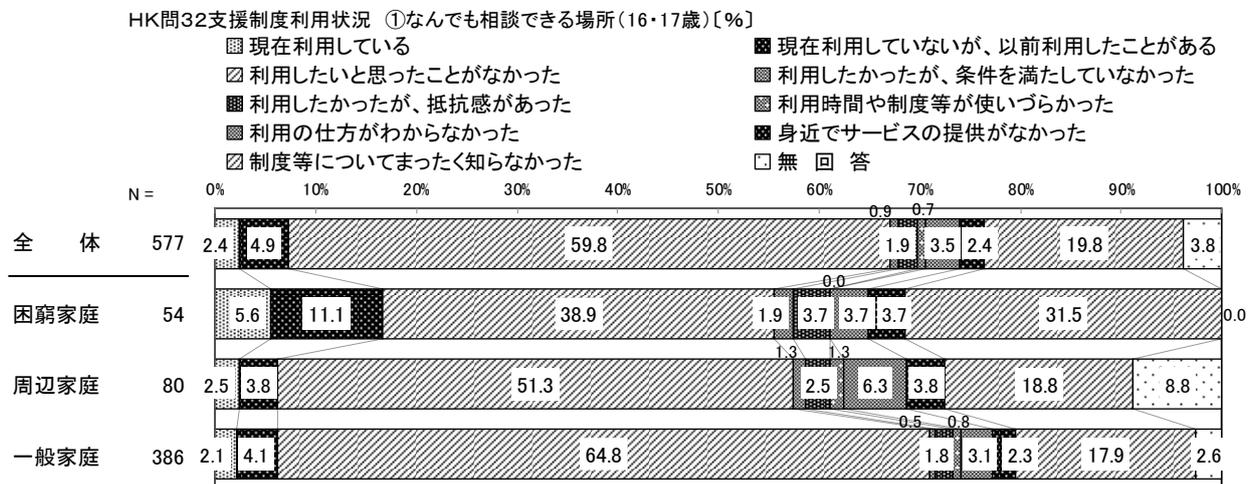
[参考: 前回調査結果]



7) (学校以外で) 16~17 歳の子どもについて、何でも相談できる場所 (16・17 歳のみ)

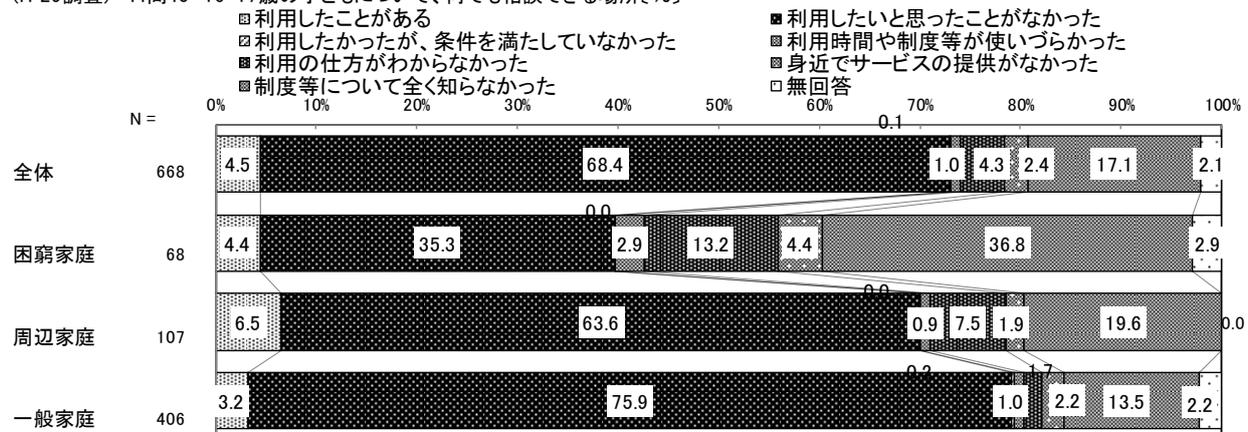
学校以外でなんでも相談できる場所の利用状況について、『利用したことがある』が 7.3%、「利用したいと思ったことがなかった」が、59.8%、「制度等についてまったく知らなかった」が 19.8%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「制度等についてまったく知らなかった」が 31.5%、『利用したことがある』が 16.7%と多い。



[参考: 前回調査結果]

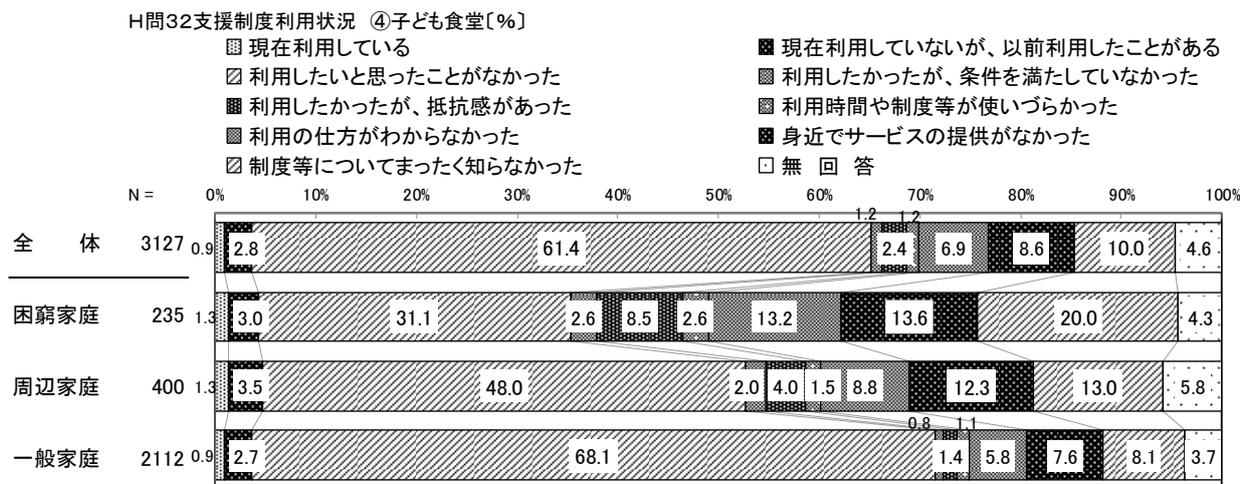
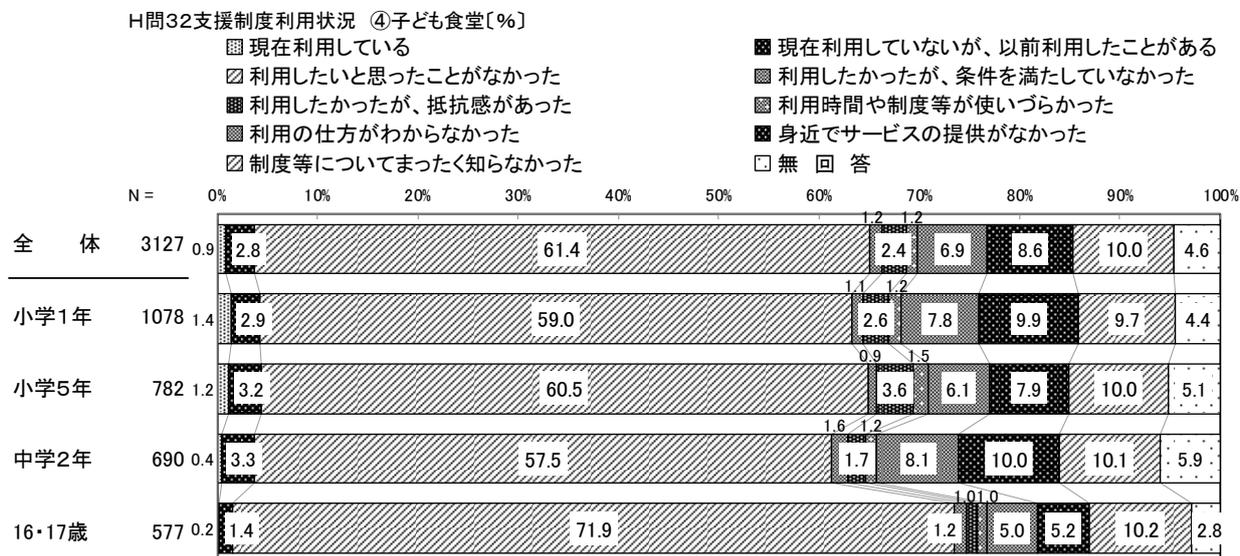
(H 29調査) H問40 16・17歳の子どもについて、何でも相談できる場所 [%]



## 8) 子ども食堂

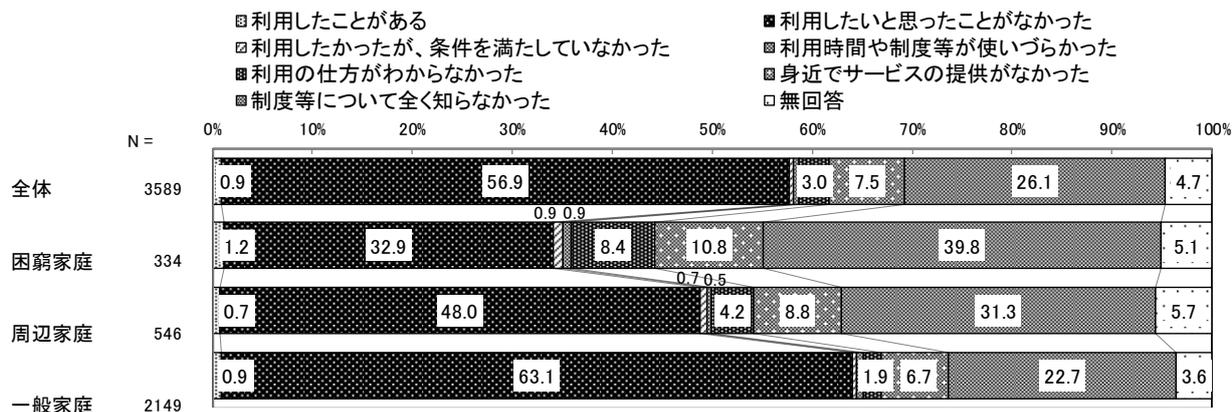
子ども食堂の利用状況は、『利用したことがある』は 3.7%、「利用したいと思ったことがなかった」が 61.4%などとなっている。

生活困窮度別では、「利用したいと思ったことがなかった」は困窮家庭で 31.1%、周辺家庭で 48.0%と少なく、困窮家庭で「制度等についてまったく知らなかった」が 20.0%回答されている。また、前回と比べて、全区分で「制度等についてまったく知らなかった」の回答割合は少なくなっている。



### [参考: 前回調査結果]

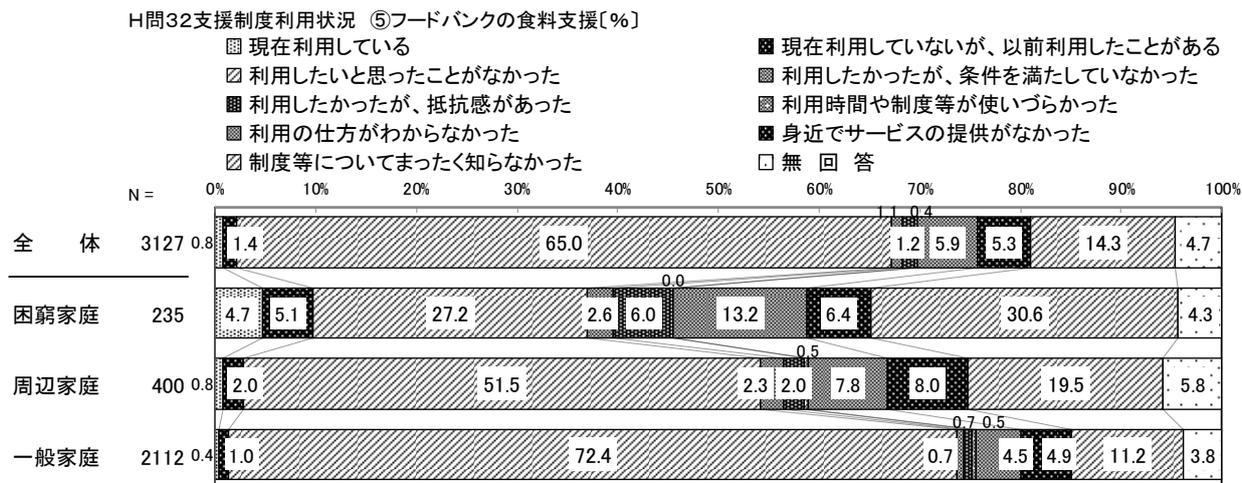
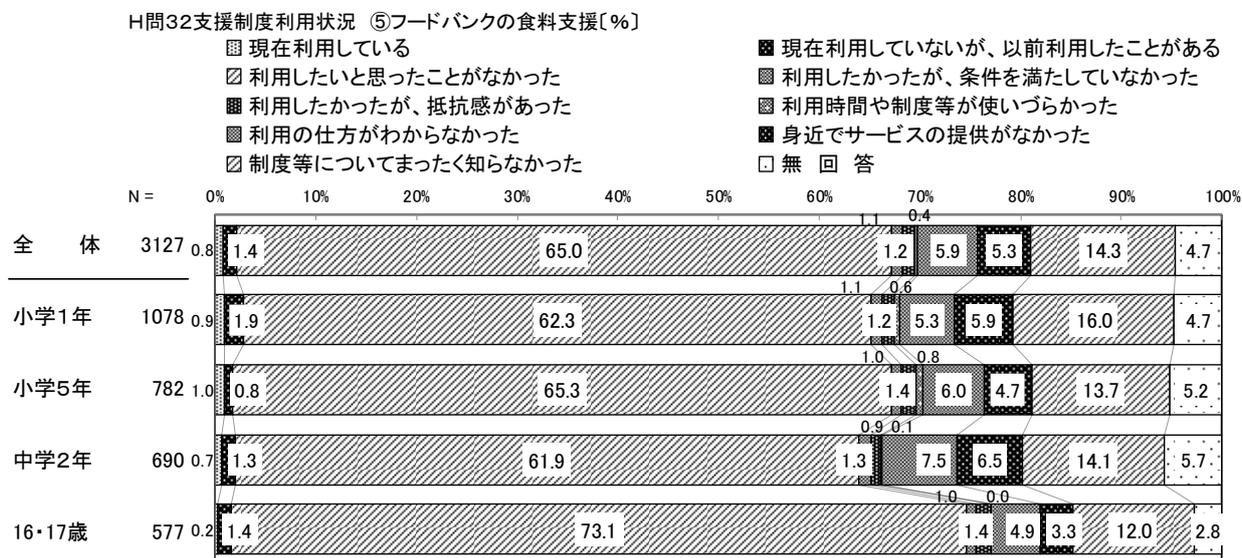
#### (H 29調査) 子ども食堂[%]



### 9) フードバンクによる食料支援

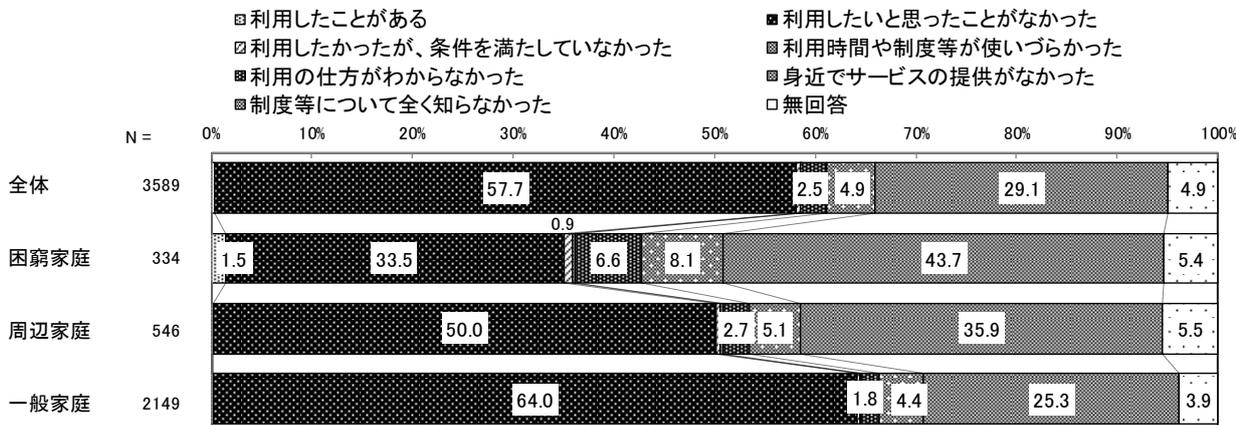
フードバンクによる食料支援の利用状況は、『利用したことがある』は 2.2%、「利用したいと思ったことがなかった」が 65.0%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で他の区分よりも「利用したいと思ったことがなかった」は 27.2%と少なく、『利用したことがある』は 9.8%と約1割が回答している。また、前回と比べて、全区分で「制度等についてまったく知らなかった」の回答割合は少なくなっている。



#### [参考: 前回調査結果]

(H 29調査) フードバンクによる食料支援[%]



10) 小学校高学年も利用できる児童館や児童クラブ(小学5年のみ)・中学生以上の子どもが自由に時間を過ごせる場所(中学2年・16・17歳のみ)

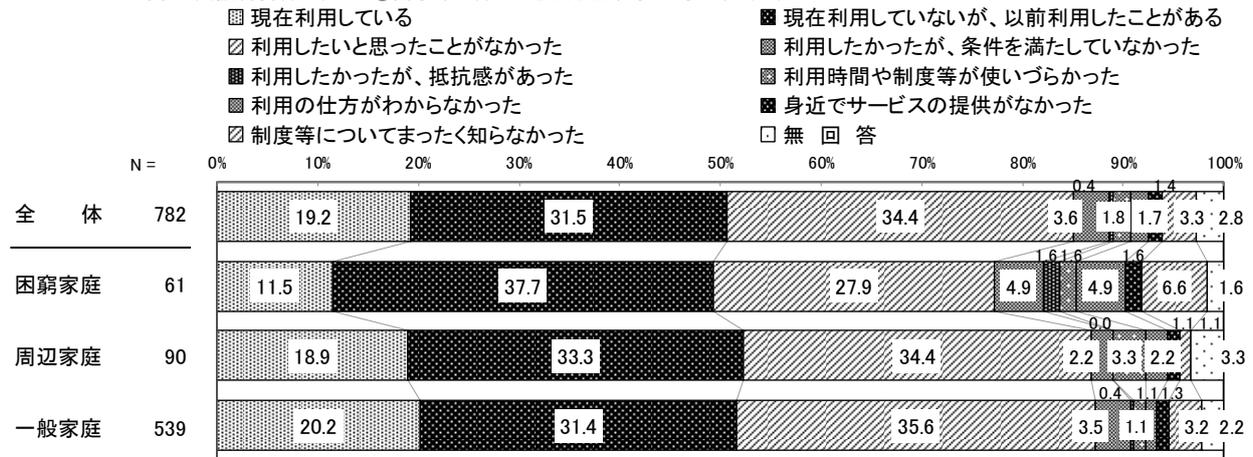
小学校高学年も利用できる児童館や児童クラブ(小学5年生)の利用状況は、『利用したことがある』が50.7%、「利用したいと思ったことがなかった」が34.4%などとなっている。

中学生以上の子どもが自由に時間を過ごせる場所の利用状況は、『利用したことがある』は6.6%、「利用したいと思ったことがなかった」が51.1%、「制度等についてまったく知らなかった」が21.2%である。

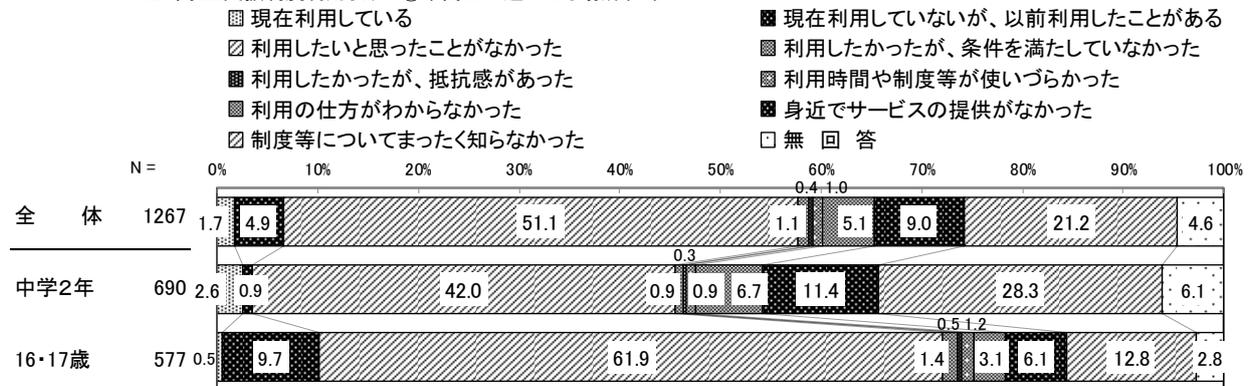
学年別では、16・17歳で『利用したことがある』は10.2%、「利用したいと思ったことがなかった」が61.9%である。

生活困窮度別では、「利用したいと思ったことがなかった」は困窮家庭で28.7%、周辺家庭で38.2%と少なく、「制度等についてまったく知らなかった」は困窮家庭で34.3%と他の区分よりも多い。

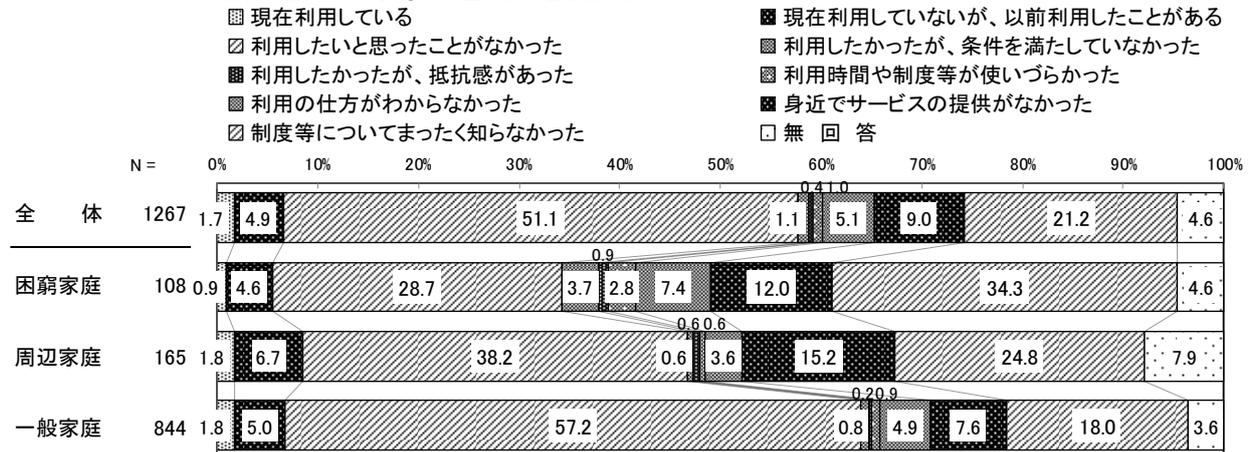
H2問32支援制度利用状況 ⑥高学年も利用できる児童館等(小学5年)[%]



H2K問32支援制度利用状況 ③中高生が過ごせる場所[%]

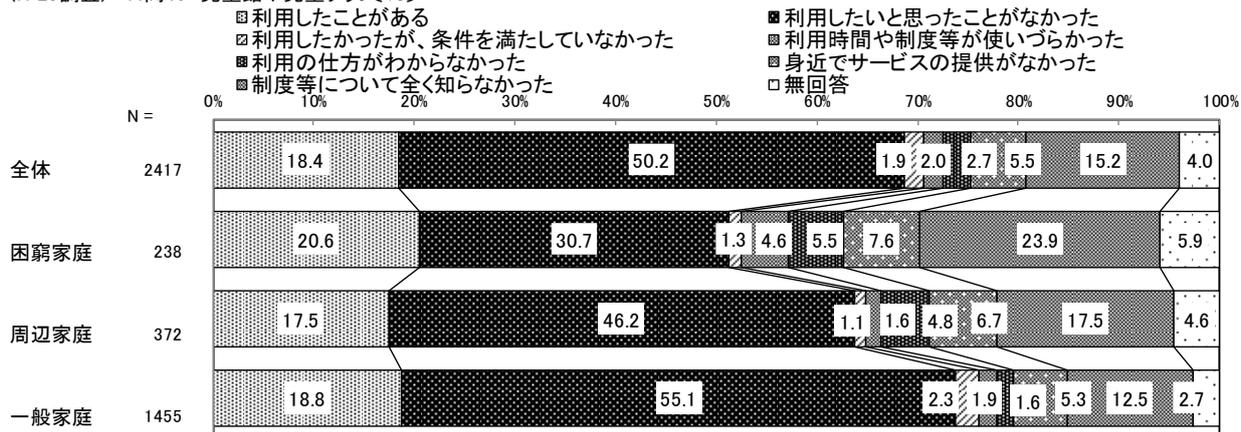


H2K問32支援制度利用状況 ③中高生が過ごせる場所[%]



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) H問40 児童館や児童クラブ[%]



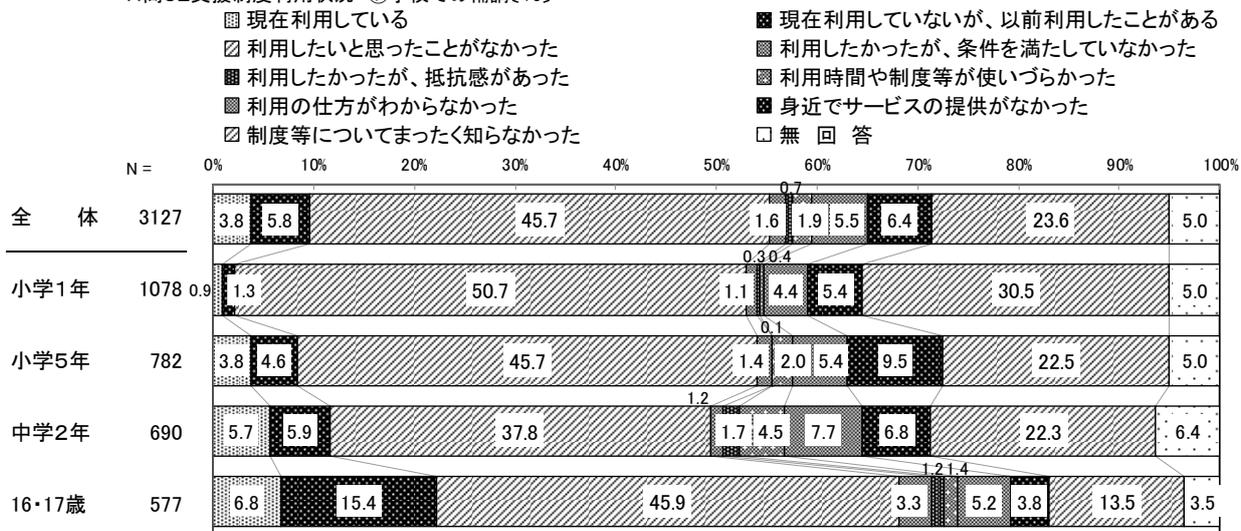
11) 学校が実施する補講（学習支援）

学校が実施する補講(学習支援)の利用状況は、『利用したことがある』が 9.6%、「利用したいと思ったことがなかった」が 45.7%、「制度等についてまったく知らなかった」が 23.6%などとなっている。

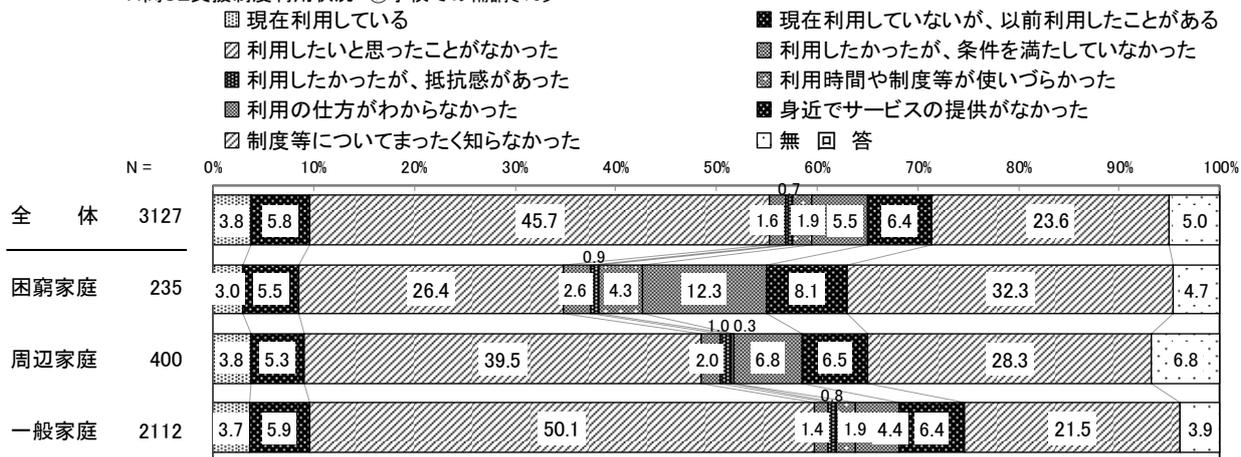
学年別では、『利用したことがある』は、小学1年で 2.2%だが学年が上がる割合が高くなり、16・17歳で 22.2%である。「制度等についてまったく知らなかった」は小学1年で 30.5%である。

生活困窮度別では、「利用したいと思ったことがなかった」が困窮家庭で 26.4%と少なく、「制度等についてまったく知らなかった」が 32.3%と多い。

H問32支援制度利用状況 ⑦学校での補講[%]

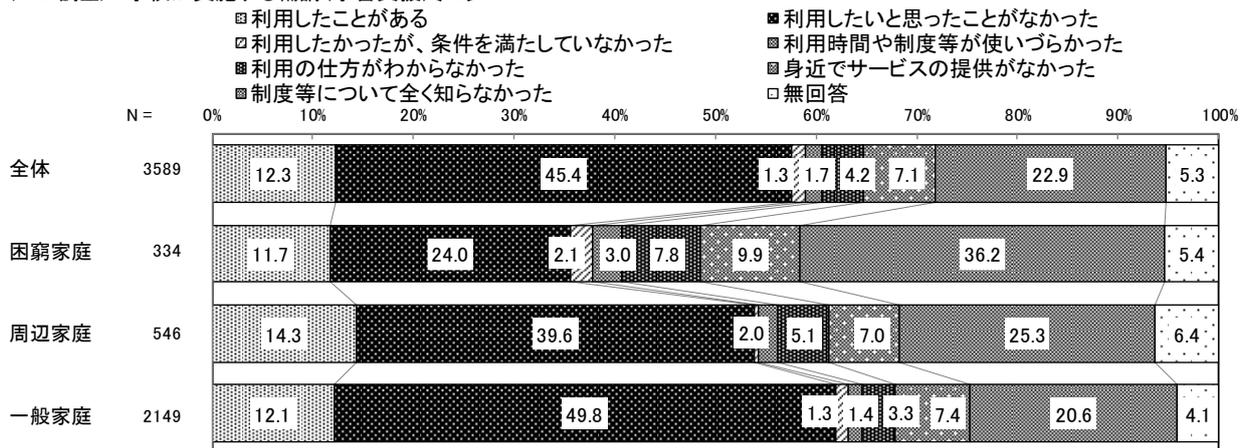


H問32支援制度利用状況 ⑦学校での補講[%]



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 学校が実施する補講(学習支援) [%]



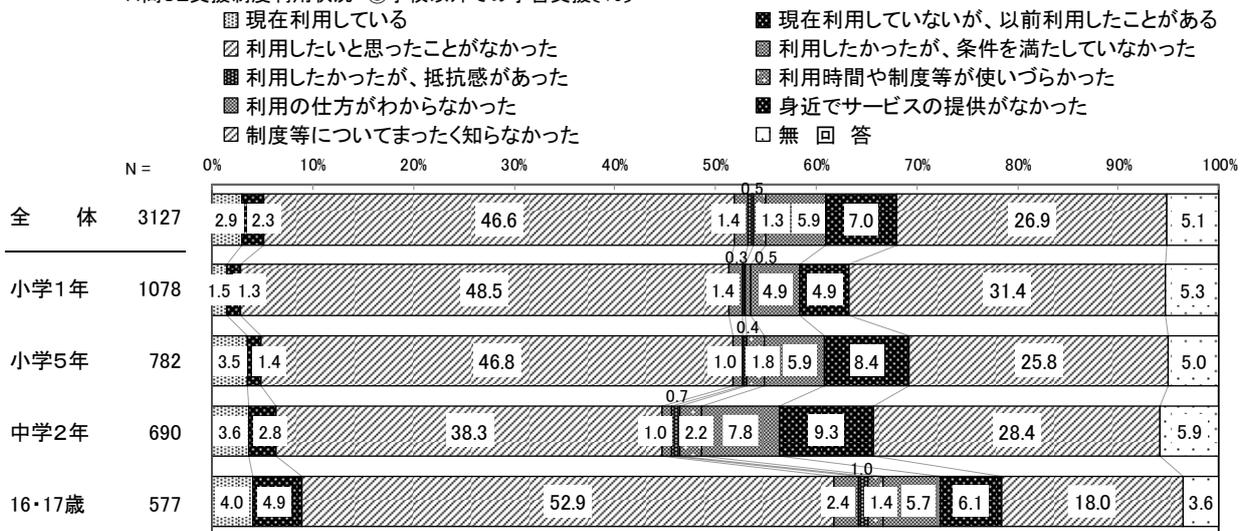
12) 学校以外が実施する学習支援

学校以外が実施する学習支援の利用状況は、『利用したことがある』が 5.2%、「利用したいと思ったことがなかった」が 46.6%、「制度等についてまったく知らなかった」が 26.9%などとなっている。

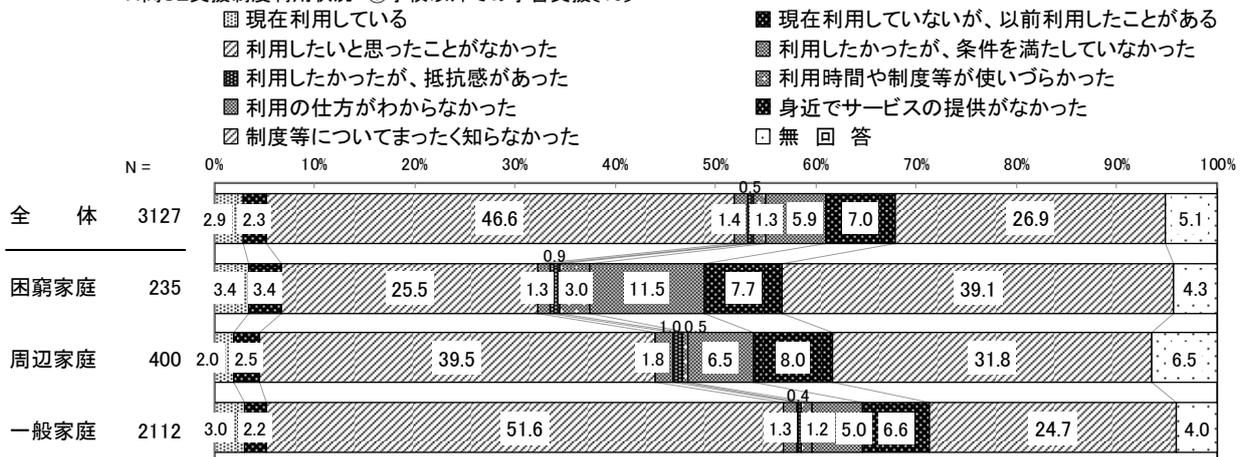
学年別では、16・17 歳で「利用したいと思ったことがなかった」が 52.9%と多く、「制度等についてまったく知らなかった」が 18.0%と少ない。

生活困窮度別では、「利用したいと思ったことがなかった」が困窮家庭で 25.5%と少なく、「制度等についてまったく知らなかった」が 39.1%と多い。

H問32支援制度利用状況 ⑧学校以外での学習支援 [%]

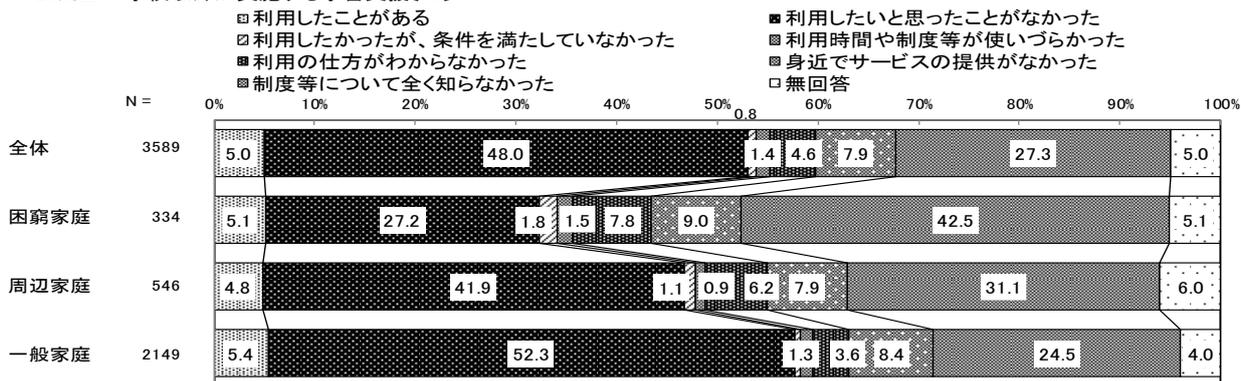


H問32支援制度利用状況 ⑧学校以外での学習支援 [%]



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 学校以外が実施する学習支援[%]



③支援サービスの利用希望

[希望する子育て支援サービス]

問 33 今後、充実を希望する子育て支援サービスは何ですか。

希望する子育て支援サービスについて、「子どもの就学に係る費用の軽減」が 52.6%と最も多く、次いで「子どもの医療費の軽減の充実」が 35.5%である。前回と比べて、「子どもの就学に係る費用の軽減」は多くなっている。

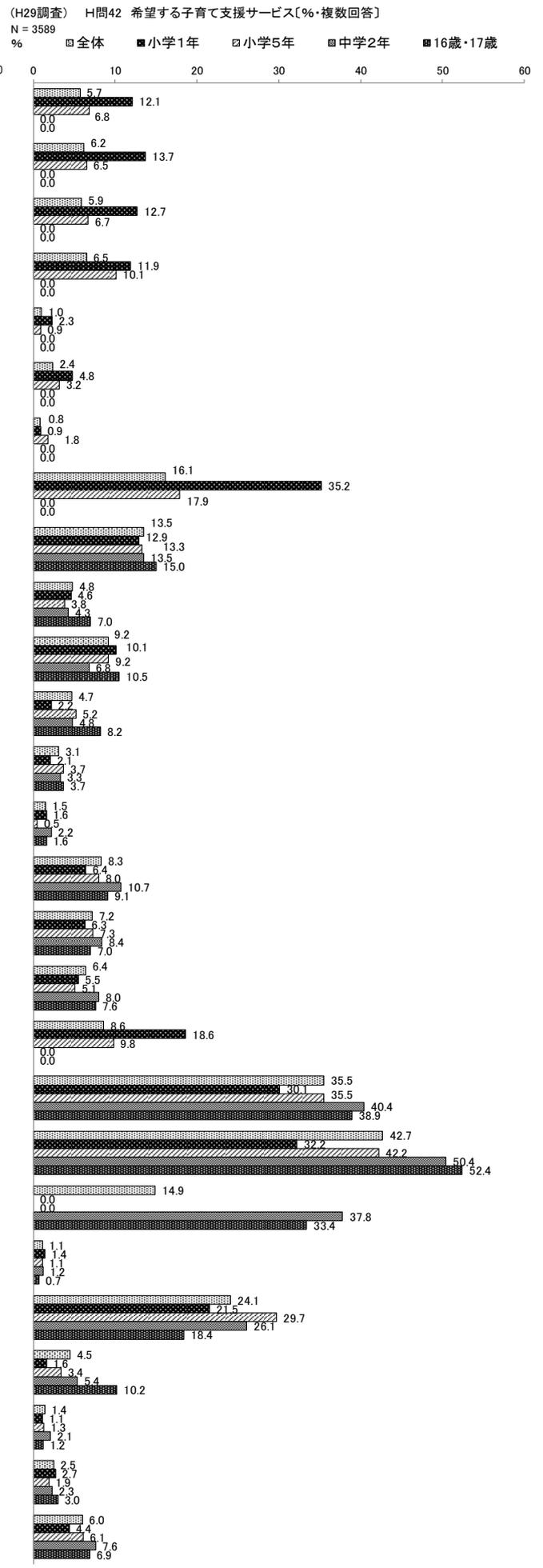
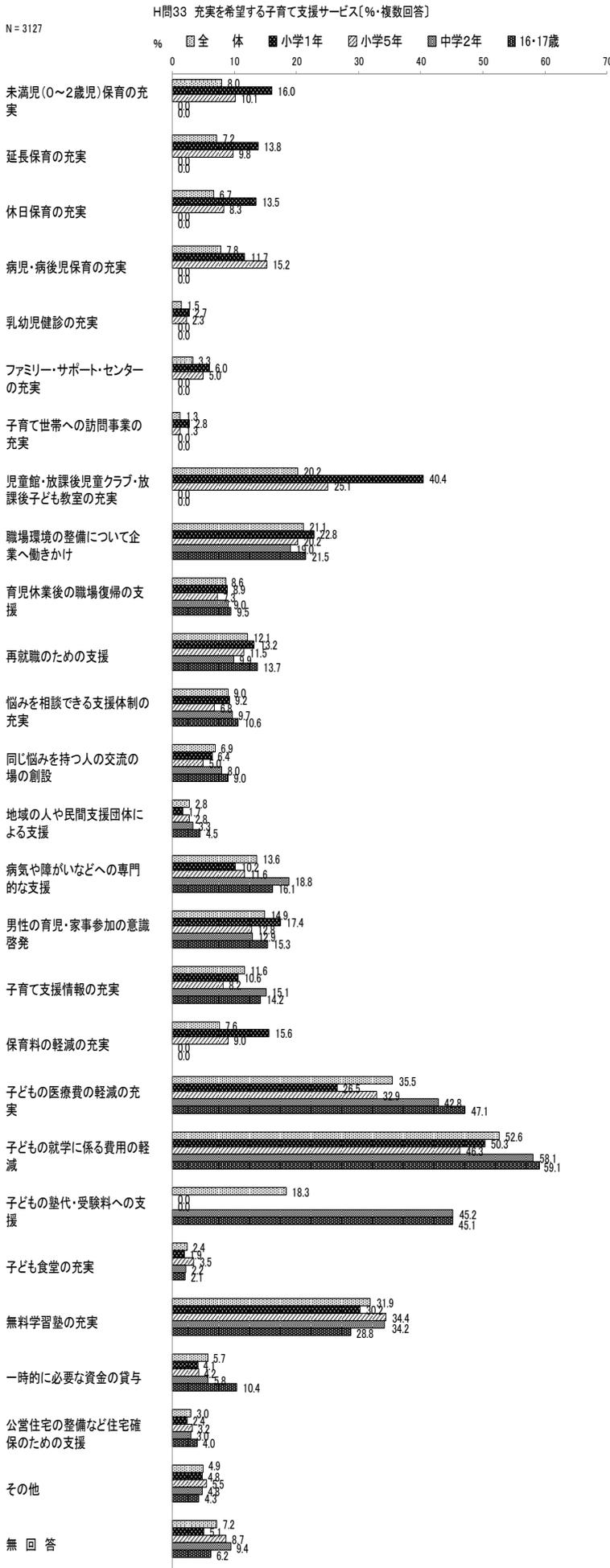
学年別では、各学年で「子どもの就学に係る費用の軽減」が最も多く、小学1年で「児童館・放課後児童クラブ・放課後子ども教室の充実」が 40.4%、中学2年と 16・17 歳で「子どもの塾代、受験料への支援」もそれぞれ 45%程度と多い。

生活困窮度別では、困窮家庭で「子どもの就学に係る費用の軽減」が 65.5%、「無料学習塾の充実」が 44.7%などとなっており、上位5位に挙げられた項目のうち「医療費の軽減」以外の項目について、前回よりも回答割合が多くなっている。

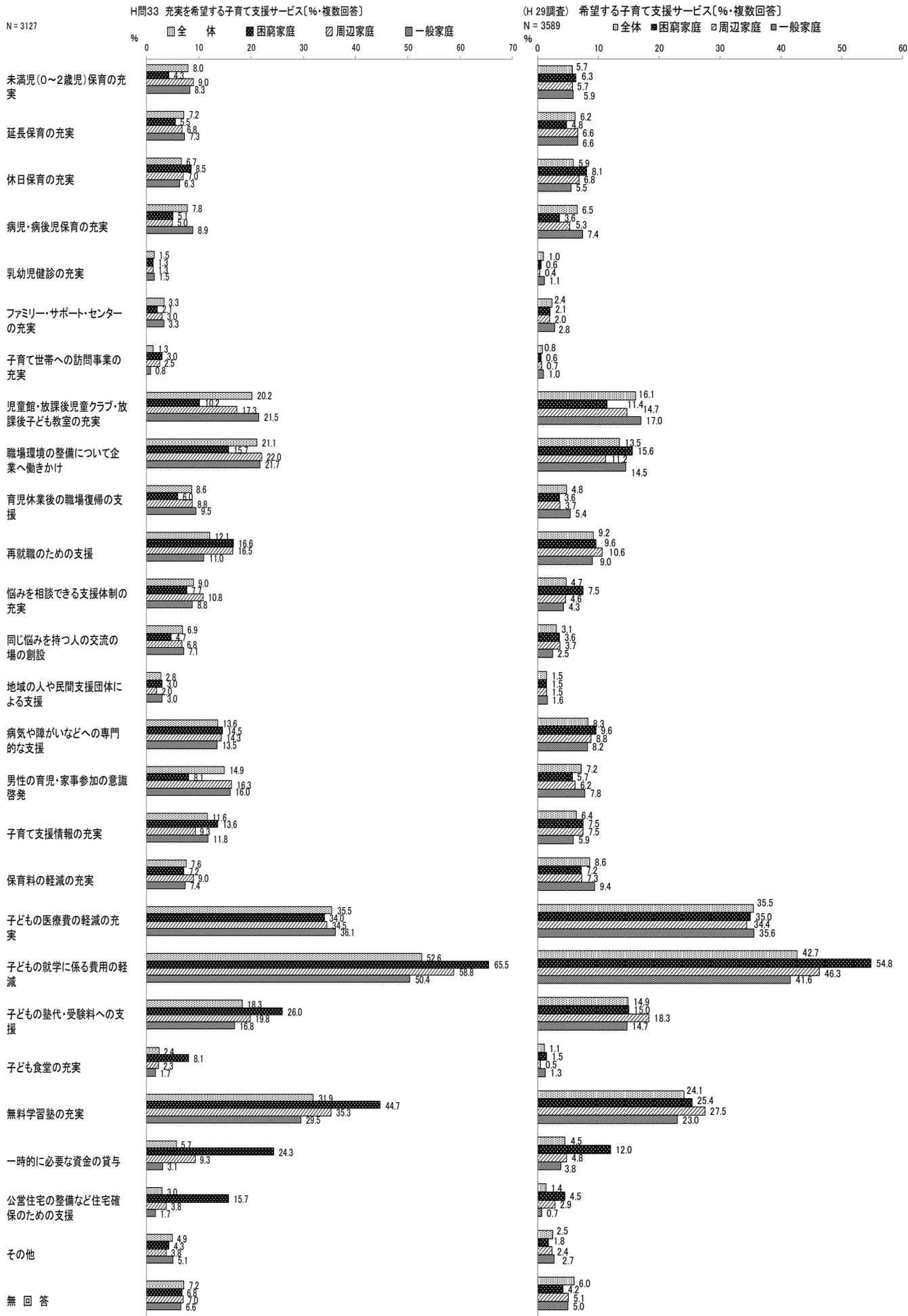
希望する子育て支援サービス(上位5位)

	1位	2位	3位	4位	5位
全体	子どもの就学に係る費用の軽減 (52.6%)	子どもの医療費の軽減の充実 (35.5%)	無料学習塾の充実 (31.9%)	職場環境の整備について企業へ働きかけ (21.1%)	児童館・放課後児童クラブ・放課後子ども教室の充実 (20.2%)
困窮家庭	子どもの就学に係る費用の軽減 (65.5%)	無料学習塾の充実 (44.7%)	子どもの医療費の軽減の充実 (34.0%)	職場環境の整備について企業へ働きかけ (22.8%)	子どもの塾代・受験料への支援 (26.0%)
周辺家庭	子どもの就学に係る費用の軽減 (58.8%)	無料学習塾の充実 (35.3%)	子どもの医療費の軽減の充実 (34.5%)	職場環境の整備について企業へ働きかけ (22.0%)	子どもの塾代・受験料への支援 (19.8%)
一般家庭	子どもの就学に係る費用の軽減 (50.4%)	子どもの医療費の軽減の充実 (36.1%)	無料学習塾の充実 (29.5%)	職場環境の整備について企業へ働きかけ (21.7%)	児童館・放課後児童クラブ・放課後子ども教室の充実 (21.5%)
小学1年	子どもの就学に係る費用の軽減 (50.3%)	児童館・放課後児童クラブ・放課後子ども教室の充実 (40.4%)	無料学習塾の充実 (30.2%)	子どもの医療費の軽減の充実 (26.5%)	職場環境の整備について企業へ働きかけ (22.8%)
小学5年	子どもの就学に係る費用の軽減 (46.3%)	無料学習塾の充実 (34.4%)	子どもの医療費の軽減の充実 (32.9%)	児童館・放課後児童クラブ・放課後子ども教室の充実 (25.1%)	職場環境の整備について企業へ働きかけ (20.2%)
中学2年	子どもの就学に係る費用の軽減 (58.1%)	子どもの塾代・受験料への支援 (45.2%)	子どもの医療費の軽減の充実 (42.8%)	無料学習塾の充実 (34.2%)	職場環境の整備について企業へ働きかけ (19.0%)
16・17歳	子どもの就学に係る費用の軽減 (59.1%)	子どもの医療費の軽減の充実 (47.1%)	子どもの塾代・受験料への支援 (45.1%)	無料学習塾の充実 (28.8%)	職場環境の整備について企業へ働きかけ (21.5%)

[参考: 前回調査結果]



[参考: 前回調査結果]



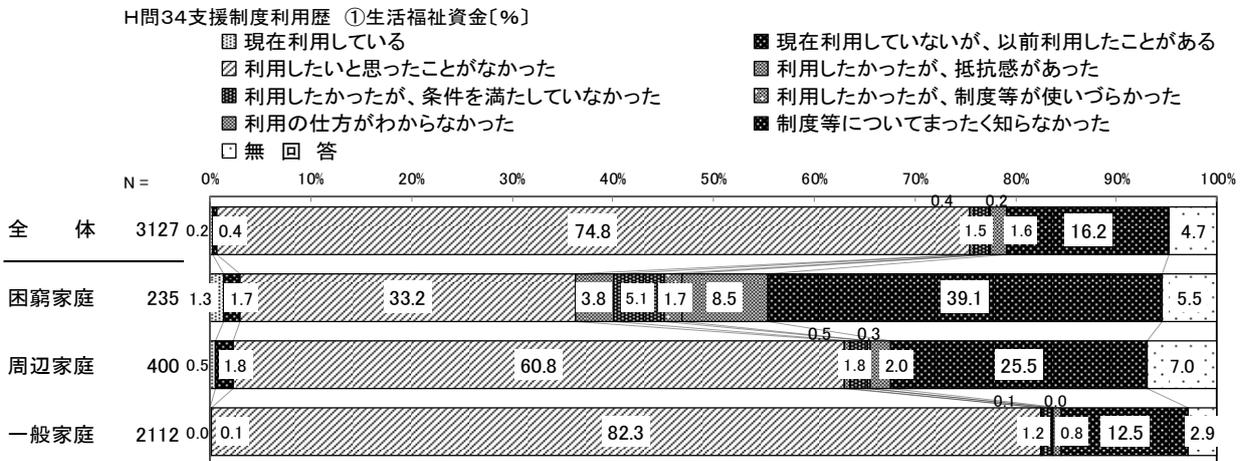
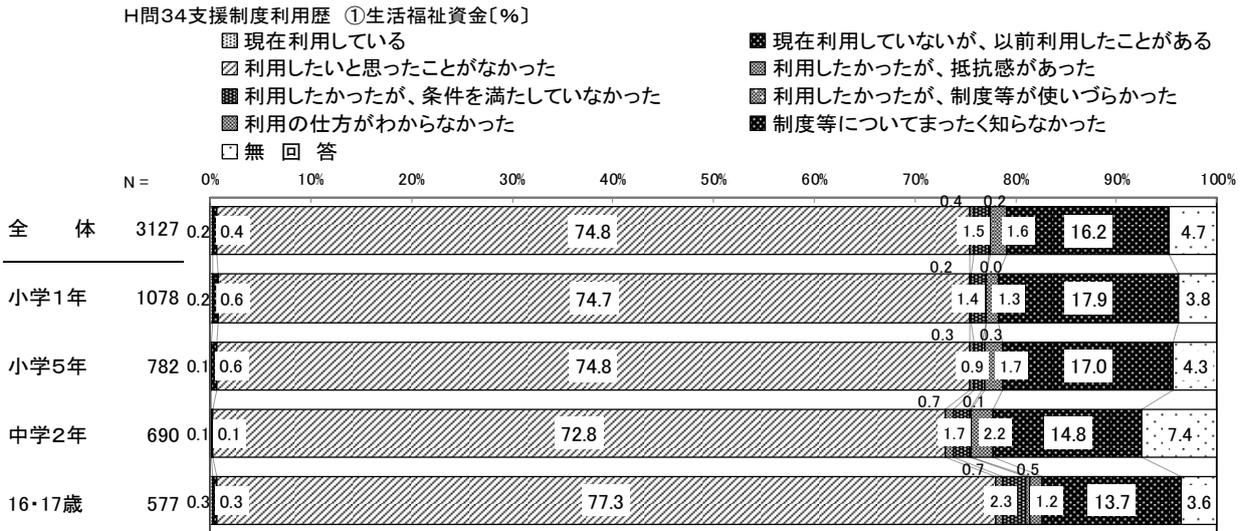
#### ④公的支援施策

問 34 あなたのご家庭では、以下の支援制度等を、これまでに利用したことがありますか。利用したことがない場合は、その理由に最も近いものに○をつけてください。

##### 1) 生活福祉資金

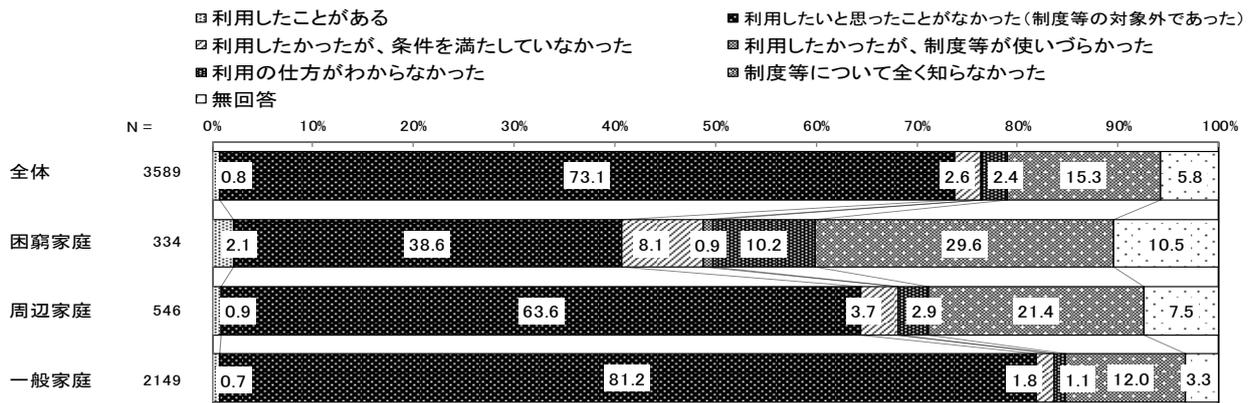
生活福祉資金の利用状況は、『利用したことがある』(現在利用していると現在利用していないが、以前利用したことがある)は0.6%、「利用したいと思ったことがなかった」が74.8%、「制度等についてまったく知らなかった」が16.2%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「制度等についてまったく知らなかった」が39.1%と最も多く、「利用の仕方がわからなかった」が8.5%回答されている。



#### [参考: 前回調査結果]

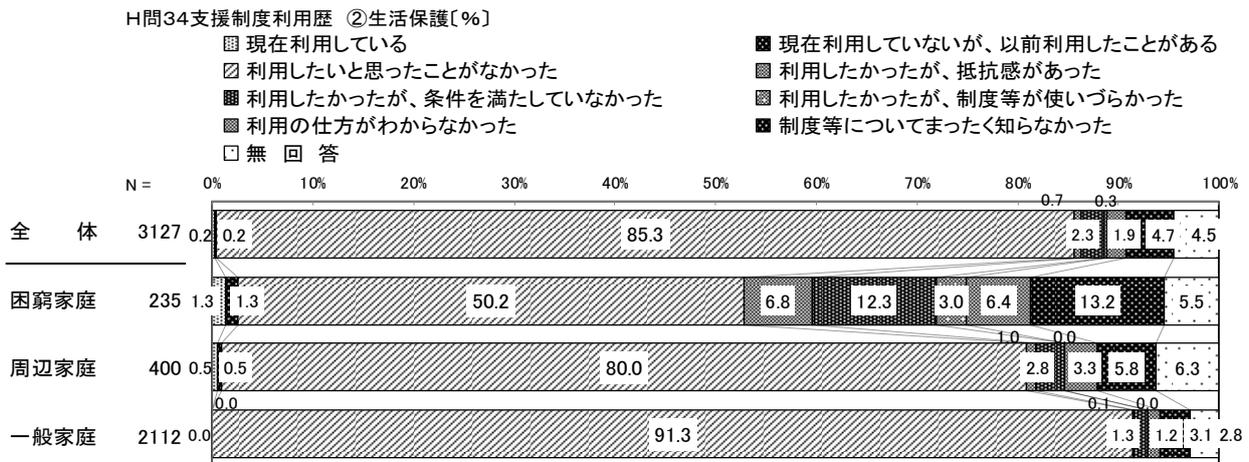
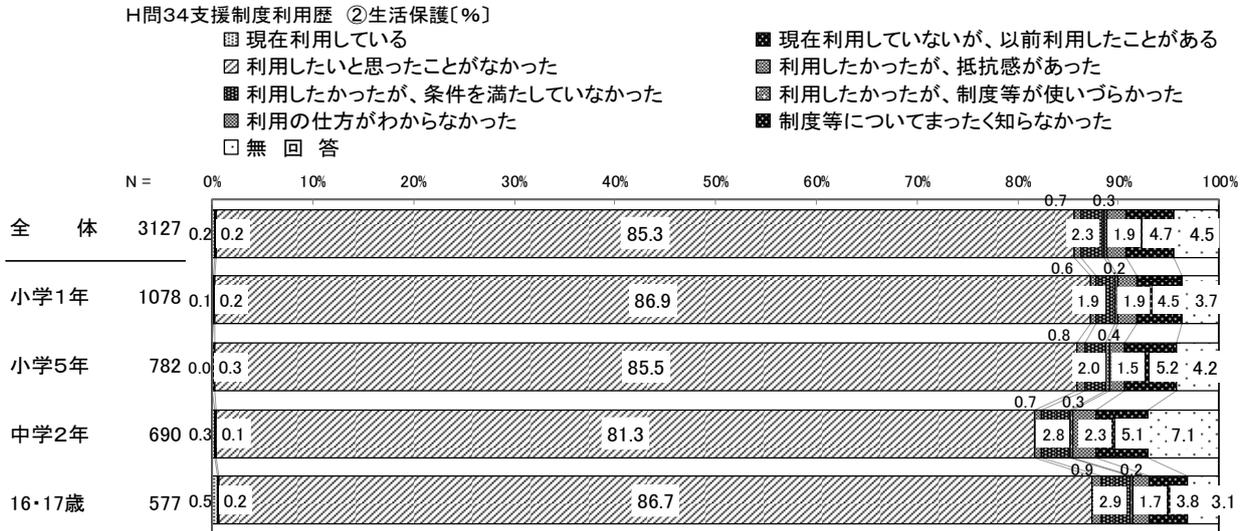
(H 29調査) 生活福祉資金[%]



## 2) 生活保護

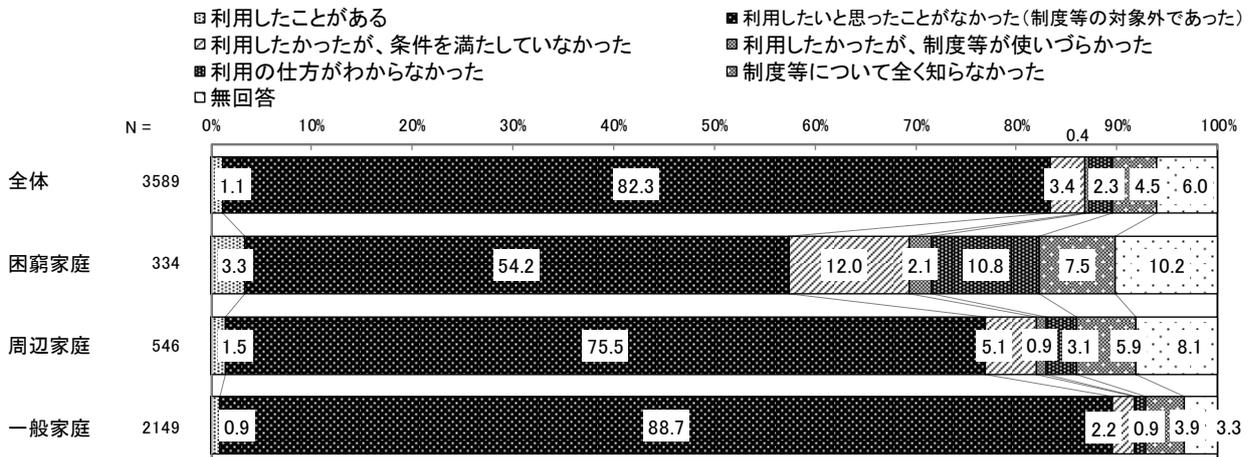
生活保護の利用状況は、『利用したことがある』は 0.4%、「利用したいと思ったことがなかった」は 85.3%、「制度等についてまったく知らなかった」が 4.7%となっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「利用したいと思ったことがなかった」が 50.2%と他の区分に比べて少なく、「制度等についてまったく知らなかった」が 13.2%、「利用したかったが条件を満たしていなかった」が 12.3%回答されている。前回と比べて、「制度等についてまったく知らなかった」の回答割合は多くなっている。



### [参考: 前回調査結果]

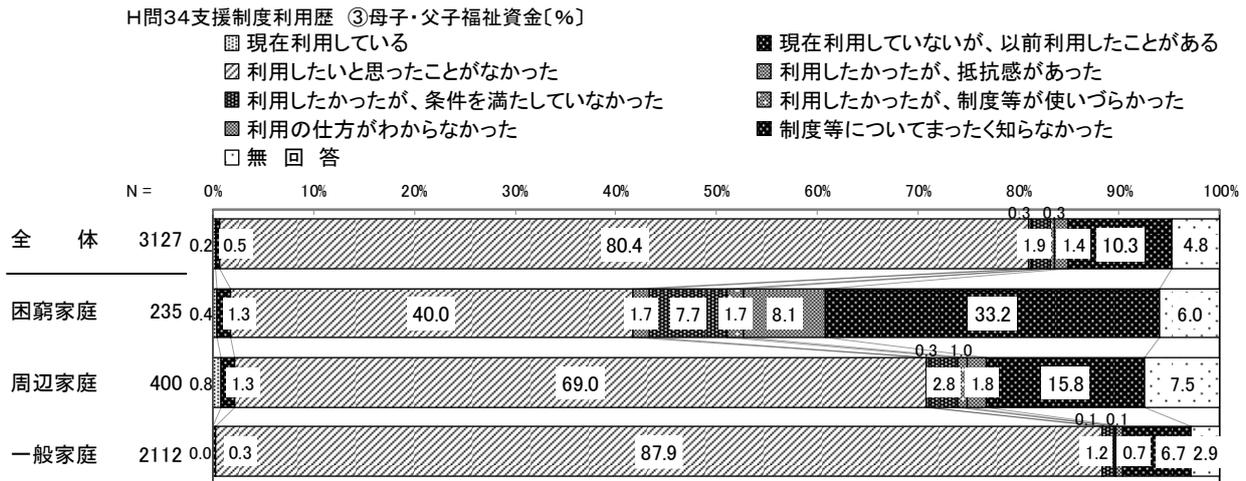
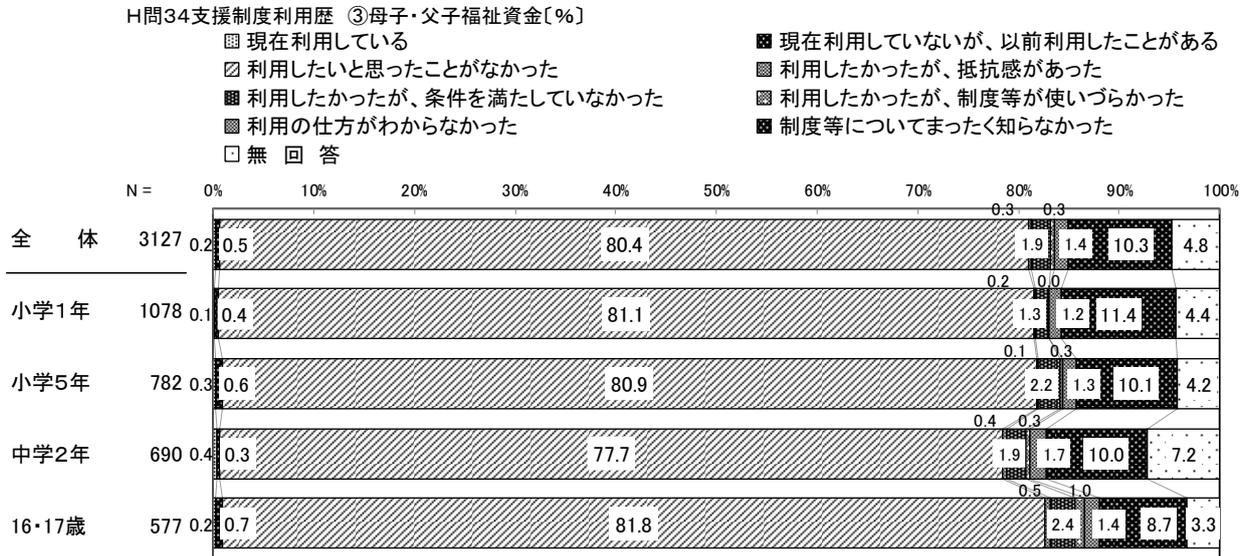
#### (H 29調査) 生活保護 [%]



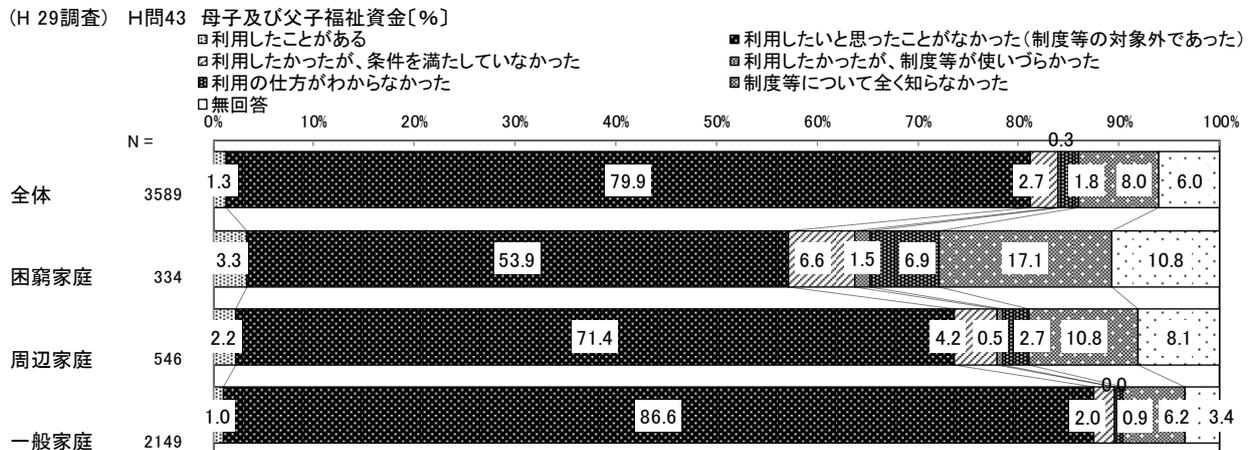
### 3) 母子及び父子福祉資金

母子及び父子福祉資金の利用状況は、『利用したことがある』が 0.7%、「利用したいと思ったことがなかった」は 80.4%、「制度等について全く知らなかった」は 10.3%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「利用したいと思ったことがなかった」が 40.0%と他の区分と比べて少なく、「制度等についてまったく知らなかった」が 33.2%と多い。



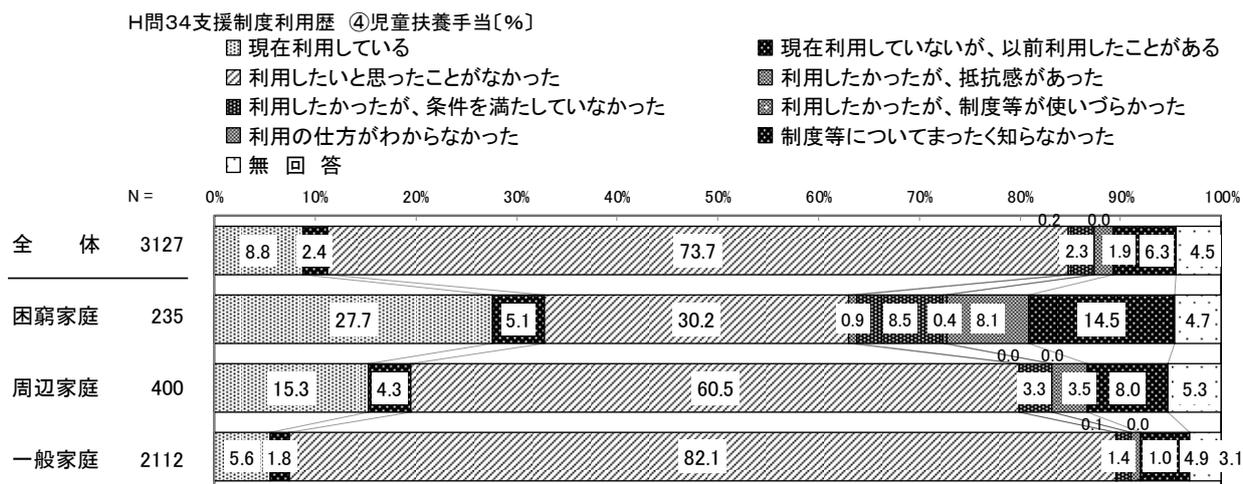
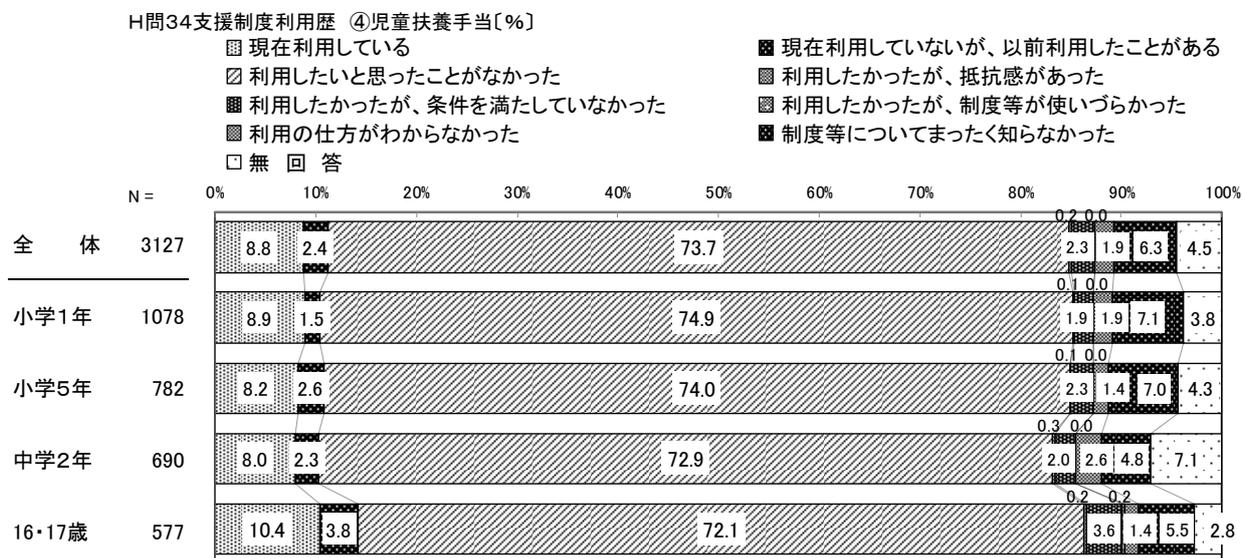
#### [参考: 前回調査結果]



#### 4) 児童扶養手当

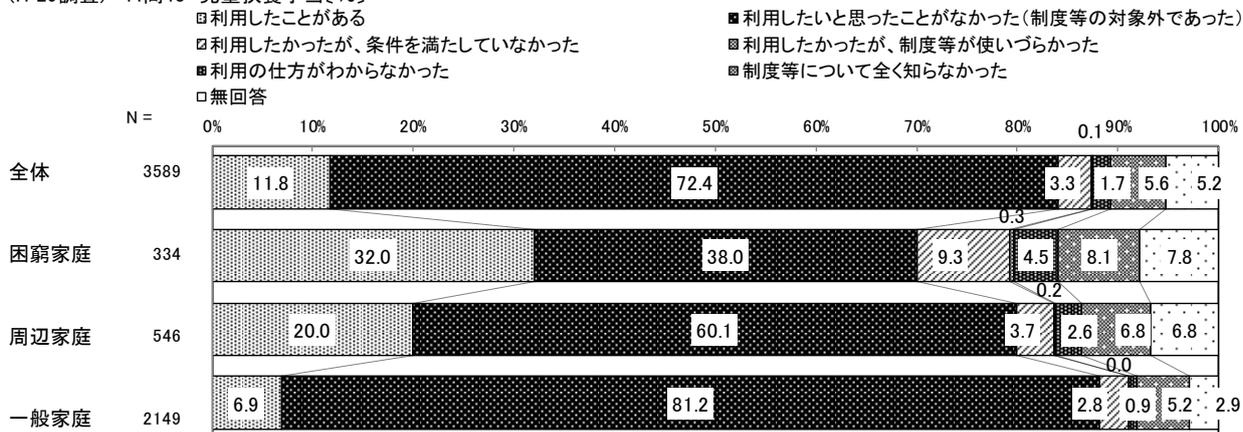
児童扶養手当の利用状況は、『利用したことがある』は 11.2%、「利用したいと思ったことがなかった」は 73.7%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で『利用したことがある』が 32.8%、「制度等についてまったく知らなかった」が 14.5%と他の区分に比べて多い。



#### [参考: 前回調査結果]

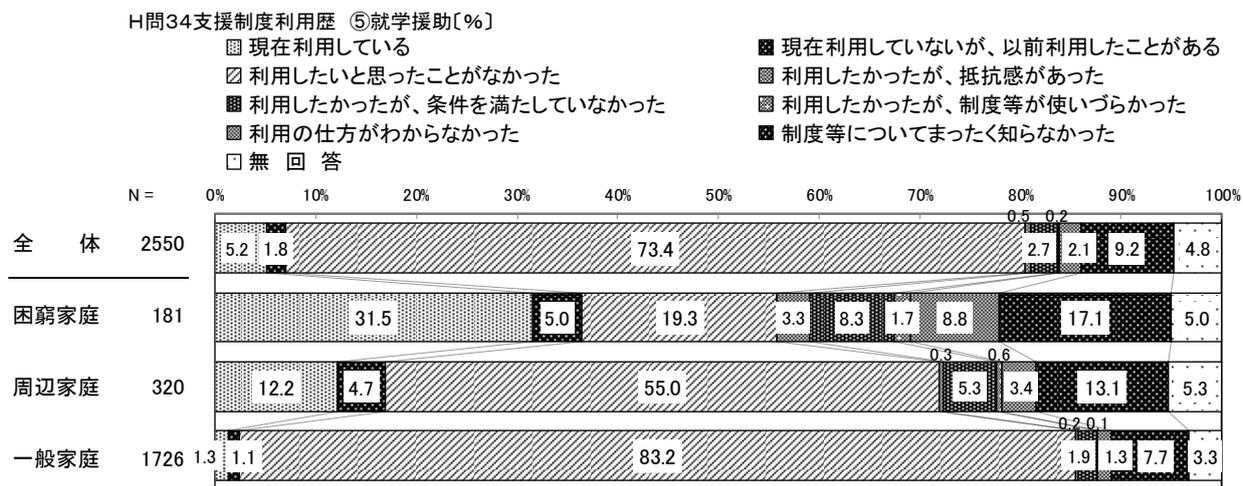
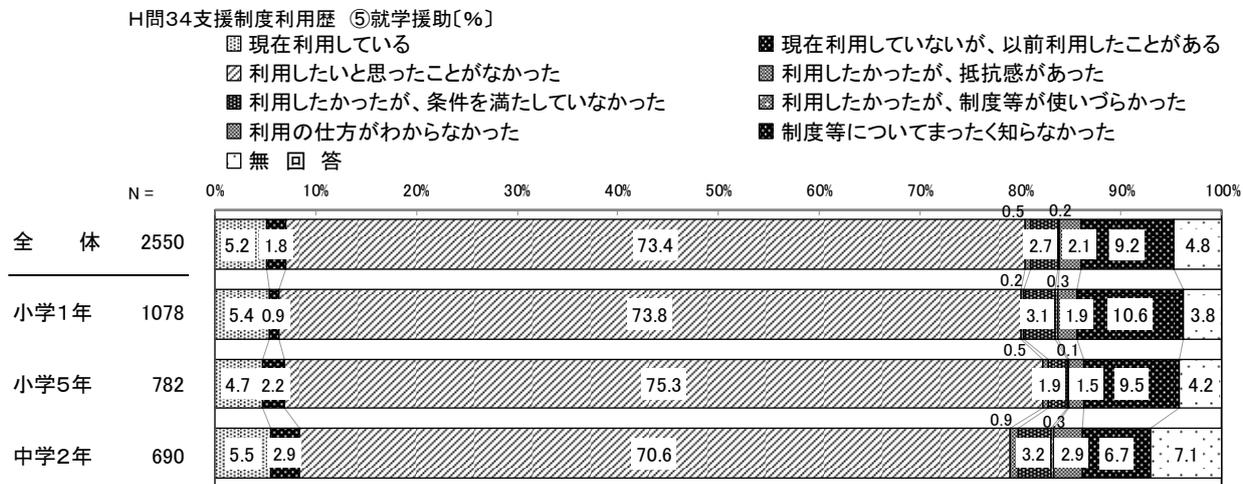
(H 29調査) H問43 児童扶養手当〔%〕



### 5) 就学援助（小学1年・5年・中学2年のみ）

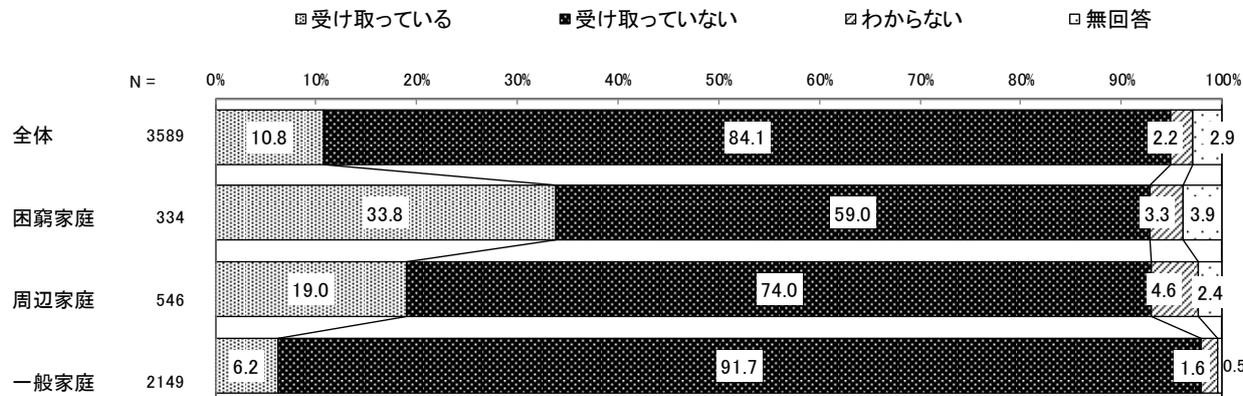
小学1年・小学5年・中学2年の就学援助の利用歴は、『利用したことがある』は 7.0%、「利用したいと思っ  
たことがなかった」は 73.4%、「制度等についてまったく知らなかった」は 9.2%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で『利用したことがある』が 36.5%、「制度等についてまったく知らなかつ  
た」は困窮家庭で 17.1%、周辺家庭においても 13.1%と一般家庭に比べて多い。



### [参考: 前回調査結果]

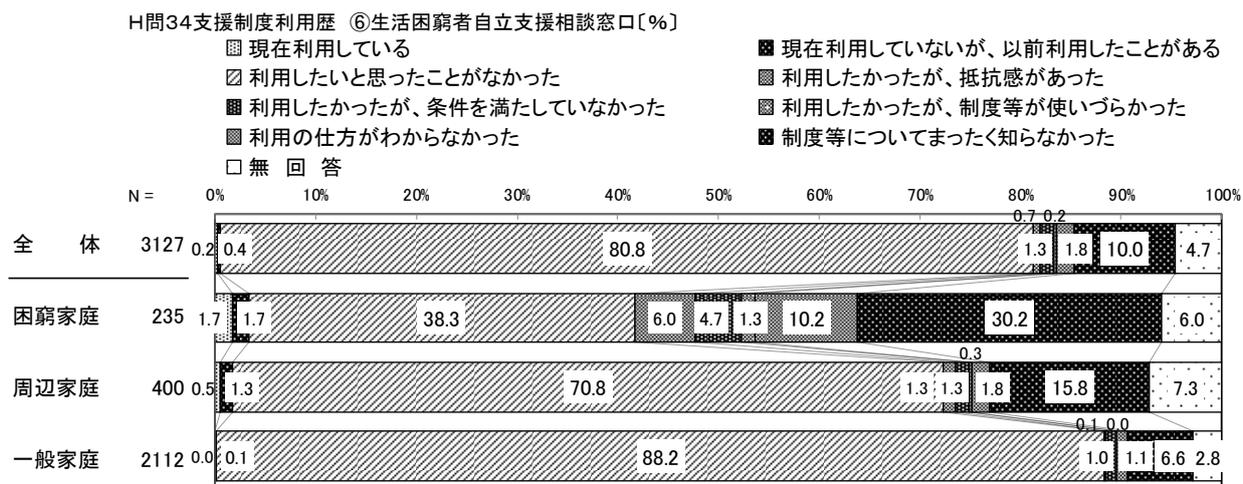
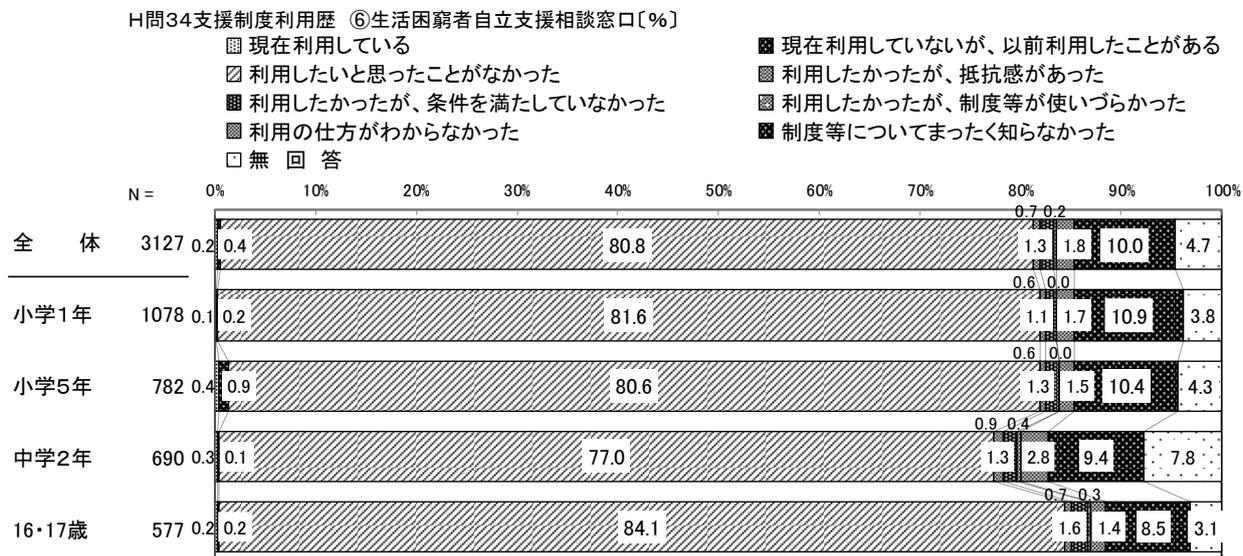
(H 29 調査) H問23就学援助費・高校生等奨学給付金を受け取っているか[%]



## 6) 生活困窮者の自立支援相談窓口

生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況は、『利用したことがある』は 0.6%、「利用したいと思ったことがなかった」が 80.8%、「制度等についてまったく知らなかった」は 10.0%などとなっている。

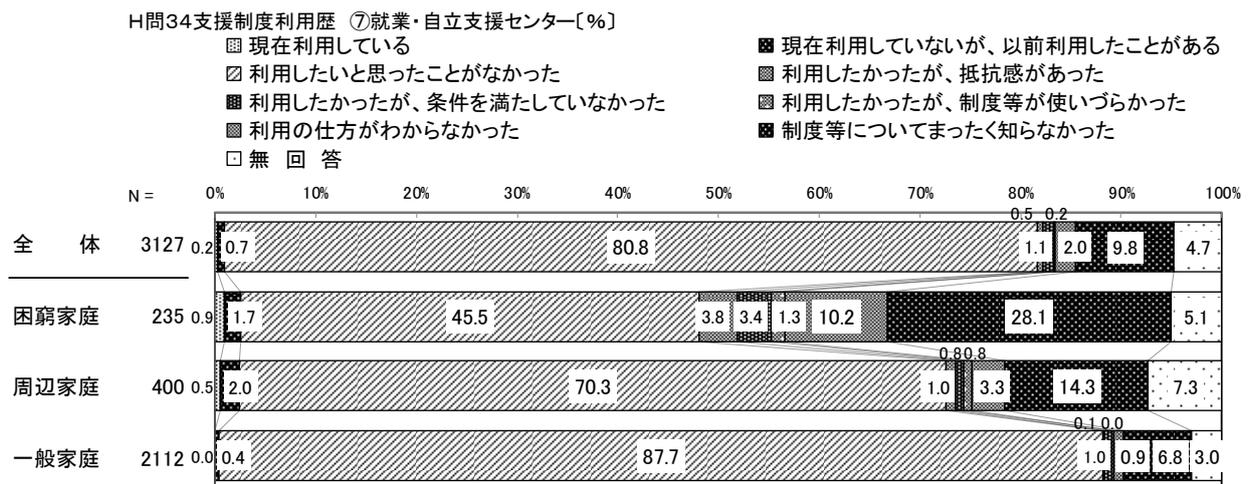
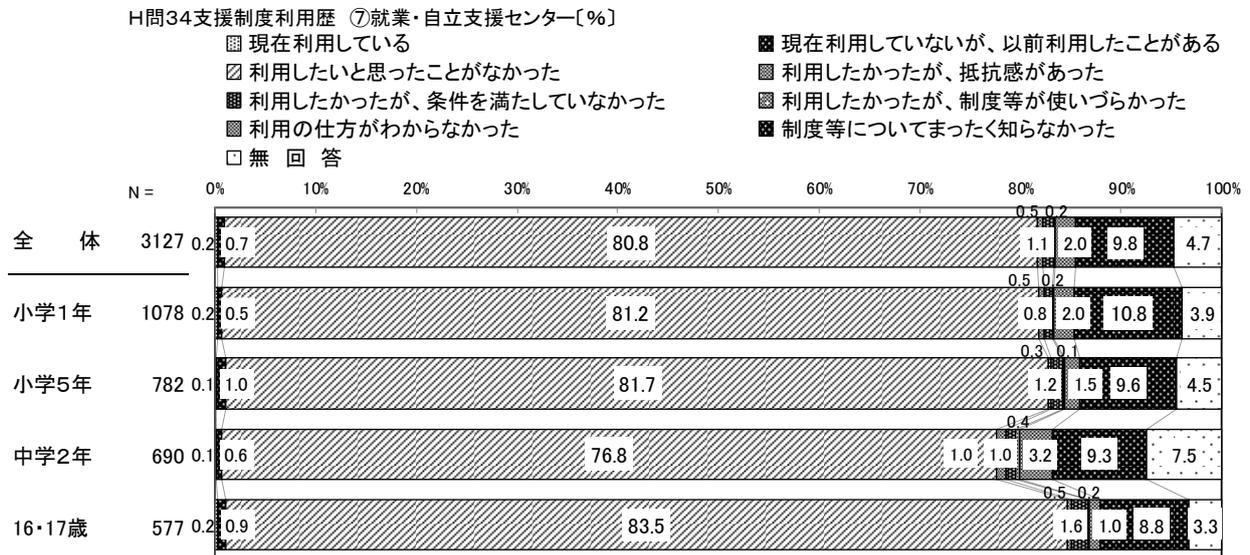
生活困窮度別では、困窮家庭で「制度等についてまったく知らなかった」が 30.2%と他の区分に比べて多く、『利用したことがある』は 3.4%である。



## 7) 母子家庭等就業・自立支援センター

母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況は、『利用したことがある』は 0.9%、「利用したいと思ったことがなかった」が 80.8%、「制度等についてまったく知らなかった」は 9.8%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「制度等についてまったく知らなかった」が 28.1%と他の区分に比べて多く、「利用したいと思ったことがなかった」は 45.5%と少ない。



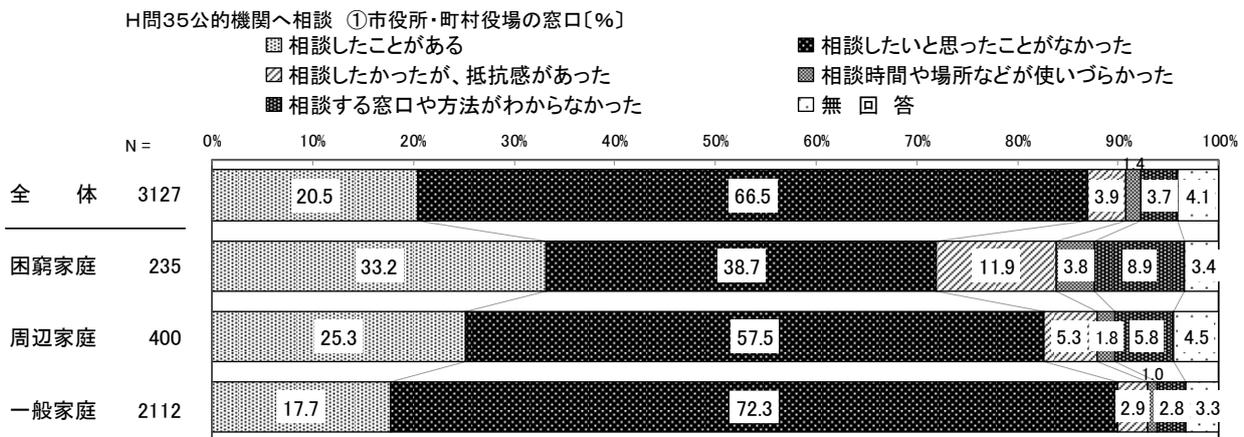
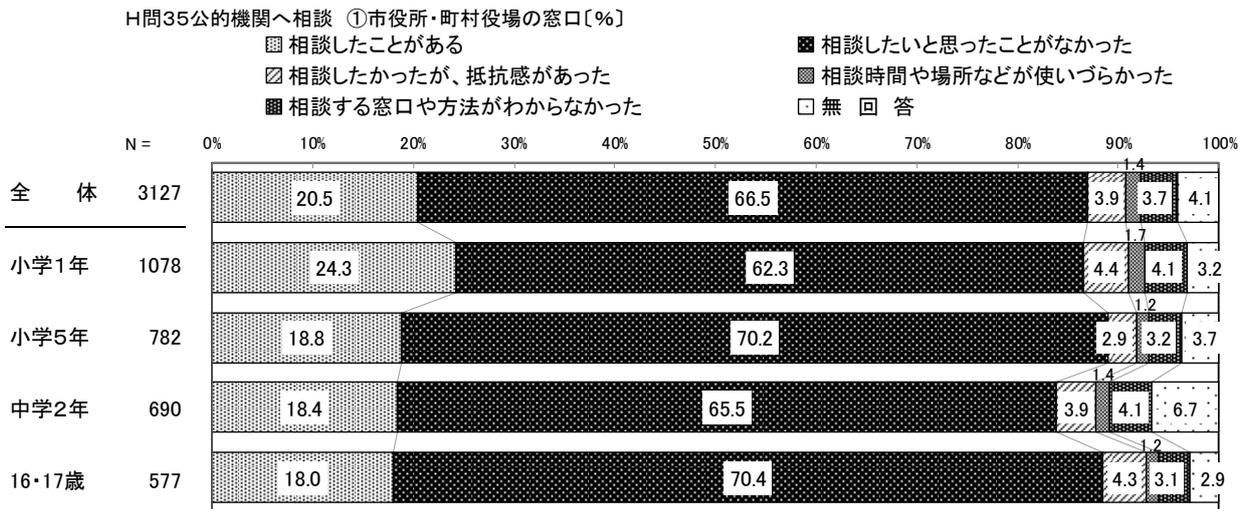
## ⑤相談窓口の利用状況

問 35 あなたは、これまでに困った時に以下の公的機関に相談したことがありますか。

### 1) 市役所・町村役場の窓口

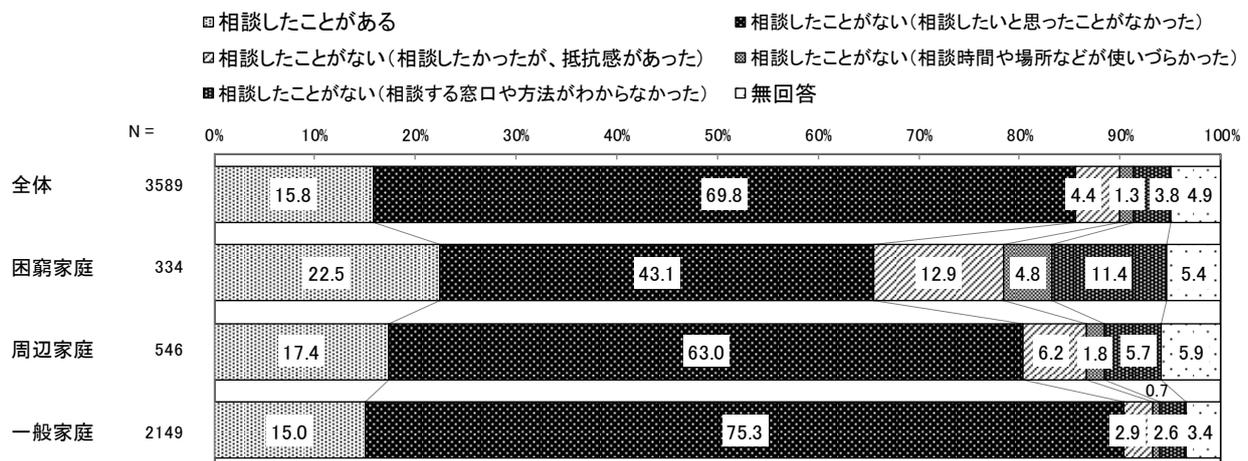
市役所・町村役場への相談状況は、「相談したことがある」は 20.5%、「相談したいと思ったことがなかった」が 66.5%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「相談したことがある」が 33.2%、「相談したかったが、抵抗感があった」が 11.9%と他の区分に比べて多い。前回と比べて、各区分で『相談したことがある』と回答した割合が多くなっている



### [参考: 前回調査結果]

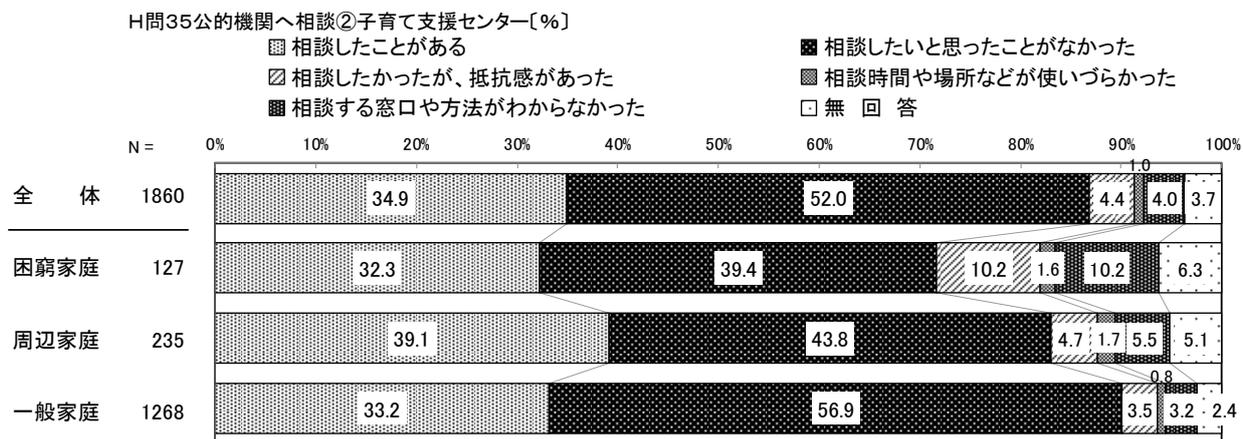
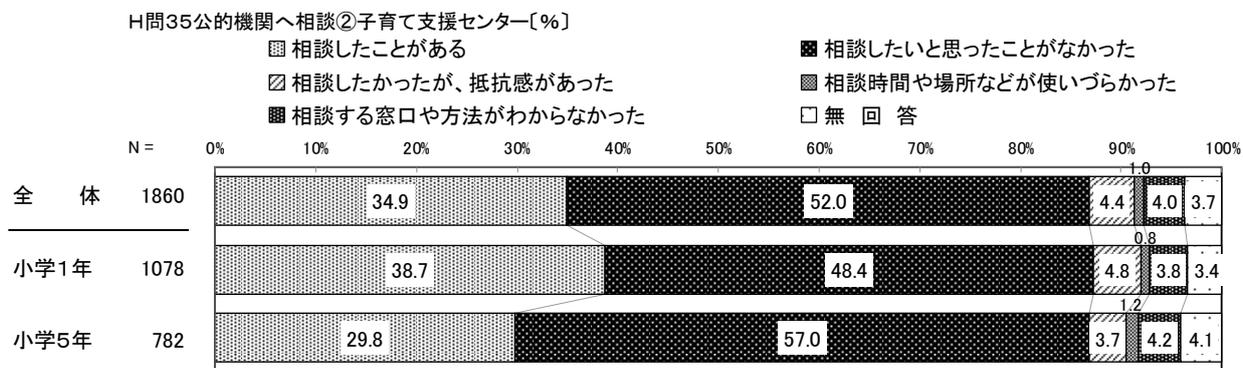
(H 29調査) 市役所・町村役場の窓口[%]



## 2) 子育て支援センター・つどいの広場（小学1年・5年のみ）

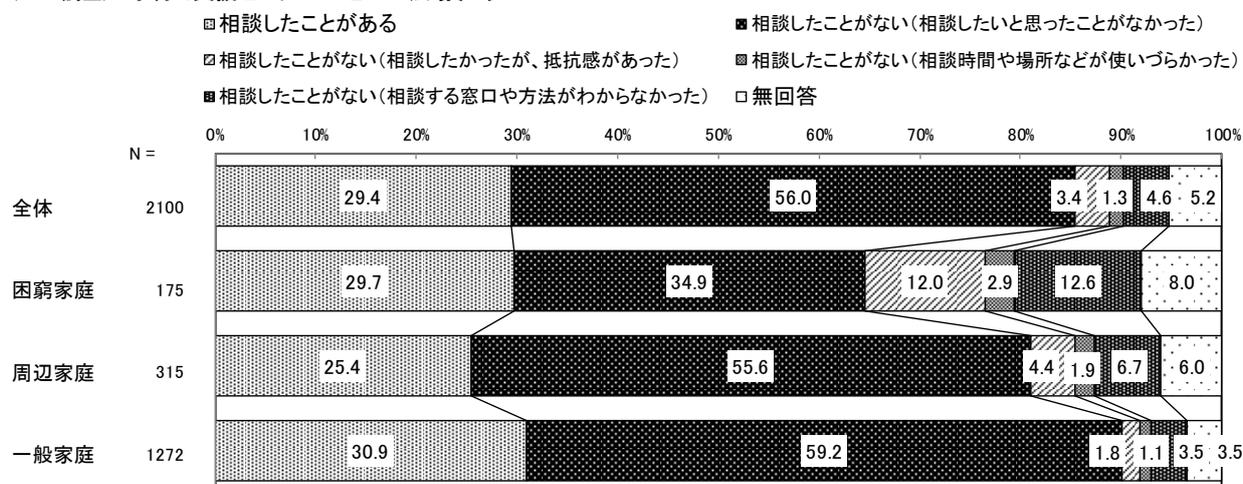
子育て支援センター・つどいの広場への相談状況は、「相談したことがある」は 34.9%、「相談したいと思ったことがなかった」は 52.0%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「相談したいと思ったことがなかった」が 39.4%、周辺家庭においても 43.8%と、一般家庭に比べて少ない。困窮家庭で「相談したかったが、抵抗感があった」と「相談する窓口や方法がわからなかった」がともに 10.2%と他の区分に比べてやや多くなっている。前回と比べて、各区分で「相談したことがある」の回答割合が多くなっている。



### 〔参考: 前回調査結果〕

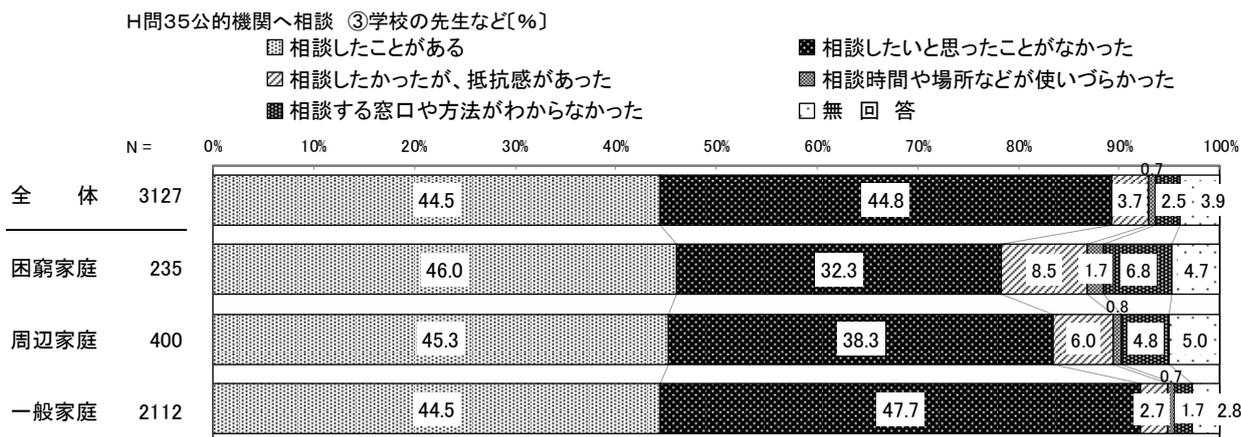
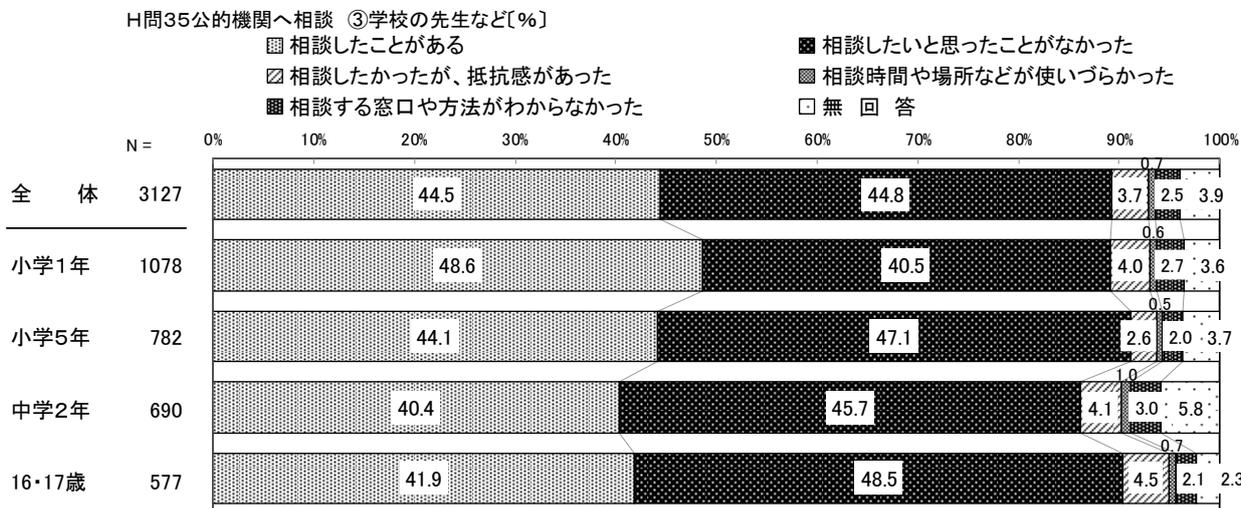
(H 29調査) 子育て支援センター・つどいの広場〔%〕



### 3) 学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど

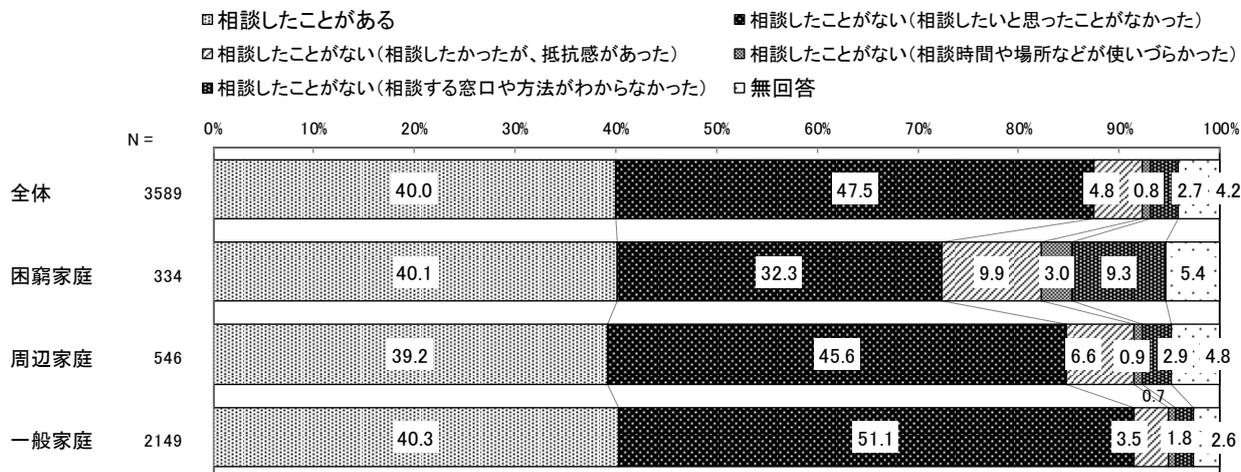
学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなどへの相談状況は、「相談したことがある」が44.5%、「相談したいと思ったことがなかった」が44.8%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「相談したいと思ったことがなかった」が32.3%、周辺家庭においても38.3%と、一般家庭に比べて少ない。前回と比べて、各区分で「相談したことがある」の回答割合が多くなっている。



#### [参考: 前回調査結果]

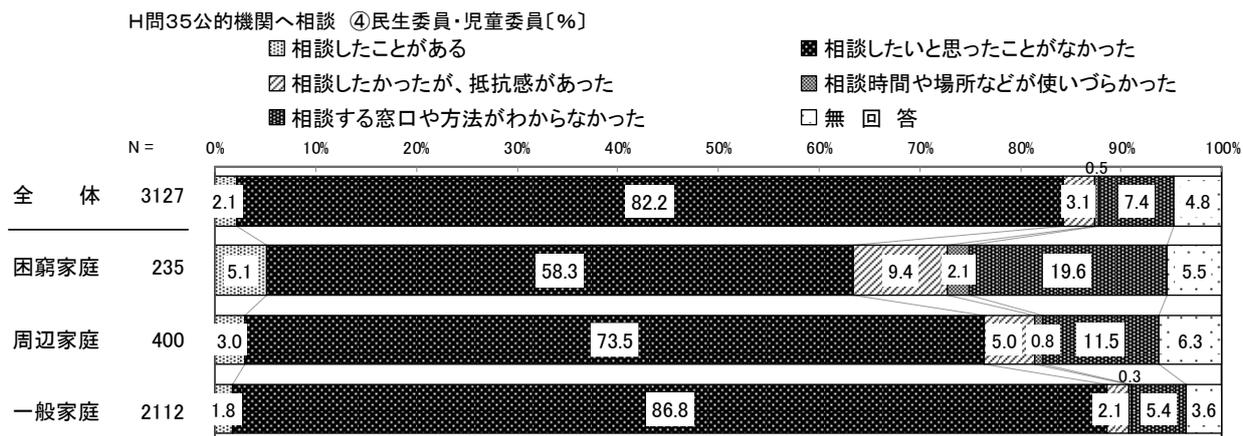
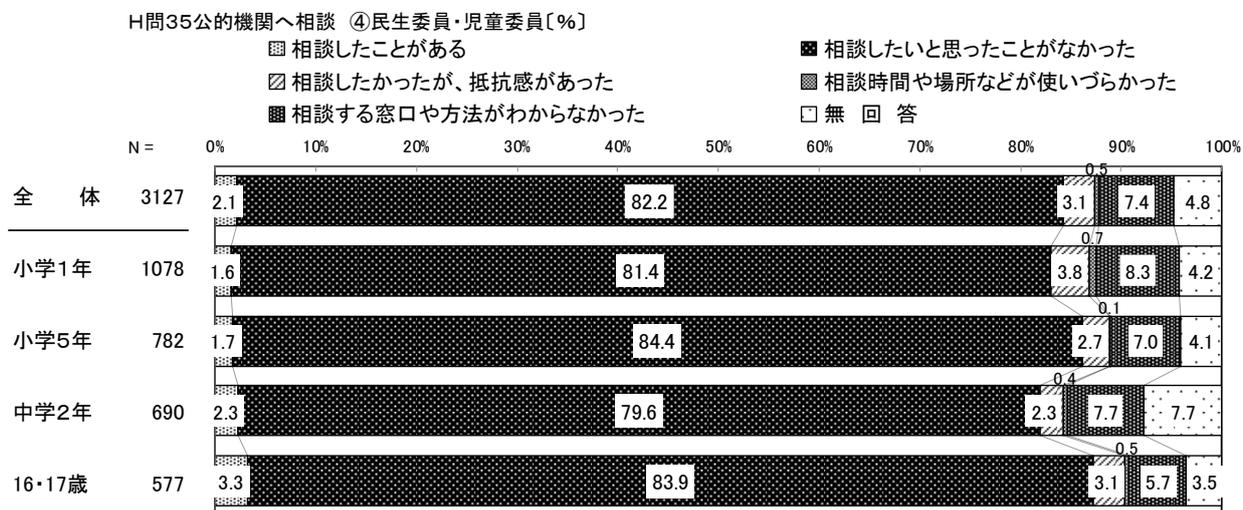
(H 29調査) 学校・保育所・幼稚園の先生など〔%〕



#### 4) 民生委員・児童委員

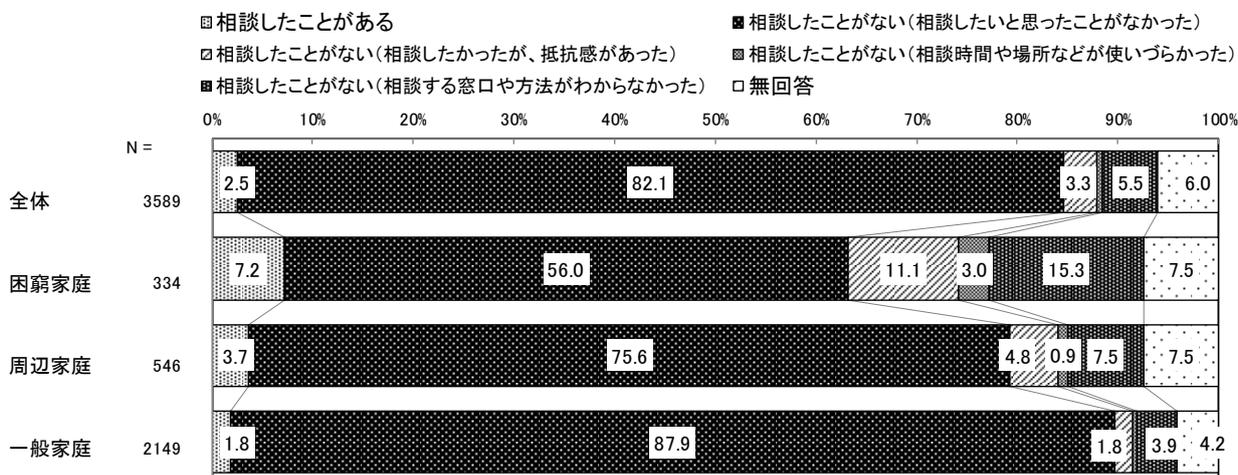
民生委員・児童委員への相談状況は、「相談したことがある」は 2.1%、「相談したいと思ったことがなかった」が 82.2%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「相談したいと思ったことがなかった」が 58.3%、周辺家庭においても 73.5%と、一般家庭に比べて少なく、困窮家庭で「相談する窓口や方法がわからなかった」が 19.6%と多い。前回と比べて、各区分で「相談する窓口や方法がわからなかった」の回答割合が多くなっている。



#### [参考: 前回調査結果]

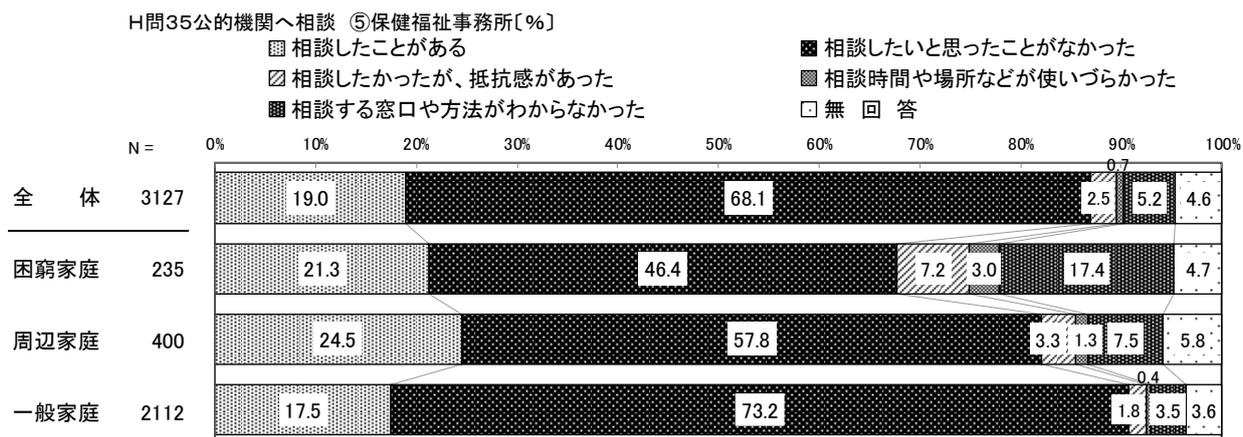
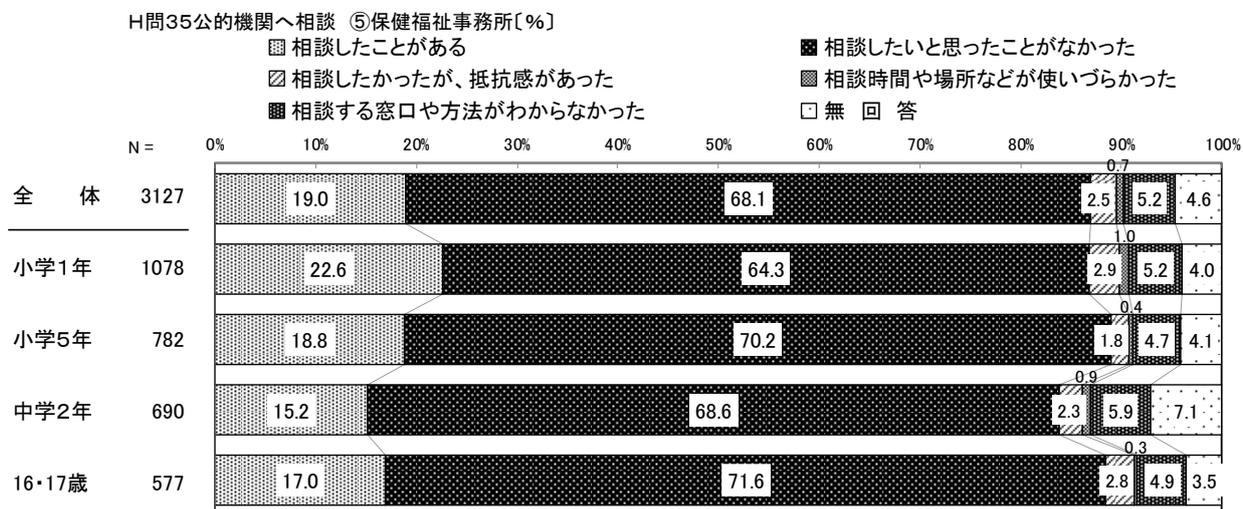
(H 29調査) 民生委員・児童委員〔%〕



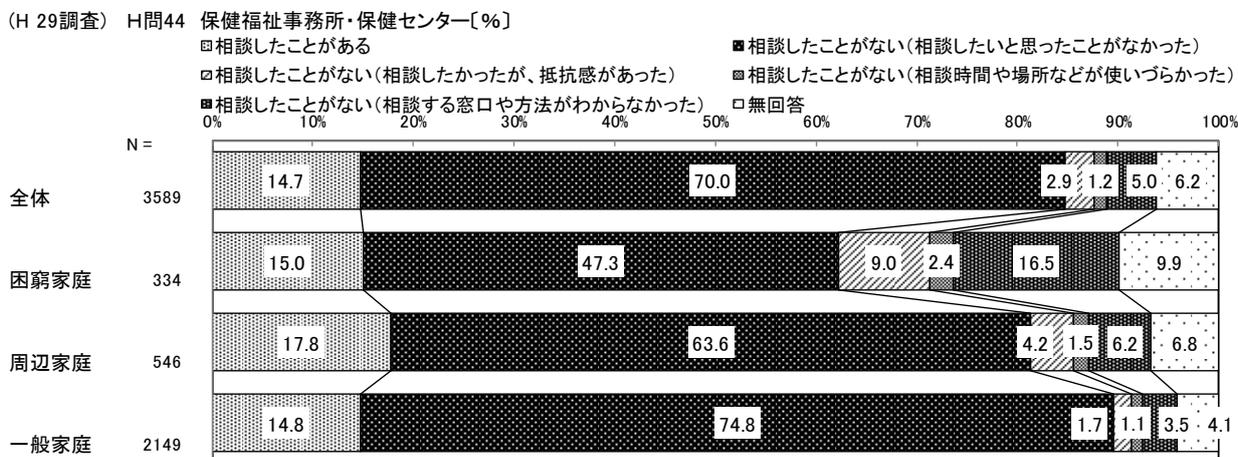
## 5) 保健福祉事務所・保健センター

保健福祉事務所・保健センターへの相談状況は、「相談したことがある」は 19.0%、「相談したいと思ったことがなかった」は 68.1%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「相談したいと思ったことがなかった」が 46.4%、周辺家庭においても 57.8%と、一般家庭に比べて少なく、困窮家庭で「相談する窓口や方法がわからなかった」が 17.4%と多い。前回と比べて、各区分で「相談したことがある」の回答割合が多くなっている。



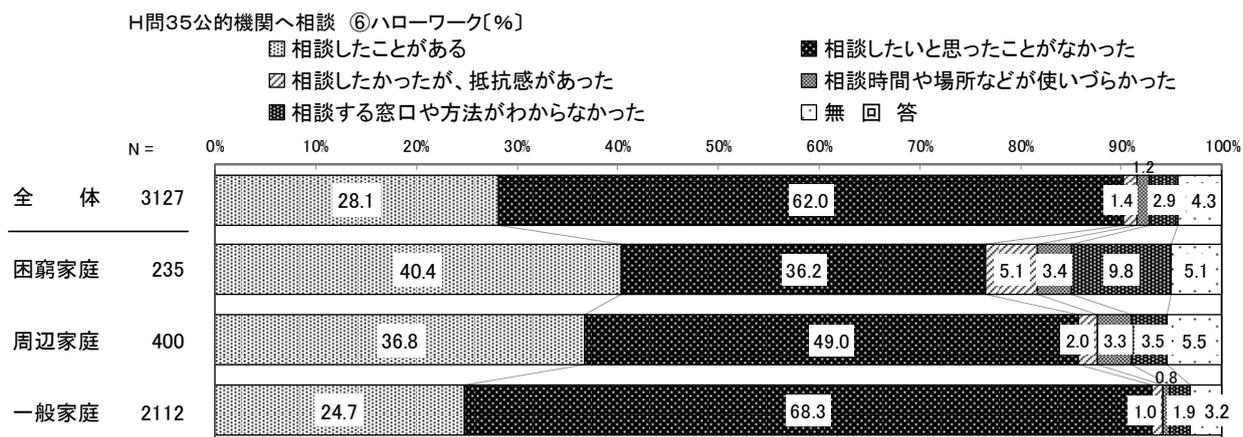
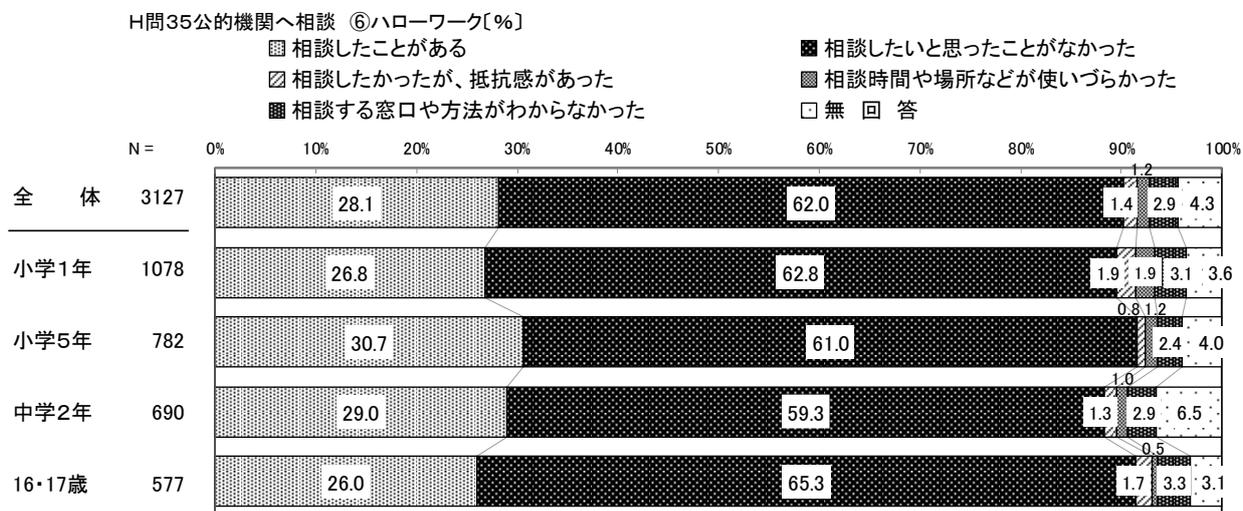
### [参考: 前回調査結果]



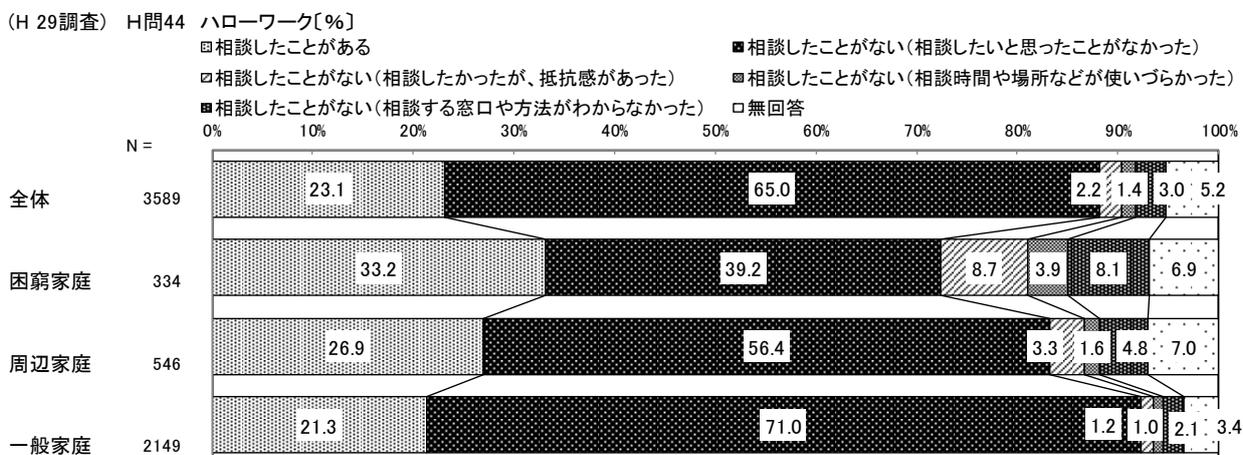
## 6) ハローワーク

ハローワークへの相談状況は、「相談したことがある」は 28.1%、「相談したいと思ったことがなかった」が 62.0%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「相談したことがある」が 40.4%、周辺家庭においても 36.8%と、一般家庭に比べて多い。前回と比べて、各区分で「相談したことがある」の回答割合が多くなっている。



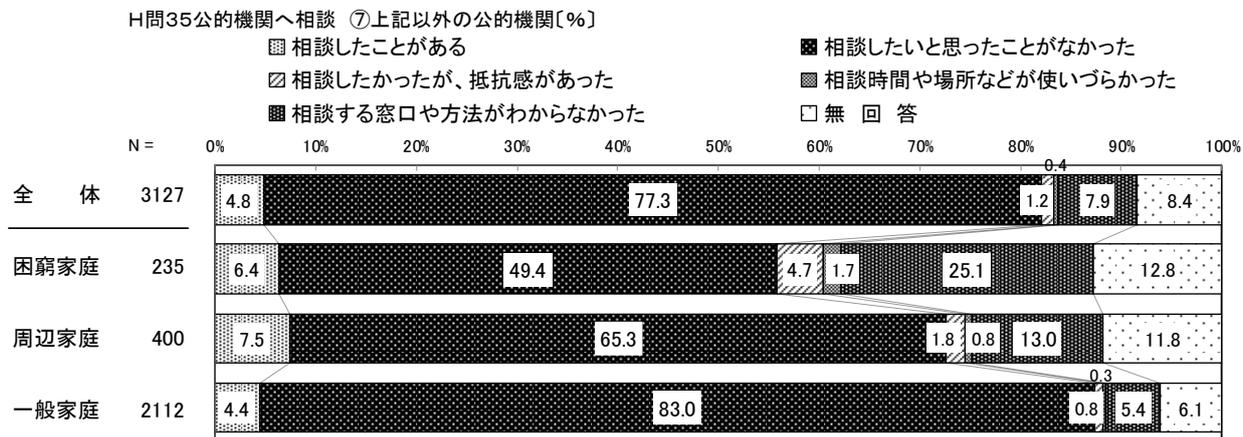
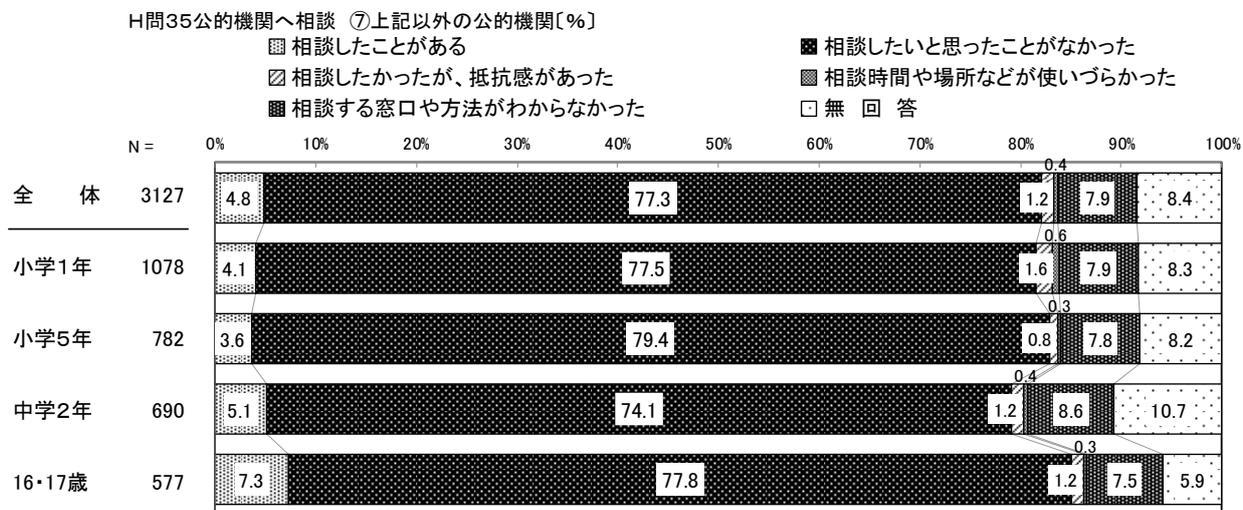
### [参考: 前回調査結果]



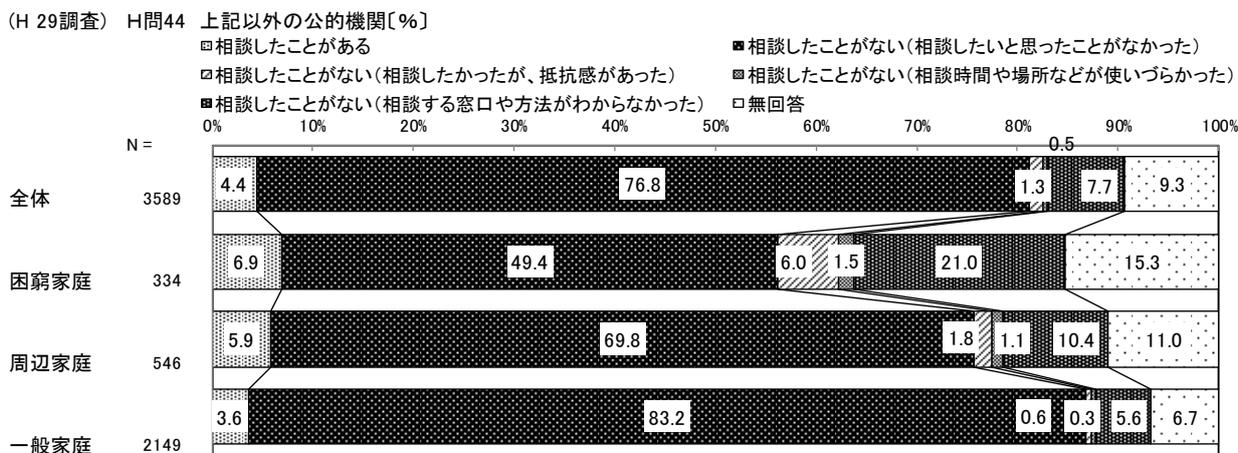
### 7) その他の公的機関

その他の公的機関への相談状況は、「相談したいと思ったことがなかった」が77.3%と最も多い。

生活困窮度別では、生活困窮家庭で「相談したことがある」が6~7%程度回答されており、「相談する窓口や方法がわからなかった」については、困窮家庭で25.1%となっている。



### [参考: 前回調査結果]



## (9)新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響

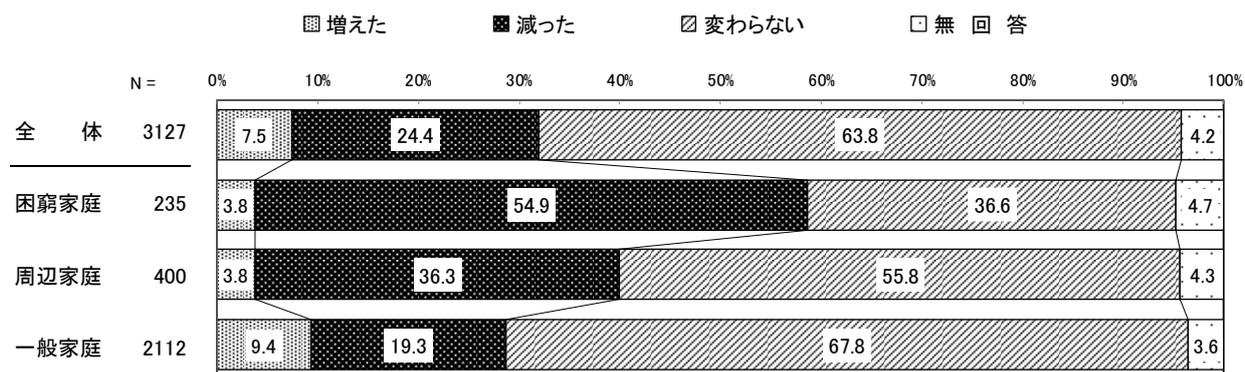
問 37 あなたのご家庭の現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校する前(2020年2月以前)から比べて、どのように変わりましたか。

### 1) 世帯全体の収入の変化

世帯全体の収入の変化は、「増えた」が7.5%、「減った」が24.4%、「変わらない」が63.8%となっている。

生活困窮度別では、「減った」の割合は、一般家庭が19.3%に比べて、周辺家庭で36.3%、困窮家庭で54.9%と多くなっている。

H問37感染症による変化 ①世帯全体の収入の変化[%]

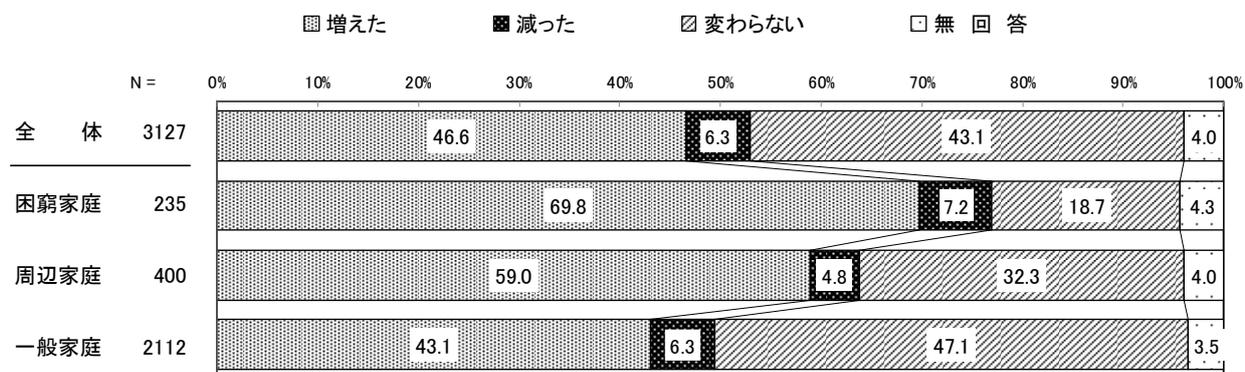


### 2) 生活に必要な支出の変化

生活に必要な支出が「増えた」が46.6%、「減った」が6.3%、「変わらない」が43.1%となっている。

生活困窮度別では、「増えた」の割合は、一般家庭の43.1%に比べて、困窮家庭で69.8%、周辺家庭で59.0%と多くなっている。

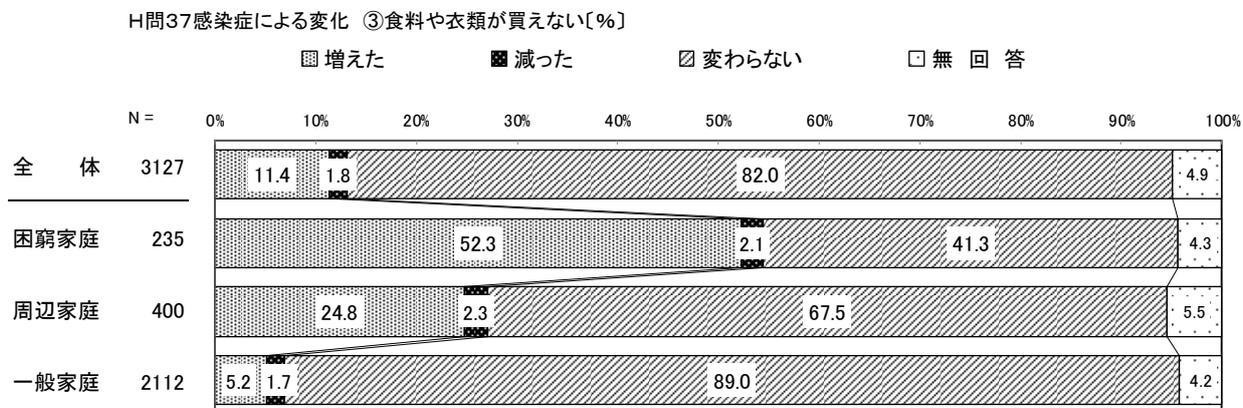
H問37感染症による変化 ②生活に必要な支出の変化[%]



### 3) お金が足りなくて、必要な食料や衣服が買えないこと

お金が足りなくて、必要な食料や衣服が買えないと回答した割合は、「増えた」が 11.4%、「減った」が 1.8%、「変わらない」が 82.0%となっている。

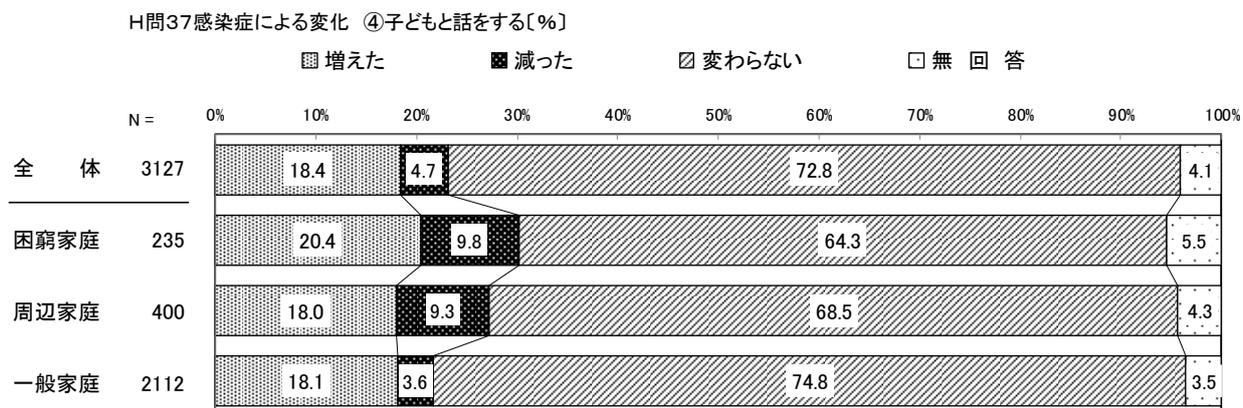
生活困窮度別では、「増えた」の割合は、一般家庭の 5.2%に比べて、周辺家庭で 24.8%、困窮家庭で 52.3%と多くなっている。



### 4) お子さんと話をすること

子どもと話をすることは、「増えた」が 18.4%、「減った」が 4.7%、「変わらない」が 72.8%となっている。

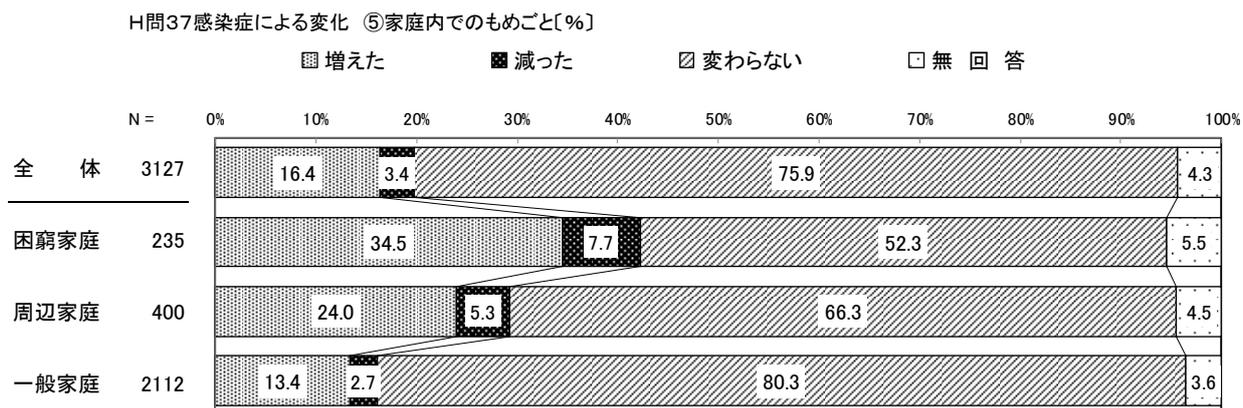
生活困窮度別では、「減った」の割合は、一般家庭の 3.6%に比べて、周辺家庭で 9.3%、困窮家庭で 9.8%と多くなっている。



### 5) 家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること

家庭内でのもめごとは、「増えた」が 16.4%、「減った」が 3.4%、「変わらない」が 75.9%となっている。

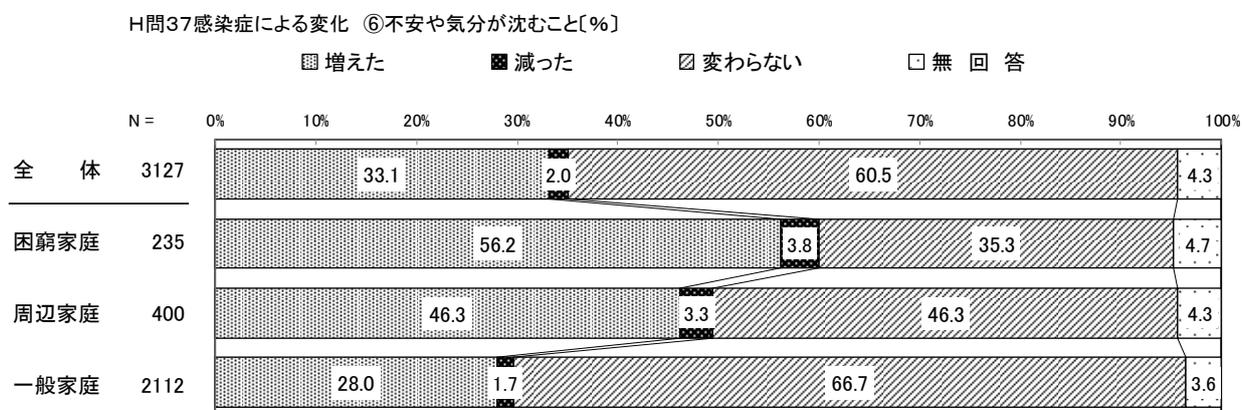
生活困窮度別では、「増えた」の割合は、一般家庭の 13.4%に比べて、周辺家庭で 24.0%、困窮家庭で 34.5%と多くなっている。



6) あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

不安や気分が沈むことは、「増えた」が 33.1%、「減った」が 2.0%、「変わらない」が 60.5%となっている。

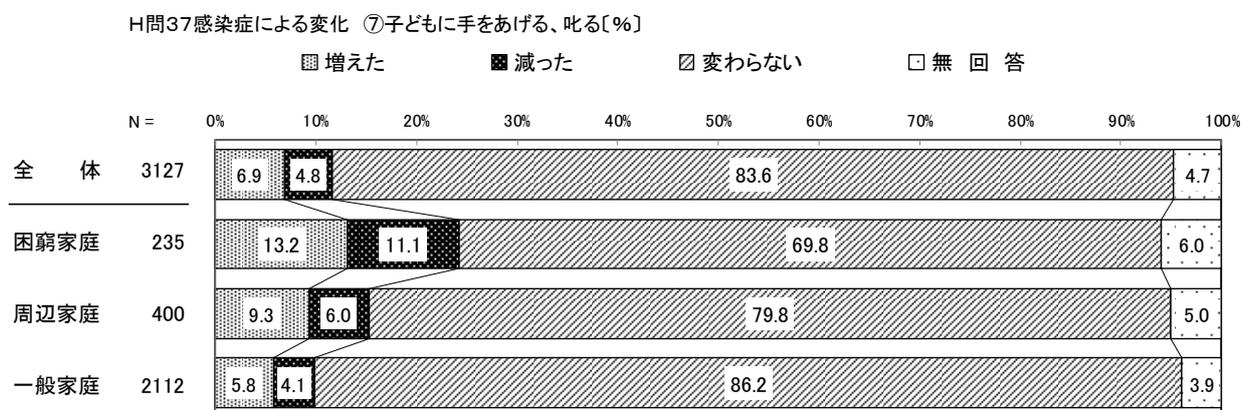
生活困窮度別では、「増えた」の割合は、一般家庭の 28.0%に比べて、周辺家庭で 46.3%、困窮家庭で 56.2%と多くなっている。



7) お子さんに手を挙げたり、きつくしかったりした

お子さんに手を挙げたり、きつくしかったりしたことは、「増えた」が 6.9%、「減った」が 4.8%、「変わらない」が 83.6%となっている。

生活困窮度別では、「増えた」の割合は、一般家庭の 5.8%に比べて、周辺家庭で 9.3%、困窮家庭で 13.2%と多くなっている。

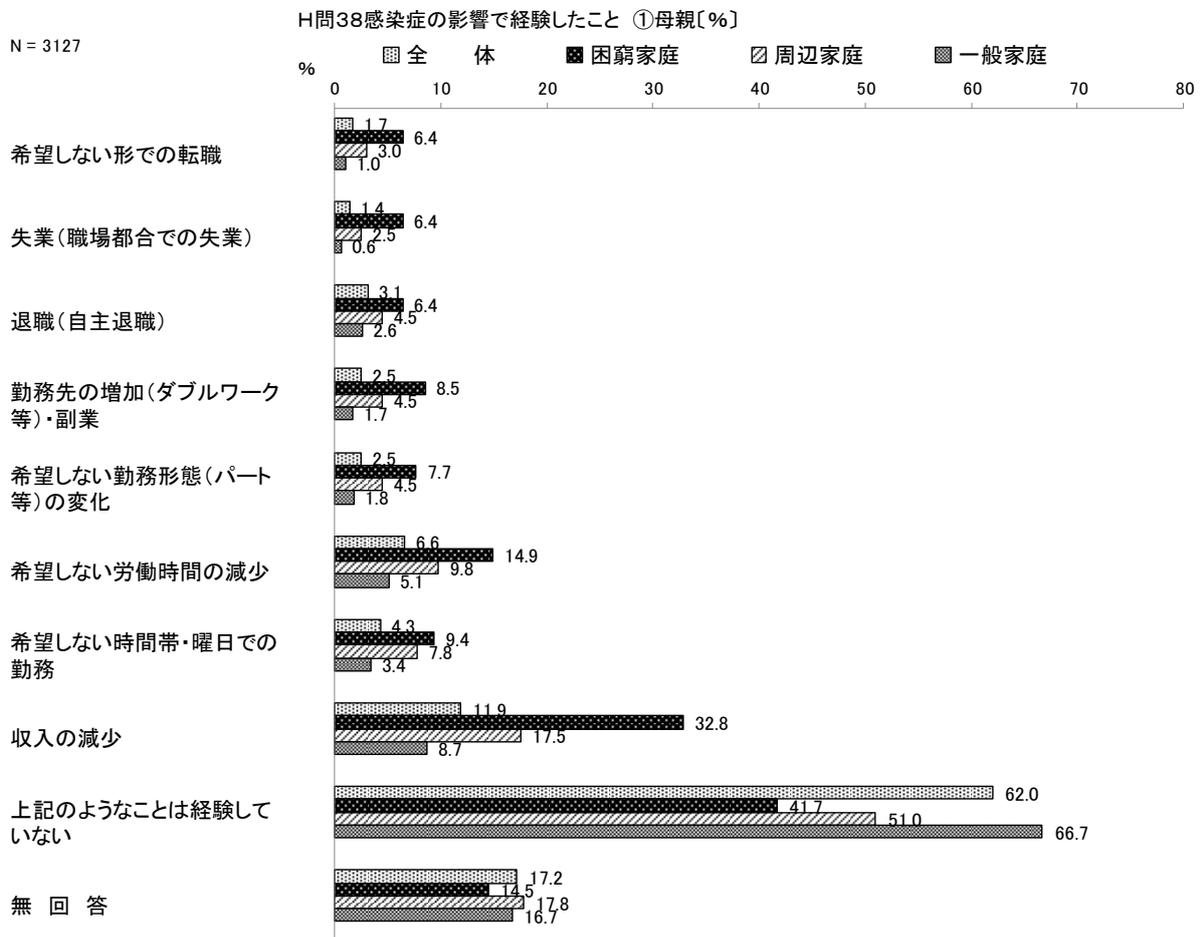
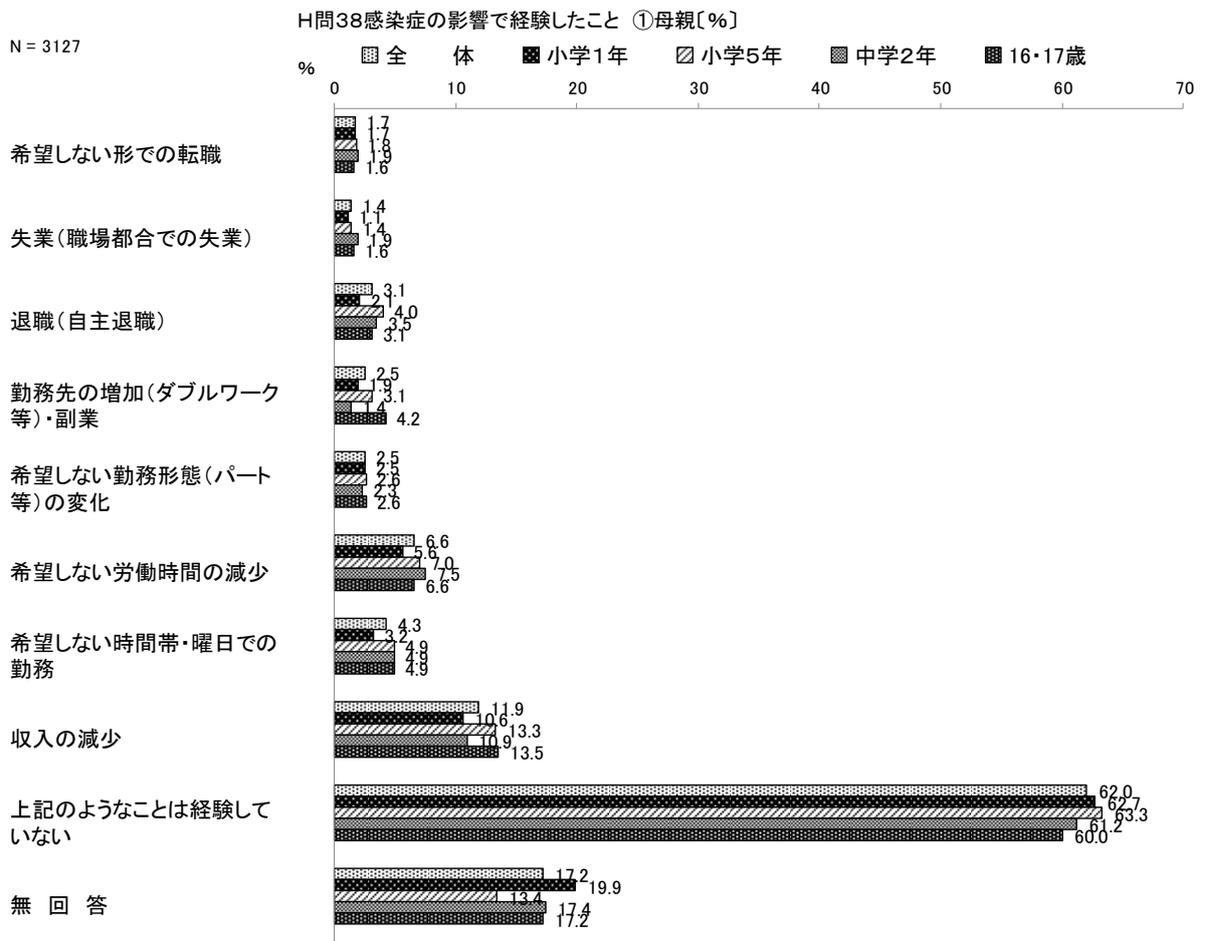


問 38 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、次のようなことを経験しましたか。

[母親]

母親が新型コロナウイルス感染症拡大の影響で経験したことは、「上記のようなことは経験していない」が 62.0%と最も多く、「収入の減少」が 11.9%、「希望しない労働時間の減少」が 6.6%、「希望しない時間帯・曜日での勤務」の 4.3%などとなっている。

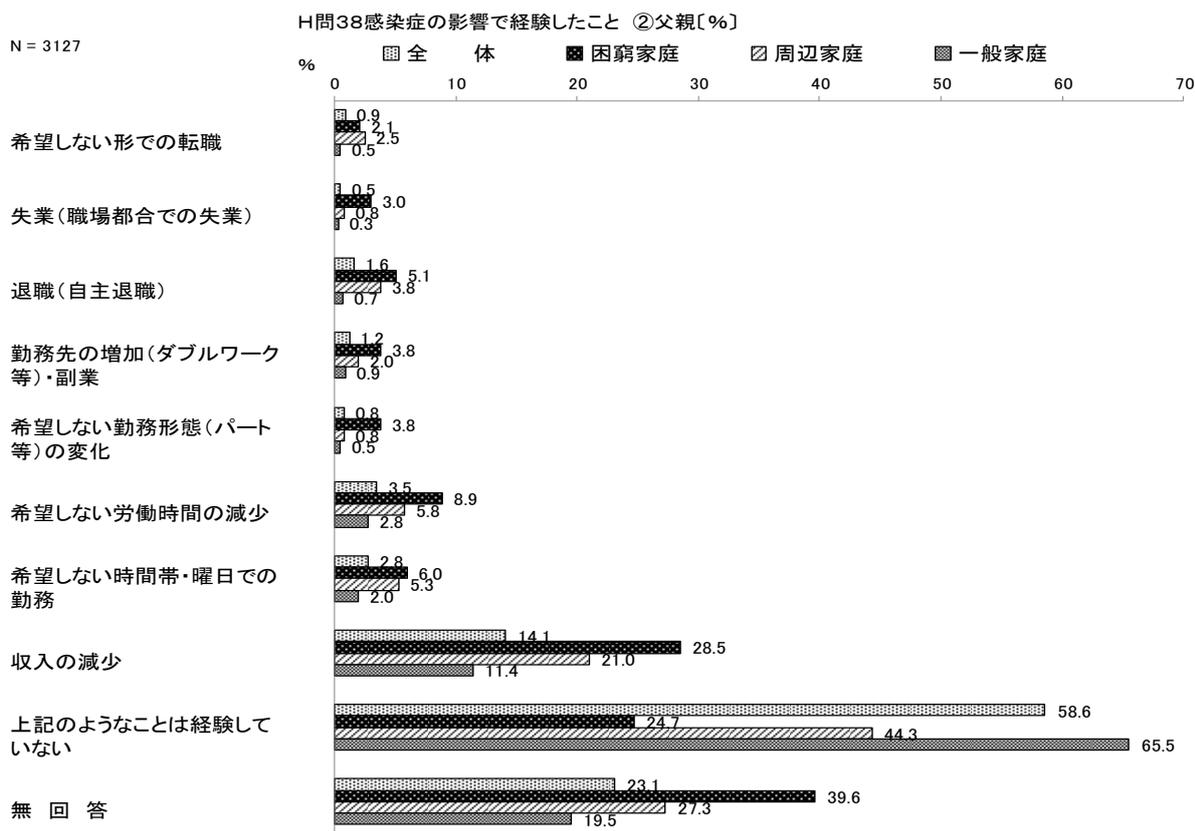
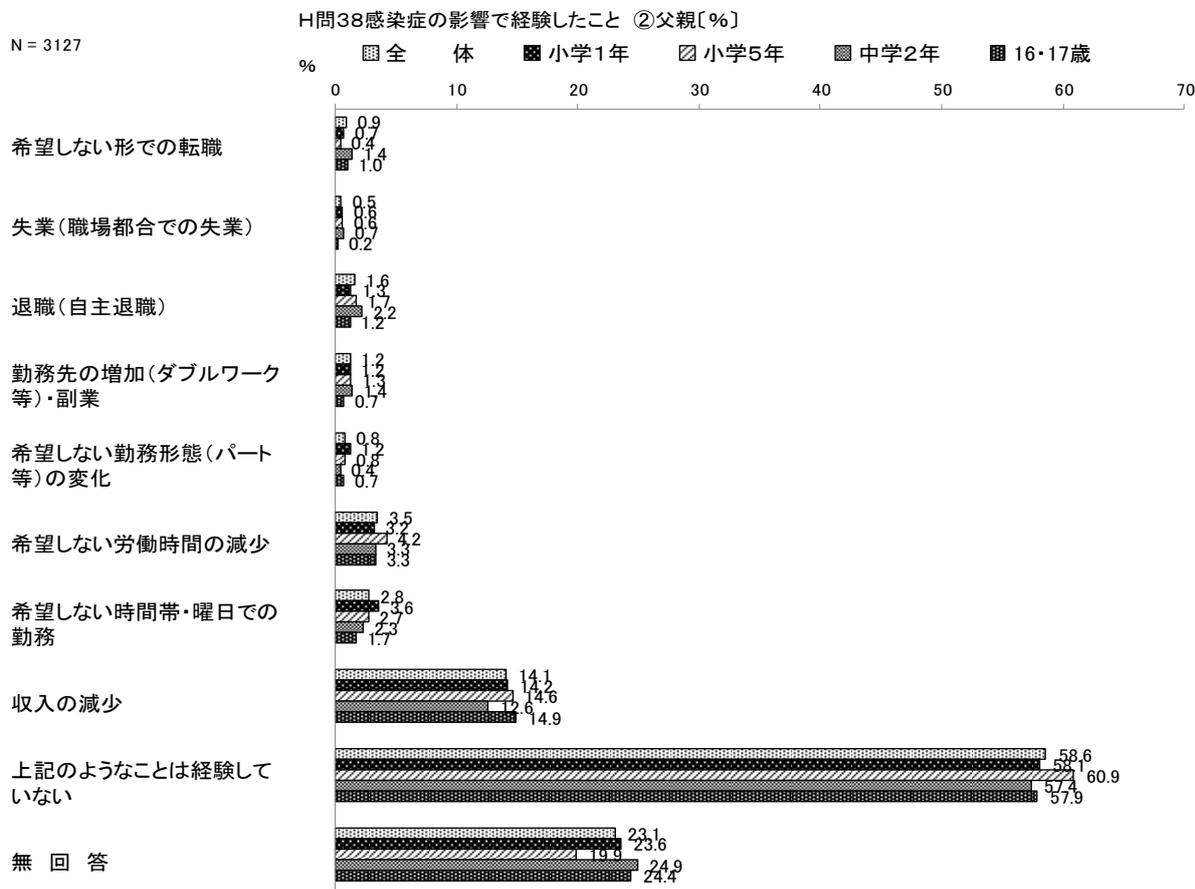
生活困窮度別では、困窮家庭で「収入の減少」が 32.8%、「希望しない労働時間の減少」が 14.9%などほとんどの項目で他の区分よりも回答割合が多くなっている。



[父親]

父親が新型コロナウイルス感染症拡大の影響で経験したことについては、「上記のようなことは経験していない」が58.6%と最も多く、「収入の減少」が14.1%などとなっている。

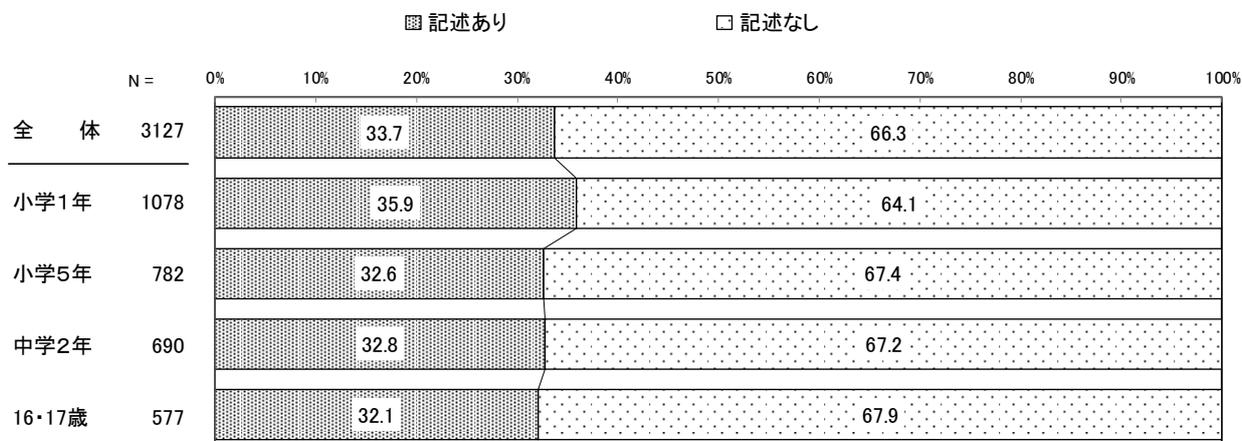
生活困窮度別では、困窮家庭で「収入の減少」の28.5%をはじめ、ほとんどの項目で他の区分よりも回答割合が多くなっている。



## (10)意見等

問 39 あなたが今、子育てで困っていることや悩みごと、子育てに関する意見がありましたら、ご自由にお書きください。

H問39 自由意見[%]



[自由意見のまとめ上位7項目 小学1年保護者]

順位	内容	件数
1位	<p style="text-align: center;">学童保育や保育園、子どもを預ける場所に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学童の時間(閉館)が、親の就労形態と合わないため、利用できない。</li> <li>・学童が利用しにくい。</li> <li>・夏休みの利用には、弁当が必要であるが、お金を負担してもいいので出してほしい。</li> <li>・保育時間にもう少し幅があるとありがたいと感じる。</li> <li>・児童センターの人数が多すぎて、安心して預けることができないため、毎日、祖父母に面倒を見てもらわなければならない、困っている。</li> <li>・育休復帰しても、保育園以外預けるところがなく、病気などの場合、仕事を休むしかない。</li> </ul>	69件
	<p style="text-align: center;">経済的な面で生活が苦しい・不安がある</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの教育資金などを今後支払う事ができるのかが不安である。</li> <li>・子育てにかかるお金の工面に困っている。</li> <li>・現在の収入では、生活が成り立たない。</li> <li>・仕事での収入が減っているものの、物価高騰により支出が増えるばかりで家計への打撃が大きい。</li> <li>・子どもが希望する習い事をやらせてあげたいが、金銭的、時間的(送迎等)に難しい。</li> <li>・成長は嬉しいし、楽しみだが、進学費用が不安である。</li> </ul>	
2位	<p style="text-align: center;">子育て支援(金銭面)に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達の未来のため、教育に関する費用は無料にしてほしい。</li> <li>・最優先は給食費の無償化で、次は高校の授業料の無償化である。</li> <li>・児童手当が少ない、何かとお金がかかるので、増やしてほしい。</li> <li>・未満児の保育料の減額や無償化を希望する。</li> <li>・負担になっている医療費や給食費を無料にしてほしい。</li> </ul>	55件
	<p style="text-align: center;">仕事や職場環境に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもがいても短時間で働ける仕事をもっと増えてほしい。</li> <li>・子育てしやすいような配慮がある会社等が増えてほしい(リモートワーク等の充実など)。</li> <li>・育休復帰しても保育園以外預けるところがなく、病気などの場合、仕事を休むしかない。</li> <li>・現在の職場で時短を取れないため、フルタイム復帰しか選択肢がない。</li> <li>・正規でも、子育て世帯の働き方が柔軟に選択できるようになってほしい。</li> </ul>	
3位	<p style="text-align: center;">子どもへの悩みに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが小学生になり、学校での様子、友達との関係、登下校中の事故などの心配事が増えた。</li> <li>・大らかに見守ることは案外難しい。</li> <li>・イライラが常にあり、子ども達にきつく当たってしまう。</li> <li>・言い出したら止まらなくなってしまう。</li> <li>・余裕がない時がある。</li> <li>・長女が中1で反抗期になって、接するのが難しい。</li> <li>・子ども達が学校で友達とのトラブルがあった時に解決するのが難しい。</li> <li>・子どもが多く、それぞれにかけられる時間が少ない。</li> </ul>	各45件
	<p style="text-align: center;">新型コロナウイルス感染症の影響に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもにもっと色々な事を経験させたいが、新型コロナウイルス感染症を気にして、行動を制限してしまっている。</li> <li>・コロナの影響でスキーやプールに行く機会が失われ、幼少期にさせてあげられなかったことが残念である。</li> <li>・学校の行事がコロナで縮小され、参観できない。もっと子どもの行事に参加したい。</li> <li>・家族や兄弟がコロナを発症していなくても、自宅待機になったり休みをとらないといけないことがあり、仕事が進まず、支障をきたす事が多い。</li> </ul>	
4位	<p style="text-align: center;">子育ての環境や支援に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てしている時に無料の電話相談があるといいなど思った。</li> <li>・子どもや自分自身のことで相談(カウンセリング)してもらったり、話をしたいと思うが、窓口がどこかわからない。</li> <li>・子育ては、母親がするものという考え方がほとんどの人にあるため、父親の育児はやりづらい。</li> <li>・毎日が忙しく、子どもとなかなか向き合えない。</li> <li>・仕事と家事、子育てに追われる日々で、どうしてこんな人生になってしまったのかと後悔してしまう。</li> </ul>	44件
	<p style="text-align: center;">学童保育や保育園、子どもを預ける場所に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学童の時間(閉館)が、親の就労形態と合わないため、利用できない。</li> <li>・学童が利用しにくい。</li> <li>・夏休みの利用には、弁当が必要であるが、お金を負担してもいいので出してほしい。</li> <li>・保育時間にもう少し幅があるとありがたいと感じる。</li> <li>・児童センターの人数が多すぎて、安心して預けることができないため、毎日、祖父母に面倒を見てもらわなければならない、困っている。</li> <li>・育休復帰しても、保育園以外預けるところがなく、病気などの場合、仕事を休むしかない。</li> </ul>	

[自由意見のまとめ上位7項目 小学5年保護者]

順位	内容	件数
1位	教育環境(教員、授業、設備)、給食、PTA等学校生活に関すること	33件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>配慮の必要なお子さんが多くなり、その対応で教職員の方の負担が年々増えているように感じる。</li> <li>子どもに関する悩みごとを学校の担任の先生に相談したいが、とても忙しいので相談できない。</li> <li>小学校・中学校の給食費が無料になればいいと思う。</li> <li>食物アレルギーへの対応。PTA活動をなくしてほしい。</li> </ul>	
2位	教育にかかる費用に関すること	29件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの進学、学習塾の費用が高額で困っている。</li> <li>高校の授業料無償化や、大学の奨学金など、親の所得により受けられないというのはおかしいと思う。</li> <li>所得制限の上限金額を高くして平等に制度が受けられるようにしてほしい。</li> <li>子育てに関する社会制度(児童手当、就学支援、給付費など)を「所得制限」という観点のみで排除しないでほしい。</li> </ul>	
3位	行政への要望	21件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>全てにおいてやること、取組みが遅いと感じる。</li> <li>子育て支援の手厚い県市町村の政策をもっと参考にして取り入れれば良いと思う。</li> <li>市町村によって福祉医療費受給者の年齢に違いがある。しっかりと受診できるように一律に高校卒業する年齢まで統一してほしい。</li> </ul>	
4位	子どもの居場所(放課後施設、公園、スポーツ施設等)に関すること	20件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもと過ごす公園や無料で遊びのびのび遊べる所が少ないのが困る。</li> <li>学校のプラザなど無償になったらありがたい。</li> <li>学校以外で勉強をきちんとみてもらえる所がほしい。</li> <li>子どもが休みでも大人は仕事があるので、子ども達だけでも過ごせる場所がほしい。</li> </ul>	
5位	家庭環境(家計、家族の関係)に関すること	各17件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>お金が足りなくて、食品、服(子ども服も)なども買えないこと。</li> <li>父親の子育てへの不参加。</li> <li>子育てに関して自分の考え方の違いが多い。</li> <li>母子、父子家庭で同じ悩みや不安を語り合える場や機会がほしい。</li> </ul>	
	コロナの子ども達への影響に関すること	
7位	家での子どもの様子	13件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活のIT化(タブレット1人1台の使用等)やコロナ禍のせいで、より家の中でゲームをすることが多くなり、子ども達の視力低下が問題となっている。</li> <li>家で遊ぶ時間の増加で動画、ゲームの時間が多くなり、勉強よりもそちらの方を優先しているようなことが多くなった。</li> <li>気に入らないことがあるとふてくされたり、舌うちをしたり、自分の部屋に閉じこもることが多くなり、どう接していいかわからない。</li> </ul>	

[自由意見のまとめ上位7項目 中学2年保護者]

順位	内容	件数
1位	教育費など子どもにかかる費用に関すること	56件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校、大学進学にかかる費用が心配である。</li> <li>教育費がとにかくかかり大変である。</li> <li>子どもの多い家庭への大学費用などもっと増やしてほしい。</li> <li>医療費を高校生まで無料にしてほしい。</li> <li>子どもは高校になってからお金がかかるのに児童手当が中学でなくなるのはどうかと思う。</li> </ul>	
2位	学習面や学校に関すること	46件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力に関する悩みがある。</li> <li>どうやったら勉強を効率よくできるかなどである。</li> <li>中学校は、制服や学校指定の購入が多く、お金がかかる。</li> <li>もっと柔軟にしてほしい。</li> <li>担任により、相談できるできないが分かれる。</li> <li>教師の質にばらつきがあり、担任や校長が変わることで良くも悪くも変わってしまう。</li> </ul>	
3位	子育てや子どもに対する悩みに関すること	24件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもは将来について、夢や希望がなく、この先の進路について心配である。</li> <li>思春期真っただ中で反抗期である。</li> <li>大きな声を出し、イラつく子どもを見ていて怖い。</li> <li>子どもの思いと自分の思いがぶつかってしまう事が増えた。</li> <li>父親と母親の子育てについての価値観が違う。</li> </ul>	
4位	不登校に関すること	18件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校の子どもとの接し方に悩んでいる。</li> <li>子どもが学校に行かず(不登校)学力の遅れ、対人関係、社会への自立ができるか心配である。</li> <li>子どもはいじめにより、2年前から不登校になった。</li> <li>中間教室などには行けない。・フリースクールは高額である。</li> <li>全ての子どもたちに平等に与えられているはずの学ぶ権利を、平等に実現するために必要な公的支援を適用してほしい。</li> </ul>	
5位	部活動や社会体育などに関すること	各15件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の送迎が大変である。</li> <li>中学の社会体育で活動を行っているが、保護者の負担が大きい。</li> <li>部活が以前ほどと言わないまでも、もう少し活発になればよいと思っている。</li> <li>コロナ禍の影響なのか、部活に入る子ども達が減っているように感じる。</li> <li>週末の指導を外に移行することだが、指導者の確保に困難を伴うことが予想される。</li> <li>週末だけの指導となると、子どもの習熟レベルが維持可能か疑問を感じる。</li> </ul>	
7位	障がいに関すること	13件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達障がいの子どもへの教育の理解、充実した学校生活、教員の確保が必要だ。</li> <li>学習に困難を抱える子どもにとって高校入試に関しての配慮があまりされていないことに不安がある。</li> <li>重い障がいを持つ人への支援も大切だが、制度の狭間で支援が受けられない人への支援も考えてもらいたい。</li> <li>高校生になったら全く支援が受けられないのでは、と不安である。</li> </ul>	
7位	新型コロナウイルス感染症の影響に関すること	13件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナで子ども達の行動が制限され、ストレスが多くなるのが気がかりだ。</li> <li>過剰なコロナ自粛の政策により子どもが通常の教育を受けさせてもらえないことに不満がある。</li> <li>コロナにより、子どもが学校を休むことのハードルが低くなった(健康観察にチェックが1つでもあると休みと言われているため)が、欠席した場合のフォローや、欠席が多くなった時の成績への評価の配慮があまりない。</li> </ul>	

[自由意見のまとめ上位7項目 16・17歳保護者]

順位	内容	件数
1位	子育て支援に関して行政に望むこと	50件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療費と教育費を無償にしてほしい。</li> <li>・児童手当はせめて高校を卒業するまで支給してほしい。</li> <li>・子育て世帯に対しての費用や制度はもっと負担を減らしてほしいと思う。</li> <li>・将来子ども達もこの長野県で子育てしたいと思えるような、子育てのしやすい県であってほしい。</li> </ul>	
2位	教育費(学費や進学にかかる費用)に関すること	47件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学進学のための経済的負担が大きいため、無償化してほしい。</li> <li>・大学進学を勧めたいが、教育費、生活費等が高くて考えてしまう。</li> <li>・奨学金を借りたとしても、その後の返済が大変だと思う。</li> <li>・子どもは進学したいが、資金がない。</li> <li>・高校進学後、学費でお金がかかるため、少し補助等が出る制度をつくってほしい。</li> </ul>	
3位	家庭環境(家計や生活)に関すること	34件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今、色々値上がりしているので大変だ。</li> <li>・これから夏休みに入ったりするとさらに大変になる。</li> <li>・少しでも生活しやすくなってほしい。</li> <li>・過疎地域で暮らしているが、バス代(交通費)が毎月高額で困る。</li> <li>・自転車や電車で通える地域がうらやましい。</li> </ul>	
4位	子どもの様子に関すること	28件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものネット依存がひどい。</li> <li>・携帯やタブレットを使った勉強時間が増え、ゲームやYouTubeとともに画面を見続ける時間が増えた。</li> <li>・子どもが話をしない(反抗期)こともあり、将来に対する考えがわからない。</li> <li>・昨年、子どもが不登校になって、ひきこもり傾向になった。心療内科に通院しているが、この先の不安が大きい。</li> </ul>	
5位	学校や教育環境に関すること	26件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の時に行くことができなかった修学旅行に、高校では行かせてあげてほしい。</li> <li>・発達障がいに対する支援が必要である。</li> <li>・まだまだ脳が発達途上にある子どもたちに、タブレットやスマホを使用している授業が本当に必要なのか、十分検討して頂きたいと思う。</li> </ul>	
6位	進路や将来に関すること	19件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の進路が心配である。</li> <li>・進路の相談を専門の人や、その経験者に相談したい。</li> <li>・子どもに合う仕事が見つかってほしい。</li> <li>・子どもに合った仕事が見つけれられるか心配である。</li> </ul>	
7位	収入や職場環境に関すること	16件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収入が増えない。</li> <li>・仕事を休むことに気を遣う。</li> <li>・仕事が残っていて帰れないため、家族との時間を大切にしたいのに、そんなことさえできない。</li> <li>・女性にも働きやすく、子育てにもっと時間配分できる社会になることを望む。</li> </ul>	

## 5. 子ども調査結果

子ども本人の有効回答数(1,955 件)は、生活困窮度別の集計による子どもの回答数(子どものみの回答を除き、小学1年保護者回答分を含め 3,033 件)と母数が異なるため、全体のパーセントにずれが生じる場合がある。

また、小学1年が含まれる設問と含まれない設問があり、小学1年が含まれている設問の回答は子どもの保護者の回答である。

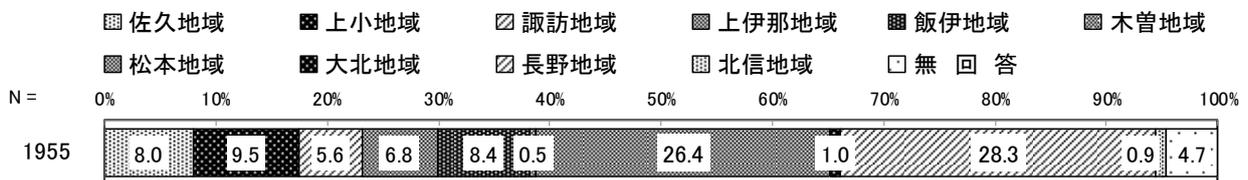
### (1)属性・居住地域

#### 1) 居住地域

問1 あなたが住んでいる市町村を教えてください。(小学1年以外)

長野地域が 28.3%で最も多く、次いで松本地域が 26.4%、上小地域が 9.5%である。

問1 居住地(10圏域) [%]

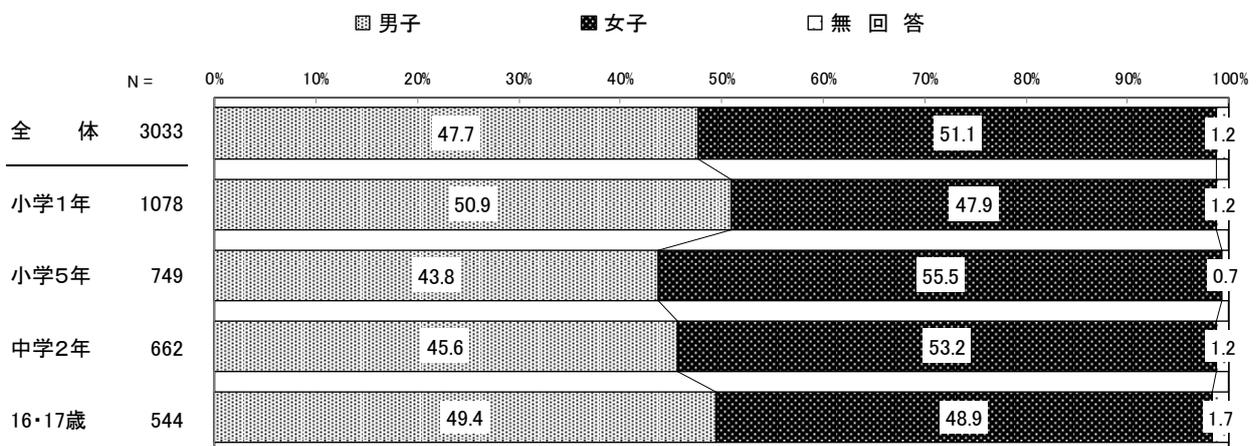


#### 2) 性別

問2 あなたの性別を教えてください。

回答のあった子どもの性別は、「男子」が 47.7%、「女子」が 51.1%である。

問2 性別 [%]



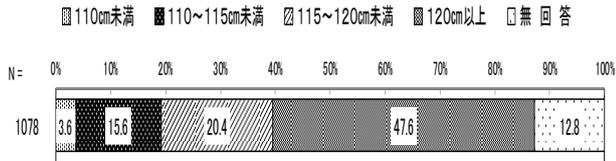
#### 3) 身長・体重

問3 あなたの身長・体重を教えてください。

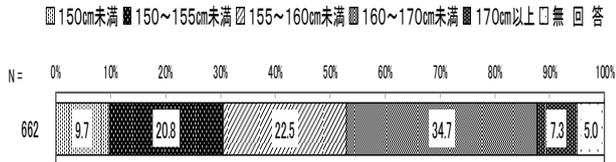
小学1年の身長は、120 cm以上が 47.6%、体重は 20~25kg 未満が 49.6%、小学5年の身長は 140 cm未満が 32.3%、体重は 30kg 以上 35kg 未満が 30.2%、中学2年の身長は 160~170 cm 未満が 34.7%、体重は 45kg 以上 50kg 未満が 24.3%、50kg 以上 55kg 未満が 21.5%、16・17歳の身長は 160~170 cm未満が 35.5%、体重は 55kg 以上が 41.0%で、それぞれ多くいる。

## [身長]

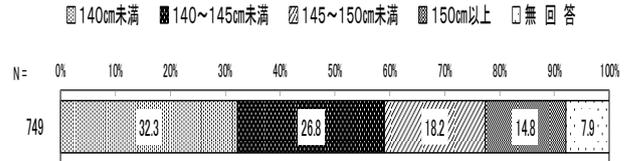
H1問37 子どもの身長(小学1年)(%)



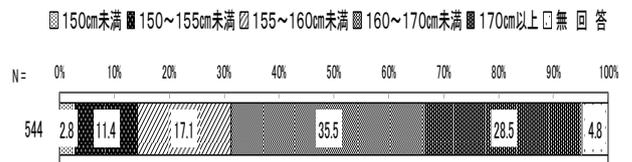
問3 身長(中学校2年生)(%)



問3 身長(小学校5年生)(%)



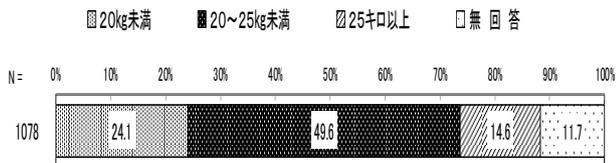
問3 身長(16・17歳生)(%)



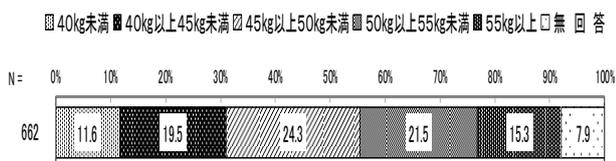
	平均身長(cm)	
	男子	女子
小学1年(保護者回答)	118.5	118.2
小学5年	116.5	113.6
中学2年	162.0	155.1
16・17歳	170.1	157.7

## [体重]

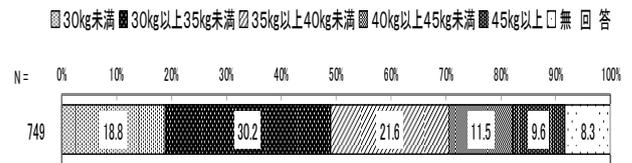
H1問37 子どもの体重(小学1年)(%)



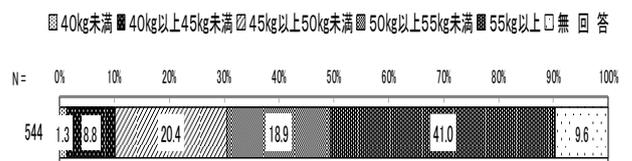
問3 体重(中学校2年生)(%)



問3 体重(小学校5年生)(%)



問3 体重(16・17歳生)(%)



	平均体重(kg)	
	男子	女子
小学1年(保護者回答)	21.8	21.1
小学5年	34.7	35.2
中学2年	49.7	46.4
16・17歳	58.8	49.7

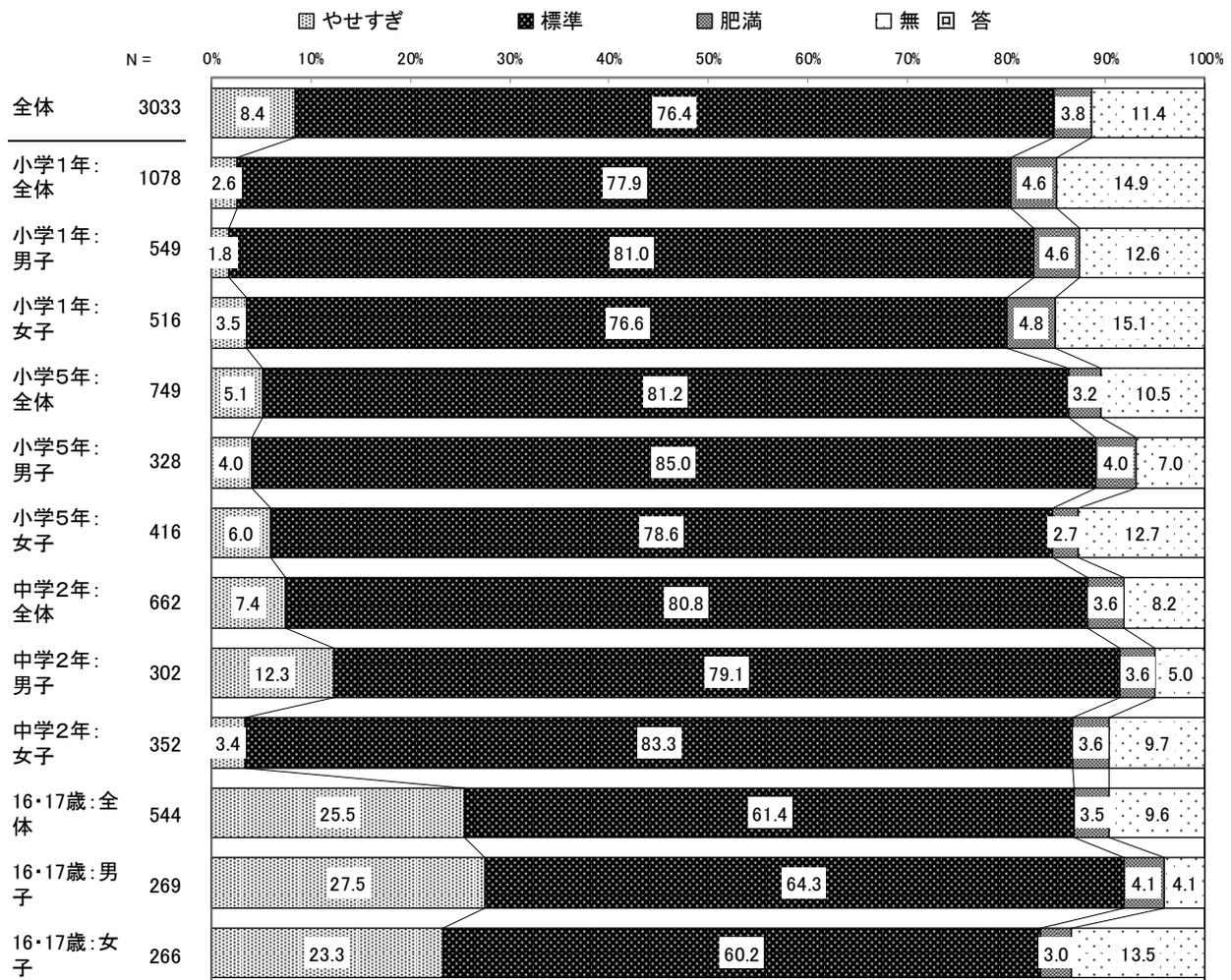
[肥満度（小学1年・小学5年・中学2年はローレル指数、16・17歳はBMI値）]

肥満度については、小学1年・小学5年・中学2年は「標準」が80%前後だが、16・17歳では61.4%と少なく、「やせすぎ」が25.5%と多い。

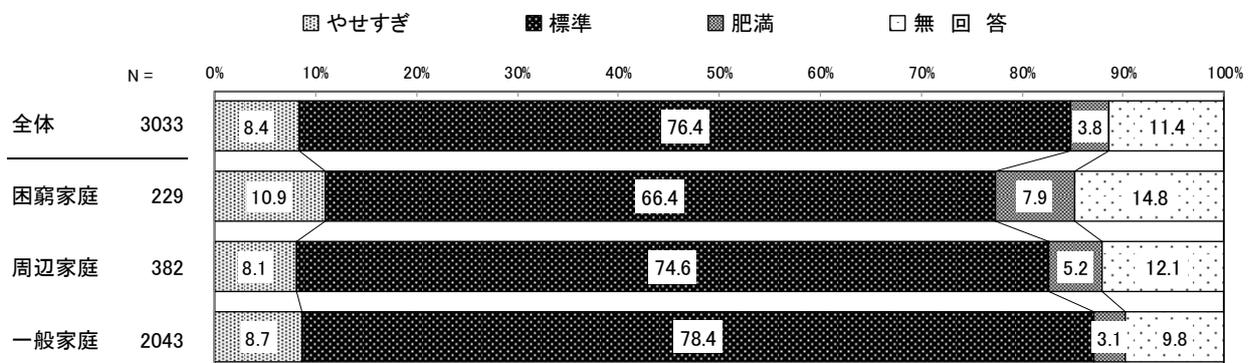
生活困窮度別では、「肥満」が困窮家庭で7.9%となっている。

注：肥満度は、ローレル指数（小学1年・小学5年・中学2年）：やせすぎ100未満、標準100～160未満、肥満160以上、BMI値（16・17歳）：やせすぎ18.5未満、標準18.5～25未満、肥満25以上

問3 肥満度（ローレル指数、BMI値）[%]



問3 肥満度（ローレル指数、BMI値）[%]

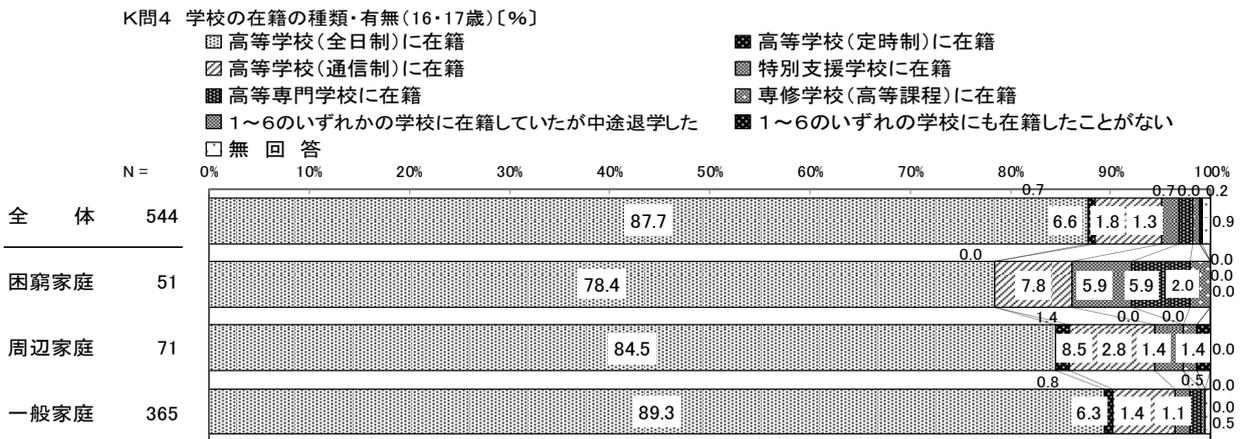


#### 4) 通学・就職状況 (16・17歳のみ)

##### K問4 あなたは、現在学校に在籍していますか。(16・17歳のみ)

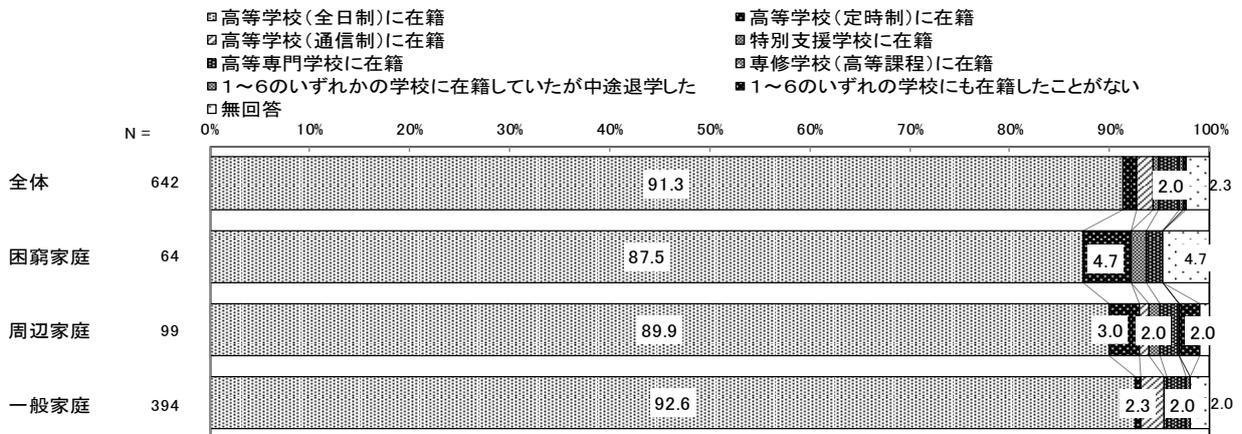
16・17歳の学籍状況は、「高等学校(全日制)に在籍」が87.7%、「高等学校(通信制)に在籍」が6.6%などとなっている。前回と比べて、「高等学校(全日制)に在籍」がやや少なくなり、「高等学校(通信制)に在籍」がやや多くなっている。

生活困窮度別では困窮家庭で「高等学校(全日制)に在籍」が78.4%、「高等学校(通信制)に在籍」が7.8%みられる。前回と比べて、「高等学校(全日制)に在籍」が少なくなり、「高等学校(通信制)に在籍」がやや多くなっている。



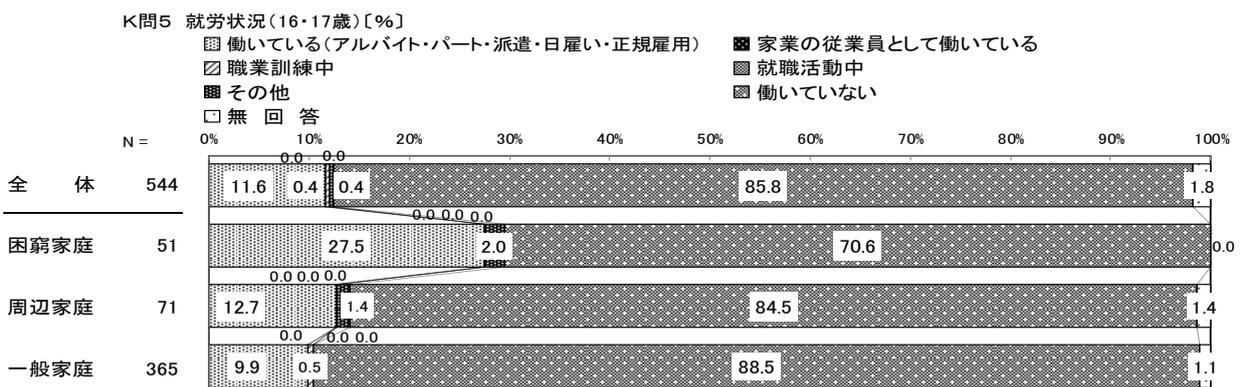
##### [参考: 前回調査結果]

##### (H29調査) 学校の在籍の種類・有無 [%]



##### K問5 あなたは、現在働いていますか。(16・17歳のみ)

16・17歳の就労状況は、「働いている(アルバイト・パート・派遣・日雇い・正規雇用)」は11.6%となり、生活困窮度別では、困窮家庭で27.5%回答している。



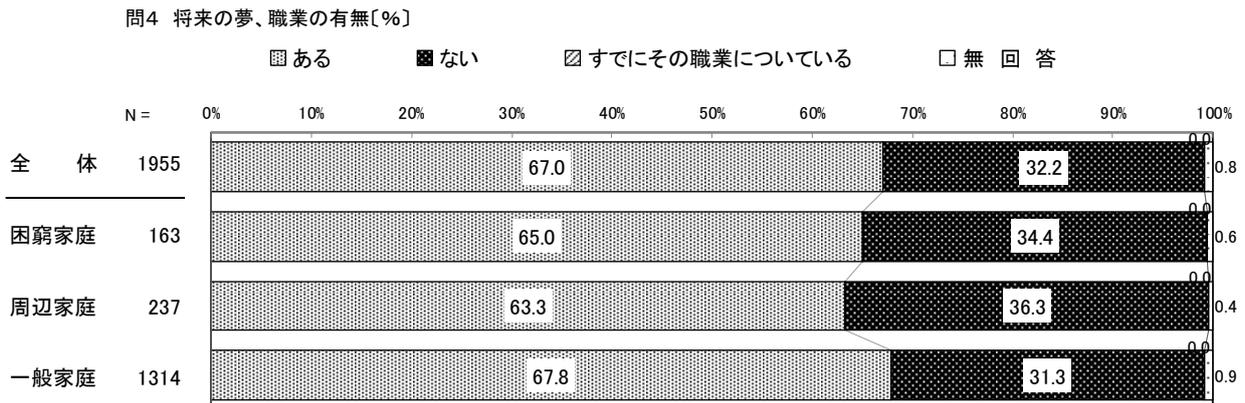
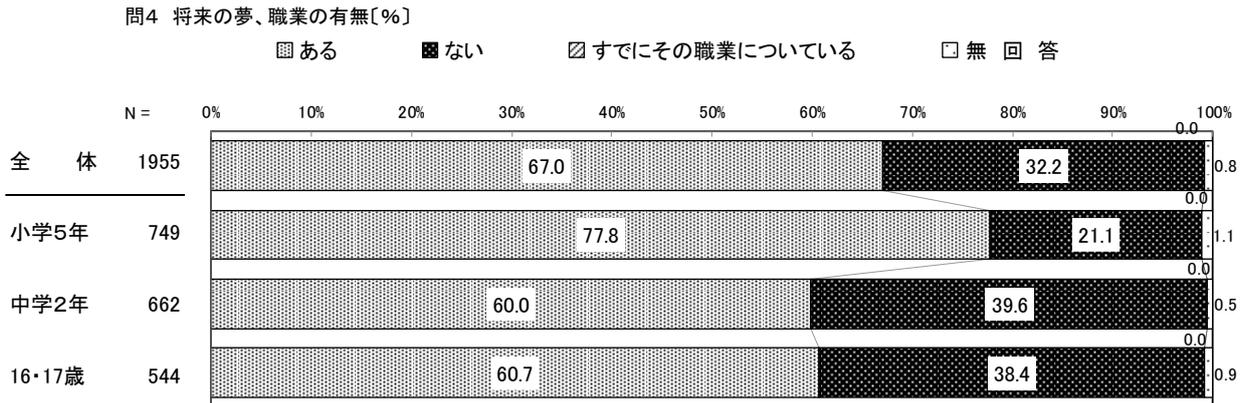
## (2)将来のこと

### ①将来の夢(小学5年、中学2年、16・17歳)

問 4 あなたは、将来の夢(小学5年・中学2年)や将来なりたい職業(16・17歳)がありますか。(小学1年以外)

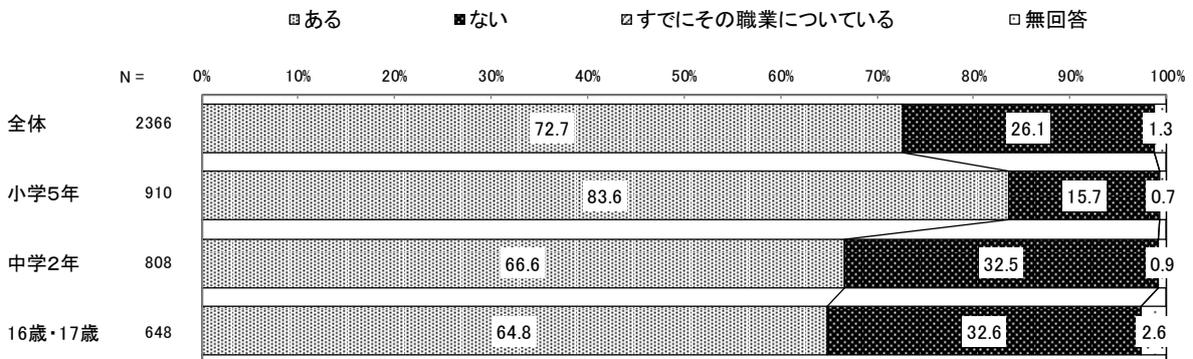
将来の夢・なりたい職業の有無については、「ある」が67.0%、「ない」が32.2%となっている。前回と比べると、「ある」が少なくなり、「ない」が多くなっている。

学年別では、「ある」と回答した割合は、小学5年77.8%、中学2年は60.0%、16・17歳は60.7%となっている。前回と比べて、全学年で「ある」と回答した割合が少なくなっている。

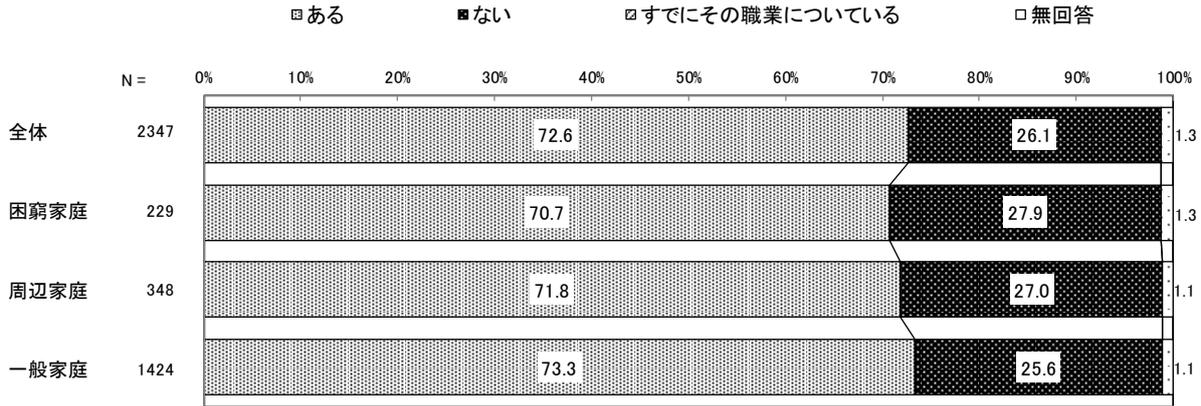


[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 将来の夢、職業の有無[%]



(H29調査) 将来の夢、職業の有無[%]



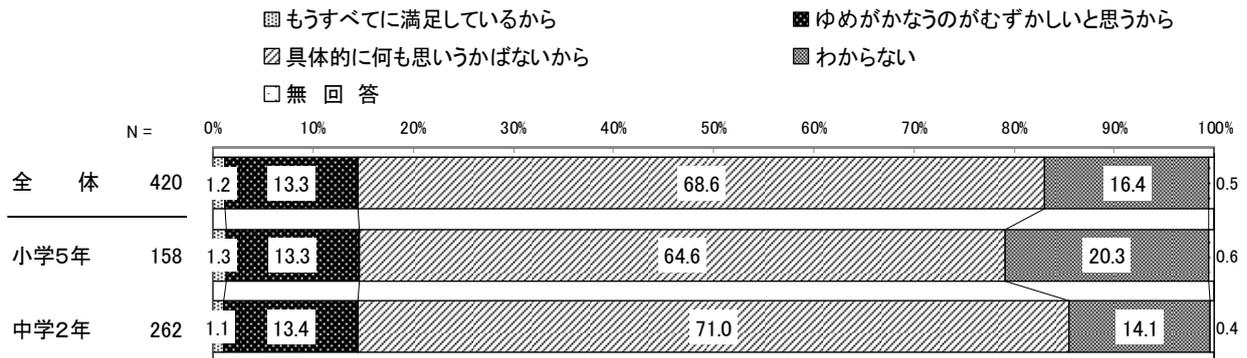
問 4-1 将来の夢(小学5年・中学2年)や将来になりたい職業(16・17歳)が「2 ない」と答えた人にお聞きします。その理由は何ですか。(小学1年以外)

[小学5年・中学2年]

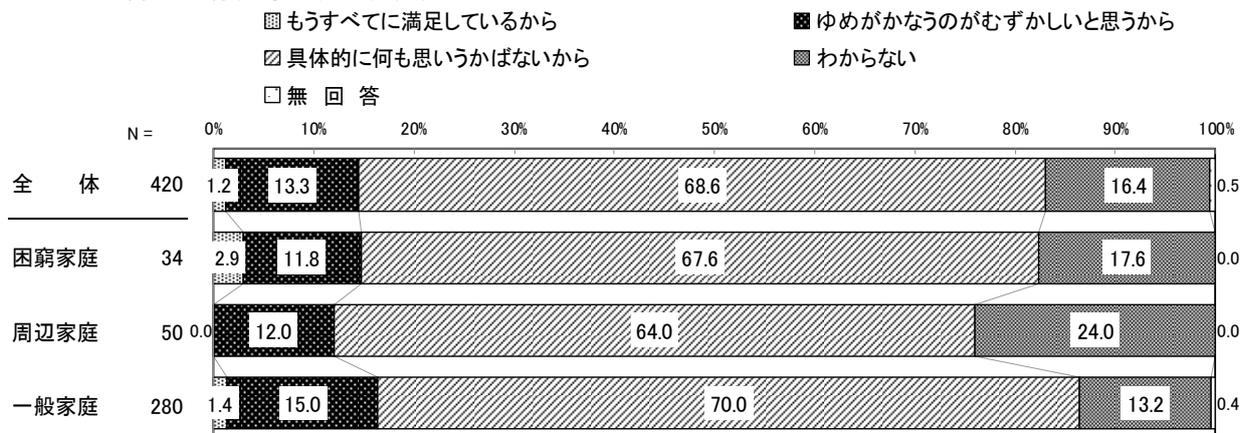
将来の夢がない理由と回答した理由としては、「具体的に何も思いうかばないから」が68.6%、「わからない」が16.4%、「ゆめがかなうのがむずかしいと思うから」が13.3%となっている。

生活困窮度別では、周辺家庭で「わからない」が24.0%と他の区分よりも多く回答されている。前回と比べて、「具体的に何も思いうかばないから」の回答割合が一般家庭と困窮家庭で多くなっている。

問4-1 将来の夢がない理由[%]

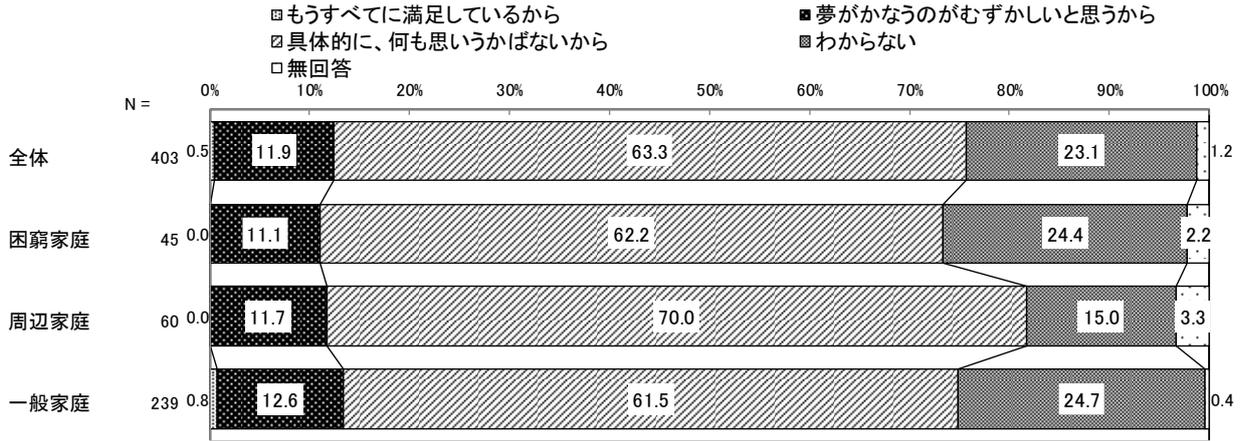


問4-1 将来の夢がない理由[%]



[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 将来の夢がない理由[%]

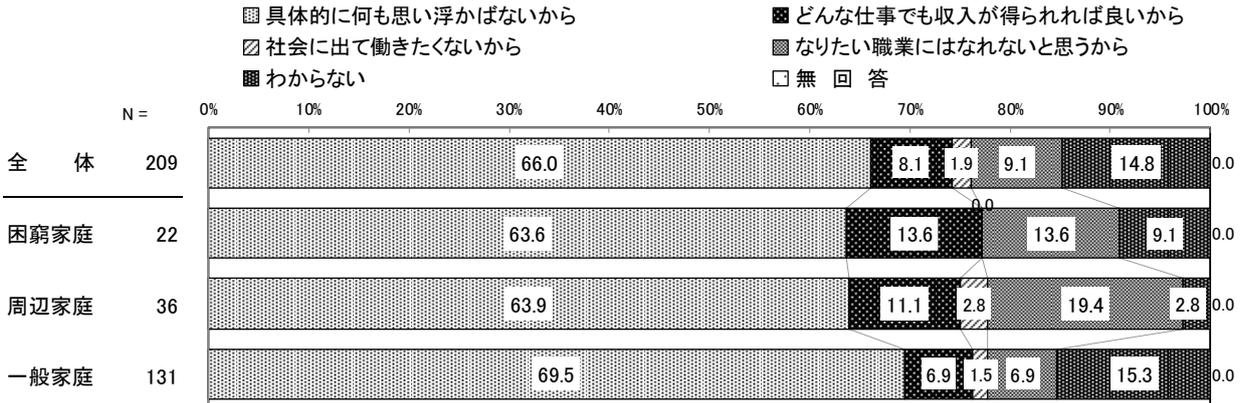


[16・17歳]

16・17歳の将来なりたい職業がない理由は、「具体的に何も思いうかばないから」が66.0%、「わからない」が14.8%、「なりたい職業になれないと思うから」が9.1%などとなっている。

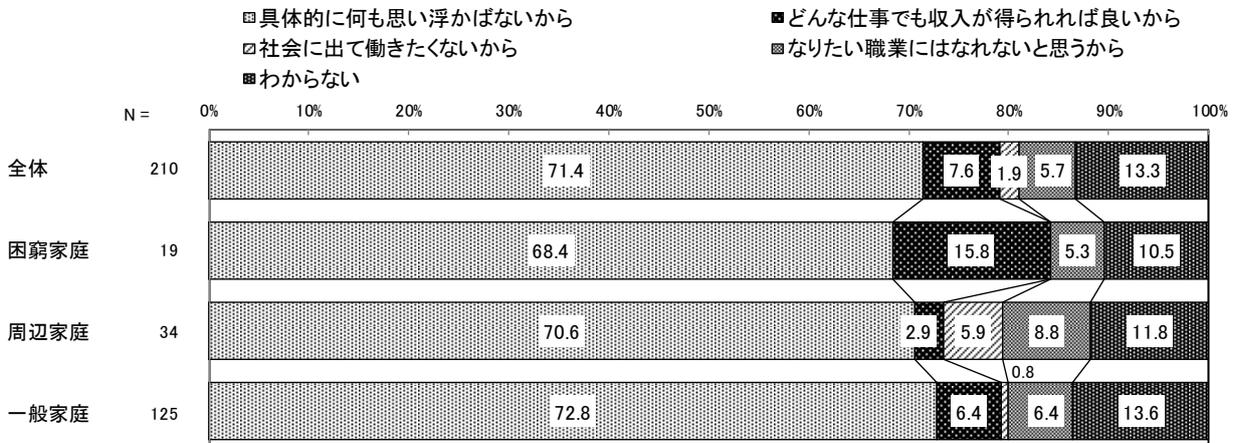
生活困窮度別では、「なりたい職業になれないと思うから」が全区分で前回よりも多く回答されている。

K問4-1 将来の夢がない理由(16・17歳)[%]



[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 将来なりたい職業がない理由[%]

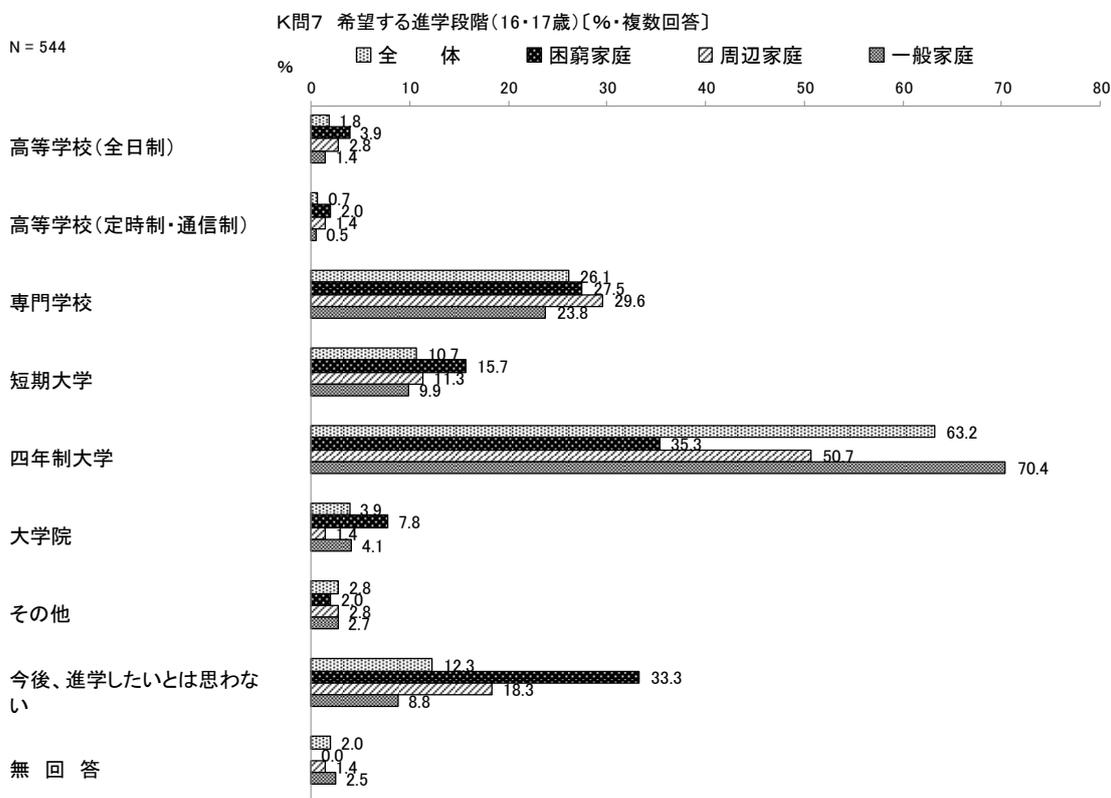


## ②進学希望(16・17歳のみ)

### K問7 あなたは、今後、進学を希望する学校がありますか。(16・17歳のみ)

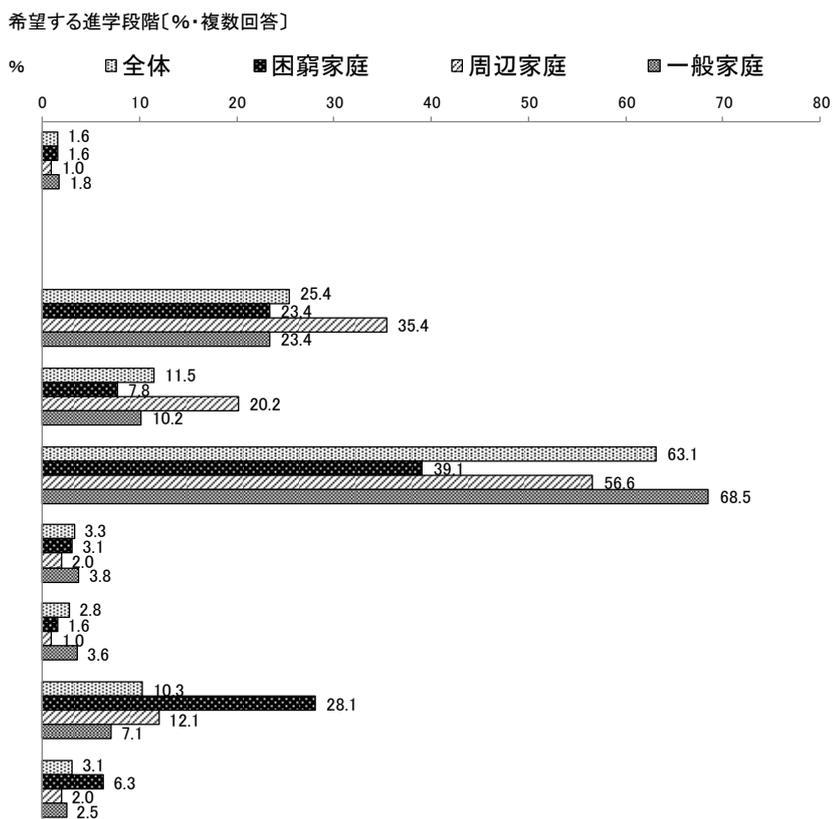
希望する進学段階について、「四年制大学」が63.2%、「専門学校」が26.1%、「今後進学したいと思わない」が12.3%となっている。

生活困窮度別では、「四年制大学」の回答割合が、一般家庭は70.4%、周辺家庭は50.7%、困窮家庭は35.3%となっており、一般家庭と生活困難家庭では大きな差がある。



### [参考: 前回調査結果]

(H29調査)  
N = 642



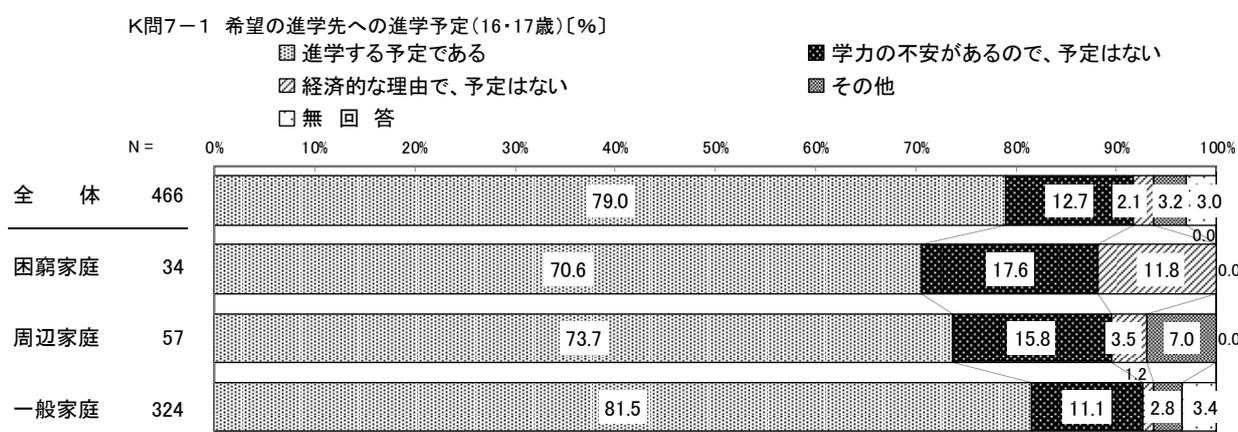
K 問 7-1 今後の進学を希望する人にお聞きします。希望する学校に進学する予定はありますか。  
(16・17 歳のみ)

希望の進学先に進学する予定があるかについては、「進学する予定である」が79.0%、「学力の不安があるので、予定はない」が12.7%、「経済的な理由で、予定はない」が2.1%などとなっている。

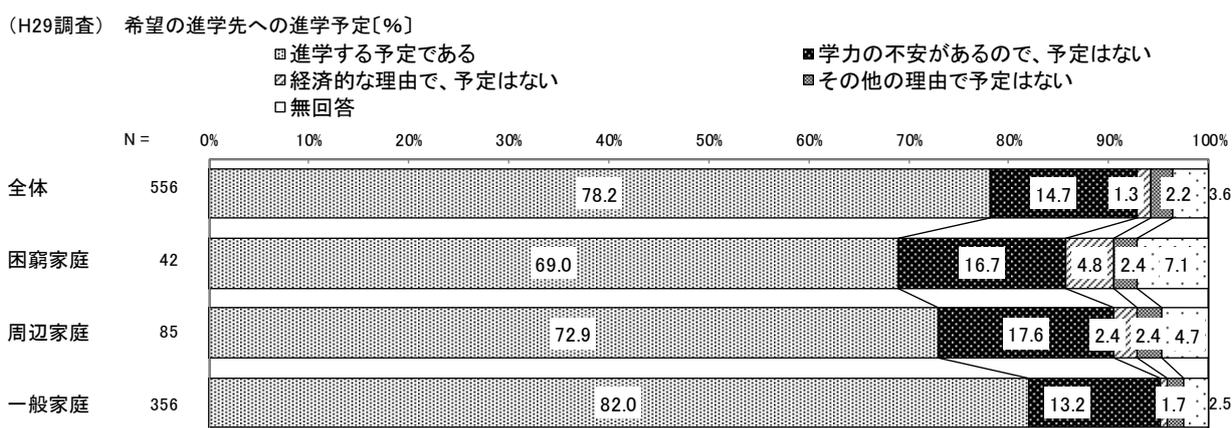
生活困窮度別では、困窮家庭では一般家庭や周辺家庭に比べて、「経済的な理由で、予定はない」の回答割合が多くなっている。

前回と比べて、「進学する予定である」と「学力の不安があるので、予定はない」はどの区分でもほぼ同程度の回答割合となっているが、「経済的な理由で、予定はない」について、一般家庭と周辺家庭については、前回とほぼ同程度の一方、困窮家庭については前回の4.8%に対し、今回は11.8%と多くなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「進学する予定がある」が70.6%、「学力の不安があるので、予定はない」が17.6%となっており、ともに前回と同程度で、「経済的な理由で、予定はない」は11.8%と前回よりも多い。



[参考: 前回調査結果]



### (3)ふだんの生活

#### ①入浴

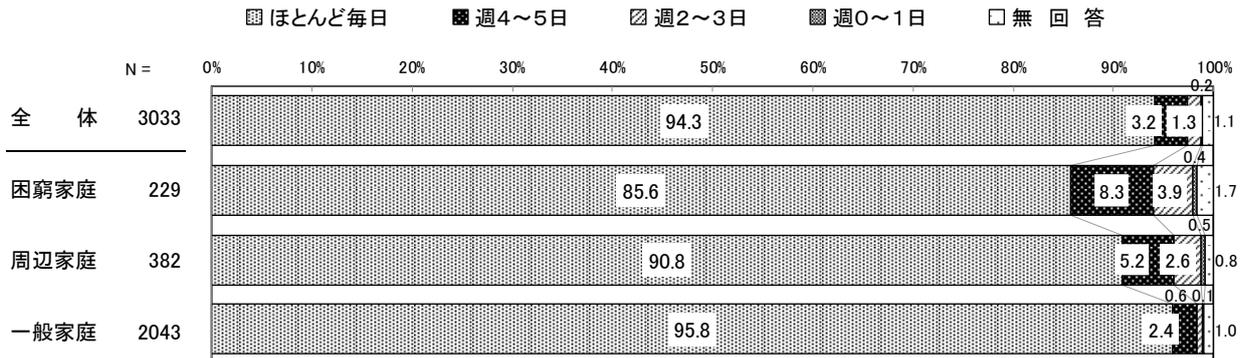
問5 あなたは、週にどのくらい風呂に入りますか。(シャワーだけでも含みます)

入浴頻度は、「ほとんど毎日」が94.3%となっている。

生活困窮度別では、「ほとんど毎日」と回答したのが、一般家庭で95.8%に対し、困窮家庭で85.6%となっており、「週4～5日」が他の区分よりもやや多くなっている。

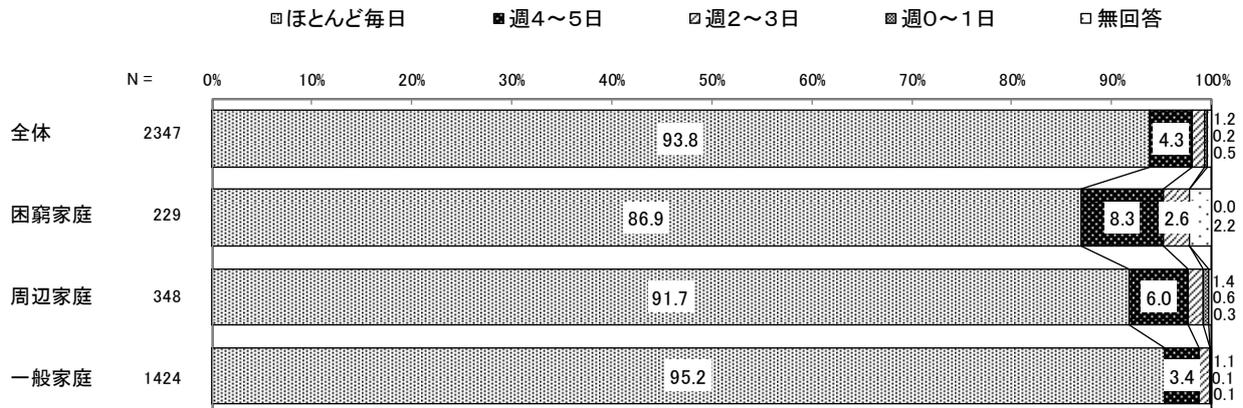
生活困窮度別については、前回の回答割合とほぼ変化はなかった。

問5 入浴頻度[%]



[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 問9 入浴頻度[%]



#### ②放課後等の過ごし方

[放課後等を一緒に過ごす人・場所]

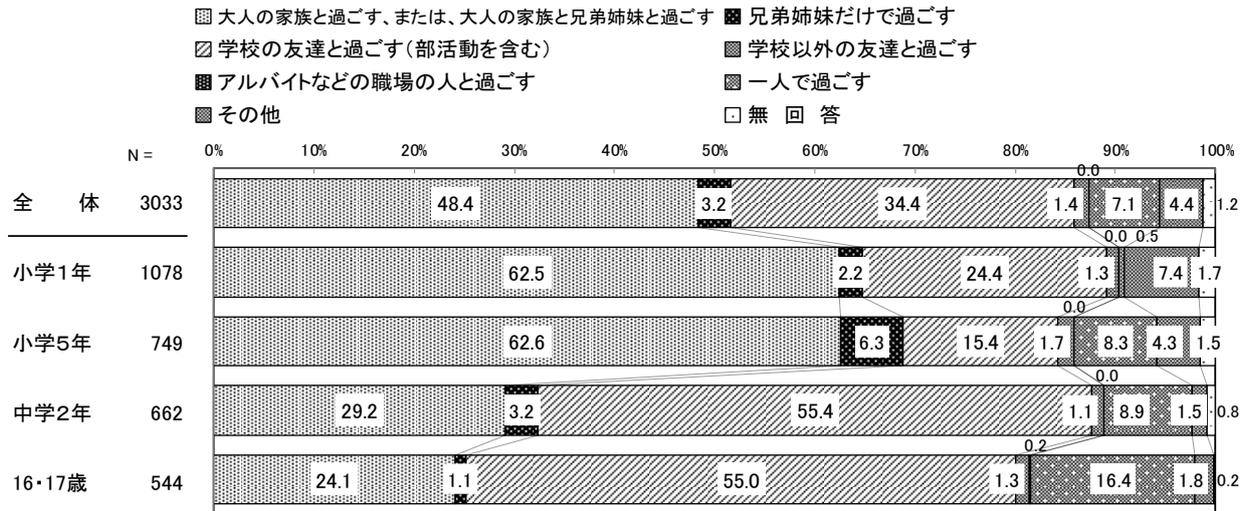
問6 あなたは、平日(学校や仕事に行く日)の放課後や自由時間は、だれと一緒に過ごすことが一番多いですか。

平日の放課後や自由時間に一緒に過ごすことが多い人については、「大人の家族と過ごす、または、大人の家族と兄弟姉妹と過ごす」が48.4%と最も多く、次いで「学校の友達と過ごす(部活動を含む)」が34.4%、「一人で過ごす」が7.1%である。

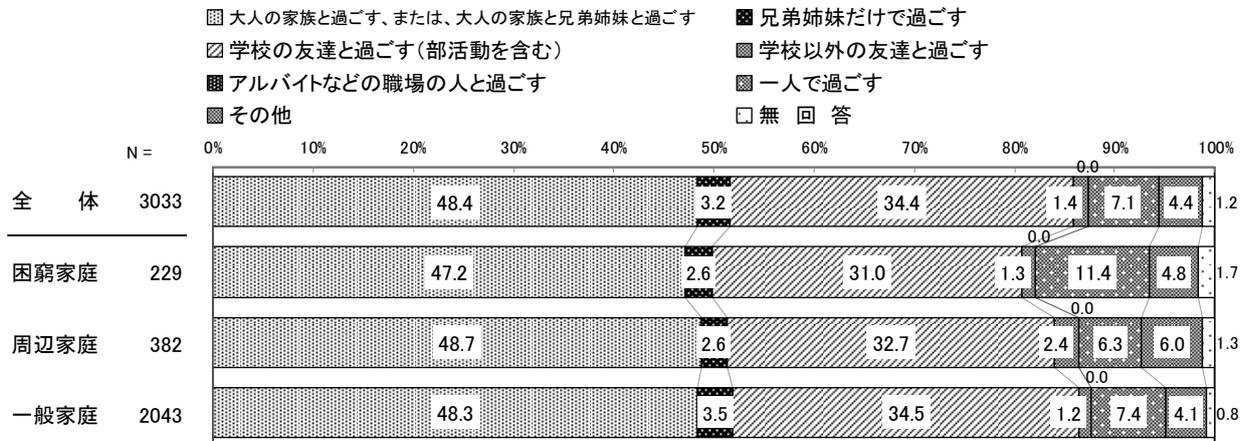
学年別では、小学1年と小学5年で「大人の家族と過ごす、または、大人の家族と兄弟姉妹と過ごす」がそれぞれ60%台で最も多く回答されているが、中学2年と16・17歳では「学校の友達と過ごす(部活動を含む)」が55%前後で最も多く回答されている。

前回の全体と比べて、「大人の家族と過ごす、または、大人の家族と兄弟姉妹と過ごす」が多くなり、「学校の友達と過ごす(部活動を含む)」が少なくなっている。

問6 平日の放課後・自由時間、一番一緒に過ごす人[%]

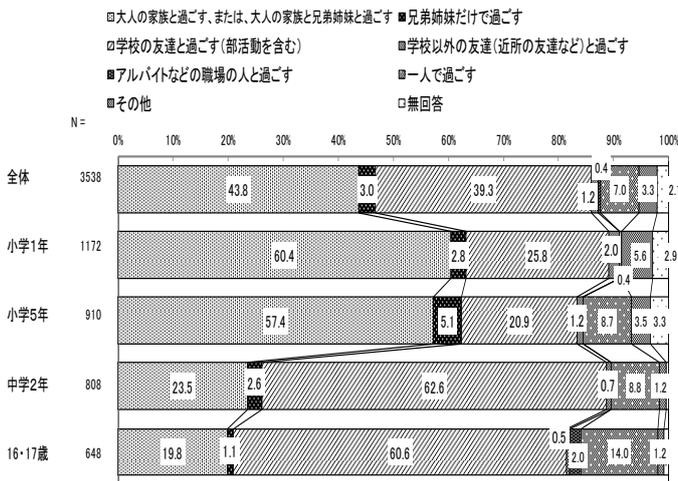


問6 平日の放課後・自由時間、一番一緒に過ごす人[%]

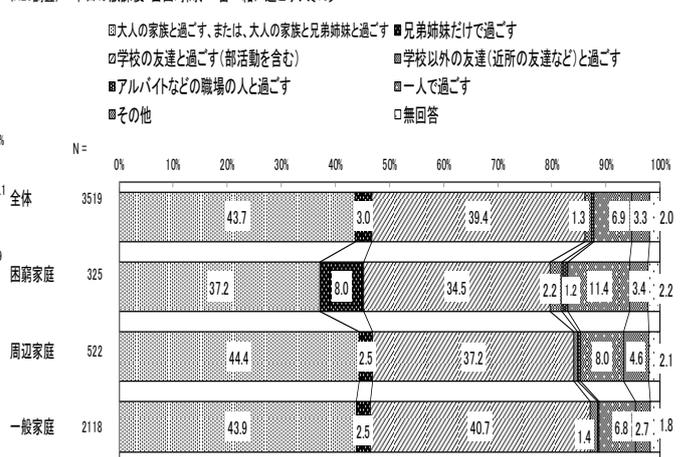


[参考: 前回調査]

(H29調査) 平日の放課後・自由時間、一番一緒に過ごす人[%]



(H29調査) 平日の放課後・自由時間、一番一緒に過ごす人[%]

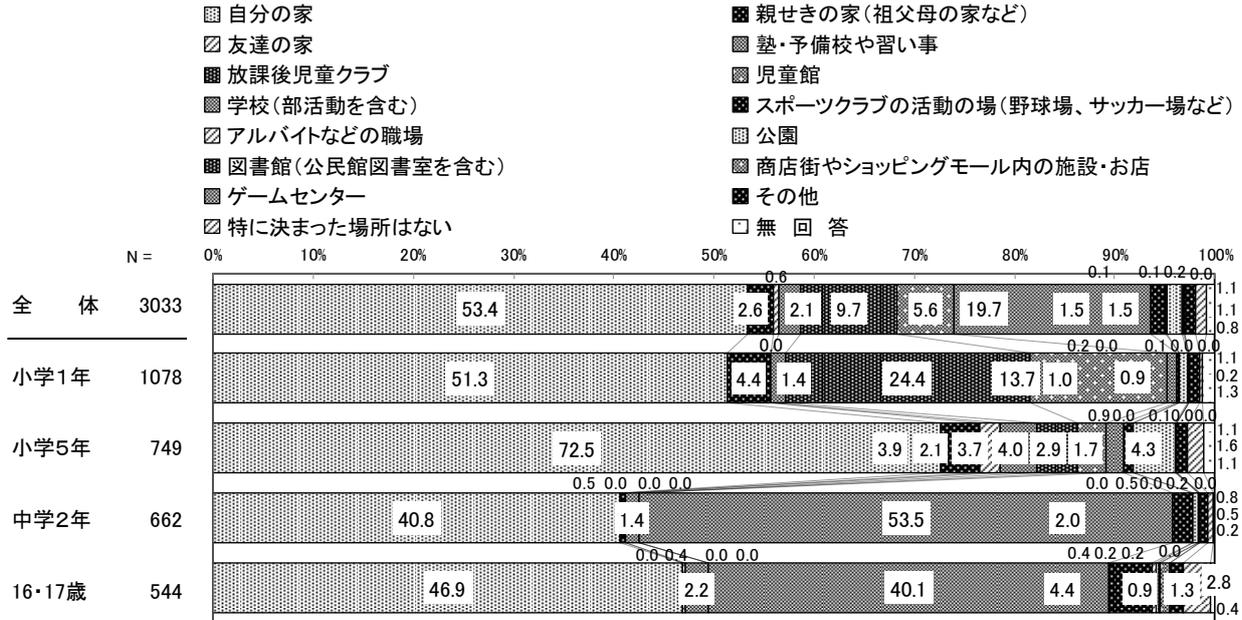


問7 あなたは、平日(学校や仕事に行く日)の放課後や自由時間は、どこで過ごすことが一番多いですか。

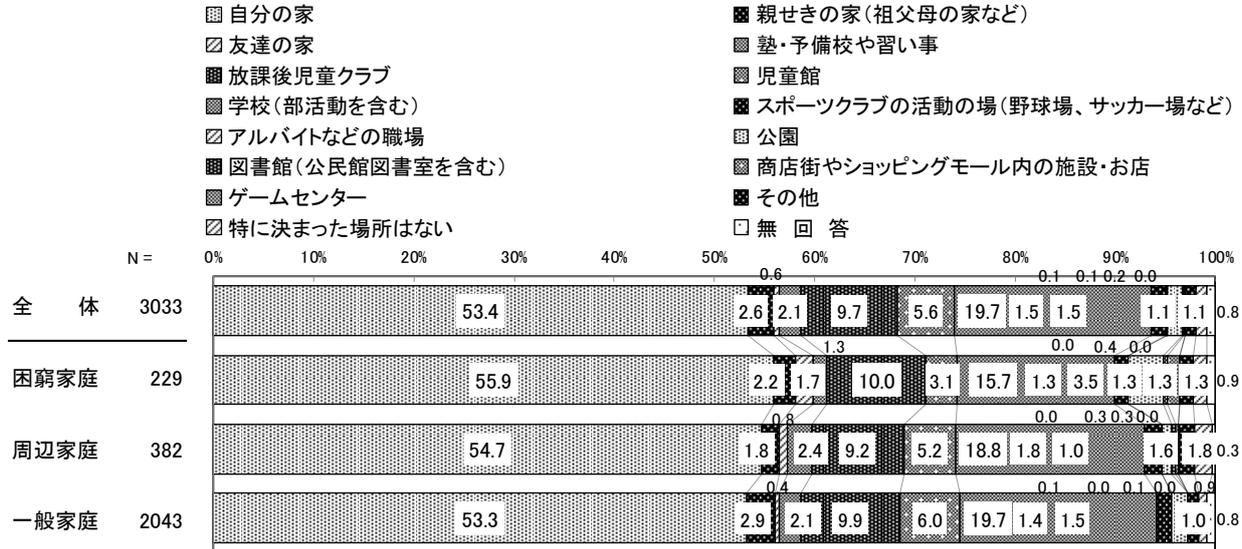
平日の放課後や自由時間に過ごすことが多い場所は、「自分の家」が 53.4%と最も多く、次いで「学校(部活動を含む)」が 19.7%である。

学年別では、小学1年で放課後児童クラブが 24.4%となっている。また、小学5年で「自分の家」が 72.5%となっており、学年が上がるにつれ「学校(部活動を含む)」が多くなり、中学2年、16・17歳でそれぞれ 53.5%、40.1%である。

問7 平日の放課後・自由時間、一番過ごす場所【%】

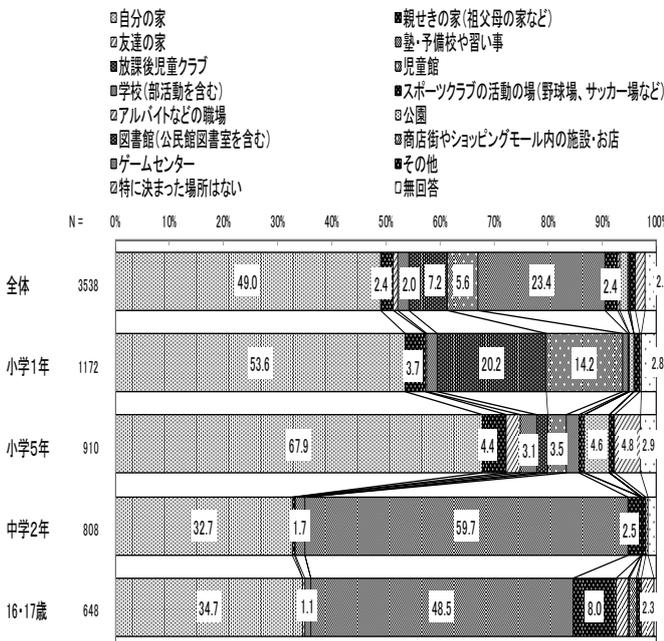


問7 平日の放課後・自由時間、一番過ごす場所【%】

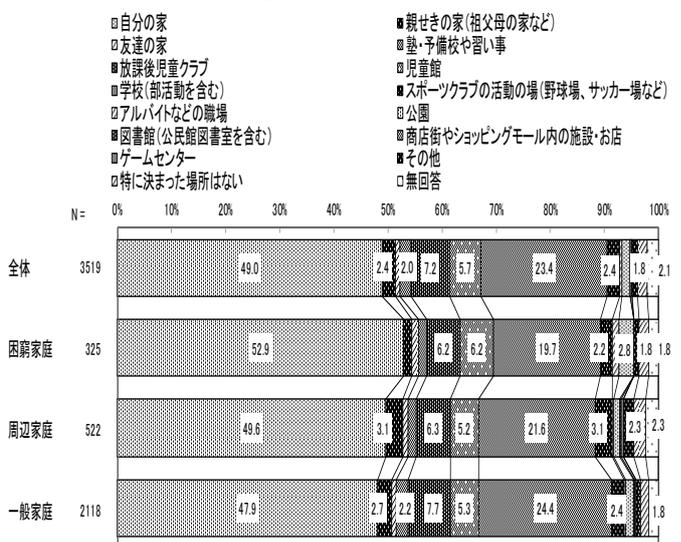


[参考: 前回調査]

(H29調査) 平日の放課後・自由時間、一番過ごす場所【%】



(H29調査) 平日の放課後・自由時間、一番過ごす場所【%】

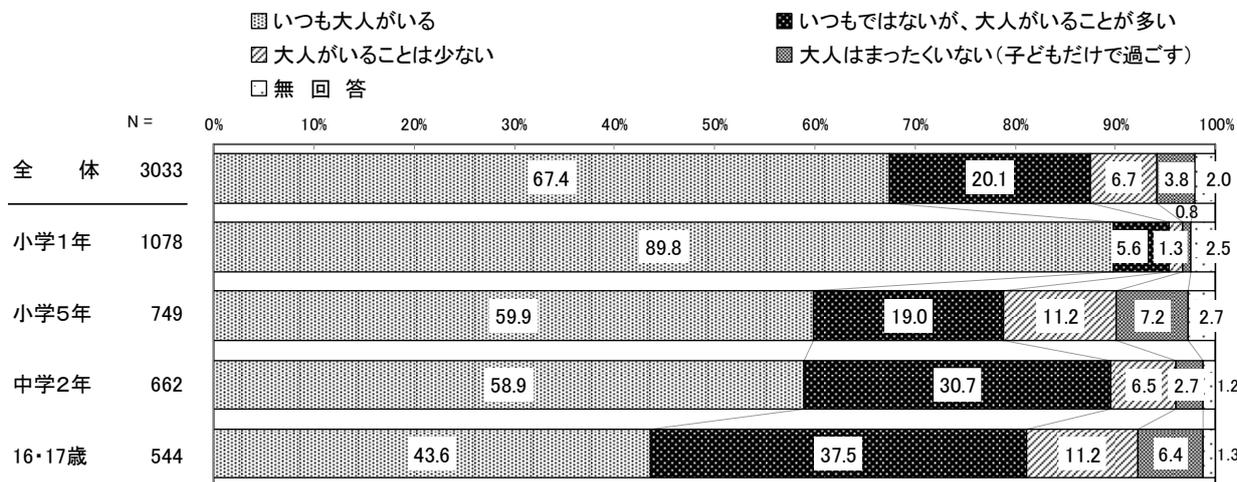


問 8 前問で答えた、あなたが平日(学校や仕事に行く日)の放課後や自由時間を過ごす場所に、大人はいますか。

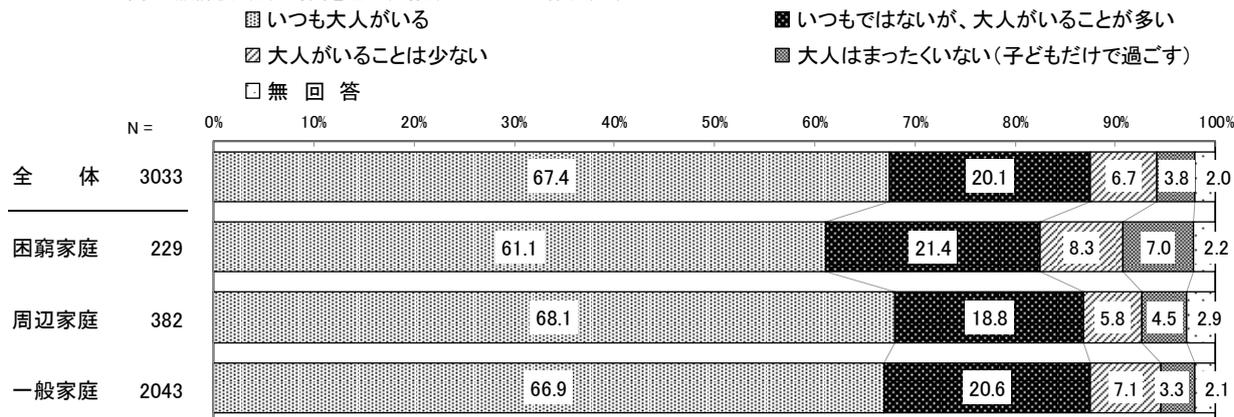
平日の放課後や自由時間に過ごす場所での大人の有無については、「いつも大人がいる」が67.4%と多く、次いで「いつもではないが、大人がいることが多い」が20.1%、「大人がいることは少ない」が6.7%である。

学年別では、小学1年で「いつも大人がいる」が89.8%と多い。

問8 放課後・自由時間を過ごす場所での大人の有無[%]

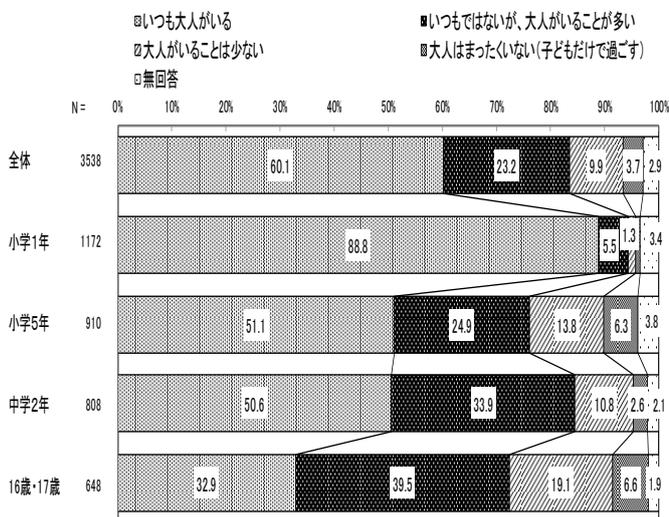


問8 放課後・自由時間を過ごす場所での大人の有無[%]

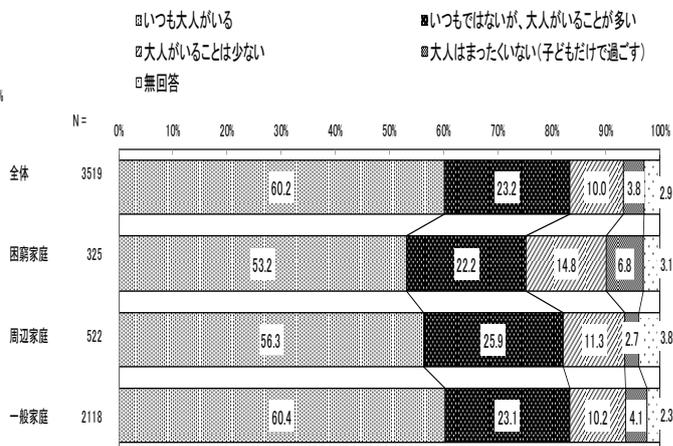


[参考: 前回調査結果]

(H28調査) 平日の放課後・自由時間に過ごす場所への大人の有無[%]



(H29調査) 平日の放課後・自由時間に過ごす場所への大人の有無[%]

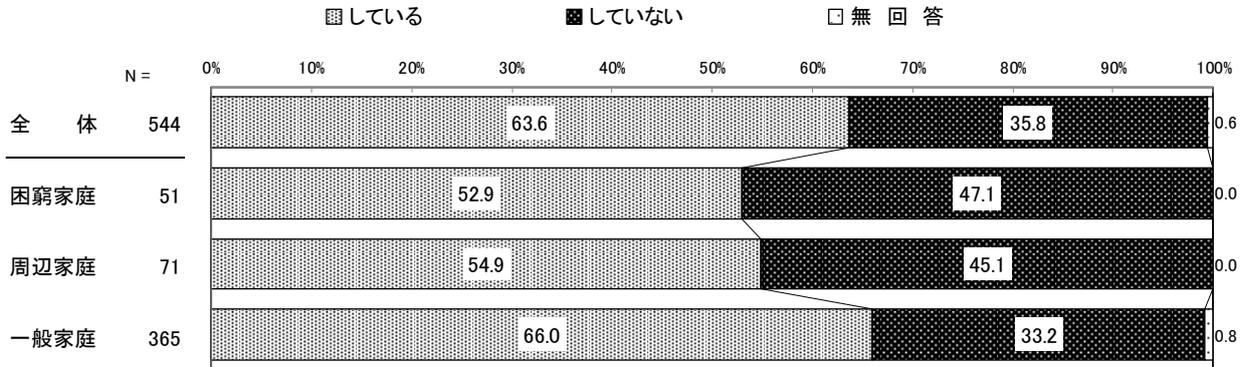


[クラブ等への参加（16・17歳のみ）]

K問 12 あなたは、学校や職場・地域のクラブやスポーツ活動に参加していますか。

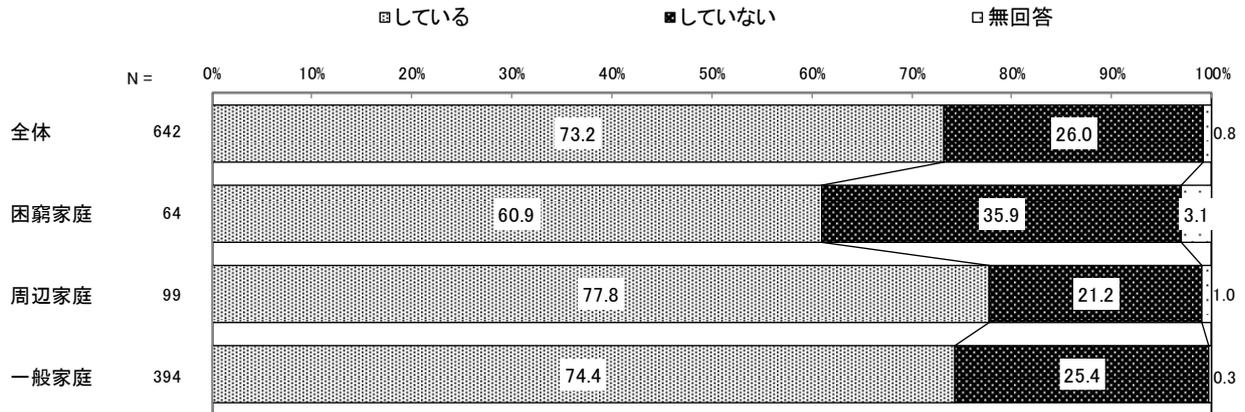
16・17歳の学校や職場・地域のクラブ等への参加状況は、「している」が63.6%、「していない」が35.8%となっている。

K問12 学校や職場・地域のクラブ等への参加状況（16・17歳）[%]



[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 学校や職場・地域のクラブ等への参加の有無[%]



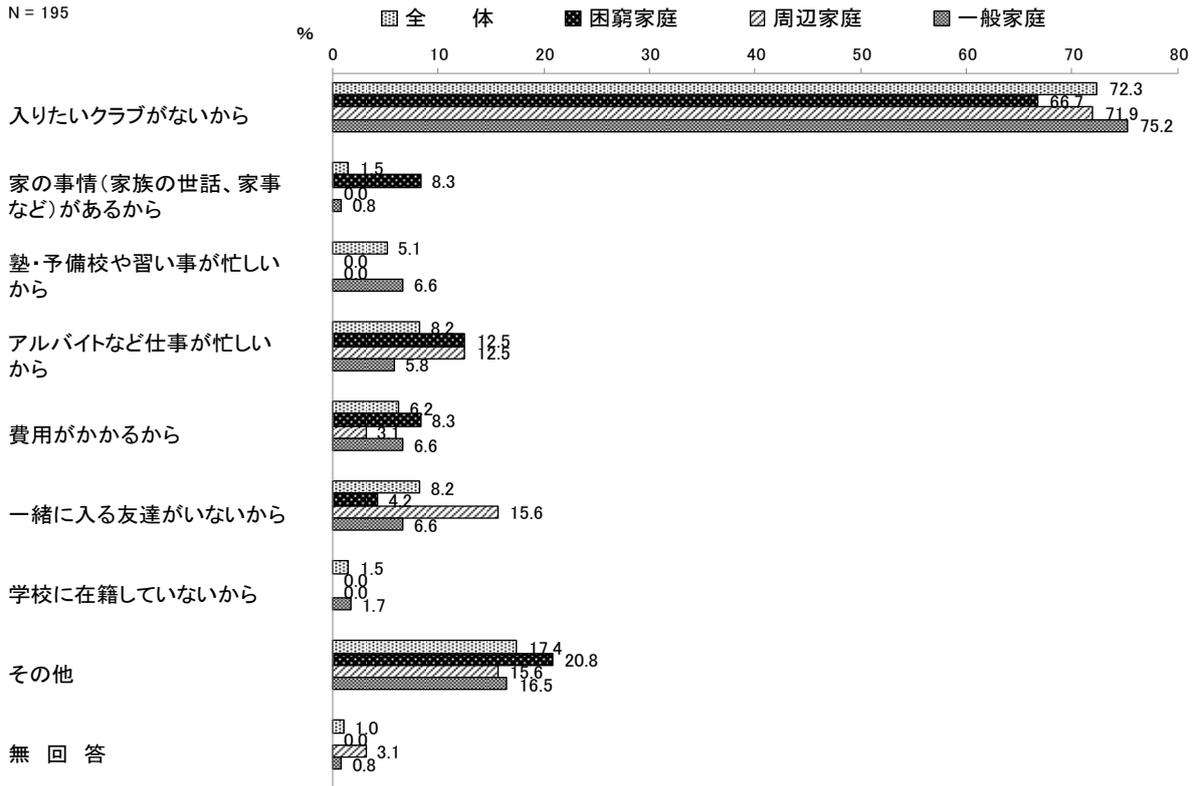
K問 12-1 前問で「2 していない」と答えた人にお聞きます。参加しない理由は何ですか。

16・17歳の学校や職場・地域のクラブ等へ参加しない理由は、「入りたいクラブがないから」が72.3%と多い。

生活困窮度別では、困窮家庭で「入りたいクラブがないから」と「その他」の他、「家の事情(家族の世話、家事など)があるから」と「費用がかかるから」がともに8.3%、困窮家庭と周辺家庭で「アルバイトなど仕事が忙しいから」がともに12.5%などとなっている。

N = 195

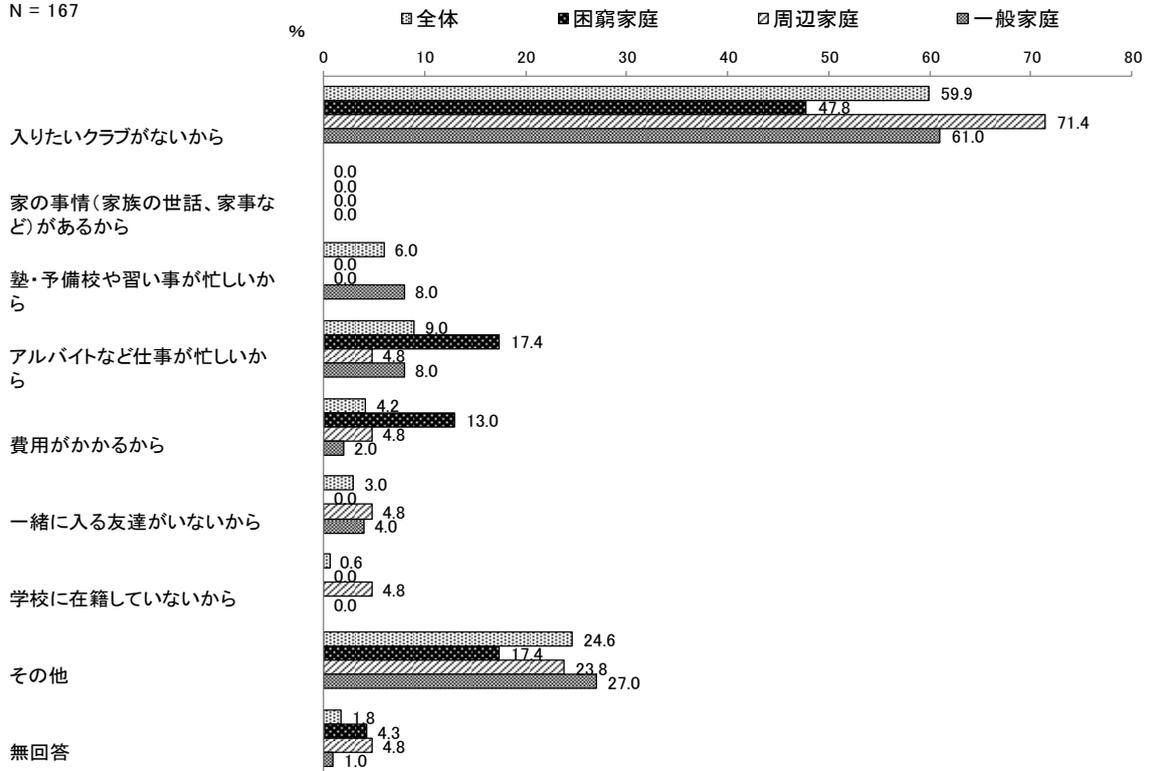
K問12-1 参加していない理由(16・17歳) [%・複数回答]



[参考: 前回調査結果]

(H29調査)  
N = 167

参加しない理由 [%・複数回答]



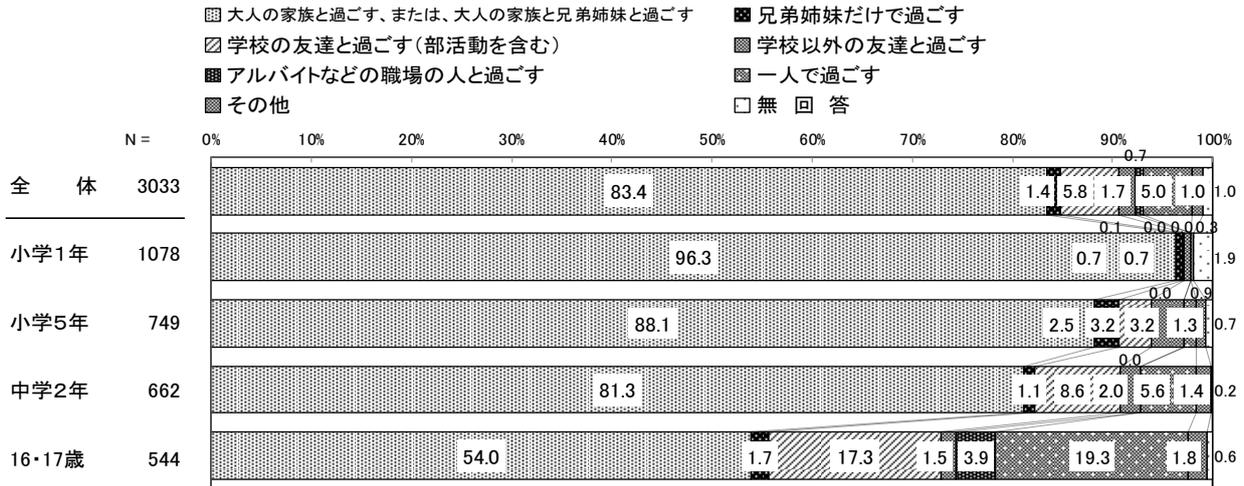
[休日と一緒に過ごす人・場所]

問 9 あなたは、休日(学校や仕事がお休みの日)の午後は、だれと一緒に過ごすことが一番多いですか。

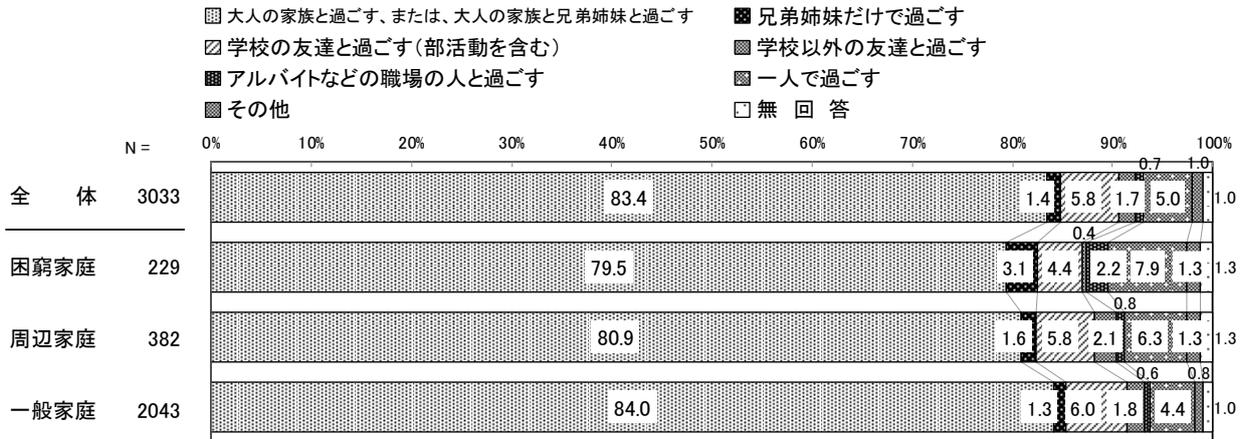
休日の午後一緒に過ごすことが多い人については、「大人の家族と過ごす、または、大人の家族と兄弟姉妹と過ごす」が 83.4%と最も多く、次いで「学校の友達と過ごす(部活動を含む)」が 5.8%となっている。

学年別では、小学1年で「大人の家族と過ごす、または、大人の家族と兄弟姉妹と過ごす」が 96.3%となっており、学年が上がると「学校の友達と過ごす(部活動を含む)」が多くなっている。

問9 休日の午後、一番一緒に過ごす人〔%〕

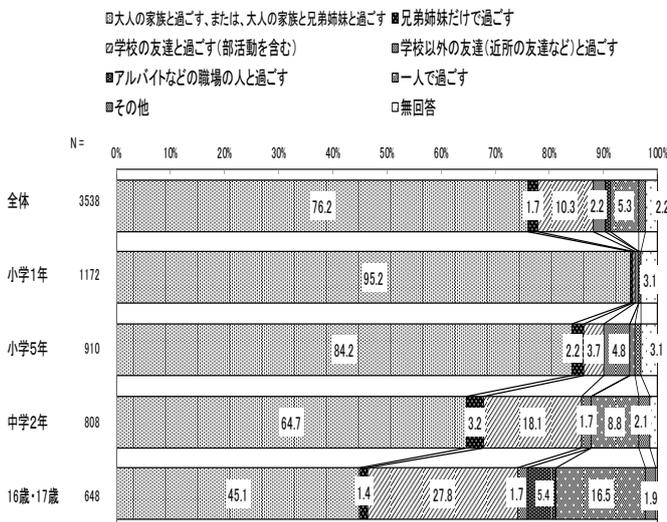


問9 休日の午後、一番一緒に過ごす人〔%〕

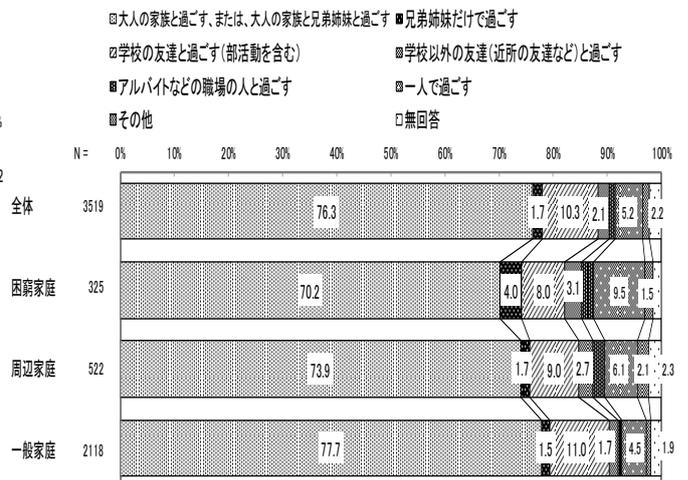


[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 休日の午後、一番一緒に過ごす人〔%〕



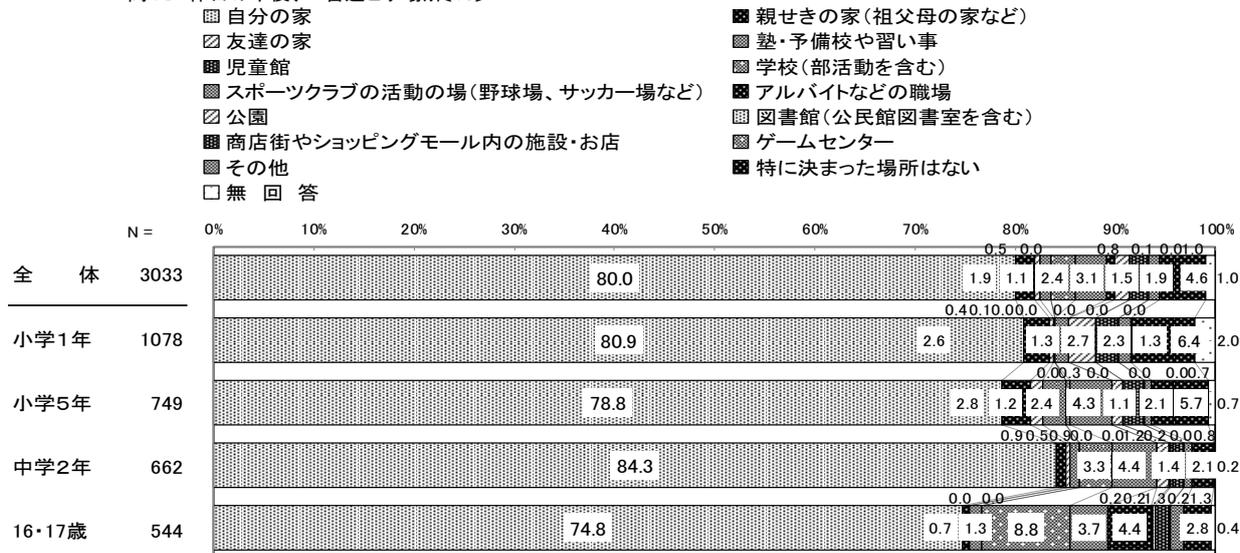
(H29調査) 休日の午後、一番一緒に過ごす人〔%〕



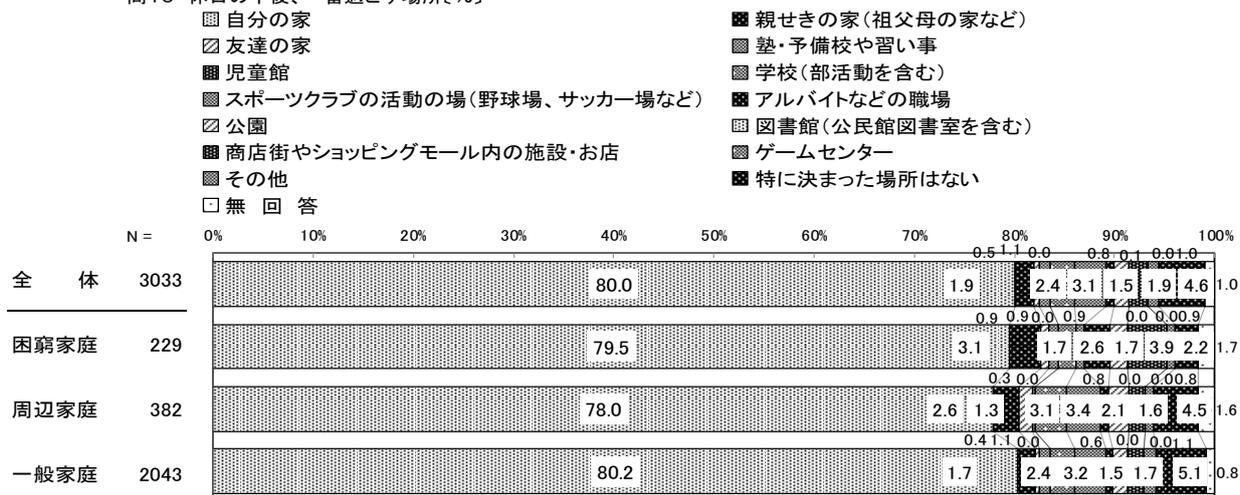
問 10 あなたは、休日(学校や仕事がお休みの日)の午後は、どこで過ごすことが一番多いですか。

休日の午後に過ごすことが多い場所は、「自分の家」が 80.0%と最も多い。学校(部活動含む)が 2.4%で、前回よりも回答割合が少なくなっている。

問10 休日の午後、一番過ごす場所〔%〕

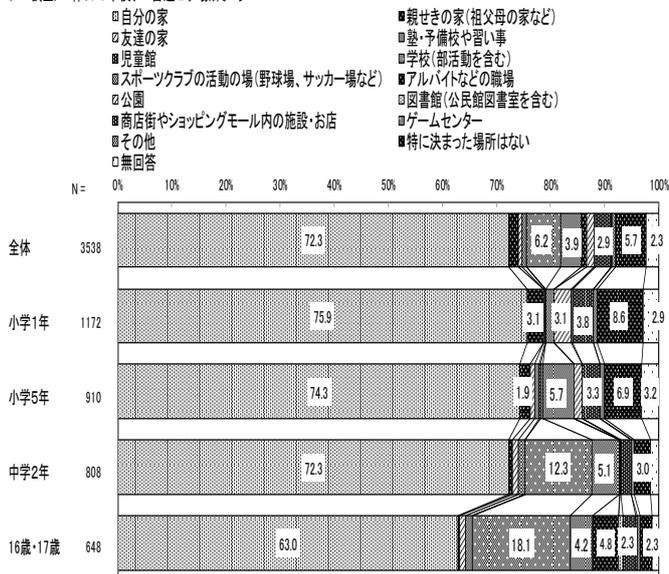


問10 休日の午後、一番過ごす場所〔%〕

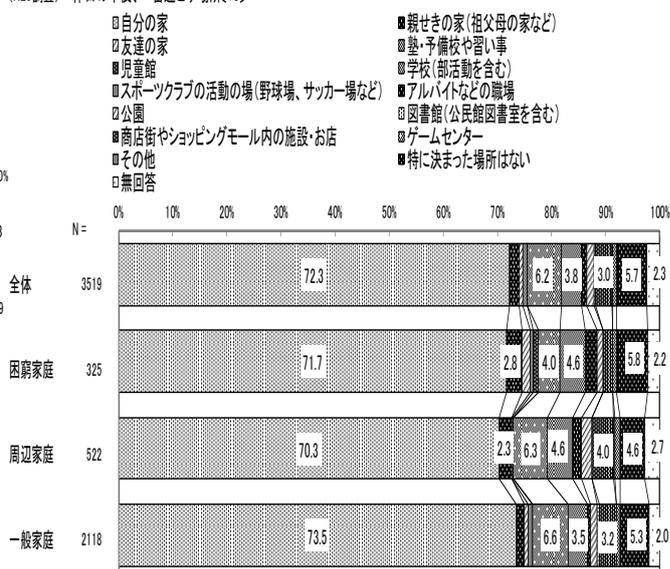


【参考: 前回調査結果】

(H29調査) 休日の午後、一番過ごす場所〔%〕



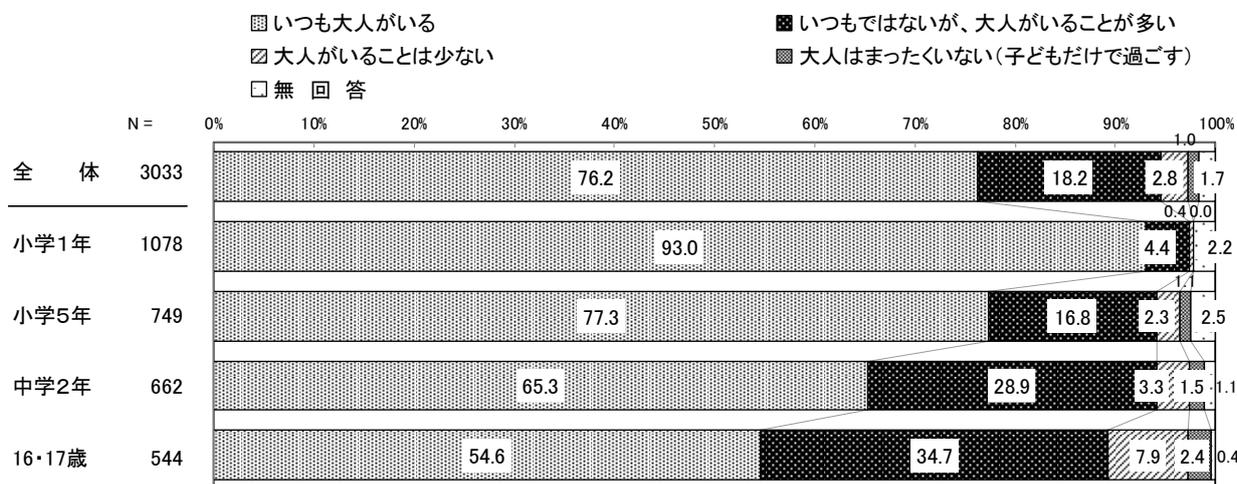
(H29調査) 休日の午後、一番過ごす場所〔%〕



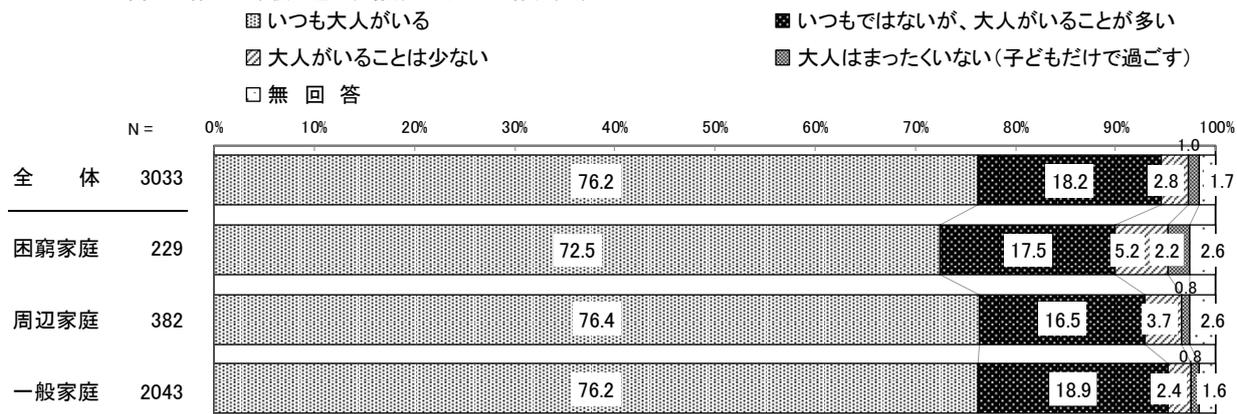
問 11 前問で答えた、あなたが休日(学校や仕事がお休みの日)の午後過ごす場所に、大人はいま  
すか。

休日の午後に過ごす場所での大人の有無は、「いつも大人がいる」が 76.2%と最も多く、次いで「い  
つもではないが、大人がいることが多い」が 18.2%、「大人がいることは少ない」が 2.8%となっている。  
学年別では、小学1年で「いつも大人がいる」が 93.0%と多い。

問11 休日の午後に過ごす場所での大人の有無[%]

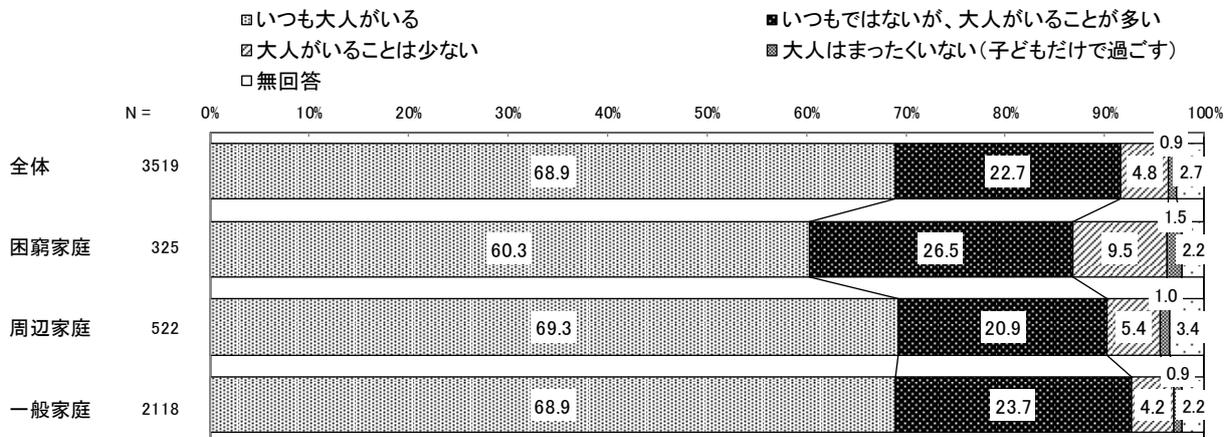


問11 休日の午後に過ごす場所での大人の有無[%]



[参考: 前回調査結果]

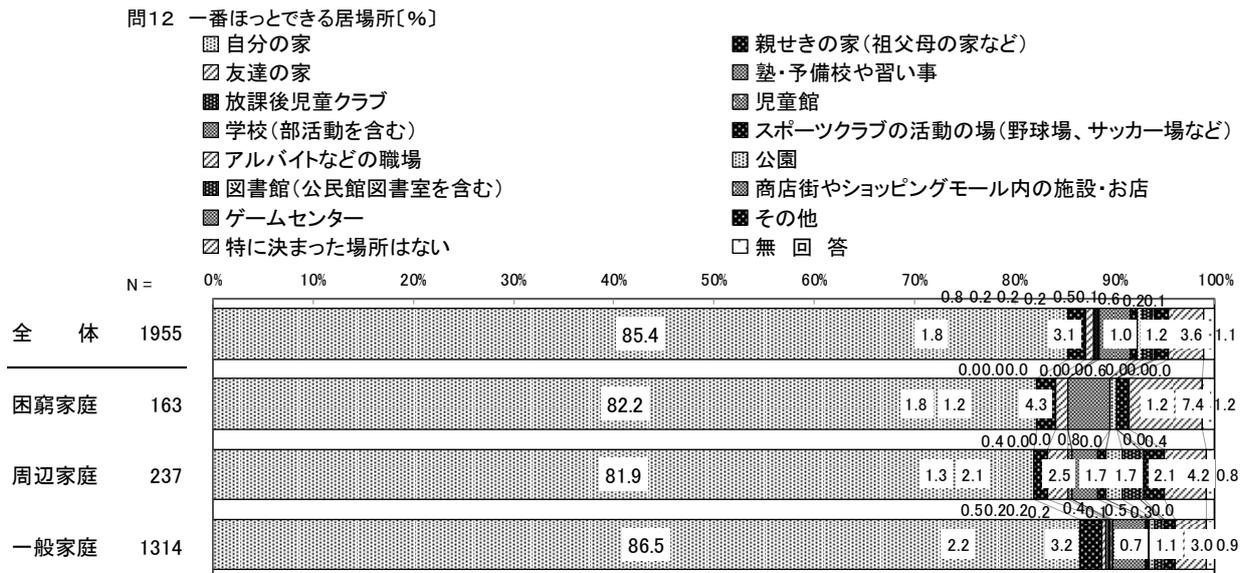
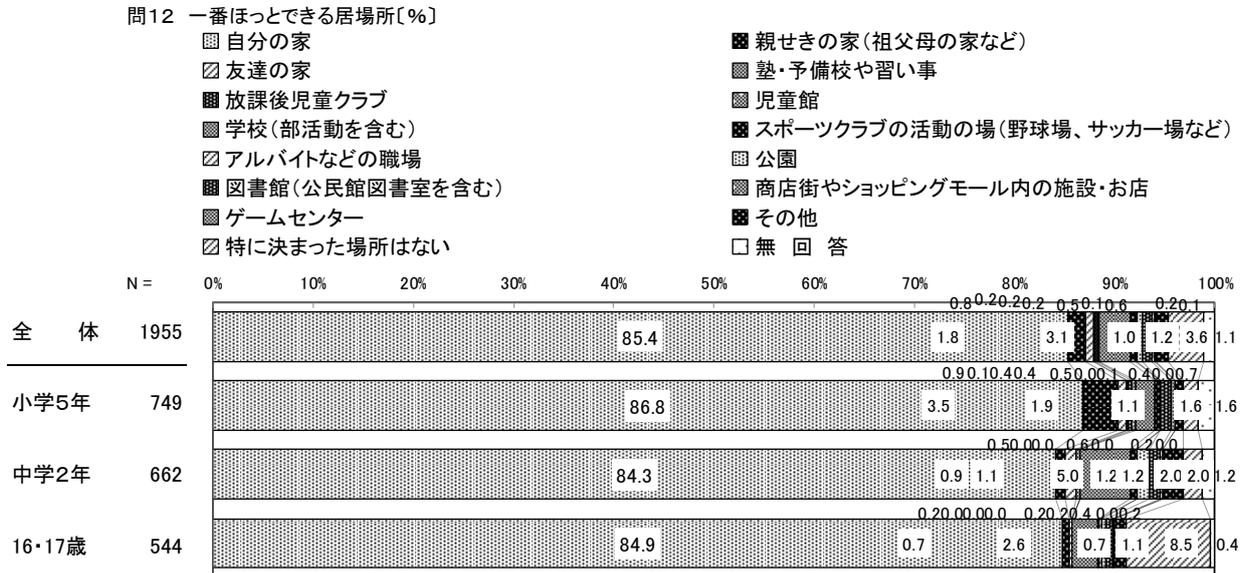
(H29調査) 休日の午後に過ごす場所への大人の有無[%]



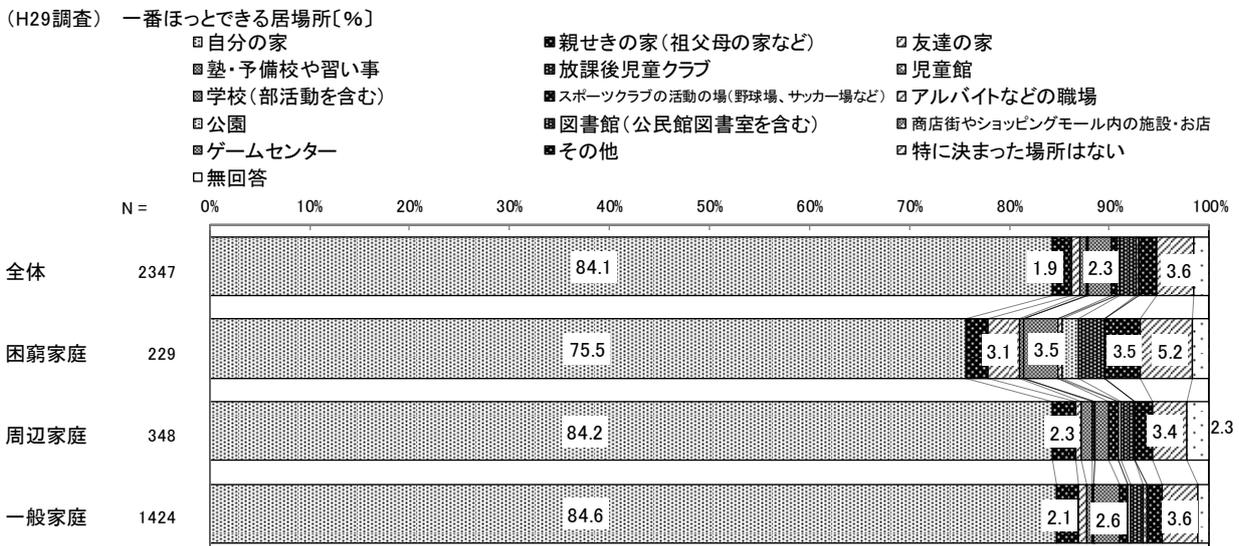
### ③居場所

#### 問 12 あなたにとって、一番ほっとできる居場所はどこですか。(小学1年以外)

一番ほっとできる居場所は、「自分の家」が85.4%となっており、前回と同程度となっている。  
生活困窮度別では、困窮家庭で「自分の家」が前回よりも多く回答されている。



#### [参考: 前回調査結果]



[放課後等によくやること]

問 13 あなたは、以下の活動を、ふだんどれくらいしますか。

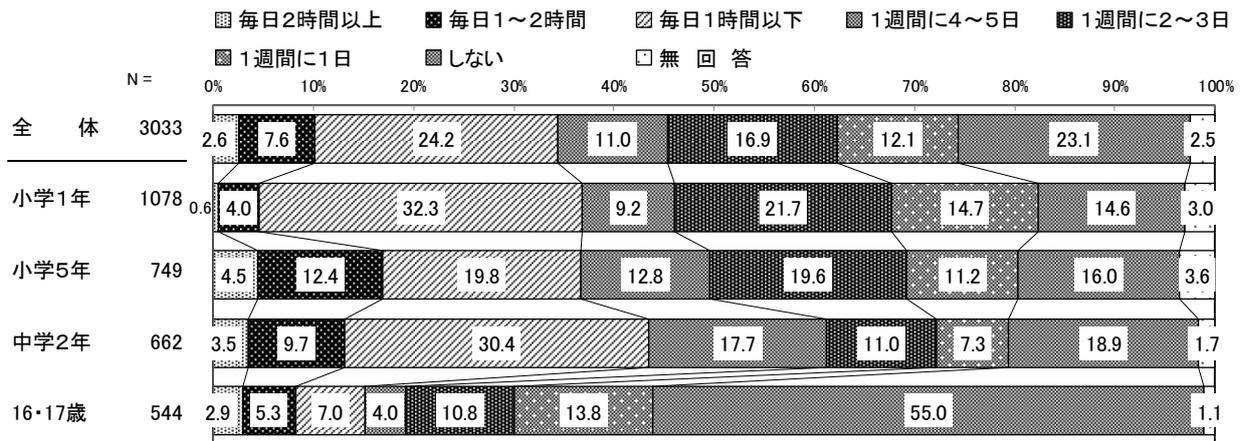
1) 読書

読書の習慣について、「毎日1時間以下」が 24.2%、「しない」が 23.1%、「1週間に2～3日」が 16.9%などとなっている。

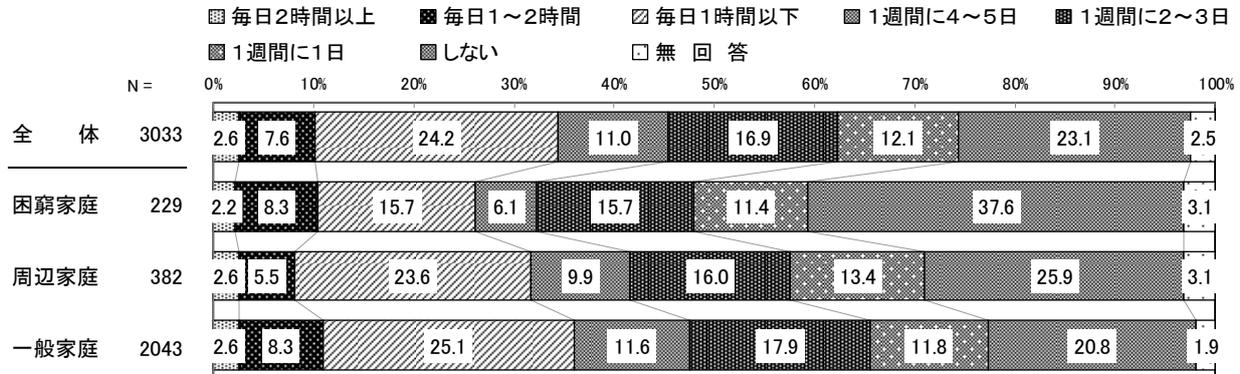
学年別では、学年によって回答が異なり、小学1年で「毎日1時間以下」が 32.3%と多く、中学2年で「毎日1時間以下」が 30.4%、16・17歳で「しない」が 55.0%と多い。

生活困窮度別では、困窮家庭で『毎日読書をしている』（「毎日2時間以上」、「毎日1～2時間」と「毎日1時間以下」の合計）という回答が 26.2%と一般家庭の 36.0%に比べて少ない。

問13普通の活動 ①読書[%]

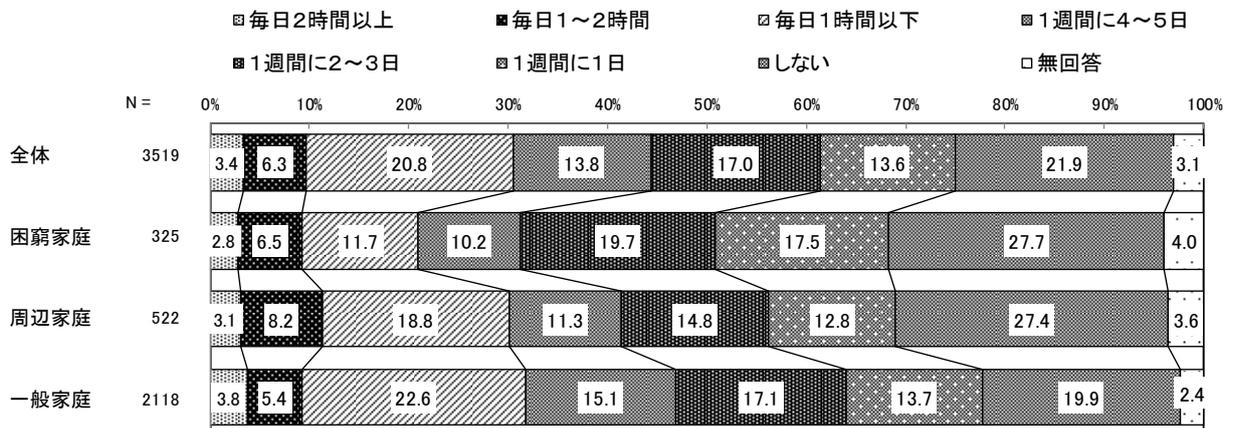


問13普通の活動 ①読書[%]



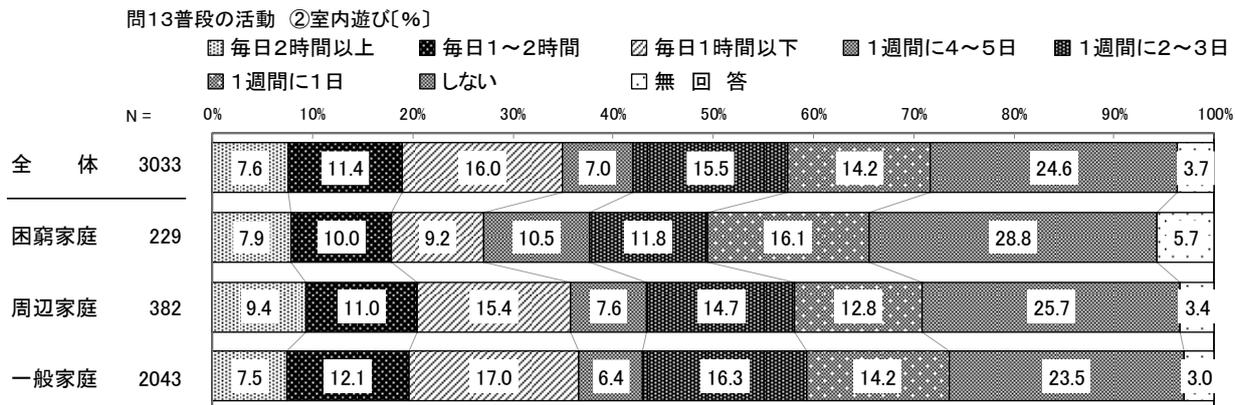
[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 読書[%]



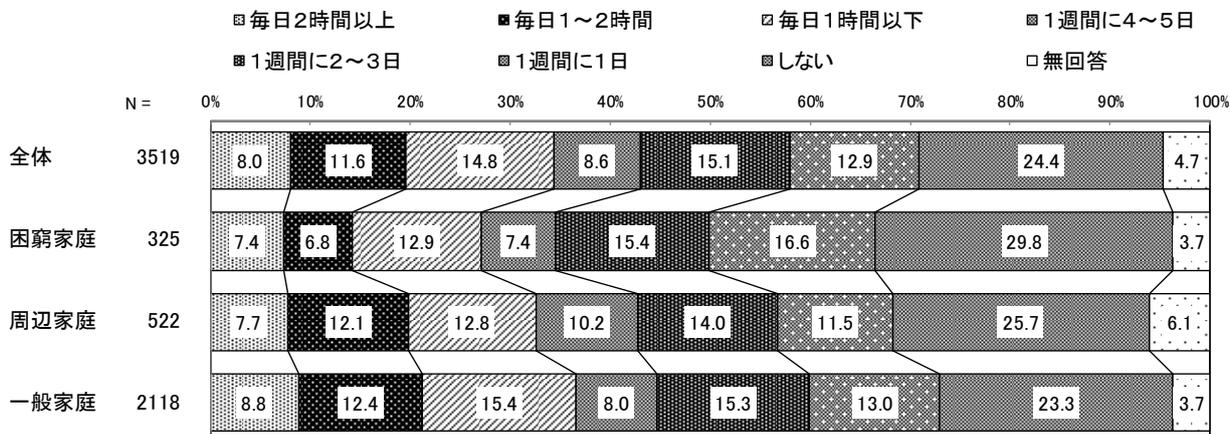
## 2) 室内遊び・室内での他の遊び

室内の遊び・室内での他の遊びについて、「しない」が 24.6%、「毎日1時間以下」が 16.0%、「1週間に2～3日」が 15.5%となっている。



### [参考: 前回調査結果]

(H29調査) 室内遊び[%]



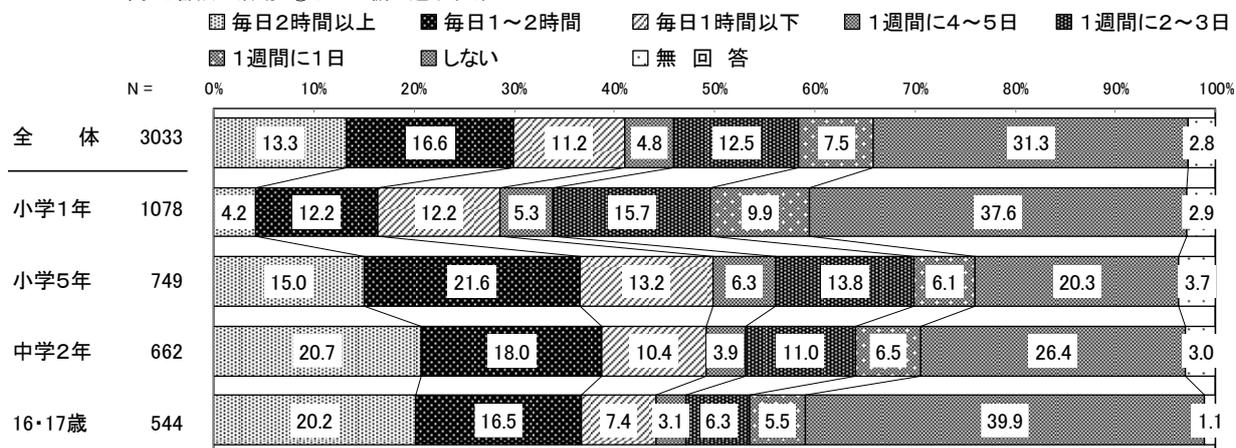
### 3) ゲーム機で遊ぶ

ゲーム機で遊ぶかについて、「しない」が 31.3%、「毎日1～2時間」が 16.6%、「毎日2時間以上」が 13.3%などとなっている。

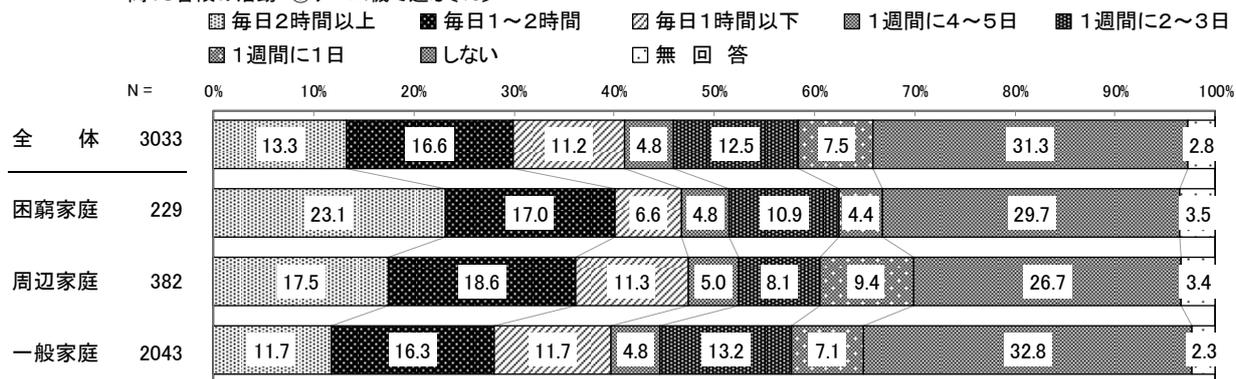
学年別では、「しない」が小学1年で 37.6%、16・17 歳は 39.9%となっている一方、小学5年は 20.3%、中学2年は 26.4%と少ない。

生活困窮度別では、困窮家庭で「毎日2時間以上」が 23.1%と一般家庭の 11.7%に比べて多い。

問13普段の活動 ③ゲーム機で遊ぶ[%]

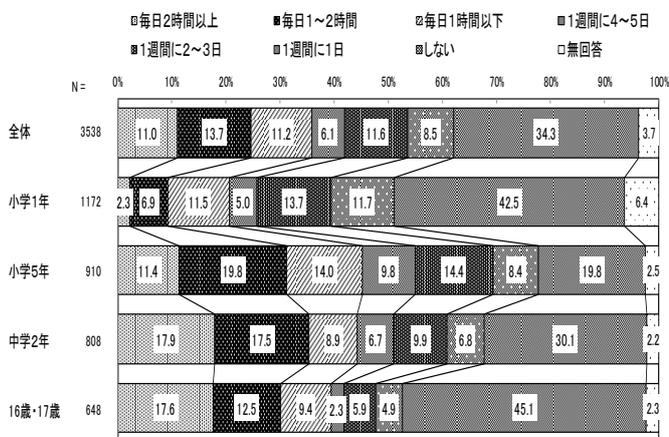


問13普段の活動 ③ゲーム機で遊ぶ[%]

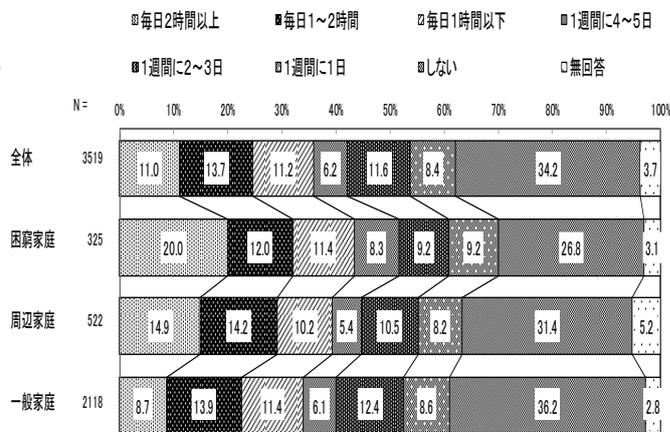


### [参考: 前回調査結果]

(H29調査) ゲーム機で遊ぶ[%]



(H29調査) ゲーム機で遊ぶ[%]

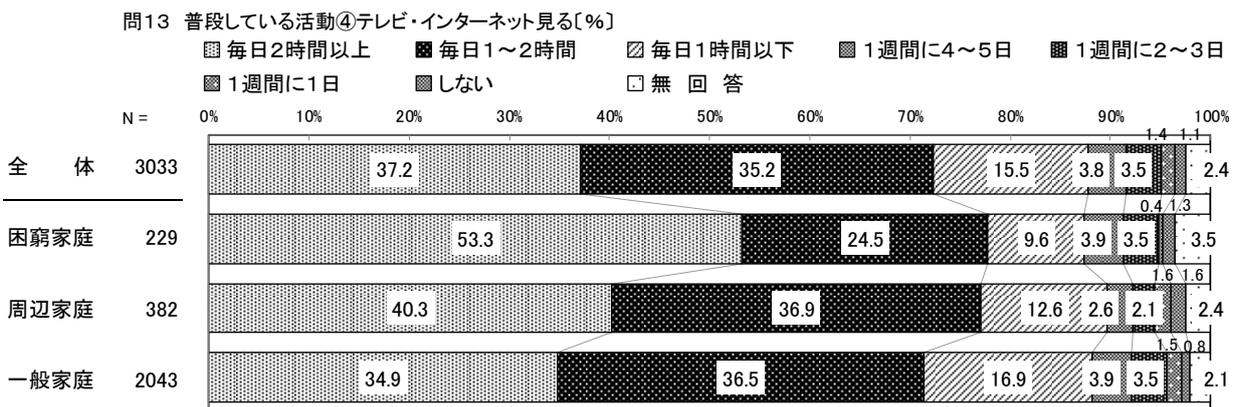
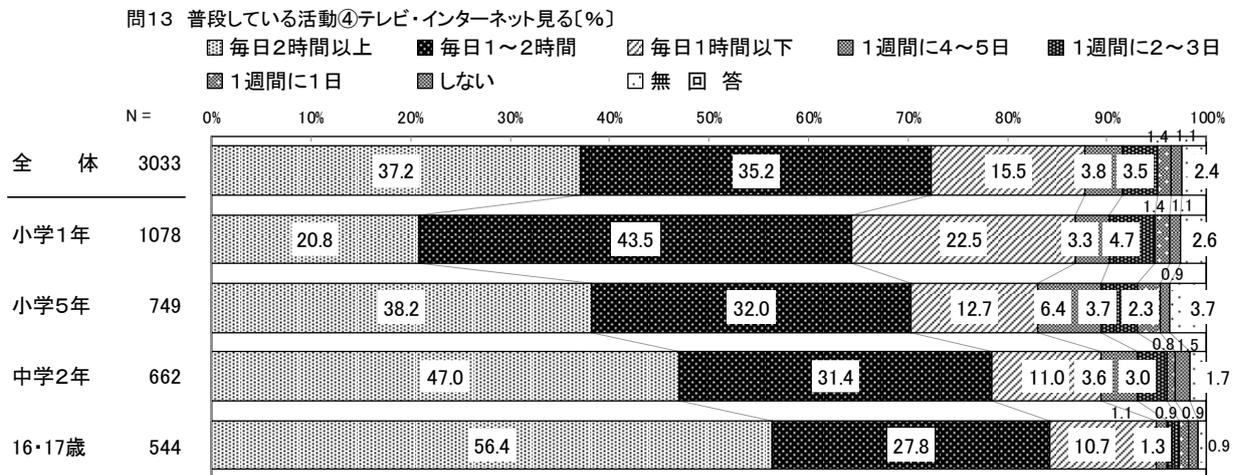


#### 4) テレビ・インターネットを見る

テレビ・インターネットを見るかについて、「毎日2時間以上」は 37.2%、「毎日1～2時間」が 35.2% などとなっている。

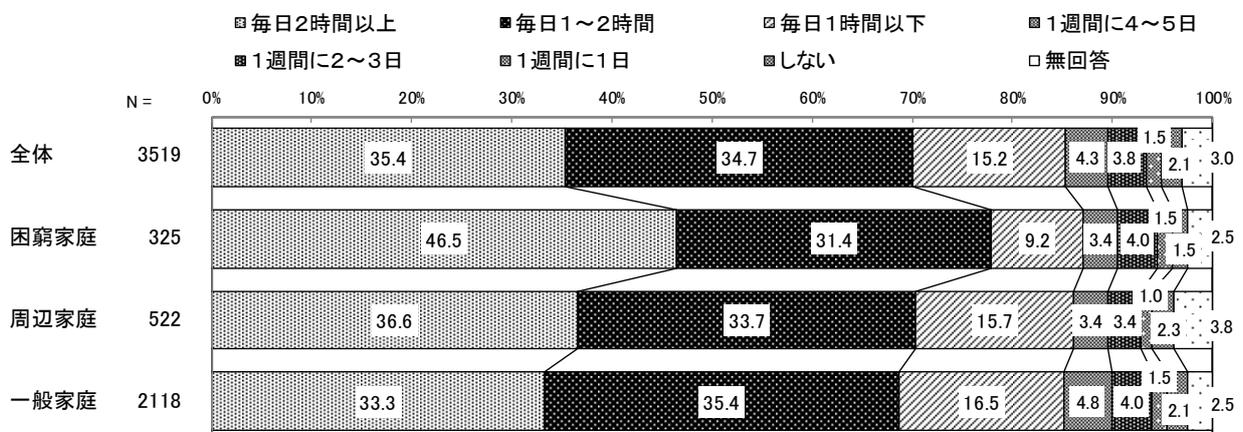
学年別では、「毎日2時間以上」は中学2年で 47.0%、16・17 歳で 56.4% と多い。

生活困窮度別では、困窮家庭で「毎日2時間以上」が 53.3% と他の区分に比べて多く、「毎日1～2時間」は 24.5% と少ない。前回と比べて、「毎日2時間以上」が全区分で多くなっている。



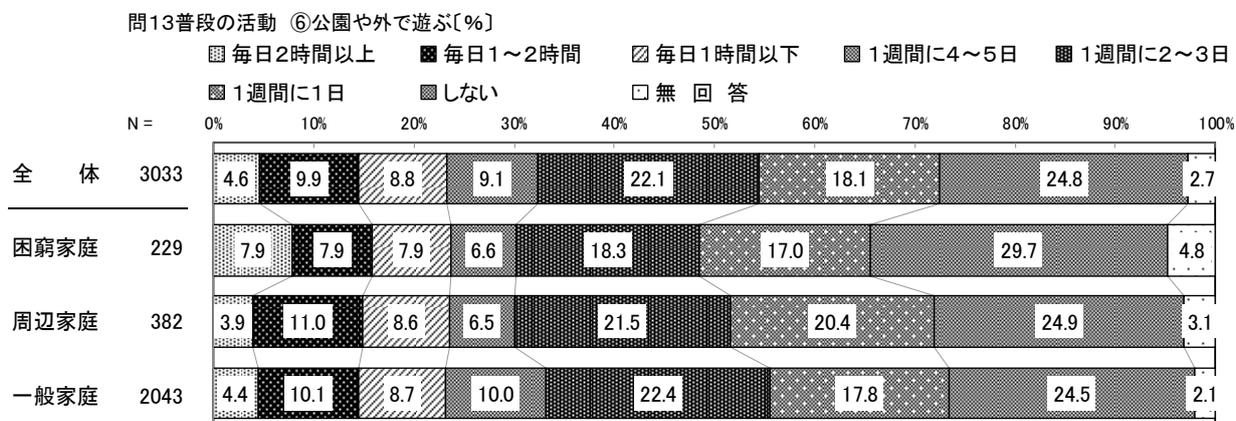
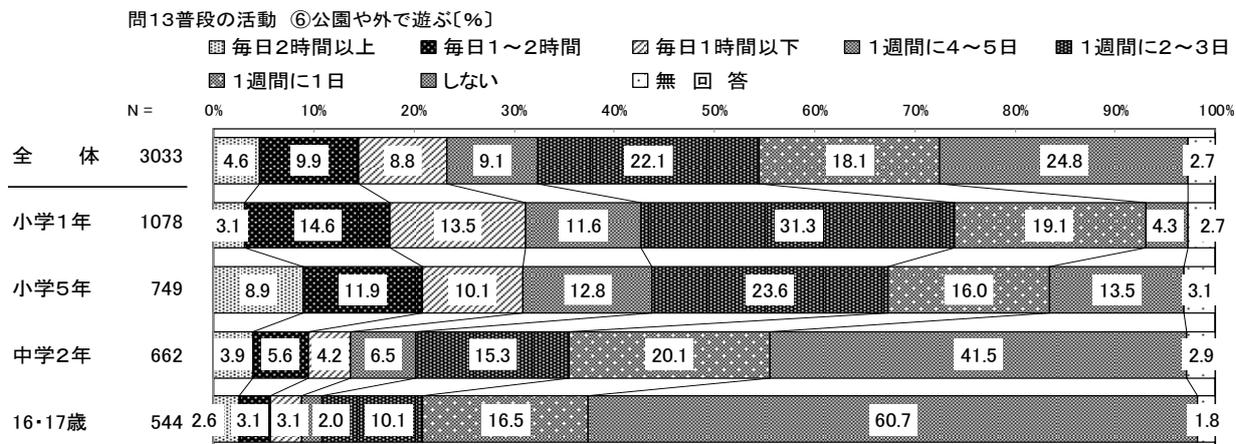
[参考: 前回調査結果]

(H29調査) テレビ・インターネットで遊ぶ[%]



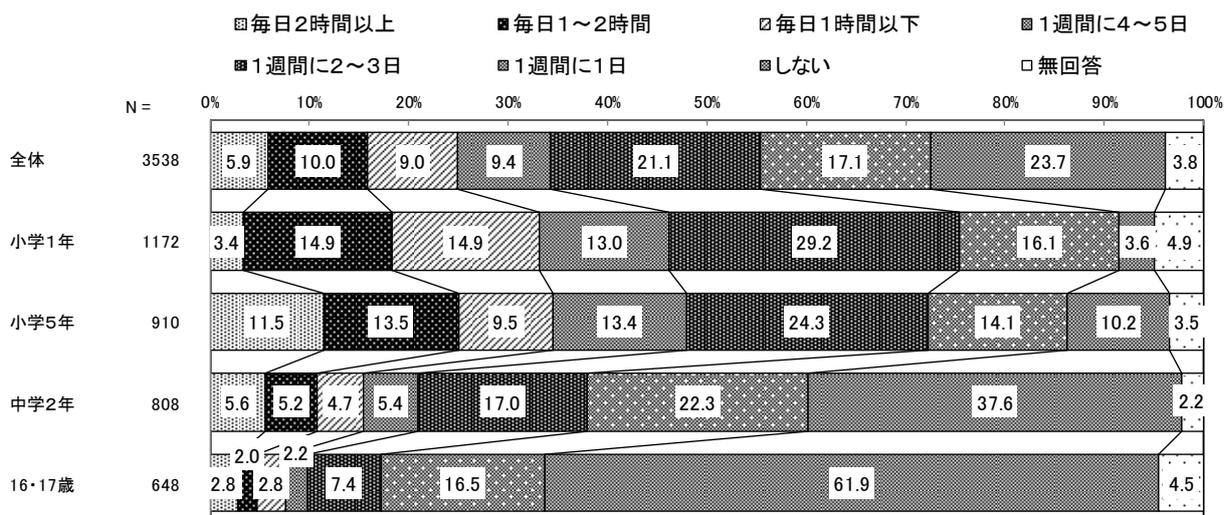
### 5) 公園や外で遊ぶ

公園や外で遊ぶかについて、「しない」が24.8%、「1週間に2~3日」が22.1%などとなっている。  
 学年別では、「毎日2時間以上」は小学5年で8.9%みられる。



#### [参考: 前回調査結果]

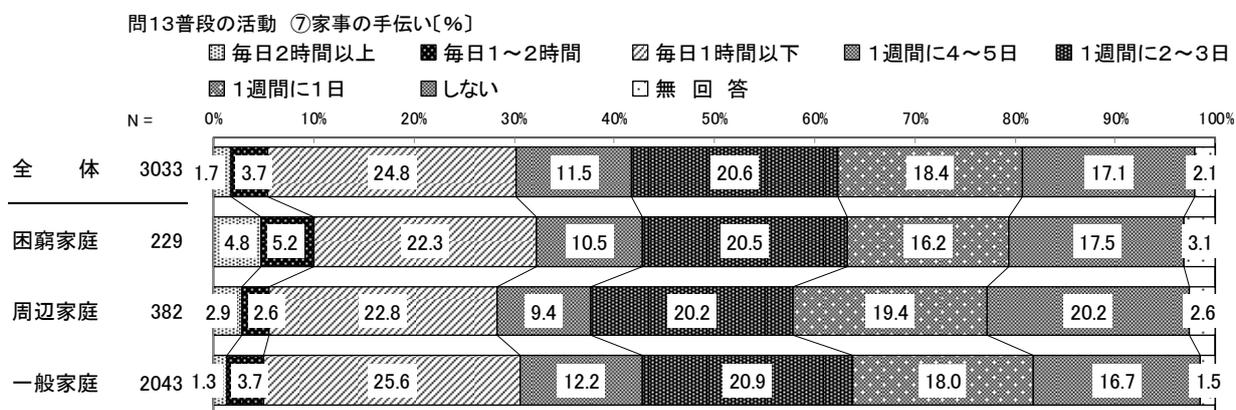
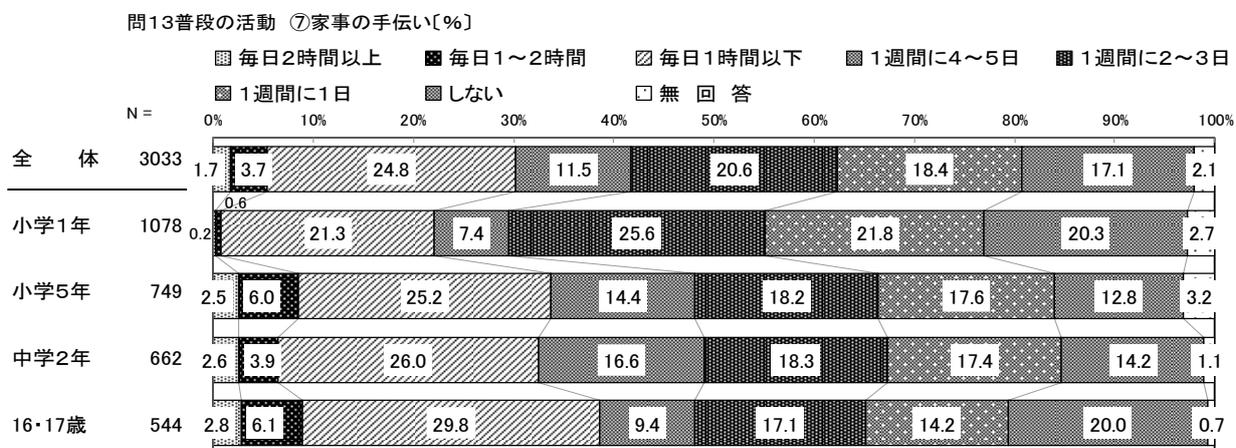
(H29調査) 公園や外で遊ぶ[%]



6) 家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）の手伝い

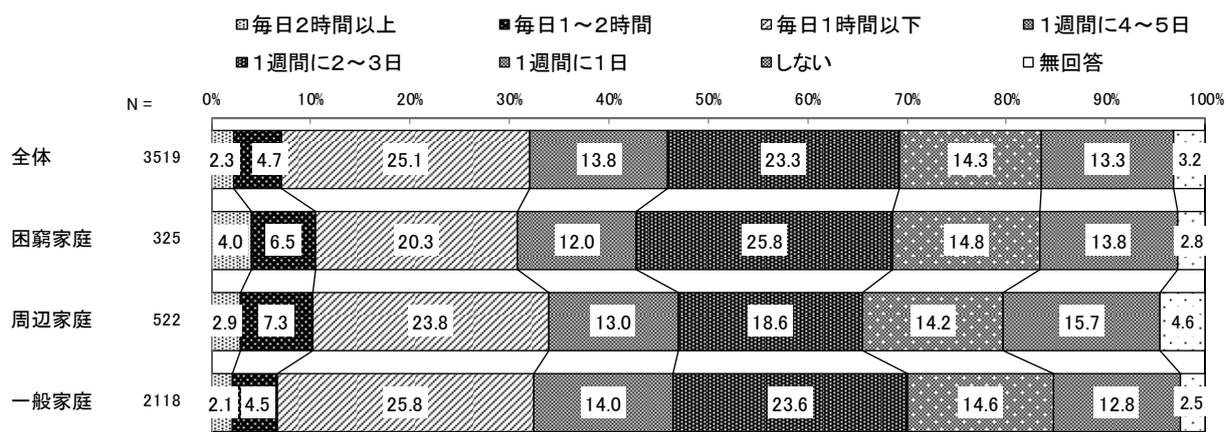
家事(洗濯、掃除、料理、片付けなど)の手伝いについて、「毎日1時間以下」が24.8%、「1週間に2～3日」が20.6%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「1時間以上」(「毎日2時間以上」と「毎日1～2時間」の計)が10.0%と一般家庭に比べてやや多い。



[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 家事[%]

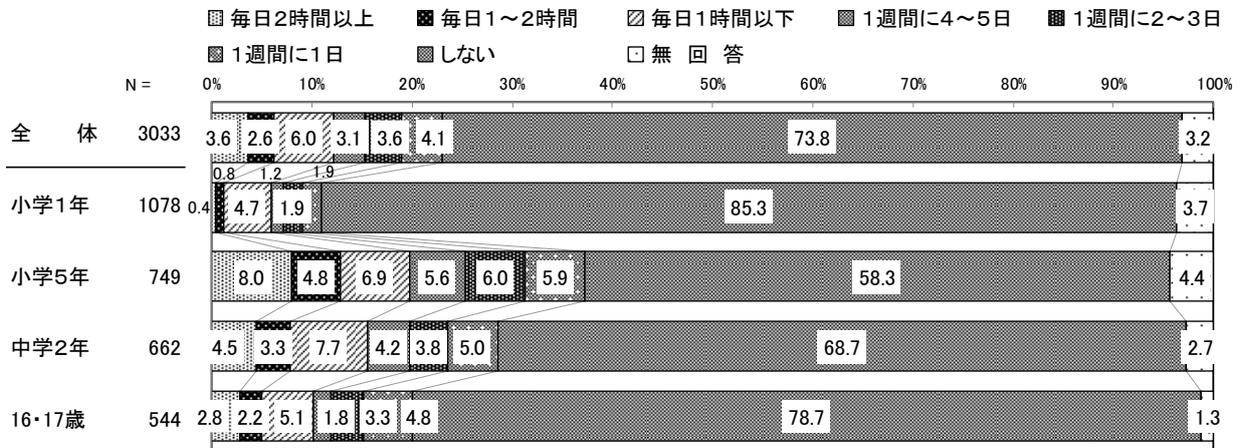


## 7) 家族（兄弟姉妹など）の世話

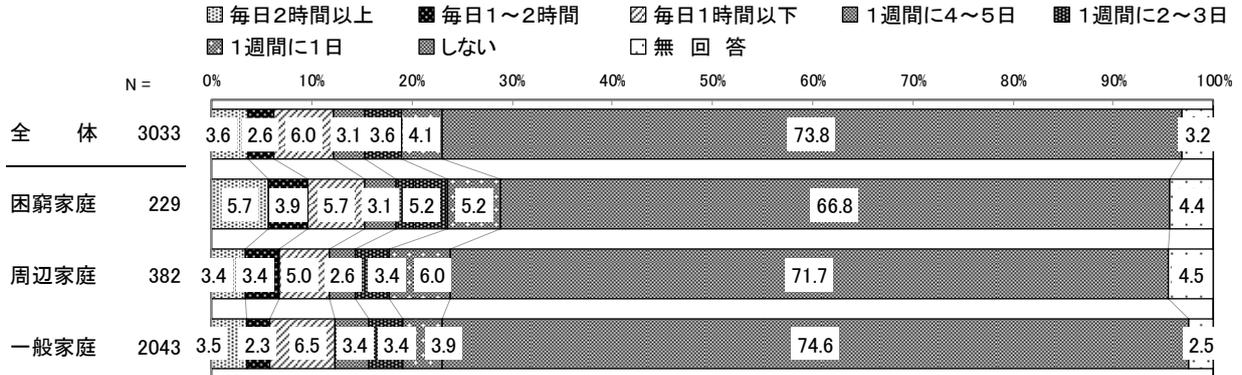
家族（兄弟姉妹など）の世話について、「しない」が 73.8%、「毎日1時間以下」が 6.0%などとなっている。

学年別では、「する」と回答した割合は、小学5年が最も多い。

問13 普段の活動 ⑧ 家族の世話 [%]

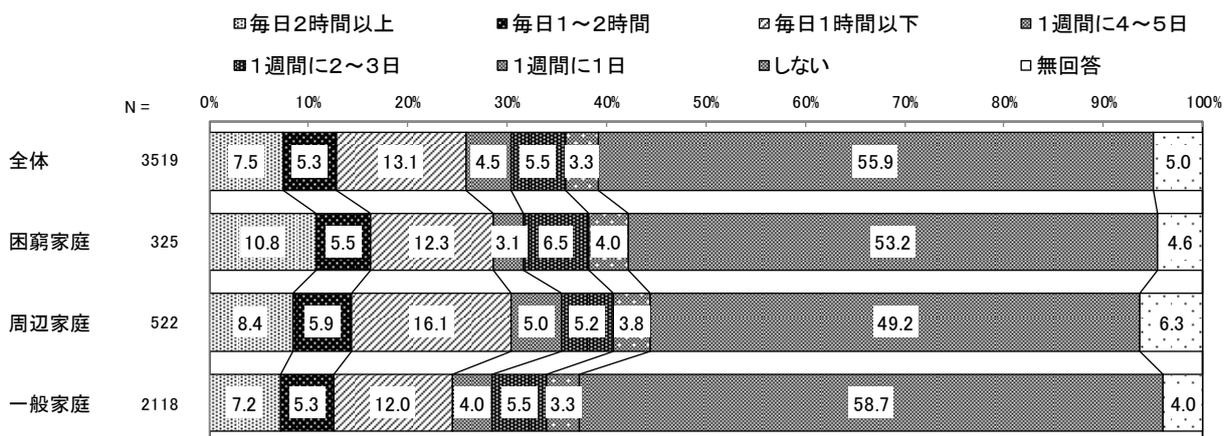


問13 普段の活動 ⑧ 家族の世話 [%]



### [参考: 前回調査結果]

(H29調査) 兄弟姉妹などの世話 [%]



問14 あなたは、30分以上からだを動かす遊びや習い事を、1週間でどれくらいしますか。

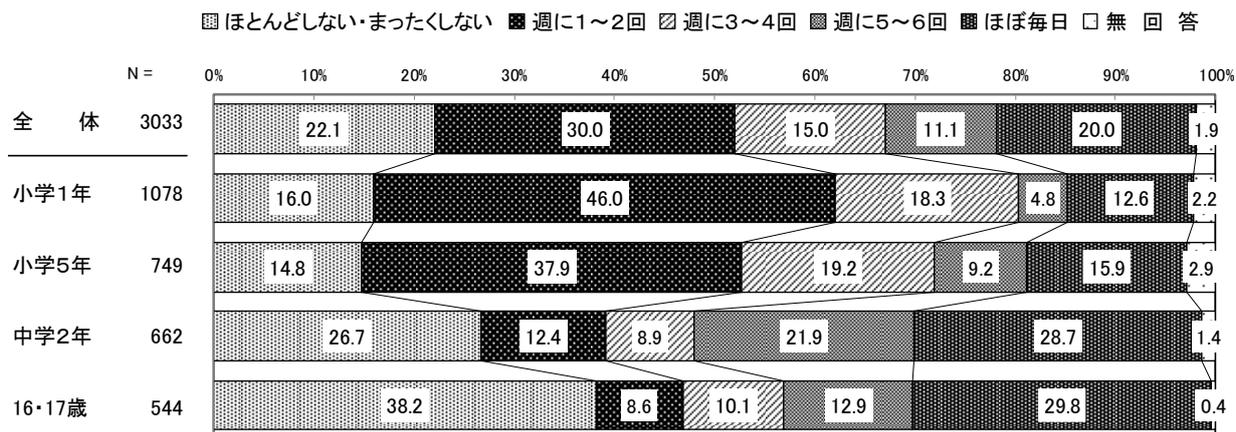
1週間あたりの30分以上の運動頻度は、「週に1~2回」が30.0%、「ほとんどしない・まったくしない」が22.1%、「ほぼ毎日」が20.0%などとなっている。

前回の全体と比べて、「ほとんどしない・まったくしない」「週に1~2回」の回答割合が多くなっている。

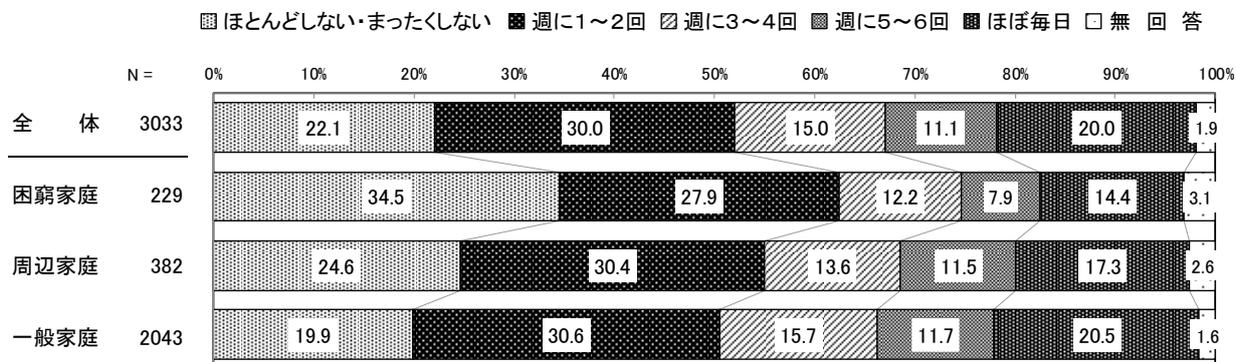
学年別では、「ほぼ毎日」は中学2年が28.7%、16・17歳が29.8%となっているが、前回と比べて少なくなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「ほとんどしない・まったくしない」が34.5%と他の区分に比べて多い。

問14 30分以上の運動頻度[%]

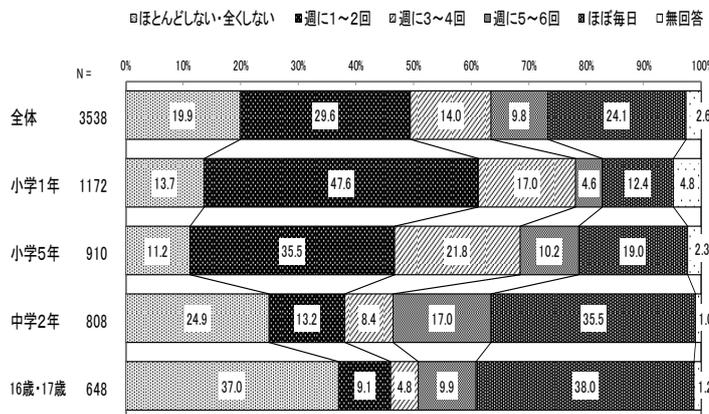


問14 30分以上の運動頻度[%]

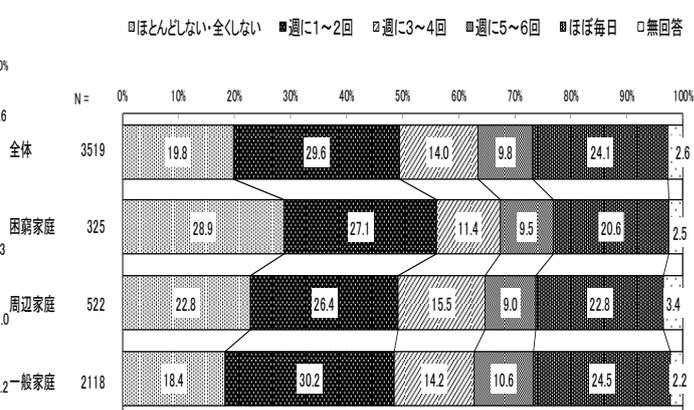


[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 30分以上の運動の頻度[%]



(H29調査) 30分以上の運動の頻度[%]



## (4)生活のことや食事・健康

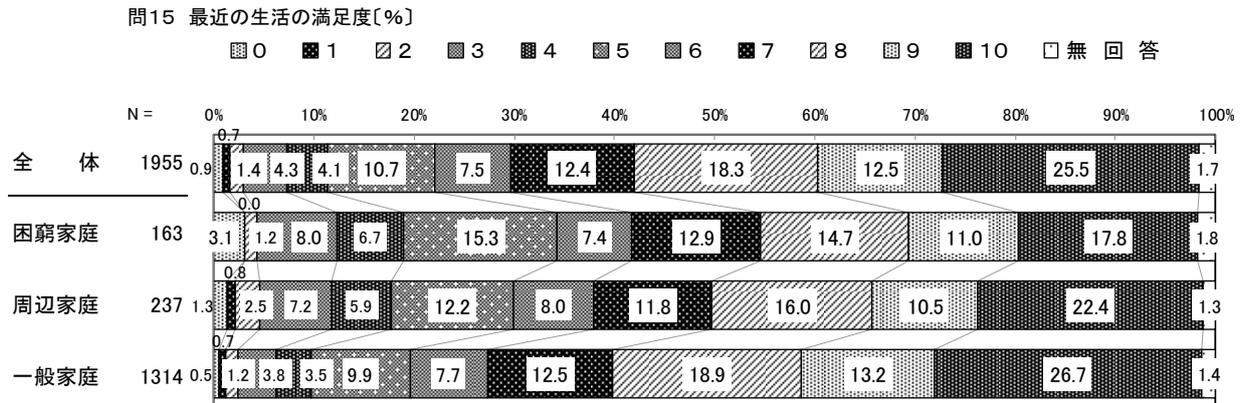
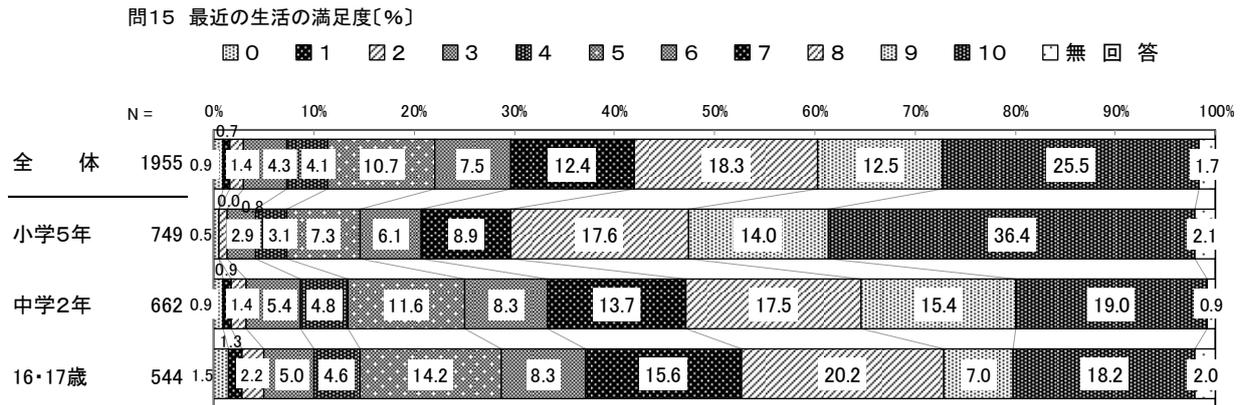
### ①生活の満足度

問 15 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。(小学1年以外)

最近の生活の満足度(10段階)については、「0~2」に該当する割合が3.0%、「3~4」に該当する割合が8.4%、「5」に該当する割合が10.7%、「6~7」に該当する割合が19.9%、「8~10」に該当する割合が56.3%となっている。満足度の高い方の割合「6」以上が76.2%を占めている。

学年別では、「6」以上は小学5年が最も多く、学年が上がるにつれ、少なくなっている。

生活困窮度別では、「6」以上が周辺家庭は68.7%、困窮家庭は63.8%で、一般家庭と比べて生活満足度が低くなっている。



## ②食生活

### 問 16 あなたは週にどのくらい、食事をしていますか。

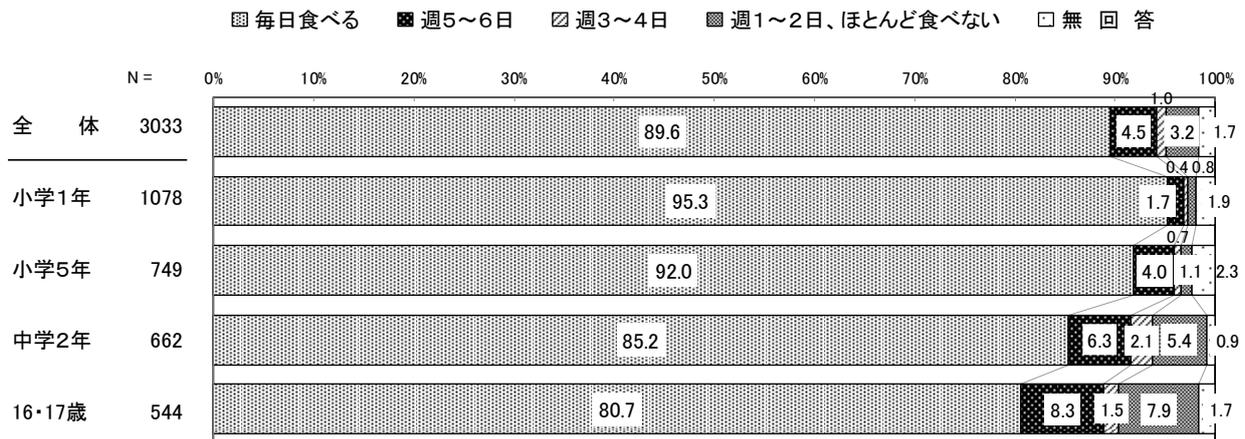
#### 1) 朝食

朝食について、「毎日食べる」が89.6%、「週5～6日」が4.5%などとなっている。

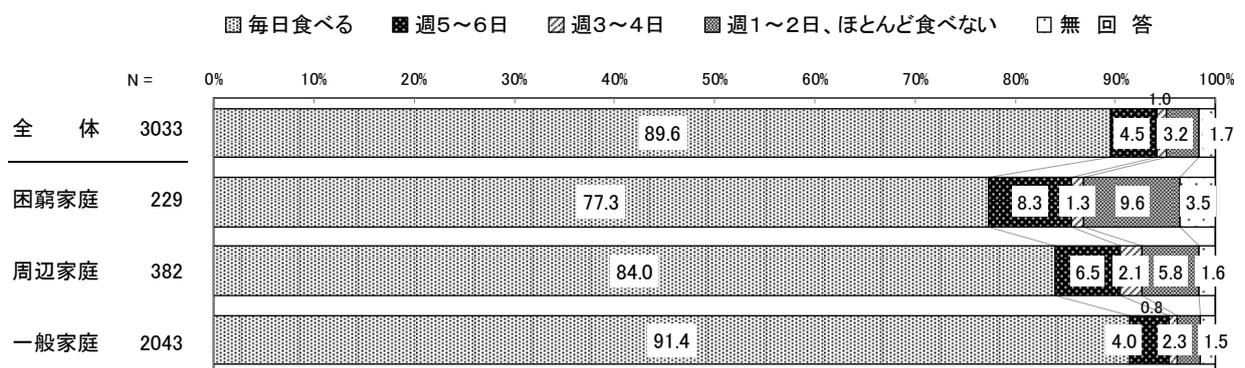
学年別では、「毎日食べる」は学年が上がるとともに緩やかに少なくなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「毎日食べる」が77.3%と他の区分に比べて少なく、「週1～2日、ほとんど食べない」は困窮家庭で9.6%、周辺家庭で5.8%である。

問16食習慣 ①朝食[%]

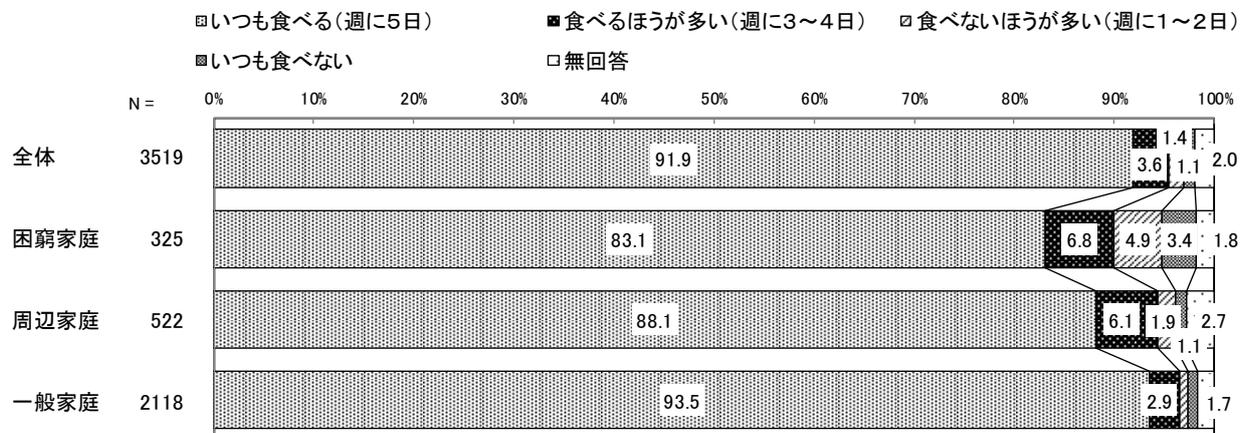


問16食習慣 ①朝食[%]



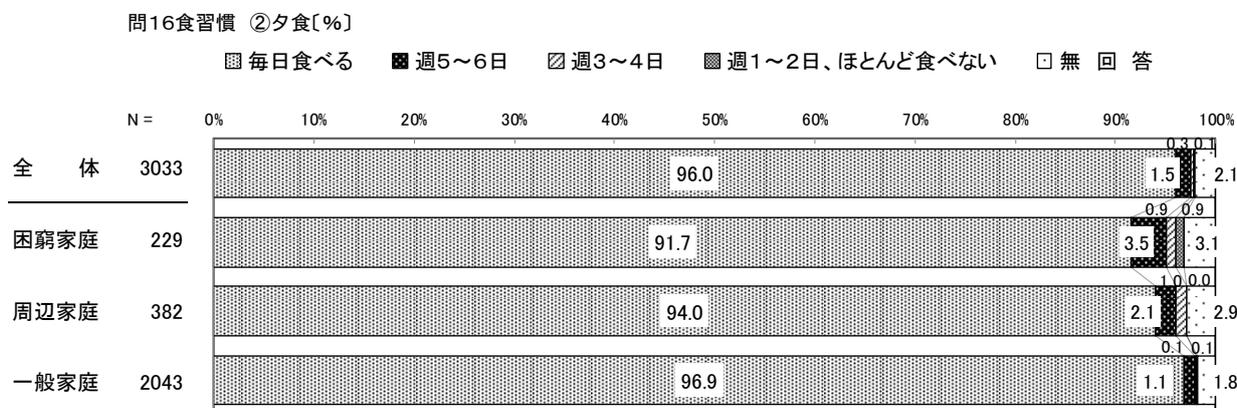
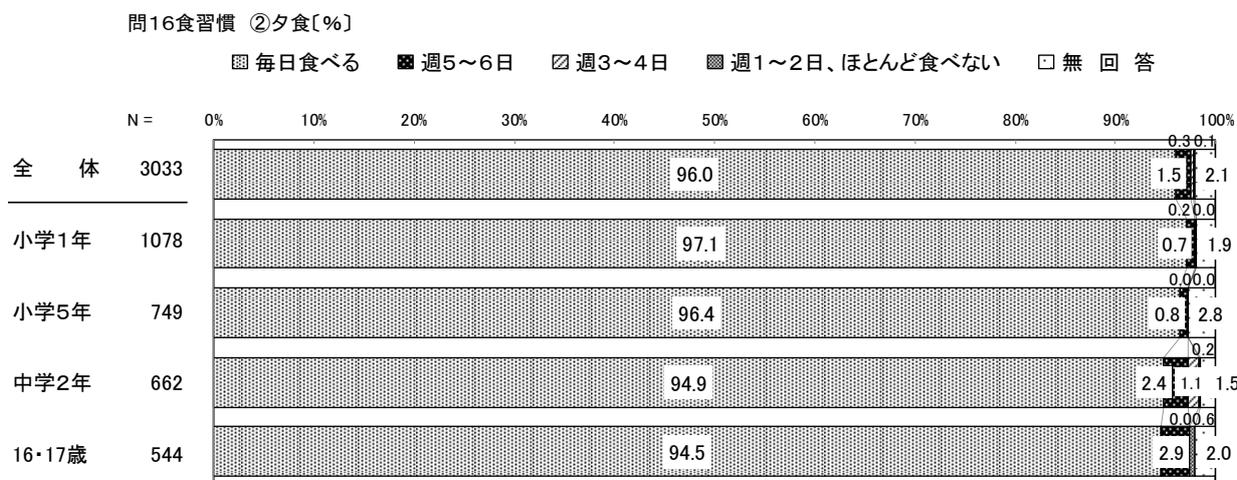
#### [参考: 前回調査結果]

(H29調査) 平日の朝食の頻度[%]



## 2) 夕食

夕食については、「毎日食べる」が 96.0%、「週5～6日」が 1.5%、「週3～4日」が 0.3%、「週1～2日、ほとんど食べない」が 0.1%となっている。

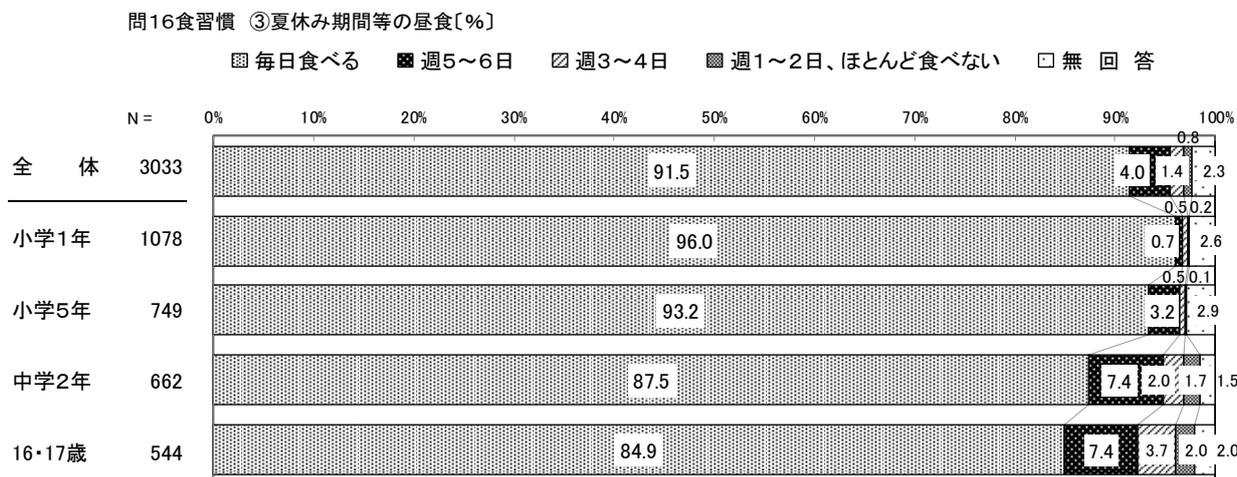


## 3) 夏休みや冬休みなどの期間の昼食

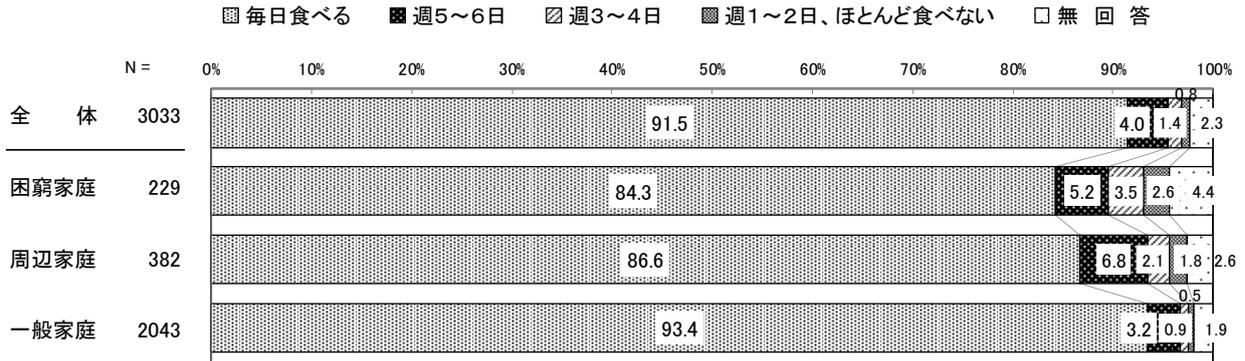
夏休み期間等の昼食について、「毎日食べる」が 91.5%、「週5～6日」が 4.0%、「週3～4日」が 1.4%、「週1～2日」が 0.8%となっている。

学年別では、『食べない日がある』（「週5～6日」、「週3～4日」と「週に1～2日、ほとんど食べない」の計）は小学1年で 1.4%、小学5年で 3.8%だが、中学2年は 11.1%、16・17歳は 13.1%と学年が上がるにつれ、多く回答されている。

生活困窮度別では、周辺家庭と困窮家庭で『食べない日がある』がそれぞれ 10.7%、11.3%と一般家庭の 4.6%と比べて多い。



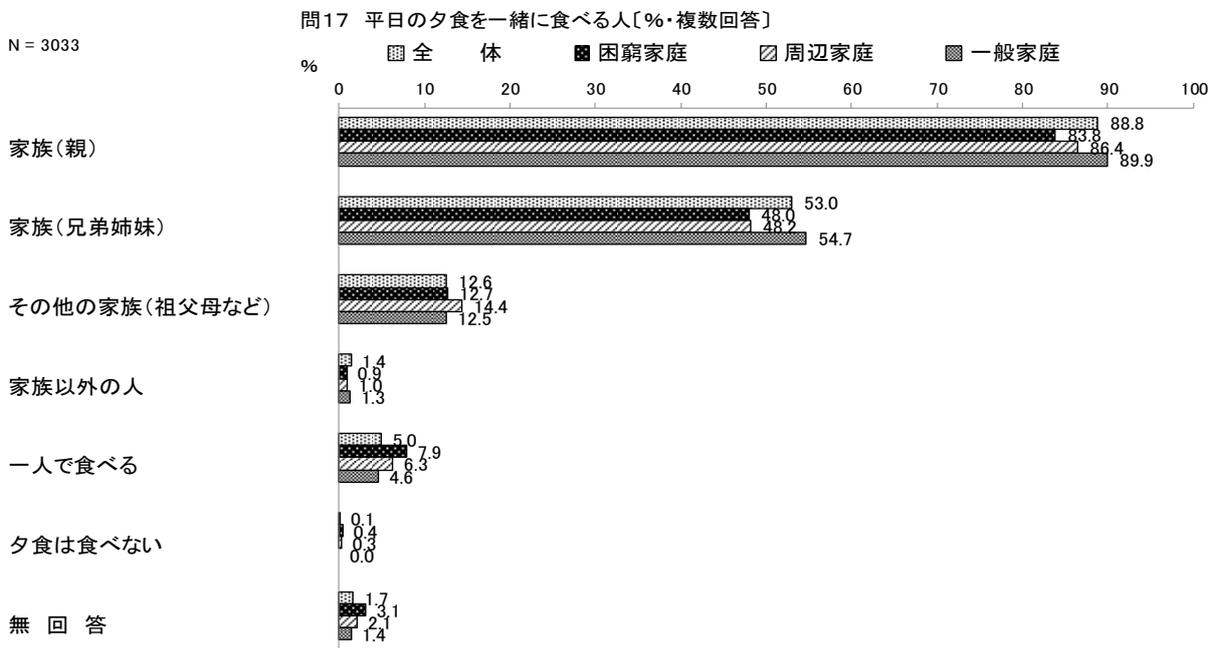
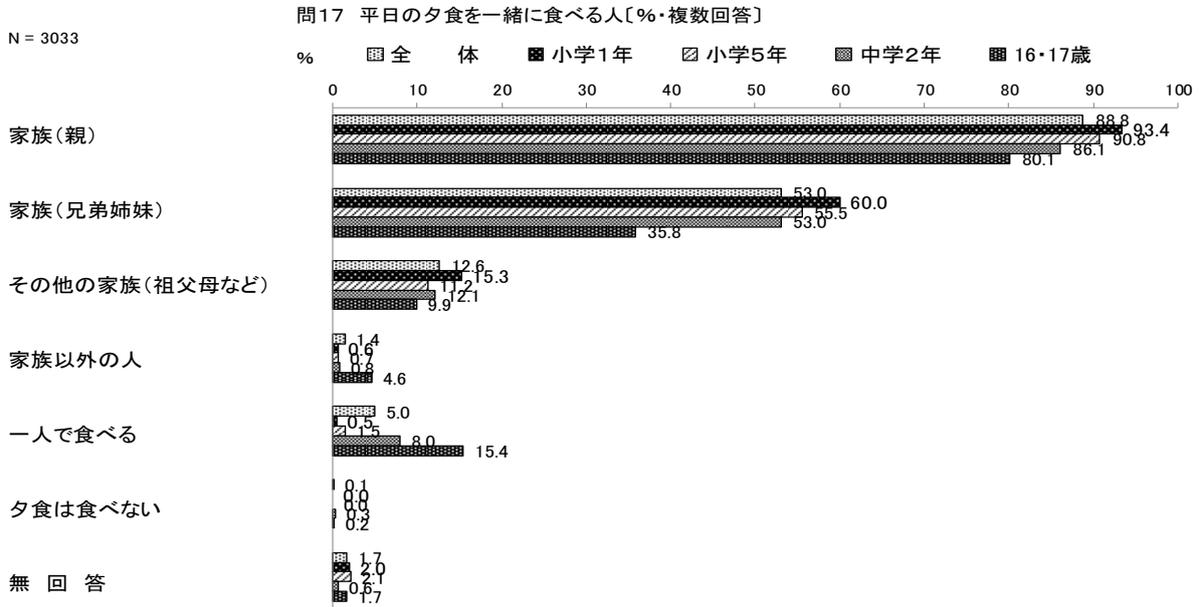
問16食習慣 ③夏休み期間等の昼食[%]



問17 あなたは、平日(学校や仕事に行く日)の夕食をだれと食べますか。

平日の夕食と一緒に食べる人は、「家族(親)」が 88.8%と最も多く、次いで家族(兄弟姉妹)が 53.0%である。

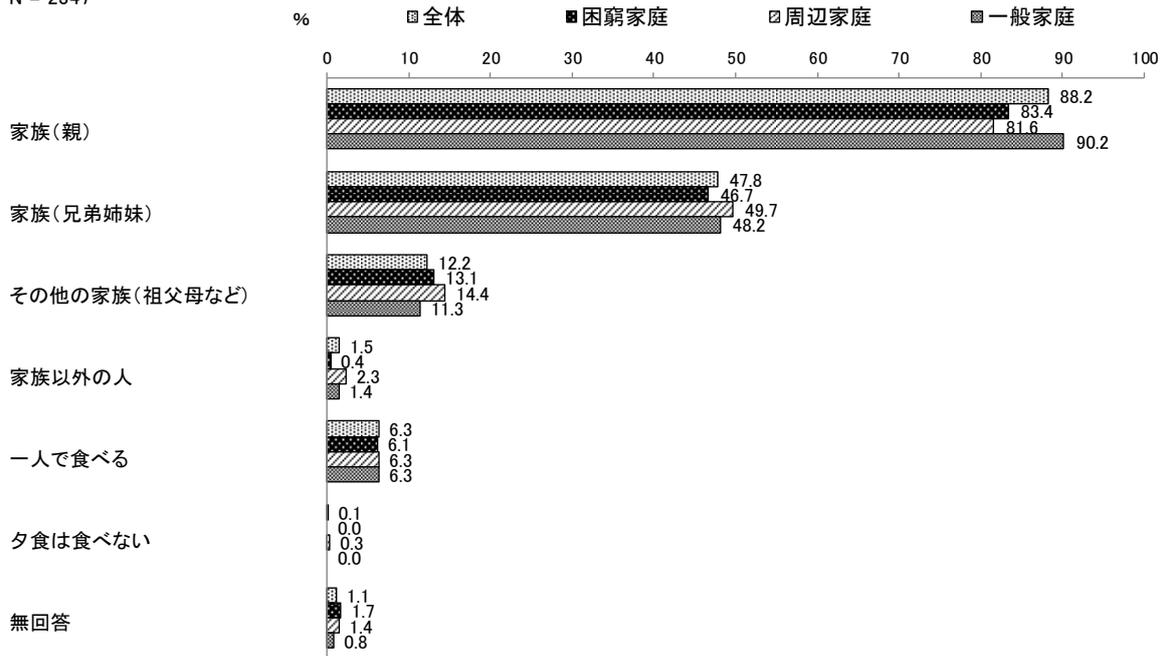
学年別では、16・17歳で「一人で食べる」が 15.4%と、他の学年に比べて多い。



[参考: 前回調査結果]

(H29調査)  
N = 2347

問23 平日の夕食を一緒に食べる人[%・複数回答]



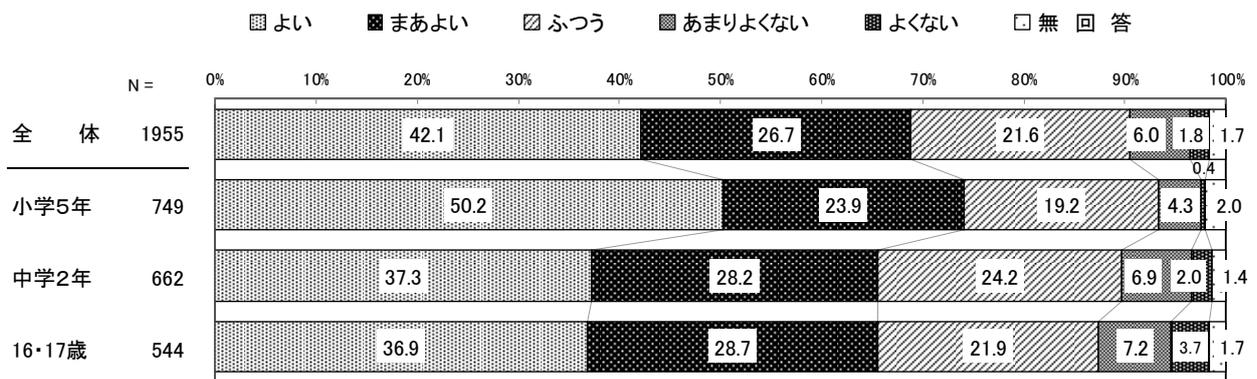
③健康状態

問 18 あなたは、自分の健康状態についてどう感じていますか。(小学1年以外)

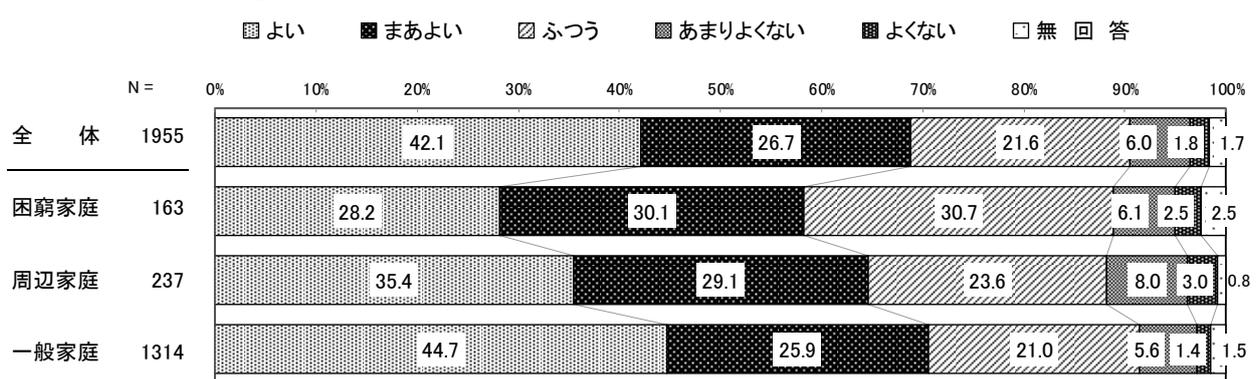
子どもの健康状態(子ども本人の回答)は、『よい』(「よい」と「まあよい」の計)が 68.8%、『よくない』(「あまりよくない」と「よくない」の計)が 7.8%となっている。

生活困窮度別では、『よい』は困窮家庭で 58.3%と他の区分よりも少なく、特に「よい」の回答割合が少ない。

問18 健康状態[%]

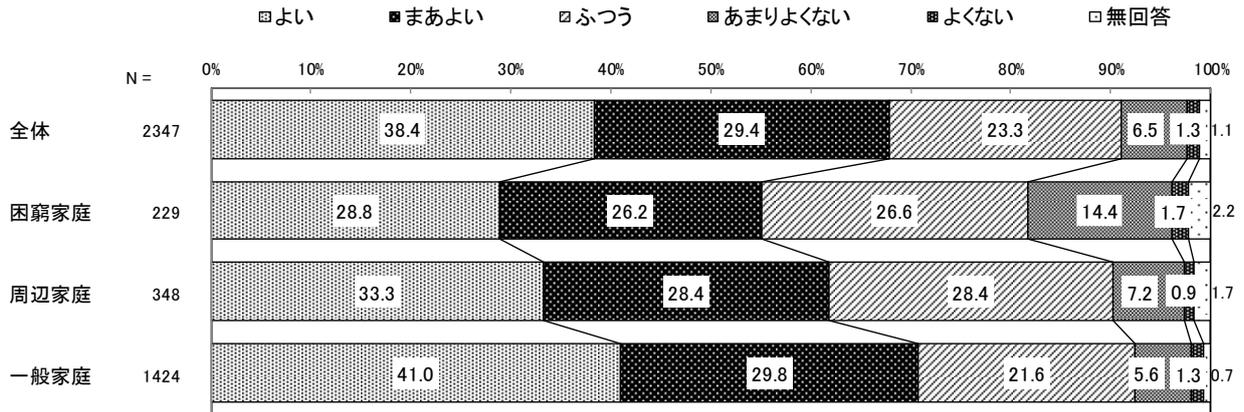


問18 健康状態[%]



[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 健康状態[%]



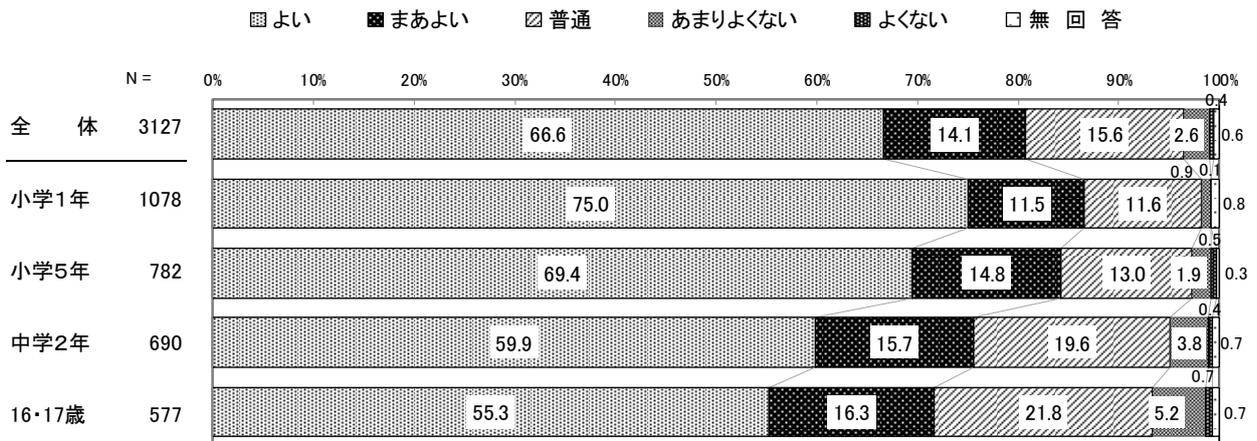
[保護者からみた子どもの健康状態]

保護者からみた子どもの健康状態は、『よい』(「よい」と「まあよい」の計)が 80.7%、『よくない』(「あまりよくない」と「よくない」の計)が 3.0%となっている。

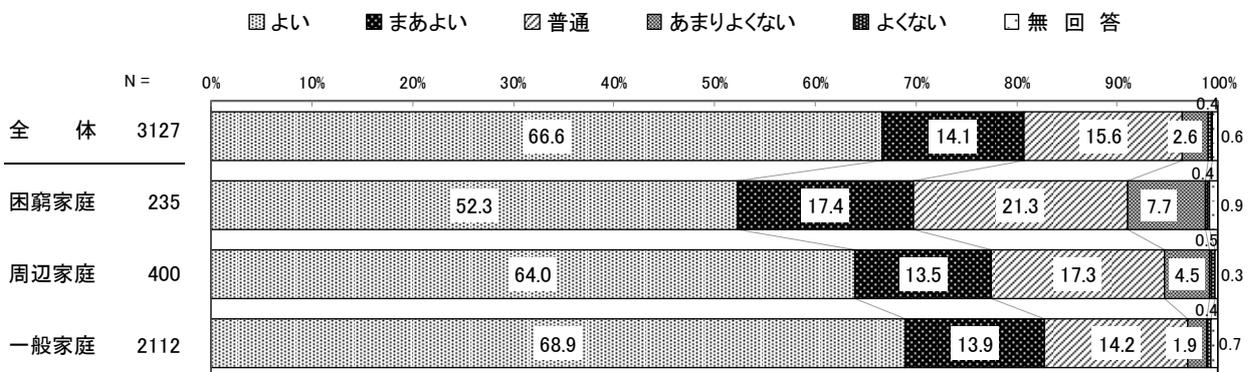
学年別では、『よい』の回答割合は学年が上がるとうすくなり、16・17 歳で 71.6%である。子ども本人が答える健康状態に比べて、『よい』が多く、『よくない』がうすくなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で『よい』が 69.7%と他の区分よりもうすい。

H問15健康状態 ②子ども[%]

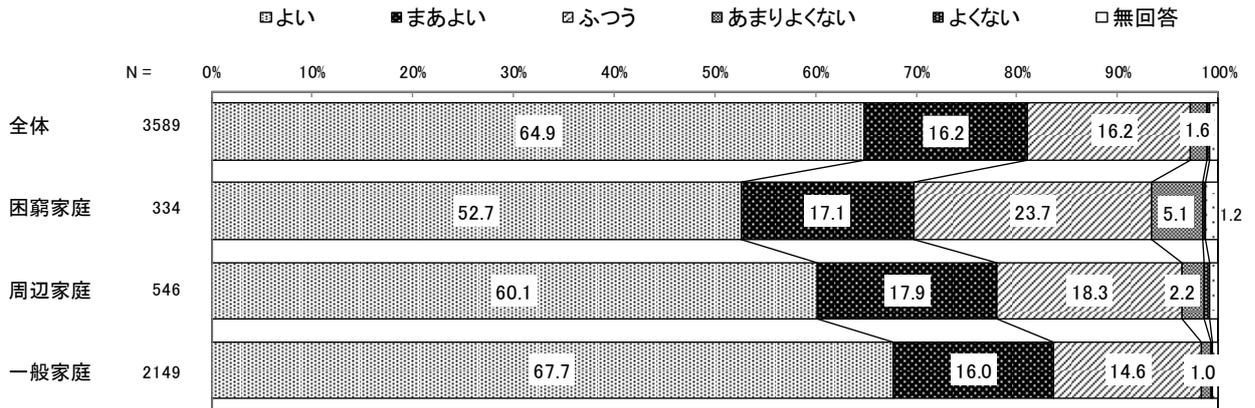


H問15健康状態 ②子ども[%]



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 健康状態(子)[%]

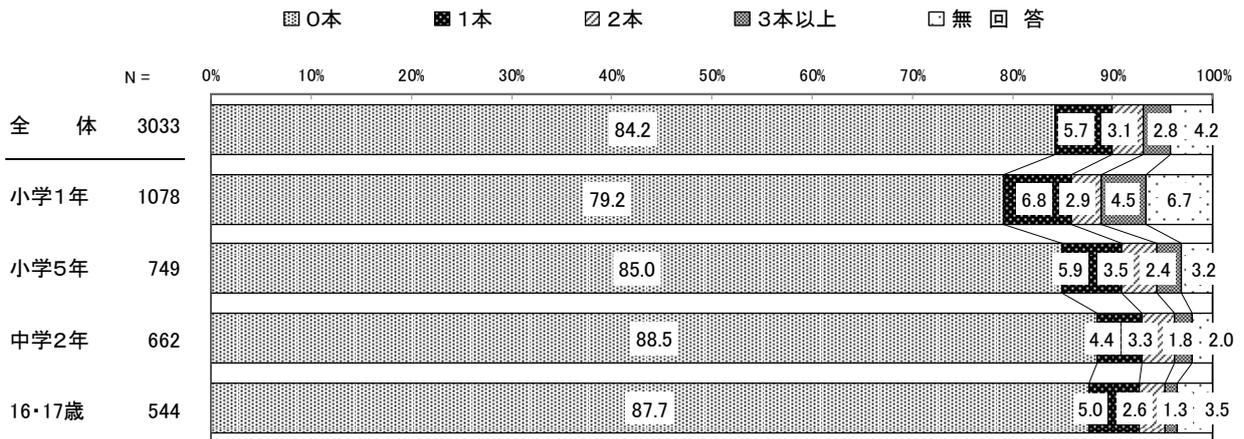


問 19 あなたは、今、虫歯がおおよそ何本くらいありますか。治療中のものも含まます。

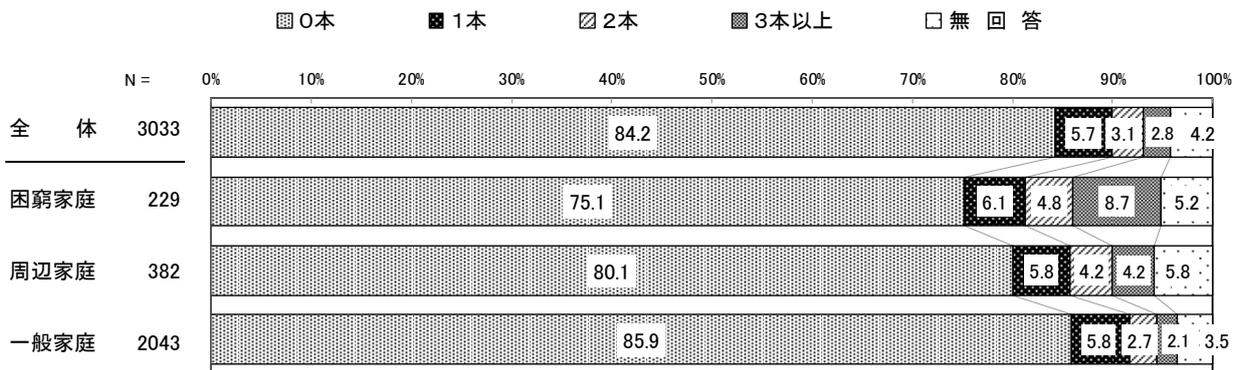
虫歯の有無は、『むし歯がない』(「0本」)が84.2%、『むし歯がある』(「1本」、「2本」と「3本以上」の計)という回答は11.6%で、平均0.3本である。

生活困窮度別では、困窮家庭で「0本」が75.1%と、他の区分に比べてやや少ない。

問19 虫歯の有無[%]



問19 虫歯の有無[%]



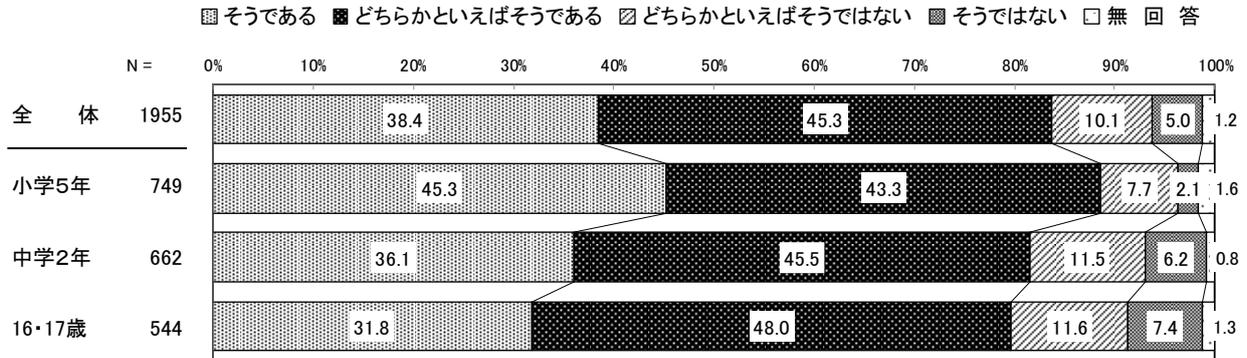
#### ④睡眠

問 20 あなたは、平日(学校や仕事に行く日)、ほぼ同じ時間に寝ていますか。(小学1年以外)

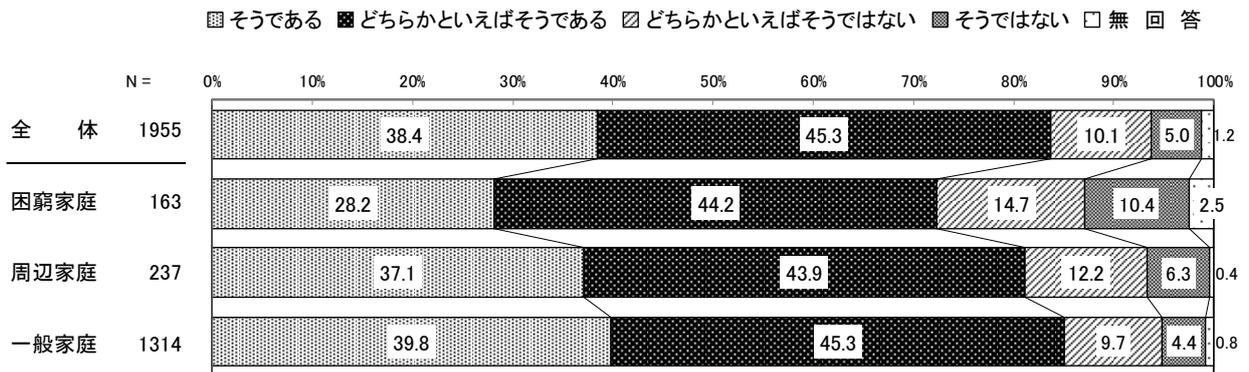
平日同じ時間に就寝しているかについては、『そうである』(「そうである」と「どちらかといえばそうである」の計)が 83.7%、『そうではない』(「どちらかといえばそうではない」と「そうではない」の計)が 15.1%となっている。

学年別では、『そうである』の回答割合が学年に上がるにつれ少なくなっている。

問20 平日同じ時間に就寝している[%]



問20 平日同じ時間に就寝している[%]



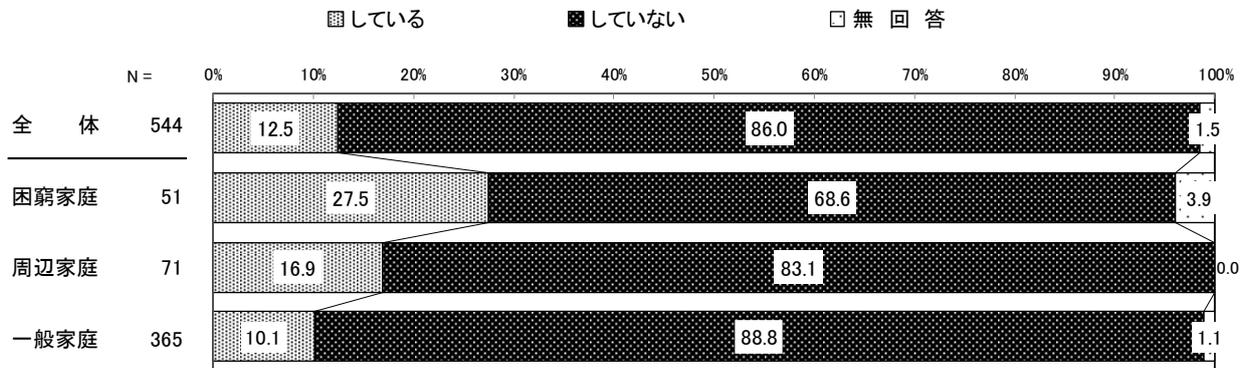
## (5) アルバイトなどの仕事(16・17歳)

K 問 25 あなたの仕事の状況(学生アルバイトを含む)を教えてください。あなたは、収入を伴う仕事(学生のアルバイトを含む)をしていますか。(16・17歳のみ)

16・17歳の仕事の状況は、「している」が12.5%、「していない」が86.0%となっている。

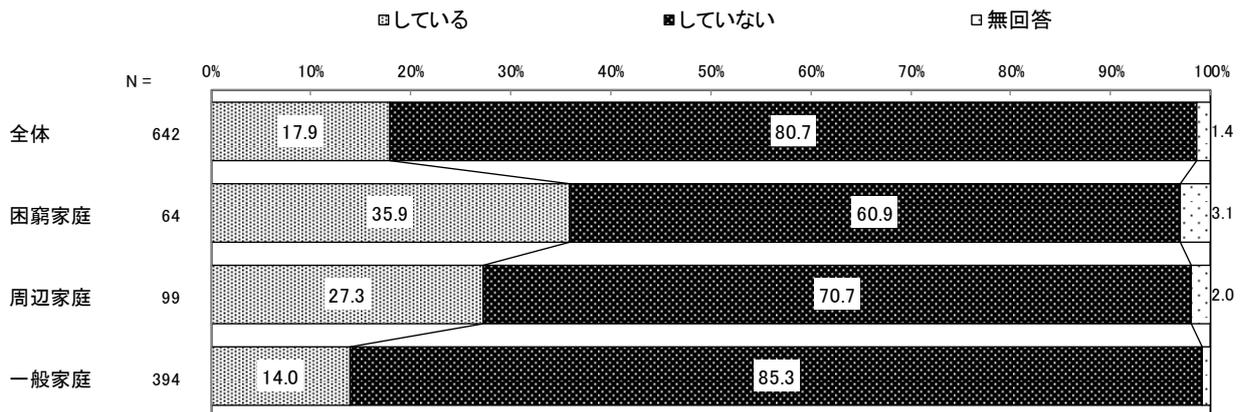
生活困窮度別では、「している」が一般家庭 10.1%に比べて、周辺家庭で 16.9%、困窮家庭で 27.5%と多くなっている。

K問25 仕事の状況(16・17歳) [%]



[参考: 前回調査結果]

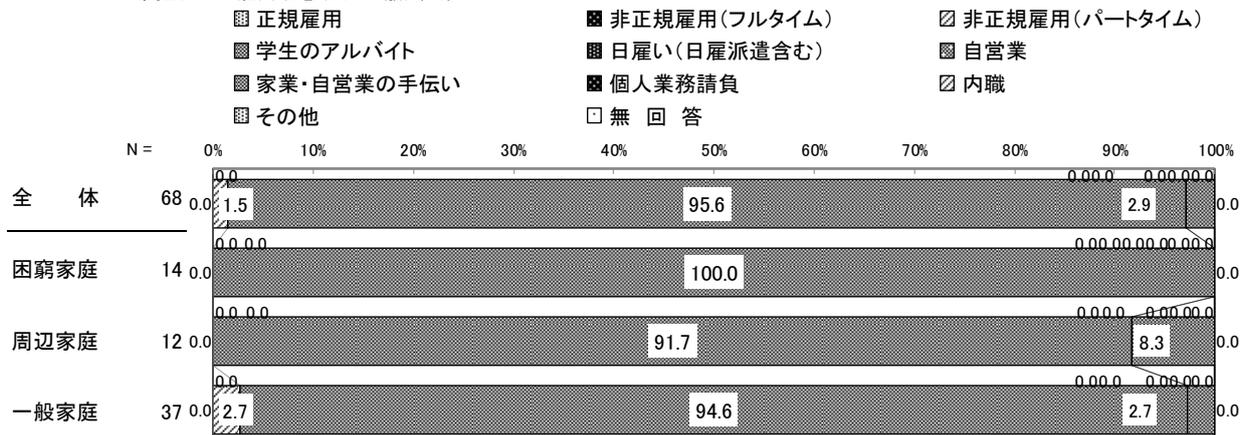
(H29調査) 仕事の状況 [%]



K 問 25-1 収入を伴う仕事(学生のアルバイトを含む)をしている方にお聞きます。あなたの現在のお仕事の雇用形態を教えてください。複数のお仕事をお持ちの場合は、主な仕事についてお答えください。(16・17歳のみ)

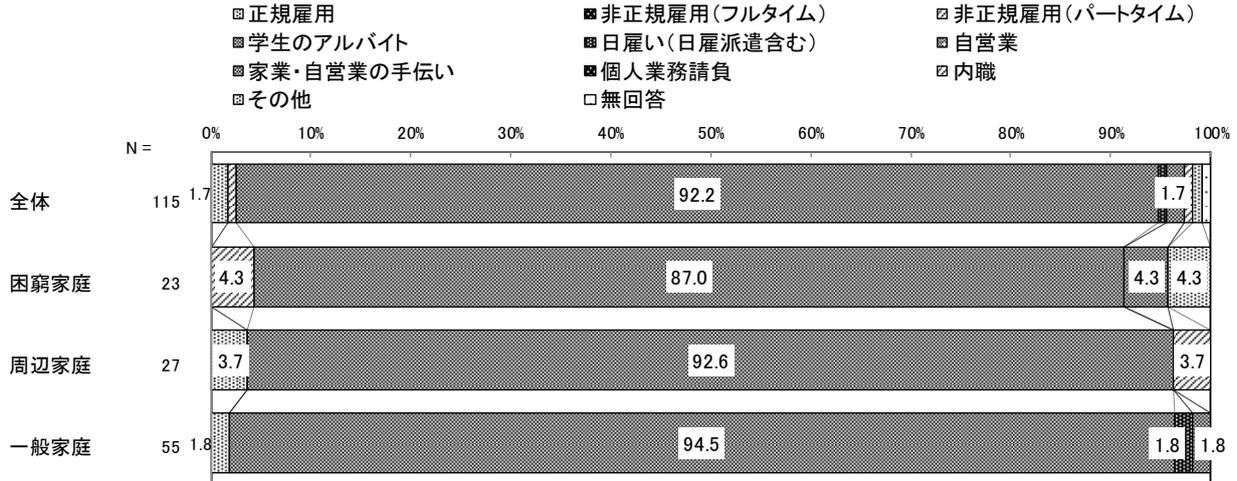
16・17歳の雇用形態は、「学生のアルバイト」が95.6%、「正規雇用」が1.5%などとなっている。

K問25-1 雇用形態(16・17歳) [%]



[参考: 前回調査結果]

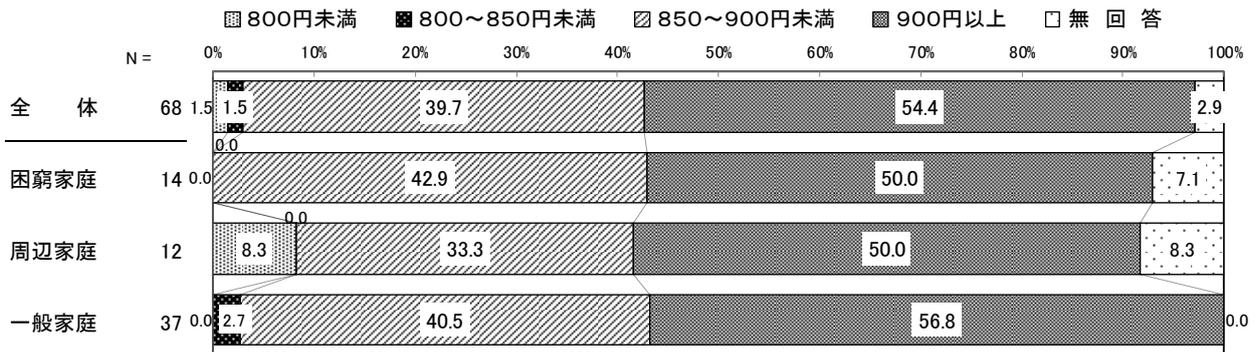
(H29調査) 雇用形態[%]



K 問 25-2 時給にするとどのくらいになりますか。(16・17 歳のみ)

16・17 歳の時給は、「900 円以上」が 54.4%、「850～900 円未満」が 39.7%となっており、平均 902.2 円である。前回の全体の平均時給 824 円から高くなっている。

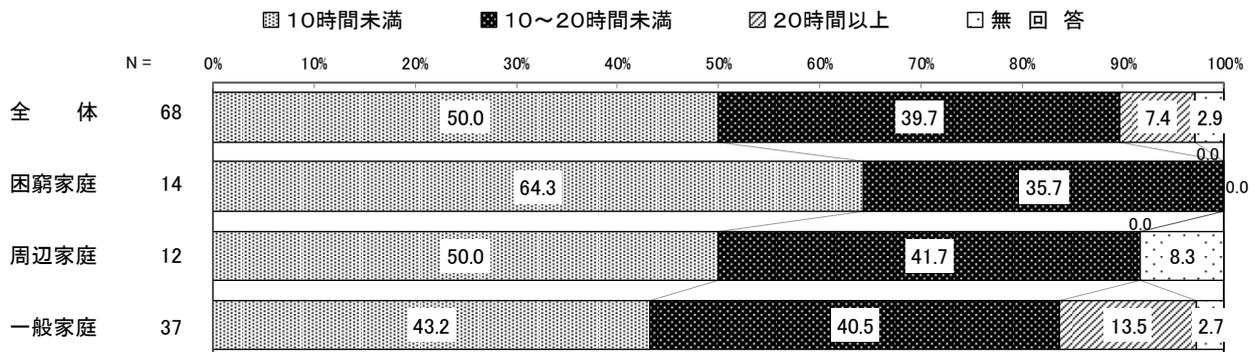
K問25-2 時給(16・17歳)[%]



K 問 25-3 現在は、1週間あたり、平均何時間働いていますか。残業時間を含めてお答えください。(16・17 歳のみ)

16・17 歳の1週間あたりの平均就労時間は、「10 時間未満」が 50.0%、「10～20 時間未満」が 39.7%、「20 時間以上」が 7.4%となっており、平均 10.2 時間である。

K問25-3 平均就労時間(16・17歳)[%]

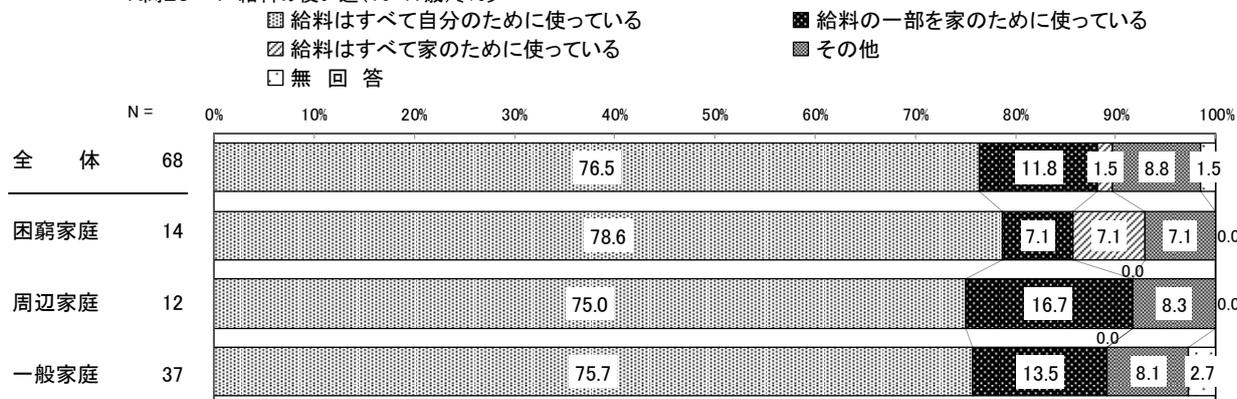


K問 25-4 収入を伴う仕事(学生のアパートを含む)をしている方全員にお聞きします。給料(アルバイト代)を何に使っていますか。

16・17歳の給料の使い道は、「給料はすべて自分のために使っている」が76.5%、「給料の一部を家のために使っている」が11.8%、「給料はすべて家のために使っている」が1.5%となっている。

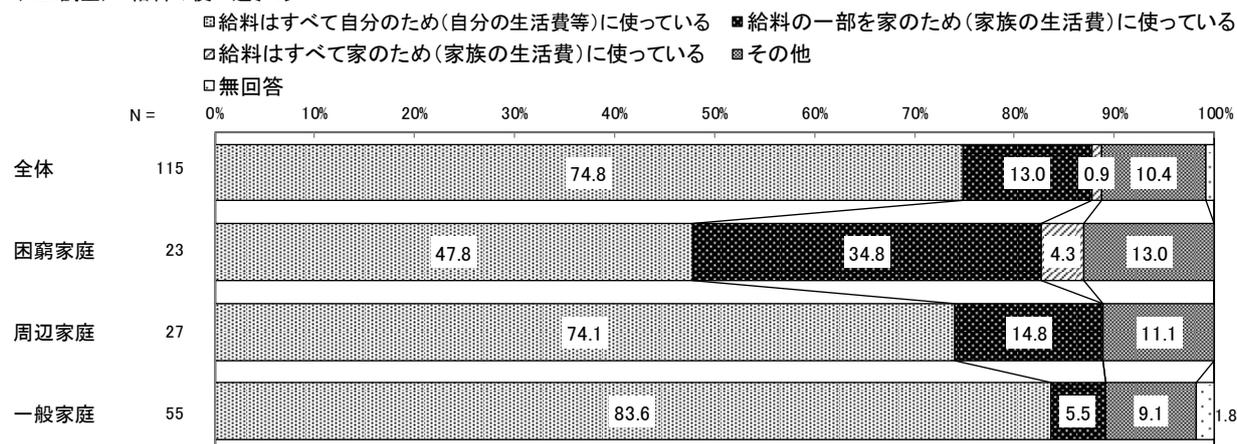
生活困窮度別では、困窮家庭で「給料はすべて家のために使っている」が7.1%みられる。

K問25-4 給料の使い道(16・17歳)[%]



[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 給料の使い道[%]



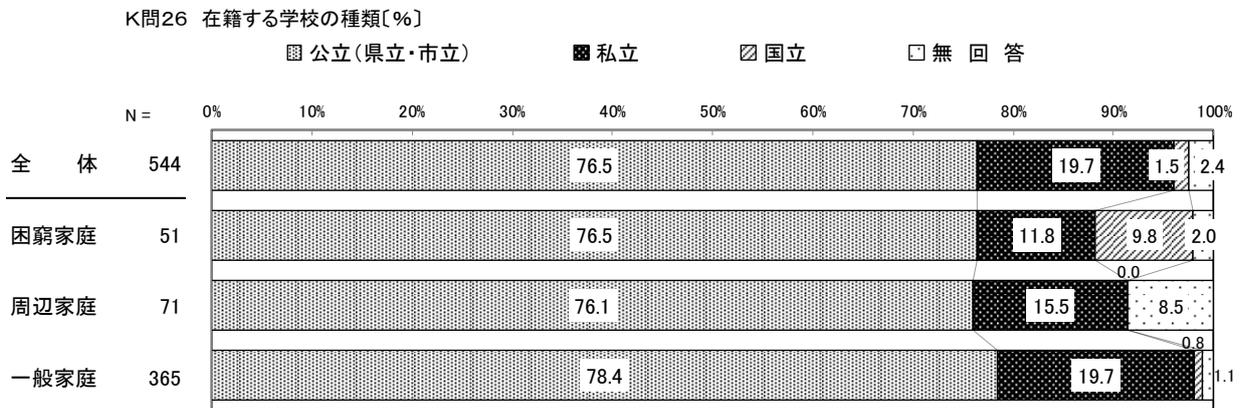
## (6)学校や勉強・進学などに関すること(小学1年以外)

### ①現在の通学先(16・17歳のみ)

K問 26 あなたの在籍する(在籍していた)学校の種類を教えてください。(16・17歳のみ)

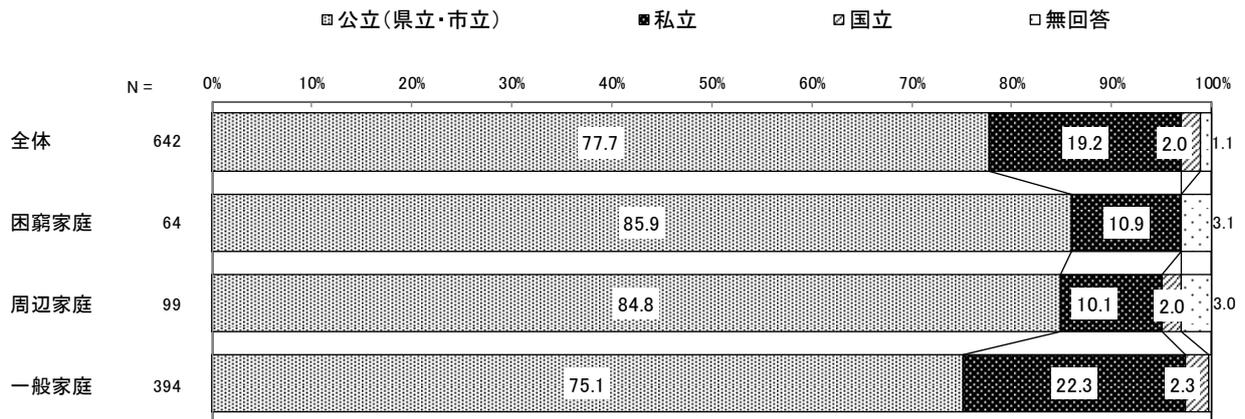
16・17歳の在籍する(在籍していた)学校の種類は、「公立(県立・市立)」が76.5%、「私立」が19.7%、「国立」が1.5%となっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「国立」が9.8%みられる。



[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 在籍する学校の種類[%]

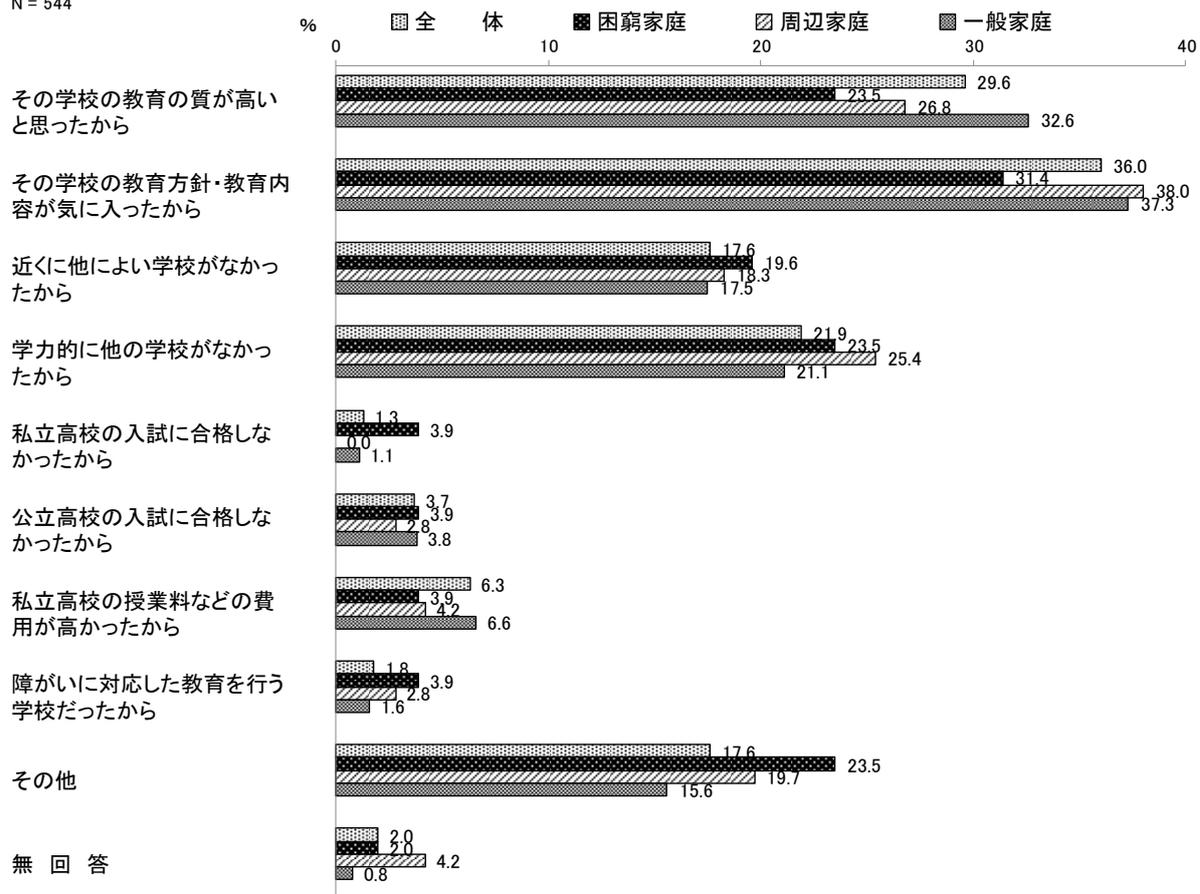


K問 26-1 その学校に進学したのはなぜですか。(16・17歳のみ)

16・17歳の進学した理由は、「その学校の教育方針・教育内容が気に入ったから」が36.0%、「その学校の教育の質が高いと思ったから」が29.6%、「学力的に他の学校がなかったから」が21.9%などとなっている。

K問26-1 進学した理由(16・17歳)[%・複数回答]

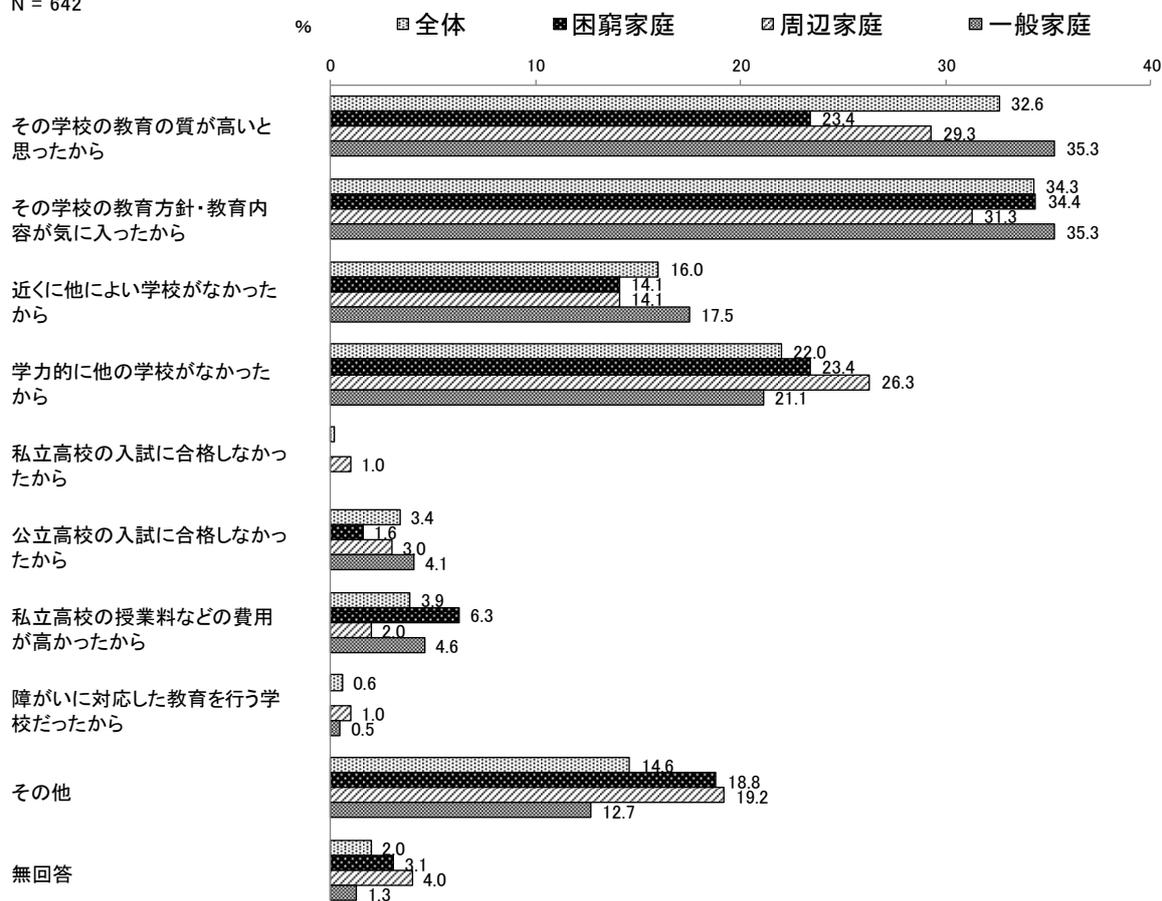
N = 544



[参考: 前回調査結果]

(H29調査)  
N = 642

進学した理由[%・複数回答]



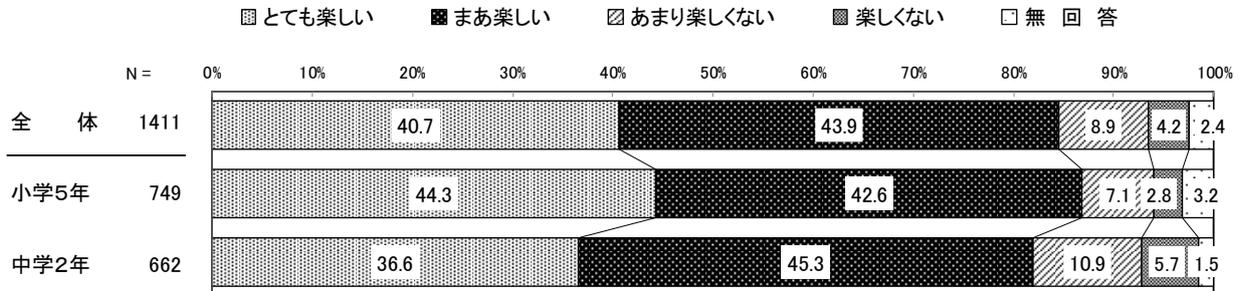
## ②学校生活

### 問 21 あなたは、学校生活が楽しい(楽しかった)ですか。(小学5年・中学2年のみ)

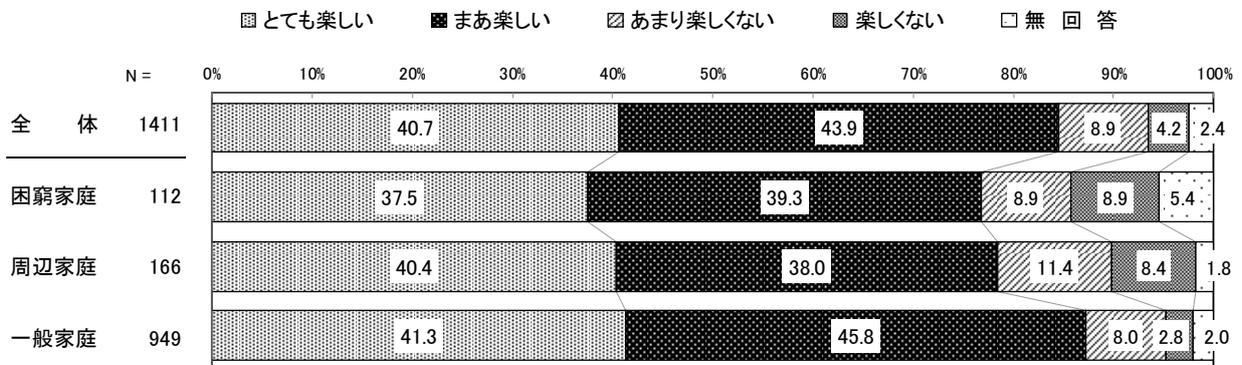
学校生活が『楽しい』(「とても楽しい」と「まあ楽しい」の計)は 84.6%であり、学年別では、小学5年で86.9%、中学2年で81.9%である。

生活困窮度別では、困窮家庭で『楽しい』が76.8%と全体に比べて少ない。

問21 学校生活楽しい[%]

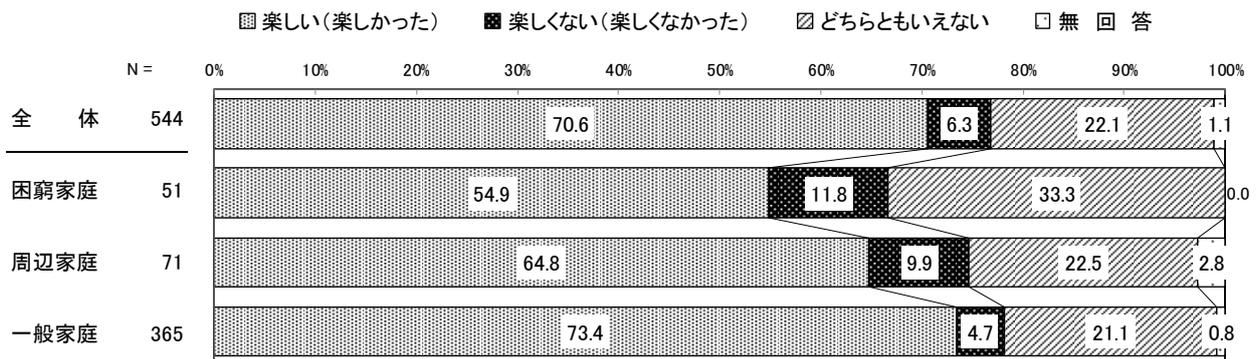


問21 学校生活楽しい[%]



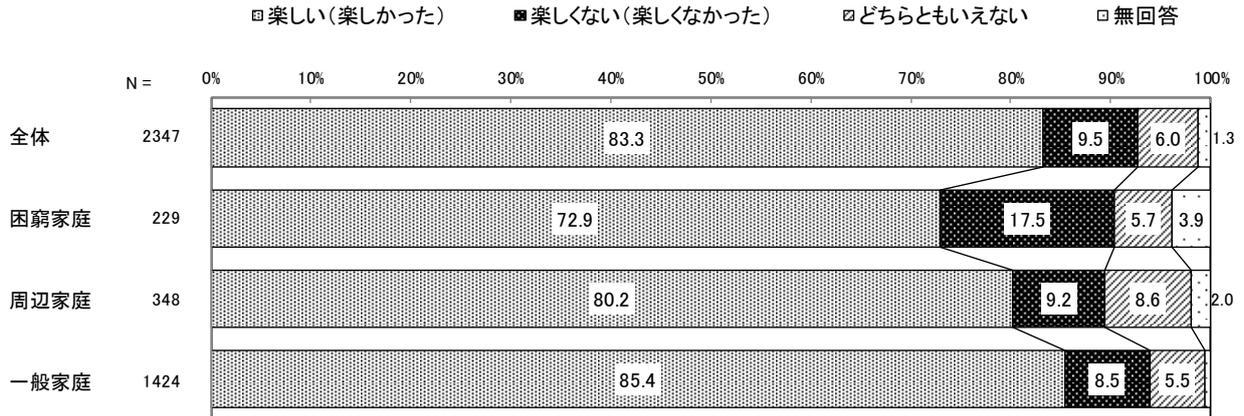
16・17歳では、学校生活が「楽しい(楽しかった)」は70.6%、「楽しくない(楽しくなかった)」は6.3%であるが、生活困窮度別では、困窮家庭は「楽しい(楽しかった)」が54.9%と少なく、「楽しくない(楽しくなかった)」が11.8%となっている。

K問27 学校生活楽しい(楽しかった)(16・17歳)[%]



[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 学校生活が好きか[%]

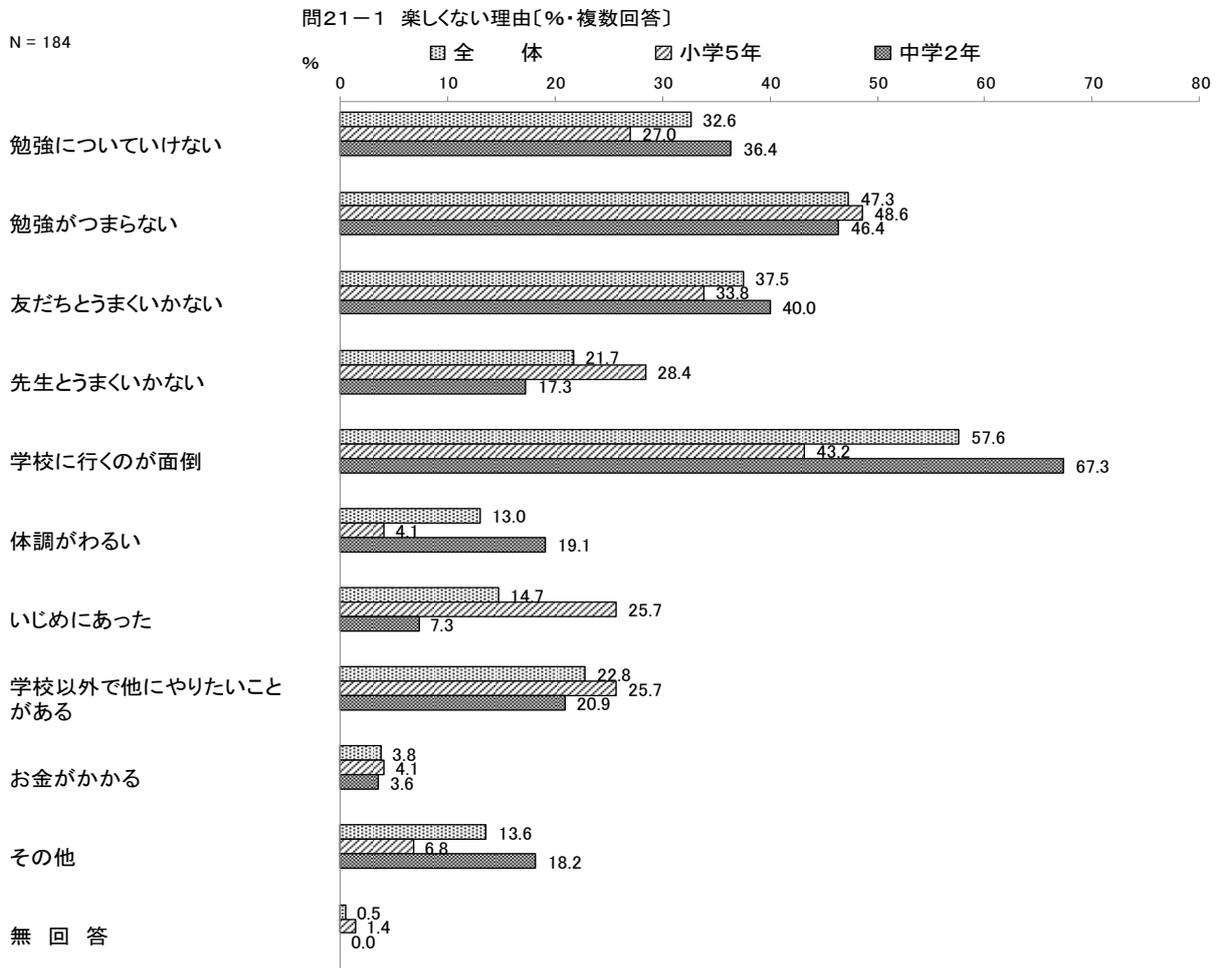


問 21-1 前問で「3 あまり楽しくない」、「4 楽しくない」と答えた人にお聞きします。学校が楽しくない理由は、何ですか。(小学5年・中学2年のみ)

学校が楽しくない理由は、「学校に行くのが面倒」が 57.6%、「勉強がつまらない」が 47.3%、「勉強についていけない」が 32.6%などとなっている。

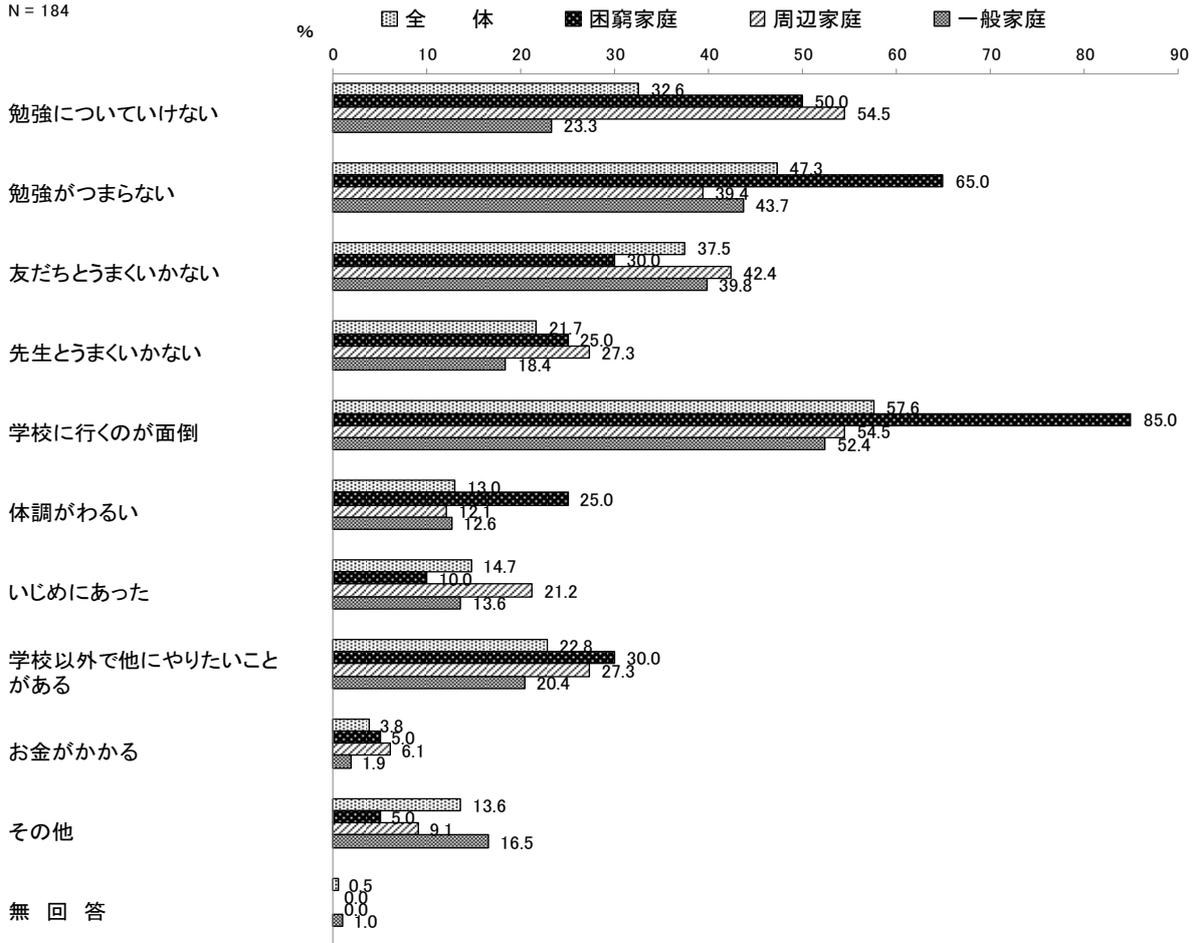
学年別では、小学5年で「先生とうまくいかない」が 28.4%、「いじめにあった」が 25.7%、中学2年で「学校に行くのが面倒」が 67.3%、「体調がわるい」が 19.1%回答されている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「学校に行くのが面倒」が 85.0%、「勉強がつまらない」が 65.0%、「体調がわるい」が 25.0%などとなっている。



N = 184

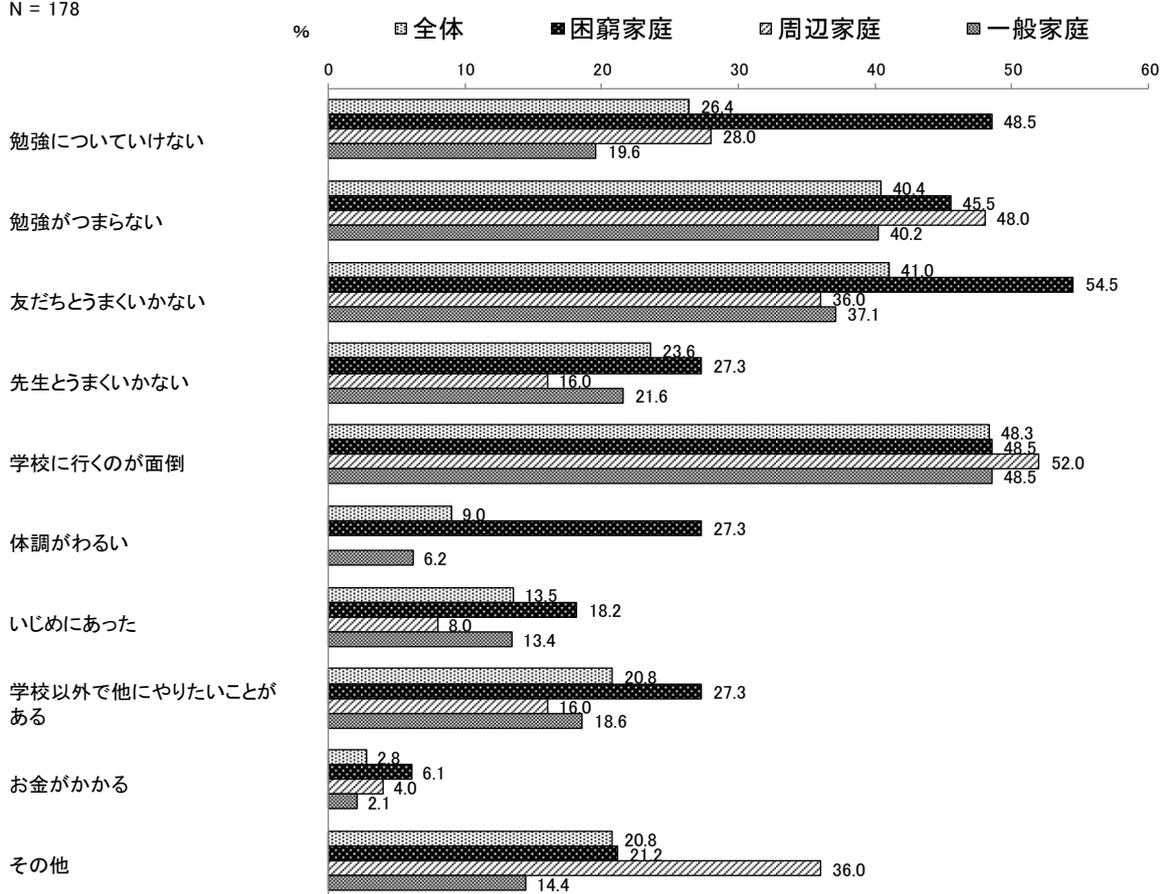
問21-1 楽しくない理由[%・複数回答]



[参考: 前回調査結果]

(H29調査)  
N = 178

楽しくない理由[%・複数回答]



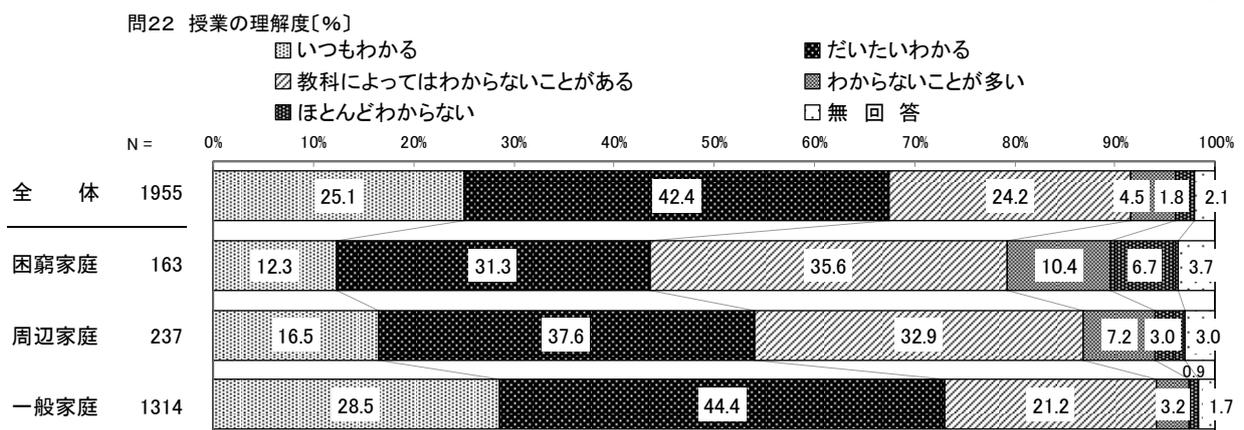
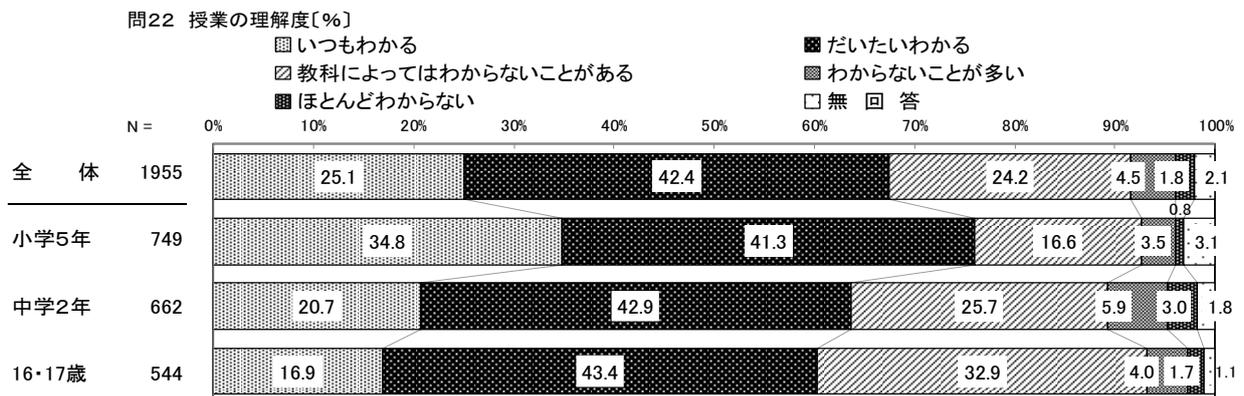
### ③授業の理解

#### 問 22 あなたは、学校の授業がわかりますか。

学校の授業の理解状況については、『わかる』（「いつもわかる」と「だいたいわかる」の計）が67.5%、『わからない』（「教科によってはわからないことがある」、「わからないことが多い」と「ほとんどわからない」の計）が30.5%となっている。

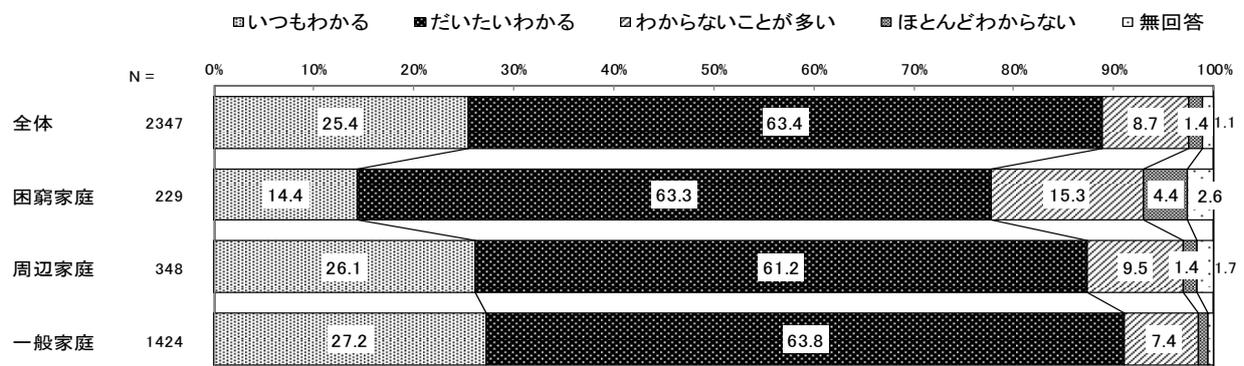
学年別では、『わかる』は小学5年で76.1%となっているが、学年が上がるとその回答割合は少なくなり、16・17歳では60.3%となっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で『わからない』が52.7%と他の区分よりも多い。



#### [参考: 前回調査結果]

(H29調査) 授業の把握度[%]

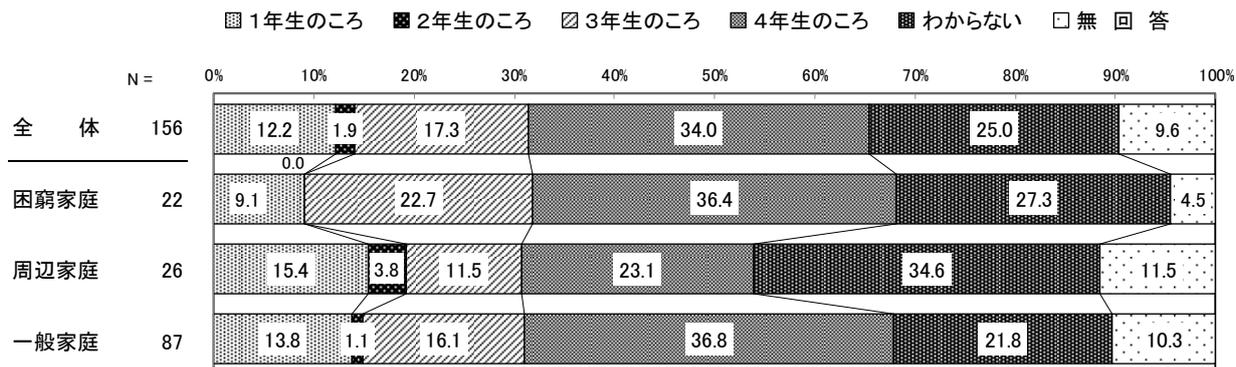


問 22-1 前問で「3 教科によってはわからないことがある」「4 わからないことが多い」「5 ほとんどわからない」と答えた方にお聞きします。いつごろから、授業がわからなくなりましたか。

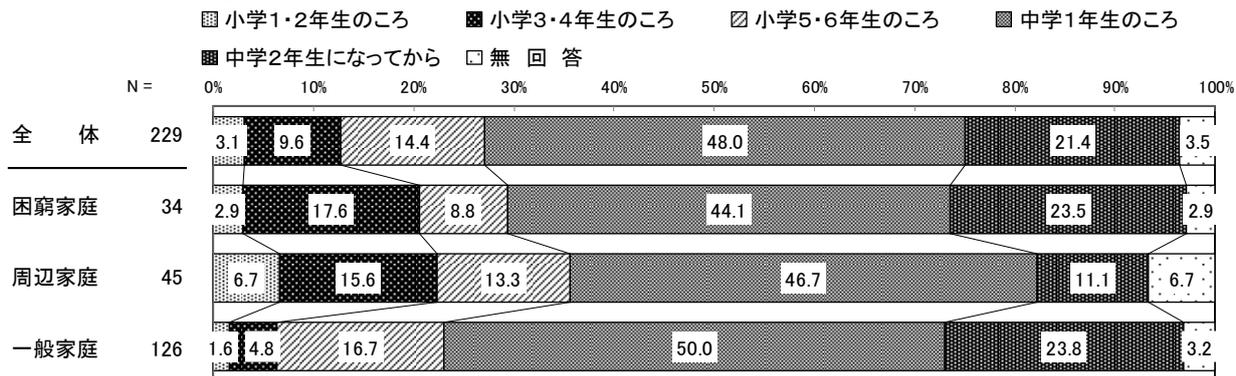
授業がわからなくなった時期については、小学5年で『小学3・4年生のころ』(「3年生のころ」と「4年生のころ」の計)が 51.3%、中学2年では「中学1年生のころ」が 48.0%、16・17 歳では「高校1年生の頃」が 31.0%と最も多く回答されている。

生活困窮度別では、16・17 歳は「高校入学前」(「小学1・2年生の頃」、「小学3・4年生の頃」、「小学5・6年生の頃」、「中学1年生の頃」、「中学2年生の頃」と「中学3年生の頃」の計)が周辺家庭と困窮家庭でそれぞれ 54.9%、63.4%と一般家庭の 41.6%に比べて多い。

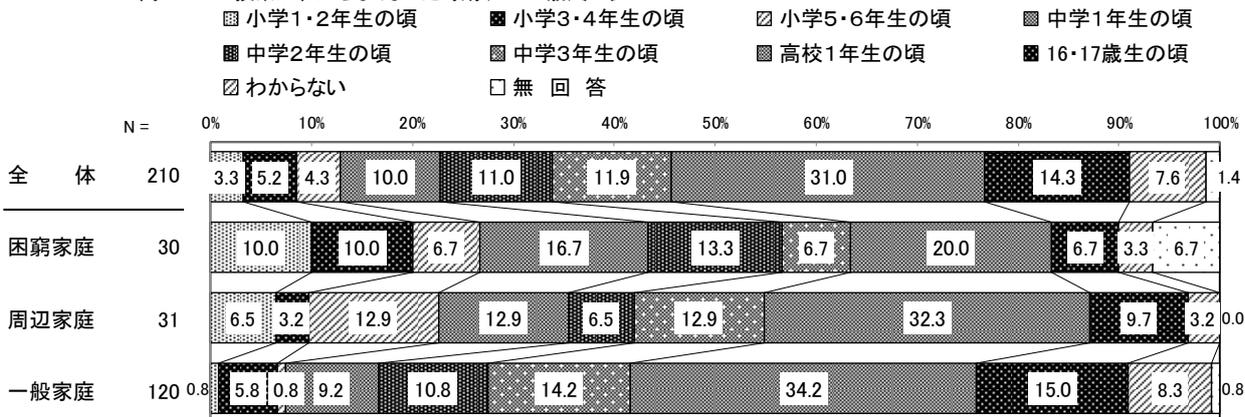
問22-1 授業がわからなくなった時期(小学校5年生)〔%〕



問22-1 授業がわからなくなった時期(中学校2年生)〔%〕

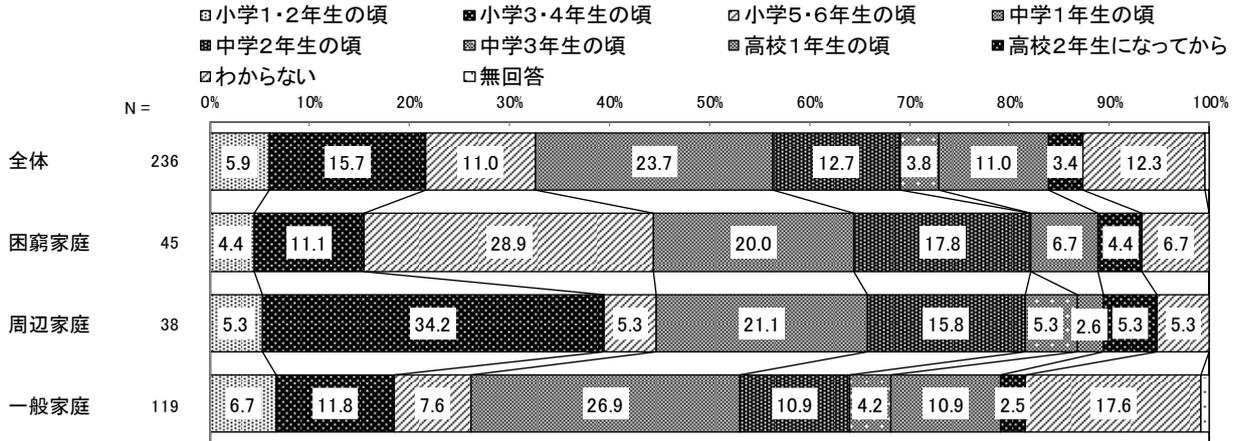


K問28-1 授業がわからなくなった時期(16・17歳)〔%〕



[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 授業がわからなくなった時期[%]

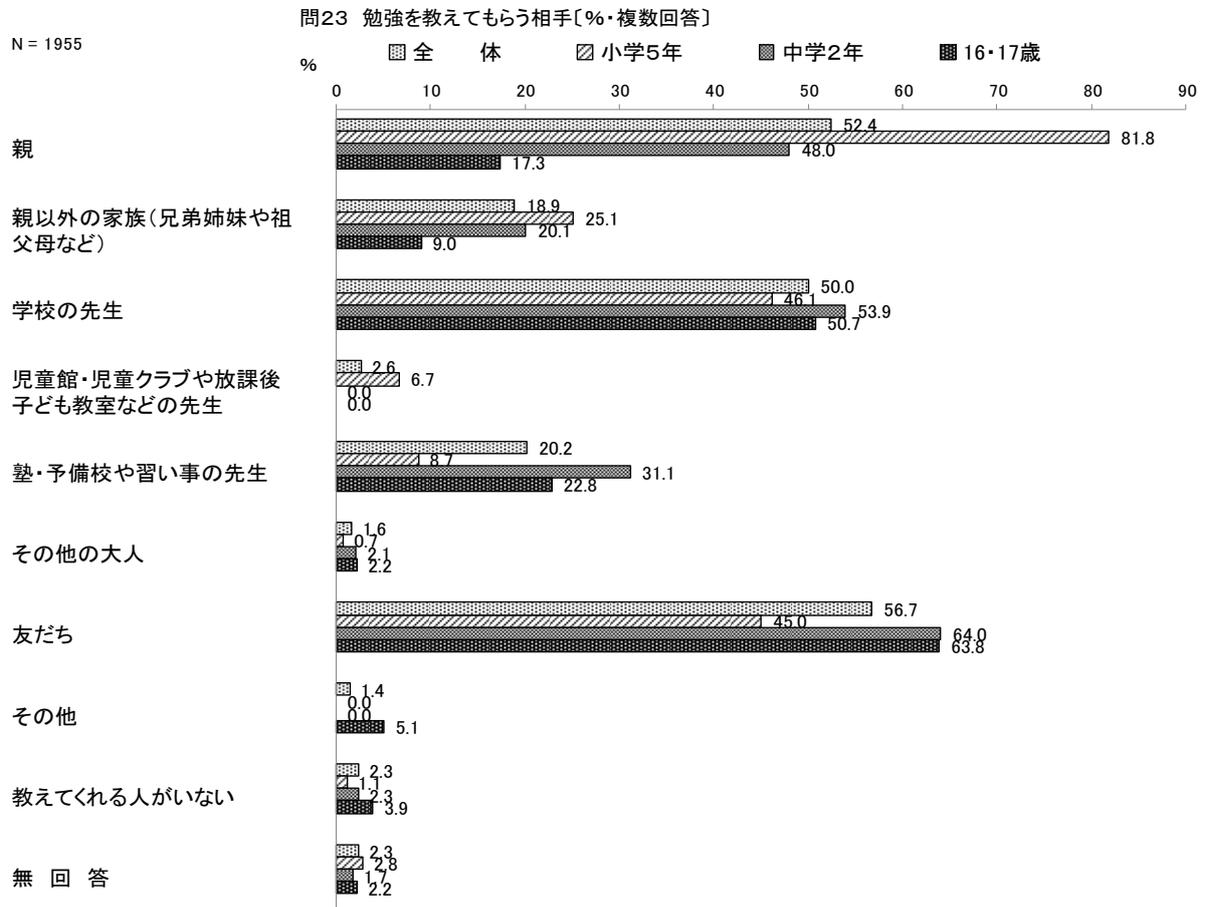


問 23 勉強がわからない時は、だれに教えてもらいますか(教えてもらいましたか)。

勉強を教えてもらう相手は、「友だち」が56.7%、「親」が52.4%、「学校の先生」が50.0%などとなっている。

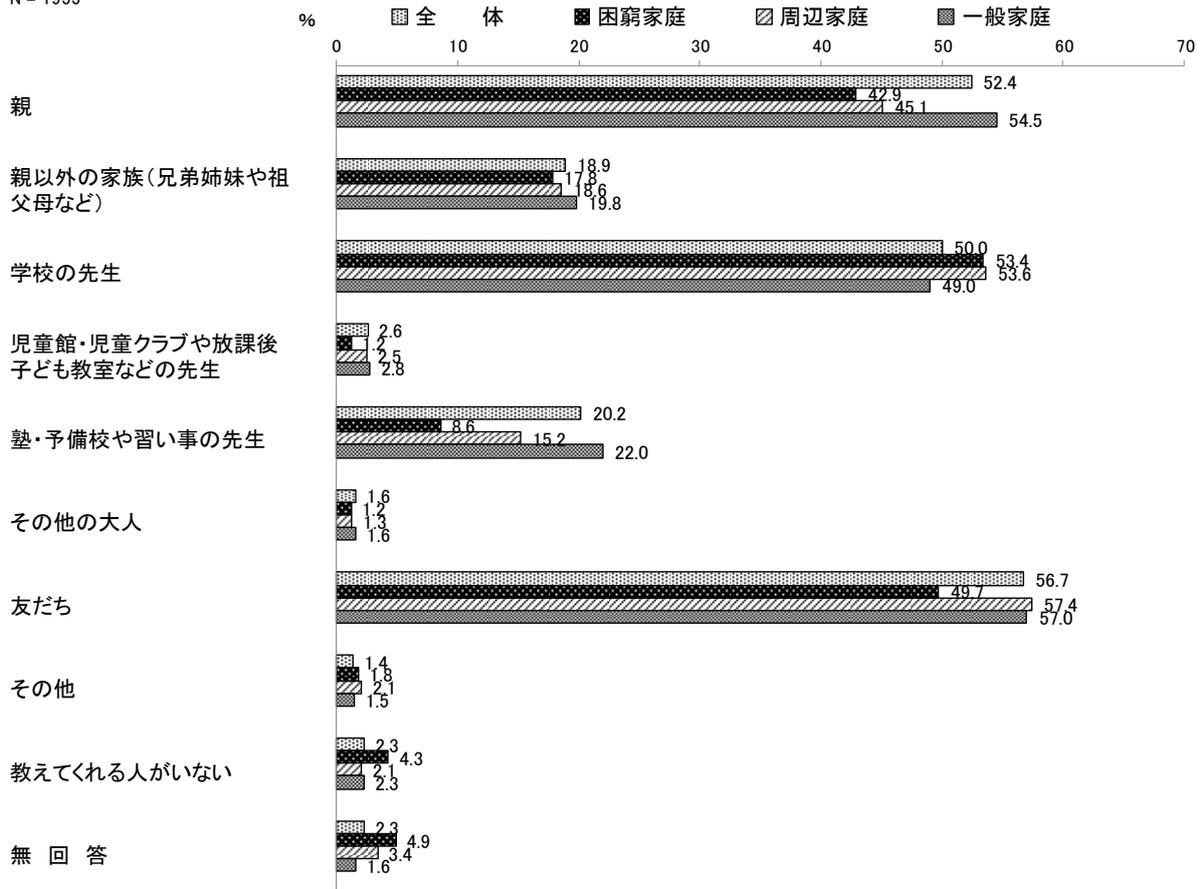
学年別では、「親」が小学5年で81.8%と多いが、学年が上がるとその割合は少なくなり16・17歳では17.3%である。中学2年、16・17歳で「友だち」がそれぞれ60%台、「塾・予備校や習い事の先生」がそれぞれ31.1%、22.8%と多い。

生活困窮度別では、困窮家庭で「塾・予備校や習い事の先生」が8.6%と全体の20.2%に比べて少ない。



N = 1955

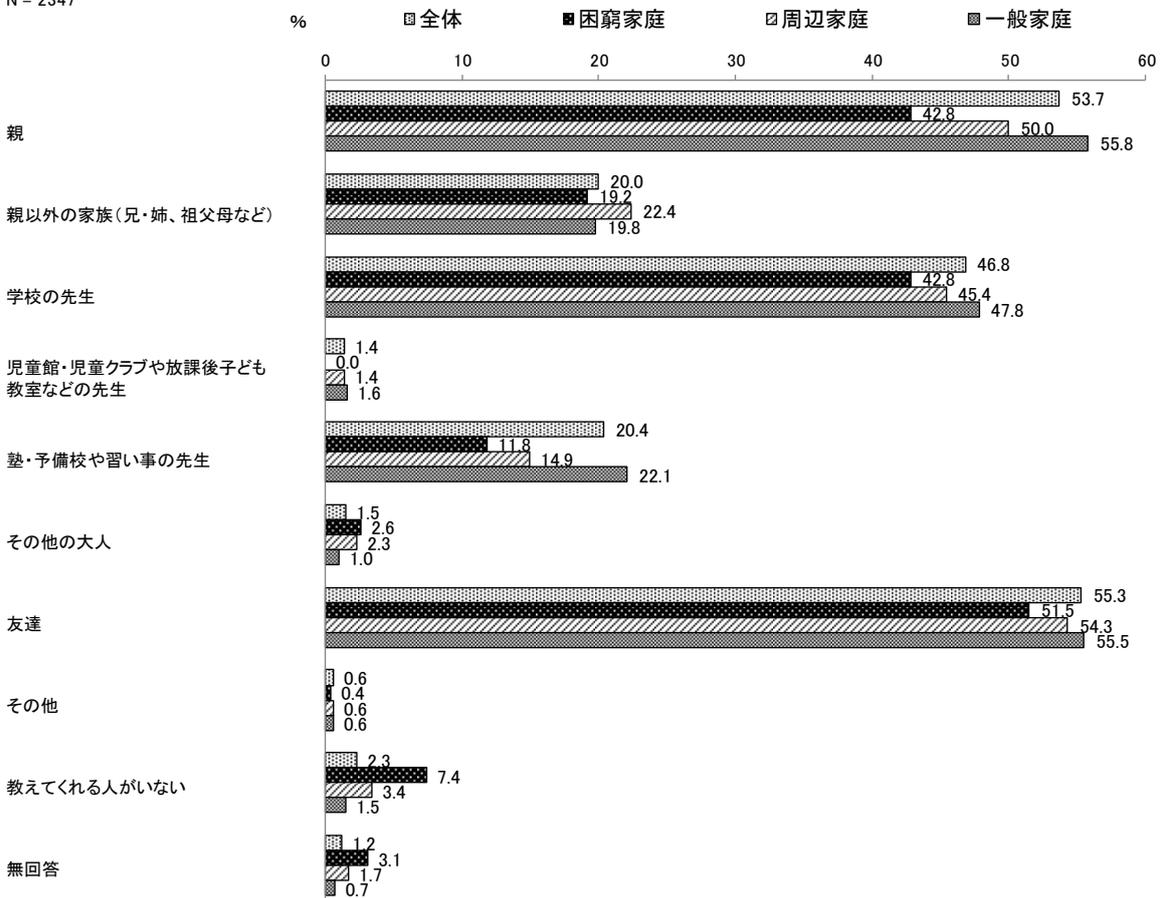
問23 勉強を教えてもらう相手[%・複数回答]



[参考: 前回調査結果]

(H29調査)  
N = 2347

問32 勉強を教えてもらう相手[%・複数回答]



#### ④希望の進学先(小学5年・中学2年のみ)

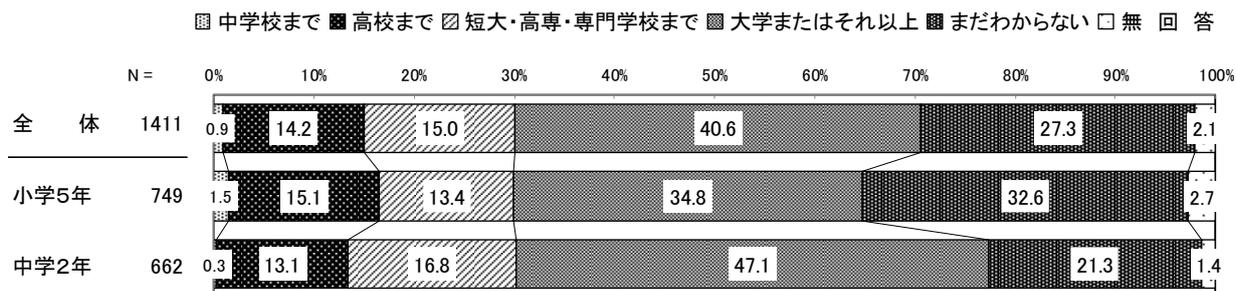
##### 問 24 あなたは、将来どの学校まで行きたいと思いますか。(小学5年・中学2年のみ)

小学5年と中学2年の希望の進学段階は、「大学またはそれ以上」が 40.6%、「まだわからない」が 27.3%、「短大・高専・専門学校」が 15.0%、「高校まで」が 14.2%、「中学まで」が 0.9%となっている。

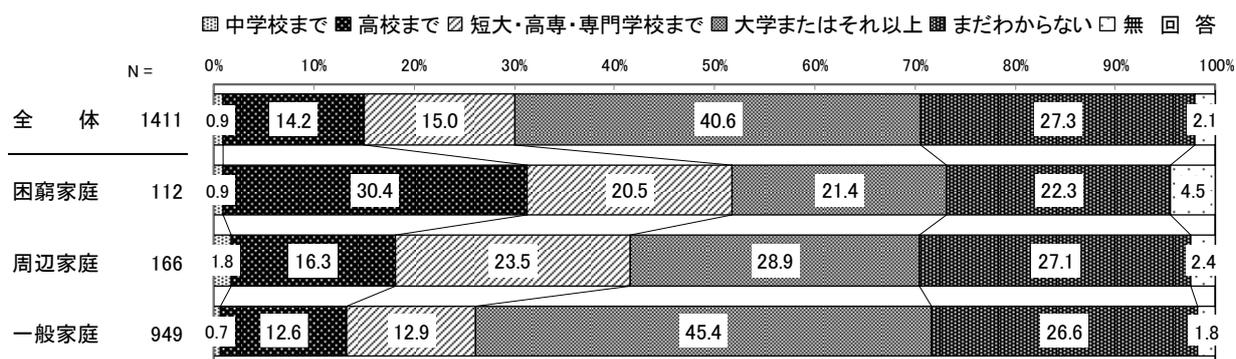
学年別では、小学5年は「大学またはそれ以上」が 34.8%、「まだわからない」が 32.6%と同程度となっており、中学2年は「大学またはそれ以上」が 47.1%となっている。

生活困窮度別では、「大学またはそれ以上」の回答割合は、一般家庭で 45.4%、周辺家庭で 28.9%、困窮家庭で 21.4%となっている。

問24 希望の進学段階[%]

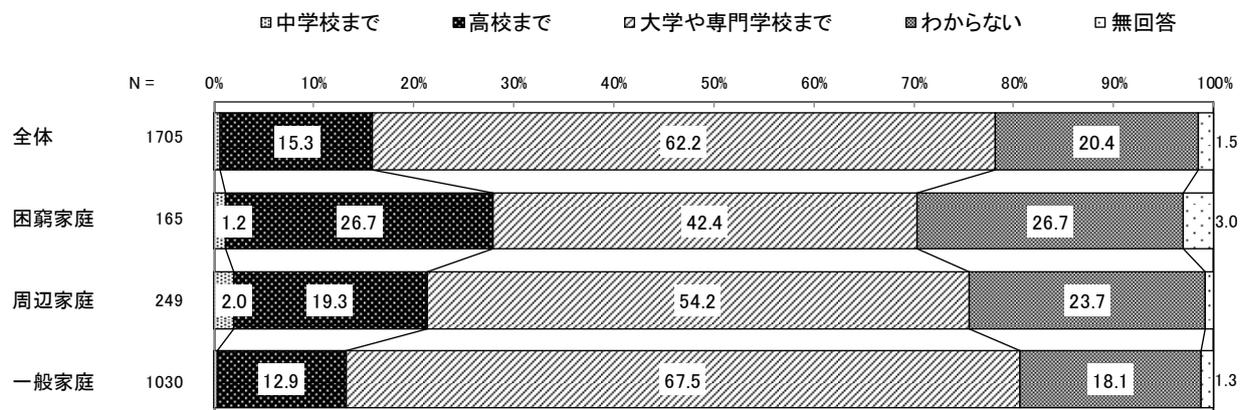


問24 希望の進学段階[%]



#### [参考: 前回調査結果]

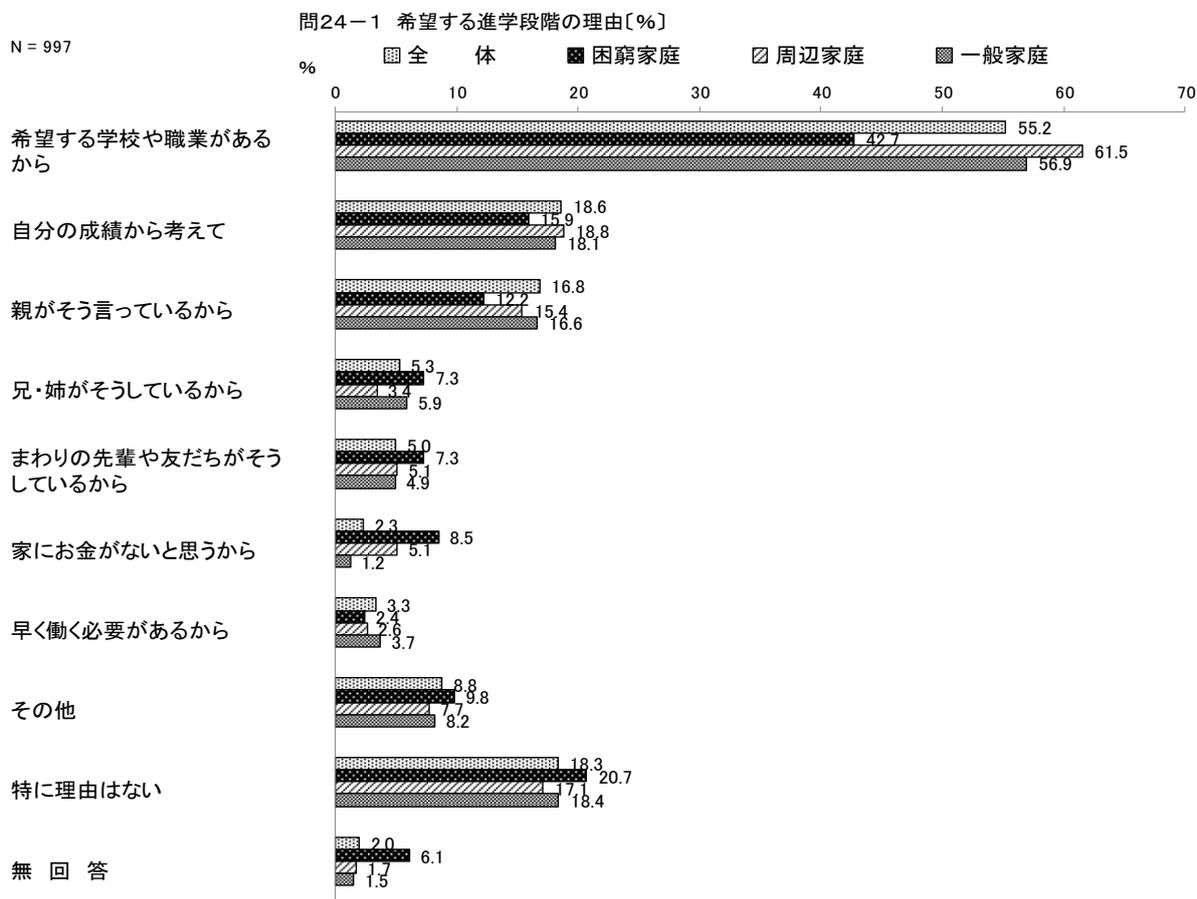
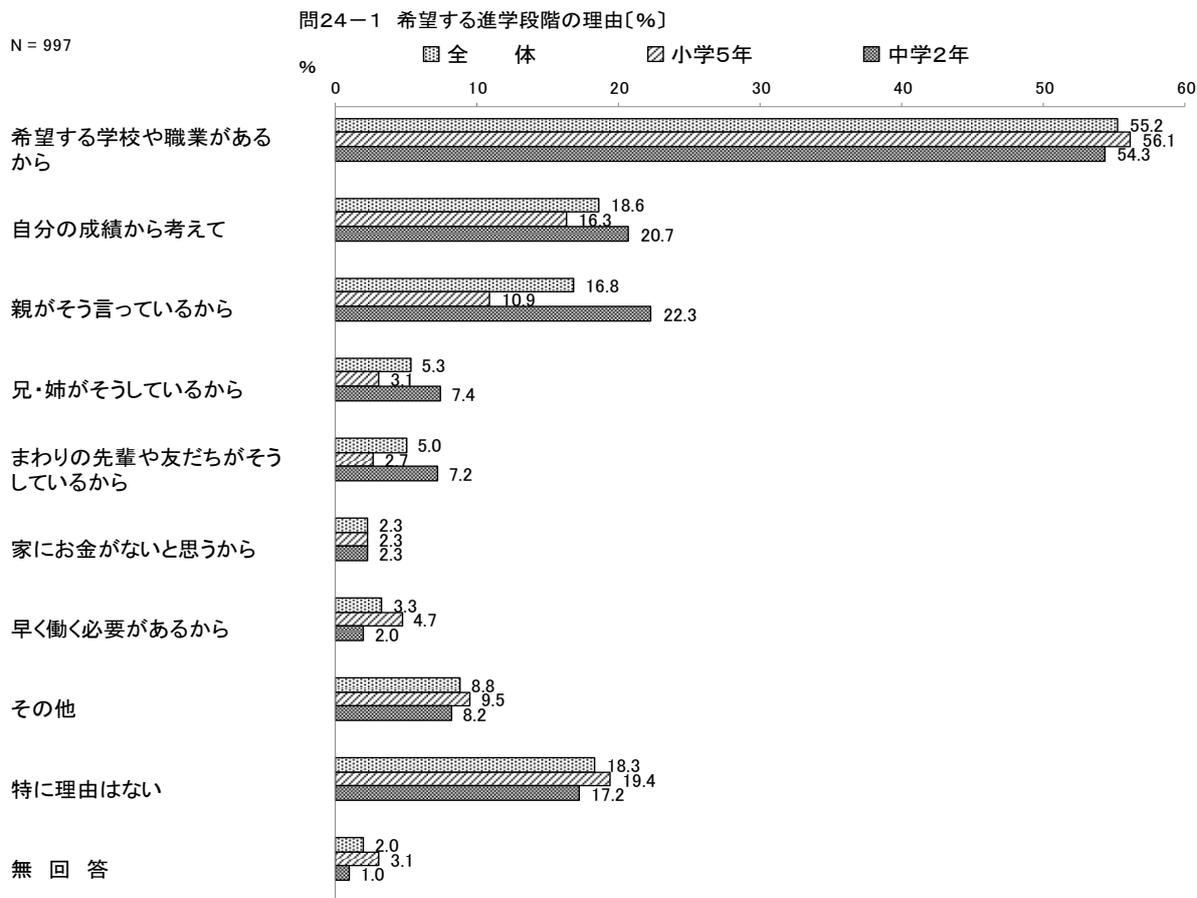
(H29調査) 希望進学段階[%]



問 24-1 前問で1～4と答えた場合、その理由を教えてください。(小学5年・中学2年のみ)

希望する進学段階の理由は、「希望する学校や授業があるから」が55.2%で最も多い。

生活困窮度別では、困窮家庭で「希望する学校や授業があるから」が他の区分に比べて少ない。



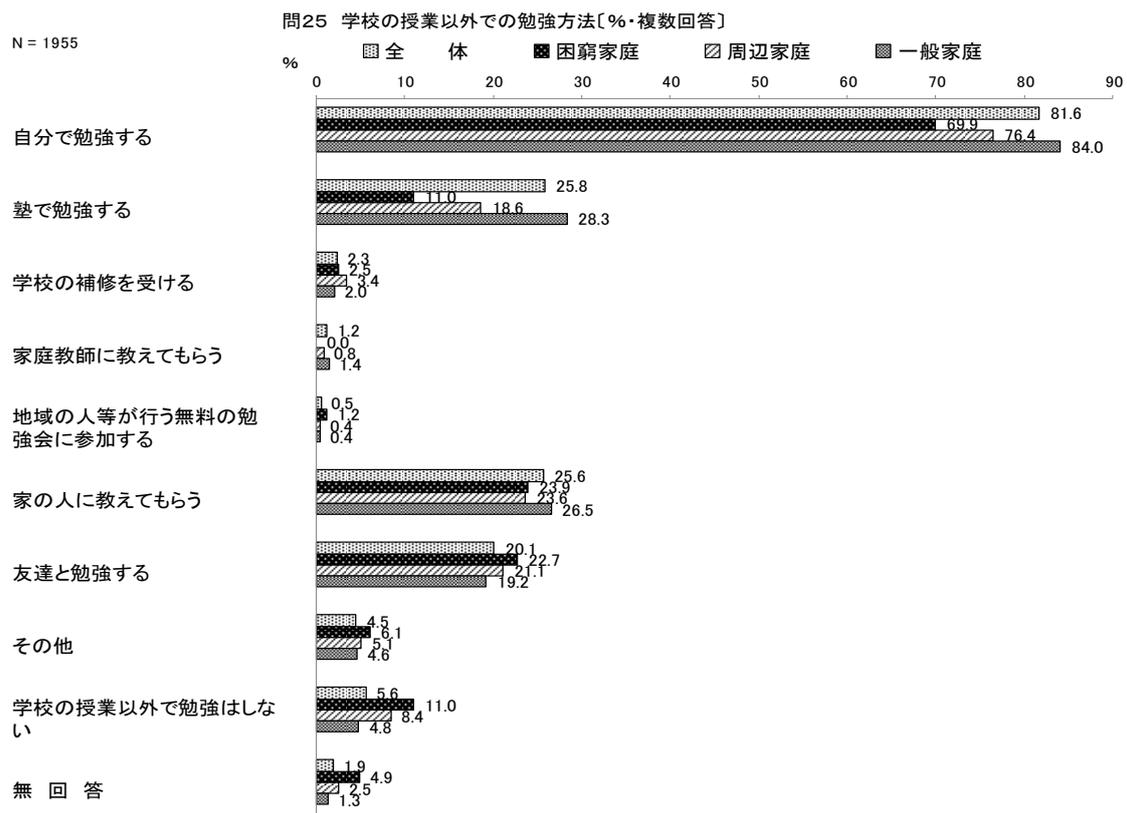
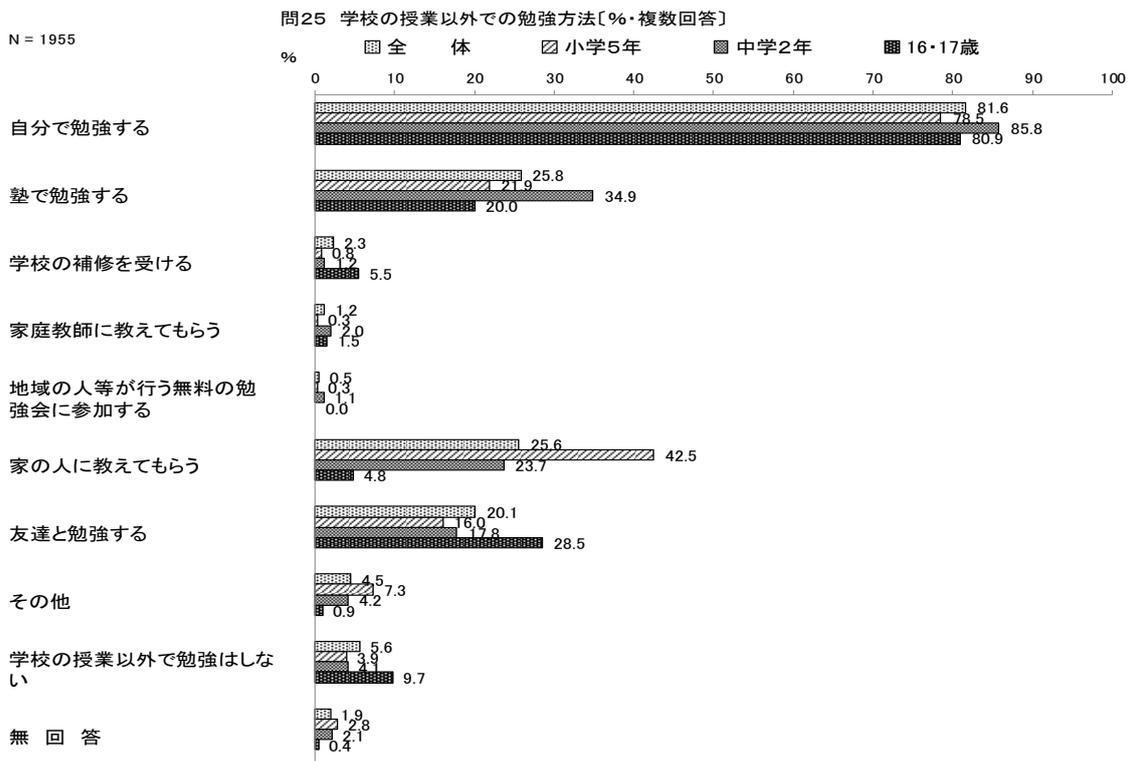
## ⑤勉強時間・成績等

問 25 あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。

学校の授業以外での勉強方法は、「自分で勉強する」が 81.6%と多く、「塾で勉強する」、「家の人に教えてもらう」、「友達と勉強する」がそれぞれ 20%台回答されている。

学年別では、小学5年で「家の人に教えてもらう」が 42.5%、中学2年で「塾で勉強する」が 34.9%、16・17 歳で「友達と勉強する」が 28.5%と他の学年より多い。

生活困窮度別では、困窮家庭で「塾で勉強する」が 11.0%と他の区分よりも少ない一方、「学校の授業以外で勉強はしない」が 11.0%と他の区分よりもやや多い。

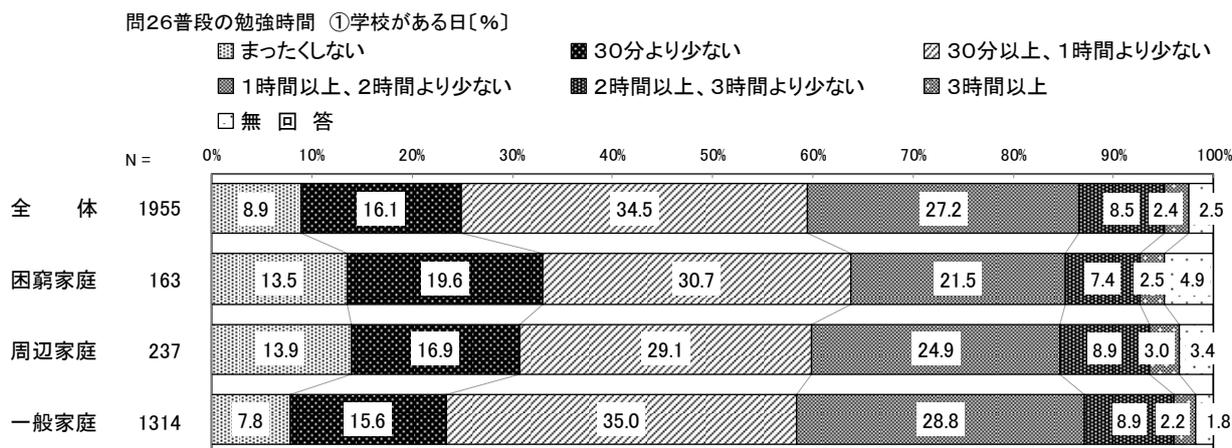
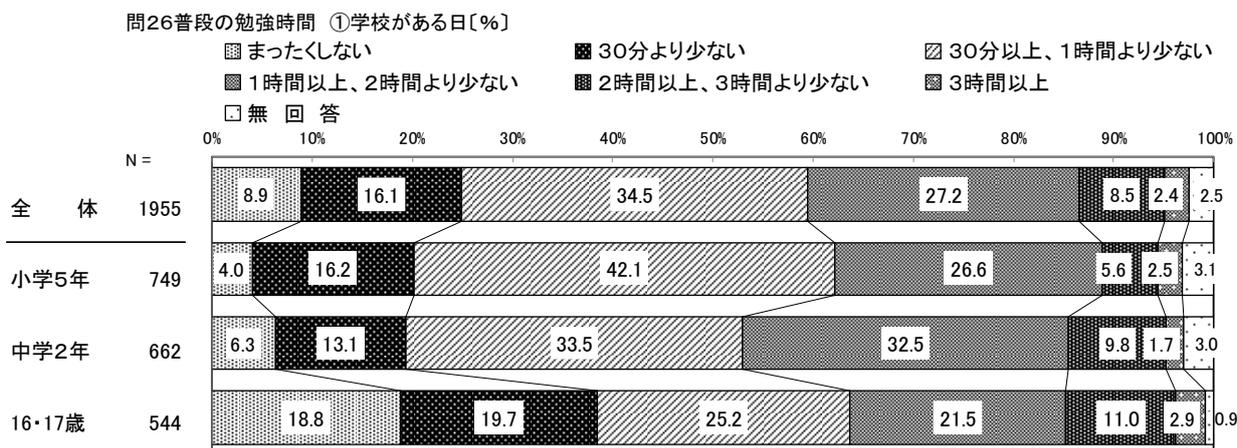


問 26 あなたは、ふだん、学校の授業以外にどれくらいの時間、勉強をしますか。1日あたりの勉強時間を教えてください。

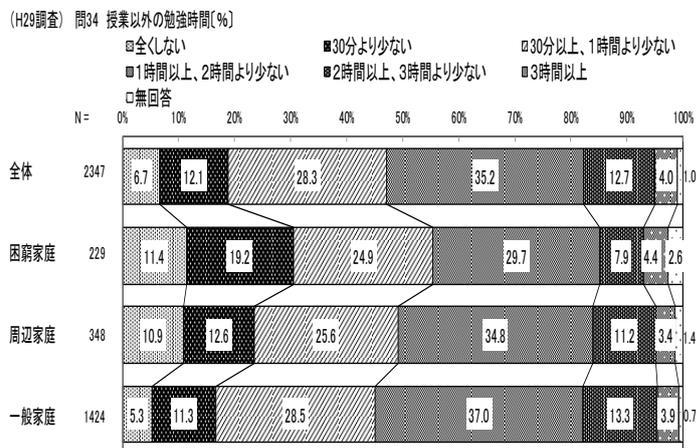
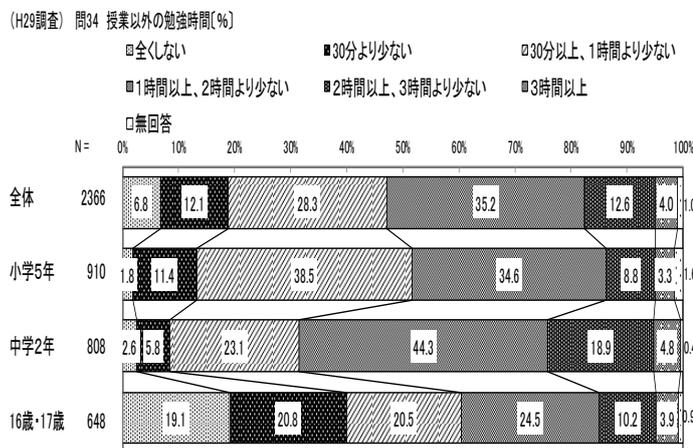
1) 平日（学校がある日）（小学5年、中学2年、16・17歳）

平日（学校がある日）の勉強時間は、「30分以上、1時間より少ない」が34.5%と最も多く、「1時間以上、2時間より少ない」が27.2%、「30分より少ない」が16.1%、「まったくしない」が8.9%となっている。

学年別では、「まったくしない」が小学5年で4.0%、中学2年で6.3%の一方、16・17歳が18.8%と他の学年よりも多い。



[参考: 前回調査結果]

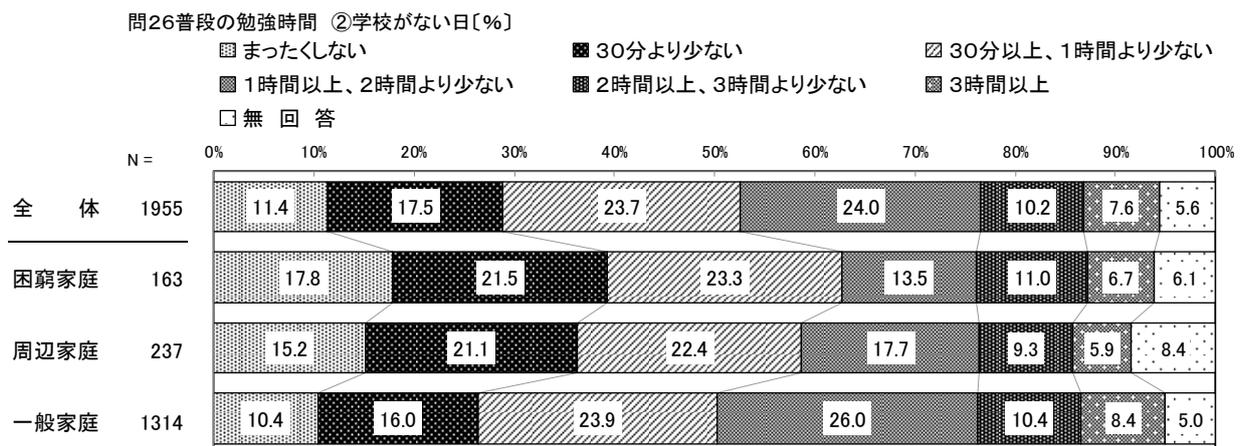
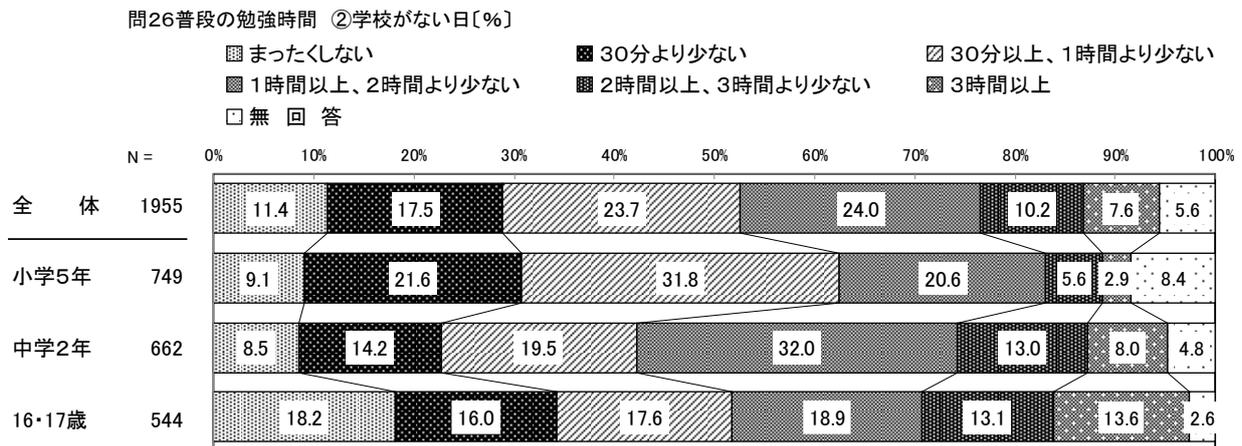


2) 休日(学校がお休みの日)(小学5年、中学2年、16・17歳)

休日(学校がお休みの日)の勉強時間は、「1時間以上、2時間より少ない」が24.0%、「30分以上、1時間より少ない」が23.7%、「30分より少ない」17.5%、「まったくしない」11.4%となっている。

学年別では、小学5年は「30分以上、1時間より少ない」が31.8%、中学2年は「1時間以上、2時間より少ない」が32.0%、16・17歳は「まったくしない」が18.2%、「3時間以上」が13.6%でそれぞれ他の学年より多い。

生活困窮度別では、「まったくしない」が一般家庭で10.4%に比べて、周辺家庭で15.2%、困窮家庭で17.8%とやや多くなっている。



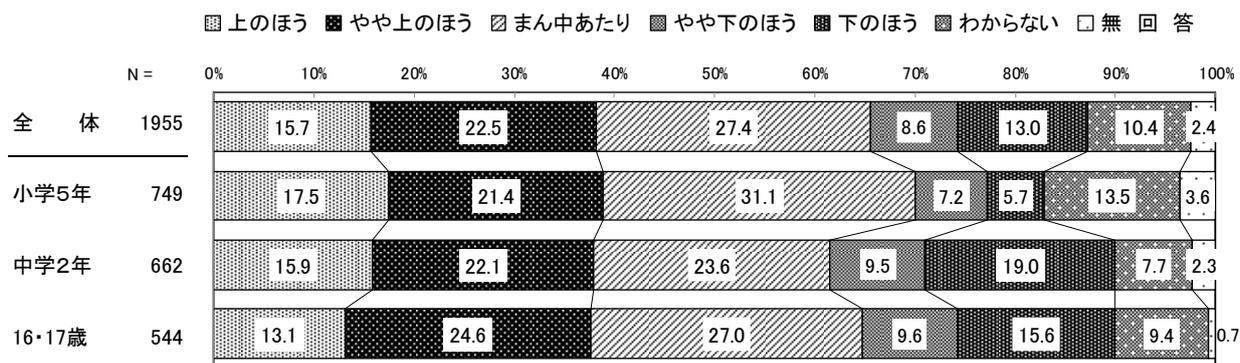
問 27 あなたの成績は、クラスの中でどれくらいだと思いますか。

クラス内での成績は、「まん中あたり」が27.4%と最も多く、次いで「やや上のほう」が22.5%、「上のほう」が15.7%が多い。

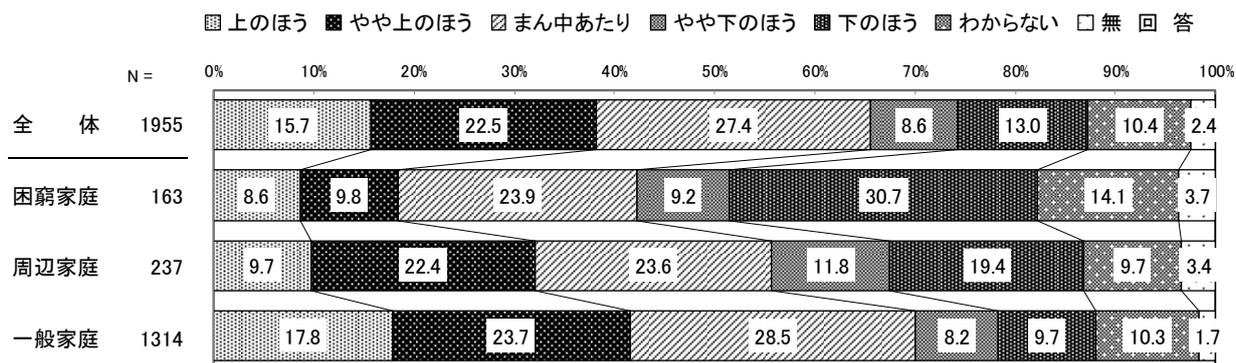
学年別では、小学5年で「まん中あたり」が31.1%、中学2年と16・17歳で「下のほう」がそれぞれ19.0%、15.6%と他の学年に比べて多い。

生活困窮度別では、『上のほう』（「上のほう」と「やや上のほう」の計）と回答した割合は、一般家庭で41.5%、周辺家庭で32.1%、困窮家庭で18.4%となっており、各区分で差が見られる。

問27 クラス内での成績[%]



問27 クラス内での成績[%]



## (7)子どもの心身の状態(小学1年以外)

### ①自己肯定感・今の気持ち

問 28 あなたの思いや気持ちについて教えてください。

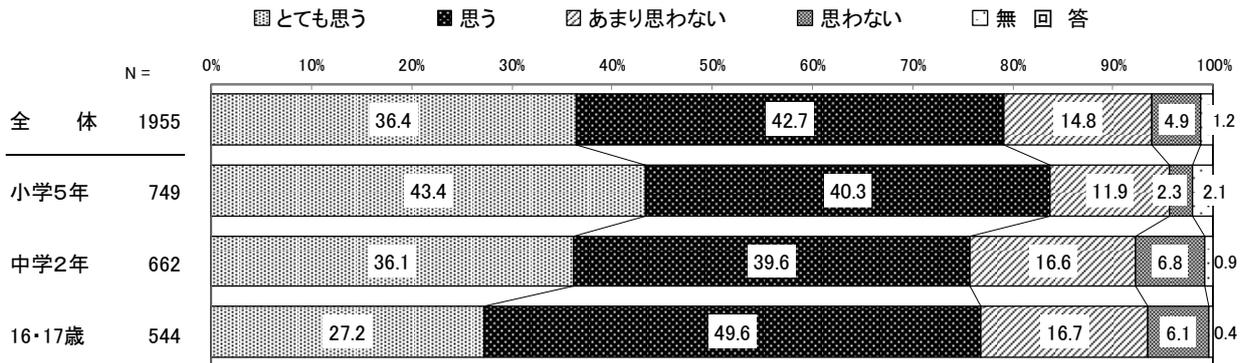
[自己肯定感]

#### 1) 頑張れば、報われると思う

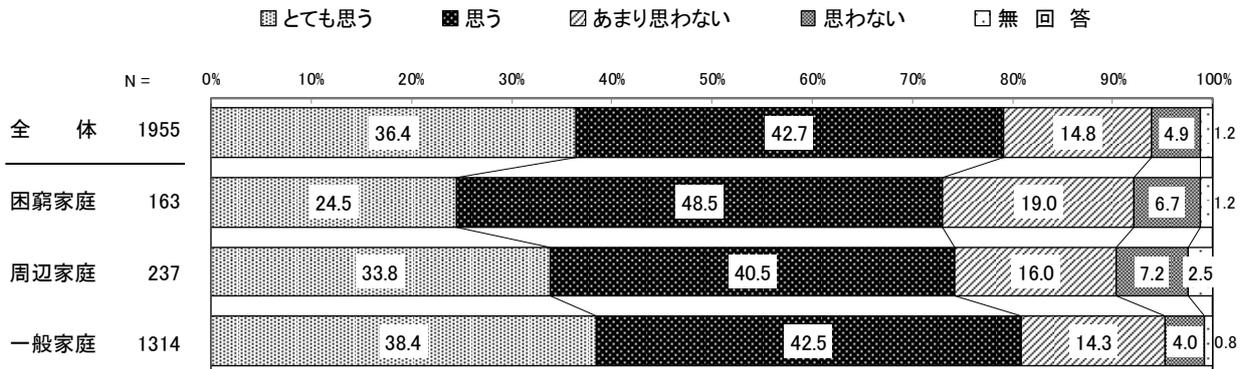
頑張れば、報われるかについて、『思う』(「とても思う」と「思う」の計)が 79.1%、『思わない』(「あまり思わない」と「思わない」の計)が 19.7%となっている。

学年別では、「とても思う」が小学5年で 43.4%だが、学年が上がると少なくなり、16・17 歳は 27.2%である。前回と比べて、若干の増減はあるものの、回答状況で大きな変化はなかった。

問28自身の気持ち ①頑張れば、むくわれる[%]

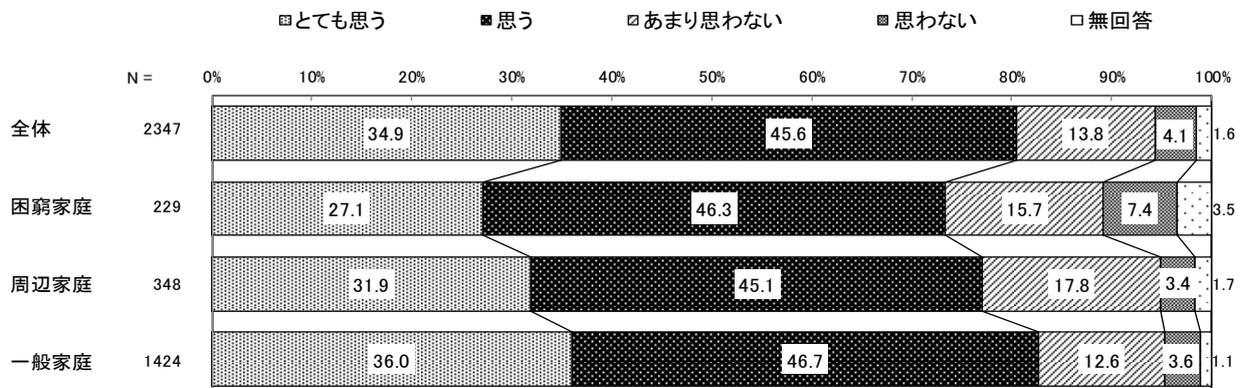


問28自身の気持ち ①頑張れば、むくわれる[%]



[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 頑張れば、報われると思う[%]

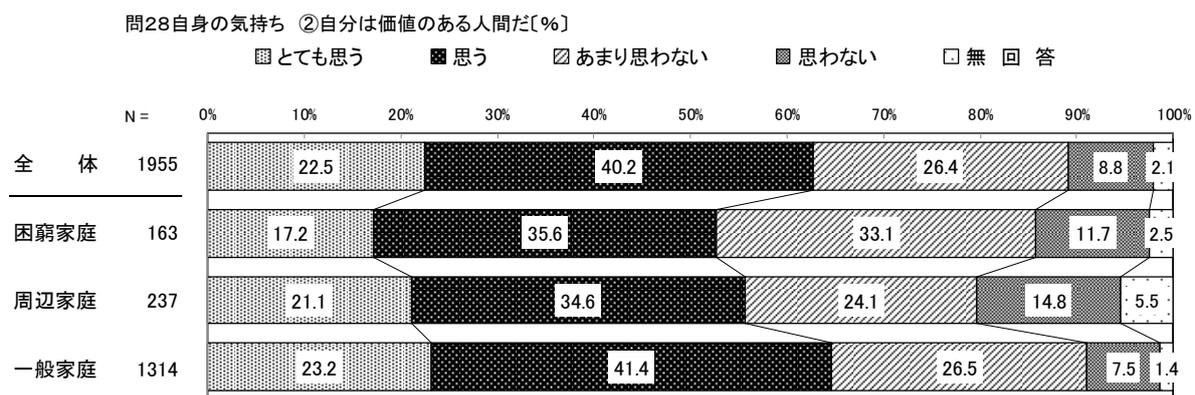
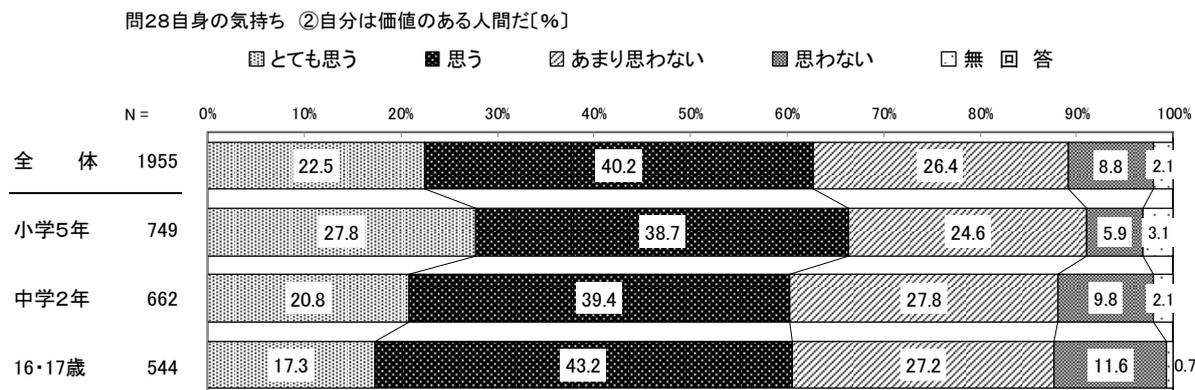


## 2) 自分は価値のある人間だと思う

自分は価値のある人間だと思うかについて、『思う』(「とても思う」と「思う」の計)が 62.7%、『思わない』(「あまり思わない」と「思わない」の計)が 35.2%となっている。

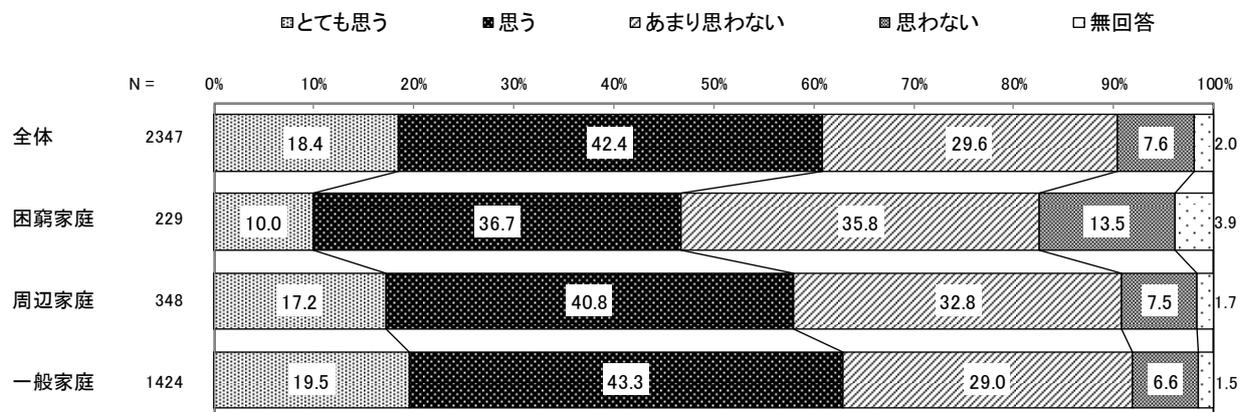
学年別では、「とても思う」が小学5年で 27.8%だが、学年が上がると少なくなり、16・17 歳は 17.3%である。

生活困窮度別では、『思う』が周辺家庭で 55.7%、困窮家庭で 52.8%と一般家庭の 64.6%に比べて少ない。前回と比べて、困窮家庭で「とても思う」が多くなったが、周辺家庭で「思わない」が多くなっている。



### [参考: 前回調査結果]

(H29調査) 自分は価値のある人間だと思う[%]

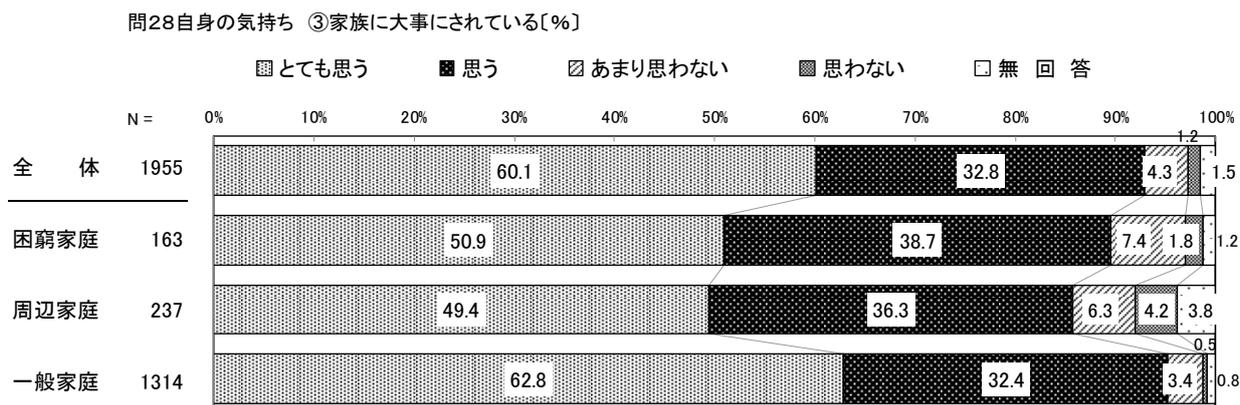
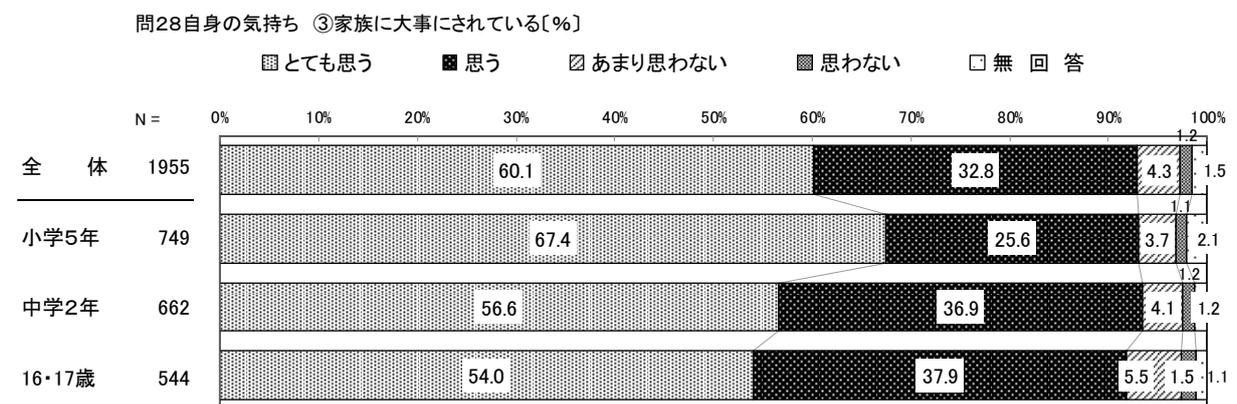


### 3) 自分は家族に大事にされていると思う

自分は家族に大事にされていると思うかについて、『思う』(「とても思う」と「思う」の計)が 92.9%、『思わない』(「あまり思わない」と「思わない」の計)が 5.5%となっている。

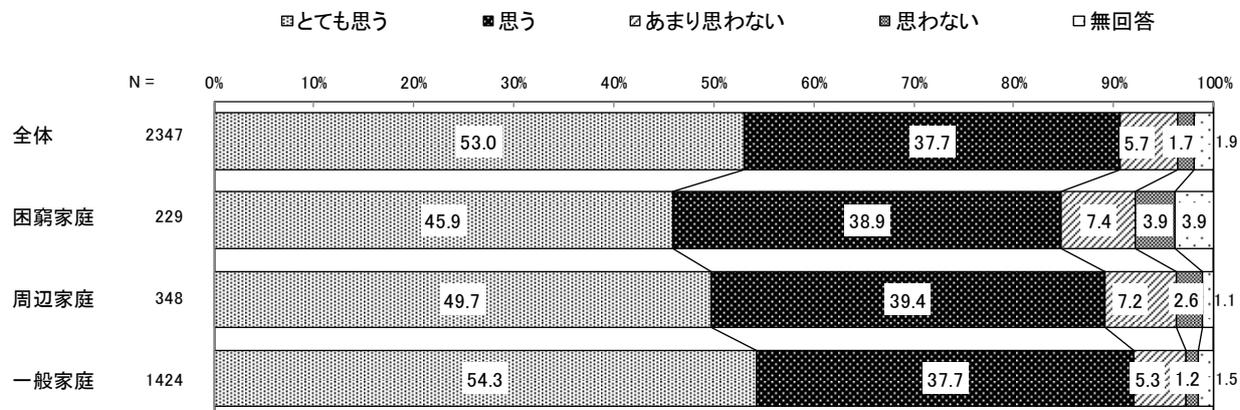
学年別では、「とても思う」が小学5年で 67.4%だが、学年が上がると少なくなり、16・17 歳で 54.0%である。

生活困窮度別では、周辺家庭と困窮家庭で「とても思う」がそれぞれ 50%前後と、一般家庭の 62.8%に比べて少ない。前回と比べて、「とても思う」は一般家庭で少なくなった一方、困窮家庭で多くなっている。



#### [参考: 前回調査結果]

(H29調査) 自分は家族に大事にされていると思う[%]



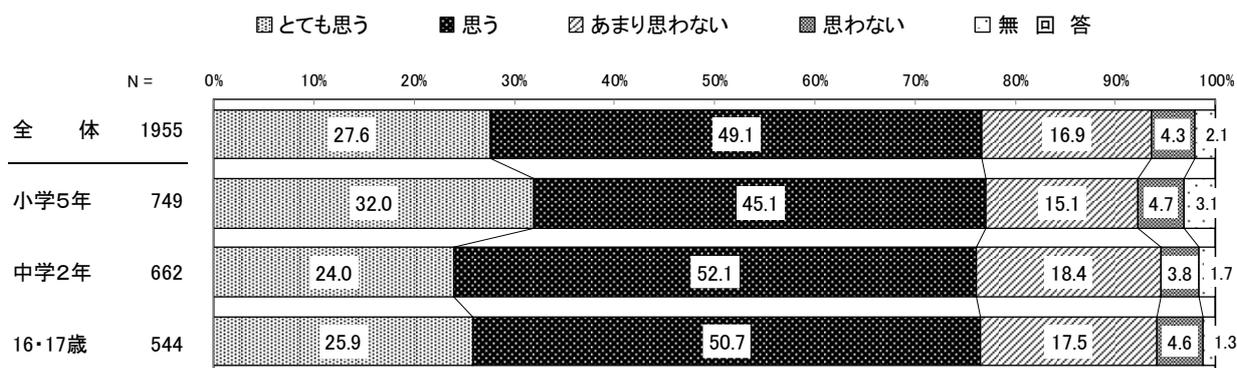
#### 4) 自分は友達に好かれていると思う

自分は友達に好かれていると思うかについて、『思う』(「とても思う」と「思う」の計)が 76.7%、『思わない』(「あまり思わない」と「思わない」の計)が 21.2%となっている。

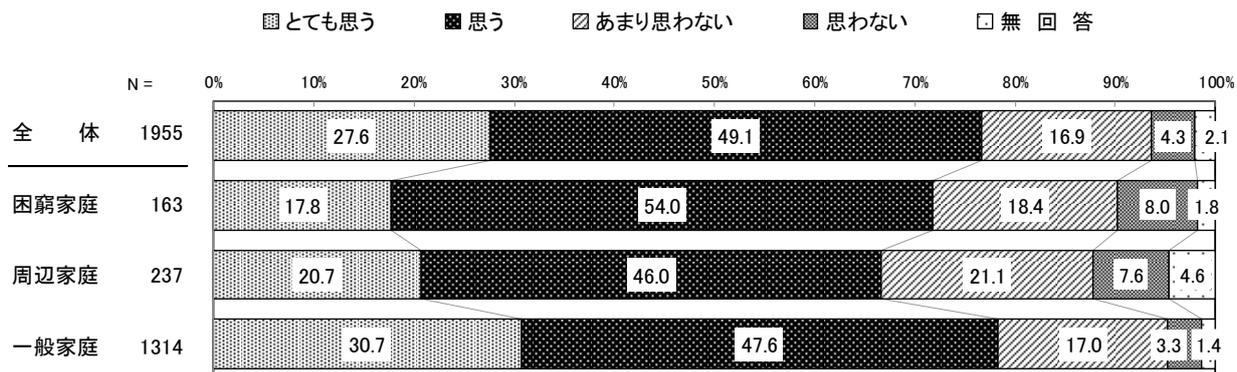
学年別では、「とても思う」は小学5年生が 32.0%で最も多く、他の学年では 25%前後となっている。

生活困窮度別では、周辺家庭と困窮家庭で「とても思う」が 20%前後で、一般家庭の 30.7%に比べて少ない。前回と比べて、一般家庭で「とても思う」、困窮家庭で「思う」の割合が多くなったが、「思わない」は生活困難家庭で多くなっている。

問28自身の気持ち ④友達に好かれている[%]

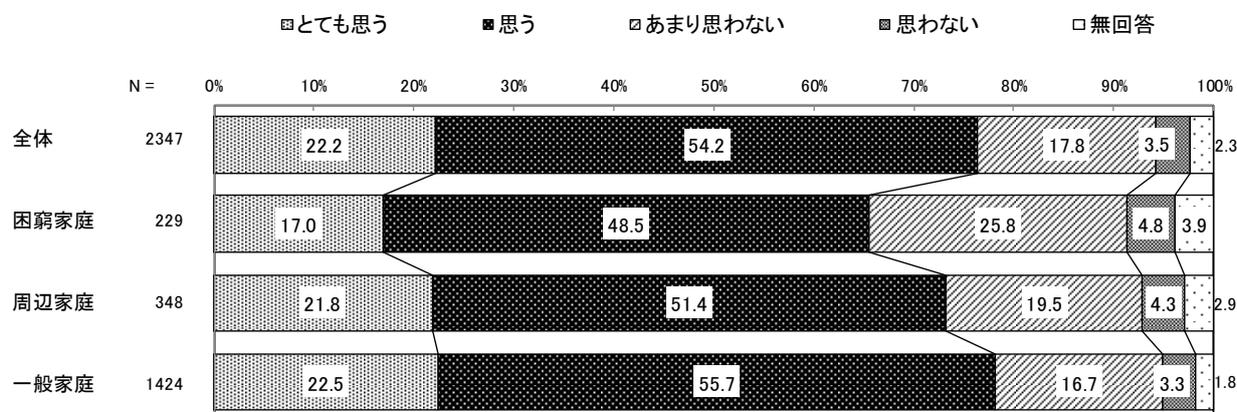


問28自身の気持ち ④友達に好かれている[%]



#### [参考: 前回調査結果]

(H29調査) 自分は友達に好かれていると思う[%]



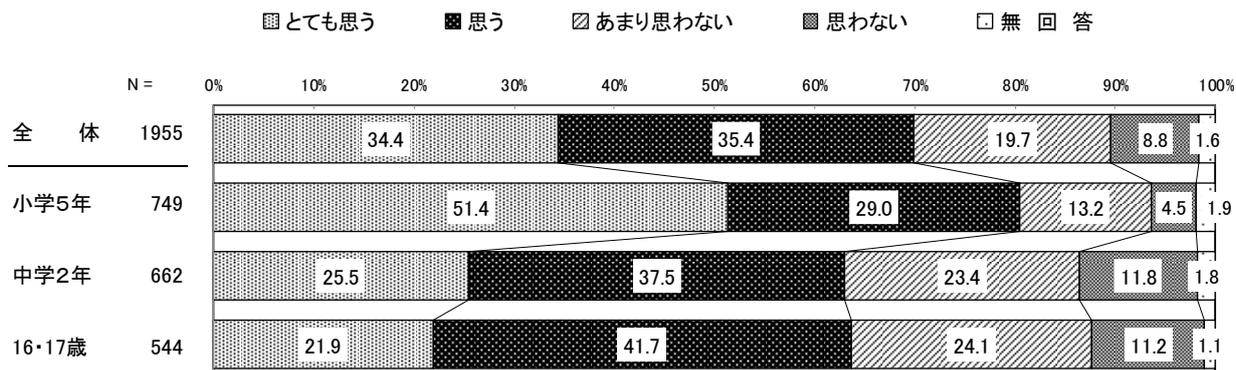
### 5) 自分の将来が楽しみだ

自分の将来が楽しみだと思うかについて、『思う』(「とても思う」と「思う」の計)が69.8%、『思わない』(「あまり思わない」と「思わない」の計)が28.5%となっている。

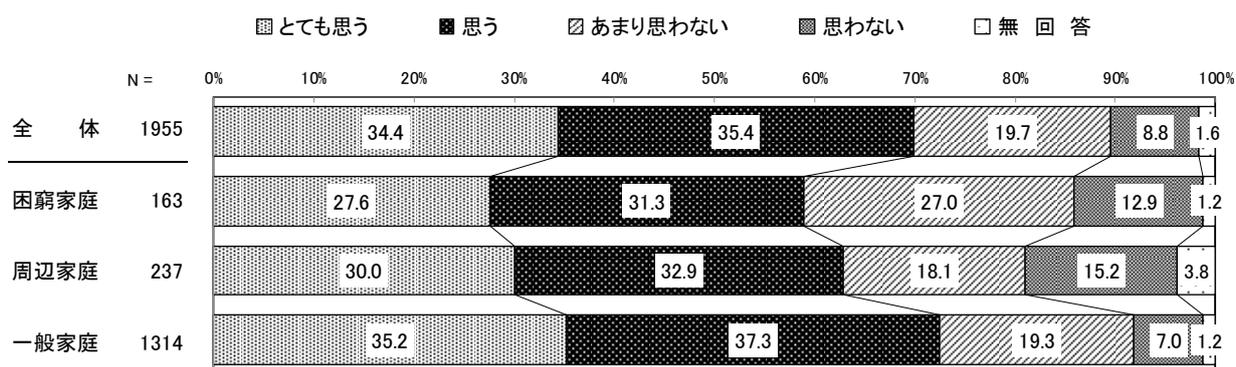
学年別では、『思う』は小学5年で80.4%だが、学年が上がると少なくなり、中学2年で63.0%、16・17歳は63.6%である。

生活困窮度別では、『思う』と回答した割合が困窮家庭で58.9%、周辺家庭で62.9%と、一般家庭の72.5%に比べて少ない。前回と比べて、困窮家庭と周辺家庭は『思う』が少なくなり、周辺家庭では『思わない』が多くなっている。

問28自身の気持ち ⑤自分の将来が楽しみだ[%]

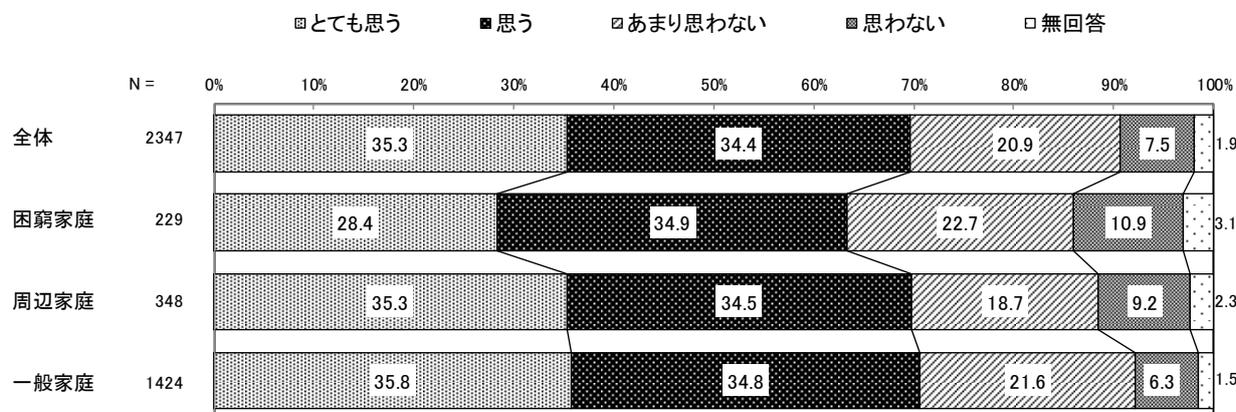


問28自身の気持ち ⑤自分の将来が楽しみだ[%]



### [参考: 前回調査結果]

(H29調査) 自分の将来が楽しみだ[%]



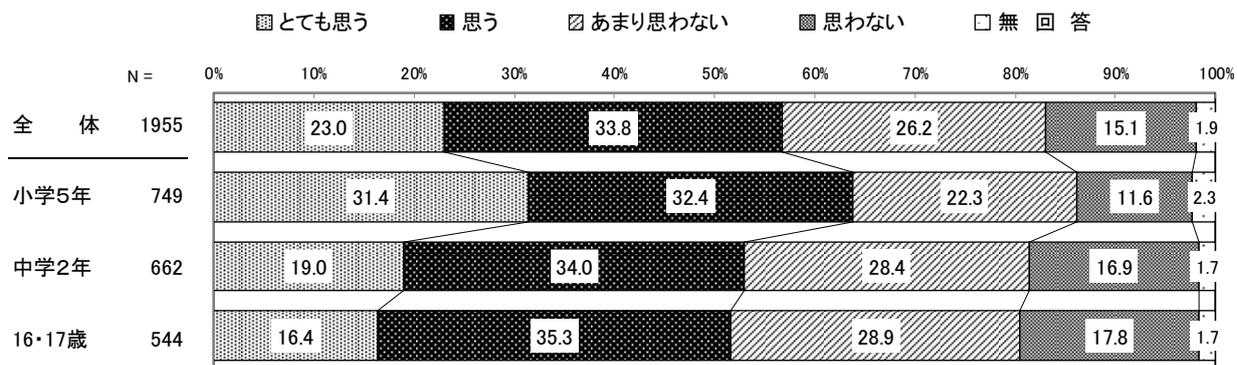
## 6) 自分のことが好きだ

自分のことが好きだと思うかについて、『思う』(「とても思う」と「思う」の計)が 56.8%、『思わない』(「あまり思わない」と「思わない」の計)が 41.3%である。

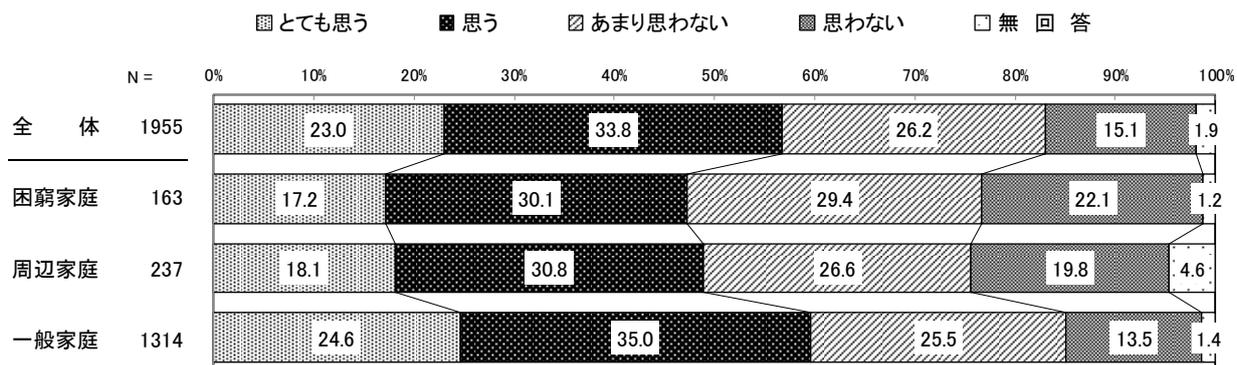
学年別では「とても思う」が小学5年で 31.4%だが、学年が上がると少なくなり、16・17 歳で 16.4%である。

生活困窮度別では、周辺家庭と困窮家庭で『思う』が48%前後と、一般家庭の 59.6%と比べて少ない。前回と比べて、困窮家庭で「とても思う」が多くなっている。

問28自身の気持ち ⑥自分のことが好きだ〔%〕

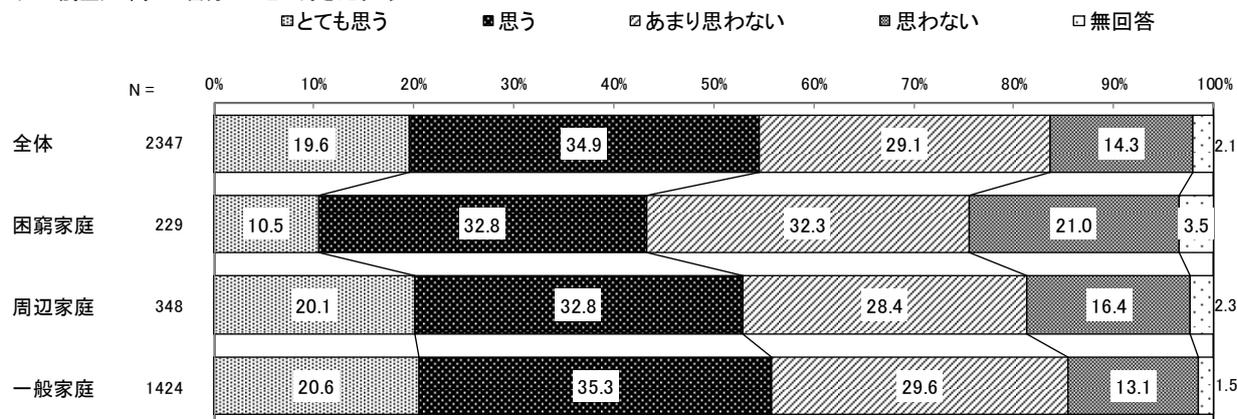


問28自身の気持ち ⑥自分のことが好きだ〔%〕



### [参考: 前回調査結果]

(H29調査) 問35 自分のことが好きだ〔%〕



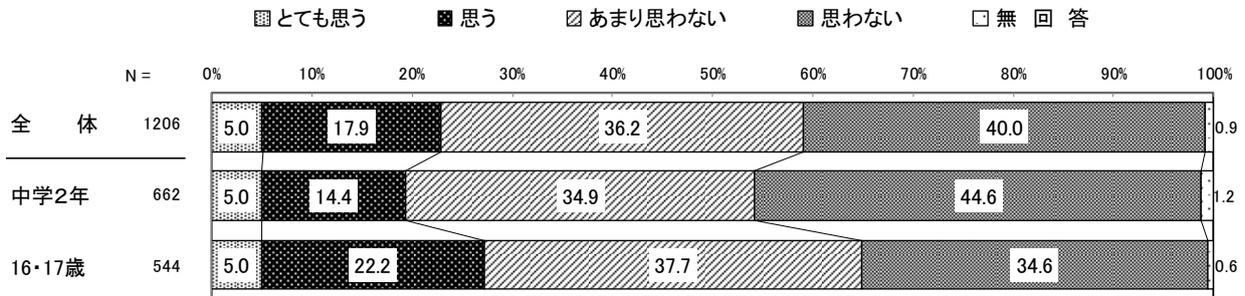
[孤独感]

孤独を感じると思うかについて、『思う』(「とても思う」と「思う」の計)が 22.9%、『思わない』(「あまり思わない」と「思わない」の計)が 76.2%である。

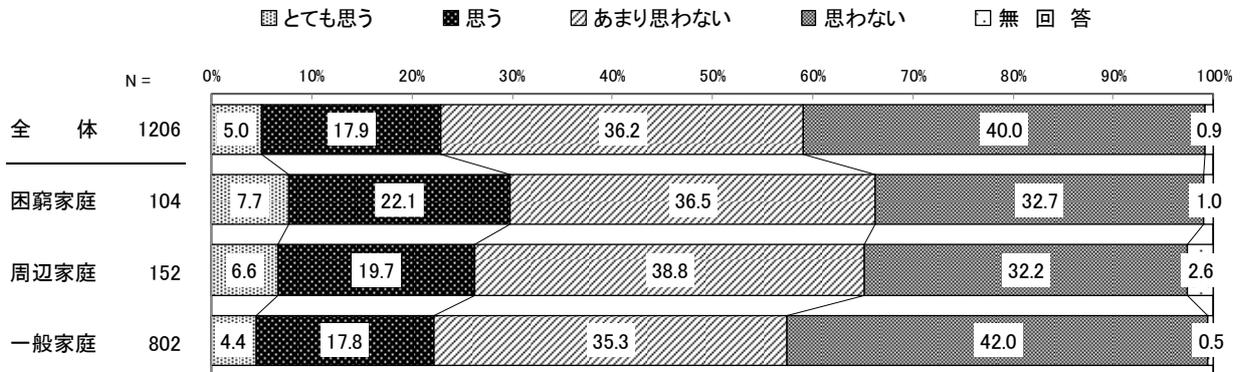
学年別では、中学2年は 19.4%、16・17 歳は 27.2%である。

生活困窮度別では、「とても思う」が生活困難家庭で一般家庭よりやや多く回答されている。

K問33自身の気持ち ⑦孤独を感じる[%]

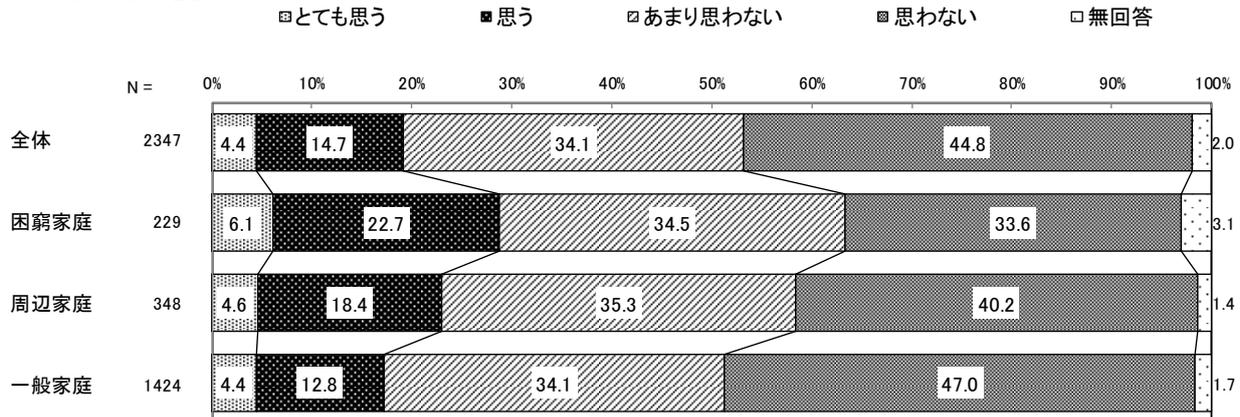


K問33自身の気持ち ⑦孤独を感じる[%]



[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 孤独を感じる[%]



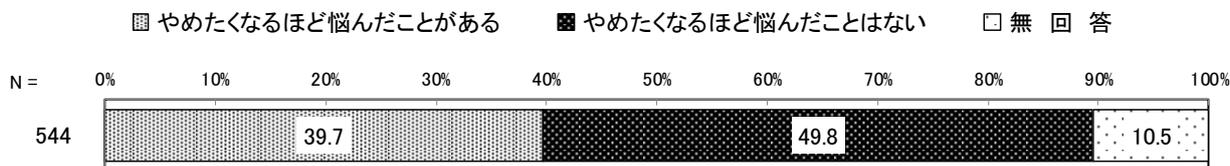
②今までにあったこと

K 問 34 あなたは、これまでに、以下のような理由で、学校をやめたくなるほど、悩んだことがありますか。その理由にあてはまるものがありましたら、すべて○をつけてください。(16・17 歳のみ)

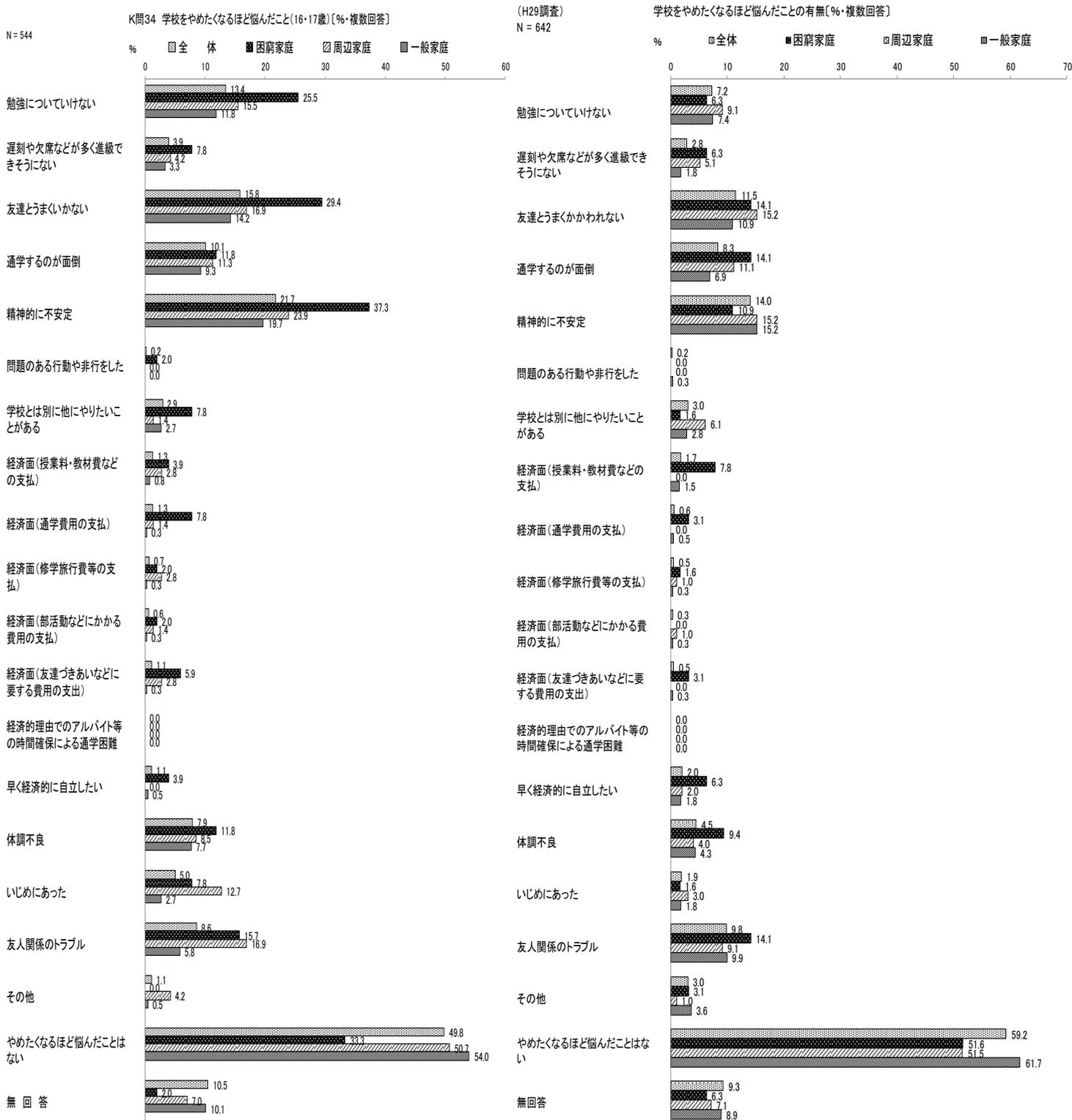
16・17 歳では、学校をやめたくなるほど悩んだことが「ある」が 39.7%、「ない」が 49.8%となっている。前回と比べて、「ある」の回答割合が多くなり、「ない」の回答割合が少なくなっている。「ある」を回答した理由としては「精神的に不安定」が 21.7%、「友達とうまくいかない」が 15.8%となっている。

生活困窮度別では、困窮家庭において「学校をやめたくなくなるほど悩んだことがない」の回答割合は、前回と比べて少なくなっているが、「精神的に不安定」や「友達とうまくいかない」が前回と比べて特になくなっている。

K問34 学校をやめたくなくなるほど悩んだこと(16・17歳)[%]



[参考: 前回調査結果]



問 29 学校に行きたくないと思ったことがありますか。(小学5年・中学2年)

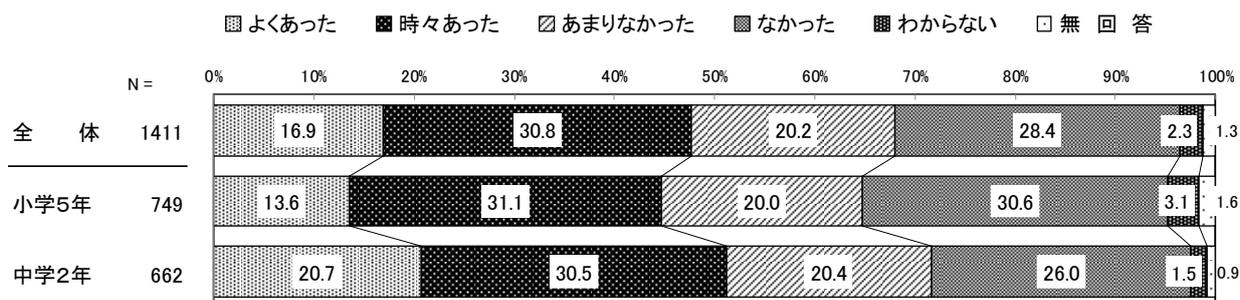
1) あなたは、学校に行きたくないと思った

小学5年と中学2年では、これまでに学校に行きたくないと思ったことが『あった』(「よくあった」と「時々あった」の計)は 47.7%、『なかった』(「あまりなかった」と「なかった」の計)48.6%となっている。前回と比べて、『あった』の割合が多くなり、『なかった』の割合が少なくなっている。

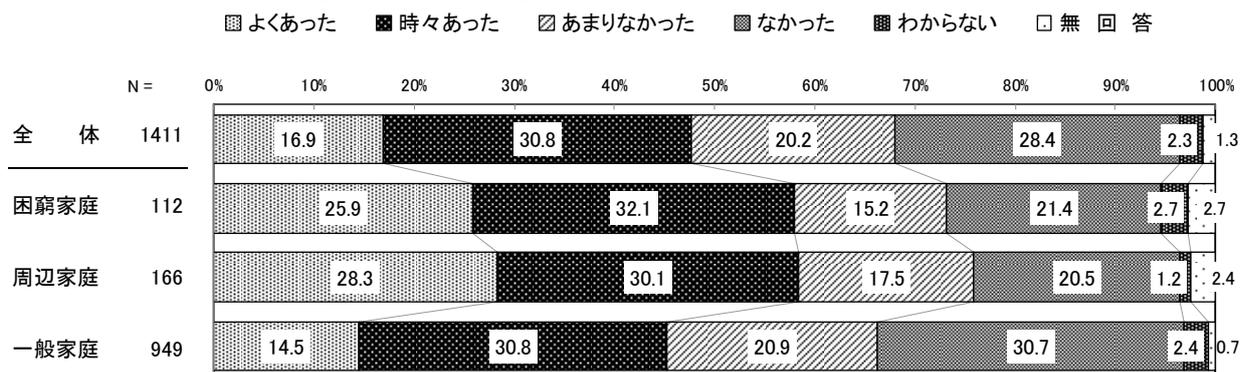
学年別では、小学5年と中学2年ともに『あった』の割合が多くなっている。

生活困窮度別では、前回と比べて、『あった』と回答した割合はどの区分でも多くなっているが、一般家庭と周辺家庭で特に多くなっている。

問29これまでのこと ①学校に行きたくないと思った[%]

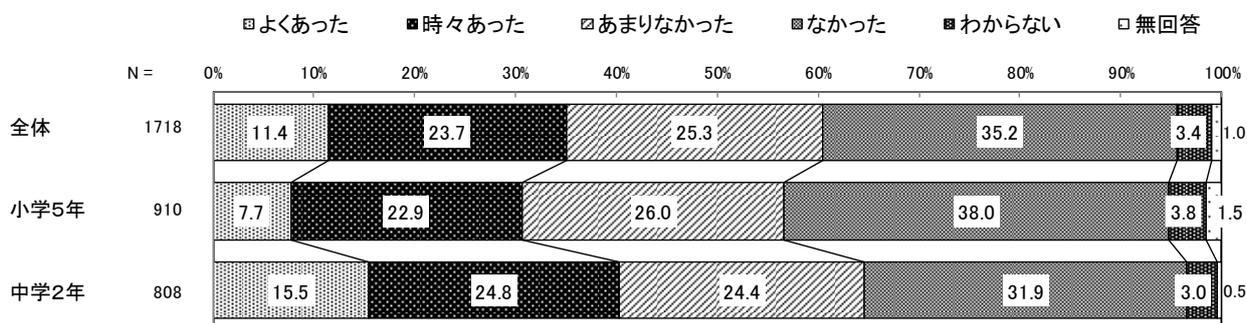


問29これまでのこと ①学校に行きたくないと思った[%]

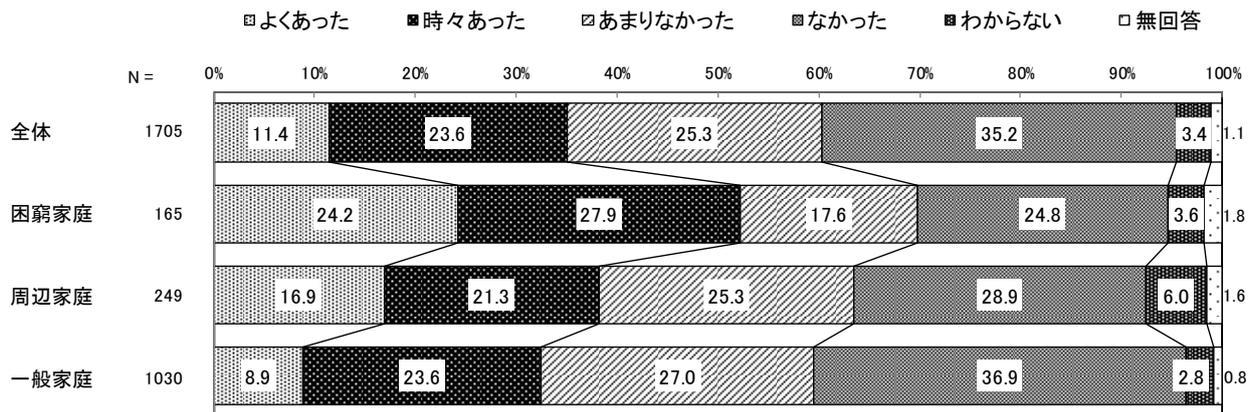


[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 学校に行きたくないと思った[%]



(H29調査) 学校に行きたくないと思った[%]

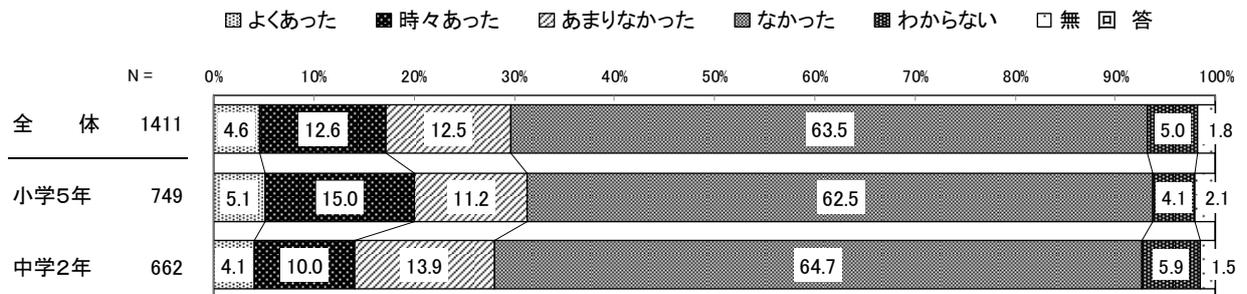


## 2) いじめられた

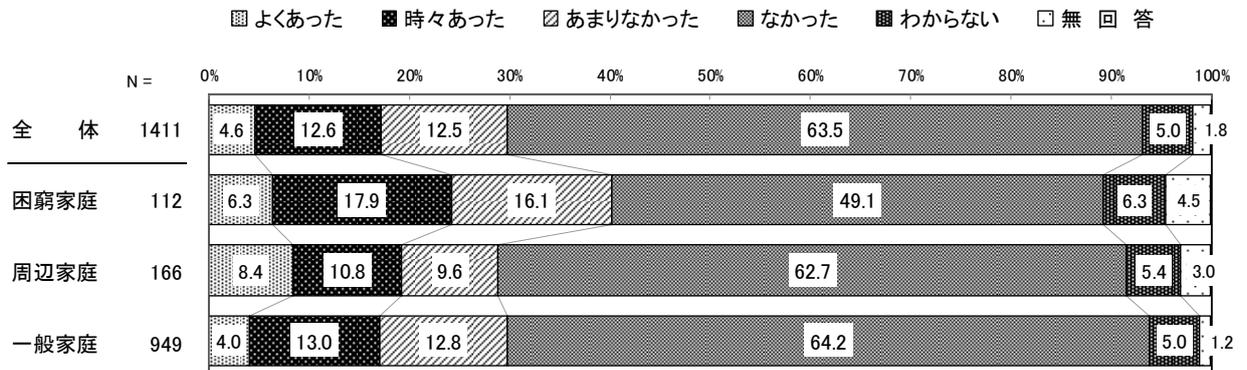
いじめられた経験について、『あった』(「よくあった」と「時々あった」の計)が 17.2%、『なかった』(「あまりなかった」と「なかった」の計)が 76.0%である。

学年別では、『あった』と回答した割合は、各学年で前回よりも多くなっている。

問29これまでのこと ②いじめられた[%]

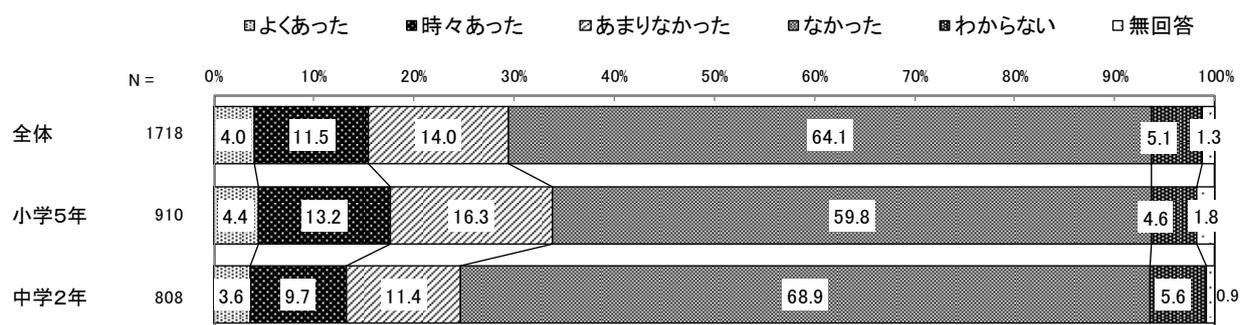


問29これまでのこと ②いじめられた[%]



### [参考: 前回調査結果]

(H29調査) 問37 いじめられた[%]

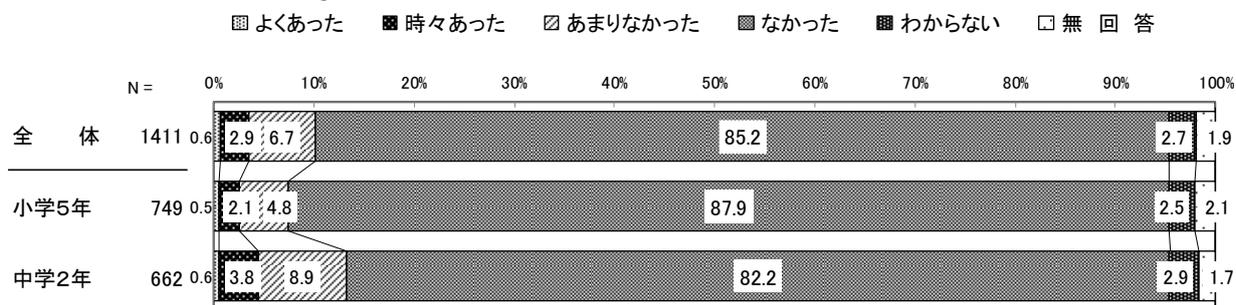


### 3) 夜遅くまで子どもだけで過ごした

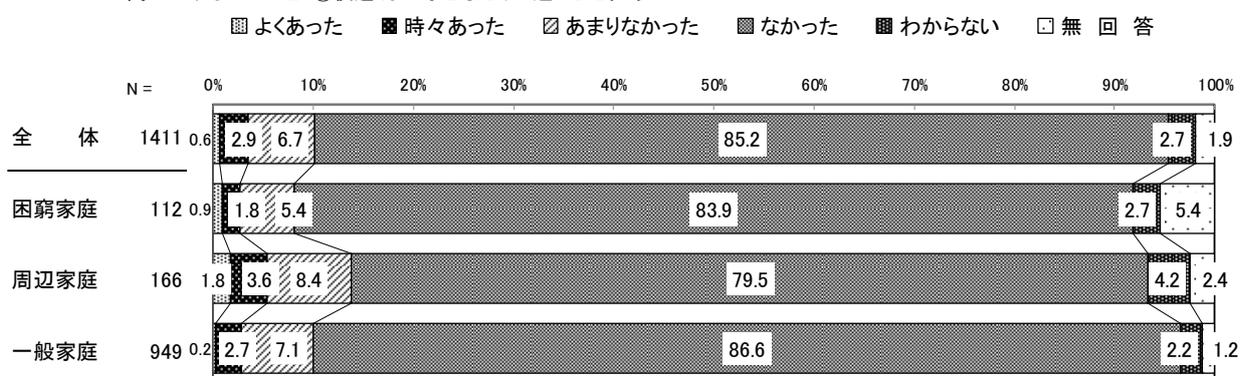
夜遅くまで子どもだけで過ごした経験について、『あった』(「よくあった」と「時々あった」の計)が3.5%で、『なかった』(「あまりなかった」と「なかった」の計)が91.9%となっている。

学年別で前回と比べて、各学年とも『あった』の割合が少なくなっている。

問29これまでのこと ③夜遅くまで子どもだけで過ごした[%]

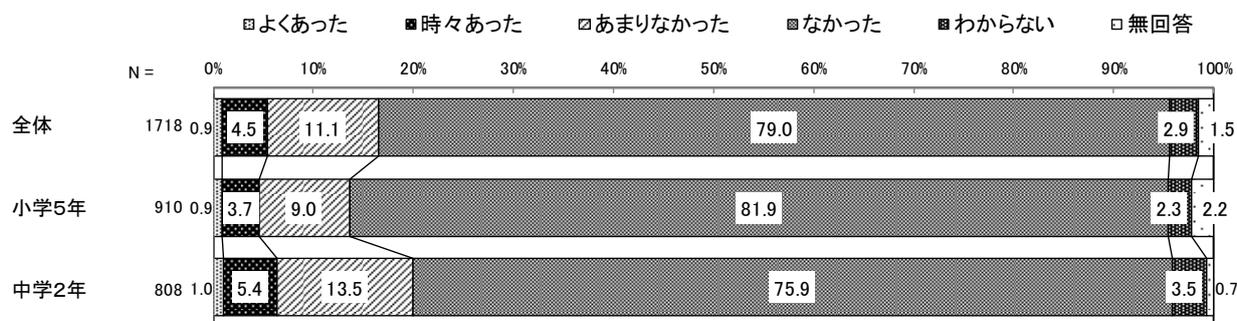


問29これまでのこと ③夜遅くまで子どもだけで過ごした[%]



#### [参考: 前回調査結果]

(H29調査) 問37 夜遅くまで子どもだけで過ごした[%]



## (8)悩みや相談(小学1年以外)

[悩みや心配ごと]

問 30 あなたは、自分や家族のことでなやみや心配ごとがありますか。

自分や家族のことでの悩みや心配ごとについて、「勉強のこと」、「悩みや心配ごとはない」、「進学・進路のこと」の上位3項目が 30%を超えて多い。「友達との関係」と「自分の性格のこと」は、それぞれ 22%台となり、前回よりやや多い。

学年別では、「悩みや心配ごとはない」は学年が上がると少なくなっている。中学2年では「勉強のこと」が 53.9%、16・17 歳では「進学・進路のこと」が 45.8%と多く、また「自分の性格のこと」は中学2年で 27.3%、16・17 歳で 19.7%と多く回答されている。

生活困窮度別では、生活困難家庭で「進学・進路のこと」は 40%を超えており、一般家庭と比べて多く回答されている。

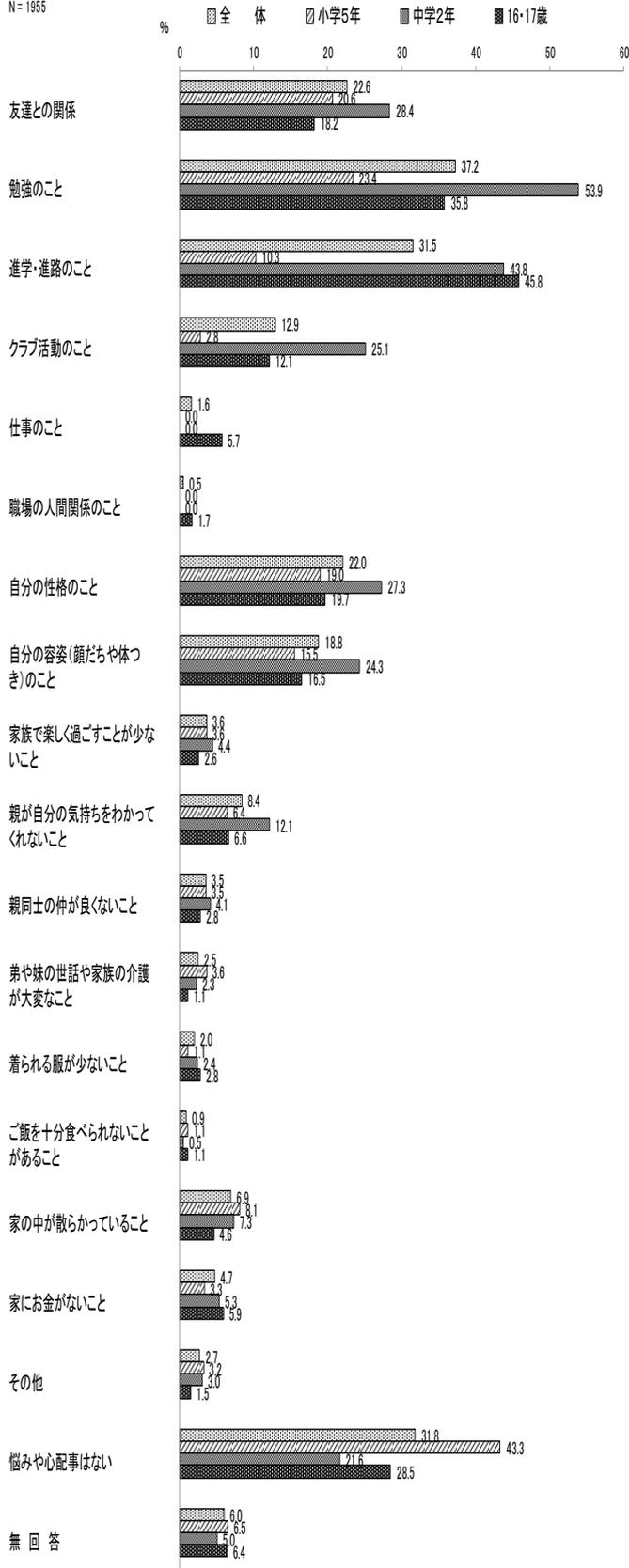
悩みや心配ごと(上位5位)

今回	1位	2位	3位	4位	5位
全 体	勉強のこと (37.2%)	悩みや心配ごとはない(31.8%)	進学・進路のこと (31.5%)	友達との関係 (22.6%)	自分の性格のこと (22.0%)
小学5年	悩みや心配ごとはない(43.3%)	勉強のこと (23.4%)	友達との関係 (20.6%)	自分の性格のこと (19.0%)	自分の容姿(顔だちや体つき)のこと (15.5%)
中学2年	勉強のこと (53.9%)	進学・進路のこと (43.8%)	友達との関係 (28.4%)	自分の性格のこと (27.3%)	クラブ活動のこと (25.1%)
16・17 歳	進学・進路のこと (45.8%)	勉強のこと (35.8%)	悩みや心配ごとはない(28.5%)	自分の性格のこと (19.7%)	友達との関係 (18.2%)

前回	1位	2位	3位	4位	5位
全 体	進学・進路のこと (35.7%)	勉強のこと(35.2%)	悩みや心配事はない (30.5%)	友達との関係 自分の性格のこと (16.8%) (16.8%)	
小学5年	悩みや心配事はない(41.0%)	勉強のこと(23.4%)	自分の性格のこと (17.1%)	友達との関係 (15.2%)	進学・進路のこと (13.8%)
中学2年	勉強のこと (49.5%)	進学・進路のこと (47.6%)	クラブ活動のこと (26.4%)	友達との関係 (20.7%)	悩みや心配事はない(20.5%)
16・17 歳	進学・進路のこと (51.4%)	勉強のこと(34.1%)	悩みや心配事はない(28.1%)	クラブ活動のこと (18.5%)	自分の容姿(顔だちや体つき)のこと (14.8%)

N = 1955

問30 自分や家族のことでの悩みや心配ごと(％・複数回答)

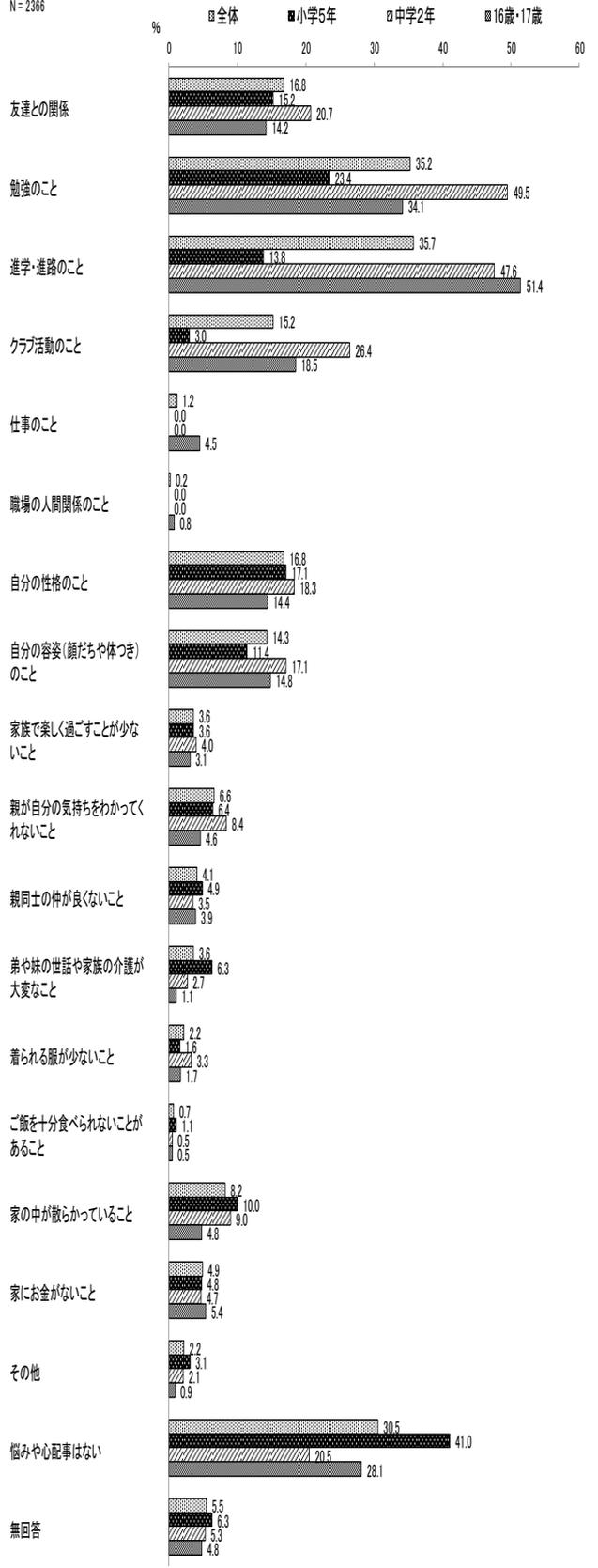


[参考: 前回調査結果]

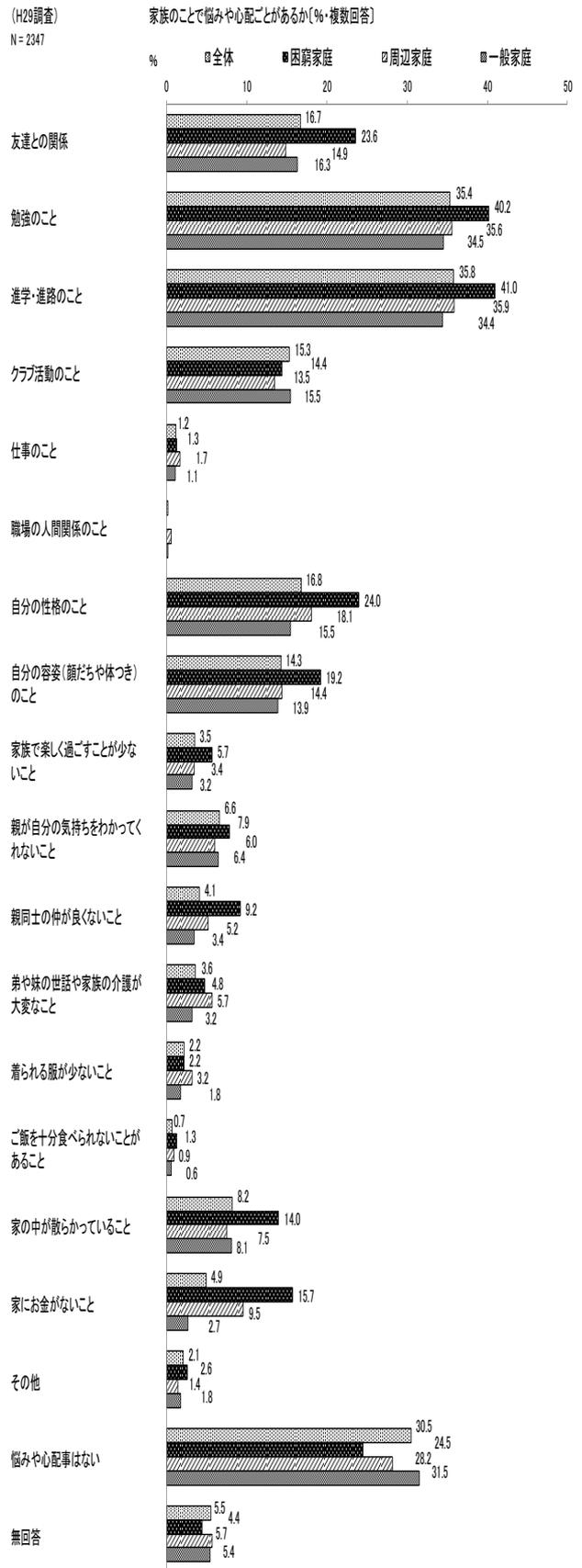
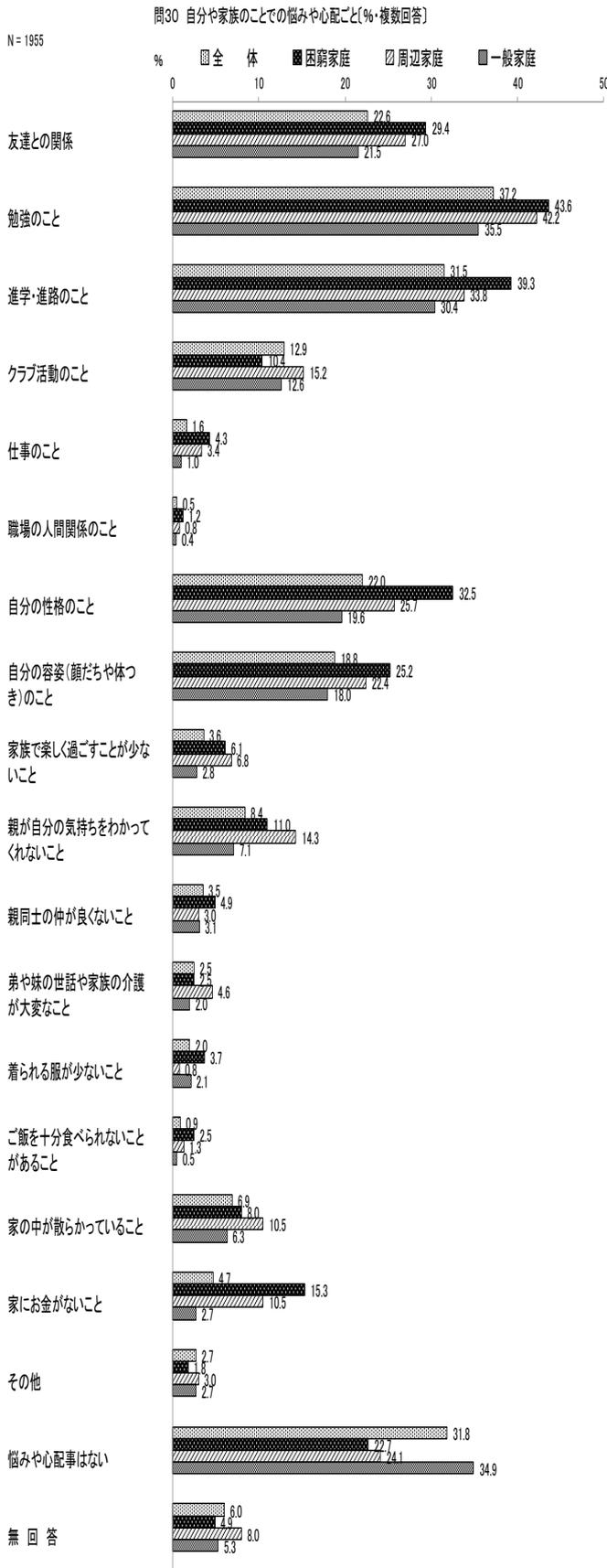
(H29調査)

N = 2366

家族のことでの悩みや心配ごとがあるか(％・複数回答)



[参考: 前回調査結果]

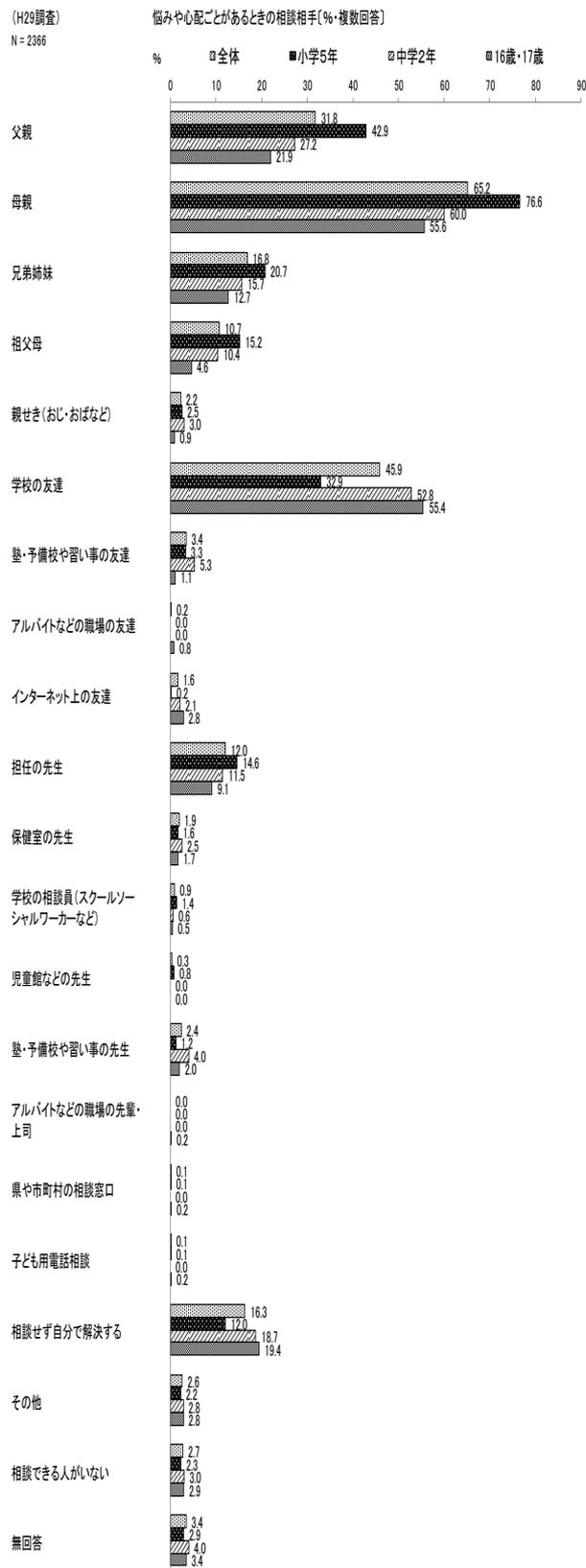
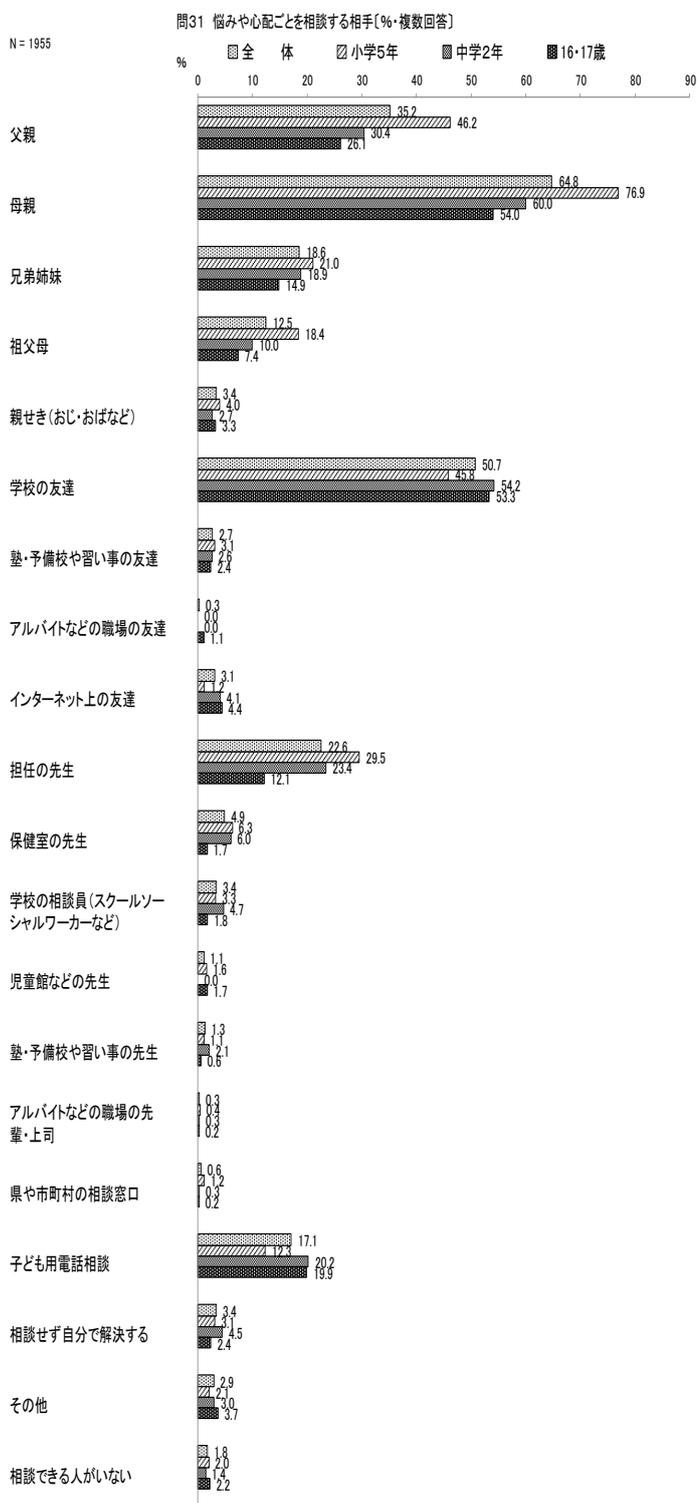


### 問 31 あなたは、悩みや心配事があるとき、だれに相談しますか。

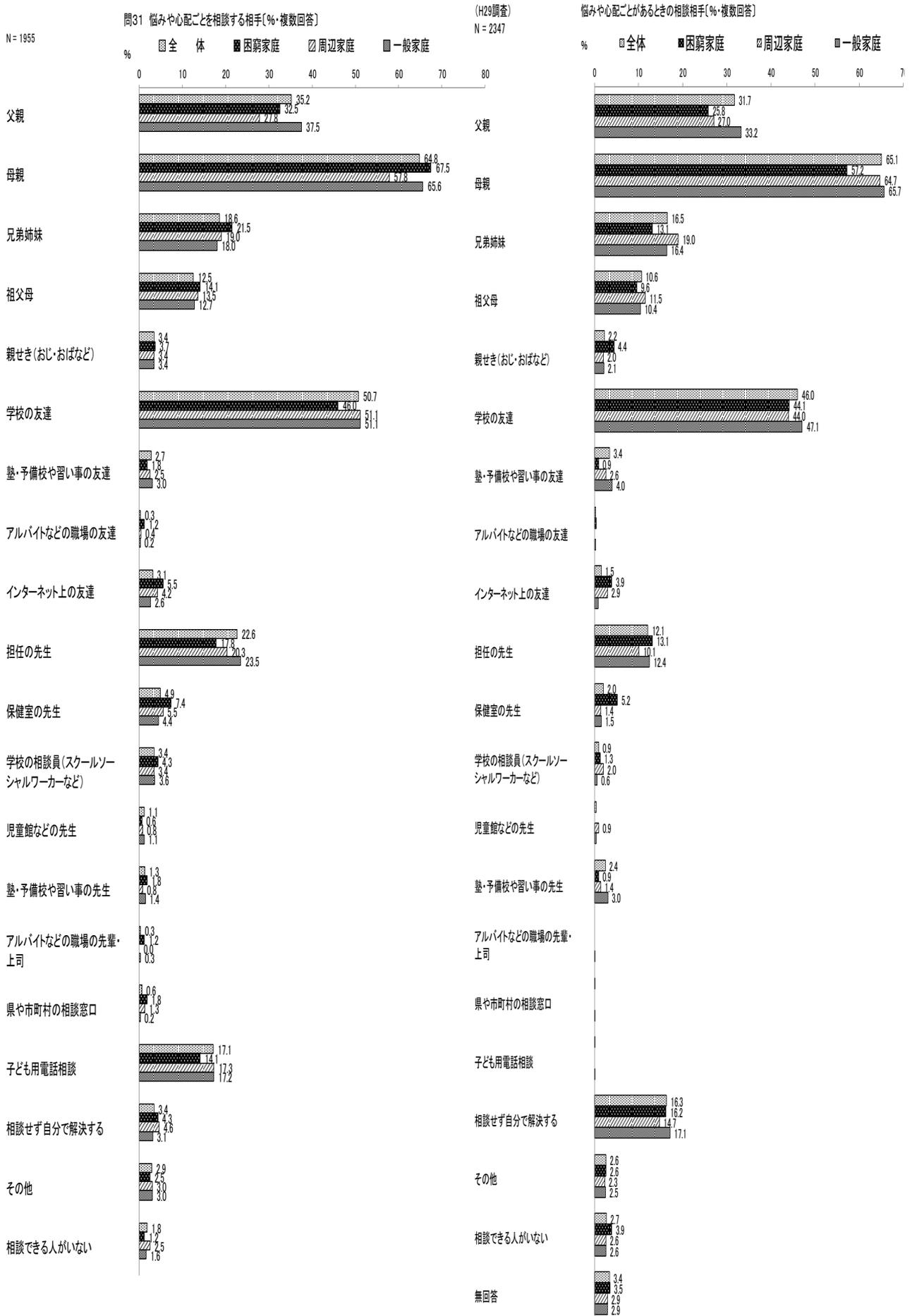
悩みや心配ごとを相談する相手は、「母親」が 64.8%と最も多く、次いで「学校の友達」が 50.7%、「父親」が 35.2%などとなっている。

学年別では、「担任の先生」が小学5年で 29.5%と最も多く、学年が上がるにつれ、その割合が少なくなっている。また、「子ども用電話相談」が中学2年で 20.2%、16・17歳で 19.9%と前回よりも多くなっている。

#### [参考: 前回調査結果]



[参考: 前回調査結果]



## (9)サービスや支援策の利用・関心(小学1年以外)

問 32 あなたは、以下のような場所があれば使ってみたいと思いますか。

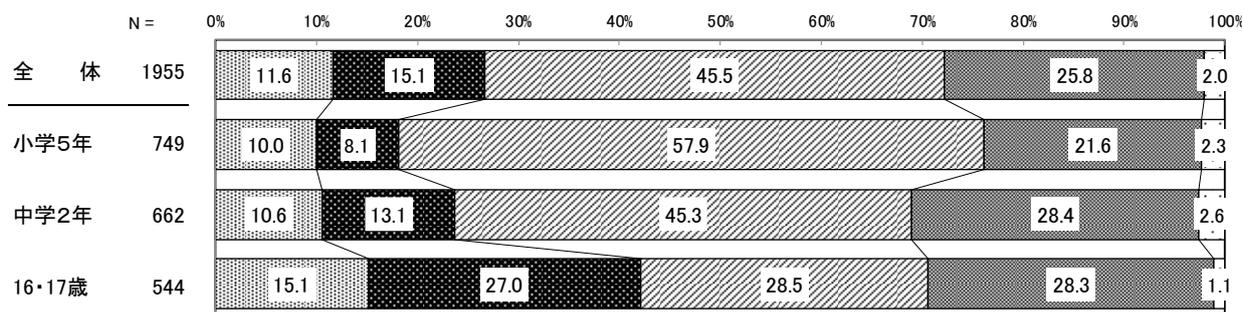
### 1) 平日の放課後に夜までいることができる場所

『関心がある』(「利用したことがある」と「あれば利用したいと思う」の計)は 26.7%、『関心がない』(「今後も利用したいと思わない」と「今後も利用したいかどうかわからない」の計)が 71.3%となっている。

学年別では、16・17歳で『関心がある』が42.1%と他の学年に比べて多い。

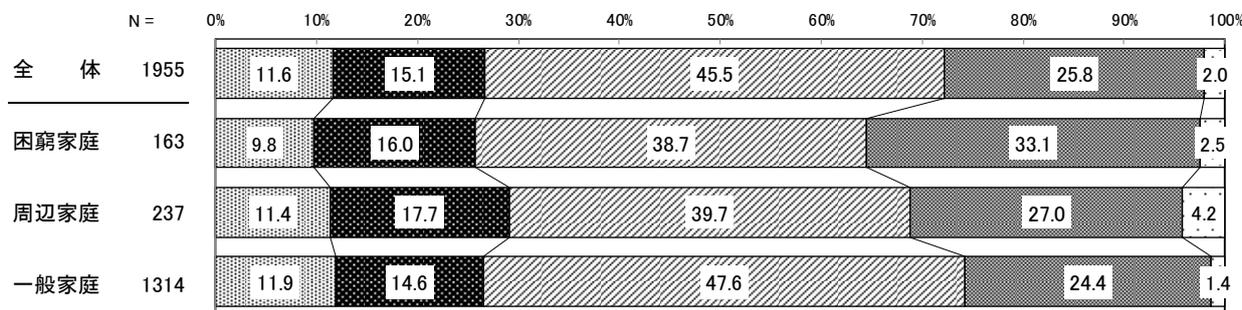
問32利用(意向) ①平日放課後に夜までいられる場所[%]

利用したことがある  
 あれば利用したいと思う  
 今後も利用したいと思わない  
 今後利用したいかどうかわからない  
 無回答



問32利用(意向) ①平日放課後に夜までいられる場所[%]

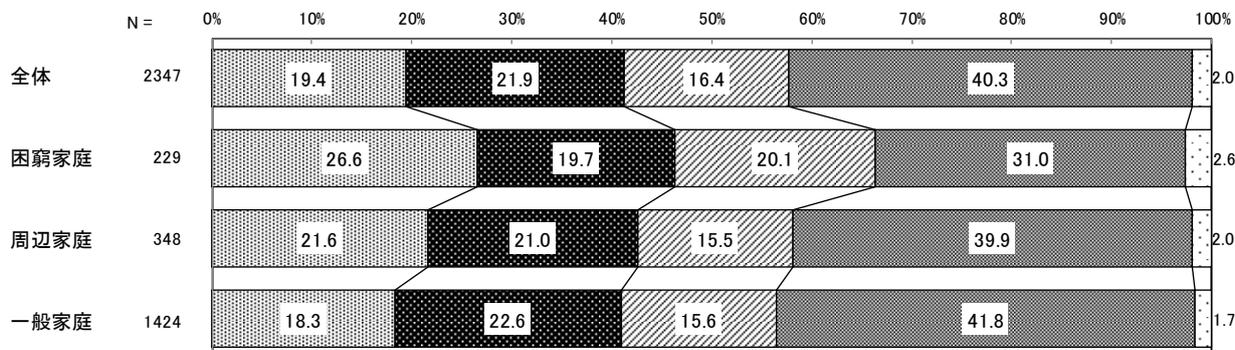
利用したことがある  
 あれば利用したいと思う  
 今後も利用したいと思わない  
 今後利用したいかどうかわからない  
 無回答



### [参考: 前回調査結果]

(H29調査) 平日の放課後に夜までいることができる場所[%]

使ってみたい  
 興味がある  
 使いたくない  
 使う必要はない  
 無回答

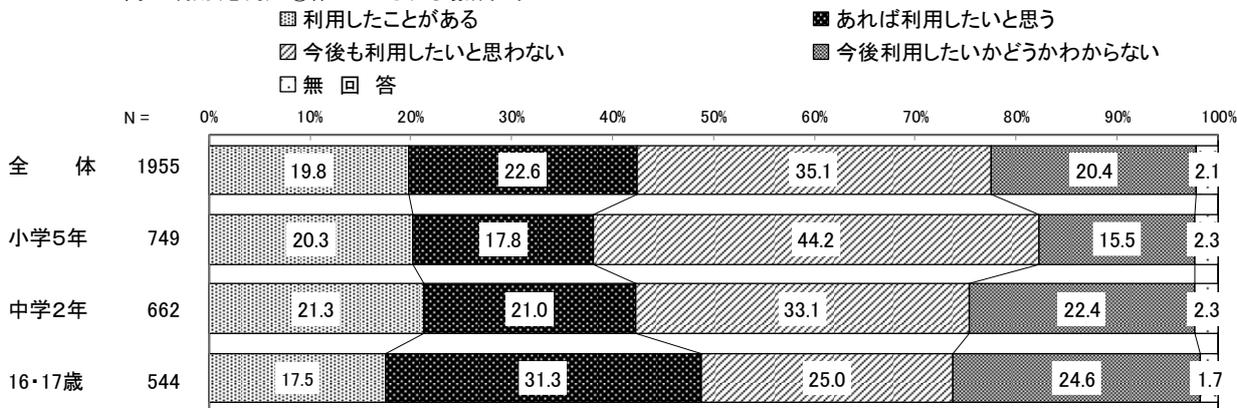


## 2) 休日にいることができる場所

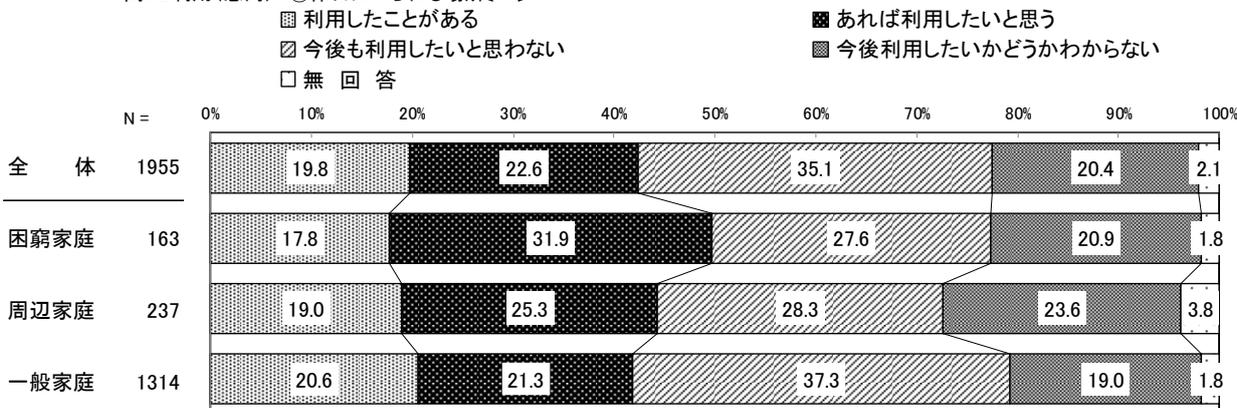
『関心がある』(「利用したことがある」と「あれば利用したいと思う」の計)は 42.4%、『関心がない』(「今後も利用したいと思わない」と「今後も利用したいかどうか分からない」の計)は 55.5%である。

生活困窮度別では、困窮家庭で他の区分よりも『関心がある』と回答した割合が多くなっている。

問32利用(意向) ②休日にいられる場所[%]

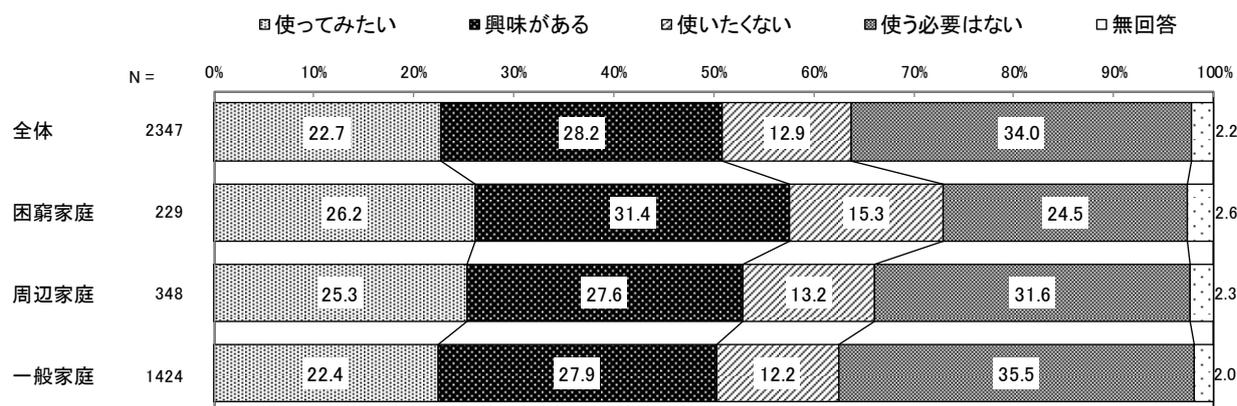


問32利用(意向) ②休日にいられる場所[%]



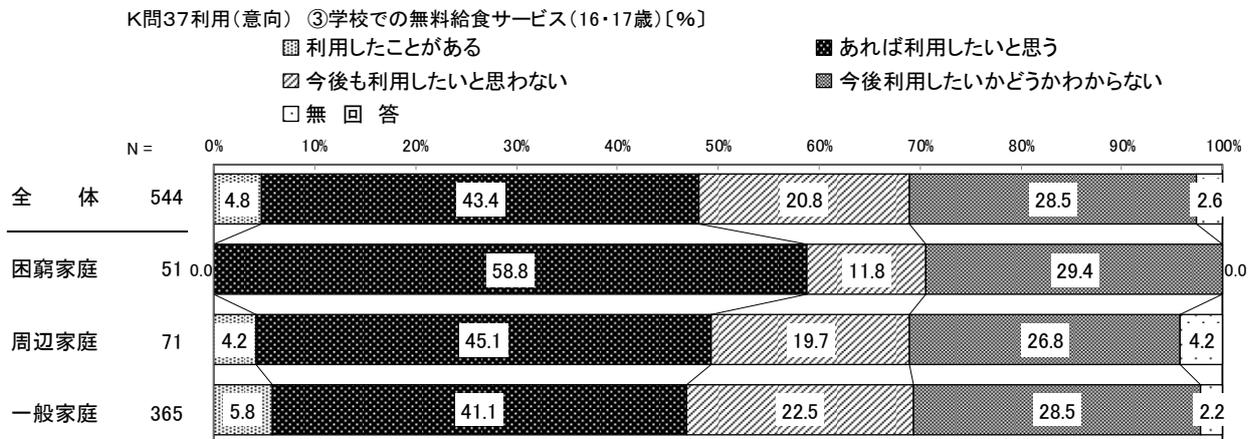
### [参考: 前回調査結果]

(H29調査) 休日にいることができる場所[%]



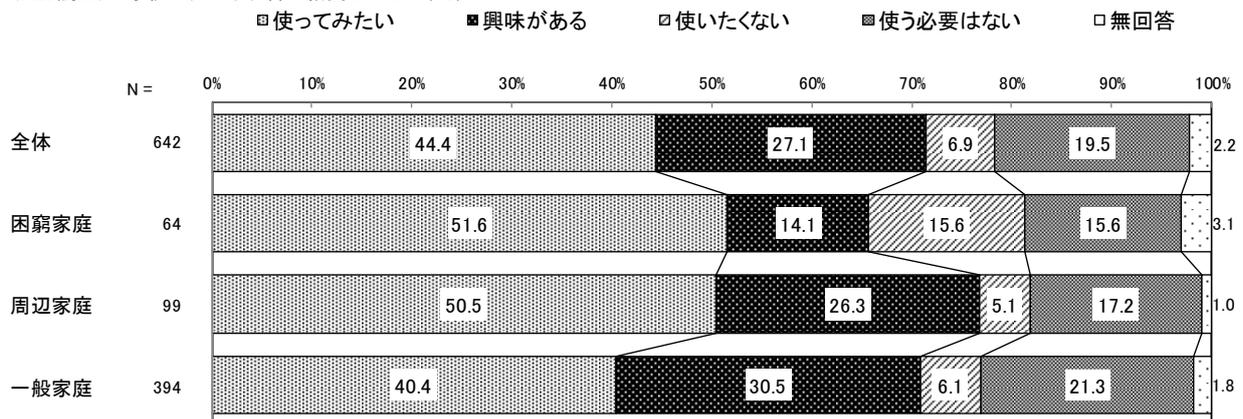
### 3) 学校における無料の給食サービス (16・17歳のみ)

『関心がある』(「利用したことがある」と「あれば利用したいと思う」の計)が 48.2%、『関心がない』(「今後も利用したいと思わない」と「今後も利用したいかどうか分からない」の計)は 49.3%である。  
生活困窮度別では、困窮家庭で「あれば利用したいと思う」が 58.8%と他の区分に比べて多い。



#### [参考: 前回調査結果]

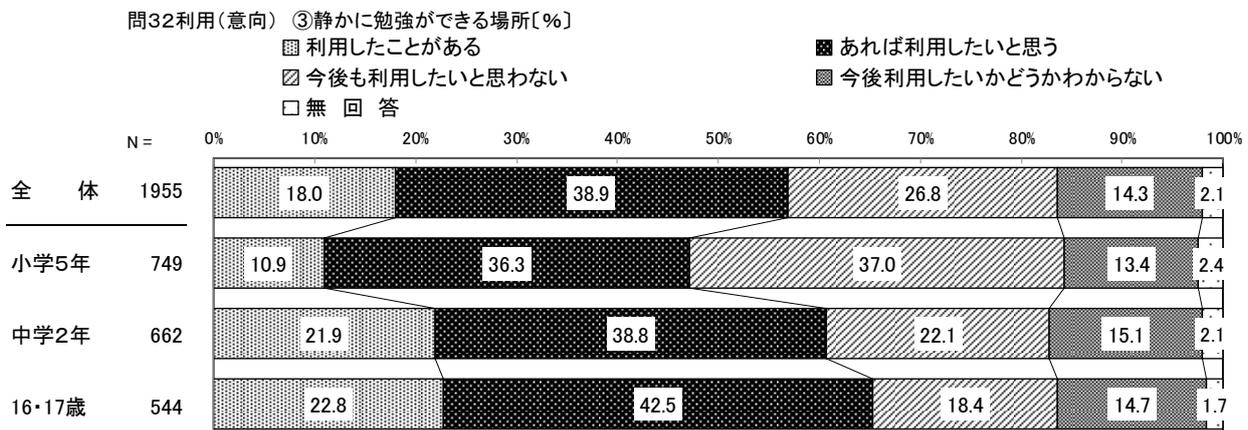
(H29調査) 学校における無料の給食サービス[%]



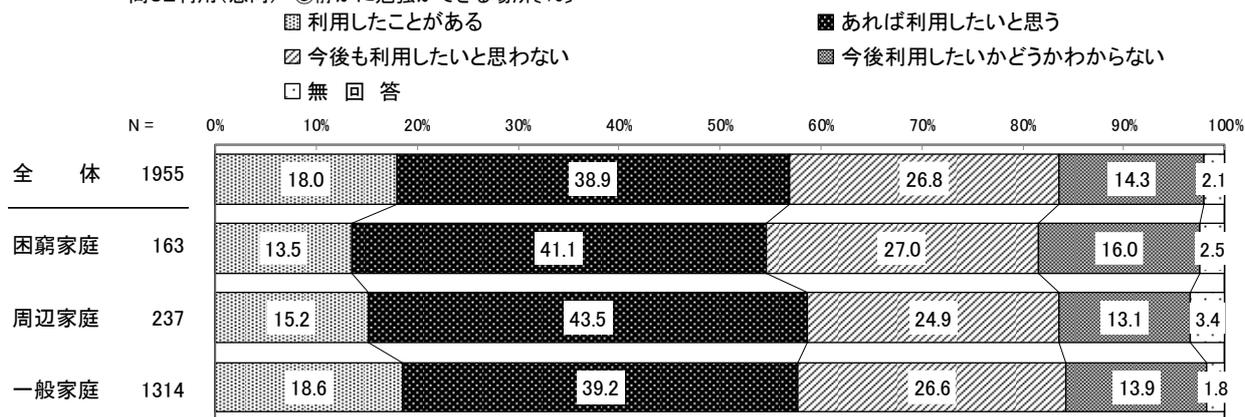
### 4) 家で勉強ができないとき、静かに勉強ができる場所

『関心がある』(「利用したことがある」と「あれば利用したいと思う」の計)が 56.9%、『関心がない』(「今後も利用したいと思わない」と「今後も利用したいかどうか分からない」の計)は 41.1%である。

学年別では、『関心がある』が小学5年で 47.2%だが、学年が上がるにつれ多くなり、中学2年で 60.7%、16・17歳で 65.3%である。

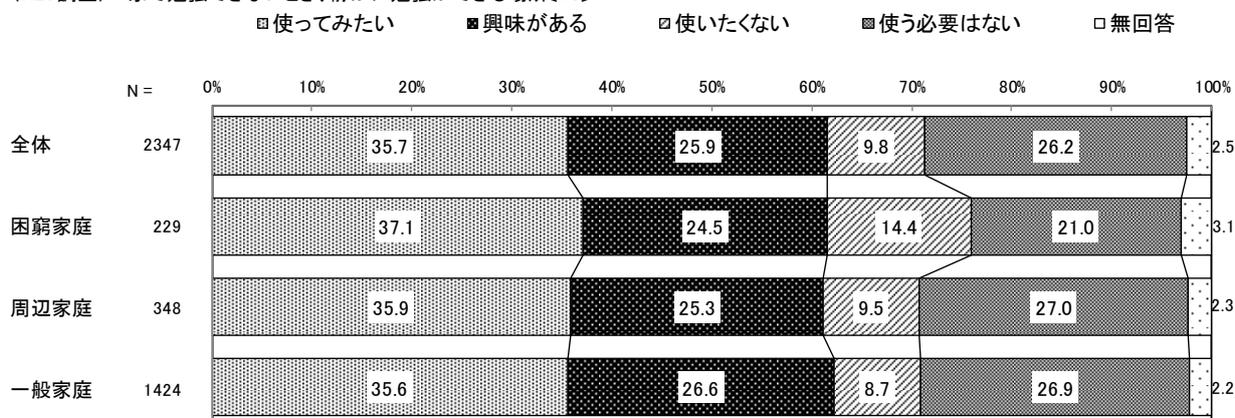


問32利用(意向) ③静かに勉強ができる場所[%]



[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所[%]

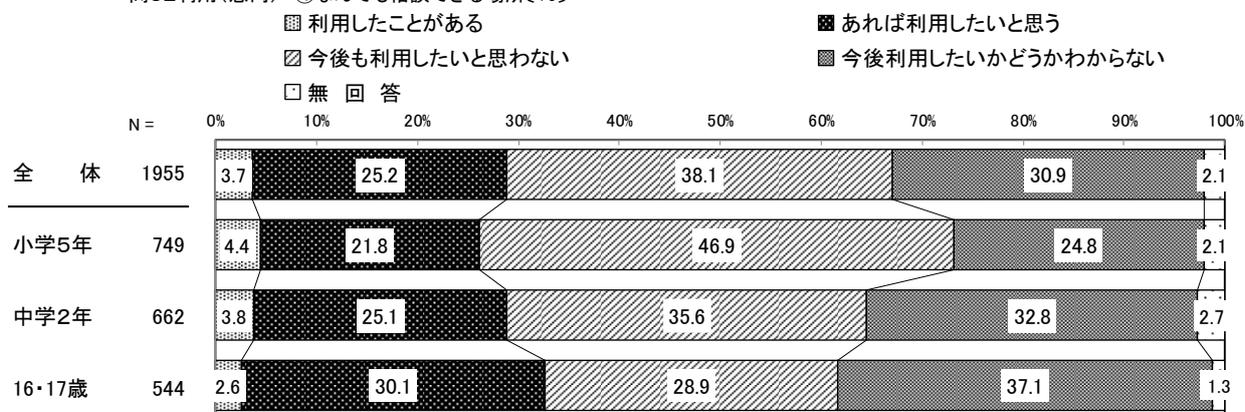


5) なんでも相談できる場所

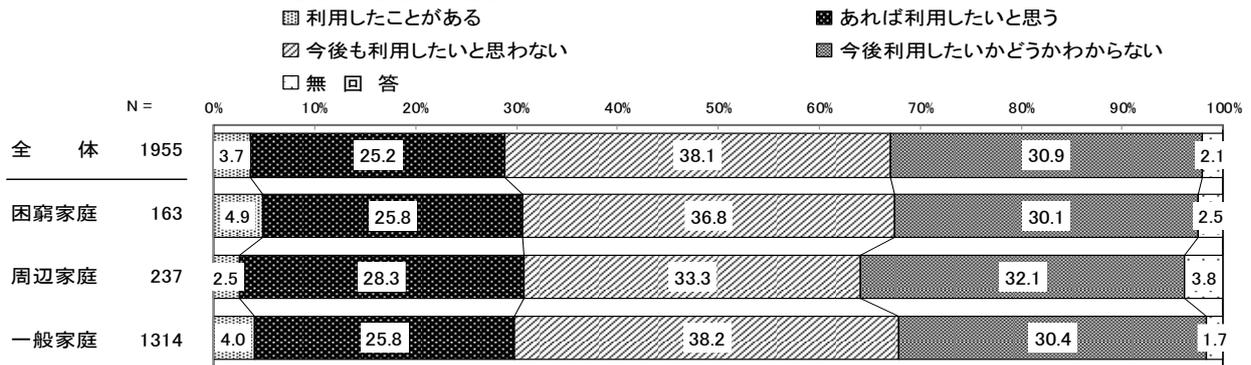
『関心がある』(「利用したことがある」と「あれば利用したいと思う」の計)が 28.9%、『関心がない』(「今後も利用したいと思わない」と「今後利用したいかどうかわからない」の計)が 69.0%となっている。

学年別では、学年が上がるにつれ、『関心がある』と回答した割合が多くなっている。

問32利用(意向) ④なんでも相談できる場所[%]

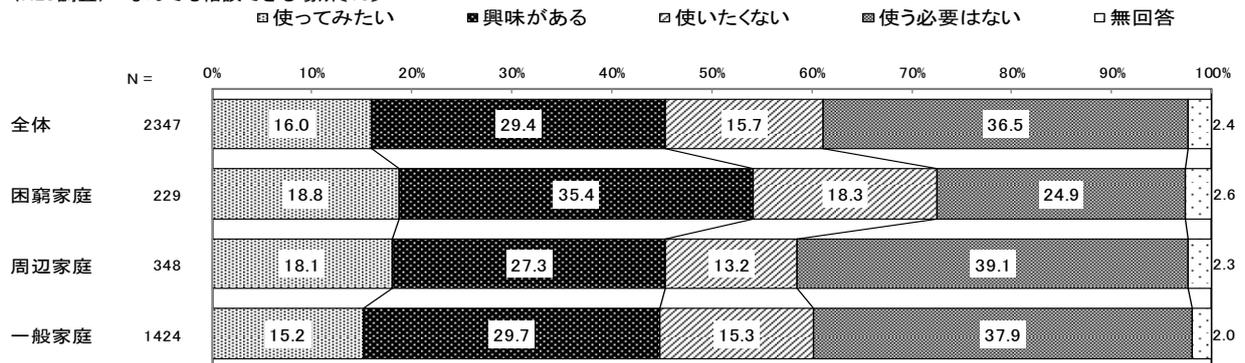


問32利用(意向) ④なんでも相談できる場所[%]



[参考: 前回調査結果]

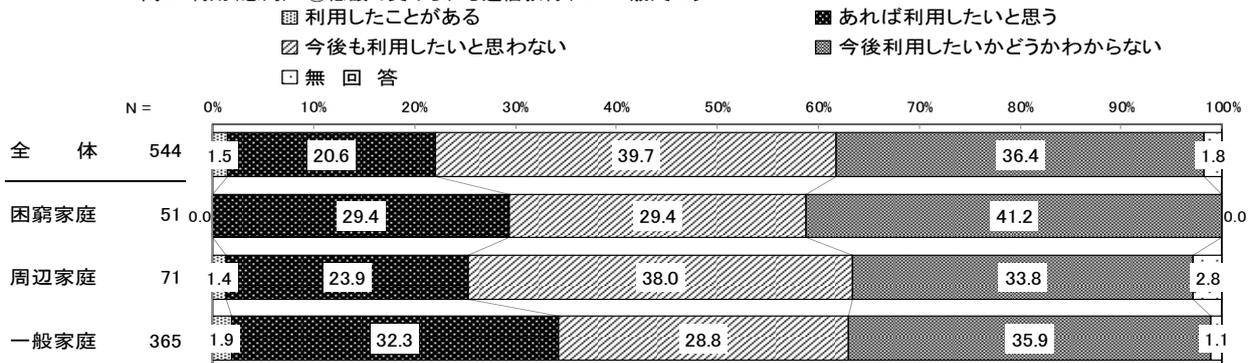
(H29調査) なんでも相談できる場所[%]



6) 低額・無料で通信教育が受けられるサービス (16・17歳のみ)

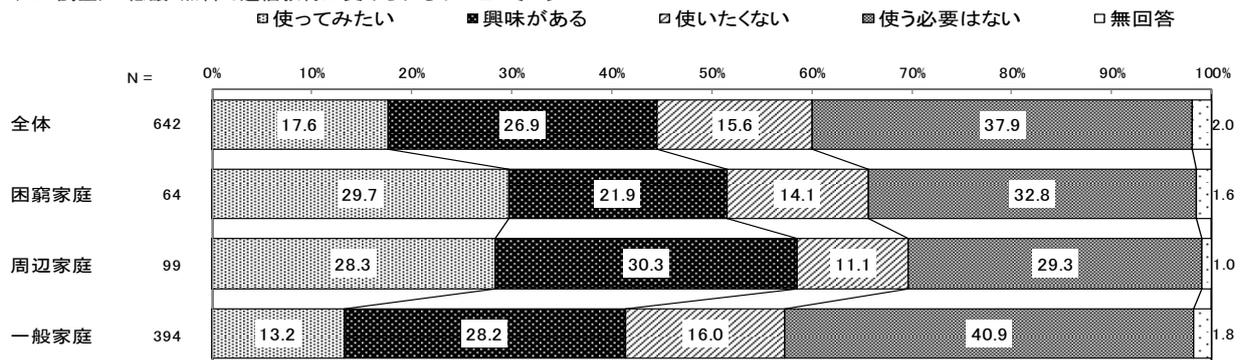
『関心がある』(「利用したことがある」と「あれば利用したいと思う」の計)が 22.1%、『関心がない』(「今後も利用したいと思わない」と「今後も利用したいかどうか分からない」の計)が 76.1%となっている。

K問37利用(意向) ⑥低額で受けられる通信教育(16・17歳)[%]



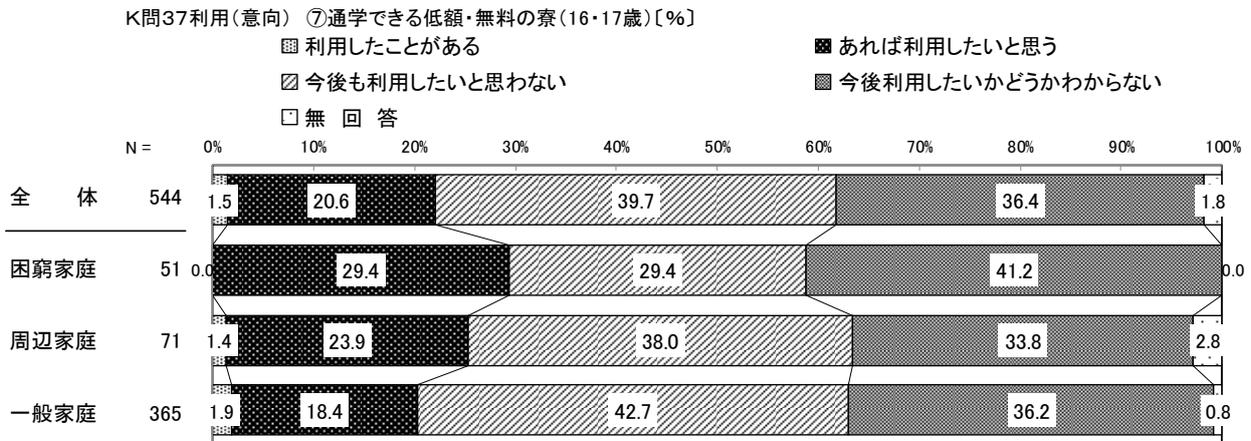
[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 低額・無料で通信教育が受けられるサービス[%]



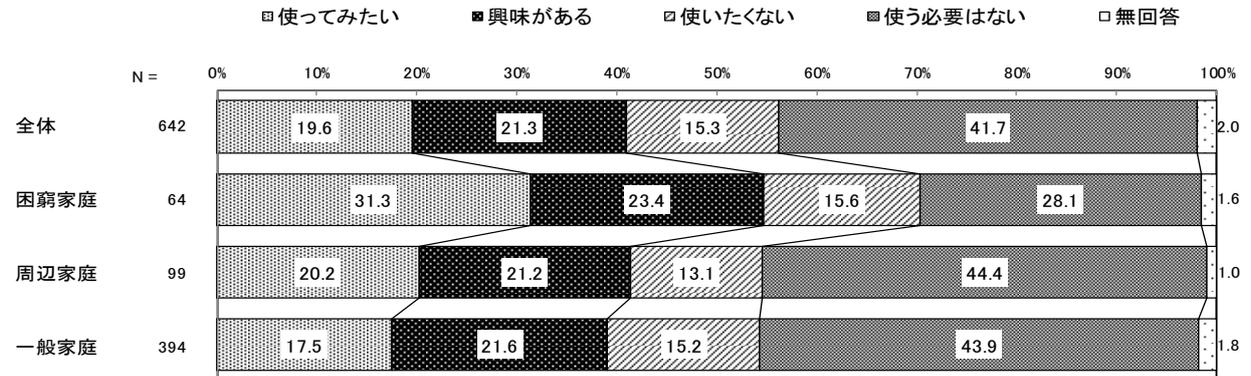
7) 家から出て学校に通うことができる定額・無料の寮(16・17歳のみ)

『関心がある』(「利用したことがある」と「あれば利用したいと思う」の計)は 22.1%、『関心がない』(「今後も利用したいと思わない」と「今後も利用したいかどうかわからない」の計)が 76.1%となっている。



[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 家から出て学校に通うことができる低額・無料の寮[%]

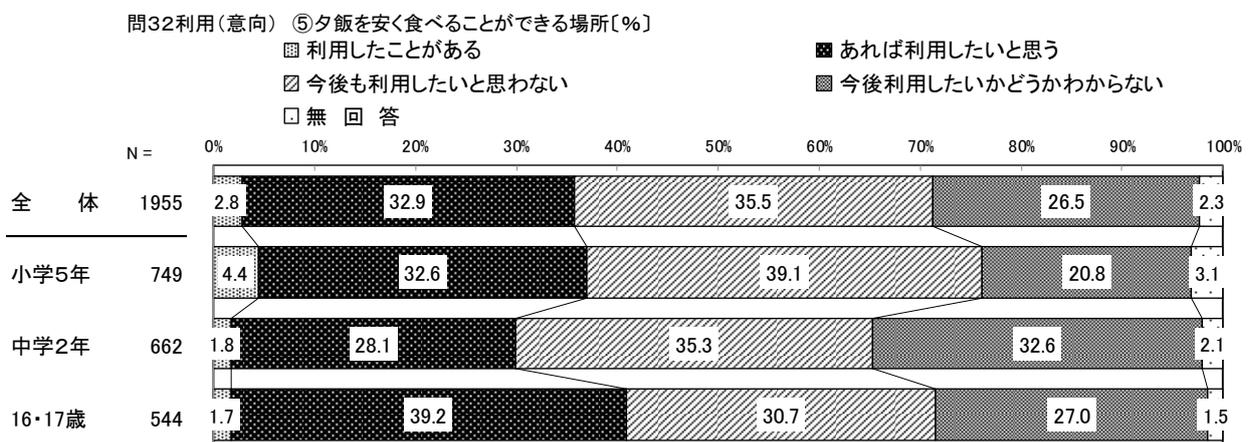


8) タごはんを無料か安く食べることができる場所

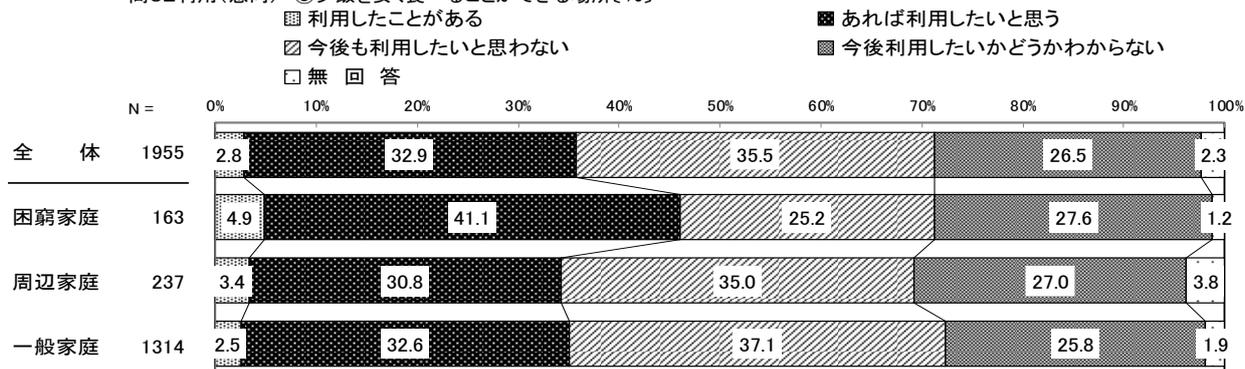
『関心がある』(「利用したことがある」と「あれば利用したいと思う」の計)は 35.7%、『関心がない』(「今後も利用したいと思わない」と「今後も利用したいかどうかわからない」の計)が 62.0%となっている。

学年別では、『関心がある』が中学2年で 29.9%と他の学年に比べて少ない。

生活困窮度別では、困窮家庭で『関心がある』が 46.0%と他の区分に比べて多い。

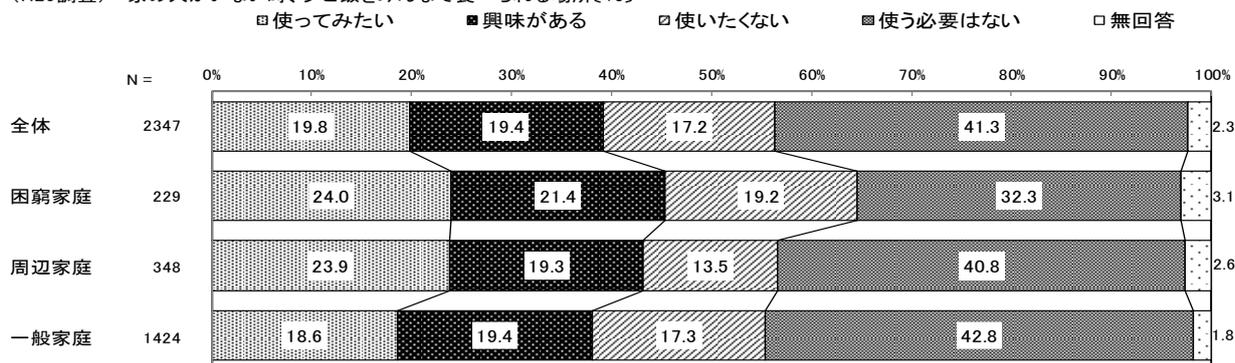


問32利用(意向) ⑤夕飯を安く食べることができる場所[%]



[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 家の人がいない時、夕ご飯をみんなで食べられる場所[%]

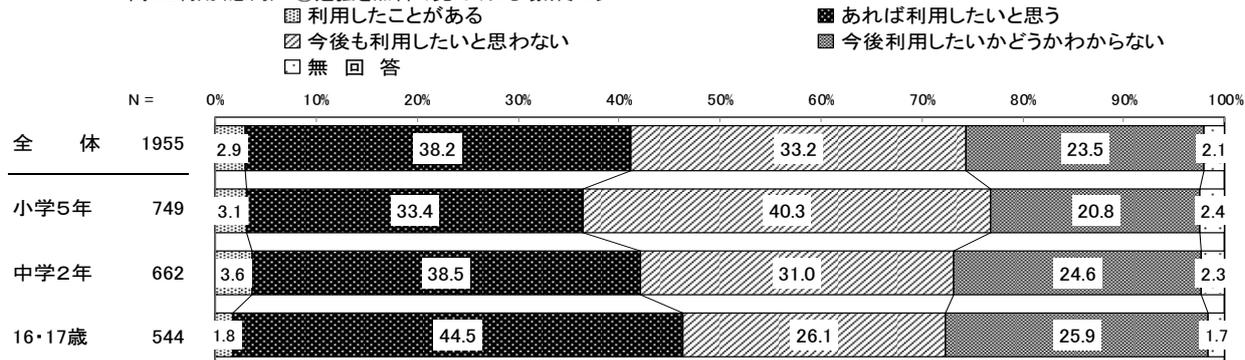


9) 勉強を無料で見てくれる場所

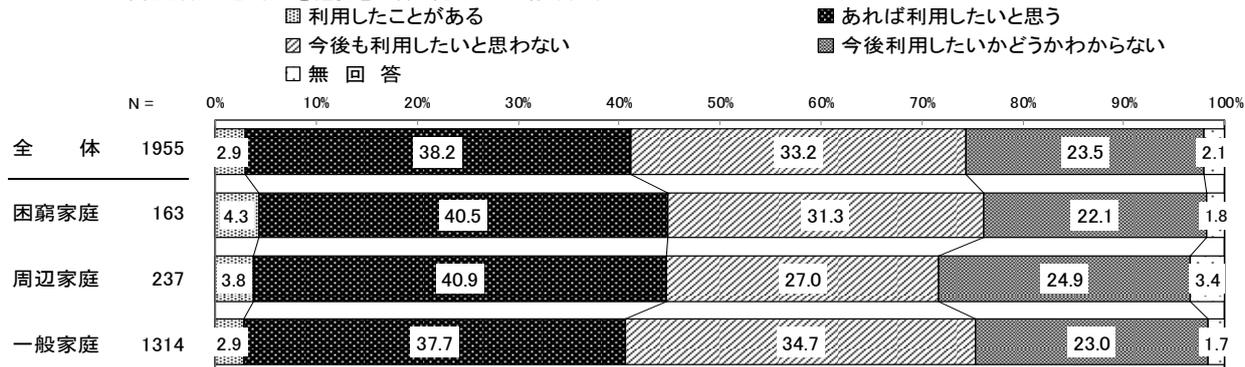
『関心がある』(「利用したことがある」と「あれば利用したいと思う」の計)は 41.1%、『関心がない』(「今後も利用したいと思わない」と「今後も利用したいかどうかわからない」の計)が 56.7%となっている。

学年別では、学年が上がるにつれ、『関心がある』の回答割合が多くなっている。

問32利用(意向) ⑥勉強を無料で見てくれる場所[%]

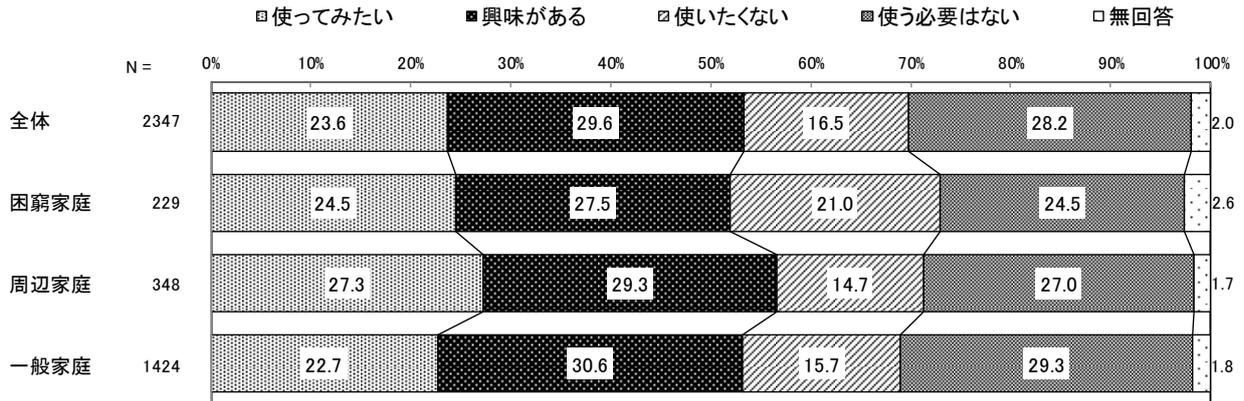


問32利用(意向) ⑥勉強を無料で見てくれる場所[%]



[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 大学生のボランティアが勉強を無料でみてくれる場所[%]

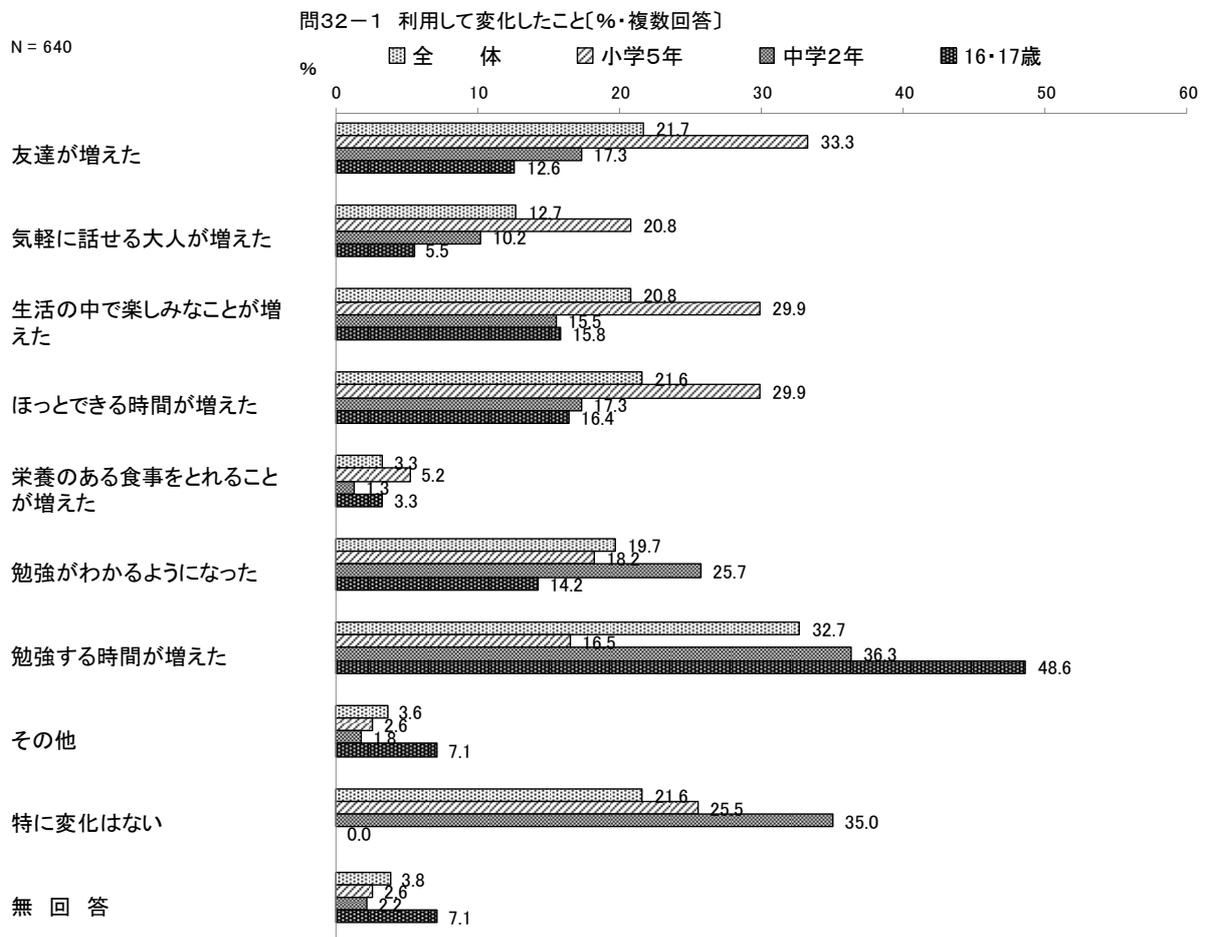


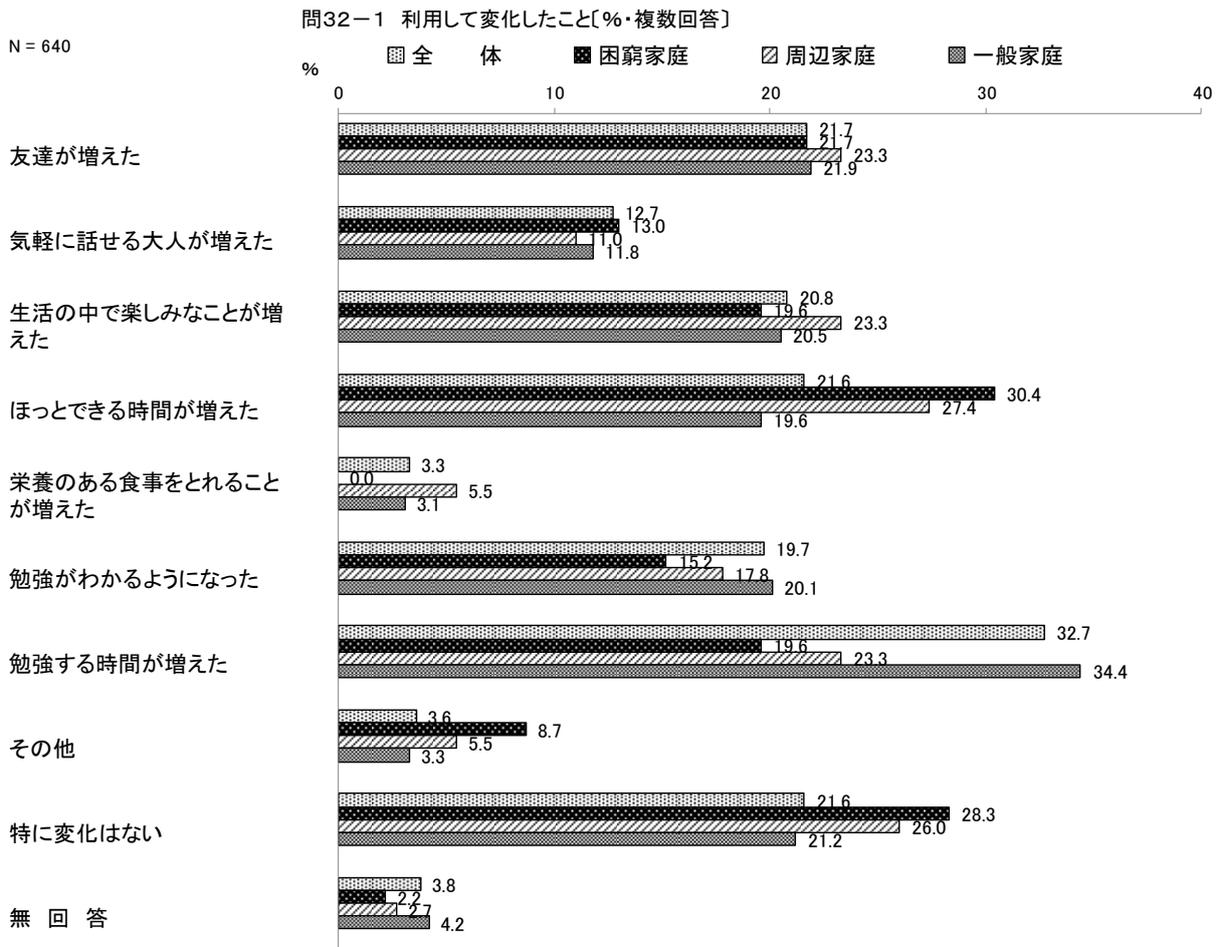
問 32-1 前問で、1つでも「1 利用したことがある」と答えた方にお聞きします。そこを利用したことで、以下のような変化がありましたか。

利用による変化について、「勉強する時間が増えた」が 32.7%と最も多く、次いで「友達が増えた」、「生活の中で楽しみなことが増えた」「ほっとする時間が増えた」「勉強がわかるようになった」などがそれぞれ20%前後である。

学年別では、小学5年で「友達が増えた」が 33.3%、中学2年で「勉強がわかるようになった」が 25.7%、16・17歳で「勉強する時間が増えた」が 48.6%と他の学年よりも特に多く回答されている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「ほっとできる時間が増えた」が 30.4%と特に多い。



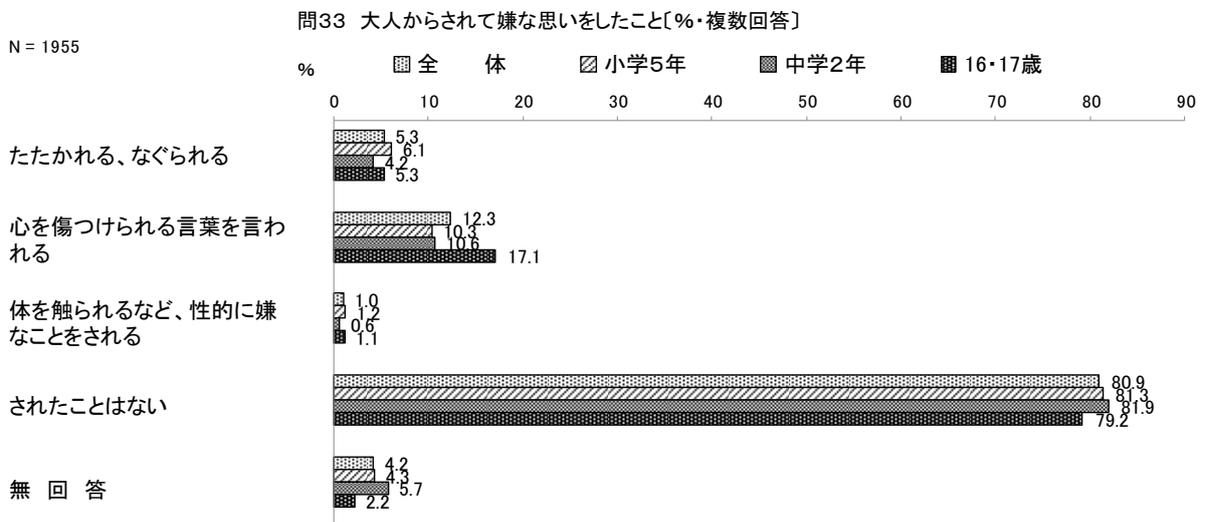


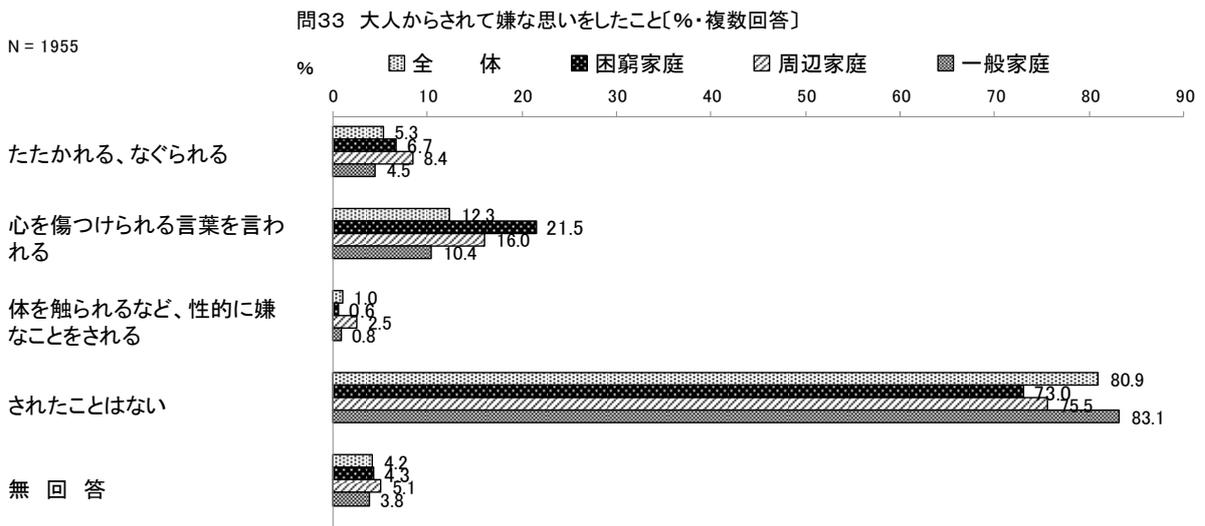
問 33 あなたは、大人から次のようなことをされて、いやな思いやつらい思いをしたことがありますか。

大人からされて嫌な思いをした経験について、「されたことはない」が 80.9%となっている一方で、「たたかれる、なぐられる」は 5.3%、「心を傷つけられる言葉を言われる」は 12.3%が、経験があると回答している。

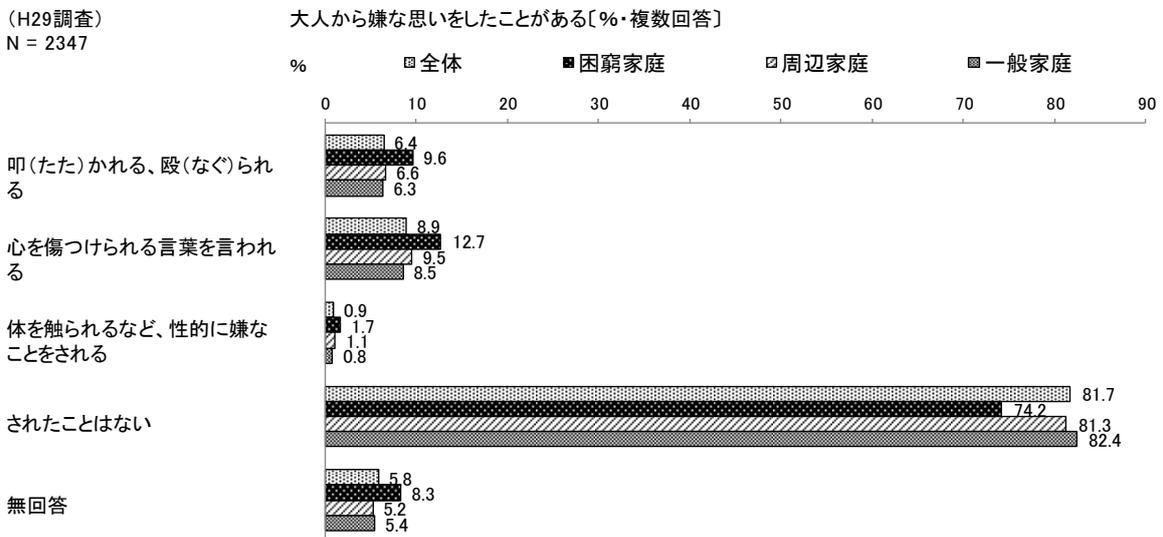
学年別では、16・17 歳で「心を傷つけられる言葉を言われる」が 17.1%とやや多い。

生活困窮度別では、困窮家庭で「心を傷つけられる言葉を言われる」が 21.5%と多い。前回と比べて、「心を傷つけられる言葉を言われる」が各区分でやや多くなっている。





[参考: 前回調査結果]

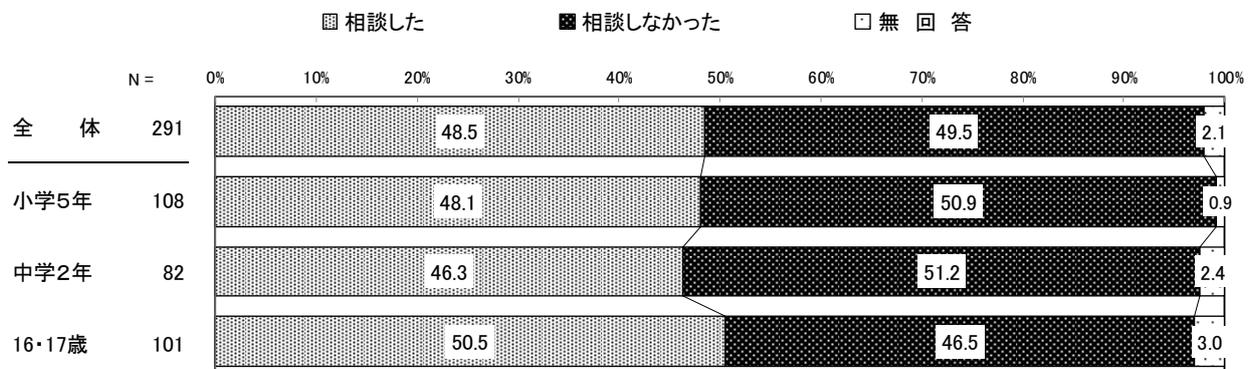


問 33-1 前問で1～3を答えた人にお聞きします。いやな思いをしたときに、だれかに相談しましたか。

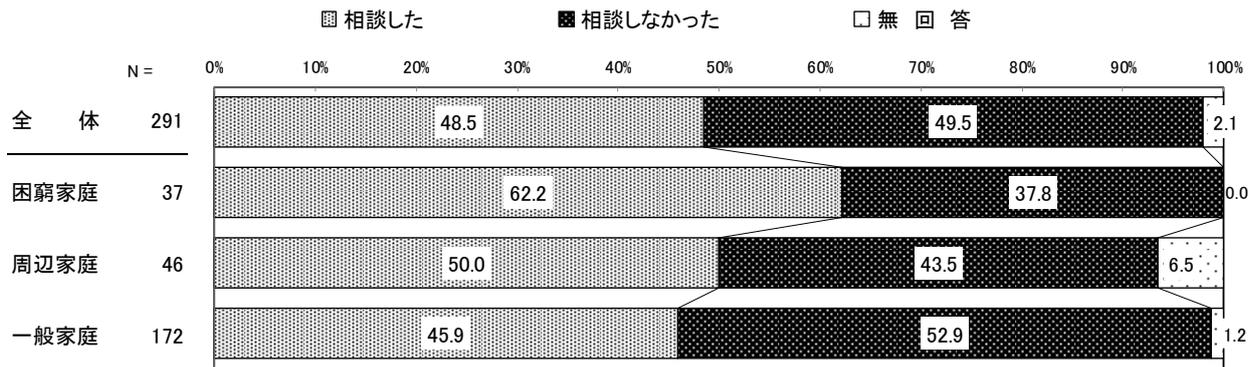
「相談した」が48.5%、「相談しなかった」が49.5%である。前回と比べて、「相談した」の回答割合が多くなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「相談した」が62.2%と他の区分よりもやや多くなっている。

問33-1 嫌な思いをしたときの相談の有無[%]

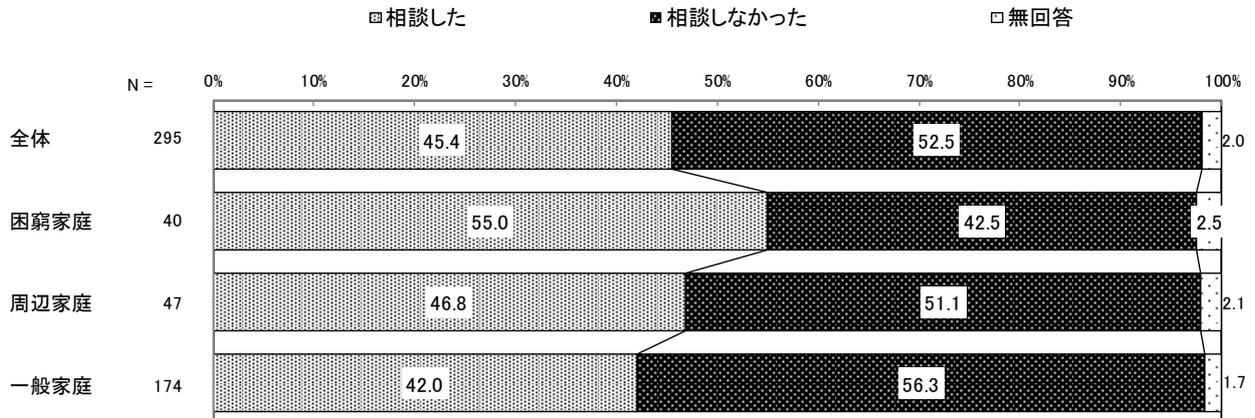


問33-1 嫌な思いをしたときの相談の有無〔%〕



[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 嫌な思いをしたときの相談の有無〔%〕



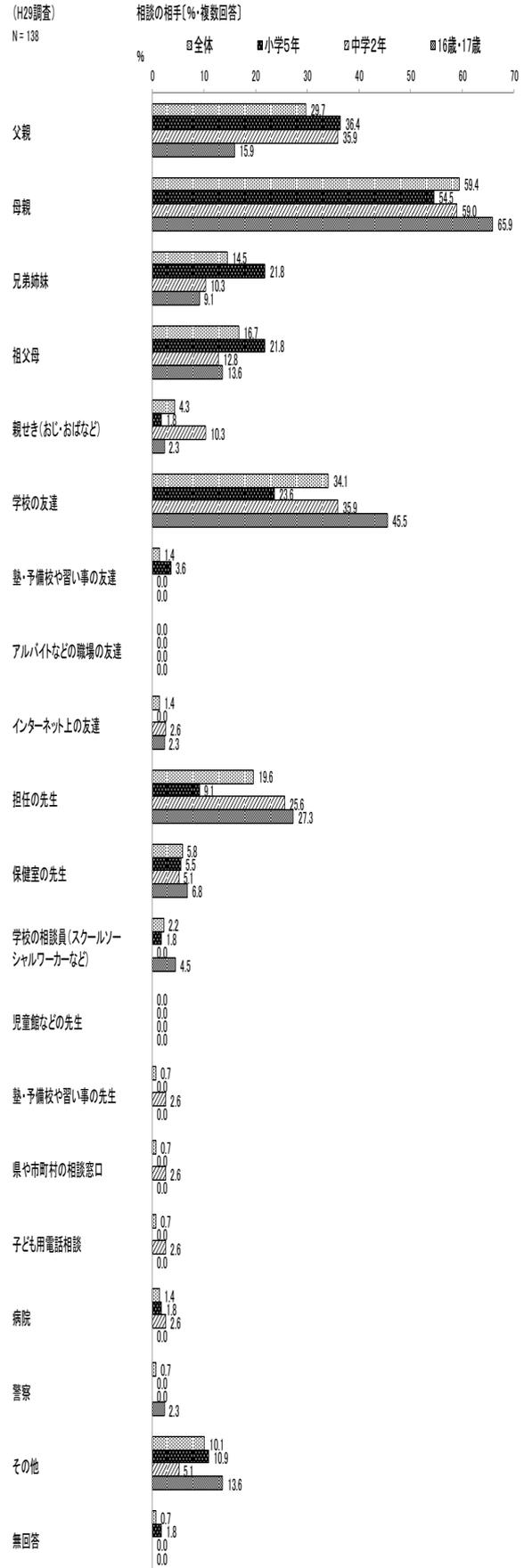
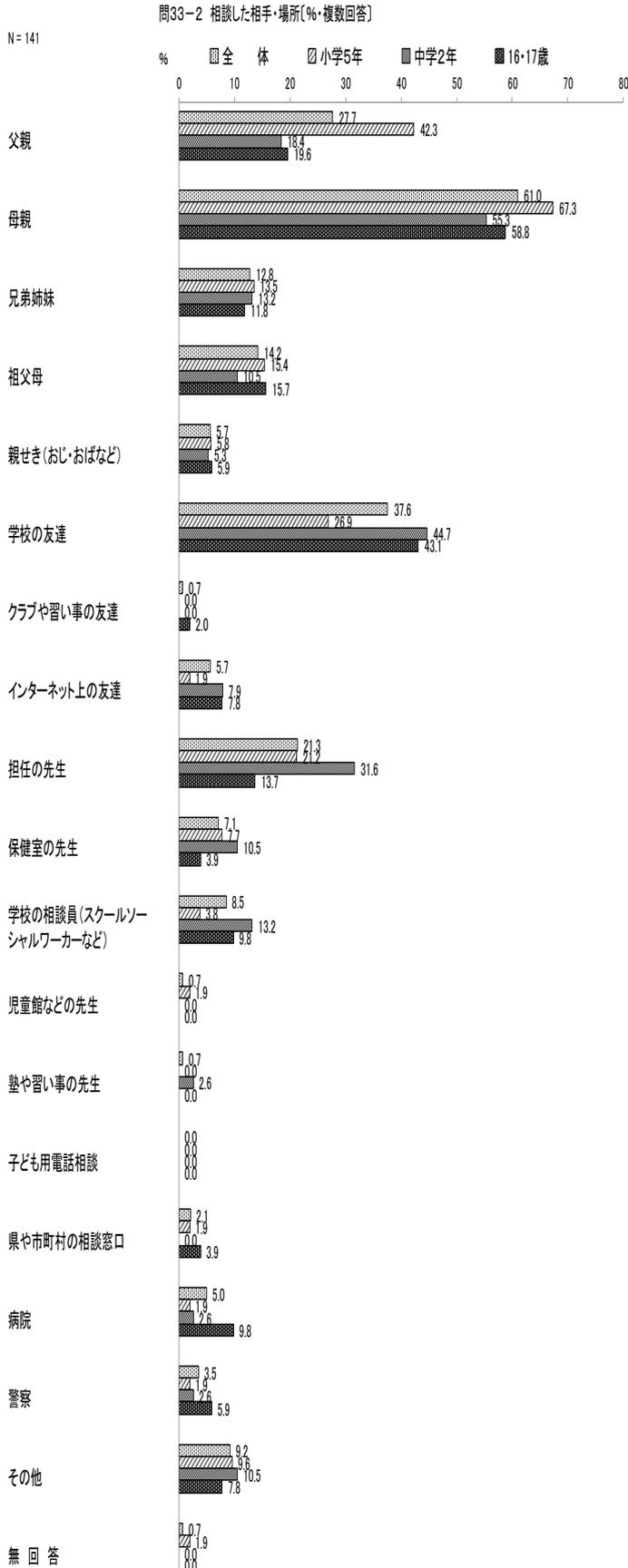
問 33-2 前問で1を答えた人にお聞きします。相談した人や場所を教えてください。

「母親」が61.0%と最も多く、次いで「学校の友達」が37.6%、「父親」が27.7%である。

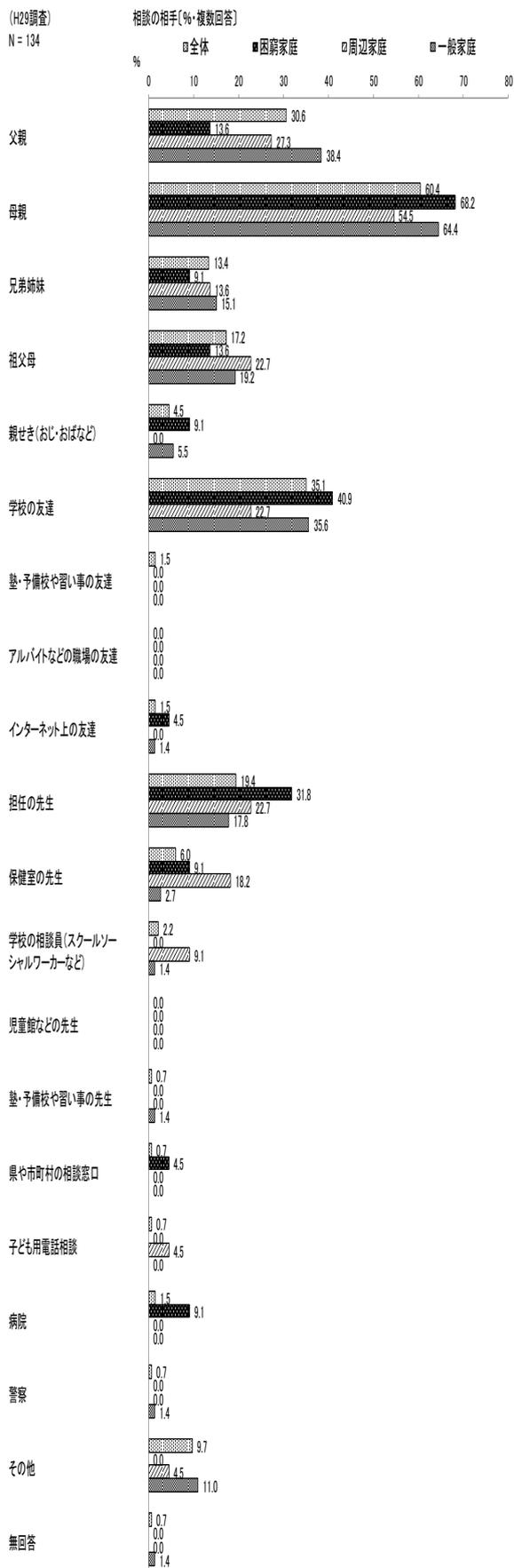
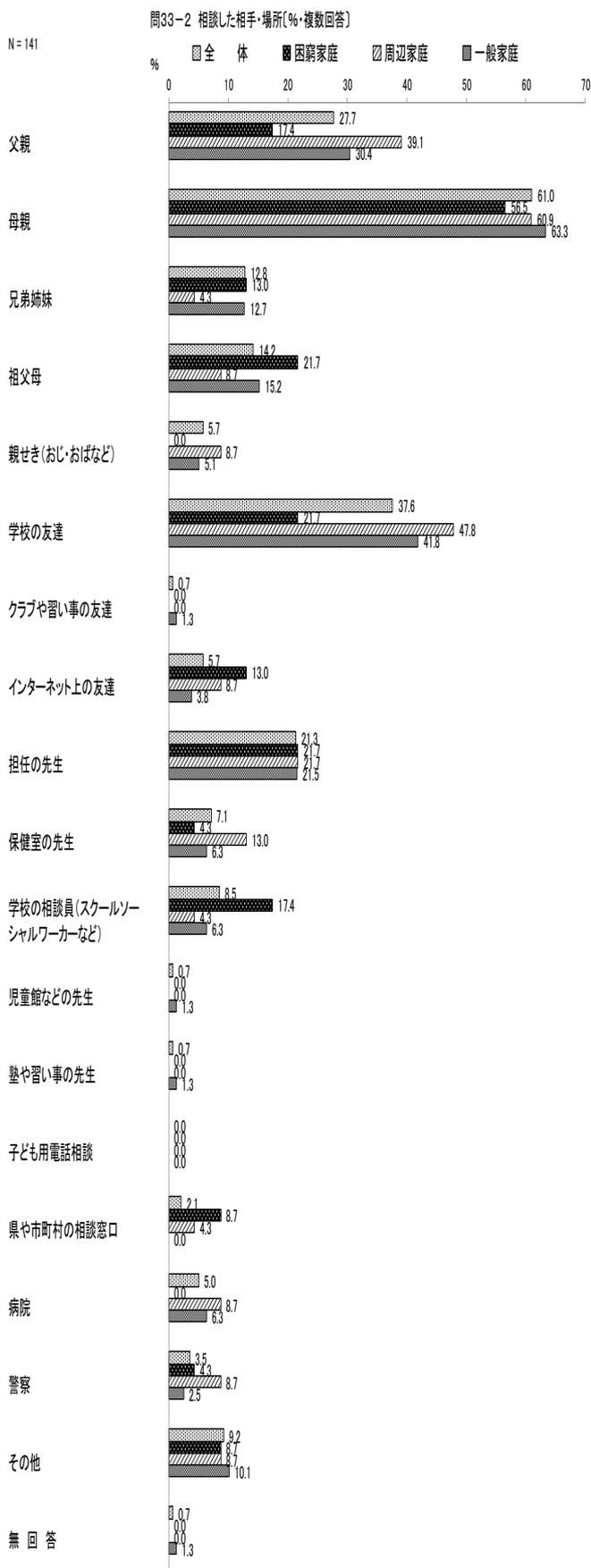
学年別では、中学2年は「担任の先生」が31.6%、16・17歳では「病院」が9.8%と他の学年に比べて多い。

生活困窮度別では、困窮家庭で「母親」、「父親」が他の区分と比べて少なく、「祖父母」が21.7%、「インターネット上の友達」が13.0%、「学校の相談員(スクールソーシャルワーカーなど)」が17.4%、「県や市町村の相談窓口」が8.7%で他の区分に比べてやや多い。

[参考: 前回調査結果]



[参考: 前回調査結果]



## (10)新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響(小学1年以外)

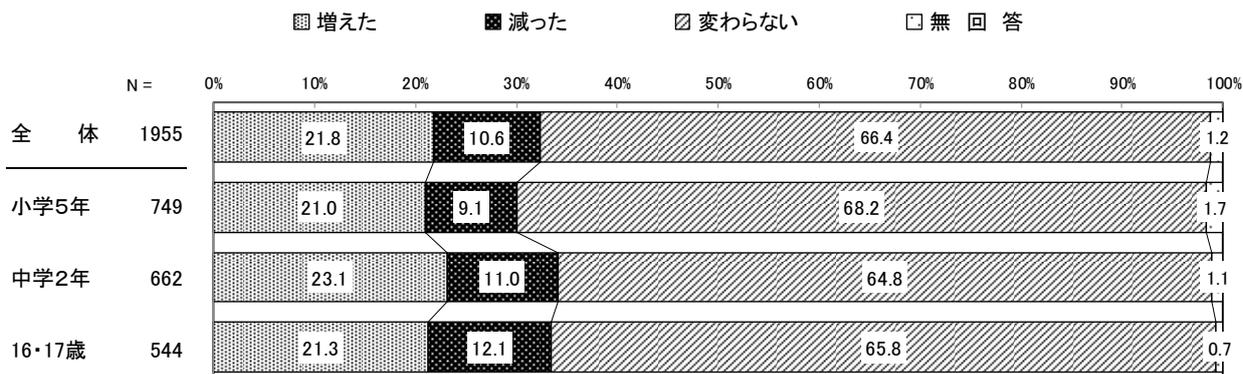
問 34 あなたの現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校になる前(2020年2月以前)と比べて、どのように変わったと思いますか。

### 1) 学校の授業以外で勉強する時間

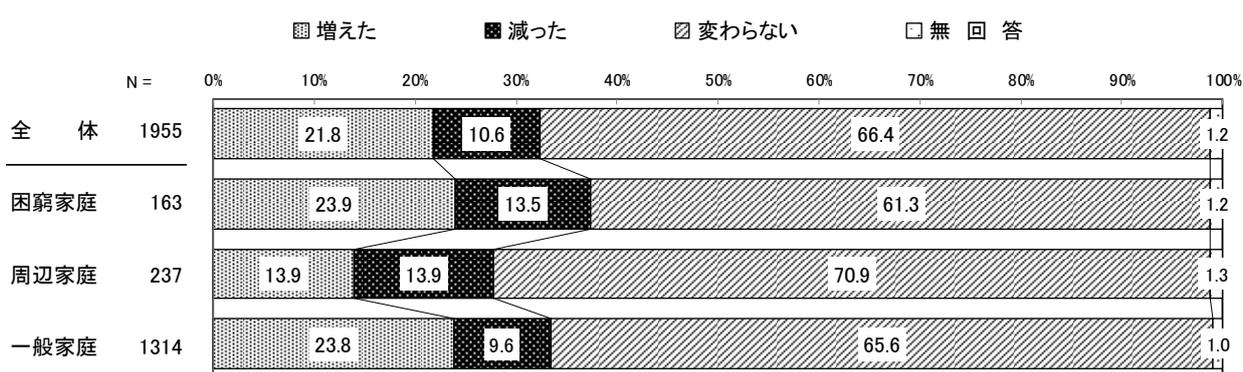
学校の授業以外で勉強する時間は、「増えた」は 21.8%、「減った」が 10.6%、「変わらない」が 66.4%となっている。

生活困窮度別では、「増えた」が周辺家庭で 13.9%と他の区分に比べて少ない。

問34感染症による変化 ①授業以外で勉強する時間[%]



問34感染症による変化 ①授業以外で勉強する時間[%]



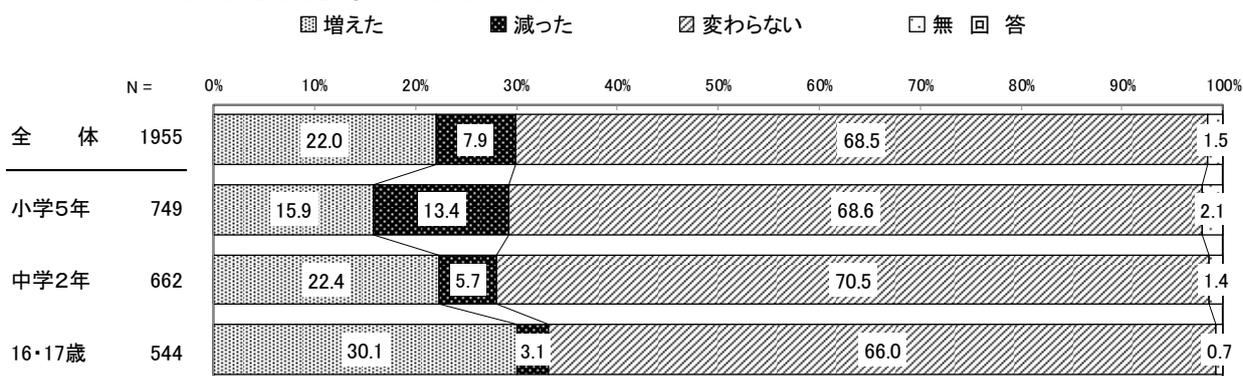
### 2) 学校の授業が分からないと感じること

学校の授業が分からないと感じることが「増えた」が 22.0%、「減った」が 7.9%、「変わらない」が 68.5%となっている。

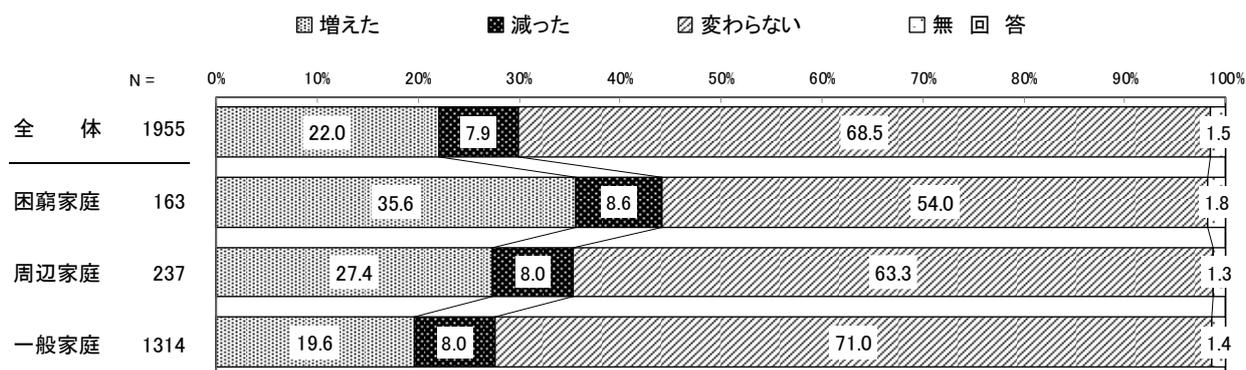
学年別でみると、学年が上がるとその割合が増え、16・17歳で 30.1%となっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「増えた」が 35.6%と他の区分に比べて多い。

問34感染症による変化 ②学校の授業が分からない[%]



問34感染症による変化 ②学校の授業が分からない[%]

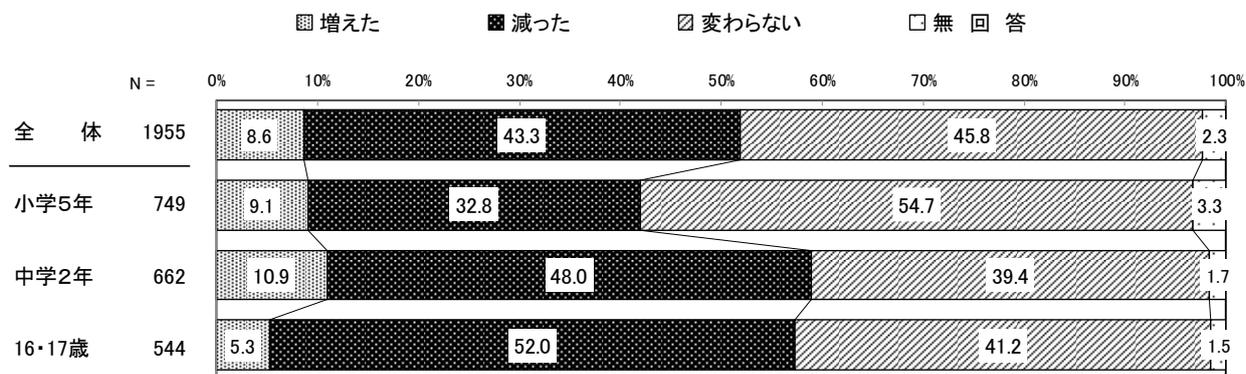


### 3) クラブ活動や部活動で活動する時間

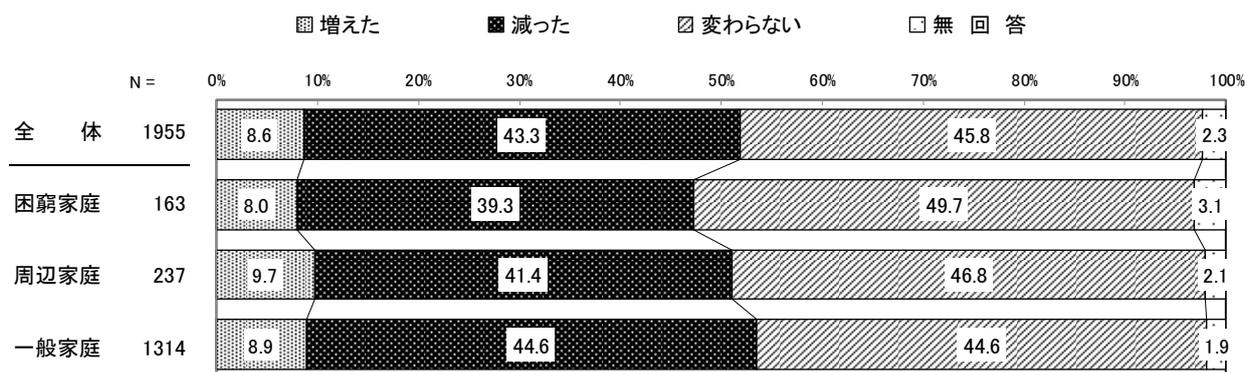
クラブ活動等の活動時間について、「増えた」が8.6%、「減った」が43.3%、「変わらない」が45.8%となっている。

学年別では、「減った」と回答した割合は中学2年で48.0%、16・17歳で52.0%となっている。

問34感染症による変化 ③クラブ活動等の活動時間[%]



問34感染症による変化 ③クラブ活動等の活動時間[%]

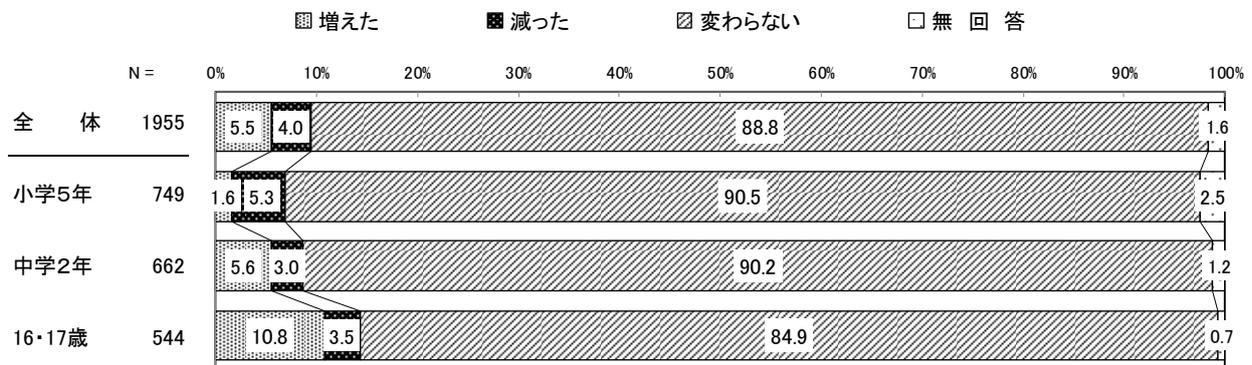


#### 4) 食事を抜く回数

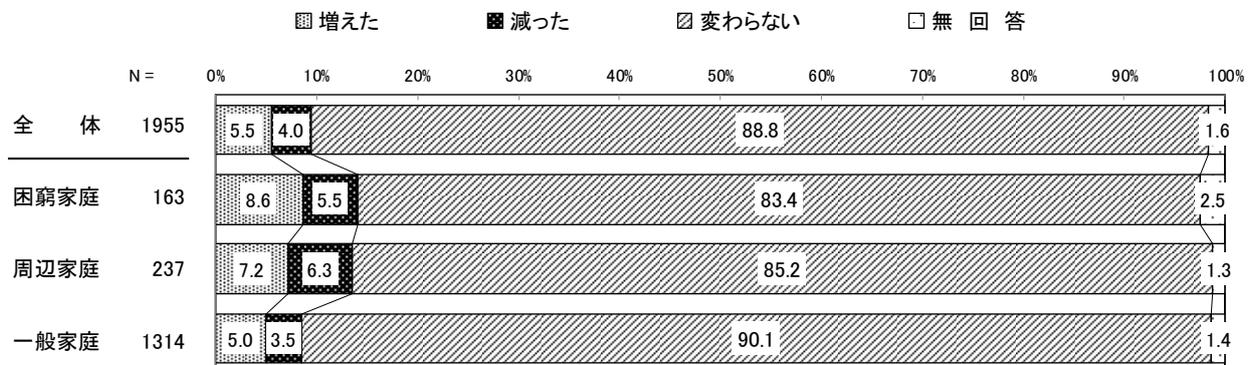
食事を抜く回数は、「増えた」が5.5%、「減った」が4.0%、「変わらない」が88.8%である。

学年別では、「増えた」が小学5年で1.6%だが、学年が上がると多くなり、16・17歳で10.8%である。

問34感染症による変化 ④食事を抜く回数[%]



問34感染症による変化 ④食事を抜く回数[%]

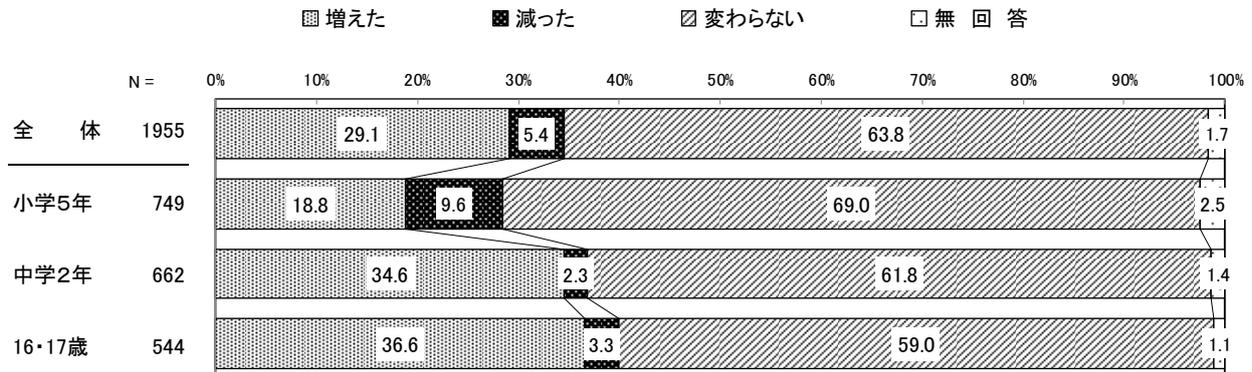


#### 5) 夜遅くまで起きている回数

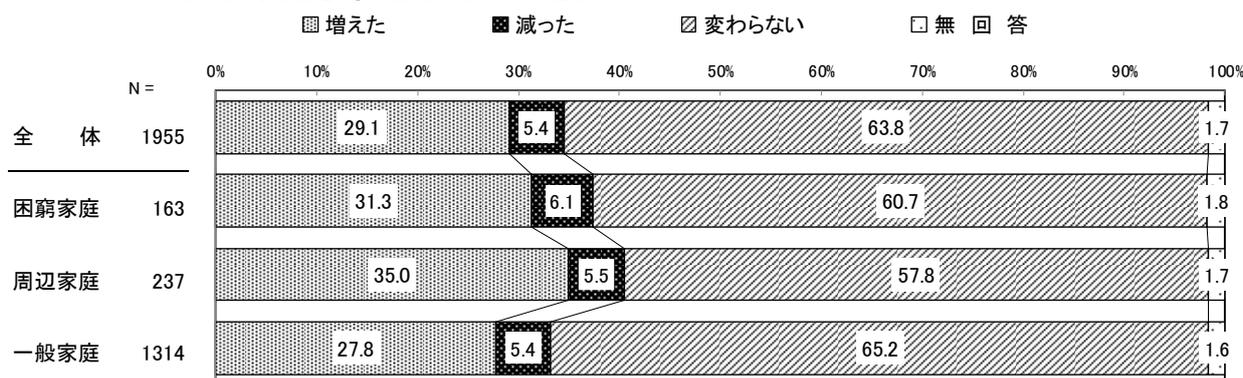
夜遅くまで起きている回数は、「増えた」は29.1%、「減った」は5.4%、「変わらない」が63.8%である。

学年別では、「増えた」が中学2年と16・17歳で35%前後となっており、小学5年と比べて多い。

問34感染症による変化 ⑤夜遅くまで起きている回数[%]



問34感染症による変化 ⑤夜遅くまで起きている回数[%]

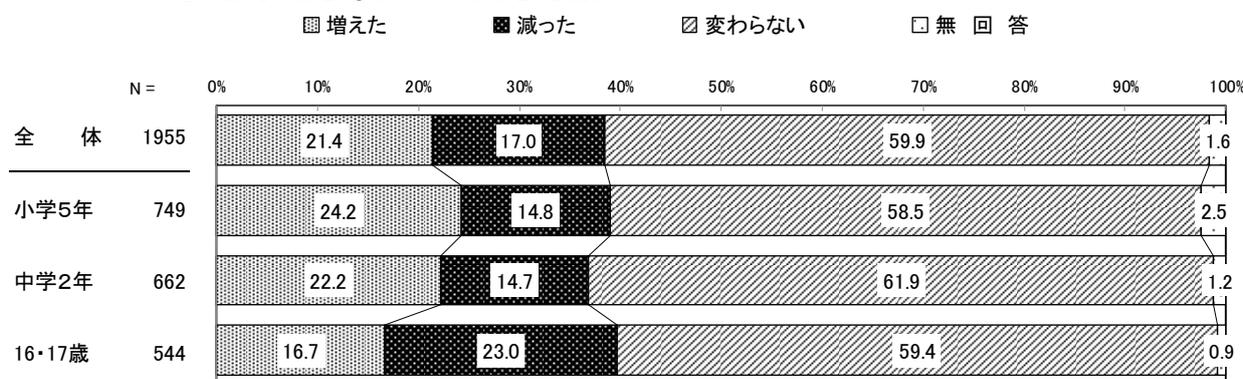


### 6) 親以外の大人や友達と話をすること

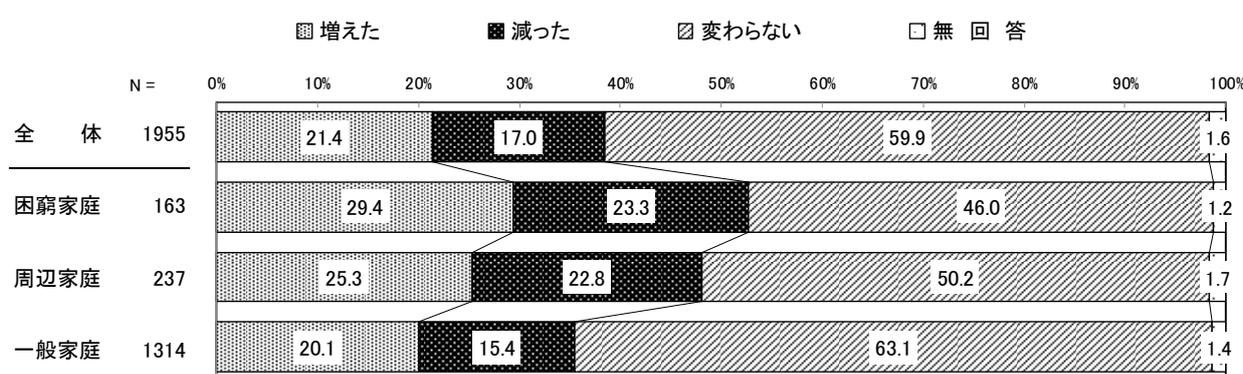
親以外の大人や友達と話をすることについて、「増えた」が21.4%、「減った」が17.0%、「変わらない」が59.9%である。学年別では、16・17歳で「減った」が23.0%と他の学年に比べて多い。

生活困窮度別では、周辺家庭と困窮家庭で「減った」が23%前後と一般家庭より多い。

問34感染症による変化 ⑥他の大人や友達との会話[%]



問34感染症による変化 ⑥他の大人や友達との会話[%]



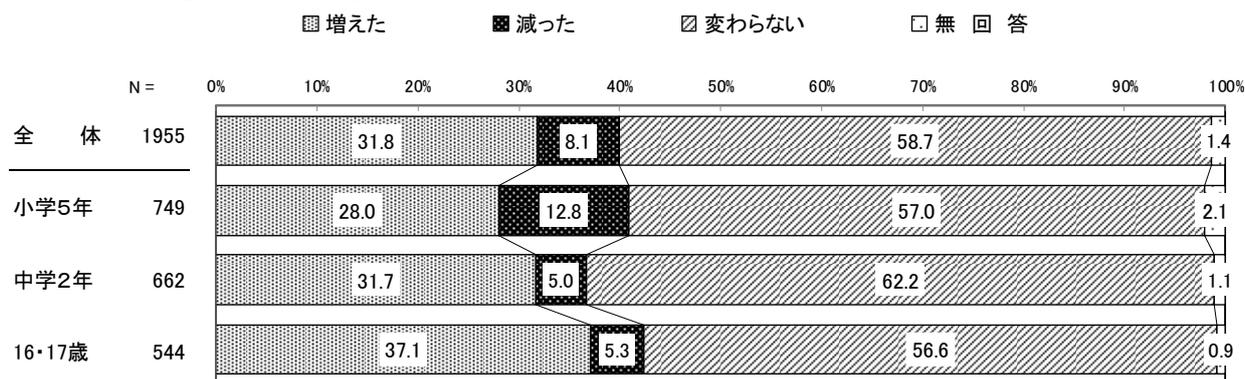
### 7) イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

イライラや不安を感じたり、気分が沈むことについて、「増えた」が31.8%、「減った」が8.1%、「変わらない」が58.7%となっている。

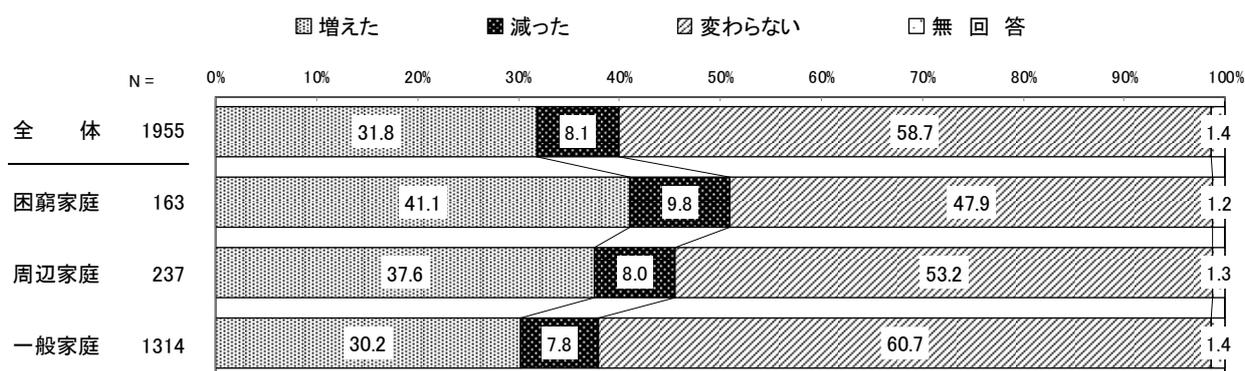
学年別では、「増えた」と回答した割合は、学年が上がるにつれ多くなっている。

生活困窮度別では、「増えた」が周辺家庭で37.6%、困窮家庭で41.1%と一般家庭に比べて多い。

問34感染症による変化 ⑦不安や気分が沈むこと[%]



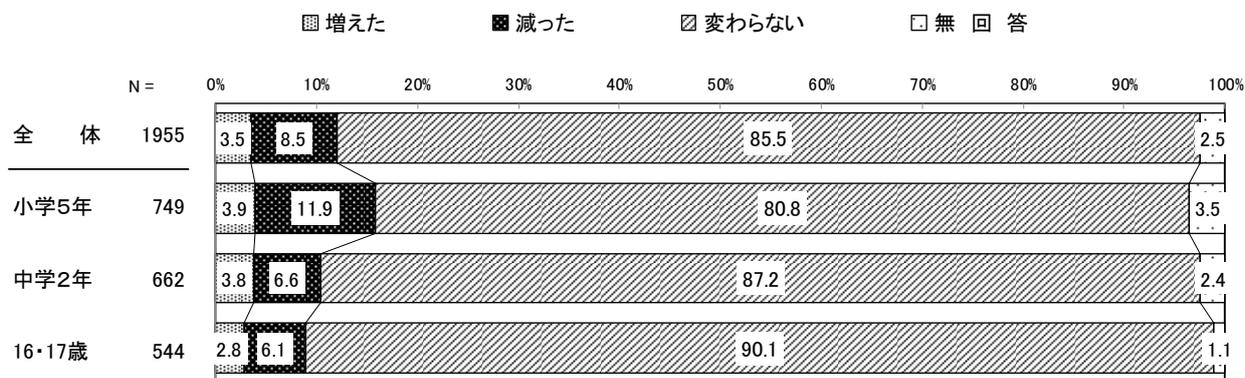
問34感染症による変化 ⑦不安や気分が沈むこと[%]



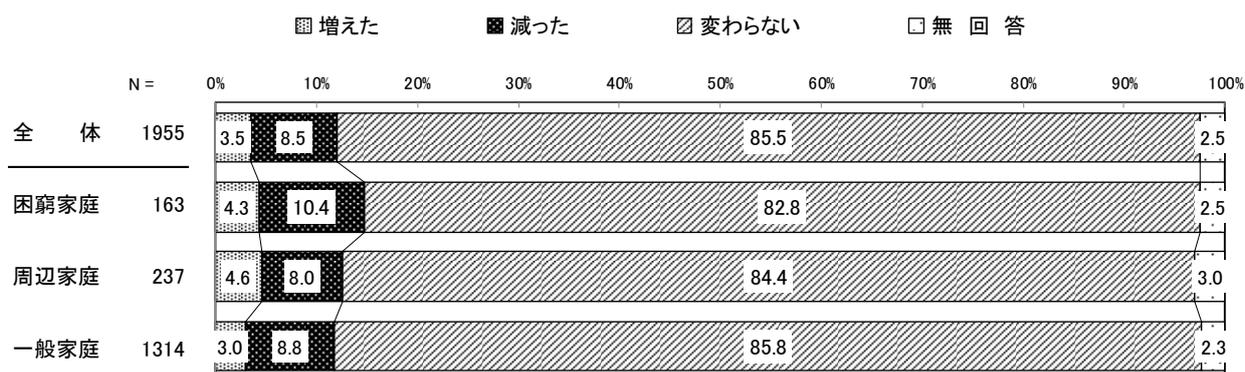
### 8) 親に叩かれる、きつく叱られること

親に叩かれる、きつく叱られることについて、「増えた」が 3.5%、「減った」が 8.5%、「変わらない」が 85.5%となっている。

問34感染症による変化 ⑧親に叩かれる、きつく叱られる[%]



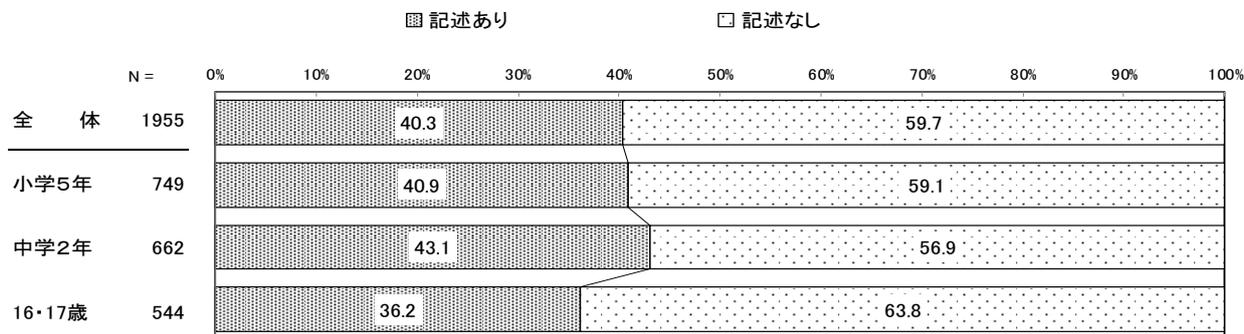
問34感染症による変化 ⑧親に叩かれる、きつく叱られる[%]



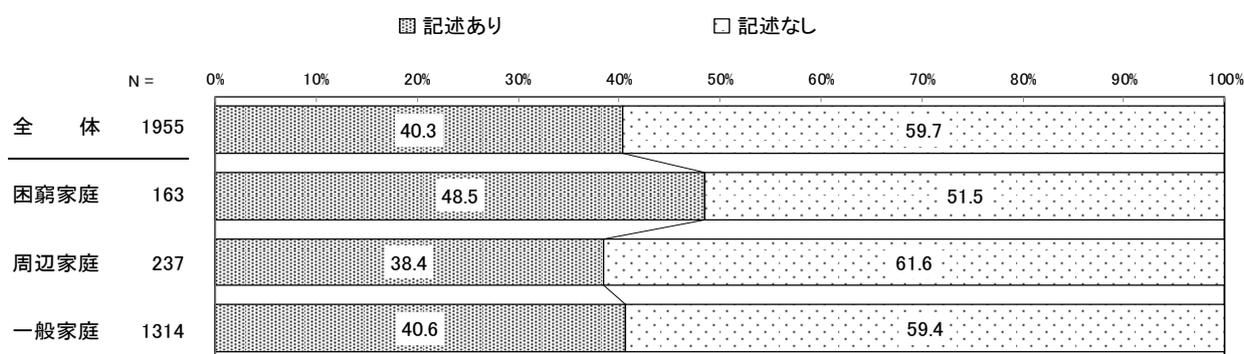
## (11)意見等(小学1年以外)

問 35 あなたが、県や市町村に何でも要望できるとすれば、どのようなことを要望しますか。また、日々の生活で感じていること、困っていることなどを自由に書いてください

問35 自由意見[%]



問35 自由意見[%]



### [自由意見のまとめ上位7項目-小学5年]

順位	内容	件数
1位	<p>学校生活(学校施設、先生、給食等)に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の設備(水道、トイレ、プール、図書室や体育館等)をよくしてほしい。</li> <li>・言葉遣いが悪い先生がいる。先生を変えてほしい。</li> <li>・学校給食をなくさないでほしい。</li> <li>・給食で牛乳じゃない日もつくってほしい。</li> <li>・ランドセルが重い。</li> </ul>	79件
2位	<p>遊び場、体験、施設に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊べる緑地や林、公園、遊園地がほしい。</li> <li>・色々な人とたくさん遊べる場所(施設)ができてほしい。</li> <li>・美術館、水族館、動物園などをつくってほしい。</li> <li>・もっと体験できるものを増やしてほしい。</li> <li>・屋内で遊べる施設、みんなが使えるような快適なサッカーグラウンド、アスレチック施設などがほしい。</li> </ul>	57件
3位	<p>新型コロナウイルス感染症の影響に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PCR検査キットを無料で提供する。</li> <li>・ワクチンを無料でできることを増やしてほしい。</li> <li>・手洗いの仕方など、わかりやすくしてほしい。</li> <li>・マスクを外したい。</li> <li>・マスクはどのような時に外してよいのかはっきり教えてほしい。</li> <li>・地域のお祭りがコロナで減ったので戻してほしい。</li> <li>・親がずっと在宅勤務だといひ。</li> </ul>	41件
4位	<p>環境、社会問題に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県全体にWi-Fiを送る。</li> <li>・ポイ捨てを減らす。</li> <li>・ゴミを減らしてほしい。</li> <li>・自動車のマナーの徹底。</li> <li>・ねこ・くじらを殺さないでほしい。</li> <li>・SDGsのことで、もっと協力しあった方がいいと思う。</li> <li>・ガソリンや色んなものを安くしてほしい。</li> <li>・障害者の人たちもみんなと同じように差別なく、楽に楽しく過ごせるようにしてほしい。</li> </ul>	22件
5位	<p>友達、友人関係に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達がいなくて困っている。</li> <li>・どうしたら友達と仲良くなれるのかわからない。</li> <li>・友だちとの喧嘩、イライラをなくしたい。</li> <li>・男の子に話しかけづらく、何を話したらよいかわからない。</li> <li>・友達にふりまわされて疲れている。</li> <li>・友達にけられる。</li> <li>・学校の友達に体のことでからかわれていて困っている。</li> <li>・自分の名前に変なあだ名を付けられて困る。</li> <li>・同じ性別で、大人じゃない、同級生たちと自由に過ごしたい。</li> </ul>	21件
6位	<p>家庭(両親、兄弟、経済的なことなど)のこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少し親や家族が子どもの気持ちをわかってくれるといい(もらいたい)。</li> <li>・お父さんとお母さんがこわく、ひどい言葉やよく叩かれる。</li> <li>・塾に行きたいけど行けない。</li> <li>・親の仕事のことだが、給料をあげてほしい。</li> <li>・関わりたくない大人との関わりを減らしてほしい。</li> </ul>	17件
7位	<p>勉強に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日学校で勉強がわからなくて勉強についていけないことが困っている。</li> <li>・勉強ができるようになりたい。</li> <li>・勉強がもっと得意になりたいので無料の勉強会を開いてほしい。</li> <li>・勉強を教えてくれる場所がほしい。</li> </ul>	13件

[自由意見のまとめ上位7項目-中学2年]

順位	内容	件数
1位	学校に関すること	61件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生を選べるようにしてほしい。</li> <li>担任の先生の変更をしてほしい。</li> <li>学校の校則を変えてほしい。</li> <li>勝手にクラス替えをしないでほしい。</li> <li>コロナ前と同じように学校行事をもっとしてほしい。</li> <li>給食をもう少しおいしくしてほしい。</li> <li>制服をもっと着やすくしたり、安くしてほしい。</li> <li>夏休みをもっと長くしてほしい。</li> </ul>	
2位	施設(商業・娯楽・運動など)や居場所に関すること	53件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>もっと若者が安心して遊べる所やくつろげる場所を増やしてほしい。</li> <li>もっと娯楽施設を増やしてほしい。</li> <li>中学生が楽しいと思う施設が増えてほしい。</li> <li>ショッピングモール等で買い物をしたい。</li> <li>映画館をつくってほしい。</li> <li>バスケットボールのコートを近くに増やしてほしい。</li> </ul>	
3位	学校の設備に関すること	35件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校の校舎が古いので建て替えてほしい。</li> <li>学校をきれいにしてほしい。</li> <li>学校からエアコンのない教室をなくしてほしい。</li> <li>学校の体育館にエアコンを付けてほしい。</li> <li>学校の椅子と机をもう少し快適なものにしてほしい。</li> <li>ガタガタして勉強に集中できない。</li> <li>学校で使うインターネットの環境を整えてほしい。</li> </ul>	
4位	お金に関すること	33件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校・大学の無償化。</li> <li>給食費の無償化を望む。</li> <li>給付金が欲しい。</li> <li>減税してほしい。</li> <li>物価を安くしてほしい。</li> <li>中学校や小学校のうちから「お金の使い方」を学べるようにしてほしい。</li> <li>子育てにはお金がかかるので、もっと手厚く援助してほしい。</li> </ul>	
5位	授業や学習に関すること	30件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>もっとわかりやすい授業を受けたい。</li> <li>定期テストをなくしてほしい。</li> <li>英語の授業で、話したり聞いたり書いたりするのが苦手で、どうすればよいかわからない。</li> <li>勉強でわからない事が多いから困っている。</li> <li>宿題を減らしてほしい。</li> <li>水泳の授業をなくしてほしい。</li> <li>パソコンを使う授業を多くする。</li> <li>リモート授業ができるようにしてほしい。</li> </ul>	
6位	道路の安全や整備、生活環境に関すること	27件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>道をもっと安全にしてほしい。</li> <li>通学路の歩道を広げてほしい。</li> <li>道路の舗装をしてほしい。</li> <li>草がたくさんあって、通学路が歩きにくいと感じているので、草を刈ってほしい。</li> <li>家の前の横断歩道に信号機を設置してほしい。</li> <li>T字路のカーブミラーを増やしてほしい。</li> <li>街灯を増やしてほしい。</li> <li>道や家の敷地内にごみがたくさんあって困るので、呼びかけや、ごみを捨てられるものがあるとよい。</li> </ul>	
7位	いじめや不登校、人間関係に関すること	25件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめをなくしてほしい。</li> <li>仲がよくて気の合う友だちがほしい。</li> <li>友人から陰口を叩かれるのがつらい。</li> <li>友達と呼べる人がいるかわからない。</li> <li>不登校の子どもにとって相談できる場所、教室に行きづらい子のための場所はとも支えになるので、そういった場所がある学校がたくさんできてほしい。</li> </ul>	

[自由意見のまとめ上位7項目-16・17歳]

順位	内容	件数
1位	施設(商業・娯楽・運動等)に関すること	39件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>大型ショッピングセンター等を増やしてほしい。</li> <li>若い人が好んで利用する商業施設をもっと増やしてほしい。</li> <li>遊ぶところをもっと増やしてほしい。</li> <li>若者が楽しめるような施設が少ないと感じる。</li> </ul>	
2位	公共交通機関に関すること	32件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>バスの本数を増やしてほしい。</li> <li>土日もバスを出してほしい。</li> <li>通学時間帯の電車等の交通機関の本数を増やしてほしい。</li> <li>電車の本数が少なく、通学に不便を感じることもある。</li> </ul>	
3位	勉強ができる場所・居場所等に関すること	31件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>勉強できる場所がほしい。</li> <li>学校の近くに気軽に利用できる自習スペース(フリースペース)がほしい。</li> <li>放課後学校にいられなくなってしまった時に、無料で居られる場所がほしい。</li> </ul>	
4位	道路の整備や街灯の設置に関すること	27件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路等のインフラをもう少し整備してほしい。</li> <li>街灯を増やしてほしい。</li> <li>自転車専用道路がほしい。</li> <li>道路をきれいにしてほしい。</li> <li>歩道が狭く、危険な道を少なくしてほしい。</li> </ul>	
5位	学校の設備等に関すること	23件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校設備をきれいにしてほしい。</li> <li>校舎をきれいにしてほしい。</li> <li>学校のトイレをきれいにしてほしい。</li> <li>エアコンをつけている部屋を増やしてほしい。</li> <li>エアコンをもう少し涼しくしてほしい。</li> </ul>	
6位	学校の授業や行事に関すること	22件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休みを31日までにしてほしい。</li> <li>学校行事を増やしてほしい。</li> <li>教材が多く通学が大変なので、紙の教材を減らし、もっとタブレットを活用できるようにしたい。</li> <li>リモート授業を増やしてほしい。</li> </ul>	
7位	進学や学費等に関すること	19件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>私立高校の授業料を無償化してほしい。</li> <li>大学授業料の支援金があればよいと思う。</li> <li>母子家庭なので学費を免除、または支援金などの手当を増やしてほしい。</li> </ul>	

## 6. 支援機関等調査結果

本県の子どもの生活実態を把握するため、子ども本人とその保護者を対象にアンケート調査を実施するにあわせ、支援者側から見た困難な環境にある子どもと子育て家庭の状況、支援活動の実態等を把握するため、支援機関等に対しアンケート調査を実施した。

[実施要領]

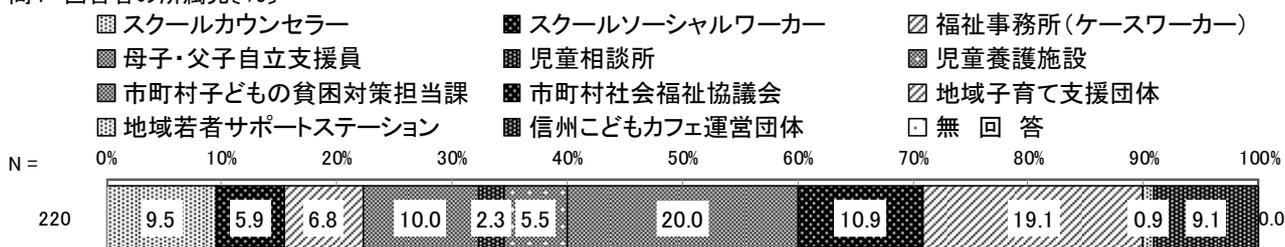
調査対象	スクールカウンセラー スクールソーシャルワーカー 福祉事務所 母子・父子自立支援員 児童相談所 児童養護施設 市町村子どもの貧困対策担当課 市町村子どもの貧困対策担当課 地域子育て支援団体 地域若者サポートステーション 信州子どもカフェ運営団体(合計 653 か所)
調査方法	インターネット調査
調査期間	6月 22 日～7月 15 日(31 日到着分まで調査期間を延長)
回答状況	220 か所(33.7%)

### (1)回答者の状況

問 1 あなたの所属先または、あなた自身について、あてはまるものを一つ選んでください。

回答状況は、「市町村子どもの貧困対策担当課」と「地域子育て支援団体」の回答がそれぞれ 20%程度、「母子・父子自立支援員」と「市町村社会福祉協議会」がそれぞれ 10%程度などとなっている。

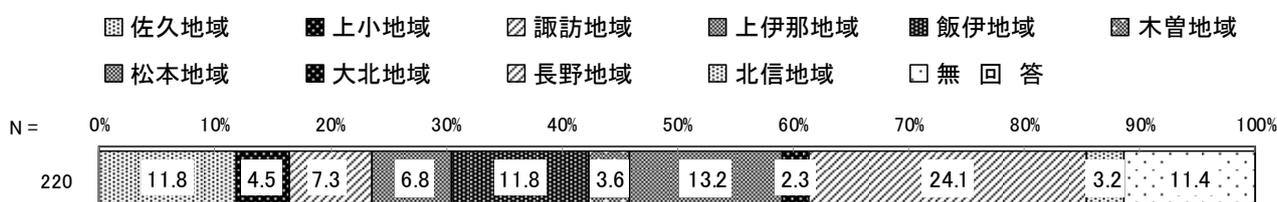
問1 回答者の所属先〔%〕



問 2 あなた(貴団体)の所在地はどちらですか。

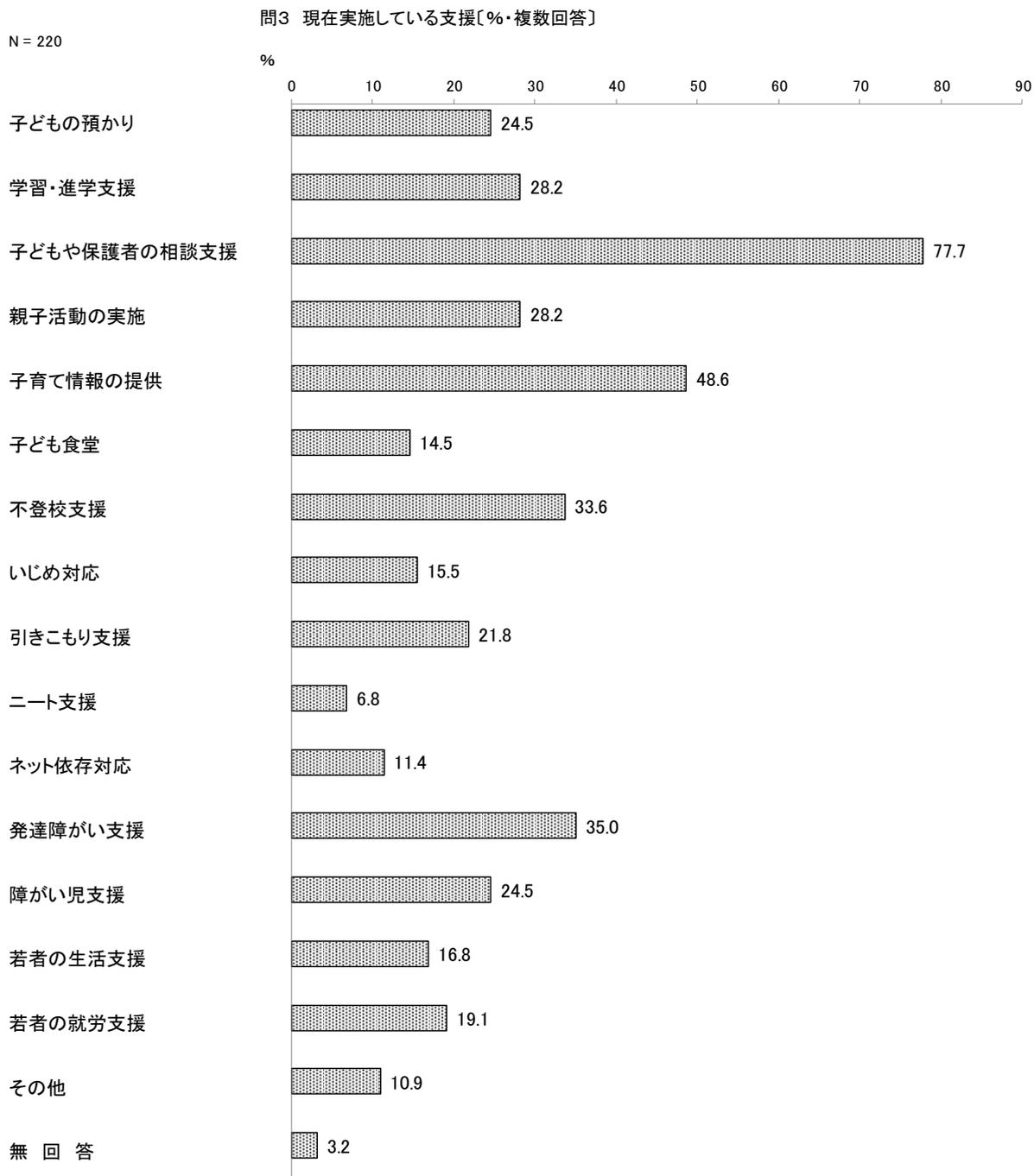
「長野地域」が 24.1%、「松本地域」が 13.2%、「佐久地域」と「飯伊地域」がともに 11.8%などとなっている。

問2 所在地〔%〕



### 問3 現在実施している支援内容を教えてください。

現在実施している支援内容は、「子どもや保護者の相談支援」が77.7%と最も多く、次いで「子育て情報の提供」が48.6%、「発達障がい支援」と「不登校支援」がそれぞれ35%程度である。



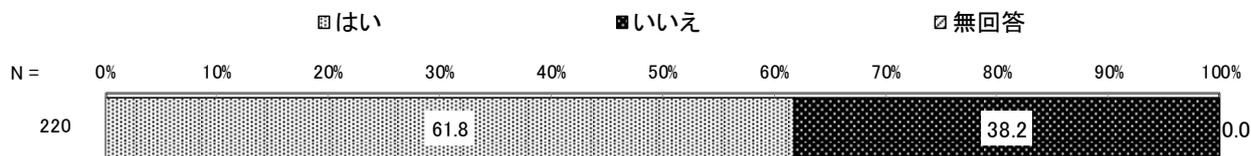
その他では、母子のひとり親家庭の支援、子育て家庭の支援や経済的支援などがみられる。

## (2) 経済的困難を抱える子どもの把握及び支援

問 4 関わる業務の中で経済的困難を抱える子どもを把握していますか。

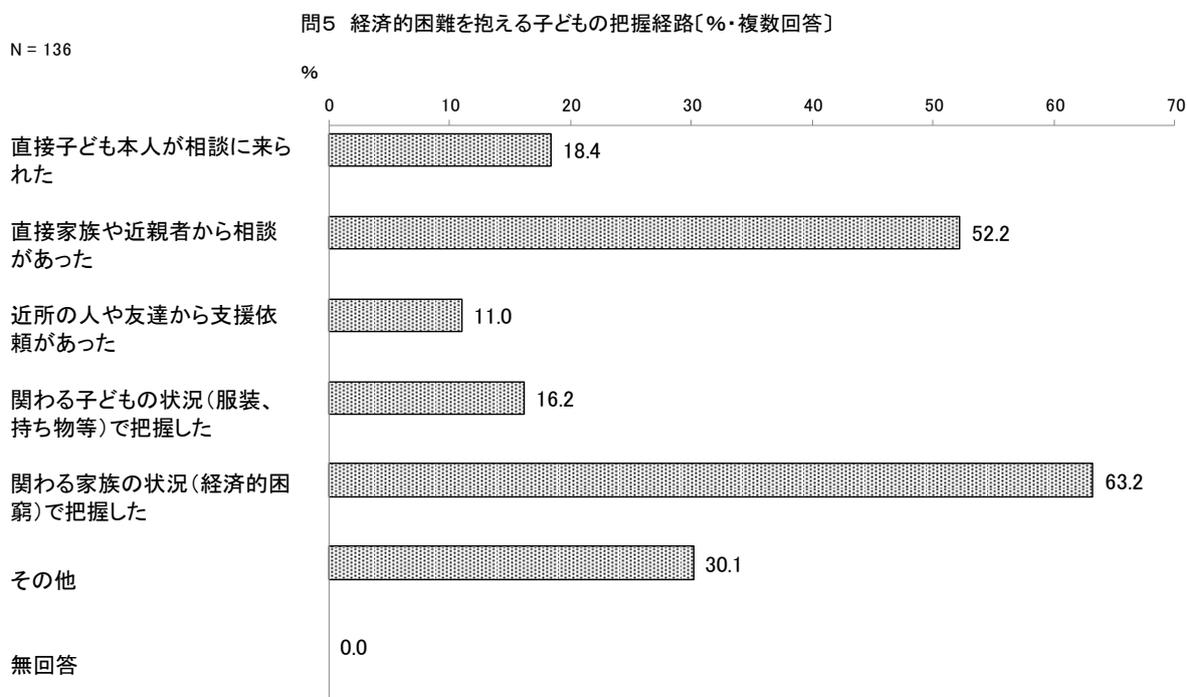
関わる業務の中での経済的困難を抱える子どもの把握状況は、「はい」が 61.8%、「いいえ」は 38.2%である。

問4 関わる業務の中で経済的困難を抱える子どもの把握状況[%]



問 5 【問 4 で「はい」と答えた方】それはどのような経路で把握しましたか。

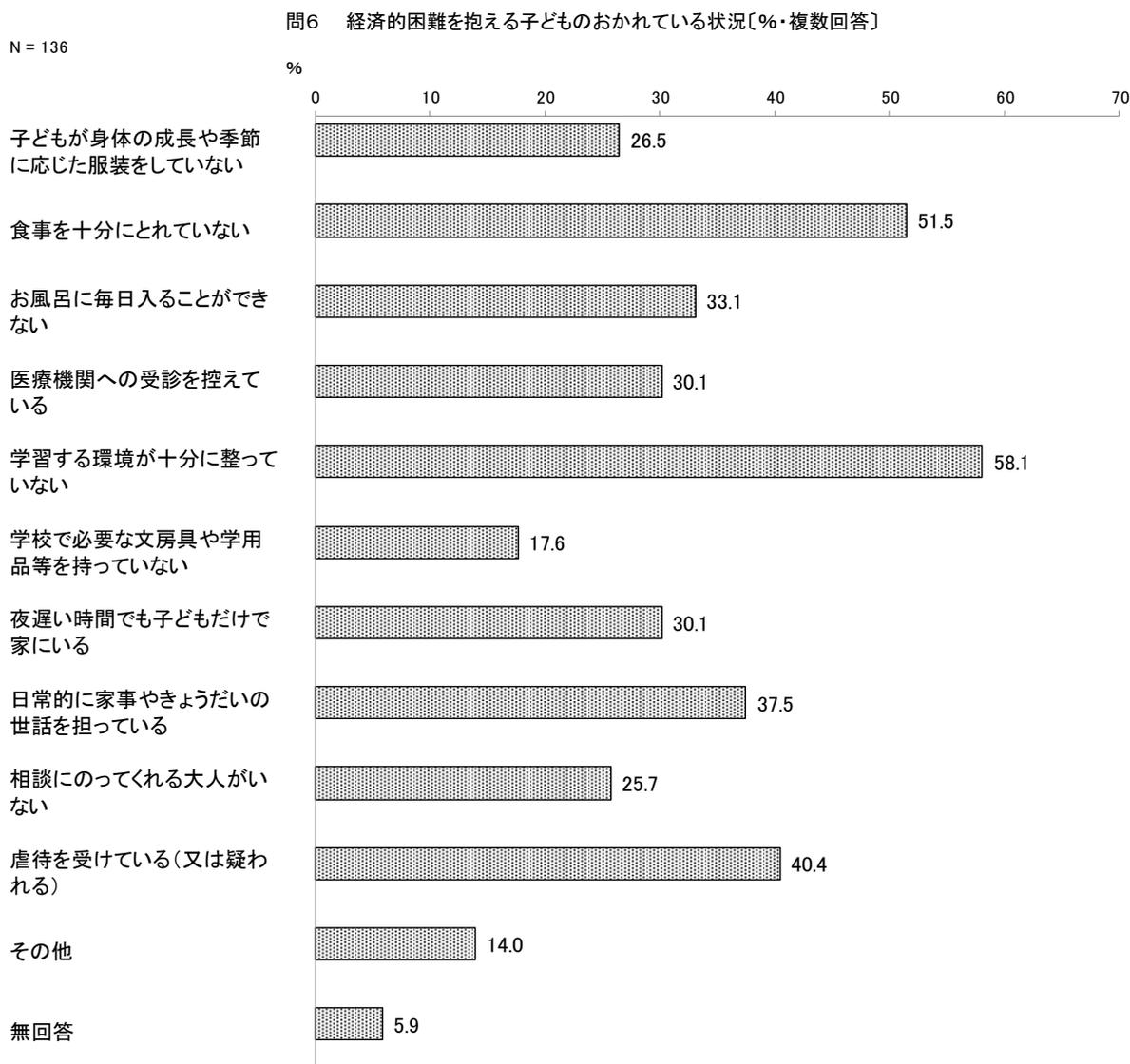
経済的困難を抱える子どもの把握経路は、「関わる家族の状況(経済的困窮)で把握した」が 63.2%、「直接家族や近親者から相談があった」が 52.2%などとなっている。



その他では、学校や保育園や関係機関から、要保護児童対策地域協議会などが把握経路としてあげられている。

問6 そのような家庭の子どもはどのような状況におかれていましたか。

経済的困難を抱える子どものおかれている状況は、「学習する環境が十分に整っていない」が58.1%と最も多く、次いで「食事を十分にとれていない」が51.5%、「日常的に家事やきょうだいの世話を担っている」と「虐待を受けている(又は疑われる)」がそれぞれ40%前後などとなっている。

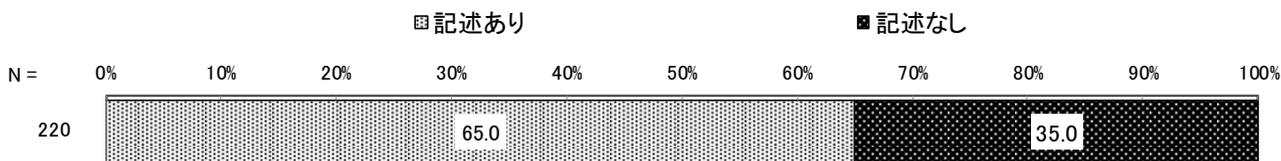


その他では、通学等で困っている、進学をあきらめるや経済的に保護者が課題を抱えている・不安定なことなどがあげられている。

問7 支援を行う上でどのようなことに気をつけていますか。(自由記載)

支援を行う上で気をつけていることについて、「関係機関との連携や情報収集に関すること」や「寄り添う支援や信頼関係に関すること」、「プライバシーに関すること」などがあげられている。

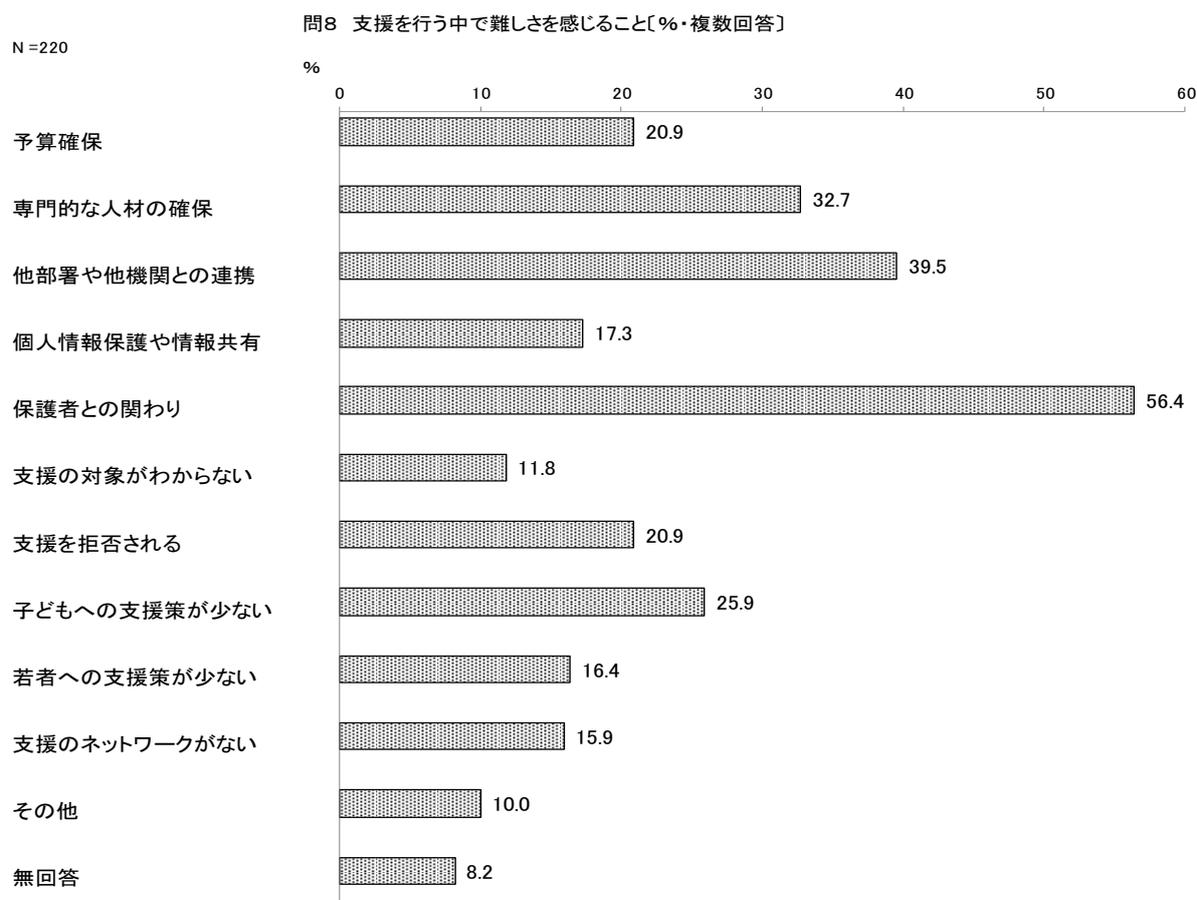
問7 支援を行う上で気をつけていること(記述)



順位	問7 支援を行う上で気をつけていること	件数
1位	関係機関との連携や情報収集に関すること	35件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関への周知と情報提供をお願いしている。</li> <li>把握した状況で関係機関との連携を素早く行うこと。</li> <li>医療機関受診勧奨を行っている。</li> <li>行政との連携。</li> <li>対応可能な機関へスムーズに繋がられるよう、どのような支援機関があるのか情報収集をする等、意識している。</li> </ul>	
2位	寄り添う支援や信頼関係に関すること	24件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者に寄り添い、話を聞く。</li> <li>信頼関係を慎重に築くこと。</li> <li>保護者との信頼関係を構築した上で、押しつけにならないように、保護者の困り感のあるところから具体的支援を進めていくこと。</li> <li>子どもそれぞれに寄り添った学習支援に努める。</li> </ul>	
3位	プライバシーに関すること	各22件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>プライバシーへの配慮、当事者の意思を尊重する。</li> <li>個人情報などプライバシーの保護。相談者からの了解を得て、関係機関と連携しながら支援を行う。</li> <li>子どもに貧困の支援を受けている事をなるべくわからないようにする。</li> </ul>	
	本人、保護者の意思を尊重すること	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人、及び家族の意向。</li> <li>保護者と子どもの関係が悪くならないように配慮している。</li> <li>十分に相談者の話を聴くこと、あくまでも相談者を主体に意見を尊重し傾聴する。</li> <li>支援を受ける側も選択できる声かけをする。</li> </ul>	

### 問8 支援を行う中で、どのような難しさを感じていますか。

支援を行う中で難しさを感じることは、「保護者との関わり」が56.4%、「他部署や他機関との連携」が39.5%、「専門的な人材の確保」が32.7%などとなっている。



その他では、保護者・家族の問題認識が乏しい、保護者の意識変容を図りにくいや対応する職員の確保などがあげられている。

問9 経済的困難を抱える子どもを支援する上で他機関と連携していますか。

経済的困難を抱える子どもを支援する上での他機関との連携状況は、『連携している』（「常に連携している」と「必要に応じて連携している」の計）が 81.9%、『連携していない』（「あまり連携していない」と「連携していない」の計）が 12.3%となっている。

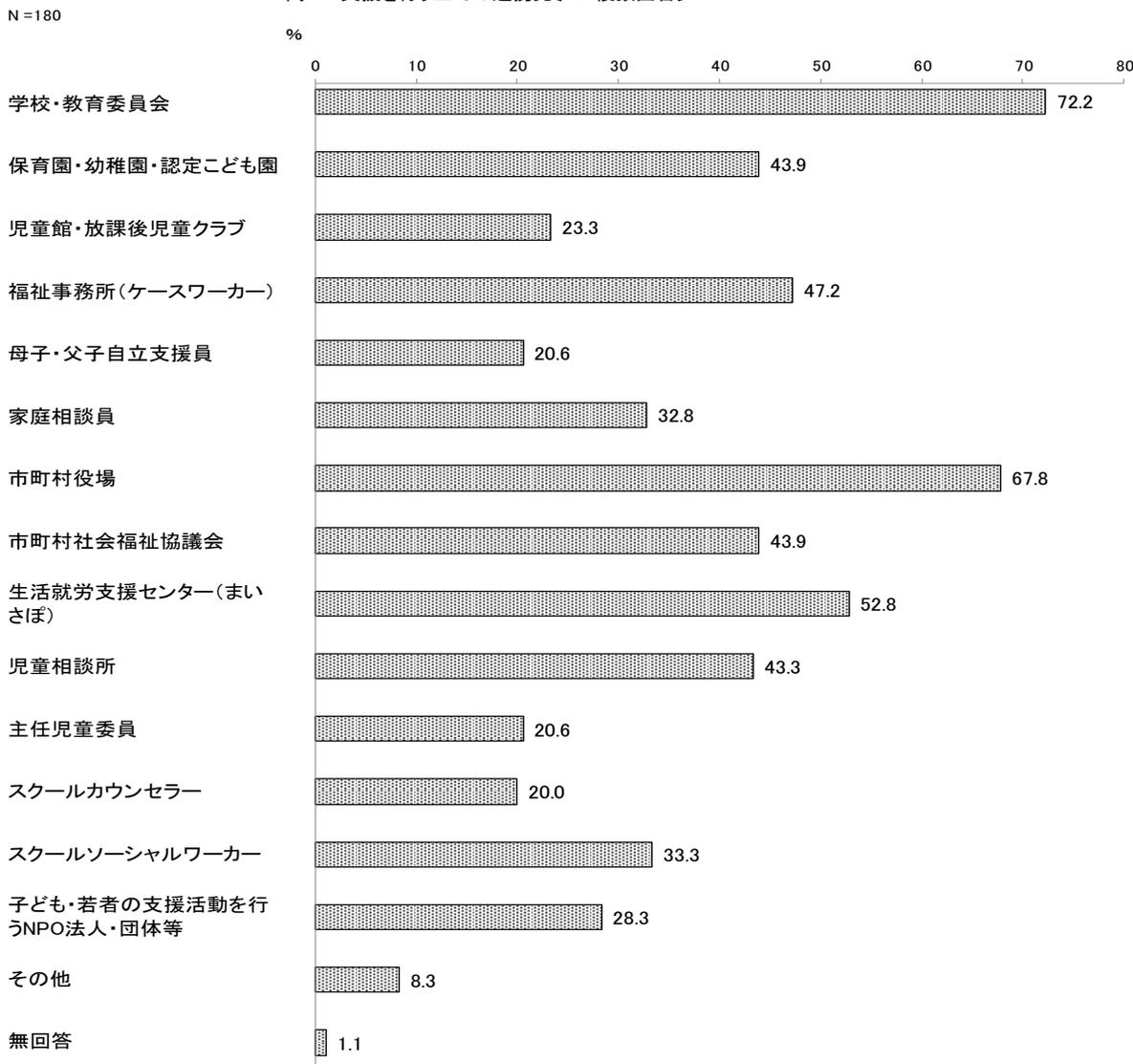
問9 経済的困難を抱える子どもを支援する上で他機関との連携状況[%]



問10 【問9で「常に連携している」、「必要に応じて連携している」と答えた方】支援を行う上での連携先を教えてください。

支援を行う上での連携先は、「学校・教育委員会」が 72.2%で最も多く、次いで「市町村役場」が 67.8%、「生活就労支援センター(まいさぼ)」が 52.8%、「福祉事務所(ケースワーカー)」が 47.2%などとなっている。

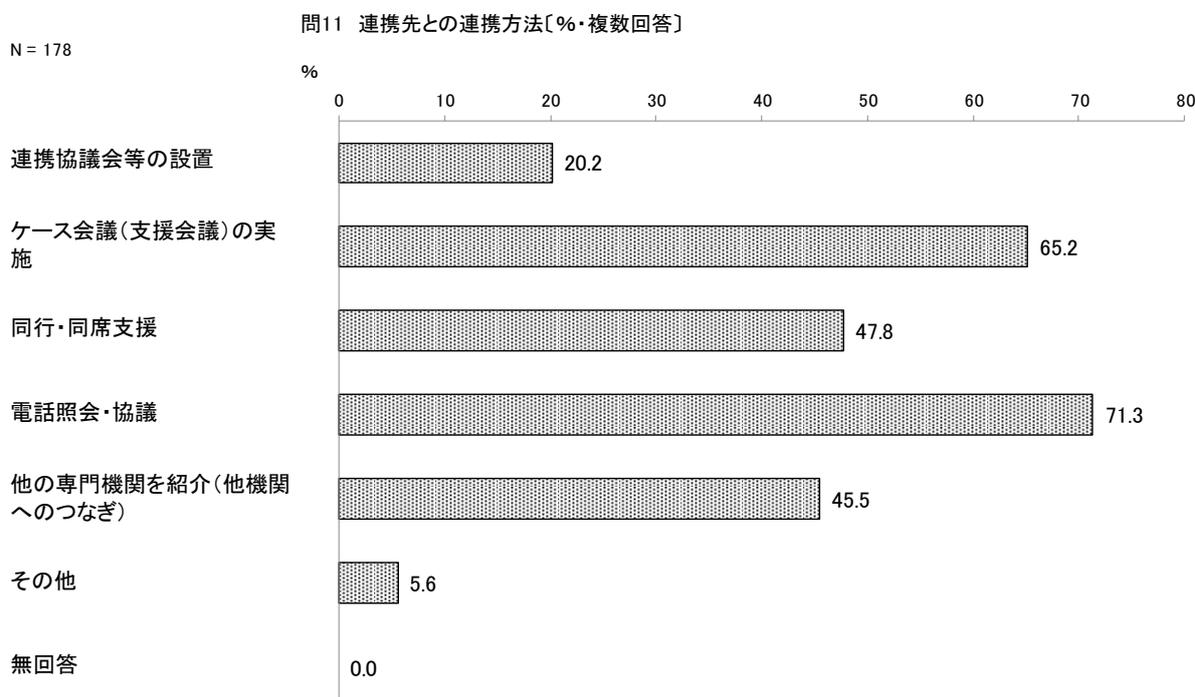
問10 支援を行う上での連携先[%・複数回答]



その他では、保健センター・保健師、障がい者相談支援機関や医療機関、警察、弁護士などがあげられている。

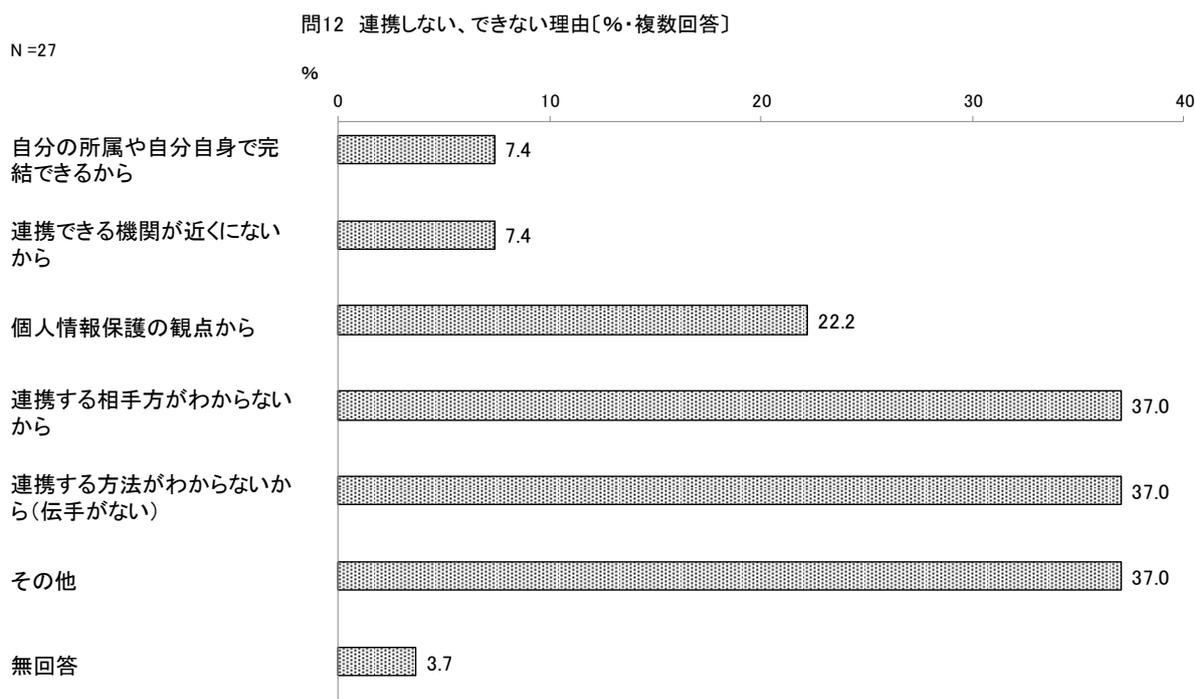
問 11 問 10 で答えた連携先との連携方法を教えてください。

連携先との連携方法は、「電話照会・協議」が 71.3%と最も多く、次いで「ケース会議(支援会議)の実施」が65.2%、「同行・同席支援」が47.8%、「他の専門機関を紹介(他機関へのつなぎ)」が45.5%などとなっている。



問 12 【問 9 で「あまり連携していない」、「連携していない」と答えた方】連携しない、できない理由をおしえてください。

連携しない、できない理由は、「連携する相手方がわからないから」、「連携する方法がわからないから(伝手がない)」がともに 37.0%と最も多く、次いで「個人情報保護の観点から」が 22.2%となっており、「その他」も 37.0%回答されている。

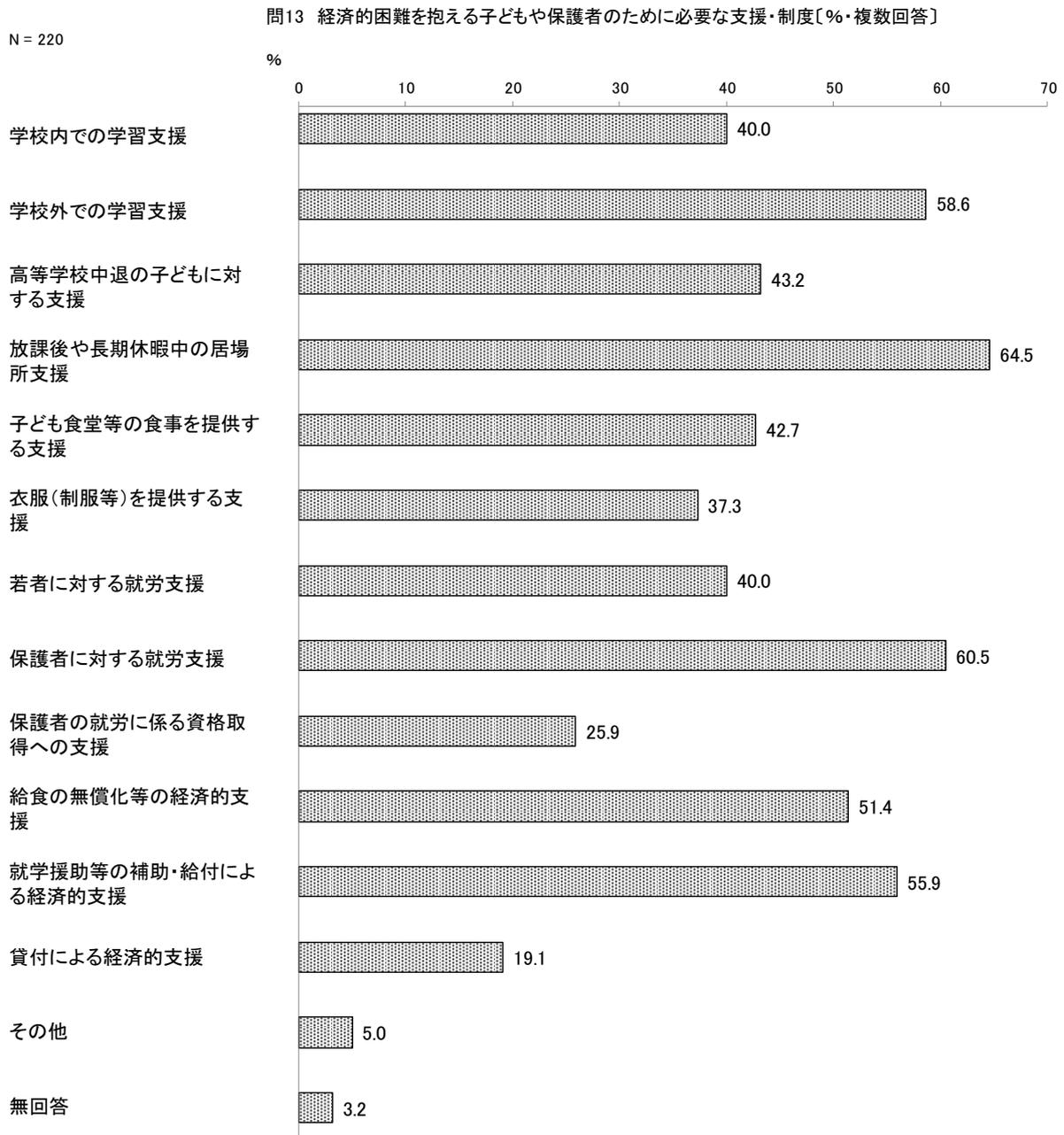


その他では、該当者がいない、相談があれば連携するなどがあげられている。

### (3)子どもの貧困対策の推進

問 13 経済的困難を抱える子どもや保護者のためにどのような支援・制度が必要だと考えますか。

経済的困難を抱える子どもや保護者のために必要な支援・制度は、「放課後や長期休暇中の居場支援」が 64.5%と最も多く、次いで「保護者に対する就労支援」が 60.5%、「学校外での学習支援」が 58.6%、「就学援助等の補助・給付による経済的支援」が 55.9%となっている。

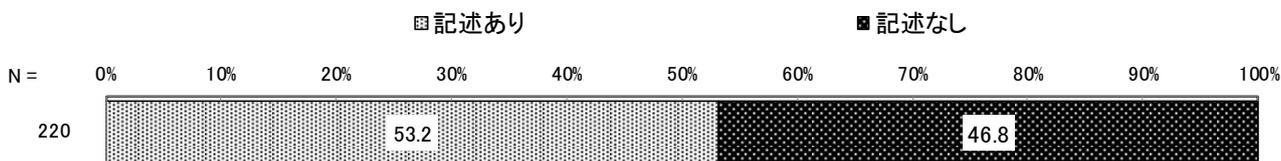


その他では、金銭管理、生活・家事支援や支援の前の連携や相談などがあげられている。

問 14 支援を充実していくために、関係機関がどのように連携していったらいいと考えますか。

支援を充実するための関係機関との連携方法について、「情報共有や情報交換に関すること」や「一括した連携、情報発信の仕組みに関すること」などがあげられている。

問14 支援を充実するための関係機関との連携（記述）



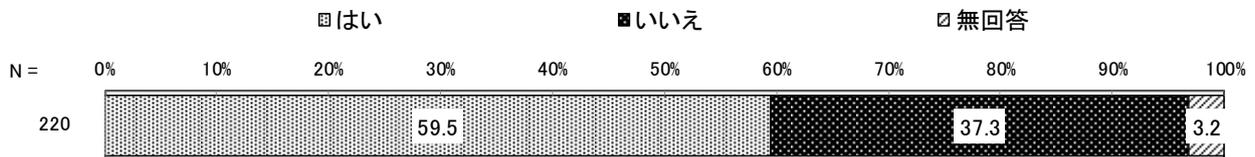
順位	問14 支援を充実するための関係機関との連携	件数
1位	情報共有や情報交換に関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>・本当に支援が必要な保護者等は自分からSOSを出してこないことが多いので、関係機関で情報共有を図る。</li> <li>・情報共有。</li> <li>・学校、地域、行政機関等からの情報共有。</li> <li>・定期的な情報共有を密に行う。</li> </ul>	29件
	一括した連携、情報発信の仕組みに関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>・貧困に対する担当課の窓口一本化。</li> <li>・キーとなる機関をはっきりさせる。</li> <li>・妊娠・出産からの切れ目のない積極的な支援。</li> <li>・重曹的支援を円滑に行うために、中心となるところがどこか明確にしていく。</li> </ul>	
2位	支援会議等連携の場の設定に関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>・各機関が風通しよく情報交換ができる場。</li> <li>・関係機関が一同に集まり、情報共有・役割分担をする会議を開くとよいと思う。</li> <li>・包括的な支援会議を定期的に行う。</li> <li>・支援者に対する支援時間を増やすためにも、支援会議は少なくするべきと考える。</li> </ul>	16件
	役割分担の明確化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題と対応方針の共有、役割分担の明確化。</li> <li>・役割が不明確なため、繋いでいいのか、信頼におけるのか明確な指標が必要。</li> <li>・役割を明確にしながら情報共有等の連携を密に図っていく必要があると考える。</li> </ul>	
4位	密な連携、つながり、ネットワークなどに関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から顔が見える関係で連携していく。</li> <li>・他機関で連携を取り合えるようにネットワークづくり。</li> <li>・行政では異動で引き継ぎ者との関係性を新たに築くのは大変である。</li> </ul>	各11件

#### (4)新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響

問 15 業務や活動に新型コロナウイルス感染症の影響はありましたか。

業務や活動への新型コロナウイルス感染症の影響の有無は、「はい」が 59.5%と多く、「いいえ」が 37.3%となっている。

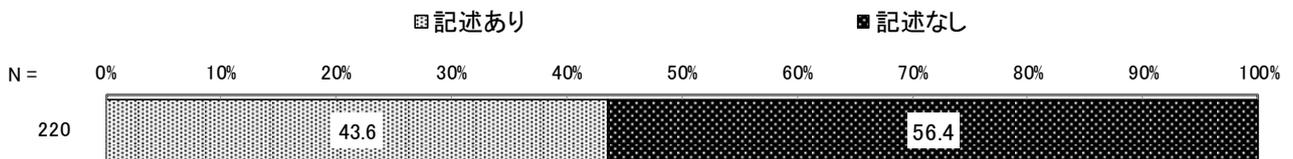
問15 新型コロナウイルス感染症の影響の有無〔%〕



問 16 具体的にどのような影響がありましたか。

具体的な影響や変化については、「活動、会議、訪問の中止・延期」や「対面以外での面談や会議」などがあげられている。

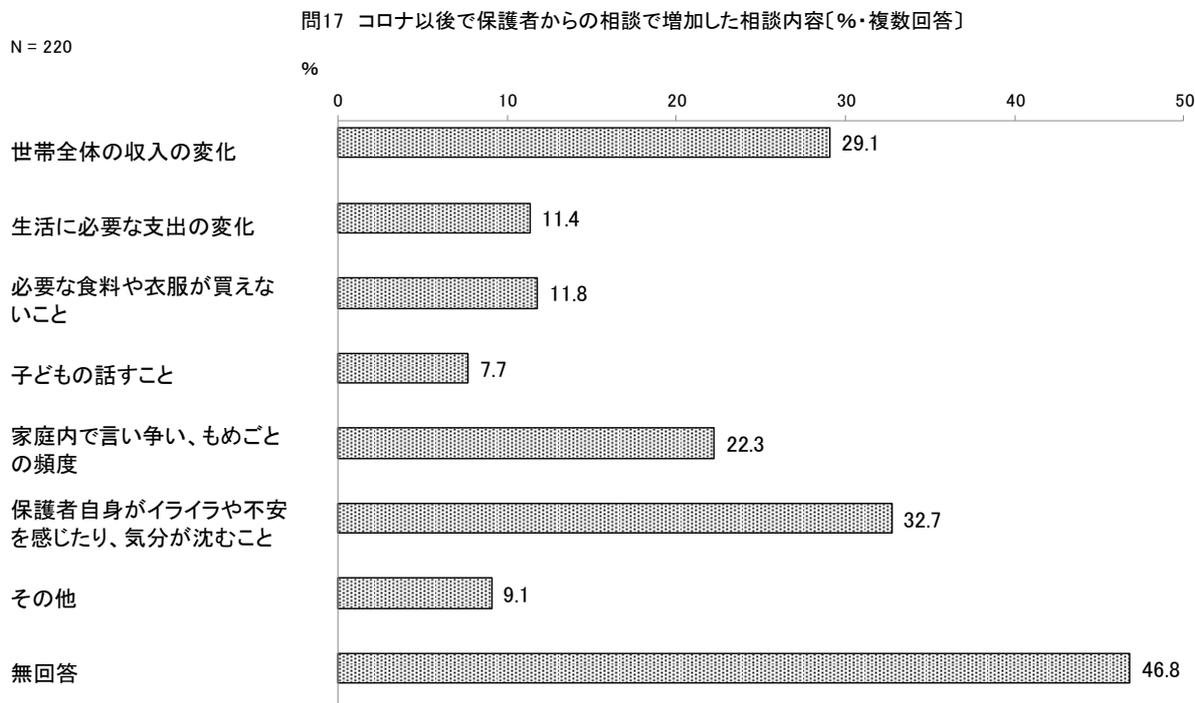
問16 具体的にどのような影響や変化(記述)



順位	問16 具体的な影響や変化	件数
1位	活動、会議、訪問の中止・延期	35件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数か月間、閉鎖した。</li> <li>・支援会議の回数を減らした。</li> <li>・家庭訪問ができなくなった。</li> <li>・業務の延期や中止。</li> <li>・会議が延期や中止になることがあり、書面会議では正確な情報が伝わらないこともあった。</li> <li>・訪問ができず、家庭環境の確認ができなかった。</li> </ul>	
2位	対面以外での面談や会議	17件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援会議におけるリモートの導入。</li> <li>・オンラインでの会議はなかなかやりとりが難しい。</li> <li>・面接より電話相談が増えたこと。</li> <li>・対面での面接を減らし、電話での聞き取りで生活状況等の把握を行った。</li> </ul>	
3位	利用控え、人数・時間制限	各14件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居場所の利用控えが起き、対象者と関わる時間が減少した。</li> <li>・利用数の減少。</li> <li>・少人数制がかえって居心地のいい方もいて、利用を喜ばれた。</li> <li>・訪問、相談の時間制限。</li> <li>・子どもたちが家庭に帰省できなくなった。</li> </ul>	
	家庭内の状況変化に関すること	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭内の養育状況に変化。</li> <li>・経済的困窮の相談は、感染症拡大から少し遅れて増えてきた。</li> <li>・就労時間が減少し、収入が不安定な家庭がある。</li> <li>・保護者自身の就労が困難になり虐待や経済的困窮に至った、と主張する事例が複数あった。</li> </ul>	

問 17 コロナ以後(2020年2月以降)で保護者からの相談で増加した相談内容はなんですか。

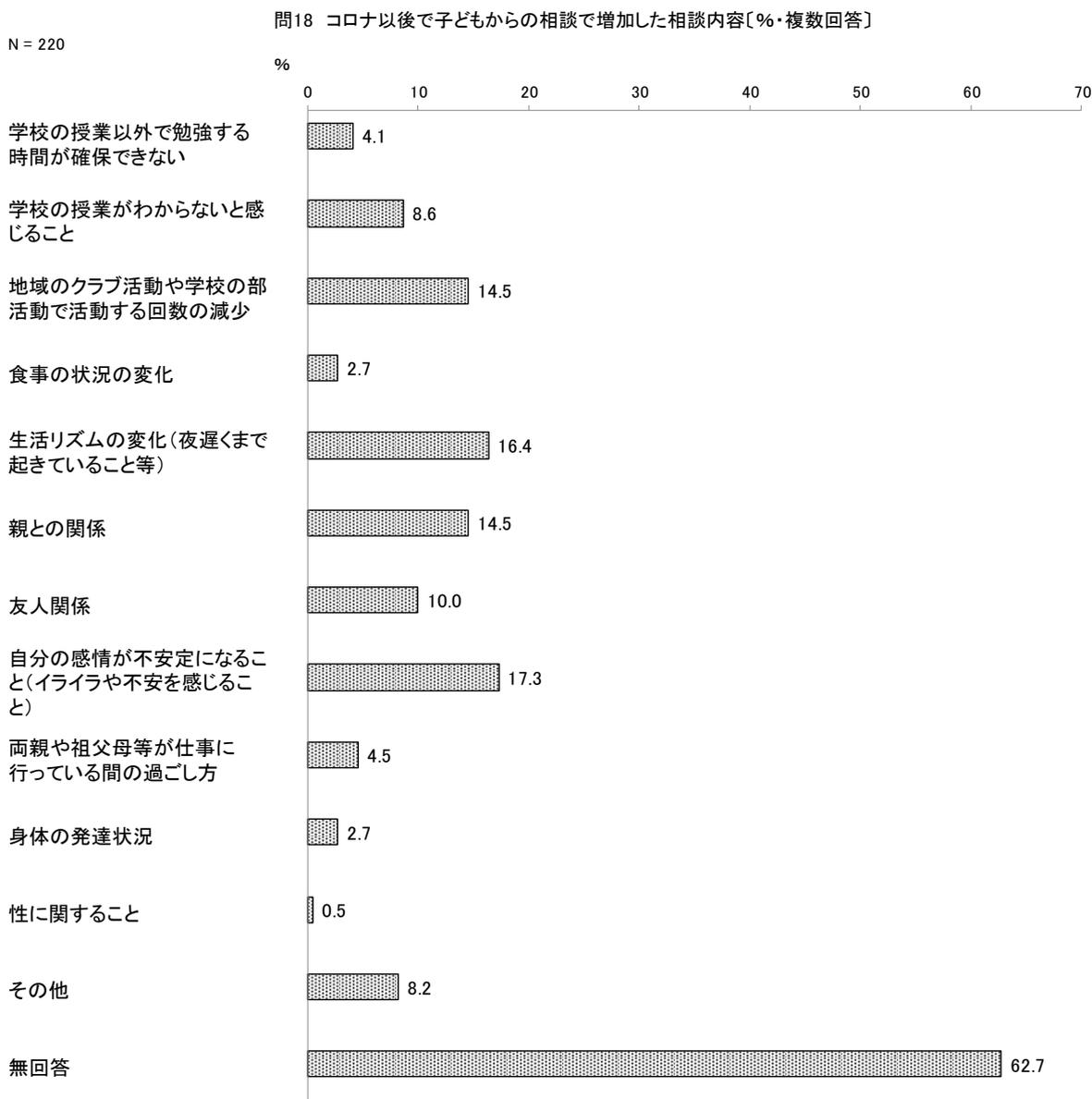
コロナ以後増加した保護者からの相談内容は、「保護者自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」が 32.7%、「世帯全体の収入の変化」が 29.1%、「家庭内で言い争い、もめごとの頻度」が 22.3%などとなっている。



その他では、子どものゲーム・スマホ・ネット依存、不登校・登校渋りや外出・面談・帰省できないことなどがあげられている。

問 18 コロナ以後(2020年2月以降)で子どもからの相談で増加した相談内容はなんですか。

コロナ以後増加した子どもからの相談内容は、「自分の感情が不安定になること(イライラや不安を感じること)」が 17.3%、「生活リズムの変化(夜遅くまで起きていること等)」が 16.4%、「地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数の減少」と「親との関係」がともに 14.5%などとなっている。

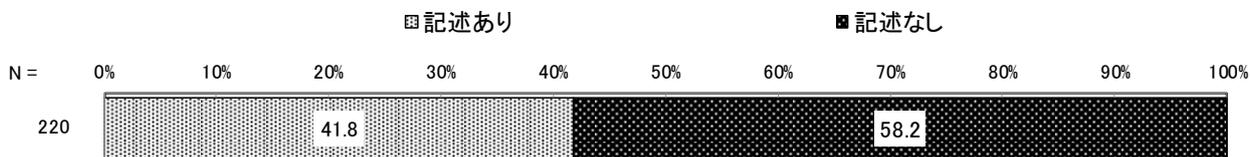


その他では、子どもからの相談がない、感染症のこと、学校生活・家庭内での生活上の悩みなどがあげられている。

問 19 経済的な問題で困難を抱える子どもや家庭に対する支援について、ご意見(県へ具体的に希望される支援策等)がありましたら自由にご記入ください。

「記述あり」が 41.8%で、「補助金等サービス・制度全般に関すること」や「実態把握、情報共有、ネットワークづくりに関すること」などがあげられている。

問19 自由意見



順位	問19 自由意見	件数
1位	補助金等サービス・制度全般に関すること ・地域特性に応じた支援策の検討及び措置。 ・どんな支援策があるのか、具体的に知りたい。 ・電話やSNSなど敷居の低い相談窓口の設置。 ・対象者や支援する側の条件が細かく限定されている補助事業等は、小さい町村では使いにくい。	19件
	実態把握、情報共有、ネットワークづくりに関すること ・実態の把握。 ・実態把握されていたら、情報共有させてもらいたい。 ・市町村レベルでの把握をしていくことができないだろうか。 ・情報交換ができるシステム作りを希望する。	
2位	現物給付(給食費、教材や制服、医療費)に関すること ・直接子どもにつながる支援。 ・現物給付の充実。 ・学校等で使用する物や給食費、交通手段等、支援者側へ直接支給されると有益に活用ができる。 ・現物給付(給食費無料・教材無償・制服や体操服購入に使用できる商品券)などがあるとよいかもしれない。	15件
	就労支援に関すること ・保護者の方の就労を支援することが一番と思う。 ・子育てをしながらの就労の継続が難しい。 ・保育園の延長保育の時間延長への補助(人的、金銭的)。 ・企業、事業主に受け入れの働きかけをしてほしい。	
3位	就学支援に関すること ・高校、大学への進学を断念しないように教育費の全面援助を拡充する。 ・義務教育に関わる費用の無償化。 ・奨学金の給付及び学資の支援などをしてほしい。	8件



